宮城県文化財調査報告書第255集

北小松遺跡ほか

令和三年三月

宮城県教育委員会

宮城県文化財調査報告書第 255 集

北小松遺跡ほか

―田尻西部地区ほ場整備事業に係る発掘調査総括報告書―

令和３年３月

宮城県教育委員会

宮城県文化財調査報告書第 255 集

北小松遺跡 ほか

―田尻西部地区ほ場整備事業に係る発掘調査総括報告書―

令和３年３月

宮城県教育委員会

序　　文

東日本大震災から10年の節目の年を迎え、私たちは、地域の復興とともに、持続可能な社会の形成に向けた取り組みを進めています。このためには、安全で災害に強いまちづくり、産業の振興、人々の暮らしの再生に加えて、先人たちが苦難を克服し築き上げてきた文化を再認識し継承していくことも不可欠です。

地域で守り伝えられてきた文化財は、現在を生きる私たちと過去や未来を生きる人々、そして地域で共に生きる人々を結びつけるものです。過疎化や少子高齢化などを背景に、地域の文化財の滅失等が危惧されているなか、地域社会総がかりで、その継承に取り組んでいくことが必要になります。この取り組みにより、身近な地域の個性豊かな風土や歴史的な価値を再発見し、人々と地域が密接に結びついた、より豊かで魅力ある地域社会が形成されていくものと期待されます。

本書は、平成19年度から22年度にかけて大崎市田尻西部地区におけるほ場整備事業に伴う工事に先立って実施した北小松遺跡発掘調査の総括報告書です。調査では、縄文時代から弥生時代の初め頃にかけて水辺に営まれたムラの様子が明らかとなる貴重な成果が得られました。こうした成果が広く県民の皆様や各地の研究者に活用され、地域の歴史解明の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、遺跡の保存に理解を示され、発掘調査に際しては多大なる御協力をいただいた関係機関の方々、さらに実際の調査にあたられた皆様に対し、厚くお礼申し上げます。

令和3年3月

宮城県教育委員会

教育長　伊東　昭代

例　　言

1. 本書は、宮城県北部地方振興事務所および江合川沿岸土地改良区との協議に基づき実施した、経営体育成基盤整備事業（田尻西部地区）に係る発掘調査のうち、平成 19 年度から 22 年度に実施した北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡の調査成果をとりまとめたものである。
2. 発掘調査は、宮城県教育委員会が主体となり、宮城県教育庁文化財保護課（当時、現:文化財課）が担当した。
3. 発掘調査および資料整理・報告書の作成に際しては、以下の方々および機関からご指導・ご協力を賜った（五十音順、敬称略）。

會田容弘　赤田昌倫　阿子島 香　足立 望　飯塚義之　五十嵐 愛　市川健夫　伊藤陽肇
岩渕竜也　内山幸子　江川達也　太田有香　大場亜弥　岡村道雄　小原一成　金井慎司
金田明大　鹿納晴尚　鹿又喜隆　神田和彦　菅野智則　日下和寿　小井川和夫　高妻洋成
古賀日加理　小林和貴　小林 克　小林謙一　佐川正敏　佐々木 理　佐々木由香　佐藤信行
佐藤祐輔　佐野勝宏　沢田 敦　柴田恵子　白鳥良一　菅原弘樹　鈴木敏彦　鈴木三男
須藤 隆　早田 勉　千葉 史　辻森 樹　富岡直人　中沢祐一　中島経夫　長瀬敏郎　西本豊弘
根岸 洋　箱﨑真隆　秦 昭繁　早瀬亮介　平野一郎　藤沼邦彦　藤原二郎　古川善博
本多貴之　眞鍋早紀　松崎哲也　松本秀明　三澤裕之　宮腰哲雄　宮本 毅　村松 篤
森田賢司　八木勝枝　柳田俊雄　山口正紀　山﨑 健　山田しょう　山田凜太郎　湯淺健太
横山 真　吉川純子　吉川昌伸　渡辺丈彦
文化庁　東北歴史博物館　宮城県多賀城跡調査研究所　大崎市教育委員会

4. 本書の第 1 図は、国土調査による 1/200,000 土地分類基本調査（地形分類図）「宮城県」経済企画庁総合開発局（1972 年）を使用して宮城県教育庁文化財課が作成したものである。
5. 本書の第 2・7 図は、国土地理院発行の電子地形図 25000 を使用した。
6. 本書の第 3･371･373･374 図は、国土地理院の基盤地図情報数値標高モデル（5m および 10m メッシュ）を使用して作成した。第 373 図では、国土交通省国土数値情報（行政区域）を使用した。作成に当たっては GIS ソフトウェア（QGIS ver. 3.10）を使用し、以下の文献を適宜参考にした。

喜多耕一　2019『業務で使う QGIS ver. 3　完全使いこなしガイド』全国林業改良普及協会
石井淳平　2020「文化財業務で使う GIS　－ QGIS を利用した実践的操作－」『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用 2』奈良文化財研究所研究報告第 24 冊 pp. 138-194

7. 本書で使用した測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第Ⅹ系による。なお、方位は座標北を表している。
8. 本書で使用した遺構略号は以下のとおりである。

SA: 柱列跡　SB: 掘立柱建物跡　SD: 溝跡　SE: 井戸跡　SK: 土坑墓、埋葬犬骨、土坑
SX: 竪穴状遺構、集石遺構、石斧集積遺構、土器埋設遺構、焼け面、焼土集積、沢跡、自然流

路跡

P: 柱穴、小穴

9. 遺構図版にはそれぞれスケールを付しているが、縮尺は原則として以下のとおりである。

遺構 : 1/10, 1/20, 1/60, 1/100　調査区 : 1/100 ～ 1/1000

10. 土色の記述に当たっては、『新版　標準土色帖　1996 年版』（小山・竹原　1996）を用いている。

11. 遺物図版にはそれぞれスケールを付しているが、縮尺は原則として以下のとおりである。

土器 : 1/3　土製品 : 2/3, 1/3　骨角牙製品 : 2/3　木製品 : 1/3, 1/4, 1/6　漆製品 : 2/3

12. 石器・石製品の縮尺は原則として以下のとおりである。

剥片石器 : 2/3　石斧、板状石器、石庖丁様石器 : 1/2　礫石器、石錘 : 1/3

円盤状石製品、石棒・石刀、石冠、独鈷石 : 1/2　その他の石製品 : 2/3

13. 野外調査における調査区および遺構の実測は、一部除いて、株式会社福井コンピュータ製「BRUETREND Field com」（平成 19 ～ 21 年度）、株式会社 CUBIC 製「遺構くん Cubic」（平成 22 年度）を用いて作成した。室内整理における実測図の作成では、一部を除いて株式会社 CUBIC 製「遺構くん Cubic」・「トレースくん Cubic」を用いた。なお、「BRUETREND Field com」で作成した測量データの変換業務は、株式会社 CUBIC に委託して行った。

14. 遺物の実測図のうち、土器および土製品の一部を株式会社 CUBIC 製「遺物くん Cubic」を用いて作成した。

15. 一部の土器および柱材（平成 22 年度調査）の実測用下図は、SfM/MVS による 3D データを基に作成した。写真撮影は、株式会社 CUBIC 製「3D 回転撮影システム」を使用し、3D データ作成は Agsoft Metashape Professional / Standard を使用している。ここで作成した 3D データについて、「遺物くん Cubic」を使用して二次元の展開図および断面図を作成し、実測用下図とした（小野 2019b）。

16. 一部の土器・土製品（平成 21・22 年度調査）、石器・石製品（平成 21 年度調査）の三次元レーザー計測および 3D 処理は、株式会社 CUBIC に委託して行った。ここで作成した 3D データについて、「遺物くん Cubic」を利用して実測用下図を作成した。

17. 一部の石器・石製品・骨角牙製品（平成 22 年度調査）の三次元レーザー計測および 3D 処理、実測用下図の作成は、株式会社ラングに委託して行った。

18. 遺物の実測図は、既刊の発掘調査報告書（宮城県文化財調査報告書第 223・226・234・254 集）掲載のものを再録した。実測図の表現方法等については各報告書を参照のこと。

19. 石器・石製品の石材鑑定は、一部を東北大学東北アジア研究センターの宮本 毅氏、台湾中央研究院地球科学研究所の飯塚義之氏に依頼した。

20. 骨角牙製品の素材同定は、一部を岡山理科大学（富岡直人教授）に委託した。

21. 本書で使用した ^{14}C 年代は既刊報告書（宮城県文化財調査報告書第 226・234・254 集）に所収したものである。暦年較正年代は再較正したものを使用した。再較正に当たっては、IntCal20（Raimer et ai. 2020）を使用し、OxCal v4.4（Bronk Ramsey 2009）を用いて算出している（詳細は付章参

照)。IntCal20 による再較正は、早瀬亮介氏（株式会社加速器分析研究所）に依頼した。

22. 発掘調査における遺跡の空中写真撮影は、日本特殊撮影株式会社に委託して行った。

23. 遺物の写真撮影は、株式会社アートプロフィール、株式会社クロマテックシステムズに委託して行った。

24. 土器の 6 面展開画像は、実測用下図と同様に SfM/MVS による 3D データを基に作成した。写真撮影は、株式会社 CUBIC 製「3D 回転撮影システム」を使用し、3D データ作成は Agsoft Metashape Professional / Standard を使用している。ここで作成した 3D データについて、「遺物くん Cubic」を使用して 6 面展開図を作成した。

27. 遺構・遺物の保存処理・復元は、それぞれ以下の機関に依頼または委託して行った。

埋葬犬骨（SK55)、漆製品・木製品・植物遺存体の一部：東北歴史博物館

土器（09Po1770)：株式会社東都文化財研究所

28. 本書に掲載した各年度の発掘調査の整理等作業担当者は、以下のとおりである。

平成 19 年度調査：　生田和宏・初鹿野博之・西村 力・志間貞治・小野章太郎
豊村幸宏・村上裕次・久保井裕之・伊藤啓之・青山隼人

平成 20 年度調査：　生田和宏・伊藤啓之・豊村幸宏・久保井裕之・伊藤啓之・尾形祐之
初鹿野博之・西村 力・千葉直樹・小野章太郎・青山隼人

平成 21 年度調査：　小野章太郎・生田和宏・青山隼人・武田裕光・大坂 拓・濵中一道
西村 力・久保井裕之・伊藤啓之

平成 22 年度調査：　小野章太郎・西村 力・阿部博志・初鹿野博之・久保井裕之・青山隼人
須藤貴宏・武田裕光・猪股清和・山田晃弘・梅川隆寛・矢内雅之

29. 本書の執筆分担は、以下のとおりである。

第 1 章～第 5 章、第 6 章第 1 節：小野章太郎

第 6 章第 2 節：西村 力

第 6 章第 3 節：吉川昌伸・吉川純子（古代の森研究舎）

付章：早瀬亮介（株式会社加速器分析研究所）

30. 本書の編集は、小野章太郎が行った。図版作成および編集作業に当たっては、中島敦子・長田由佳・小林由美・伏見裕味子・鈴木美由紀・湯元文子がこれを補助した。

31. ほ場整備事業に係る田尻西部地区の発掘調査成果については、現地説明会や宮城県遺跡調査成果発表会（宮城県考古学会主催)、田尻地区ほ場整備関連遺跡調査成果発表会（宮城県教育委員会・大崎市教育委員会主催)、宮城県文化財調査報告書（第 202・216・223・226・234・248・252・254 集)、『宮城の遺跡 100』（宮城県文化財保護協会発行)、『発掘された日本列島 2015』（文化庁主催)、各種学会発表・刊行物、博物館等における展示・講座などでその内容の一部を公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合には、本書がこれらに優先する。

32. 発掘調査の記録類や出土遺物は、宮城県教育委員会が保管している。

調　査　要　項

遺 跡 名：北小松遺跡（宮城県遺跡地名表登載番号 No. 38005）　遺跡略号：UO
　　愛宕山遺跡（宮城県遺跡地名表登載番号 No. 38047）　遺跡略号：RJ
　　諏 訪 遺 跡（宮城県遺跡地名表登載番号 No. 38096）　遺跡略号：RI
　　宮 沼 遺 跡（宮城県遺跡地名表登載番号 No. 38046）　遺跡略号：RK

所 在 地：宮城県大崎市田尻小松・八幡・諏訪峠

調査原因：経営体育成基盤整備事業（田尻西部地区）

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課（現：文化財課）

調 査 員：（平成 19 年度）　佐久間光平　西村 力　志間貞治　小野章太郎
　　尾形祐之　千葉直樹　生田和宏　初鹿野博之
　　（平成 20 年度）　生田和宏　尾形祐之　初鹿野博之　伊藤啓之
　　豊村幸宏　佐藤貴志　久保井裕之　山口 淳
　　（平成 21 年度）　生田和宏　西村 力　伊藤啓之　青山隼人
　　天野順陽　佐藤貴志　菊地逸夫　豊村幸宏　久保井裕之　山口 淳
　　尾形祐之　小野章太郎　村上裕次　初鹿野博之　古田和誠
　　（平成 22 年度）　小野章太郎　久保井裕之　青山隼人　須藤貴宏　武田裕光
　　小野寺淳一　村上裕次　初鹿野博之　古田和誠　鈴木啓司

調査期間：平成 19 年 5 月 21 日～ 11 月 2 日
　　平成 20 年 5 月 9 日～ 12 月 10 日
　　平成 21 年 5 月 11 日～ 12 月 14 日、平成 22 年 2 月 1・2 日
　　平成 22 年 4 月 26 日～平成 23 年 2 月 3 日

調査面積：約 22,015㎡

調査協力：文化庁　東北歴史博物館　大崎市教育委員会
　　宮城県北部地方振興事務所　江合川沿岸土地改良区
　　株式会社佐々木組　株式会社渡辺工務店　株式会社大林土建

目　　次

序　　文
例　　言
調査要項
目　　次
第１章　遺跡の概要……1
　第１節　遺跡の位置と自然環境……1
　第２節　歴史的環境……2
　　1. 遺跡の発見と発掘調査……2
　　2. 縄文時代……3
　　（1）大崎低地周縁部の遺跡……3
　　（2）迫川沿岸低地周辺部の遺跡群……6
　　3. 弥生時代以降の北小松遺跡周辺の様相……9
第２章　調査に至る経緯……11
第３章　調査の方法と経過……15
　第１節　調査の方法……15
　　1. 発掘作業……15
　　（1）調査の方針と調査地の選定……15
　　（2）調査の方法……16
　　（3）調査の経過……17
　　2. 整理等作業……26
第４章　周辺の地形と基本層序……28
　第１節　発掘調査対象地周辺の地形……28
　第２節　基本層序……29
　第３節　Ⅵ層（遺物包含層）の分布と区分……29
第５章　各地点の発掘調査成果……33
　第１節　愛宕山遺跡（西１地点）……35
　　（1）遺構……37
　　（2）遺物包含層と出土遺物……41
　　（3）集落の時期と特徴……48
　第２節　諏訪遺跡……49
　　1. 西２地点……49
　　（1）遺物包含層と出土遺物……49

(2) 集落の時期と特徴…… 49
2. 西 3 地点……52
(1) 遺構……52
(2) 遺物包含層と出土遺物……58
(3) 集落の時期と特徴…… 63
3. 西 4 地点……64
(1) 遺物包含層と出土遺物……64
(2) 集落の時期と特徴…… 67
4. 西 5 地点……68
(1) 遺物包含層と出土遺物……68
(2) 集落の時期と特徴…… 72
第 3 節 宮沼遺跡……73
1. 西 6 地点……73
(1) 遺物包含層と出土遺物……73
(2) 集落の時期と特徴…… 73
2. 西 7 地点……76
(1) 遺物包含層と出土遺物……76
(2) 集落の時期と特徴…… 79
第 4 節 北小松遺跡…… 80
1. 東 1 地点……80
(1) 遺物包含層と出土遺物……80
(2) 集落の時期と特徴…… 87
2. 東 2 地点……88
(1) 遺構……90
(2) 遺物包含層と出土遺物……93
(3) 集落の時期と特徴…… 93
3. 東 3 地点……96
(1) 遺構……96
(2) 遺物包含層と出土遺物……96
(3) 集落の時期と特徴……112
4. 東 4 地点……118
(1) 遺構…… 119
(2) 遺物包含層と出土遺物…… 119
(3) 集落の時期と特徴……119
5. 東 5 地点……123

(1) 遺物包含層と出土遺物…… 123
(2) 集落の時期と特徴……124
6. 東 6 地点…… 127
(1) 遺物包含層と出土遺物…… 127
(2) 集落の時期と特徴……130
7. 東 7 地点…… 131
A. 東 7 地点南側（東 C 丘陵頂部および南斜面）の遺構と遺物……134
(1) 遺構…… 134
(2) 遺物包含層と出土遺物…… 174
B. 東 7 地点北側（東 C 丘陵北斜面）の遺構と遺物…… 221
(1) 遺構…… 221
(2) 遺物包含層と出土遺物…… 235
C. 集落の時期と特徴…… 278
(1) 遺物包含層……278
(2) 集落の変遷と各時期の様相……279
8. 東 8 地点……288
(1) 遺構…… 288
(2) 遺物包含層と出土遺物…… 293
(3) 集落の時期と特徴……300
9. 東 9 地点……301
(1) 遺構…… 301
(2) 遺物包含層と出土遺物…… 319
(3) 集落の時期と特徴……400
10. 東 10 地点……405
(1) 遺物包含層と出土遺物…… 405
(2) 集落の時期と特徴……425
11. 東 11 地点……426
(1) 遺構…… 426
(2) 遺物包含層と出土遺物…… 432
(3) 集落の時期と特徴……435
12. 東 12 地点……437
(1) 遺物包含層と出土遺物…… 440
(2) 集落の時期と特徴……443
第 6 章　総括…… 449
第 1 節 遺跡の形成時期と集落構造……450

1. 遺跡の形成時期とその特徴……450
(1) 西丘陵（愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡）……452
(2) 東丘陵（北小松遺跡）……453
2. 時期別の集落の特徴と遺跡構造……456
(1) A Ⅰ期：縄文時代早期中葉から前期中葉……457
(2) A Ⅱ期：縄文時代中期後葉から後期中葉……459
(3) B Ⅰ期：縄文時代後期後葉から晩期前葉（晩期1期）……461
(4) B Ⅱ期：縄文時代晩期前葉（晩期2期）……463
(5) B Ⅲ期：縄文時代晩期中葉①（晩期3～4a期）……466
(6) B Ⅳa期：縄文時代晩期中葉②（晩期4b期）……472
(7) B Ⅳb期：縄文時代晩期後葉①（晩期5a期）……475
(8) B Ⅴa期：縄文時代晩期後葉②（晩期5b～5c期）……479
(9) B Ⅴb期：縄文時代晩期末葉①（晩期6a期）……483
(10) B Ⅵa期：縄文時代晩期末葉②（晩期6b期）……487
(11) B Ⅵb期：弥生時代前期……492
3. 北小松遺跡周辺における縄文時代晩期から弥生時代前期の地域的特徴……496
(1) 集落の全体的特徴……497
(2) 製品素材の動態から見た地域的特徴……500
(3) 大規模洪水直前の様相（大崎低地北縁部における縄文時代から弥生時代への移行）
……502
第2節　北小松遺跡出土動物遺存体……506
1. 試料について……506
(1) 出土地点と時期……506
(2) 採取・抽出・同定状況……506
2. 同定結果と分析……508
(1) 貝類……508
(2) 魚類……508
(3) 鳥獣類……511
(4) ニホンジカ・イノシシ……513
3. 生業活動……525
第3節　北小松遺跡ほかの植生復元と植物資源利用および堆積環境
……吉川昌伸・吉川純子（古代の森研究舎）531
1. はじめに……531
2. 植物化石群の産出傾向……532
(1) 珪藻化石群の産出傾向……532

(2) 花粉化石群の産出傾向…… 533
(3) 大型植物化石群の産出傾向…… 537
(4) 木材化石…… 537
3. 北小松遺跡ほかの遺物包含層の堆積環境…… 540
4. 北小松遺跡ほかの縄文時代以降の植生復元と植物資源利用……541
(1) 北小松遺跡ほかの縄文時代晩期頃の植生復元と植物資源利用……541
(2) 北小松遺跡に縄文時代早期中葉にクリ林はあったか……543
(3) 北小松遺跡ほかにおける弥生時代から古代の古植生……543
註
引用文献
付　表　北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡本発掘調査区一覧（平成 19 ～ 22 年度）
付　章　北小松遺跡ほかにおける放射性炭素年代測定に関する補足
……早瀬亮介（株式会社加速器分析研究所）563
1. 暦年較正曲線 IntCal20 による再較正……563
2. 土器型式による想定と異なる年代測定結果が得られた試料について……564
写真図版
報告書抄録

図　目　次

第 1 図　北小松遺跡の位置……1
第 2 図　北小松遺跡の位置と周辺の遺跡……4
第 3 図　宮城県北部の縄文時代遺跡の分布……8
第 4 図　北小松遺跡試掘確認調査（平成 16 年度）出土遺物（1）……12
第 5 図　北小松遺跡試掘確認調査（平成 16 年度）出土遺物（2）……13
第 6 図　北小松遺跡試掘確認調査（平成 17 年度）出土遺物……14
第 7 図　田尻西部地区ほ場整備事業に係る発掘調査……18
第 8 図　田尻西部地区ほ場整備事業に係る発掘調査調査区配置図……19・20
第 9 図　北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡の基本層序模式図（1）……30
第 10 図　北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡の基本層序模式図（2）……31
第 11 図　北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡における遺物包含層の位置と地点分類 ……33
第 12 図　西 1・2 地点周辺における発掘調査区の位置および遺物包含層の分布……35
第 13 図　愛宕山遺跡（西 1 地点）調査区平面図…… 36
第 14 図　愛宕山遺跡（西 1 地点）調査区断面図…… 37
第 15 図　SK10 土坑平面図・断面図……38
第 16 図　SK10 土坑出土土器（1）……39
第 17 図　SK10 土坑出土土器（2）・石器……40
第 18 図　西 1 地点遺物包含層出土土器（1）……42
第 19 図　西 1 地点遺物包含層出土土器（2）……43
第 20 図　西 1 地点遺物包含層出土土器（3）……44
第 21 図　西 1 地点遺物包含層出土土器（4）・土製品……45
第 22 図　西 1 地点遺物包含層出土石器・石製品（1）……46
第 23 図　西 1 地点遺物包含層出土石器・石製品（2）……47
第 24 図　西 2 地点調査区平面図・断面図…… 50
第 25 図　西 2 地点出土土器・土製品……51
第 26 図　西 3・4 地点周辺における発掘調査区の位置および遺物包含層の分布……52
第 27 図　西 3 地点調査区平面図……53
第 28 図　西 3 地点調査区断面図……54
第 29 図　SX4 竪穴状遺構、SK3 土坑平面図・断面図……56
第 30 図　SX4 竪穴状遺構、SK3・5 土坑出土遺物……57
第 31 図　A-28 区オニグルミ根張り検出状況……59
第 32 図　西 3 地点北斜面遺物包含層出土土器……60
第 33 図　西 3 地点北斜面遺物包含層出土土製品・石器……61
第 34 図　西 3 地点南斜面遺物包含層出土土器・土製品

・石器……62
第 35 図　西 4 地点調査区平面図・断面図……64
第 36 図　西 4 地点出土土器（1）……65
第 37 図　西 4 地点出土土器（2）……66
第 38 図　西 5・6 地点周辺における発掘調査区の位置
および遺物包含層の分布……68
第 39 図　西 5 地点調査区平面図……69
第 40 図　西 5 地点調査区断面図 ……70
第 41 図　西 5 地点出土土器・石器……71
第 42 図　西 6 地点調査区平面図・断面図……74
第 43 図　西 6 地点出土石器・石製品……75
第 44 図　西 7 地点周辺における発掘調査区の位置
および遺物包含層の分布……76
第 45 図　西 7 地点調査区平面図……77
第 46 図　西 7 地点調査区断面図……78
第 47 図　西 7 地点出土土器・石器……78
第 48 図　東 1 地点周辺における発掘調査区の位置
および遺物包含層の分布……80
第 49 図　東 1 地点調査区平面図……81
第 50 図　東 1 地点調査区断面図……82
第 51 図　東 1 地点 E-1 区出土土器（1）……83
第 52 図　東 1 地点 E-1 区出土土器（2）……84
第 53 図　東 1 地点 E-1 区出土石器……84
第 54 図　東 1 地点 E-64・71 区出土土器……85
第 55 図　東 1 地点 E-64 区出土石器……86
第 56 図　東 2・3 地点周辺における発掘調査区の位置
および遺物包含層の分布……88
第 57 図　東 2 地点調査区平面図……89
第 58 図　東 2 地点調査区断面図……90
第 59 図　SK21 ～ 29 土坑平面図・断面図……91
第 60 図　SK21・28 土坑出土土器……92
第 61 図　東 2 地点遺物包含層出土土器・土製品……94
第 62 図　東 2 地点遺物包含層ほか出土石器・石製品
……95
第 63 図　東 3 地点調査区平面図……97
第 64 図　東 3 地点調査区断面図……98
第 65 図　E-25 区Ⅵ b 層ヤマグワ根張り検出状況……99
第 66 図　E-25 区Ⅵ d 層 SX31 集石遺構検出状況……99
第 67 図　SX31 集石遺構平面図・断面図・遺物組成
……100
第 68 図　SX31 集石遺構出土石器……101
第 69 図　東 3 地点遺物包含層出土土器（1）……102
第 70 図　東 3 地点遺物包含層出土土器（2）……103
第 71 図　東 3 地点遺物包含層出土土器（3）……104
第 72 図　東 3 地点遺物包含層出土土器（4）……105
第 73 図　東 3 地点遺物包含層出土土器（5）……106
第 74 図　東 3 地点遺物包含層出土土器（6）……107
第 75 図　東 3 地点遺物包含層出土土器（7）……108
第 76 図　東 3 地点遺物包含層出土土器（8）……109
第 77 図　東 3 地点遺物包含層出土土器（9）……110
第 78 図　東 3 地点遺物包含層出土土製品……112
第 79 図　東 3 地点遺物包含層出土石器・石製品（1）…113
第 80 図　東 3 地点遺物包含層出土石器・石製品（2）…114
第 81 図　東 3 地点遺物包含層出土石器・石製品（3）…115
第 82 図　東 3 地点遺物包含層出土骨角牙製品……116
第 83 図　東 4・5・6 地点周辺における発掘調査区の位置
および遺物包含層の分布……118
第 84 図　東 4 地点調査区平面図・断面図……120
第 85 図　東 4 地点遺物包含層出土土器（1）……121
第 86 図　東 4 地点遺物包含層出土土器（2）・土製品
・石器……122
第 87 図　東 5 地点調査区平面図……123
第 88 図　東 5 地点調査区断面図……124
第 89 図　東 5 地点遺物包含層出土土器（1）……125
第 90 図　東 5 地点遺物包含層出土土器（2）・土製品
・石器……126
第 91 図　東 6 地点調査区平面図・断面図……127
第 92 図　東 6 地点遺物包含層出土土器（1）……128
第 93 図　東 6 地点遺物包含層出土土器（2）・土製品
・石器・石製品……129
第 94 図　東 7 地点周辺における発掘調査区の位置
および遺物包含層の分布……131
第 95 図　東 7 地点調査区平面図……132
第 96 図　D-76・77・78 区平面図……135
第 97 図　D-79・80 区平面図……136
第 98 図　D-77・78・79・80 区断面図……137
第 99 図　東 7 地点掘立柱建物跡出土土器・石器……139
第 100 図　東 7 地点その他のピット出土土器・土製品・
石製品・柱材 ……140
第 101 図　SX43 集石遺構平面図・断面図……142
第 102 図　SX43 集石遺構遺物組成……142
第 103 図　SX43 集石遺構重量分布……143
第 104 図　SX43 集石遺構礫石器および自然石の大きさ
・形状……144
第 105 図　SX43 集石遺構出土石器・石製品（1）……145
第 106 図　SX43 集石遺構出土石器・石製品（2）……146
第 107 図　SX43 集石遺構出土石器・石製品（3）……147
第 108 図　SX43 集石遺構出土石器・石製品（4）……148
第 109 図　SX43 集石遺構出土石器・石製品（5）……149
第 110 図　SX43 集石遺構出土石器・石製品（6）……150
第 111 図　SX43 集石遺構出土石器・石製品（7）……151
第 112 図　SX43 集石遺構出土石器・石製品（8）……152
第 113 図　SX43 集石遺構出土石器・石製品（9）・土器
……153

第 114 図　SX43 集石遺構出土土製品……154
第 115 図　SX50 集石遺構平面図・断面図……155
第 116 図　SX50 集石遺構出土遺物（1）……155
第 117 図　SX50 集石遺構出土遺物（2）……156
第 118 図　D-56・57・74・75 区平面図……158
第 119 図　D-57・74 区断面図……159
第 120 図　土坑墓の方向……160
第 121 図　SK44 土坑墓平面図……161
第 122 図　SK44 土坑墓断面図……162
第 123 図　SK44 土坑墓出土遺物……162
第 124 図　SK44 土坑墓埋設土器……163
第 125 図　SK53 土坑墓平面図・断面図……164
第 126 図　SK53 土坑墓埋設土器・出土遺物……165
第 127 図　SK47・48 土坑墓埋設土器……166
第 128 図　SK46 土坑墓平面図・断面図……167
第 129 図　SK46 土坑墓出土遺物……168
第 130 図　SK60 土坑墓平面図・断面図……169
第 131 図　SK60 土坑墓出土遺物……169
第 132 図　東 7 地点埋葬犬骨平面図・断面図……171
第 133 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土土器（1）……176
第 134 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土土器（2）……177
第 135 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土土器（3）……178
第 136 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土土器（4）……179
第 137 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土土器（5）……180
第 138 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土土器（6）……181
第 139 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土土器（7）……182
第 140 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土土器（8）……183
第 141 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土土器（9）……184
第 142 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土土器（10）……185
第 143 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土土器（11）……186
第 144 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土土器（12）……187
第 145 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土土器（13）……188
第 146 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土土器（14）……189
第 147 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（東側）出土土器（1）……190
第 148 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（東側）出土土器（2）……191
第 149 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（東側）出土土器（3）……192
第 150 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（東側）出土土器（4）……193
第 151 図　東 7 地点南斜面遺物包含層出土土製品（1）……196
第 152 図　東 7 地点南斜面遺物包含層出土土製品（2）……197
第 153 図　東 7 地点南斜面遺物包含層出土土製品（3）……198
第 154 図　東 7 地点南斜面遺物包含層出土土製品（4）……199
第 155 図　東 7 地点南斜面遺物包含層出土土製品（5）……200
第 156 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土石器・石製品（1）……204
第 157 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土石器・石製品（2）……205
第 158 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土石器・石製品（3）……206
第 159 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土石器・石製品（4）……207
第 160 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土石器・石製品（5）……208
第 161 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土石器・石製品（6）……209
第 162 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土石器・石製品（7）……210
第 163 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土石器・石製品（8）……211
第 164 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土石器・石製品（9）……212
第 165 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（西側）出土石器・石製品（10）……213
第 166 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（東側）出土石器・石製品（1）……214
第 167 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（東側）出土石器・石製品（2）……215
第 168 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（東側）出土石器・石製品（3）……216
第 169 図　東 7 地点南斜面遺物包含層（東側）出土石器・石製品（4）……217
第 170 図　東 7 地点南斜面遺物包含層出土骨角牙製品

……220
第 171 図　D-58・60・64 区平面図……222
第 172 図　D-60・64 区断面図……223
第 173 図　D-61・62・63 区平面図・断面図……224
第 174 図　SX91 集石遺構平面図・断面図……226
第 175 図　SX91 集石遺構遺物組成……226
第 176 図　SX91 集石遺構器種別石材組成……227
第 177 図　SX91 集石遺構重量分布……227
第 178 図　SX91 集石遺構礫石器および自然石の大きさ
・形状……227
第 179 図　SX91 集石遺構出土石器（1）……228
第 180 図　SX91 集石遺構出土石器（2）……229
第 181 図　SX91 集石遺構出土石器（3）……230
第 182 図　SX85・86・87・88・89 土器埋設遺構
平面図……231
第 183 図　SX86・87・89 土器埋設遺構断面図……232
第 184 図　SX86・87 土器埋設遺構埋設土器……232
第 185 図　SX88・89 土器埋設遺構埋設土器……233
第 186 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（西側）出土
土器（1）……237
第 187 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（西側）出土
土器（2）……238
第 188 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（西側）出土
土器（3）……239
第 189 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（西側）出土
土器（4）……240
第 190 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
土器（1）……241
第 191 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
土器（2）……242
第 192 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
土器（3）……243
第 193 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
土器（4）……244
第 194 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
土器（5）……245
第 195 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
土器（6）……246
第 196 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
土器（7）……247
第 197 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
土器（8）……248
第 198 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
土器（9）……249
第 199 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
土器（10）……250
第 200 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
土器（11）……251
第 201 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
土器（12）……252
第 202 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
土器（13）……253
第 203 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
土器（14）……254
第 204 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
土器（15）……255
第 205 図　東 7 地点北斜面遺物包含層出土土製品（1）
……259
第 206 図　東 7 地点北斜面遺物包含層出土土製品（2）
……260
第 207 図　東 7 地点北斜面遺物包含層出土土製品（3）
……261
第 208 図　東 7 地点北斜面遺物包含層出土土製品（4）
……262
第 209 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（西側）出土
石器・石製品（1）……265
第 210 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（西側）出土
石器・石製品（2）……266
第 211 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
石器・石製品（1）……267
第 212 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
石器・石製品（2）……268
第 213 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
石器・石製品（3）……269
第 214 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
石器・石製品（4）……270
第 215 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
石器・石製品（5）……271
第 216 図　東 7 地点北斜面遺物包含層（東側）出土
石器・石製品（6）……272
第 217 図　東 7 地点北斜面遺物包含層出土骨角牙製品
……274
第 218 図　サメ歯装着具（09B141）推定復元図……276
第 219 図　東 7 地点北斜面遺物包含層出土漆製品……277
第 220 図　東 7 地点おもな遺構の時期……280
第 221 図　東 7 地点集落の概要……281
第 222 図　東 7 地点時期別のおもな遺構および
遺物包含層の分布状況（Ⅲ・Ⅳ期）……282
第 223 図　東 7 地点時期別のおもな遺構および
遺物包含層の分布状況（Ⅴ期）……283
第 224 図　東 7 地点時期別のおもな遺構および
遺物包含層の分布状況（Ⅵａ期）……284
第 225 図　東 7 地点時期別のおもな遺構および
遺物包含層の分布状況（Ⅵｂ期）……285

第 226 図　東 8・9・10 地点周辺における発掘調査区の位置および遺物包含層の分布……288
第 227 図　東 8 地点調査区平面図 ……289
第 228 図　東 8 地点調査区断面図……290
第 229 図　F-29 区（拡張部分）平面図・断面図……292
第 230 図　東 8 地点掘立柱建物跡出土土器……293
第 231 図　東 8 地点遺物包含層出土土器（1）……295
第 232 図　東 8 地点遺物包含層出土土器（2）……296
第 233 図　東 8 地点遺物包含層出土土器（3）・土製品……297
第 234 図　東 8 地点遺物包含層出土石器・石製品（1）……298
第 235 図　東 8 地点遺物包含層出土石器・石製品（2）……299
第 236 図　東 9 地点調査区平面図……302
第 237 図　東 9 地点調査区断面図……303・304
第 238 図　東 9 地点掘立柱建物跡平面図（1）……306
第 239 図　東 9 地点掘立柱建物跡平面図（2）……307
第 240 図　東 9 地点掘立柱建物跡出土遺物（1）……310
第 241 図　東 9 地点掘立柱建物跡出土遺物（2）……311
第 242 図　東 9 地点掘立柱建物跡出土遺物（3）……312
第 243 図　SX131 石斧集積遺構平面図・断面図・出土遺物……315
第 244 図　SK125 埋葬犬骨平面図・断面図……316
第 245 図　SK128 埋葬犬骨平面図・断面図……316
第 246 図　SK134 埋葬犬骨平面図……316
第 247 図　SK135 埋葬犬骨平面図……316
第 248 図　SK127 埋葬犬骨平面図・断面図……317
第 249 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（1）……322
第 250 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（2）……323
第 251 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（3）……324
第 252 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（4）……325
第 253 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（5）……326
第 254 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（6）……327
第 255 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（7）……328
第 256 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（8）……329
第 257 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（9）……331
第 258 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（10）……332
第 259 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（11）……333
第 260 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（12）……334
第 261 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（13）……335
第 262 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（14）……336
第 263 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（15）……337
第 264 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（16）……338
第 265 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（17）……339
第 266 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（18）……340
第 267 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（19）……341
第 268 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（20）……342
第 269 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（21）……343
第 270 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（22）……344
第 271 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（23）……345
第 272 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（24）……346
第 273 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（25）……347
第 274 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（26）……348
第 275 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（27）……349
第 276 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（28）……350
第 277 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（29）……351
第 278 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（30）……352
第 279 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（31）……353
第 280 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（32）……354
第 281 図　東 9 地点遺物包含層出土土器（33）……355
第 282 図　東 9 地点遺物包含層出土土製品（1）……360
第 283 図　東 9 地点遺物包含層出土土製品（2）……361
第 284 図　東 9 地点遺物包含層出土土製品（3）……362
第 285 図　東 9 地点遺物包含層出土土製品（4）……363
第 286 図　東 9 地点遺物包含層出土土製品（5）……364
第 287 図　東 9 地点遺物包含層出土土製品（6）……365
第 288 図　東 9 地点遺物包含層出土土製品（7）……366
第 289 図　東 9 地点遺物包含層出土石器・石製品（1）……371
第 290 図　東 9 地点遺物包含層出土石器・石製品（2）……372
第 291 図　東 9 地点遺物包含層出土石器・石製品（3）……373
第 292 図　東 9 地点遺物包含層出土石器・石製品（4）……374
第 293 図　東 9 地点遺物包含層出土石器・石製品（5）……375
第 294 図　東 9 地点遺物包含層出土石器・石製品（6）……376
第 295 図　東 9 地点遺物包含層出土石器・石製品（7）……377
第 296 図　東 9 地点遺物包含層出土石器・石製品（8）……378
第 297 図　東 9 地点遺物包含層出土石器・石製品（9）……379
第 298 図　東 9 地点遺物包含層出土石器・石製品（10）……380
第 299 図　東 9 地点遺物包含層出土石器・石製品（11）……381
第 300 図　東 9 地点遺物包含層出土石器・石製品（12）……382
第 301 図　東 9 地点遺物包含層出土石器・石製品（13）……383

第 302 図　東 9 地点遺物包含層出土石器・石製品（14）……384
第 303 図　東 9 地点遺物包含層出土骨角牙製品（1）……389
第 304 図　東 9 地点遺物包含層出土骨角牙製品（2）……390
第 305 図　東 9 地点遺物包含層出土骨角牙製品（3）……391
第 306 図　東 9 地点遺物包含層出土骨角牙製品（4）……392
第 307 図　東 9 地点遺物包含層出土骨角牙製品（5）……393
第 308 図　東 9 地点遺物包含層出土骨角牙製品（6）……394
第 309 図　東 9 地点遺物包含層出土骨角牙製品（7）……395
第 310 図　東 9 地点遺物包含層出土骨角牙製品（8）……396
第 311 図　東 9 地点遺物包含層出土骨角牙製品（9）……397
第 312 図　東 9 地点遺物包含層出土骨角牙製品（10）・漆製品……398
第 313 図　東 8・9・10・11・12 地点主要遺構の変遷…402
第 314 図　東 8・9・10 地点主要時期のおもな遺構および遺物包含層の分布状況……403
第 315 図　東 10 地点調査区平面図……406
第 316 図　東 10 地点調査区断面図……407
第 317 図　東 10 地点遺物包含層出土土器（1）……409
第 318 図　東 10 地点遺物包含層出土土器（2）……410
第 319 図　東 10 地点遺物包含層出土土器（3）……411
第 320 図　東 10 地点遺物包含層出土土器（4）……412
第 321 図　東 10 地点遺物包含層出土土器（5）……413
第 322 図　東 10 地点遺物包含層出土土器（6）……414
第 323 図　東 10 地点遺物包含層出土土器（7）……415
第 324 図　東 10 地点遺物包含層出土土器（8）……416
第 325 図　東 10 地点遺物包含層出土土製品（1）……418
第 326 図　東 10 地点遺物包含層出土土製品（2）……419
第 327 図　東 10 地点遺物包含層出土石器・石製品（1）……420
第 328 図　東 10 地点遺物包含層出土石器・石製品（2）……421
第 329 図　東 10 地点遺物包含層出土石器・石製品（3）……422
第 330 図　東 10 地点遺物包含層出土石器・石製品（4）……423
第 331 図　東 10 地点遺物包含層出土石器・石製品（5）……424
第 332 図　東 11 地点周辺における発掘調査区の位置および遺物包含層の分布……426
第 333 図　東 11 地点調査区平面図……427
第 334 図　東 11 地点調査区・遺構断面図……428
第 335 図　SX151 沢跡出土遺物……431
第 336 図　東 11 地点遺物包含層出土土器（1）……433
第 337 図　東 11 地点遺物包含層出土土器（2）・土製品・石器……434
第 338 図　東 12 地点周辺における発掘調査区の位置および遺物包含層の分布……437
第 339 図　東 12 地点調査区平面図……438
第 340 図　東 12 地点調査区断面図……439
第 341 図　東 12 地点北斜面遺物包含層出土土器・石器（1）……441
第 342 図　東 12 地点北斜面遺物包含層出土石器（2）……442
第 343 図　東 12 地点南斜面遺物包含層出土土器 ……444
第 344 図　東 12 地点南斜面遺物包含層出土石器・石製品（1）……445
第 345 図　東 12 地点南斜面遺物包含層出土石器・石製品（2）……446
第 346 図　各地点の遺構・遺物包含層の時期 ……451
第 347 図　ＡⅠ期（早期中葉から前期中葉）の様相……457
第 348 図　縄文時代後期以前の遺物包含層における石器組成……459
第 349 図　ＡⅡ期（中期後葉から後期中葉）の様相……460
第 350 図　ＢⅠ期（後期後葉から晩期 1 期）の様相……462
第 351 図　ＢⅡ期（晩期 2 期）の様相……464
第 352 図　東 7 地点遺物包含層における石器組成……465
第 353 図　ＢⅡ期（晩期 3 ～ 4a 期）の様相……467
第 354 図　東 7 地点晩期 3 期から 5 期の主要装飾の変遷……469
第 355 図　東 7 地点出土の土製品・石製品に共通する装飾要素……470
第 356 図　サメ関連遺物……471
第 357 図　東 9 地点遺物包含層における石器組成……472
第 358 図　ＢⅣａ期（晩期 4b 期）の様相……473
第 359 図　ＢⅣｂ期（晩期 5a 期）の様相……475
第 360 図　東 9 地点遺物包含層層位別出土土器（1）……476
第 361 図　東 9 地点遺物包含層層位別出土土器（2）……477
第 362 図　ＢⅤａ期（晩期 5b ～ 5c 期）の様相……480
第 363 図　柄と刃部が平行するように装着した石器……482
第 364 図　ＢⅤｂ期（晩期 6a 期）の様相……484
第 365 図　動物を擬人化した表現例……486
第 366 図　ネフライト関連遺物……486
第 367 図　ＢⅥａ期（晩期 6b 期）の様相……488
第 368 図　東 7 地点遺物包含層　層位別に見た変形工字文の変化……490
第 369 図　ＢⅥｂ期（弥生時代前期）の様相……492
第 370 図　工字部に刺突が入る変形工字文……495
第 371 図　大崎低地北縁部における縄文時代から弥生時代前期の遺跡の分布……498
第 372 図　北小松遺跡ほか各地点の石器組成（晩期主体）……499

第 373 図　製品素材の産地……501
第 374 図　宮城県北部で弥生時代前期の洪水とみられる堆積層を検出した遺跡……503
第 375 図　北小松遺跡で出土した石庖丁に類似する石器……504
第 376 図　東 3・7・9 地点における遺物包含層の変遷……506
第 377 図　目視・4mm 試料における抽出量……507
第 378 図　詳細分析サンプルにおける地点・時期ごとの魚種 MNI 構成比……509
第 379 図　詳細分析サンプルにおける地点・時期ごとの魚種 NISP 密度……510
第 380 図　鳥獣類 MNI 組成……512
第 381 図　ニホンジカ・イノシシの齢構成……523
第 382 図　ニホンジカ・イノシシ死亡時期……524
第 383 図　ニホンジカ・イノシシ死亡個体数期待値推移……525
第 384 図　ニホンジカ・イノシシの部位数量……526
第 385 図　ニホンジカ・イノシシに見られるダメージ……527
第 386 図　植物化石の分析試料採取位置図……531
第 387 図　各時期の珪藻化石群の組成……532
第 388 図　北小松遺跡ほかの主要花粉分布図……534
第 389 図　F23 区、F55 区、F70 区南地点の主要花粉分布図……535
第 390 図　各時期の樹木花粉組成……536
第 391 図　F-70 区南の SX151 沢跡堆積物から検出された主要な大型植物化石……539
第 392 図　IntCal20 による暦年較正年代グラフ（1）……571
第 393 図　IntCal20 による暦年較正年代グラフ（2）……572
第 394 図　IntCal20 による暦年較正年代グラフ（3）……573
第 395 図　IntCal20 による暦年較正年代グラフ（4）……574
第 396 図　IntCal20 による暦年較正年代グラフ（5）……575
第 397 図　IntCal20 による暦年較正年代グラフ（6）……576
第 398 図　IntCal20 による暦年較正年代グラフ（7）……577
第 399 図　IntCal20 による暦年較正年代グラフ（8）……578
第 400 図　IntCal20 による暦年較正年代グラフ（ウィグルマッチング）……578

表　目　次

第 1 表　遺跡地名表……5
第 2 表　田尻西部地区ほ場整備事業に係る発掘調査および報告書刊行の経過……27
第 3 表　各地点の調査内容……34
第 4 表　西 1 地点遺物包含層の対応関係……41
第 5 表　西 3 地点調査区土層観察表……55
第 6 表　西 3 地点北斜面遺物包含層の対応関係……55
第 7 表　西 3 地点南斜面遺物包含層の対応関係……55
第 8 表　東 2 地点遺物包含層の対応関係……90
第 9 表　東 7 地点遺物包含層の対応関係……133
第 10 表　D-77・78・79・80 区土層観察表……138
第 11 表　東 7 地点掘立柱建物跡一覧……139
第 12 表　SX43 集石遺構器種組成……143
第 13 表　SX43 集石遺構器種別石材組成……143
第 14 表　埋葬人骨の頭部の位置……160
第 15 表　土坑墓の特徴……160
第 16 表　東 7 地点土坑墓・埋葬犬骨一覧……172
第 17 表　東 7 地点土坑一覧……173
第 18 表　東 7 地点南斜面遺物包含層　石器・石製品の大別層群別器種組成……201
第 19 表　東 7 地点南斜面遺物包含層　大別層群別石材組成（トゥール）……202
第 20 表　東 7 地点南斜面遺物包含層　大別層群別石材組成（礫石器）……202
第 21 表　東 7 地点南斜面遺物包含層　大別層群別石材組成（剥片・石核）点数……202
第 22 表　東 7 地点南斜面遺物包含層　大別層群別石材組成（剥片・石核）重量……202
第 23 表　東 7 地点南斜面遺物包含層　骨角牙製品の大別層群別出土状況……221
第 24 表　SX91 集石遺構器種組成……226
第 25 表　SX91 集石遺構器種別石材組成……226
第 26 表　東 7 地点北斜面遺物包含層　石器・石製品の大別層群別器種組成……263
第 27 表　東 7 地点北斜面遺物包含層　大別層群別石材組成（トゥール）……263
第 28 表　東 7 地点北斜面遺物包含層　大別層群別石材組成（礫石器）……263
第 29 表　東 7 地点北斜面遺物包含層　大別層群別石材組成（剥片・石核）点数……264
第 30 表　東 7 地点北斜面遺物包含層　大別層群別石材組成（剥片・石核）重量……264
第 31 表　東 7 地点北斜面遺物包含層　骨角牙製品の大別層群別出土状況……273
第 32 表　F-29・30・34・35 区土層観察表……291
第 33 表　東 8 地点遺物包含層の対応関係……291
第 34 表　東 8 地点掘立柱建物跡一覧……293
第 35 表　F-23 区北・A ～ G グリッド・東　土層観察表……305
第 36 表　東 9 地点掘立柱建物跡一覧……308
第 37 表　東 8・9 地点掘立柱建物跡の分類と推定時期……309

第 38 表　東 9 地点埋葬犬骨一覧……317
第 39 表　東 9 地点土坑一覧……320
第 40 表　東 9 地点遺物包含層　石器・石製品の
層位別出土状況……368
第 41 表　東 9 地点遺物包含層　層位別石材組成
（剥片石器）……369
第 42 表　東 9 地点遺物包含層　層位別石材組成
（礫石器）……369
第 43 表　東 9 地点遺物包含層　層位別石材組成
（剥片・砕片・石核）点数……370
第 44 表　東 9 地点遺物包含層　層位別石材組成
（剥片・砕片・石核）重量……370
第 45 表　東 9 地点遺物包含層　骨角牙製品の
層位別出土状況……388
第 46 表　東 10 地点遺物包含層の対応関係……408
第 47 表　F-70・71 区土層観察表（1）……429
第 48 表　F-70・71 区土層観察表（2）……430
第 49 表　東 12 地点調査区土層観察表……440
第 50 表　各地点の遺物包含層……452
第 51 表　掘立柱建物跡の地点間比較……484
第 52 表　土坑墓関連遺物の放射性炭素年代測定結果
……494
第 53 表　土坑墓・埋葬犬骨・土器埋設遺構の特徴……494
第 54 表　予測されるレジデンシャル・ベースの特徴
……499
第 55 表　北小松遺跡ほか各地点における道具の割合と
その特徴……499
第 56 表　時期区分と遺物包含層の大別……506
第 57 表　採取方法別試料抽出状況……507
第 58 表　目視・4mm 試料における時期別抽出状況……507
第 59 表　地点ごとの同定状況……508
第 60 表　魚類集計部位……509
第 61 表　目視・4mm 試料における魚種 NISP・MNI
……509
第 62 表　詳細分析サンプルの土壌体積と魚種 NISP……510
第 63 表　目視・4mm 試料における鳥獣類 NISP……511
第 64 表　目視・4mm 試料における鳥獣類 MNI……512
第 65 表　カモ類のサイズ別部位数量……513
第 66 表　ニホンジカ死亡時期推定基準……514
第 67 表　イノシシ死亡時期推定基準……514
第 68 表　ニホンジカ下顎骨詳細……515
第 69 表　イノシシ下顎骨詳細……520
第 70 表　イノシシ上腕骨・尺骨の癒合状況……527
第 71 表　東 7 魚類部位 NISP……528
第 72 表　東 7 中小型獣 1mm 試料における NISP……528
第 73 表　東 7 鳥類 MNE……529
第 74 表　東 7 イヌ科 MNE……529
第 75 表　東 7 中小型獣 MNE……530
第 76 表　東 7 シカ・イノシシ MNE……530
第 77 表　北小松遺跡ほかの遺構・遺物包含層から
出土した大型植物化石……538
第 78 表　北小松遺跡ほかの遺構・遺物包含層から
出土した木材の樹種と調査区……539
第 79 表　北小松遺跡ほかで実施した放射性炭素年代測定
……563
第 80 表　IntCal20 による較正結果（1）……566
第 81 表　IntCal20 による較正結果（2）……567
第 82 表　IntCal20 による較正結果（3）……568
第 83 表　IntCal20 による較正結果（4）……569
第 84 表　IntCal20 による較正結果（5）……570
第 85 表　IntCal20 による較正結果（ウィグルマッチング）
……570

写　真　目　次

写真 1　ボーリング調査風景（D 区）……16
写真 2　平成 19 年度発掘調査現地説明会……27
写真 3　平成 20 年度発掘調査現地説明会……27
写真 4　平成 21 年度発掘調査現地説明会……27
写真 5　平成 22 年度発掘調査現地説明会……27
写真 6　北小松遺跡ほか遠景……34
写真 7　B-10 区東および B-11 区……48
写真 8　B-10 区東調査風景……48
写真 9　B-21 区遺物包含層……51
写真 10　B-22 区遺物包含層……51
写真 11　B-23 区遺物包含層……51
写真 12　B-24 区遺物包含層……51
写真 13　A-28 区調査風景……63
写真 14　A-29 区調査風景……63
写真 15　A-1 区遺物包含層……67
写真 16　A-1 区調査風景……67
写真 17　C-2 区南遺物包含層……72
写真 18　C-2 区北遺物包含層……72
写真 19　C-1 区遺物包含層……72
写真 20　C-2 区調査風景……72
写真 21　西 6 地点全景……75
写真 22　C-13 区遺物包含層……75
写真 23　C-14 区遺物包含層……75
写真 24　C-15 区遺物包含層……75
写真 25　C-21 区全景……79
写真 26　C-21 区西遺物包含層……79
写真 27　C-21 区東遺物包含層……79
写真 28　C-21 区東遺物出土状況……79

写真 29　C-20 区遺物包含層……79
写真 30　C-20 区調査風景……79
写真 31　E-25 区東調査風景……117
写真 32　E-25 区西調査風景……117
写真 33　SX31 集石遺構調査風景……117
写真 34　E-25 区分析用土壌採取……117
写真 35　G-14 区遺物包含層……122
写真 36　G-14 区調査風景……122
写真 37　G-28 区遺物包含層……130
写真 38　G-29 区遺物包含層……130
写真 39　G-29 区遺物出土状況（Ⅵａ層）……130
写真 40　G-29 区縄文土器壺出土状況（Ⅵａ層）……130
写真 41　D-55 区調査風景……287
写真 42　D-56 区調査風景……287
写真 43　SK55 埋葬犬骨切り取り……287
写真 44　SK60 土坑墓切り取り……287
写真 45　F-29 区縄文土器壺出土状況（Ⅵｆ層）…… 300
写真 46　F-30 区土版出土状況（Ⅵｃ層）……300
写真 47　掘立柱建物跡調査風景……404
写真 48　掘立柱建物跡調査風景……404
写真 49　F-23 区調査風景……404
写真 50　遺物包含層調査風景……404
写真 51　遺物包含層調査風景……404
写真 52　F-23 区養生・埋め戻し作業 ……404
写真 53　F-23 区南縄文土器壺出土状況（Ⅵｄ層）……425
写真 54　F-23 区南イモガイ形石製品出土状況（Ⅵｄ1 層）
……425
写真 55　SX151G 沢跡トチノキ集積……436
写真 56　SX151F 沢跡……436
写真 57　SD152B 溝跡……436
写真 58　SX151B 沢跡……436
写真 59　SX151A 沢跡……436
写真 60　F-71 区遺物包含層……436
写真 61　丘陵頂部（F-55 区ほか）全景……447
写真 62　F-55 区遺物包含層……447
写真 63　F-10 区北遺物出土状況（Ⅵａ層）……447
写真 64　F-8 区遺物出土状況（Ⅵｂ層）……447
写真 65　愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡遠景…… 448
写真 66　北小松遺跡遠景……448
写真 67　北小松遺跡周辺遠景……449

写真図版目次

図版 1　北小松遺跡ほか遠景（1）……580
図版 2　北小松遺跡ほか遠景（2）……581
図版 3　北小松遺跡ほか遠景（3）……582
図版 4　西 1 地点…… 583
図版 5　西 3 地点（丘陵北斜面）……584
図版 6　西 3 地点（丘陵南斜面）……585
図版 7　東 1 地点…… 586
図版 8　東 2 地点…… 587
図版 9　東 3 地点（1）……588
図版 10　東 3 地点（2）……589
図版 11　東 4 地点…… 590
図版 12　東 5 地点…… 591
図版 13　東 7 地点掘立柱建物跡（1）…… 592
図版 14　東 7 地点掘立柱建物跡（2）…… 593
図版 15　東 7 地点 SX43・50 集石遺構、SK55・63・80
埋葬犬骨 ……594
図版 16　東 7 地点土坑墓群（1）……595
図版 17　東 7 地点土坑墓群（2）……596
図版 18　東 7 地点 SK44 土坑墓……597
図版 19　東 7 地点南斜面遺物包含層…… 598
図版 20　東 7 地点土器埋設遺構……599
図版 21　東 7 地点 SX91 集石遺構、SK92 土坑、
北斜面遺物包含層…… 600
図版 22　東 7 地点北斜面遺物包含層
（D-61 区西Ⅵｇ1 層）……601
図版 23　東 8 地点（1）……602
図版 24　東 8 地点（2）……603
図版 25　東 9 地点全景……604
図版 26　東 9 地点掘立柱建物跡…… 605
図版 27　東 9 地点 SX131 石斧集積遺構、SK125・
127・128・134・135 埋葬犬骨……606
図版 28　東 9 地点遺物包含層（1）……607
図版 29　東 9 地点遺物包含層（2）……608
図版 30　東 9 地点遺物包含層（3）……609
図版 31　東 9 地点遺物包含層（4）……610
図版 32　東 10 地点……611
図版 33　東 11 地点……612
図版 34　東 12 地点……613
図版 35　愛宕山遺跡・諏訪遺跡出土土器（1）……614
図版 36　愛宕山遺跡・諏訪遺跡出土土器（2）・土製品
…… 615
図版 37　東 3 地点（E-25 区）出土土器・石器…… 616
図版 38　東 3 地点・東 12 地点出土遺物…… 617
図版 39　東 7 地点出土土器……618
図版 40　東 7 地点土坑墓・土器埋設遺構（再葬墓）
埋設土器……619
図版 41　東 7 地点 SX43 集石遺構出土遺物……620
図版 42　東 7 地点 SX50・91 集石遺構出土石器……621
図版 43　東 7 地点出土土製品・石製品……622
図版 44　東 7 地点出土骨角牙製品……623

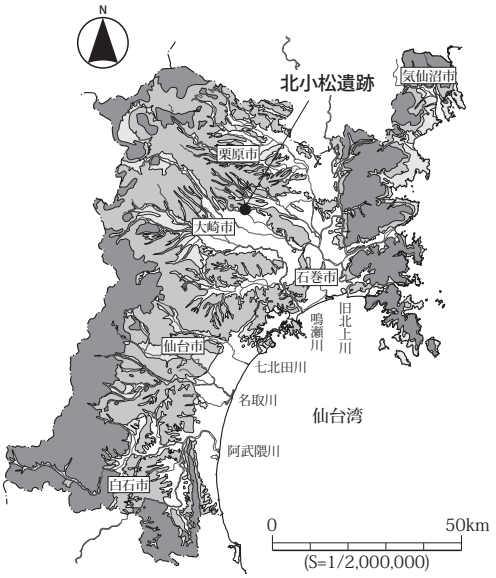
図版 45　東 9 地点出土土器……624
図版 46　東 9 地点出土石器・石製品……625
図版 47　東 9 地点 SX131 石斧集積遺構出土磨製石斧、
遺物包含層出土骨角牙製品（1）……626
図版 48　東 9 地点遺物包含層出土骨角牙製品（2）……627
図版 49　東 7 地点 SK44 土坑墓埋設土器（四脚付鉢）
6 面展開画像（1）……628
図版 50　東 7 地点 SK44 土坑墓埋設土器（四脚付鉢）
6 面展開画像（2）……629
図版 51　東 7 地点 SK44 土坑墓埋設土器（鉢）
6 面展開画像（1）……630
図版 52　東 7 地点 SK44 土坑墓埋設土器（鉢）
6 面展開画像（2）……631
図版 53　東 7 地点 SX88 再葬墓埋設土器（鉢）
6 面展開画像（1）……632
図版 54　東 7 地点 SX88 再葬墓埋設土器（鉢）
6 面展開画像（2）……633

第１章　遺跡の概要

第１節　遺跡の位置と自然環境

北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡は、宮城県北部の大崎市田尻小松ほかに所在し（第１・２図）、江合川と鳴瀬川の沖積作用で形成された東西約 20km、南北約 10km の大崎平野（大崎低地）の北縁部に位置する。

遺跡の南に広がる大崎低地は、現河道および旧河道沿いに自然堤防が形成され、これらの間に後背湿地が広がる。南を鹿島台丘陵（三本木丘陵、大松沢丘陵）、北を清滝丘陵（築館丘陵）に囲まれており、これらの丘陵はそれぞれ東へ延びる。遺跡の位置する清滝丘陵は大崎低地の東部で低くなり、末端部では断続的となる。低地の東縁部になると、ごく低い丘陵が点在する状況が見られる（宮城県企画部土地対策課　1989）。



第1図　北小松遺跡の位置

遺跡は、清滝丘陵が南東に細長く張り出した箇所で、樹枝状に延びる低丘陵の裾部と、その西側に広がる後背湿地に位置する。標高は約 13.4 ～ 49.7m で、現在は宅地や水田・畑地、山林等として利用されている。遺跡の南側は江合川支流の田尻川が東流し、これにより形成された自然堤防が東西に延びる。遺跡の低地部分は、細長い岬状に突き出た低丘陵と自然堤防に囲まれ、洪水流路や江合川流路が通常進入しにくいことから、河川からの土砂の供給量が少なく、大崎平野主部の地表面高度に対して、1 ～ 2m 低い低地帯（谷底平野）が形成されている（松本　2014）。

遺跡の位置する清滝丘陵を囲む北上川下流域は、貝塚を含む縄文時代の遺跡が数多く所在する地域である。地質学的に復元された縄文時代の海岸線の位置（松本　1984）を参考に、貝塚の主体貝種などの考古学的資料から検討した鹹水域、汽水域の変遷によると（須藤・富岡編　1995）、縄文時代早期末葉から前期初頭にかけて、この地域に広がる沖積地に海水が深く入り込み、清滝丘陵の南の大崎低地、東の迫川沿岸低地に鹹水域が広がり、大崎低地では北小松遺跡から約 10km 南東、迫川沿岸低地では約 8km 東のところに海岸線があったとされる。その後、前期末葉から中期初頭には、海岸線が大崎低地の南東縁に当たる松島丘陵の東側まで後退し、迫川沿岸低地や大崎低地の一部には汽水域が広がる。北小松遺跡周辺で多くの集落が営まれるようになる晩期には、本遺跡から約 20km 南東まで汽水域が縮小し、清滝丘陵の周辺域は淡水化して、湖沼域が広がっていったものとみられる。なお、本遺跡周辺は縄文時代を通して湖沼域であったとみられ、その後 1690 年（元禄 3）に開墾されるまで大崎沼（別名千枝湖）とよばれる沼地があったと伝えられている（田尻町史編さん委員会　1982）。

遺跡周辺の地質を概観すると、遺跡の位置する丘陵には、新第三紀鮮新世の瀬峰層が分布する。瀬峰層は凝灰質砂岩・同質シルト岩・凝灰岩等からなり、箆岳以北の低平丘陵地一帯および、北上川・

迫川・江合川・鳴瀬川に沿った沖積平野に残丘状に残された小丘陵を構成しつつ分布する。また、低地には、細粒灰色低地土壌および、細粒グライ土壌、グライ土壌、低位泥炭土壌が分布している（宮城県企画部土地対策課　1989）。

第２節　歴史的環境

1. 遺跡の発見と発掘調査

北小松遺跡は 1953 年（昭和 28）に発見され、『宮城県史１』の遺跡地名表には縄文時代晩期の大洞 BC ～ A' 式土器が出土する遺跡として紹介された（伊東　1957）。また、1957 年（昭和 32）の開田工事では、泥炭層や貝層から、抜歯が施された人骨やシジミ・タニシ等の淡水産貝類、多数の縄文土器や石器、動物遺存体が発見されている（興野　1959、田尻町史編さん委員会　1982、高橋　1986）。 地元住民によると、この地点は遺跡標柱の西側に位置する微高地（平成 21 年度発掘調査地点）の南側の水田付近にあたるという。これらにより、本遺跡は縄文時代晩期の遺物を豊富に出土する遺跡として知られることとなった。

2001 年（平成 13）から、北小松遺跡を含む大崎市東部（旧田尻町、田尻西部地区）では、ほ場整備事業に伴う発掘調査が継続して行われることとなり、本遺跡のほかに、西側の丘陵上にある愛宕山遺跡や諏訪遺跡、宮沼遺跡、南側の自然堤防上および後背湿地にある団子山西遺跡が発掘調査の対象となった（第２図）[(註 1)]。これら一連の発掘調査の結果、いずれの遺跡においても縄文時代の遺構・遺物を確認し、特に丘陵上に位置する 4 遺跡（北小松遺跡、愛宕山遺跡、諏訪遺跡、宮沼遺跡）では、東西・南北それぞれ 1.3km の範囲で湖沼を囲むように遺物包含層が分布することが判明した。すなわち、現在おもに水田として利用されている谷底平野は縄文時代を通して湖沼であり、その周囲の低丘陵や微高地上に縄文時代早期から弥生時代前期にかけて集落が営まれ、特に晩期中葉から末葉頃には近接して多くの集落が営まれたことなどが明らかとなった（宮城県教育委員会　2005・2008・2010b・2011・2014）。なお、これらの遺物包含層は弥生時代前期頃に大規模に発生した洪水堆積層に覆われ（松本　2014）、その後、丘陵裾部や低地部における人間の活動痕跡はしばらく見られなくなる。

ほ場整備事業以外でも、北小松遺跡およびその周辺遺跡で小規模なものを中心に発掘調査が行われている。本遺跡では、2013 年（平成 25）に個人住宅建築に伴う発掘調査が行われ、縄文時代晩期前葉から弥生時代前期の遺物包含層を検出し、なかでも晩期中葉から末葉の縄文土器や土製品、石器・石製品、動物遺存体が多量に出土した（大崎市教育委員会　2015b）。宮沼遺跡では、1996 年（平成８）に町道拡幅工事に伴う発掘調査が行われ、縄文時代晩期の土器がわずかに出土している。また、北小松遺跡の位置する丘陵およびその東側に延びる丘陵上にまたがる新田柵跡においても、各種事業に伴う発掘調査で、縄文時代の遺構や遺物が広範囲に点在して発見された（宮城県教育委員会　1991、田尻町教育委員会　1998、大崎市教育委員会　2009a など）。ほ場整備事業に伴う発掘調査では、丘陵裾部および低地部を中心とした調査であったが、これらよりも標高の高い丘陵上においても縄文時代の遺物がわずかに出土したことで、丘陵上にも集落が存在していた可能性が考えられる成果となった。

2. 縄文時代

(1) 大崎低地周縁部の遺跡

大崎低地は四方を丘陵地に囲まれ、その縁辺部には縄文時代遺跡が多く立地する。これらの遺跡について、便宜上、低地の南側を流れる鳴瀬川の南や東に位置する丘陵とその周辺、低地北側を流れる江合川の北や西に位置する丘陵とその周辺の２つに分け、発掘調査が行われた遺跡を中心に概観する。

①大崎低地南縁部の遺跡

大崎低地は東にかけて低くなり、南東部で松島丘陵（旭山丘陵）と接する。この丘陵上やその縁辺部には石巻市宝ヶ峯遺跡（志間・桑月　1991）や、県指定史跡の東松島市平田原貝塚（宮城県塩釜女子高等学校社会部　1969）などがある。

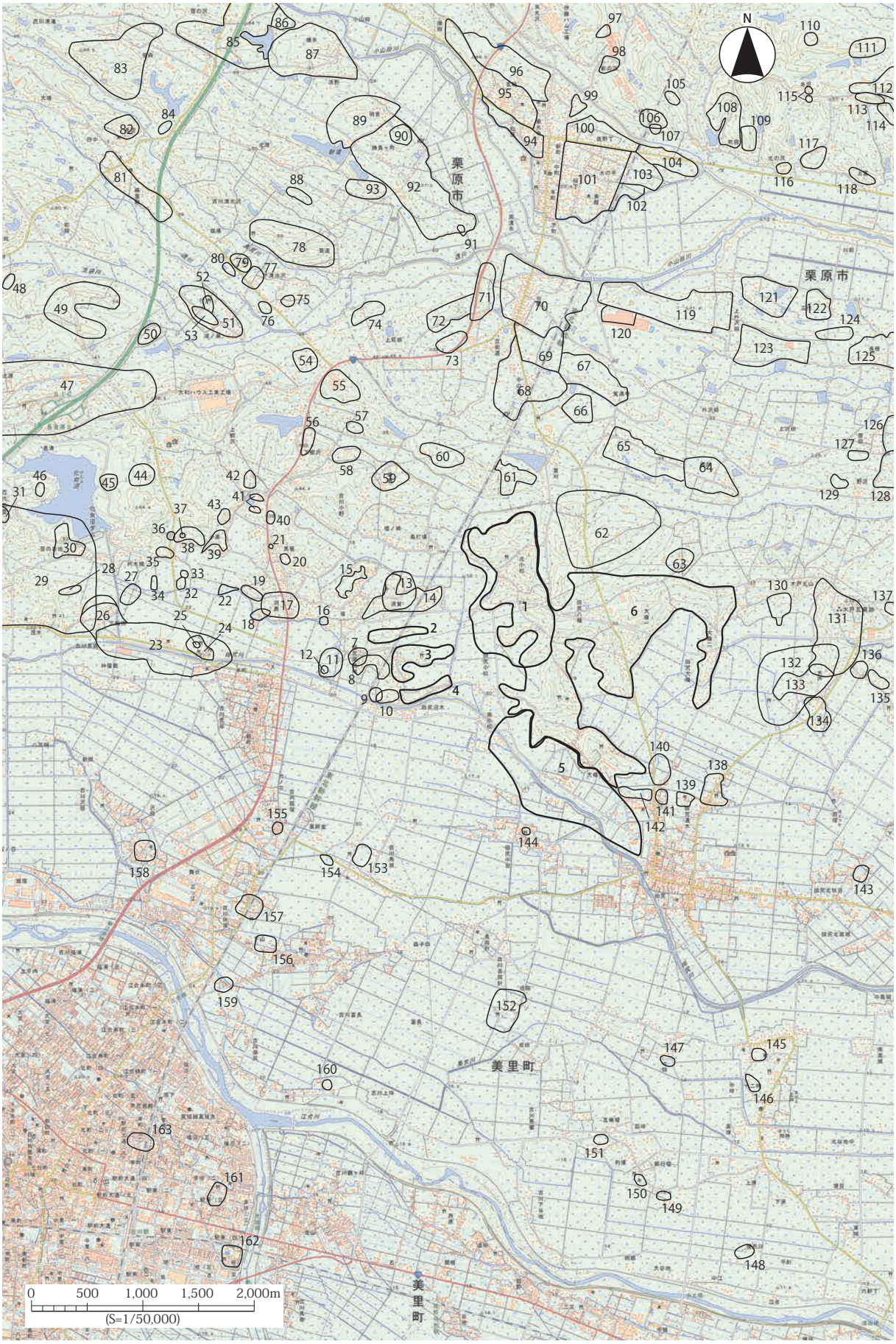
低地の南には鹿島台丘陵（三本木丘陵・大松沢丘陵）があり、丘陵上やその縁辺部に多くの縄文時代遺跡が立地するが、その多くは、丘陵の南に広がる吉田川低地の縁辺部に位置する。大崎低地南縁部では、大崎市混内山遺跡の発掘調査で早期中葉から晩期の遺物が出土している（宮城県教育委員会　1980e）が、遺跡数や調査による出土事例は少ない。

また、この丘陵から北に延び、現在は鳴瀬川の開析によって分断されて低地内に島状に残る丘陵上には、美里町素山貝塚、新山前貝塚、大崎市矢根八幡遺跡、師山遺跡などが立地する。素山貝塚では早期末葉の鹹水産の貝層（ハマグリ、カキなど）が検出され（伊東　1940）、国指定史跡の山前遺跡では、早期末葉から前期初頭の鹹水産のカキやハマグリを主体とする貝層および、早期後半から中期末葉の遺物包含層や竪穴住居跡が検出された（小牛田町教育委員会　1976）。矢根八幡遺跡では、後期中葉から晩期後葉の遺物包含層とこれに伴うとみられる竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが検出され（大崎市教育委員会　2015a）、師山遺跡では前期末から中期中葉の遺物包含層が検出されている（大崎市教育委員会　2009b）。

低地の西側はゆるやかに高くなり、鳴瀬川の南で加美丘陵（小野田台地）に接する。この地域には、色麻町香ノ木遺跡や大谷地遺跡などが立地する。香ノ木遺跡では後期後半から晩期、なかでも晩期中葉から後葉（大洞 C2 ～ A 式）の良好な遺物包含層を検出し（宮城県教育委員会　1985）、大谷地遺跡では中期末葉（大木 10 式）の遺物包含層と後期初頭から前葉の遺物包含層などを検出した（宮城県教育委員会　1984）。また、この地域の北に位置する鳴瀬川と江合川の間では青木ヶ原台地（玉造丘陵）に接する。この台地・丘陵上では、大崎市高幌遺跡や天神山遺跡で発掘調査が行われている。高幌遺跡では土坑と陥し穴多数が検出され、また、晩期中葉から末葉（大洞 C2 ～ A' 式）の遺物が出土した（古川市教育委員会　2001）。天神山遺跡では竪穴遺構と土坑を検出し、早期後葉の遺物が出土している（宮城県教育委員会　1982b）。

②大崎低地北縁部の遺跡

低地の北には清滝丘陵（築館丘陵）があり、丘陵上やその縁辺部には、低地の西や南側と比べて多くの遺跡が立地し、北小松遺跡とその周辺の縄文時代遺跡（愛宕山遺跡、諏訪遺跡、宮沼遺跡）もこ



第2図　北小松遺跡の位置と周辺の遺跡

第1表　遺跡地名表　（番号は第2図に対応）

番号	遺跡名	立地	種　別	時　代	番号	遺跡名	立地	種　別	時　代
1	北小松遺跡	丘陵・沖積平野	集落・散布地	縄文早～晩・弥生・古代・中世	83	笹森遺跡	丘陵	散布地	縄文前
2	愛宕山遺跡	丘陵	散布地	縄文晩・古代	84	北見遺跡	丘陵麓	散布地	古代
3	諏訪遺跡	丘陵	集落	縄文後・晩・弥生・古代	85	西手取遺跡	丘陵	集落・塚	縄文早・前・平安・中世・近世
4	宮沼遺跡	丘陵	散布地	縄文晩・弥生・古代	86	館山館跡	丘陵	城館	中世
5	団子山西遺跡	沖積平野	集落	縄文早・前・晩・古墳・奈良・平安・中世	87	西横手遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代・中世・近世
6	新田柵跡	丘陵	散布地・古墳?・官衙・城館	縄文早～晩・弥生・古墳・古代・中世	88	外沢窯跡	丘陵斜面	窯跡	平安
7	沼木館跡	丘陵	城館	中世	89	明官遺跡	段丘	散布地	古代
8	日向前横穴墓群	丘陵麓	横穴墓群	古墳・平安	90	勝負ケ町遺跡	丘陵	散布地	古代
9	筒水横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳	91	上経ケ崎遺跡	段丘	塚	中世・近世?
10	大隅館跡	丘陵	城館	中世	92	経ケ崎遺跡	段丘	散布地・集落	縄文・古墳・古代
11	天神山遺跡	丘陵	散布地	古代	93	生深町遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文
12	天神西横穴墓群	丘陵麓	横穴墓群	古墳後	94	長福寺遺跡	段丘	散布地・集落	縄文・古代・近世
13	須賀遺跡	丘陵尾根	散布地	縄文晩・古代	95	五輪遺跡	段丘	散布地	縄文・古墳
14	小野館跡	丘陵	城館	中世	96	袖山遺跡	段丘	散布地	古代・近世
15	普月館跡	丘陵	城館	中世	97	二本石遺跡	丘陵	経塚	中世
16	一貫寺遺跡	丘陵	散布地	奈良	98	折木山遺跡	丘陵	寺院？	古代
17	羽黒遺跡	丘陵	散布地	古墳	99	一本松遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代
18	小野横穴墓群（羽黒支群）	丘陵斜面	横穴墓群	古墳後・奈良	100	佐野遺跡	段丘	散布地・集落	古墳・奈良・平安・中世・近世
19	小野横穴墓群（白山支群）	丘陵斜面	横穴墓群	古墳後・奈良	101	高清水城跡	段丘	城館	古代・中世・近世
20	小野横穴墓群（馬籠支群）	丘陵斜面	横穴墓群	古墳後	102	東館遺跡	段丘	集落	弥生～平安
21	小野馬籠一里塚	丘陵	一里塚	近世	103	筒の池遺跡	段丘	散布地	縄文・古墳中・後・古代
22	いもり塚周辺遺跡	丘陵麓	散布地	縄文晩・弥生	104	大寺遺跡	段丘	散布地・集落	縄文・弥生後・古墳前・中・古代・中世
23	権現山遺跡	丘陵	集落・屋敷	弥生・古代・中世	105	影の沢コド山遺跡	丘陵	散布地	奈良
24	新江川遺跡	丘陵	散布地	縄文晩	106	新庄館跡（新城館）	丘陵	城館・散布地	平安・中世
25	稲荷塚古墳	丘陵	円墳	古墳後	107	下折木遺跡	丘陵麓	集落	平安
26	三輪田遺跡	丘陵	官衙・寺院?	奈良・平安	108	薬沢東遺跡	丘陵	集落	縄文・古代
27	朽木橋遺跡	沖積平野	散布地	古代	109	町田遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代
28	岩井堂横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古代	110	空堤遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文前
29	国史跡　宮沢遺跡	丘陵	散布地・官衙・城館・墓	縄文早・晩・弥生・奈良・平安・中世	111	寺沢遺跡	丘陵	集落・塚	古代・中世
30	苔ノ谷地遺跡	丘陵	散布地	弥生	112	岩石Ⅰ遺跡	丘陵	集落・塚	縄文前・中・古墳・古代・中世・近世
31	長者原E遺跡	丘陵斜面	散布地	古代	113	蒲盛遺跡	丘陵	墓	古代
32	小野横穴墓群（岩崎支群）	丘陵麓	横穴墓群	古墳後・奈良	114	岩石Ⅱ遺跡	丘陵	散布地	縄文中
33	岩崎古墳群	丘陵尾根	円墳	古墳	115	県指定有形　瀬峰一里塚	丘陵	塚	近世
34	新中山遺跡	沖積平野	塚	中世・近世?	116	北ノ沢遺跡	丘陵	散布地	古代
35	小野横穴墓群（朽木橋支群）	丘陵斜面	横穴墓群	古墳後・奈良	117	寺浦遺跡	丘陵	散布地	縄文・古墳・古代
36	姥沢遺跡	丘陵	散布地	奈良・平安	118	杉ノ壇遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代・中世
37	小野横穴墓群	丘陵斜面	横穴墓群	古墳後・古代	119	外沢田A遺跡	段丘	散布地	古代・中世・近世
38	小高遺跡	丘陵斜面	窯跡	古代	120	北甚六原遺跡	段丘	散布地・集落	縄文・古代・中世・近世
39	小野横穴墓群（小高支群）	丘陵麓	横穴墓群	古墳後・奈良	121	中三代遺跡	丘陵	集落	古代
40	馬場遺跡	沖積平野	散布地	縄文・古代	122	三代遺跡	丘陵	散布地	古代・中世
41	新田古墳群	丘陵	円墳・方墳	古墳	123	外沢田B遺跡	段丘	集落・窯跡	古代・近世
42	横沢窯跡	丘陵	窯跡・散布地	古代・近世・近代	124	市史跡　王壇遺跡	丘陵	塚・散布地	古墳?・古代
43	小野横穴墓群（新田支群）	丘陵斜面	円墳・横穴墓	古墳・古代	125	長根遺跡	丘陵	集落	古代
44	嵐山遺跡	丘陵	散布地	縄文	126	神田遺跡	丘陵	集落	古代
45	上蝦沢遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	127	野沢遺跡	丘陵	散布地	古代
46	長者原D遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	128	四ツ壇原遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代
47	長者原A遺跡	丘陵	散布地	縄文晩・奈良	129	諏訪神社遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代
48	畑谷地遺跡	丘陵	散布地	縄文	130	北山遺跡	丘陵	散布地	縄文・奈良
49	畑谷地塚群	丘陵尾根	塚		131	国史跡　木戸瓦窯跡	丘陵	窯跡	奈良
50	十八弓沢遺跡	丘陵麓	散布地	縄文晩・古代	132	木戸遺跡	丘陵	集落・散布地	縄文中～晩・弥生・古代・中世・近世
51	鴻ノ巣館跡	丘陵	城館	近世	133	木戸館跡	丘陵	城館・散布地	平安・中世
52	鴻ノ巣遺跡	丘陵斜面	散布地	奈良・平安	134	金鋳神遺跡	丘陵	集落	縄文前～晩・弥生・奈良・平安
53	城内窯跡	丘陵	窯跡	古代	135	泉谷崎畑遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文晩・古代
54	下沢田遺跡	丘陵斜面	散布地	奈良	136	北久保遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文中・晩・古代
55	一ノ坪遺跡	丘陵斜面	散布地・集落	平安	137	六月坂遺跡	丘陵	散布地	古代
56	通揚窯跡	丘陵斜面	窯跡	近世	138	通木城跡	丘陵	集落・城館	古代・中世
57	下蝦沢A遺跡	丘陵斜面	散布地	弥生	139	通木寺下遺跡	丘陵・低地	散布地・城館	縄文早・古代・中世・近世
58	下蝦沢B遺跡	丘陵斜面	散布地	弥生	140	通木田中前遺跡	沖積平野	散布地	縄文晩・弥生・古代
59	華島遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文晩・古代	141	通木山崎遺跡	自然堤防	散布地	平安
60	大窪遺跡	丘陵	散布地	縄文前・中	142	お椀子山遺跡	自然堤防	散布地	縄文晩・弥生・古墳前・古代
61	萱刈遺跡	丘陵	散布地・道路・土塁	古代・中世・近世?	143	百塚原東遺跡	沖積平野	散布地	古代
62	天狗堂遺跡	丘陵斜面	集落	縄文・奈良・平安	144	忠全寺跡	自然堤防	寺院	不明
63	大嶺遺跡	丘陵	散布地	平安	145	町遺跡	自然堤防	散布地	古代
64	袋沢遺跡	丘陵	散布地・集落	縄文・古墳・古代	146	十二神遺跡	自然堤防	散布地	古代・中世
65	北原A遺跡	段丘	散布地	縄文・古代・中世・近世	147	中田遺跡	沖積平野	散布地	古代
66	北原B遺跡	段丘	散布地	古代	148	練布川遺跡	自然堤防	散布地	古代
67	覚満寺遺跡	段丘	寺院・散布地	縄文・古代・中世・近世	149	山王遺跡	自然堤防	散布地	古代
68	中ノ茎遺跡	段丘	集落	縄文・古代・中世・近世	150	谷陽院遺跡	自然堤防	散布地	古代
69	仰ヶ返り地蔵前遺跡	段丘	集落・窯跡	縄文・古代・中世・近世	151	的場遺跡	自然堤防	散布地	古代
70	観音沢遺跡	段丘	集落	縄文・古墳・奈良～中世	152	長岡針遺跡	自然堤防	散布地	平安
71	向野遺跡	段丘	集落・散布地	縄文・古代・中世	153	馬放館跡	自然堤防	城館・集落・散布地	古代・中世
72	台町西遺跡	段丘	集落・塚	古代	154	馬放B遺跡	沖積平野	散布地	古代
73	松ノ木沢田遺跡	段丘	集落・塚	縄文・古代・中世	155	稲荷遺跡	沖積平野	散布地	古代
74	萩田遺跡	段丘	集落	縄文晩・弥生・古代～近世	156	休塚館跡	自然堤防	城館	中世
75	堀崎遺跡	丘陵斜面	散布地	古代	157	御館跡	自然堤防	城館	近世
76	梅女遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文・古代	158	沢田城跡	自然堤防	城館	中世
77	市ケ坂館跡	丘陵	城館	中世	159	渕尻遺跡	自然堤防	散布地	古墳中
78	北山遺跡	丘陵	散布地・円墳・塚	古墳後・古代・近世	160	上垉遺跡	沖積平野	散布地	古代
79	新寺館跡	丘陵斜面	城館	中世	161	李垉城跡	自然堤防	城館	中世
80	堀場遺跡	丘陵	散布地	古代	162	谷地館跡	自然堤防	城館	中世
81	藤屋敷遺跡	丘陵	集落	奈良・平安	163	留沼遺跡	自然堤防	集落・水田	古墳前・中
82	長泥遺跡	丘陵麓	散布地	古代					

の丘陵上に立地する。これらの遺跡周辺では、ほ場整備事業（田尻西部地区、田尻中央地区）に伴い大崎市団子山西遺跡、新田柵跡、通木田中前遺跡、通木寺下遺跡、木戸遺跡、金鋳神遺跡などで縄文時代を対象とした発掘調査が行われている。団子山西遺跡では、北小松遺跡などにおける遺物包含層相当層から早期後葉から前期前葉および晩期後葉（大洞 A 式）の土器が少量出土した（宮城県教育委員会　2018・2020）。新田柵跡では縄文時代から弥生時代前期の遺物包含層が丘陵裾部に点在することが判明し、早期中葉から弥生時代前期の遺物が出土している（大崎市教育委員会　2020）。通木寺下遺跡では早期後葉（梨木畑式）から前期初頭（上川名Ⅱ式）の遺物包含層（大崎市教育委員会　2017）、木戸遺跡では後期前葉から弥生時代前期の遺物包含層（大崎市教育委員会　2018b）、金鋳神遺跡では晩期後葉から末葉（大洞 A ～ A' 式）を主体とする遺物包含層（大崎市教育委員会　2016a）、通木田中前遺跡では、晩期末葉（大洞 A' 式）から弥生時代前期（山王Ⅳ上層式）を主体とする遺物包含層（大崎市教育委員会　2010）がそれぞれ検出された。これらの調査から、遺跡はいずれも大崎低地に樹枝状に延びる丘陵の端部に立地しており、この立地条件はこの地域における縄文時代から弥生時代前期の遺跡に共通することが判明した。また、いずれの遺跡においても洪水堆積層直下の黒色粘土層から遺物が出土しており、弥生時代前期にこの地域周辺で発生した大規模洪水の広がりや時期が推定できる成果が得られている。

これらの遺跡が立地する清滝丘陵の南縁部の西側の地域については、大崎市いもり塚周辺遺跡で晩期末葉を主体とする遺物包含層[(註2)]、大崎市宮沢遺跡（国史跡）で晩期末葉（大洞 A' 式）の土坑と遺物包含層（宮城県教育委員会　1980d）がそれぞれ発掘調査で検出されている。さらに西側に位置する、江合川沿岸の段丘上では大崎市玉造遺跡や根岸遺跡などで発掘調査を実施し、玉造遺跡では竪穴住居跡や土坑を検出し、中期末葉（大木 10 式）の遺物が出土した（宮城県教育委員会　1980c）。根岸遺跡では、晩期中葉から末葉（大洞 C1 ～ A' 式）の遺物包含層と、墓域を構成する配石遺構、土坑、埋設土器を検出している（宮城県教育委員会　1981a）。

（2）迫川沿岸低地周辺部の遺跡群

清滝丘陵および筧岳丘陵を挟んで大崎低地の北東に広がる迫川沿岸低地の西側は、筧岳丘陵、清滝丘陵、瀬峯丘陵が東へ樹枝状に延び、迫川支流の各河川の沿岸には内湾状の低地帯が形成される。南から旧迫川・蕪栗沼沿岸、伊豆沼・内沼沿岸、一迫川・二迫川沿岸の各地域に縄文時代の遺跡が多く立地する。以下に、各地域における縄文時代遺跡について、発掘調査が行われた遺跡を中心に概観する。

①旧迫川・蕪栗沼沿岸の遺跡

北小松遺跡が立地する清滝丘陵は、本遺跡からさらに東へ延び、高度を下げるとともに幅の狭い低丘陵となる。また、そこから筧岳丘陵が南東へ延びるが、清滝丘陵端部の低平丘陵とは異なり、標高の高い丘陵地となっている。これらの丘陵の縁辺部に縄文時代の遺跡が多く立地する。本遺跡から東へ続く丘陵の東端部付近では、国指定史跡の涌谷町長根貝塚や大崎市中沢目貝塚、国指定重要文化財の遮光器土偶が出土した大崎市恵比須田遺跡（宮城県教育委員会　1980b）などが立地する。長根貝

塚では、丘陵尾根上で中期後葉の竪穴住居跡 2 軒、丘陵裾部では馬蹄形に広がる前期末葉から中期末葉（大木 6 ～ 10 式）の淡水産のヤマトシジミを主体とする貝層を検出した（伊東ほか　1969）。中沢目貝塚では丘陵斜面で淡水産のオオタニシやイシガイ、ヌマガイを主体とする貝層が検出された。なお、貝層には鹹水産のアサリも多く含まれる。出土した遺物は後期末葉から晩期中葉（大洞 C1 式）を主体とするが、特に晩期前葉に属する土器や石器、動物遺存体等が層位的に出土している（須藤編　1984、須藤・富岡編　1995）。また、丘陵上の平坦部では、後期後葉の竪穴住居跡 1 軒と晩期中葉（大洞 C2 式）の竪穴住居跡が 2 軒検出された（田尻町教育委員会　1986）。筧岳丘陵の裾部では、涌谷町ツナギの沢貝塚で発掘調査が行われ、竪穴住居跡 13 軒や多数の土坑やピットとともに、後期前葉から晩期後葉の遺物包含層が検出されている（涌谷町教育委員会　2004）。

低地の西縁部や北縁部に当たる丘陵縁辺部では、栗原市西手取遺跡、下富前遺跡、登米市長者原貝塚、青島貝塚などで発掘調査が行われている。西手取遺跡では、早期末葉から前期初頭および晩期後葉（大洞 A 式）の遺物が出土した（宮城県教育委員会　1980a）。下富前遺跡では、早期後葉から中期末葉、なかでも前期後半（大木 4・5 式）の遺物が多量に出土している（瀬峰町教育委員会　2002）。長者原貝塚では、1970 年の調査で中期中葉頃の溝跡や土坑、ピットを検出し、前期末葉から後期初頭の遺物が出土した（宮城県教育委員会　1981c）。1977 年の調査では、中期中葉から後葉（大木 8a ～ 9 式）と晩期中葉（大洞 C2 式）の竪穴住居跡や、人骨を伴う晩期の土坑墓、中期末葉の新生児骨、淡水産のオオタニシ、イシガイ、ドブガイを主体とする中期中葉（大木 8a 式）の貝層、中期中葉（大木 8a ～ 8b 式）と晩期（大洞 BC ～ A 式）の遺物包含層が検出されている（南方町教育委員会　1978）。青島貝塚では、1917 年の調査で淡水産のイシガイ科を主体とする貝層と埋葬人骨 14 体が検出された（松本　1930）。また、1969･70 年の調査では、埋葬人骨 9 体、竪穴住居状遺構、淡水産のオオタニシ、イシガイ、ヌマガイを主体とする貝層や遺物包含層などが検出されている。遺物は、中期中葉から後期初頭のものが主体となる（加藤･後藤　1975）。さらに、2010 年の調査では、中期初頭（大木 7a 式）と後期初頭の埋葬人骨 3 体と、中期中葉から後期前葉の住居跡とみられるピット群、タニシやヌマガイなどの淡水産の貝層が検出されている（登米市教育委員会　2011）。

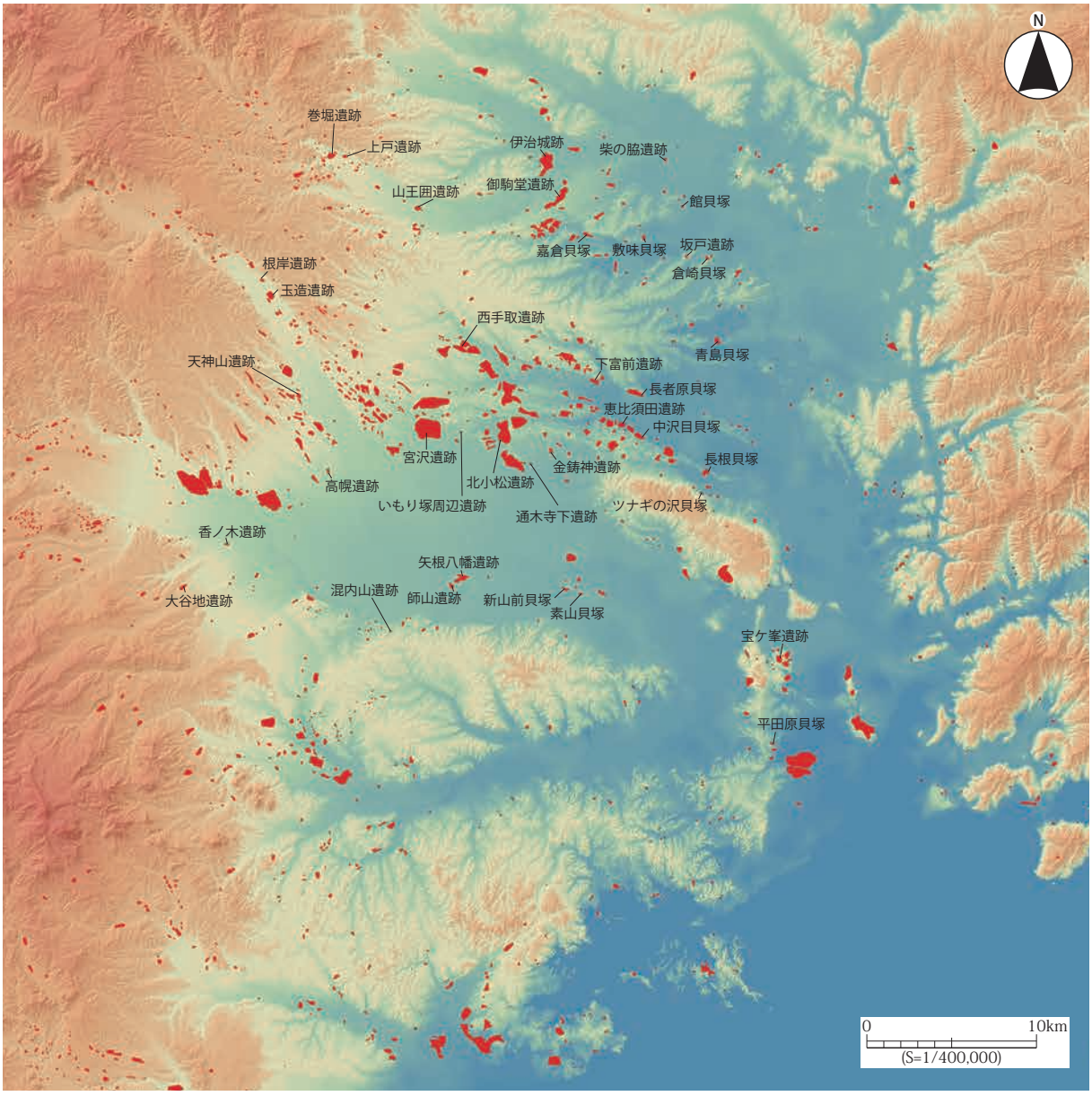
②伊豆沼・内沼沿岸の遺跡

旧迫川・蕪栗沼沿岸の低地とは丘陵を挟んで北に位置する伊豆沼・内沼沿岸では、登米市倉崎貝塚、坂戸遺跡、栗原市嘉倉貝塚、敷味貝塚、館貝塚で、北小松遺跡の主体をなす晩期の遺構・遺物が発掘調査により発見されている。倉崎貝塚では、晩期中葉頃の人骨を伴う土坑墓を検出し、淡水産のヌマガイやオオタニシを主体とする貝層を含む堆積層を検出した（宮城県教育委員会　1990b）。遺物は後期後葉から晩期中葉のものが出土し、なかでも晩期前半が主体となる。坂戸遺跡では、竪穴住居跡や掘立柱建物跡、遺物包含層が検出された。遺物の主体は後期中葉であるが、晩期末葉から弥生時代前期（大洞 A' 式～砂沢式）の遺物も少量出土している（迫町教育委員会　2005）。嘉倉貝塚では、晩期後葉（大洞 A 式）から弥生時代前期の竪穴住居跡や土坑墓、土器埋設遺構のほか、弥生時代前期の遺物包含層が検出された（築館町教育委員会　2003）。敷味貝塚では、晩期中葉から後葉（大洞 C1

～ A 式）の遺物包含層を検出している（伊東ほか　1965）。館貝塚では、埋葬人骨 5 体と淡水産の貝層を検出した。遺物は晩期前葉（大洞 B ～ BC 式）が主体である（伊東　1981）。柴の脇遺跡では、晩期末葉から弥生時代前期を主体とする遺物包含層を検出した（宮城県教育委員会　1986b）。

③一迫川・二迫川沿岸の遺跡

伊豆沼・内沼沿岸の低地とは丘陵を挟んで北に位置し、迫川上流域である一迫川・二迫川沿岸では、栗原市御駒堂遺跡、山王囲遺跡、巻堀遺跡、上戸遺跡、伊治城跡で晩期の遺構・遺物が発見されている。御駒堂遺跡では、晩期後葉から末葉（大洞 A ～ A' 式）の遺物包含層を検出した（宮城県教育委員会　2016）。山王囲遺跡では、晩期中葉から弥生時代前期の遺物包含層と、弥生時代前期の竪穴住居跡や溝跡、土坑墓のほか、おもに晩期末葉から弥生時代前期の遺構群が検出された（伊東・須藤 1985、須藤・大場ほか　1996・1997・1998、須藤ほか　2007、栗原市教育委員会　2013）。巻堀遺跡



第3図　宮城県北部の縄文時代遺跡の分布

では、晩期中葉から末葉（大洞 C1 ～ A' 式）の遺物包含層（一迫町教育委員会　1977）、上戸遺跡では、晩期前葉の遺物包含層と土坑 1 基を検出した（宮城県教育委員会　1989）。伊治城跡では、城柵の位置する段丘の北側低地部で晩期前葉（大洞 B 式）の遺物包含層が検出された（栗原市教育委員会 2014）。

3. 弥生時代以降の北小松遺跡周辺の様相

弥生時代前期頃の大規模洪水により、大崎低地北縁部に当たる北小松遺跡周辺では低地部や微高地に洪水によって運ばれてきた砂や粘土が堆積し、低地部における生活の痕跡は古代以降までほとんど確認されなくなる。しかしながら、諏訪遺跡の発掘調査で洪水堆積層の上面から弥生時代前期の土器がつぶれた状態で出土する（宮城県教育委員会　2010b）など、近隣の丘陵上では引き続き生活が営まれていた可能性が大きい。

北小松遺跡周辺では、縄文時代と比べて遺跡数や遺構・遺物の量が大幅に減少するものの、低地部やその丘陵上などで、弥生時代の遺構・遺物が発見されている。低地部における洪水層の下位からの出土例としては、本遺跡や新田柵跡で前期の遺物がわずかに出土しているほか（宮城県教育委員会 2011・2014、大崎市教育委員会　2020）、通木田中前遺跡と木戸遺跡で前期の遺物包含層が検出された事例がある（大崎市教育委員会　2010・2018b）。洪水堆積層中およびその上位では、諏訪遺跡や本遺跡で前期の土器が出土したほか（宮城県教育委員会　2010b・2011）、金鋳神遺跡で洪水層上位のスクモ層（泥炭層）から後期の土器がわずかに出土し（大崎市教育委員会　2016a）、また、古代の遺物包含層中ではあるが、大崎市通木城跡で中期中葉の土器がわずかに出土している（大崎市教育委員会　2017）。丘陵上では、新田柵跡で後期（天王山式）の土器がわずかに出土した（宮城県教育委員会　1991）。

さらに、同じ大崎低地北縁部に当たる北小松遺跡西側の地域においても、遺跡数および遺構・遺物の量は少ないものの、天神前遺跡、灰塚遺跡、宮沢遺跡、野崎遺跡、欠下遺跡、若林遺跡（いずれも大崎市）などで、発掘調査により弥生時代の遺構・遺物が発見されている。河岸段丘上にある天神前遺跡では、南側低地部の洪水堆積層上面で中期の土坑が検出された（大崎市教育委員会　2018a）。自然堤防上にある灰塚遺跡では、後期の土坑が検出され、遺構堆積土や河川跡からも後期の土器がわずかに出土している（古川市教育委員会　2002、佐藤　2006）。宮沢遺跡では、丘陵上で後期（天王山式）の壺棺墓と遺物包含層を検出し、また、前期から中期の土器も少量出土した（宮城県教育委員会 1980d）。同じく丘陵上に立地する野崎遺跡、欠下遺跡、若林遺跡の近接する三遺跡では、後期の土坑が検出され（欠下遺跡）、また、中期中葉から後期の遺物が出土している（大崎市教育委員会 2008）。

古墳時代以降の北小松遺跡周辺の低地部は、江戸時代に開墾されるまで湿地であったとみられ、これらの時代の遺跡はおもに自然堤防上や丘陵上に立地する。古墳時代を対象とした、近隣の丘陵地や自然堤防上におけるおもな発掘調査では、新田柵跡で古墳時代前期の溝跡（円形周溝）と土坑（田尻町教育委員会　2001）、金鋳神遺跡で同じく前期の竪穴住居跡（大崎市教育委員会　2016a）、団子山

遺跡で古墳時代中期の溝跡や土坑などを検出している（宮城県教育委員会　2018）。また、大崎市六月坂遺跡では7世紀中葉から8世紀前半の横穴墓群（宮城県多賀城跡調査研究所　2008）、同市日向前横穴墓群で多賀城創建以前の横穴墓を検出した（宮城県教育委員会　1981b）。さらに、同市小野横穴墓群では、8地点に80基以上の横穴墓と円墳1基が存在するが、複数の地点での発掘調査により7世紀から8世紀前葉にかけて造営され、9世紀代まで追葬されたことが判明している（宮城県教育委員会　1983b、高橋　2006）。

北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡では古代の遺構は発見されていないが、発掘調査では奈良・平安時代の灰釉陶器や須恵器、土師器、瓦が少量出土している。これらの遺物出土地点の東側丘陵上には、『続日本紀』天平9年（737）条に記載のある「新田柵」に推定されている新田柵跡があり、これらの遺物は当該遺跡との関連性が大きいものとみられる。新田柵跡では、各種公共事業や国庫補助事業に伴う発掘調査が20年以上にわたって行われており、大型の掘立柱建物跡や門跡、材木塀跡、築地･土塁状遺構など、おもに8世紀頃の遺構群が検出され、その構成や配置が明らかとなってきている（大崎市教育委員会　2012など）。

また、新田柵跡南側の自然堤防上には団子山西遺跡、新田柵跡の位置する丘陵の南東端部とその東側の自然堤防上にはお椀子山遺跡が立地する。団子山西遺跡ではこれまでの発掘調査で、新田柵に直線的に延びる南北道路跡と、これにL字状に交差する東西道路跡、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、材木塀跡、溝跡などを検出している（宮城県教育委員会　2018・2020）。これらの遺構群はおもに8世紀後半から9世紀前半に営まれるが、特に9世紀前半には道路の方向にあわせた建物群の造営が行われるなど、道路と建物が一体となって営まれた状況が見られる。お椀子山遺跡では、掘立柱建物跡や柱列跡、溝跡などが検出され、8世紀代に外郭施設外側に官衙的空間が広がる可能性が指摘されている（大崎市教育委員会　2019）。

さらに、新田柵跡から北に延びる丘陵上には大崎市天狗堂遺跡があり、丘陵斜面で奈良時代を中心とした竪穴住居跡が多数検出された（田尻町教育委員会　1978）。天狗堂遺跡以外にも新田柵跡北辺の外郭施設の北側では丘陵上で竪穴住居跡が点在するように発見されている（宮城県教育委員会1991、 田尻町教育委員会　1998）。

以上の遺跡群は北小松遺跡の位置する丘陵とその周辺の自然堤防上に近接して位置しており、それぞれ高い関連性を総合的に検討することで、8世紀から9世紀前半を中心とした当該地域の様相がより明らかとなることであろう。

第2章　調査に至る経緯

北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡が位置する旧田尻町西部（田尻西部地区）では大規模なほ場整備事業計画が示され、これを受けて、宮城県古川産業振興事務所（現・北部地方振興事務所）、江合川沿岸土地改良区、宮城県教育委員会、田尻町教育委員会（現・大崎市教育委員会）の四者で、計画地内にある埋蔵文化財の取扱いについて協議を行い、この結果、遺跡とのかかわりのある地域については、工事着手前に発掘調査を行うこととなった。平成12年11月21日付けで古川産業振興事務所長から文化財保護法第57条第3項に基づく発掘通知があり（回答通知：平成12年12月7日付け文第3-98号）、当該地区のほ場整備事業に伴う工事が開始されることとなったため、平成13年度から田尻西部地区の発掘調査を開始した。

平成13年度から15年度は、田尻川右岸の神明遺跡（現･団子山西遺跡）とその周辺地域を対象に、田尻町教育委員会により試掘確認調査および記録保存調査が行われた。平成16年度および17年度は、田尻川左岸に位置する現在の団子山西遺跡、諏訪遺跡、北小松遺跡の範囲内および隣接地を対象に、遺跡の範囲や遺構面の深度確認を目的として、田尻町教育委員会（平成16・17年度）と宮城県教育委員会（平成16年度）がそれぞれ試掘確認調査を実施した。これらの発掘調査のうち、本報告にかかわる諏訪遺跡と北小松遺跡の調査について以下に述べる。

諏訪遺跡では、田尻町教育委員会により平成16年度に試掘確認調査が行われた。この調査では、遺跡の立地する丘陵から東に低く延びる丘陵の先端部で、縄文時代の遺物包含層や古代の可能性のある柱穴や溝跡、土坑などが検出された（車田　2020）。

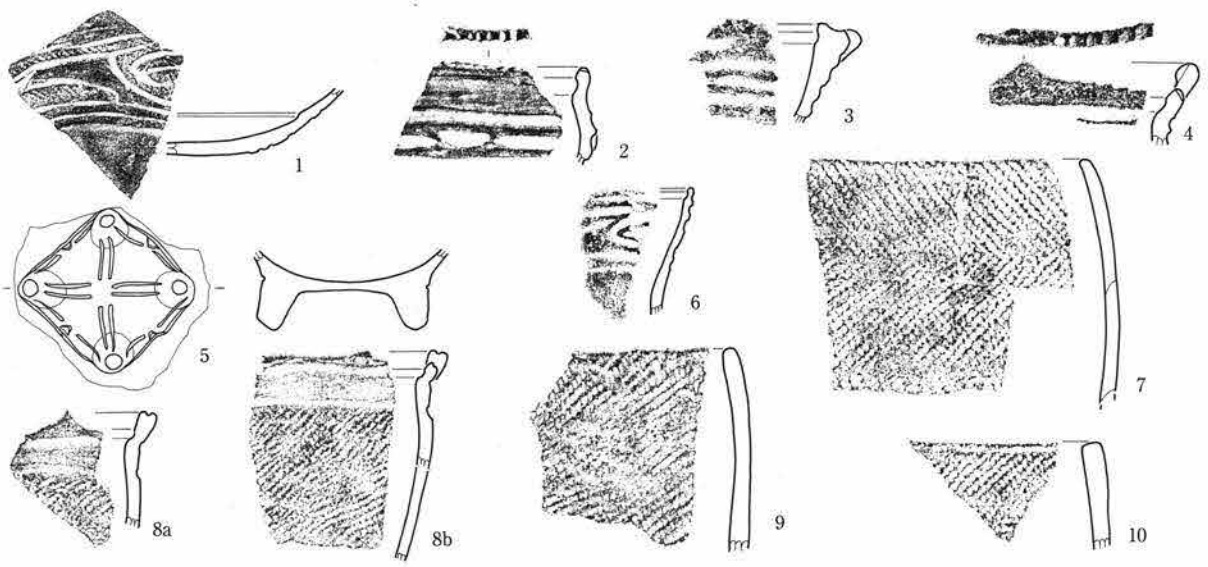
北小松遺跡（新田柵跡）では、宮城県教育委員会および田尻町教育委員会がそれぞれ試掘確認調査を実施した。宮城県教育委員会を主体とする発掘調査は平成16年度に行い、遺跡標柱付近で、過去の開田工事において抜歯人骨や淡水産貝類が出土したとされているところの微高地およびその周辺（平成21年度発掘調査区付近）が調査の対象となった。この地点は、北小松遺跡の中心部として想定されていた地点である。調査の結果、西へ延びる丘陵先端部に接続する微高地の南北で縄文時代晩期を主体とする遺物包含層を検出し､縄文時代晩期中葉から弥生時代前期の土器が出土した（第4･5図）。なかでも縄文時代晩期後葉から末葉（大洞A～A'式）のものが大半を占める。遺物の出土量は平箱1箱程度であるが、土器の残存の程度や、調査面積あたりの遺物量を勘案すると、包含される遺物量は膨大なものと推定された。また、これらに囲まれた微高地上には集落が営まれていた可能性を指摘している（宮城県教育委員会　2005）。田尻町教育委員会を主体とする発掘調査は平成16・17年度に行われ、遺跡の立地する丘陵上や丘陵裾部を中心に、大きく6地点で調査が行われた。これらの調査の結果、丘陵裾部で縄文時代晩期の遺物包含層が2地点で検出され、縄文土器や土偶（第6図）などが出土した。さらに、古代の遺構や遺物は5地点で検出された（車田　2020）。

以上の調査結果から、事業予定地周辺の丘陵上には集落が点在して営まれ、これらの丘陵裾部には遺物包含層が形成されることが想定された。これを受けて当該地域では、確認調査で遺構が検出された箇所は、掘削を伴う工事を極力回避するなど、遺跡への影響を少なくするように調査成果を反映さ

① 10トレンチ出土遺物　　1～5：壷　6～10：浅鉢　11～13：鉢　14～20：高坏　21～28：深鉢

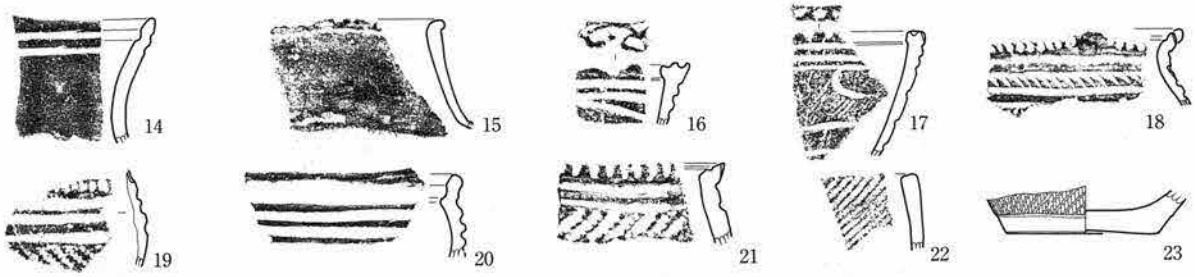
② 11トレンチ出土遺物　　29：壷　30：高坏　31：深鉢　32：耳飾

第4図　北小松遺跡試掘確認調査（平成16年度）　出土遺物（1）　（宮城県教育委員会　2005）

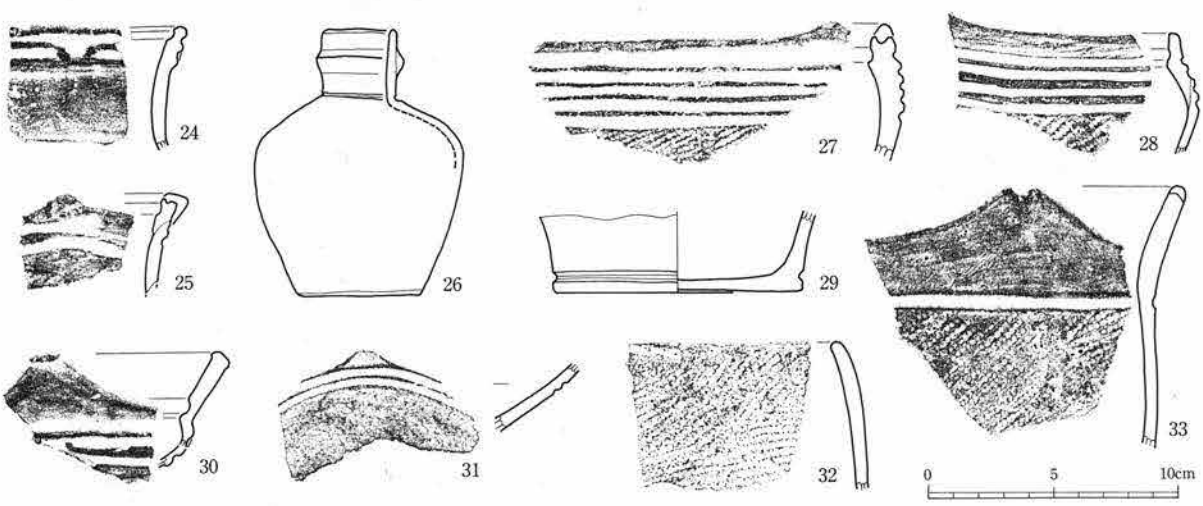


① 12トレンチ出土遺物　　1～4：浅鉢　5：四足土器　6：鉢　7～10：深鉢

② 14トレンチ出土遺物　　11～13：浅鉢

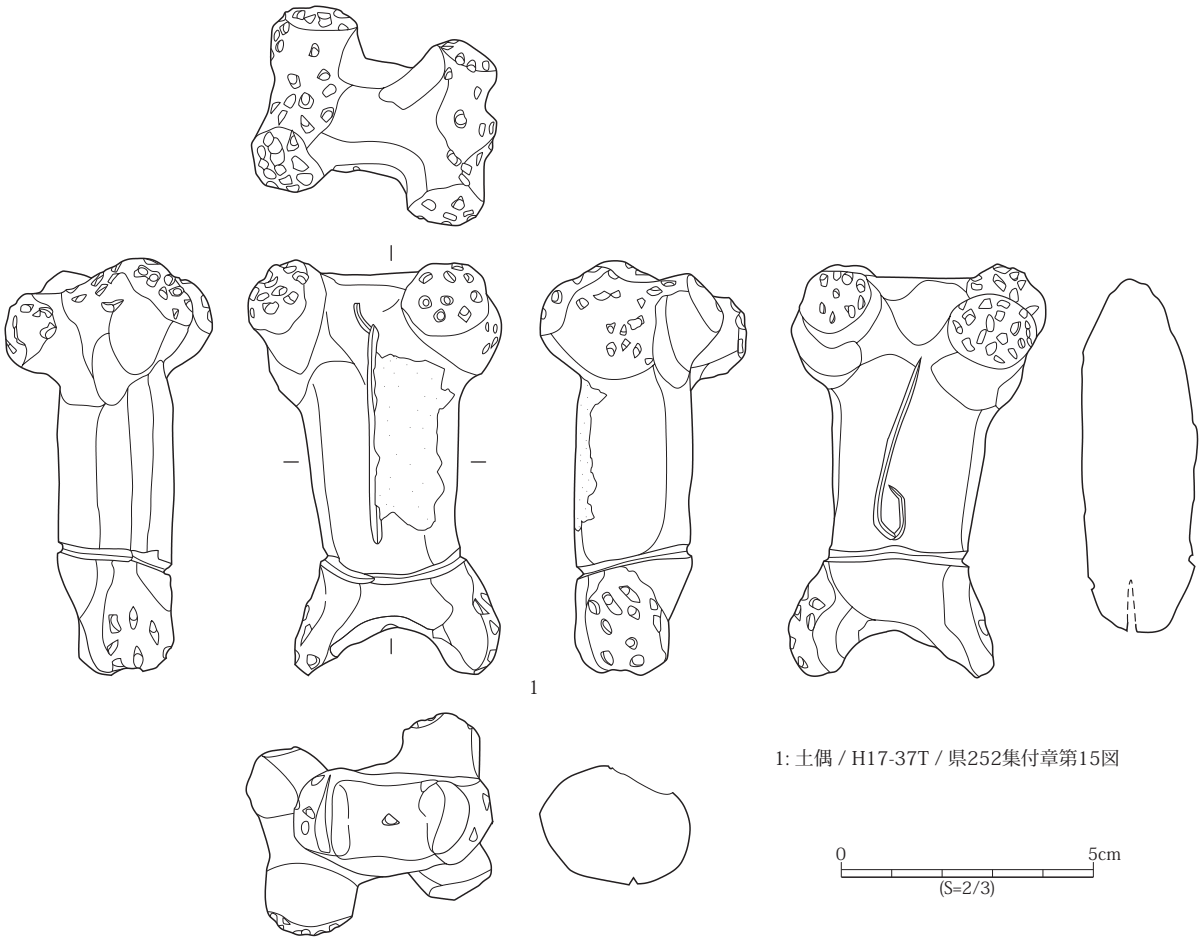


③ 15トレンチ出土遺物　　14～15：壷　16～20：浅鉢　21～23：深鉢



④ 16トレンチ出土遺物　　24～26：壷　27～28：浅鉢　29：鉢　30～31：高坏　32～33：深鉢

第5図　北小松遺跡試掘確認調査（平成16年度）　出土遺物（2）　（宮城県教育委員会　2005）



第6図　北小松遺跡試掘確認調査（平成17年度）　出土遺物　（車田　2020）

せた基本設計がなされた。その後、この基本設計を受けた協議を経て、平成 19 年度から宮城県教育委員会を主体として本発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、事業区域西側の愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡の範囲内および隣接地から着手し、その後、東側の北小松遺跡、南側の団子山西遺跡へと続く計画であった。当初は発掘調査（発掘作業）の完了時期を平成 24 年度としていたが、おおむね 3 年間延長されるとともに、設計変更や追加工事等もあり、大規模な発掘調査は平成 29 年度まで続くこととなった。

第３章　調査の方法と経過

第１節　調査の方法

1. 発掘作業

ほ場整備事業が行われる田尻西部地区のうち、田尻川左岸地域における本発掘調査は平成 19 年度から平成 29 年度にかけて行われ、宮城県教育委員会を調査主体とし、宮城県教育庁文化財保護課（現・文化財課）が担当した。本報告にかかわる、縄文時代晩期を主体とする遺跡である北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡の 4 遺跡の調査は、平成 19 年度から平成 22 年度にかけて実施した。調査では、上記 4 遺跡の範囲内および隣接する事業地（約 683,200㎡）のうち、コンクリート製の構造物を敷設する水路予定地が記録保存調査、パイプライン埋設予定地（掘削深度の平均値約 1m）および田面部で高さ調整のために削平される範囲が、掘削深度までの記録保存調査、未舗装あるいは簡易舗装の農道予定地および、構造物を敷設しない水路（土水路）が、遺跡の内容把握のための確認調査の対象となった。また、農道および土水路予定地内で、コンクリート製の構造物が敷設される範囲は記録保存調査、土水路の掘削が遺構検出面に到達する範囲は掘削深度までの記録保存調査の対象としている。

(1) 調査の方針と調査地の選定

平成 16 年度から 17 年度の試掘確認調査では、諏訪遺跡や北小松遺跡の範囲内や隣接地で縄文時代晩期を主体とする遺物包含層を複数の地点で検出し、また、試掘確認調査を実施していない地点でも、隣接する丘陵上には周知の遺跡があることから、事業区域全域が本発掘調査の対象となった。発掘調査では、事業区域内における縄文時代の遺物包含層などの遺構の検出やその分布範囲、遺物の包含状況やそれらの時期等を把握することを調査の主たる方針とした。また、事業区域の東側丘陵上には古代の城柵である新田柵跡が立地しており、これに関連する遺構・遺物の確認も目的の一つとなった。

ほ場整備事業に伴う発掘調査では、個別の工事の内容により調査基準が異なるために、一つの事業区域内で発掘原因（記録保存または確認）が複合する。本調査においても例外なく、上記の基準により調査を実施することとした。ただし、事業面積が広大であり、かつ試掘確認調査で遺構・遺物が多く検出される地点が確認されるなど、ほ場整備事業により遺跡に大きな影響が及ぶことが想定された。このため、発掘調査対象地の多くを占める水路または農道予定地内の調査では、遺跡への影響が大きくなる場合には、事業者に対して工事の設計変更を適宜求めながら発掘調査を進めた。また、発掘面積が広大となる田面部分については、原則として盛土等により遺構面を保護することで、発掘調査は極力回避されることとなった。

発掘調査の進捗とともに、丘陵裾部では遺物包含層や遺物包含層相当層（Ⅵ層）が広がり、低地部では大規模洪水堆積層（Ⅴ層）や湿地性の堆積層（Ⅱ～Ⅳ層）が広がることがわかってきた。また、現在の微高地には低丘陵が延び、その丘陵上や裾部に遺構が形成されることも判明した。さらに、南に位置する団子山西遺跡の試掘確認調査では自然堤防上で古代や中世の遺構が形成されたことから、

写真1　ボーリング調査風景（D区）

丘陵裾部や微高地周辺、自然堤防上では、調査区を多く設定し、低地部では、丘陵裾部等からの遺構の分布の延びが想定される地点以外は、調査区の設定を必要最小限のものとした。

ただし、事業地内の水路および農道は丘陵裾部をめぐり、低地部にも縦横につくられる。これらの調査面積は膨大なものとなることから、上記基準のみによる調査区の設定では作業量もまた膨大なものとなることが想定された。このため、発掘調査が進み基本層の堆積状況の推定が可能になると、調査開始前に調査対象地内全域でハンドオーガーによるボーリング調査を実施し、遺物包含層等の分布やその広がり、および検出深度の確認を行うこととした[(註3)]。これにより、全体の作業量の把握が可能となり、また、調査区の設定において、試掘確認調査の結果や周辺地形による判断に加えて、ボーリング調査の結果も反映されたことで、事業に予想された遺物包含層の分布等のデータを基に効率よく調査区を設定することが可能となった。

(2) 調査の方法

発掘調査では、遺構確認面までをバックホウで掘削し、おおむね古代以降の遺構検出作業を大規模洪水による水成堆積層（Ⅴ層）上面、縄文時代から弥生時代前期の遺構検出作業を洪水層直下の黒色粘土層（Ⅵ層）以下で実施した。丘陵裾部や微高地では、縄文時代晩期を主体とする遺物包含層を各地点で検出し、これらの地点では、層の分布や堆積状況、遺構・遺物の分布状況を確認している。遺構や遺物包含層は、記録保存調査対象の発掘調査区では原則としてすべて精査し、確認調査対象の調査区では必要に応じて一部を掘り下げて内容を確認することとした。また、Ⅵ層が深い位置にある低地部においても遺物包含層の有無やⅥ層の分布状況を把握するため、すべての調査区を対象に、人力やバックホウによる掘削とボーリング調査を適宜実施し、遺物の確認およびⅥ層の深度や堆積状況を記録した。

遺構等の記録では、ほ場整備事業に伴い設置した２級基準点を測量原点とし、トータルステーションを用いた測量作業を行った。２級基準点の国家座標（世界測地系第Ⅹ系）は以下のとおりである。

基Ⅱ-1: X=-152,982.635　Y=15,149.952　標高 : 19.604 m
基Ⅱ-2: X=-153,371.431　Y=14,056.635　標高 : 17.997 m
基Ⅱ-3: X=-153,194.765　Y=14,578.867　標高 : 17.045 m
基Ⅱ-4: X=-153,411.328　Y=15,010.645　標高 : 17.798 m
基Ⅱ-5: X=-153,509.643　Y=15,399.344　標高 : 20.006 m
基Ⅱ-6: X=-153,778.494　Y=14,180.926　標高 : 18.157 m
基Ⅱ-7: X=-153,694.410　Y=14,606.362　標高 : 18.507 m
基Ⅱ-8: X=-153,823.441　Y=15,040.974　標高 : 18.328 m

測量した遺構等の図化作業は、福井コンピュータ社製の測量計算 CAD システム「BLUETREND Field com」および CUBIC 社製の遺構実測支援システム「遺構くん Cubic」を使用した。後に、前者の測量・図化データは、後者で運用可能なデータ形式に変換している。遺構の一部は縮尺 1/2 ～ 1/10 で実測図を作成し、断面図は縮尺 1/2 ～ 1/20 で実測した。なお、調査区の平面図は遺構・遺物の有無、発掘原因（記録保存または確認）にかかわらず、すべての調査区を同じ精度で記録した。調査区壁の断面図は、Ⅵ層から縄文・弥生時代の遺構・遺物が検出された地点や、古代の遺物がある程度まとまって検出した地点について、原則 2 面を実測することとし、必要に応じて土壌サンプルの採取も行った。一方で、遺構･遺物の検出がほとんどなかった調査区については、作業効率の観点から、各調査区 1 箇所程度の柱状図作成のみとしている。

遺物の出土状況の記録は、出土量の多い地点では、発掘調査区をさらに小地区やグリッドに細分して記録した。また、大型のものや残りの良いものについては、トータルステーションを用いて出土位置の三次元座標を記録するとともに、個別の出土状況を写真により記録している。なお、遺物の出土量が特に多い調査区については、遺構堆積土や遺物集中地点など一定の範囲の土壌をすべて回収し、水洗篩（4mm、2mm、1mm 等）を用いて微細遺物を抽出した。

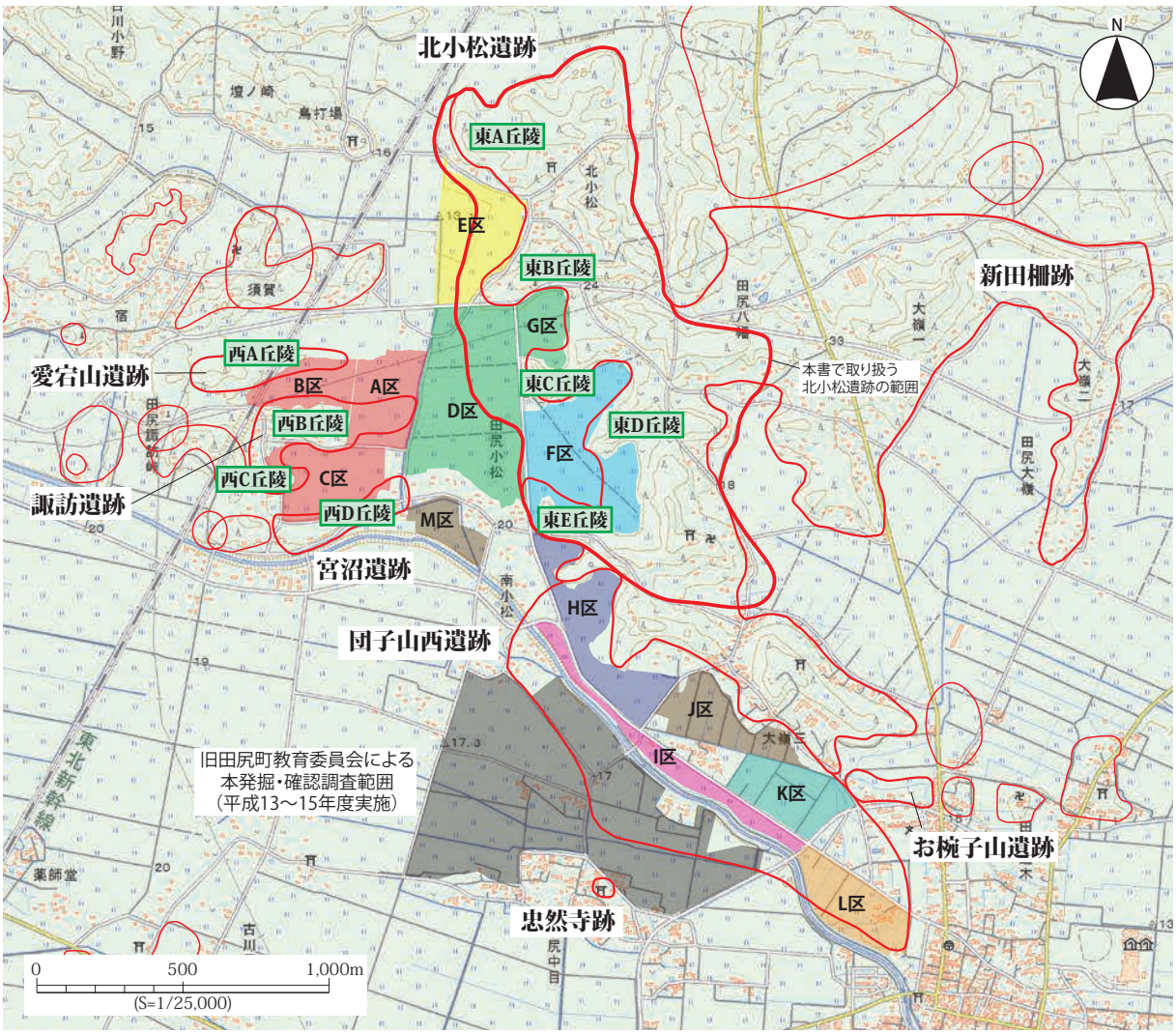
遺構等の写真撮影は､デジタル一眼レフカメラ（撮像素子サイズ : 23.6 × 15.8mm（APS-C サイズ）、有効画素数：12.9 メガピクセル）を用い（記録形式 JPEG)、重要度が高いものについては RAW 形式と JPEG 形式の同時記録（TIFF 形式へ変換した画像もあわせて保存）に加えて､6 × 7cm 判カラーリバーサルおよびモノクロフィルムを併用した。また、空中写真撮影を日本特殊撮影株式会社へ委託し、6 × 7cm 判カラーリバーサルフィルム、35mm 判カラーリバーサルフィルム、フルサイズデジタル一眼レフカメラ（RAW+JPEG 同時記録)、デジタルビデオカメラ（ハイビジョン記録）による撮影を行った。

(3) 調査の経過

平成 19 年度からの発掘調査では、事業予定地の北西部に位置する愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡（調査における地区名：A ～ C 区と D 区の一部）から調査を開始し、その後、北小松遺跡（D ～ F 区)、団子山西遺跡（H 区～ L 区)、宮沼遺跡の南側（M 区）の順に調査を進めることとなった（第 7 図)。発掘調査における地区（A ～ M 区）は、ほ場整備事業区域を現道や調査年度により便宜的に区分している。これらのうち、本書で取り扱う遺跡は、愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡・北小松遺跡の 4 遺跡（A ～ F 区）である。以下において、調査年度別に、調査の経過について述べる。

①平成 19 年度

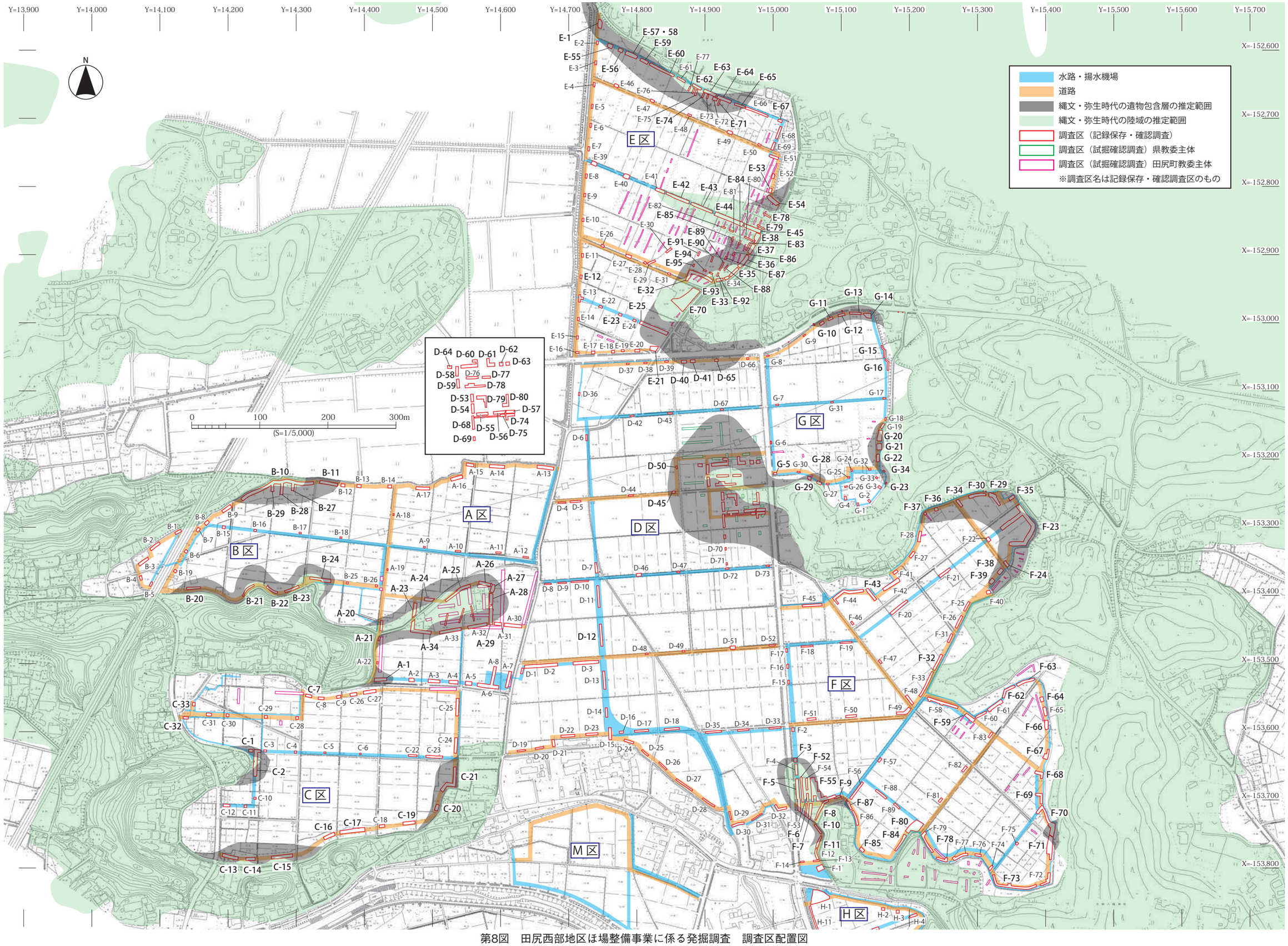
発掘作業は、5 月 21 日から 11 月 2 日まで実施した。発掘調査の対象となった地区は A 区、B 区、C 区および D 区の一部である。調査は A 区南部から着手し､B 区､C 区､D 区の順に調査する計画であった。なお、試掘確認調査の結果から縄文・弥生時代の遺構・遺物が出土することが判明していた A 区の微高地周辺は、現地説明会の開催を考慮して、調査期間の後半に実施することとした。



調査年度	発掘原因	遺　跡　名	調　査　地　点	調査面積	調査主体	報　告　書
平成 13 年度	試掘確認	団子山西遺跡	田尻川右岸	1,363㎡	田尻町教育委員会	宮城県教育委員会 2020（県 252 集）
平成 14 年度	試掘確認	団子山西遺跡、忠然寺跡	田尻川右岸	6,050㎡	田尻町教育委員会	
平成 15 年度	記録保存 試掘確認	団子山西遺跡	田尻川右岸	7,788㎡	田尻町教育委員会	
平成 16 年度	試掘確認	北小松遺跡	D 区	670㎡	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 2005（県 202 集）
	試掘確認	諏訪遺跡、北小松遺跡、団子山西遺跡	A 区、B 区、C 区、F 区、H 区、I 区、J 区、K 区	5,745㎡	田尻町教育委員会	宮城県教育委員会 2020（県 252 集）
平成 17 年度	試掘確認	北小松遺跡	E 区、F 区、G 区	1,655㎡	田尻町教育委員会	
平成 19 年度	記録保存 確認	愛宕山遺跡、諏訪遺跡、宮沼遺跡、北小松遺跡	A 区（1 ～ 34 区）、B 区（1 ～ 29 区）、C 区（1 ～ 33 区）、D 区（1 ～ 35 区）	7,961㎡	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 2007（県 216 集）、宮城県教育委員会 2010（県 223 集）
平成 20 年度	記録保存 確認	北小松遺跡	D 区（36 ～ 52 区）、E 区（1 ～ 95 区）、F 区（1 ～ 14 区）	5,472㎡	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 2011（県 226 集）
平成 21 年度	記録保存 確認	北小松遺跡	D 区（53 ～ 80 区）、F 区（15 ～ 17 区）、G 区（1 ～ 34 区）	2,170㎡	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 2014（県 234 集）
平成 22 年度	記録保存 確認	北小松遺跡	F 区（18 ～ 89 区）	6,412㎡	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 2021（県 254 集）
	記録保存 試掘確認	団子山西遺跡	H 区（1 ～ 10 区、28 ～ 30 区、7 ～ 24T、28 ～ 34T）	2,830㎡	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 2018（県 248 集）
平成 23 年度	記録保存 確認	団子山西遺跡	H 区（11 ～ 27 区）、I 区（1 ～ 5 区）	8,082㎡	宮城県教育委員会	
	試掘確認	団子山西遺跡	J 区（1 ～ 36T）	2,553㎡	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 2020（県 252 集）
平成 24 年度	記録保存 確認	団子山西遺跡	I 区（6 ～ 19 区）、L 区（1 ～ 15 区）	9,366㎡	宮城県教育委員会	宮城県教育委員会 2018（県 248 集）
平成 25 年度	記録保存 確認	団子山西遺跡	L 区（16・17 区）	196㎡	宮城県教育委員会	
			J 区（1 ～ 24 区）	3,324㎡		宮城県教育委員会 2020（県 252 集）
平成 26 年度	記録保存 試掘確認	団子山西遺跡、宮沼遺跡	J 区（25 ～ 36 区）、K 区（1 ～ 4 区）、M 区（1 ～ 25T）	3,923㎡	宮城県教育委員会	
平成 27 年度	記録保存 確認	団子山西遺跡	K 区（5 ～ 15 区）	3,819㎡	宮城県教育委員会	
平成 29 年度	記録保存	団子山西遺跡	K 区（5 区）	430㎡	宮城県教育委員会	

※上記のほかに、付帯工事や関連事業に係る発掘調査および工事立会を随時実施している。

第7図　田尻西部地区ほ場整備事業に係る発掘調査



第8図　田尻西部地区ほ場整備事業に係る発掘調査　調査区配置図

A 区の調査は 5 月 23 日に着手し、先行工事が予定されていた A-1 区から精査を開始した。当初は遺構確認面を、オリーブ灰色を呈する粘土・シルト・砂層からなる水成堆積層（Ⅴ層）上面とし、重機による掘削後にこの面で遺構検出を行った。この作業では遺構・遺物が検出されなかったため、続けて下層の調査に移行した。本調査の前に実施した試掘確認調査では、別地点で、この水成堆積層の下位に縄文時代の遺物包含層を確認していたことから、当該地点においても遺物包含層が堆積している可能性があるものと判断し、丘陵に近い調査区北西隅を人力により掘削して下層の確認を行った。その結果、地表下約 1.8m のところで黒色粘土層（Ⅵ層）の上面を検出し、さらに縄文土器の出土も確認した。最初に出土した土器の破片は大きく、摩滅もほとんど見られないことから、当該地点においても遺物包含層が存在する可能性が大きいと判断し、遺物包含層の検出および精査を目的として下層（Ⅵ層）の調査に本格的に移行することとなった。下層の調査では、Ⅵ層の上位に厚く堆積するⅤ層を重機により掘り下げ、Ⅵ層上面を検出した後に精査を行い、隣接する丘陵の傾斜に沿って遺物包含層の広がりを確認した。最初に着手した A-1 区は記録保存調査の対象であったために、遺物の出土が希薄になるまで精査を続けた。

なお、A-1 区で行った調査方法は、その後の田尻西部地区の本発掘調査における基本的な方法として、多くの地点において同様の方法で発掘調査を行うこととなった。また、Ⅵ層の検出深度を事前に把握することで作業効率の向上を図ることを目的として、調査対象地内でハンドオーガーを用いたボーリング調査を適宜実施し、ここで得られたデータを基に調査区の位置や掘削範囲およびその深度を決定することとした。

その後、先行工事の箇所や作物の収穫時期などを考慮して、おおよそ A 区→ B 区→ C 区→ D 区の順に調査を進めた。B 区の調査は 6 月 8 日に着手した。愛宕山遺跡の位置する丘陵南側に隣接する B-10 区と B-11 区で遺物包含層を検出し、縄文時代晩期を主体とする遺物が多く出土した。また、B-10 区では土器を一括で廃棄した土坑も検出している。さらに、諏訪遺跡の位置する丘陵北側に隣接する B-20・21・22・23・24 区においても遺物包含層を検出した。

C 区の調査は 6 月 27 日に着手し、諏訪遺跡の位置する南側丘陵の東端部の C-1・2 区で遺物包含層を検出している。また、宮沼遺跡の位置する丘陵北側に隣接する C-13・14・15 区と、C-20・21 区の 2 箇所で遺物包含層を検出した。これらの調査区以外でもⅥ層から縄文時代の遺物が出土した地点があったが、いずれも狭い範囲でごくわずかな出土にとどまった。

C 区の調査完了後の 8 月 20 日からは A 区の調査を再開し、A 区中央部の微高地の周囲で遺物包含層を広範囲に検出した。また、A-20 区や A-23 区で諏訪遺跡の位置する丘陵の延びを確認し、この微高地がこの丘陵の東端部に当たることを確認した。これらの周辺では、遺物包含層から縄文時代晩期から弥生時代前期の遺物が多量に出土したほか、A-25 区でニワトコの集積、A-28 区でオニグルミ根張り、A-29 区で竪穴状遺構 1 基と大型の土坑などを検出している。

これらの調査と並行して、9 月 14 日からは、今後予想される付帯工事等への対応のためのデータ収集を目的として、田面部への遺構の広がりが想定される B-10 区の南側で確認調査を実施した（B-27・28・29 区）。

A区の調査成果がある程度判明した10月4日には報道記者発表を行い、10月6日には現地説明会を開催し約65名の参加があった。また、10月2日には花粉分析・珪藻分析用の試料採取を古代の森研究舎に委託して実施した。

その後、10月10日からは、D区の調査に着手した。D区は北東部の一部を除いて大部分が丘陵から離れたところにあるためにⅥ層の堆積深度が深く、また、検出できた範囲も限られ、遺物の出土も見られなかった。ほかの時代の遺構では、D-30区とD-31区で古代の河川跡を検出している。

平成19年度の発掘作業は11月2日に終了した。発掘調査区の総数は131箇所で、調査面積は7,961㎡（記録保存調査：2,469㎡、確認調査：5,492㎡）である。

②平成20年度

発掘作業は、5月9日から12月10日まで実施した。発掘調査の対象となった地区はE区である。また、E区の調査がおおむね完了次第、D区やF区の一部もあわせて調査する計画であった。

E区の調査は5月14日に着手した。北西部のE-1区から開始し、丘陵に隣接する調査区で縄文時代の遺物包含層を検出した。前年度に検出した遺物包含層は晩期を主体とするもののみであったが、E-64区周辺では早期から前期、E-1区では中期から後期、それ以外では晩期を主体とする遺物包含層を検出し、多様な時期の遺物包含層が形成されていることを確認した。最も多く出土した遺物は晩期のものであり、特にE-25区では、遺物収納箱（L54 × W34 × H15cm）換算で約52箱の遺物が出土し、調査対象地西側の各遺跡と比べて多く出土している。遺物包含層以外では、E-25区で集石遺構1基やヤマグワ根張り、E-32区で土坑9基を検出した。

7月8日からはF区の調査を一部で開始し、E区と並行してF-1区を調査した。また、9月29日からはD区の調査に着手し、E区と並行して調査を行い、遺物包含層をD-40・41区と、D-45・50区の2箇所で検出している。

E区の調査成果がある程度判明した10月11日には現地説明会を開催し、約90名の参加があった。また、10月16日には花粉分析・珪藻分析用の試料採取を古代の森研究舎に委託して実施した。

E区およびD区（一部）の調査が完了した11月5日にはF区の調査を再開し、遺跡南端の丘陵裾部で縄文時代の遺物包含層を検出した。この地点で検出した遺物包含層は、縄文時代早期から前期が主体となる。また、F-3区とF-4区でこの丘陵の北西方向への延びを確認している。

発掘調査は、これまで水路および道路部分をおもな対象として実施してきたが、平成20年度は田面部の造成工事による掘削が遺物包含層等に到達する可能性が生じてきたことから、E区とF区のそれぞれ一部で、田面部を対象とした確認調査を実施することとなった。これらの調査は11月18日に着手し、遺物包含層の範囲および標高値等を記録することをおもな目的とした。実際の工事ではこれらの調査結果をもとに、事業者側に対して、遺構に影響がない形での設計変更等を求めている。

平成20年度の発掘調査は12月10日までにすべての調査を終了した。発掘調査区の総数は126箇所で、調査面積は5,472㎡（記録保存調査：2,633㎡、確認調査：2,839㎡）である。

③平成 21 年度

発掘作業は、5 月 11 日から 12 月 14 日までの期間および平成 22 年 2 月 1 日と 2 日に実施した。発掘調査の対象となった地区はＤ区の残りとＧ区であり、遺構・遺物の出土量があまり多くないとみられたＧ区から調査に着手し、続いて、過去の開田工事で抜歯人骨や淡水産貝類が発見され、試掘確認調査では、膨大な量の遺物の出土が予想される遺物包含層が確認された、北小松遺跡の中心部とみられる地点（Ｄ区）を調査する計画であった。

Ｇ区の調査は 5 月 11 日に着手し、北側や東側、南側の丘陵裾部で 3 箇所の遺物包含層などを検出した。遺物は縄文時代晩期が主体となる。遺物は、北側の丘陵裾部では少ないものの、遺跡の中心部（Ｄ区）に延びる南側の丘陵裾部では多く出土している。

Ｇ区の調査がある程度完了した 6 月 18 日にはＤ区の調査に着手した。Ｄ区ではこれまで低地部を中心に調査を行ってきたが、遺跡の中心部とみられる、遺跡標柱の付近の微高地とその周辺が発掘調査の対象となった。当該地点における微高地は、Ｇ区南側の丘陵がさらに低くなり、西側に延びる低丘陵の頂部と裾部にあたる。この低丘陵の西側部分（南半部）から着手し、低丘陵の南斜面で縄文時代晩期を主体とする遺物包含層を検出し、膨大な量の遺物が出土した。ここでは、土器や石器等のほかに動物遺存体や骨角牙製品、漆製品などの有機質の遺物も多く出土している。7 月 15 日からは低丘陵の南側部分の調査に着手した。南側では、西側部分と同様に膨大な量の遺物を含む遺物包含層を検出したが、これに加えて、集石遺構や人骨の残る土坑墓など多くの遺構を検出した。また、動物遺存体などの有機質の遺物も増加する傾向が見られた。8 月 5 日からは西側部分の北半部の調査に着手し、低丘陵の北斜面でも縄文時代晩期を主体とする遺物包含層を検出するとともに、土器埋設遺構なども検出した。この頃から、遺物包含層の検出範囲が広がるとともに、検出した遺構も増加し、遺構精査にかかる作業量も増大していった。このため、調査員を増員し、複数の調査区での精査を並行して進めていった。

Ｄ区の調査成果がある程度判明した 9 月 3 日には報道記者発表を行い、9 月 5 日には現地説明会を開催し約 210 名の参加があった。

現地説明会後は、低丘陵の北側部分の調査にも着手し、北斜面における遺物包含層の精査に本格的に着手した。特に D-61 区は南北 5m、東西 1.5m の範囲で、遺物包含層を最下層まで精査したこともあり、遺物量は 55 箱に上った。また、10 月 14 日には、この地点のさらに北側の地点（D-65 区）を調査し、遺物包含層 1 箇所を検出した。

Ｄ区の調査が進展するにつれて、人骨を伴う土坑墓や埋葬犬骨、集石遺構などを多く検出するとともに、遺物包含層からは膨大な量の土器や石器に加えて、土製品や石製品、骨角牙製品、漆製品などの希少な遺物も多く出土することが判明した。また、遺物包含層の堆積範囲が広く、一部では 2m 以上の厚さで堆積していることが判明したことから、北小松遺跡の重要性の認識がより一層高まり、これらの遺構について現地での保存を事業者に要望することとなった。これにより、事業者と保存協議を重ねた結果、Ｄ区の遺構や遺物包含層の現地保存が決定し、これを受けて農道およびパイプラインの敷設位置等が変更されることとなった。10 月 28 日からは、変更となった農道やパイプライン予定

地の確認調査を実施した。一方で、水田や畑地等で保護される部分については、遺跡の解明に必要な調査を実施した後に、遺構を保護した上で埋め戻すこととなった。なお、遺構の一部（土坑墓や埋葬犬骨）は切り取って保存している。

発掘調査の方針が現地保存に向けて大きく転換したことにより、D区における遺跡内容の解明を目的として、11月16日から低丘陵上の水田および畑地部分の確認調査に着手した。丘陵上では掘立柱建物跡や土坑などを検出し、このことから、低丘陵上には居住域などが営まれ、その周囲に墓域や遺物包含層が形成されたことを確認した。また、11月25日には文化庁調査官から保存に向けての調査指導を受けた。12月7日からは、発掘調査が完了した調査区から、土嚢や山砂を用いて遺構の保護と調査区の埋め戻しを開始した。12月9日には空中写真撮影を行い、12月14日までにD区の調査を終了した。

その後、田面および水路部分の追加工事や、次年度のほ場整備対象地内における先行工事の必要性が生じたため、平成22年2月1日および2日に、これらの工事予定地を対象に確認調査を実施した。この調査では、G区の南側（G-1～4区）およびF区の東側（F-15～17区）を調査したが、遺構・遺物は検出されなかった。

発掘調査区の総数は64箇所で、調査面積は2,170㎡（本発掘調査:60㎡、確認調査:2,110㎡）である。

④平成22年度

発掘作業は、平成22年4月26日から翌23年2月3日まで実施した。発掘調査の対象となった地区はF区であり、北半部（F-18～51区）から着手し、終了後に南半部（F-52～89区）の調査に移行する計画であった。

F区北半部の調査は4月26日に着手し、5月中旬には北東の湾奥部で東西180m、南北150mの範囲（いずれも推定値）に広がる遺物包含層を検出した。特に最奥部のF-23区では、北東辺の農道予定地（F-23区北・Aグリッド・東）で丘陵の延びを確認し多数のピットや土坑を検出している。また北東辺から南西に方向に延びる水路予定地（A～Gグリッド）では、ピットや土坑のほかに埋葬犬骨5基（6体）を検出するとともに、最大で約1mの厚さの遺物包含層から膨大な量の土器や石器類、シカやイノシシを主体とする動物遺存体が出土することが判明した。このように貴重な遺構・遺物が多数発見されたことから、遺跡のさらなる重要性を鑑み、事業者と保存協議を行うこととなった。この協議の結果、F-23区の取扱いが留保されることとなったため、これ以外の調査区を先行して調査することとした。その結果、8月26日までに、F-23区以外の遺物包含層の調査を終えた。一方で、F-23区については、7月8日の協議で、コンクリート製の水路部分は遺物包含層に到達しない掘削深度の土水路とすること、F-23区南東側の道路幅を縮小すること（5m→4m）、F-23区周辺のパイプラインの敷設を取り止めることとなり、遺物包含層を含む遺構を現地保存することとなった。そのため、F-23区では、検出遺構や遺物包含層の記録と一部精査、出土遺物の記録と取り上げなど、遺跡の解明に必要な調査を実施した後に、土嚢や山砂を用いて慎重に埋め戻した。なお、遺構の一部（埋葬犬骨）は切り取って保存している。これらの作業を含むF-23区の調査と、これと並行して実施した残りのF区北半部の調査は、10月8日までに終了した。

F 区南半部の調査は 8 月 20 日に着手し、調査開始前のボーリング調査でⅥ層を検出した地点を対象に、表土掘削および遺構検出作業を先行して実施した。これらの作業でⅥ層上面まで検出した箇所では、遺構や遺物の量があまり多くなく、F 区北半部の調査終了後に調査することとなったため、南半部の調査を一時中断した。その後、10 月 6 日から調査を再開し、南西部の丘陵裾部（F-55・87 区）と、南東の湾奥部に当たる丘陵裾部の一部（F-70・71 区）で遺物包含層を検出した。また、F-70 区の遺物包含層では、これと重複する沢跡および溝跡を 1 条ずつ検出している。

F-55 区では、水路部分および田面部の工事により掘削が及ぶ範囲（標高 17.7m 以上）を対象に記録保存のための調査を実施した。F-70 区および F-71 区では、道路および土水路部分の確認調査とパイプライン敷設箇所の記録保存調査を行う計画であったが、遺物が多く出土したことから、事業者にパイプラインの敷設箇所変更を要望した。その結果、11 月 26 日の保存協議でパイプライン敷設位置が遺物包含層を回避する計画へと変更となり、当該調査区は確認調査のみとなった。これにより調査期間も短縮され、F 区南半部の調査は 12 月 8 日までに終了した。

12 月 9 日からは、既存の施設部分（水路、農道等）の工事に伴う記録保存調査や確認調査、工事立会を実際の工事に合わせて断続的に実施した。F-29 区の北側では掘立柱建物跡や竪穴状遺構を検出し、F-23 区以外にも居住を伴う遺構群が存在することが判明した。これらの発掘調査や工事立会は、2 月 3 日までにすべて終了した。

なお、F-23 区周辺の遺物包含層の調査成果がある程度判明した 9 月 4 日には現地説明会を開催し、約 150 名の参加があった。また、9 月 1 日に空中写真撮影、9 月 2 日には報道記者発表、9 月 3 日に宮城県議会議員佐々木敏克氏による視察、9 月 8 日には文化庁調査官による視察があり現状保存に当たっての調査指導があった。

平成 22 年度の発掘調査区の総数は 73 箇所で、調査面積は 6,412㎡（記録保存調査：2,101㎡、確認調査：4,311㎡）である。

また、平成 22 年度は、北小松遺跡の発掘調査と並行して、F 区南側（H 区）の丘陵裾部および低地部（団子山西遺跡）の発掘調査を実施した。この区域でも、縄文時代から弥生時代前期の遺物包含層に相当する層（Ⅵ層）を検出したが、縄文土器がわずかに出土したのみで、遺物包含層の形成は確認されなかった。自然堤防や低湿地からなるこの区域以南の地形は、四方を丘陵と自然堤防で囲まれた北小松遺跡周辺の地形（谷底平野）とは異なることから、北小松遺跡の範囲はこれよりも南には広がらないものと判断した。したがって、北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡の本発掘調査は平成 22 年度までに終了し、これ以降の発掘調査対象遺跡は団子山西遺跡となった。

⑤本発掘調査以降の対応

北小松遺跡ほかの本発掘調査は平成 22 年度までに終了したが、田尻西部地区のほ場整備事業に伴う本発掘調査は、平成 22 年 11 月から団子山西遺跡（当時、新田柵跡、団子山西遺跡、神明遺跡の 3 遺跡として調査）が調査の対象となった。この調査は、翌 23 年 3 月に発生した東日本大震災による影響や、発掘調査成果を受けた調査計画および工事の基本設計の変更等もあり、当初の計画より調査

終了時期が延びたものの、平成 29 年度には野外の発掘作業が終了した。

また、北小松遺跡や団子山西遺跡の本発掘調査と並行して、暗渠排水工事や表土入れ換え工事などの付帯工事が行われた。これらの工事については、遺物包含層等の遺構面を保護することを原則として協議を行い、可能な限りにおいて敷設位置や掘削深度を変更することで対応することとした。しかしながら、これらの変更がどうしても不可能な場合は、必要に応じて確認調査や工事立会により対応した。これらの対応は平成 22 年度から断続的に行われた。

これらの付帯工事については、計画が判明した時点で、事前に計画地を対象として、遺物包含層の範囲や地表下深度を確認するために丘陵裾部を中心に広範囲にボーリング調査を実施した。この調査結果と本発掘調査の成果を合わせて、遺物包含層の範囲や深度等を推定した。これをもとに事業者側との協議を継続して行うことにより、工事による掘削範囲や深度を可能な限り減らしたことで、付帯工事に伴う確認調査や工事立会では遺構や遺物の出土は少なく、これらの工事による遺跡への影響はきわめて限定的であった。

2. 整理等作業

整理等作業は、平成 19 年度から発掘作業と並行して着手した。本発掘調査が行われた各年度は、原則として、調査記録の基礎整理を現地で、雨天等による野外作業の中止日等に行い、遺物の水洗作業を多賀城市内の整理室（当時の文化財保護課分室）で行うこととした。11 月から 12 月にかけて野外調査がおおむね終了した後は、整理室で調査記録の基礎整理や遺構の整理、遺物の水洗・注記・登録、土器の接合・抽出等の整理等作業の一切を行った。なお、当該年度で完了しなかった作業は翌年度以降に繰り越して、調査記録の基礎整理および遺構の整理を優先して行い、遺物の整理については調査年度の古いものを優先した。報告書作成作業もまた並行して行ったため、遺物の整理作業は平成 31 年度（令和元年度）まで継続して行った。

報告書作成作業は平成 19 年度の発掘作業終了後に着手した。当初は各年度の調査の内容を簡素にまとめた概要報告書を毎年作成・刊行した後に、正式な発掘調査報告書を作成・刊行する計画であった。しかしながら、調査が進展するにしたがい、遺構･遺物の量が当初の想定よりも膨大なものとなり、また、発掘調査報告書の作成にも膨大な時間がかかることが予想されたことから、調査年度別の発掘調査報告書を発掘作業と並行して作成･刊行することとし、これらの作業を令和 2 年度まで継続して行った。

なお、調査年度別の発掘調査報告書は、それぞれ単年度の調査成果の総括という位置付けである。しかしながら、各年度の発掘調査地点は近接しており、それぞれが関連性の強いものであることから、これらの成果をさらに総括した報告が必要と判断するに至った。この総括に当たっては、田尻西部地区のほ場整備対象区域のなかでも特に重要な成果となった、北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡における縄文時代から弥生時代前期の発掘調査成果を対象とした総括報告書を刊行することとした。この報告書の刊行をもって､田尻西部地区ほ場整備事業に伴う発掘調査のすべてが完了する。なお、各報告書の刊行年度および所収した発掘調査は第 2 表のとおりである。

第2表　田尻西部地区ほ場整備事業に係る発掘調査および報告書刊行の経過

年　度	試掘確認調査等（調査主体）	本発掘調査（宮城県教育委員会）	報告書刊行（所収した発掘調査）
平成 12 年度	発　掘　通　知		
平成 13 年度	①団子山西遺跡（田尻町教育委員会）		
平成 14 年度	②団子山西遺跡・忠然寺跡（田尻町教育委員会）		
平成 15 年度	③団子山西遺跡（田尻町教育委員会）		
平成 16 年度	④諏訪遺跡・北小松遺跡・団子山西遺跡（田尻町教育委員会） ⑤北小松遺跡（宮城県教育委員会）		「北小松遺跡」『壇の越遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 202 集（⑤）
平成 17 年度	⑥北小松遺跡（田尻町教育委員会）		
平成 18 年度			
平成 19 年度		⑦愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡・北小松遺跡	『北小松遺跡ほか　平成 19 年度発掘調査概報』宮城県文化財調査報告書第 216 集（⑦の概要）
平成 20 年度		⑧北小松遺跡	
平成 21 年度		⑨北小松遺跡	『北小松遺跡ほか　田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 19 年度発掘調査報告書』宮城県文化財調査報告書第 223 集（⑦）
平成 22 年度		⑩北小松遺跡 ⑪団子山西遺跡	
平成 23 年度		⑫団子山西遺跡	『北小松遺跡　田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 20 年度発掘調査報告書』宮城県文化財調査報告書第 226 集（⑧）
平成 24 年度		⑬団子山西遺跡	
平成 25 年度		⑭団子山西遺跡	『北小松遺跡　田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 21 年度発掘調査報告書』宮城県文化財調査報告書第 234 集（⑨）
平成 26 年度		⑮団子山西遺跡	
平成 27 年度		⑯団子山西遺跡・宮沼遺跡	
平成 28 年度			
平成 29 年度		⑰団子山西遺跡	
平成 30 年度			『団子山西遺跡Ⅰ　田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 22 ～ 25 年度（H・I・L 区）発掘調査報告書』宮城県文化財調査報告書第 248 集（⑪・⑫の一部・⑬・⑭の一部）
平成 31 年度（令和元年度）			『団子山西遺跡Ⅱ　田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 23・25 ～ 27・29 年度（J・K・M 区）発掘調査報告書』宮城県文化財調査報告書第 252 集（①～④・⑥・⑫の一部・⑭の一部・⑮～⑰）
令和 2 年度			『北小松遺跡　田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 22 年度発掘調査報告書』宮城県文化財調査報告書第 254 集（⑩） 『北小松遺跡ほか　田尻西部地区ほ場整備事業に係る発掘調査総括報告書』宮城県文化財調査報告書第 255 集（④の一部・⑤～⑩）

写真2　平成19年度発掘調査　現地説明会

写真3　平成20年度発掘調査　現地説明会

写真4　平成21年度発掘調査　現地説明会

写真5　平成22年度発掘調査　現地説明会

第４章　周辺の地形と基本層序

第１節　発掘調査対象地周辺の地形

北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡の４遺跡が位置する丘陵は、大崎低地の北縁部に位置する清滝丘陵の南東部に位置し、低く断続的になっているところの一つである。これらの遺跡周辺は、この低丘陵が南に樹枝状に延びる地形となっている。ほ場整備事業に伴う発掘調査では、丘陵上や丘陵裾部に縄文時代から弥生時代前期の遺構や遺物包含層が形成されることが判明した。また、これらの丘陵に囲まれた低地（谷底平野）は、近世まで湖沼や湿地であったとみられる。この低地の中心から見て、西には愛宕山遺跡、諏訪遺跡、宮沼遺跡の位置する丘陵（西丘陵）、東には北小松遺跡の位置する丘陵（東丘陵）があり、それぞれの丘陵から低地の中心に向かって、小丘陵がさらに樹枝状に延びている。低地に延びるこれら小丘陵のうち調査対象地内へ延びているものは、西丘陵では４本、東丘陵では５本ある。西丘陵では北から、西Ａ丘陵、西Ｂ丘陵、西Ｃ丘陵、西Ｄ丘陵、東丘陵では北から、東Ａ丘陵、東Ｂ丘陵、東Ｃ丘陵、東Ｄ丘陵、東Ｅ丘陵とそれぞれ呼称する（第７図）。

平成 19 年度は、Ａ～Ｃ区およびＤ区の一部が調査対象となり、西Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ丘陵の丘陵裾部と西Ｄ丘陵の東に接続する自然堤防、そしてこれらに囲まれた低地部分がこれに該当する。この区域は愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡の範囲内および隣接地である。現況は、標高 16.5 ～ 18.5m のほぼ平坦な地形で、大部分が水田として利用されている。Ａ区の中央部は一部において微高地状の高まりとなっており、発掘調査の結果、西Ｂ丘陵の東端部と判明した。また、田尻川左岸にあるＤ区南側の地形は自然堤防となっており、Ｄ区の南端部はこの一部に含まれる。

平成 20 年度は、Ｅ区およびＤ区とＦ区の一部が調査対象となり、東Ａ・Ｂ・Ｅ丘陵の丘陵裾部および周辺の低地部分がこれに該当する。この区域は北小松遺跡の範囲内および隣接地である。現況は、標高 13.3 ～ 19.2m のほぼ平坦な地形で、大部分が水田として利用されている。Ｅ区東部は平坦な地形であるが、発掘調査の結果、一部で東Ｂ丘陵の延びを確認した。また、Ｆ区の南西部は平坦な微高地状の高まりとなっており、発掘調査の結果、東Ｅ丘陵の延びを確認している。

平成 21 年度は、Ｄ区とＦ区の一部およびＧ区が調査対象となり、東Ｂ・Ｃ丘陵の丘陵裾部およびこれら周辺の低地部分がこれに該当する。この区域は北小松遺跡の範囲内および隣接地である。現況は、標高 16.9 ～ 19.0m のほぼ平坦な地形で、大部分が水田として利用されている。東Ｃ丘陵の先端に当たる部分（Ｄ区）は、現況で標高 18.0 ～ 18.6m の平坦な微高地状の高まりとなっているが、発掘調査の結果、丘陵の延びを確認した。

平成 22 年度は、Ｆ区が調査対象となり、東Ｃ・Ｄ・Ｅ丘陵の丘陵裾部およびこれらに囲まれた低地部分がこれに該当する。この区域は北小松遺跡の範囲内および隣接地である。現況は、標高 17.3 ～ 18.8m のほぼ平坦な地形で、大部分が水田として利用されている。Ｆ区の丘陵隣接地は平坦な地形となっているが、発掘調査の結果、一部で丘陵の延びを確認した。特に、Ｆ区北東部では、小丘陵の先端部を検出している。

第２節　基本層序

ほ場整備事業に伴う、北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡の発掘調査区における基本層序は、以下のように大別される（第 9・10 図）。

第Ⅰ層 : 表土層

第Ⅱ層 : スクモ（泥炭）層。おもに低地部分に分布する。層厚約 0.1 ～ 0.5m。

第Ⅲ層 : 灰白色火山灰層（十和田Ａテフラ、To-a）。おもに低地部分に分布する。層厚約 0.1 ～ 0.4m。

第Ⅳ層 : スクモ（泥炭）層。東Ｄ丘陵南斜面の一部（F-63 区）ではこの上位に灰黄褐色粘土～シルト層が堆積し、古代の遺物を含む。層厚約 0.1 ～ 1.7m。

第Ⅴ層 : オリーブ灰色粘土～砂層。水成堆積層。層中にスクモ層が形成される地点があることから、洪水による水位の上昇が複数回繰り返されたものとみられる（松本　2014）。層厚約 0.1 ～ 4.1m 以上。

第Ⅵ層 : おもに黒色を呈する粘土～砂層。縄文時代から弥生時代前期の遺物包含層はこの層中に形成される。層厚約 0.1 ～ 2.5m。

第Ⅶ層 : おもに黒色や褐灰色を呈する粘土～砂層。Ⅵ層と比べて黒色が薄くなり、砂粒の混入が増加する。無遺物層。

第Ⅷ層 : おもに暗褐色を呈するシルト～砂層。Ⅵ・Ⅶ層とⅨ層の漸移層。

第Ⅸ層 : 黄褐色粘土～砂層

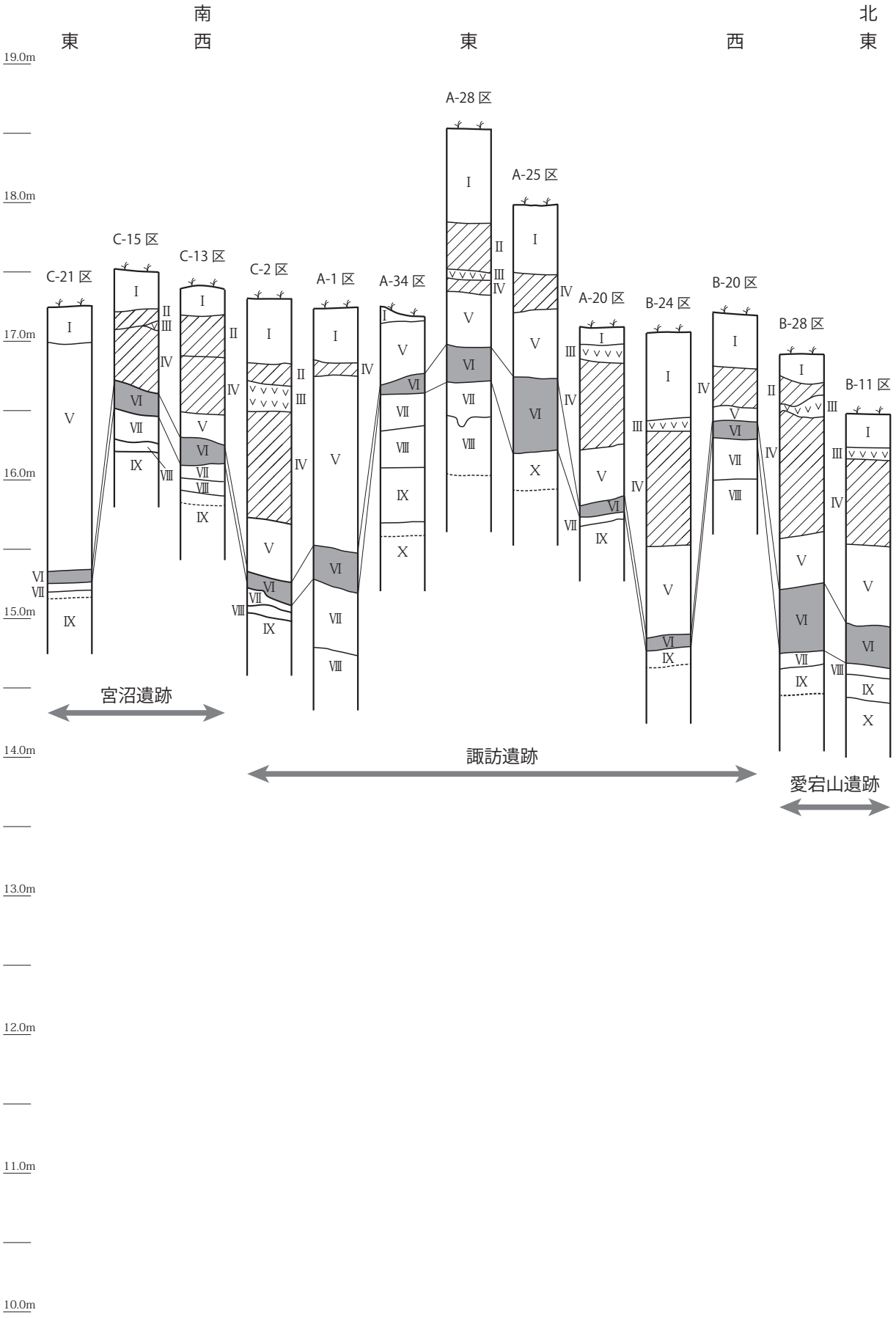
第Ⅹ層 : 基盤の凝灰岩層

第３節　Ⅵ層（遺物包含層）の分布と区分

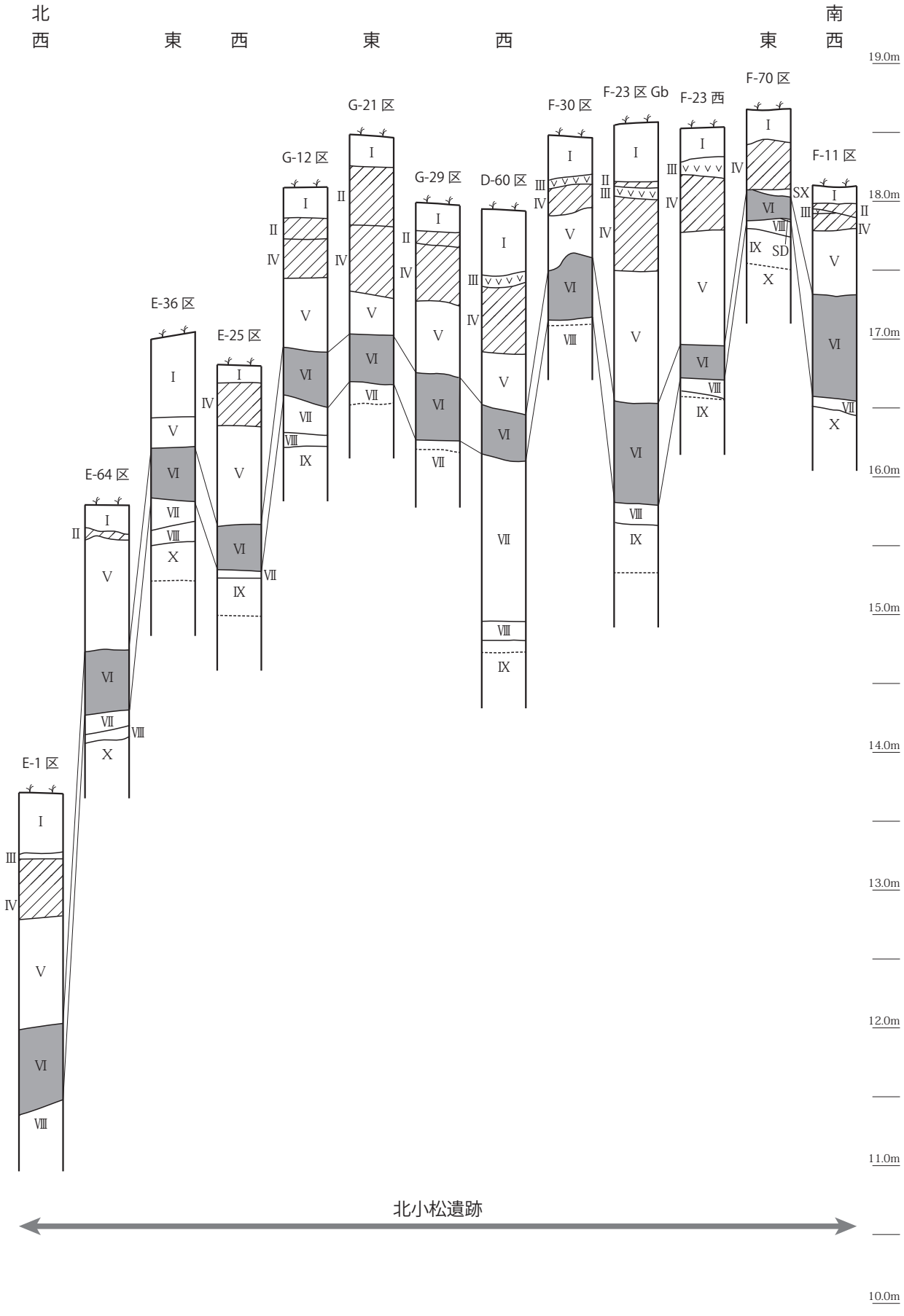
発掘調査対象地は、現況ではほぼ平坦な地形となっている。西丘陵の裾部周辺では、一部で微高地状の高まり（A-25 区や A-28 区など）が残る以外は、地表面の標高差はほとんどなく、南から北へわずかに低くなる地形である。一方、東丘陵の裾部は、西丘陵と比べて標高差が大きく、特に北部に位置するＥ区では南から北へ大きく下がる。実際に水田もまた、北にかけて段状に低くなっている。

現在のほぼ平坦な地形は、弥生時代前期の大規模洪水による大量の土砂の流入（Ⅴ層）と、その後に堆積した湿地性堆積物（Ⅳ～Ⅱ層）により形成されたものである。一方、縄文時代晩期を主体とする遺物包含層が形成されるⅥ層は、現況よりも起伏に富んだ地形であり、隣接する丘陵の地形をおおむね反映したものとなっている。珪藻化石の分析によると、Ⅵ層の堆積環境は、丘陵に近いところでは乾陸化していたところもあるが、斜面部や低地では湿った環境であったとされる（吉川・吉川 2014 ほか）。したがって、弥生時代前期の大規模洪水以前は、現在の低地部分には水域が広がっており、Ⅵ層中に含まれる遺物包含層の形成は、当時の水辺の丘陵裾部にとどまるものとみられる。

Ⅵ層は、おもに黒色を呈する粘土やシルト、砂などからなる層であり、本遺跡周辺の丘陵裾部に発達する。地表下約 0.1 ～ 3.6m、標高約 18.6 ～ 10.1m で検出し、層厚は約 0.1 ～ 2.5m（平成 19 ～ 22 年度調査）ある。この層の一部に縄文時代から弥生時代前期の遺物包含層が形成され、発掘調査の結果、調査対象地内の各遺跡に点在することが判明した（第 8 図）。また、近隣の新田柵跡や団子山西



第9図　北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡の基本層序模式図（1）



第10図　北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡の基本層序模式図（2）

遺跡においても、一部の丘陵裾部で同様の遺物包含層の形成が報告されている（宮城県教育委員会2018・2020、車田　2020）。

縄文時代から弥生時代前期の遺物包含層は、北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡の4遺跡で検出している。本書では、これらについて便宜上、隣接する丘陵名との位置関係（斜面の傾斜方向）により表記する（表記例：西A丘陵南斜面遺物包含層）。また、同一斜面上に形成される場合は、丘陵突端部から順にa、b、cと付番し、前述の表記に加えることとした（表記例：東C丘陵北斜面a包含層）。以上から、上記4遺跡における遺物包含層の表記は以下のとおりとなる。

愛宕山遺跡

西A丘陵南斜面包含層

諏訪遺跡

西B丘陵北斜面a包含層・b包含層　／　西B丘陵南斜面a包含層・b包含層

西C丘陵東端部包含層（※検出範囲が狭いことから、斜面の傾斜方向による分類は行わない）

宮沼遺跡

西D丘陵北斜面a包含層・b包含層

北小松遺跡

東A丘陵南斜面包含層

東B丘陵北斜面a包含層・b包含層　／　東B丘陵南斜面a包含層・b包含層

東C丘陵北斜面a包含層・b包含層・c包含層　／　東C丘陵南斜面a包含層・b包含層

東C・D丘陵間包含層

東D丘陵北斜面包含層

東D・E丘陵間包含層

東E丘陵北斜面包含層　／　東E丘陵南斜面包含層

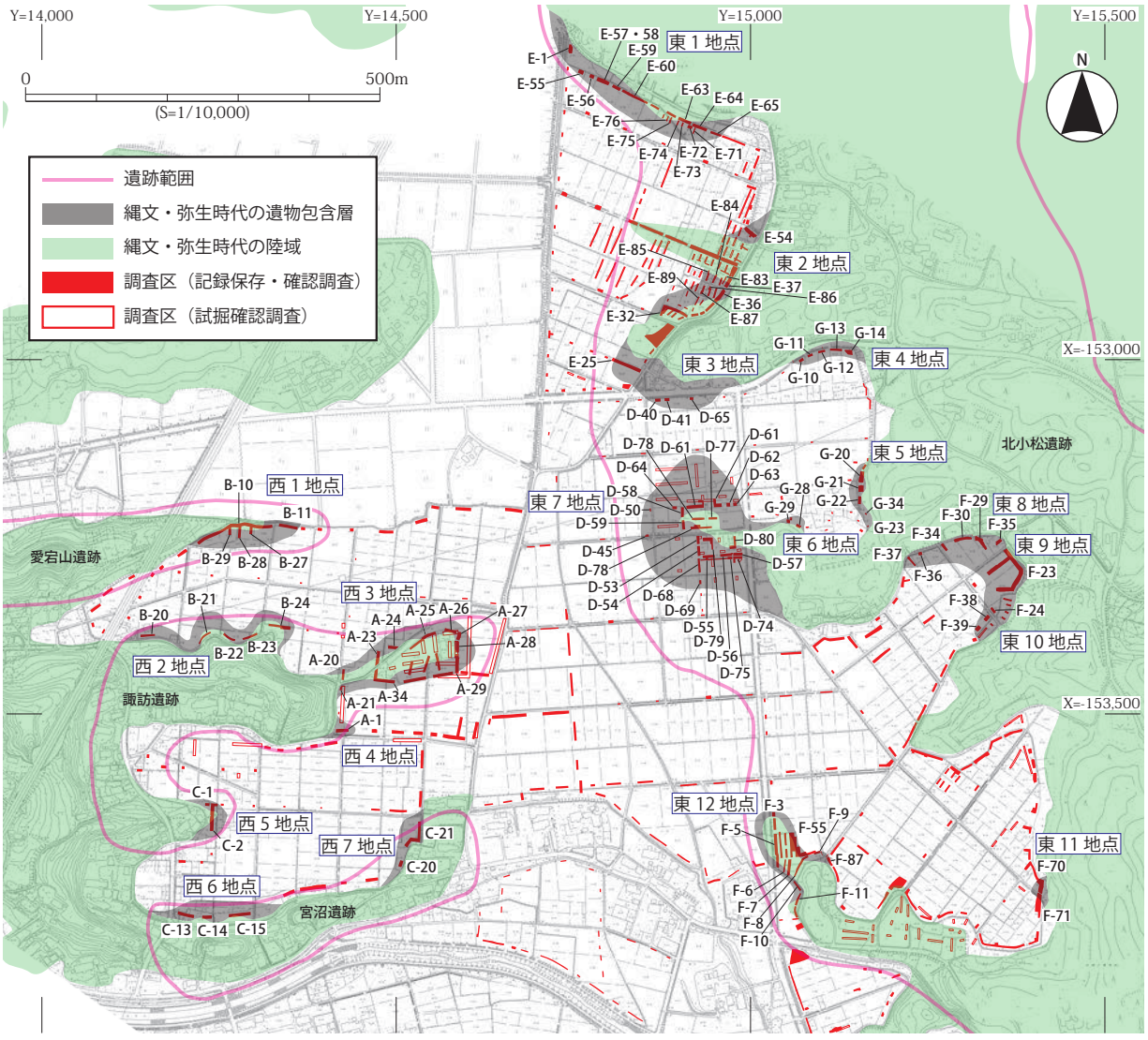
遺物包含層はおおむね、各丘陵の南北斜面に形成され、その分布も広範囲にわたる。上記の包含層の多くは各々が離れて存在しているが、丘陵突端部や湾奥部では別の包含層に隣接するものもある。なかでも丘陵突端部では、集落が形成可能な範囲が限られることから、丘陵の南北斜面に便宜的に分類した遺物包含層は、実際には同一地点の集落が要因となって形成された可能性が大きい。したがって、一つの遺物包含層と集落が必ずしも相対するものではなく、複数の包含層が合わさることで、一つの集落の様相が反映される場合もある。このことを踏まえて、次章では、調査対象地内を地形（丘陵）と遺物包含層の位置および範囲により19地点に分類し、それぞれの地点における発掘調査結果と、それを踏まえた各地点の特徴について総括する。

なお、ほ場整備事業に伴う発掘調査では、これら4遺跡の丘陵裾部の大部分を調査したが、事業予定区域外などの理由により調査対象とならなかった丘陵裾部も少なくない。したがって、これらの遺跡内における遺物包含層の検出数や範囲は広がる可能性があり、今後の調査等により地点数が増える可能性は十分にある。

第５章　各地点の発掘調査成果

田尻西部地区のほ場整備事業に伴う発掘調査では、北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡の４遺跡の丘陵裾部で、縄文時代から弥生時代前期の遺物包含層を広範囲で検出している。個別の遺物包含層の範囲や、隣接する丘陵との位置関係等により、便宜上これらを 24 箇所に分類した（第４章）。これら遺物包含層のほかに、複数の地点において掘立柱建物跡や土坑などの遺構群を丘陵頂部や丘陵斜面で検出していることから、遺物包含層形成の原因となる生活領域は丘陵上に存在していたものとみられる。したがって、これら遺跡内における集落の範囲は、建物跡などの遺構が形成される丘陵部とこれに隣接する遺物包含層が組み合わされることで推定される。

この観点から、ほ場整備事業に伴う発掘調査で遺構および遺物包含層を検出した地点について、当時の陸域の地形（丘陵）と、これに隣接する遺物包含層の位置および範囲から 19 地点に分類した（第 11 図）。西丘陵では７地点に分けられ、愛宕山遺跡で１地点、諏訪遺跡で４地点、宮沼遺跡で２地点ある。北小松遺跡が位置する東丘陵では 12 地点に分けられる。この 19 地点において、縄文時代から弥生時



第11図　北小松遺跡・愛宕山遺跡・諏訪遺跡・宮沼遺跡における遺物包含層の位置と地点分類

代前期にかけて集落が営まれていたものとみられる。

本章では、上記分類による各地点における発掘調査成果をまとめ、それぞれの地点における時期や場の特徴等について考察する。

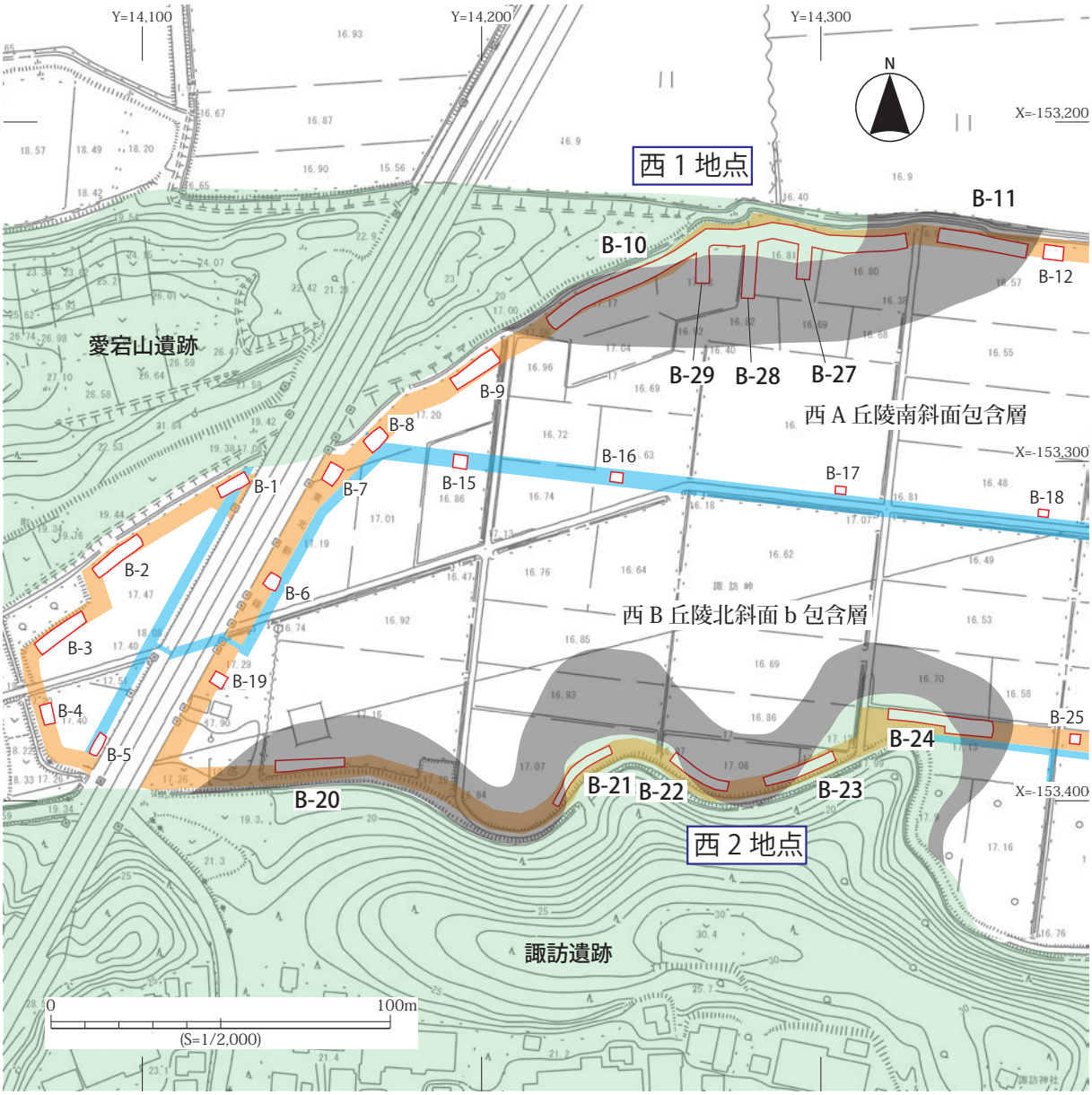
第3表　各地点の調査内容

遺跡名	丘陵	位置	地点	調査年度	調査区	遺構	遺物包含層
愛宕山遺跡	西A丘陵	東端部	西1	H19	B-10・11・27・28・29	土坑2	西A南
諏訪遺跡	西B丘陵	北斜面	西2	H19	B-20・21・22・23・24	-	西B北b
		東端部	西3	H19	A-20・21・23・24・25・26（・27）・28・29（・32・33）・34	竪穴状遺構1、土坑4、焼け面5、ピット	西B北a、西B南a
		南東斜面	西4	H19	A-1（、C-7）	-	西B南b
	西C丘陵	東端部	西5	H19	C-1・2	-	西C東
宮沼遺跡	西D丘陵	北斜面	西6	H19	C-13・14・15	-	西D北b
		東端部	西7	H19	C-20・21	-	西D北a
北小松遺跡	東A丘陵	南斜面	東1	H20	E-1・55・56・57・58・59・60（・61・62）・63・64・65・71・72・73・74・75・76（・77）	-	東A南
	東B丘陵	北斜面	東2	H20	E-32・36・37・54・83・84・85・86・87（・88）・89（・90・93・94・95）	土坑9	東B北a、東B北b
		西端部	東3	H20・21	D-40・41・65、E-25	集石遺構1	東B南a
		南斜面	東4	H21	G-10・11・12・13・14	自然流路2	東B南b
	東C丘陵	西斜面	東5	H21	G-20・21・22・23・34	-	東C北c
		北斜面	東6	H21	G-28・29	-	東C北b
		西端部	東7	H20・21	D-45・50・53・54・55・56・57・58・59・60・61・62・63・64・68・69・74・75（・76）・77・78・79・80	掘立柱建物19、柱列3、集石遺構3、土坑墓27、埋葬犬骨3、土器埋設遺構5、土坑17、焼け面2、自然流路1、ピット	東C北a、東C南a
		南斜面	東8	H22	F-29・30・34・35・36・37	掘立柱建物5、竪穴状遺構1、焼土集積3、ピット	東C南b
	東C・D間	南西端部	東9	H22	F-23・23北・23東	掘立柱建物43、集石遺構1、埋葬犬骨5、溝1、土坑9、焼け面1、焼土集積2、ピット	東C・D間
	東D丘陵	北斜面	東10	H22	F-23南・23西・24・38・39	-	東D北
	東D・E間	西斜面	東11	H22	F-70・71	溝1、沢1	東D・E間
	東E丘陵	西端部	東12	H20・22	F-3（・4）・5・6・7・8・9・10・11（・52・53・54）・55・87	-	東E北、東E南

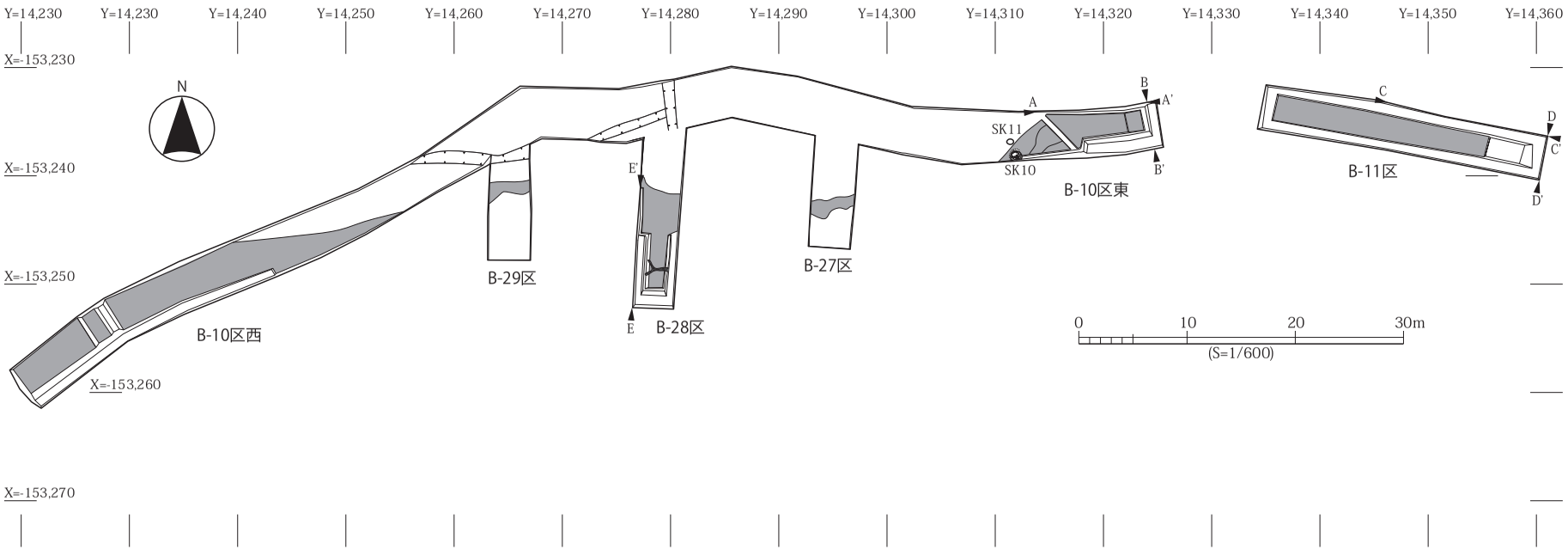
写真6　北小松遺跡ほか遠景（東から）

第１節　愛宕山遺跡（西１地点）

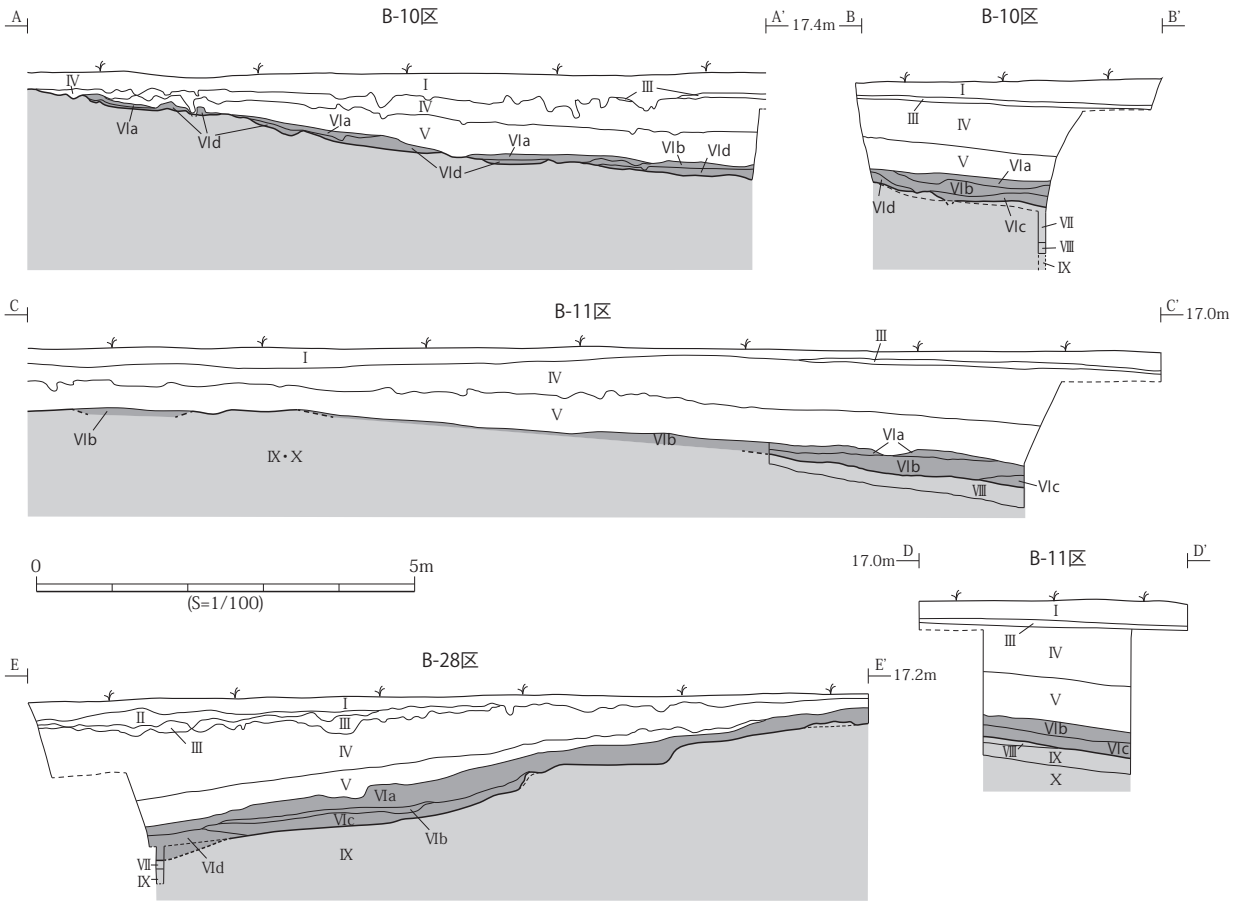
愛宕山遺跡は、調査対象地の西側にある丘陵のうち、対象地内で最も北に位置する丘陵（西 A 丘陵）を含む範囲である（第 11 図）。平成 19 年度に発掘調査を実施し、西 A 丘陵の東端部から南側緩斜面にかけて土坑 2 基と遺物包含層（西 A 丘陵南斜面包含層）を検出した。この地点を「西 1 地点」と呼称する。西 1 地点に含まれる発掘調査区は、B-10 区、B-11 区、B-27 ～ 29 区の 5 調査区である（第 12 図）。遺物は、縄文土器や弥生土器、土製品、石器・石製品、動物遺存体、植物遺存体が出土している。その量は、遺物収納箱換算で約 20 箱に相当する。



第12図　西1・2地点周辺における発掘調査区の位置および遺物包含層の分布



第13図　愛宕山遺跡（西1地点）　調査区平面図



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
B-10 区	A-A' B-B'	Ⅵ a	オリーブ黒色（5Y3/1）	シルト質砂	黒色粘土中量、スクモ少量
		Ⅵ b	オリーブ黒色（5Y3/2）	砂	スクモ少量
		Ⅵ c	黒褐色（2.5Y3/2）	シルト質砂	スクモ多量
		Ⅵ d	黒色（2.5Y2/1）	粘土	地山（Ⅸ層）小ブロック中量、炭化物粒少量、砂わずか
B-11 区	C-C' D-D'	Ⅵ a	黒色（10YR2/1）	シルト質砂	
		Ⅵ b	黒色（10YR2/1）	砂	
		Ⅵ c	黒褐色（10YR2/3）	砂混じり粘土	スクモ・粗砂中量
B-28 区	E-E'	Ⅵ a	黒色（10YR2/1）	粘土	スクモ・砂やや多量、炭化物粒わずか
		Ⅵ b	黒褐色（10YR2/2）	粘土	スクモ多量
		Ⅵ c	暗灰色（10YR4/1）	砂	スクモやや多量
		Ⅵ d	暗灰色（10YR4/1）	砂	スクモ多量

第14図　愛宕山遺跡（西1地点）　調査区断面図

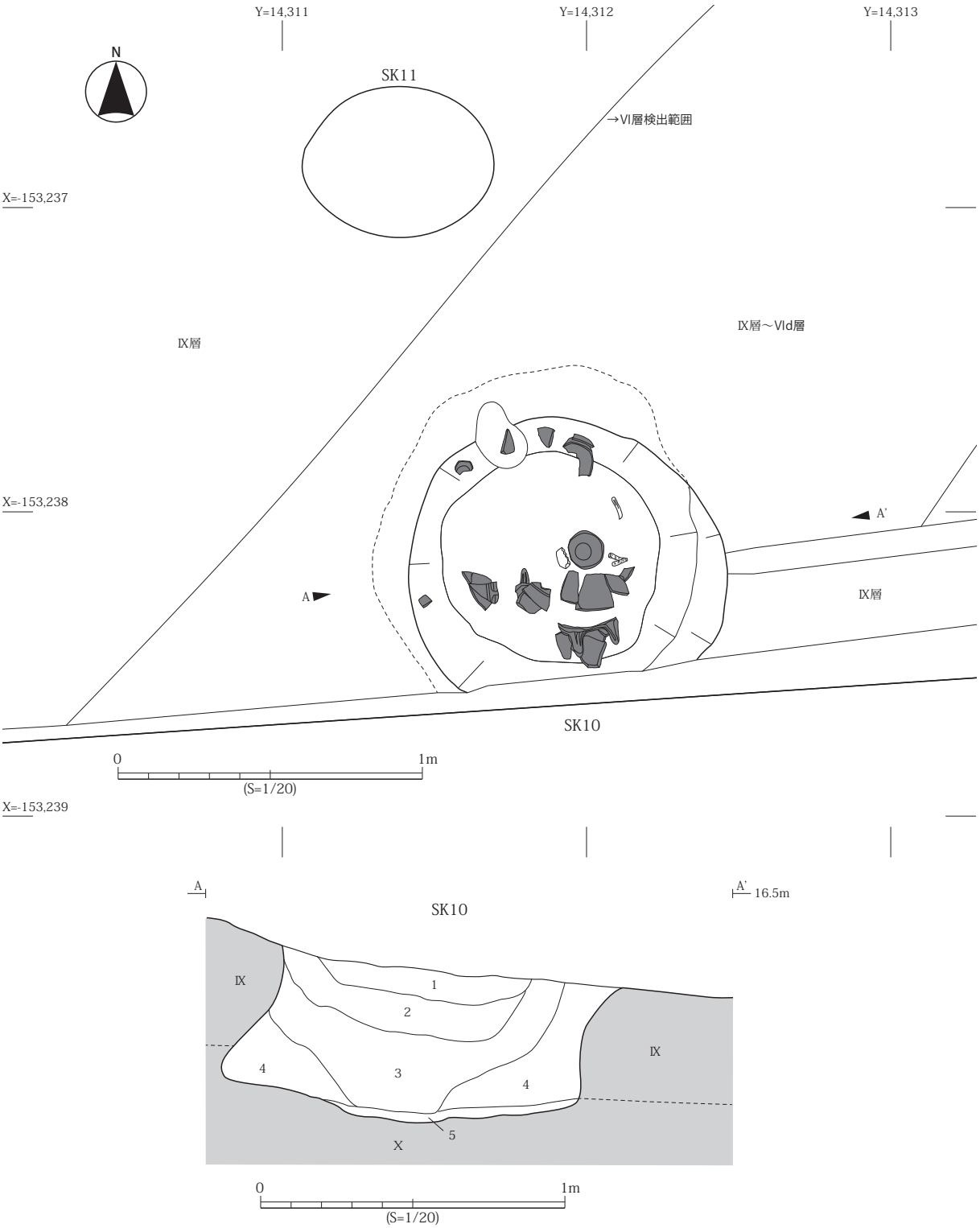
（1）遺構

B-10 区で土坑 2 基を検出し、うち 1 基（SK10）を精査した。

【SK10 土坑】

B-10 区東部の南東方向に緩やかに傾斜する丘陵の落ち際で検出した（第 13 図）。検出面はⅨ層上面で、遺物包含層（Ⅵ a 層）に覆われる。平面形は、長径 121cm 以上、短径 105cm の円形を呈する。断面形は、開口部よりも底面付近が広くなる台形を呈し、深さが 52cm ある。この形状から、貯蔵穴の機能をもつ土坑とみられる。また、堆積土の状況から、構築当初は貯蔵穴として機能していたものが、壁面等の崩落により一部埋没したことでその機能が失われ、そこに土器や石器、動物遺存体がまとまって廃棄されたものと判断した。

出土した遺物には土器や石器、動物遺存体があり、最下層（5 層）からは晩期後葉頃の深鉢、遺物の一括廃棄層である 3 層からは、深鉢や鉢、π 字文が施された四脚付鉢、変形工字文が施された壺、

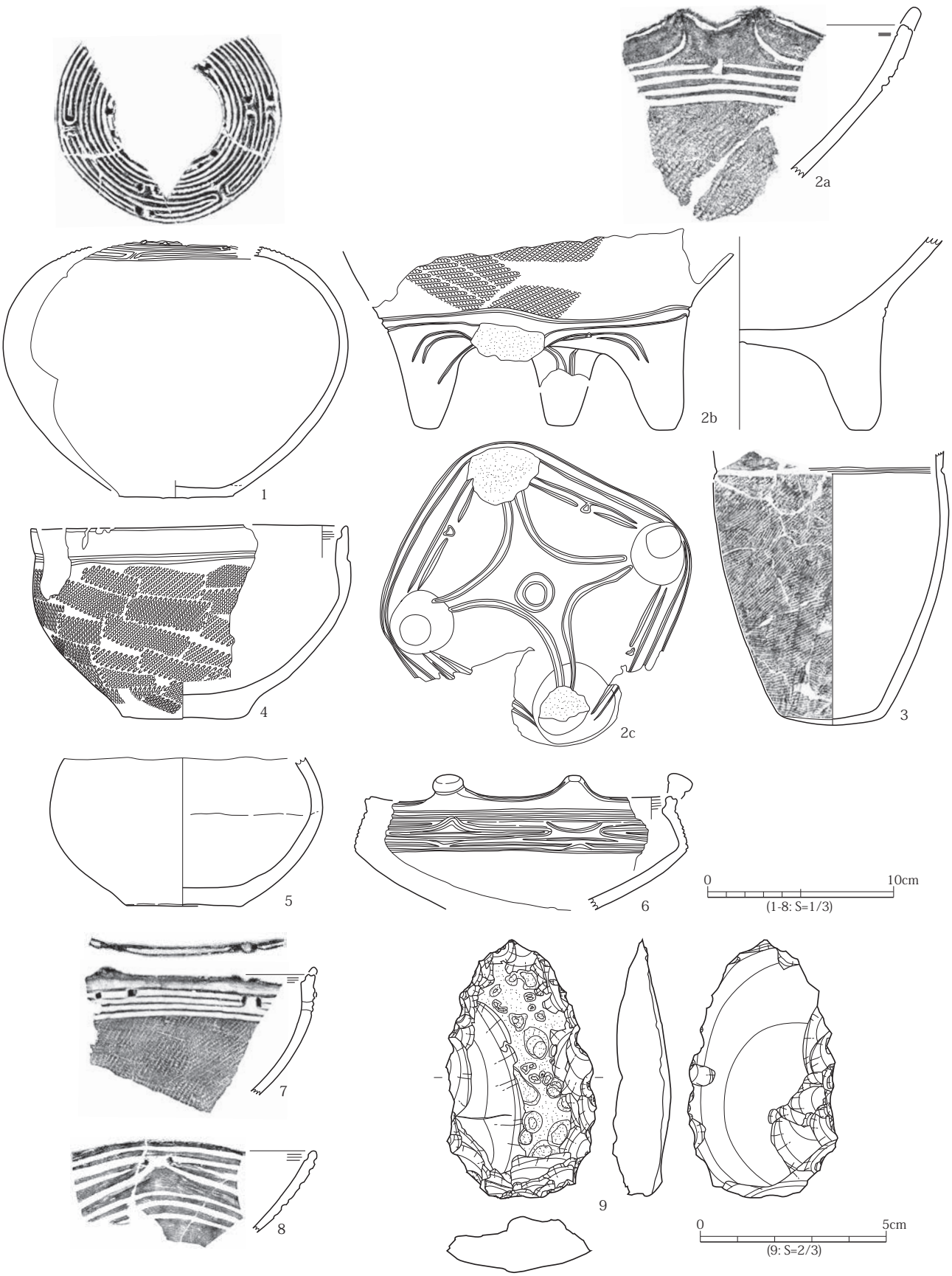


調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　　徴
SK10	A-A'	1	黒褐色（2.5Y3/1）	シルト質粘土	植物遺存体少量 【堆積土】
		2	黒褐色（2.5Y3/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ・Ⅹ層）ブロック多量、植物遺存体少量 【埋土】
		3	黒色（2.5Y2/1）	砂質シルト	獣骨を含む 【埋土】
		4	灰色（10Y6/1）	粘土	地山（Ⅸ・Ⅹ層）大ブロック・黒色粘土中ブロック極多量。Ⅹ層～Ⅵ層の崩落土 【堆積土】
		5	黒色（2.5Y2/1）	シルト質粘土	炭化物粒・焼土粒極多量 【堆積土】

第15図　SK10土坑　平面図・断面図

1: 深鉢 / SK10・5層 / 36図1, 2: 深鉢 / SK10・5層 / 36図2, 3: 四脚付鉢 / SK10・3層 / 37図1（宮城県文化財調査報告書第223集）

第16図　SK10土坑　出土土器（1）



1: 壺 / SK10・3層+VIb層 / 37図2, 2: 四脚付鉢 / SK10・3層 / 36図4, 3: 深鉢 / SK10・3層 / 36図3, 4: 鉢 / SK10・3層 / 36図5,
5: 壺 / SK10・3層 / 37図3, 6: 台付浅鉢 / SK10・1層 /37図4, 7: 鉢 / SK10 / 37図5, 8: 浅鉢 / SK10+VIb層 / 37図6,
9: 石篦 / SK10・3層 / 35図2（宮城県文化財調査報告書第223集）

第17図　SK10土坑　出土土器（2）・石器

石篦などのほかに焼けたシカ橈骨やイノシシ椎骨が出土している（第16・17図）。この層から出土した鉢（第17図4）について、土器付着炭化物を対象として放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、^{14}C年代が2,525±15yrBP、暦年較正年代（1σ）が775～590calBCとなり、縄文時代晩期中葉から後葉頃に相当する年代値（小林　2019）が得られた。また、堆積土上層から出土した土器にはπ字文（同図7）や変形工字文（同図6・8）がある。以上から、貯蔵穴として機能していた時期は、晩期後葉（晩期5期）[註4]とみられ、その後、晩期5c期に土器が一括廃棄されたものとみられる。

(2) 遺物包含層と出土遺物

遺物包含層（Ⅵ層）は、B-10・11・27・28・29区で検出した。その範囲は、東西約141m（B-10区とB-11区間の直線距離）、南北約10m（B-28区における検出範囲）ある。なお、B-10区の西側にある調査区（B-7～9区など）においてもⅥ層を検出しているが、遺物は出土していない。また、B-11区の東側にあるB-12区およびさらに東側の調査区（B-13区など）では、Ⅵ層は確認されなかった。

Ⅵ層上面は、B-10区東部で南東方向に緩やかに傾斜する地形となっている。調査区壁面におけるⅥ層の検出範囲は、B-10区およびB-11区の北壁では直線距離で約44.0mあり、Ⅵ層上面での比高は約1.5m、勾配は約3.4%、B-28区西壁では直線距離で約9.6mあり、Ⅵ層上面での比高は約1.6m、勾配は約16.7%である。

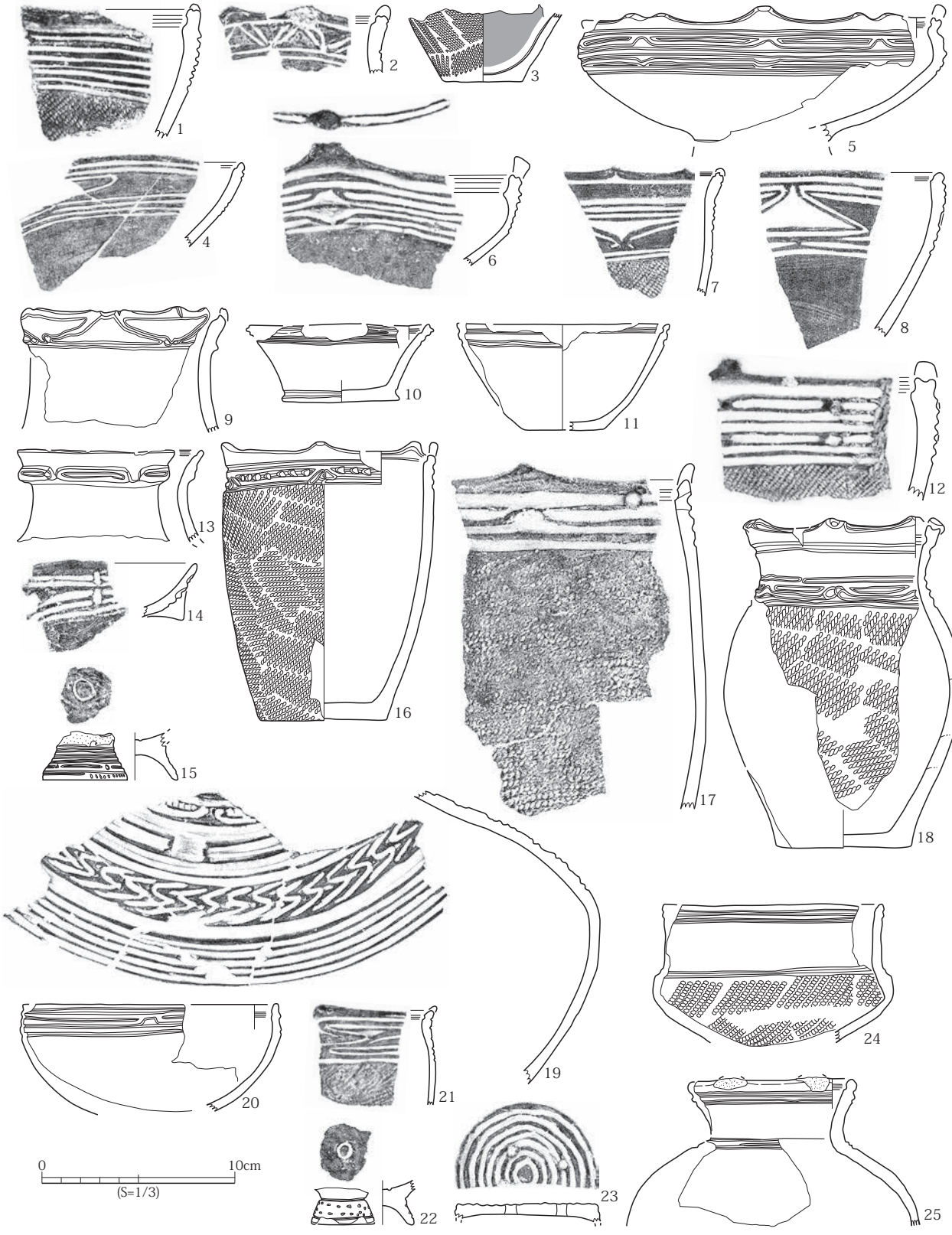
Ⅵ層は、土色や土性、含有物などの特徴から、遺物が多く出土した調査区でおおむね3～4層に細分される。調査区によりⅥ層の堆積状況が異なるため、各調査区における細分層名は同一のものではないことから、それぞれの層の特徴をもとにこれらを1層群から4層群に再構成した（第4表）。

遺物は4層群から1層群まで出土しているが、上層の1層群や2層群で多く出土している。

土器は、4層群から、π字文が施された鉢（第18図1）などが出土した。また、漆容器深鉢（同図3）も出土している。3層群からは、上下対向のπ字文が施された台付浅鉢（同図5・6）や変形工字文が施された鉢や浅鉢（同図4・7・8）などが出土した。2層群からは、π字文が施された深鉢（同図16・17）や浅鉢（同図20）、壺（同図18・19）、工字文が施された壺（同図19）、変形工字文が施された深鉢（同図21）などが出土している。また、浮線渦巻文に関連する同心円状の沈線文が施された蓋（同図23）や、漆容器鉢（第19図4）もある。なお、この大別層群から出土した深鉢3点（同図1・2・5）について、土器付着炭化物を対象として放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、5の^{14}C年代が2,330±30yrBP、暦年較正年代（1σ）が539～412calBCとなり、晩期後葉から弥生時代前期の年代値（小林　2019、以下同）、1の^{14}C年代が2,280±30yrBP、暦年較正年代（1σ）が412～386calBC、2の^{14}C年代が2,280±30yrBP、暦年較正年代（1σ）が406～381calBCと

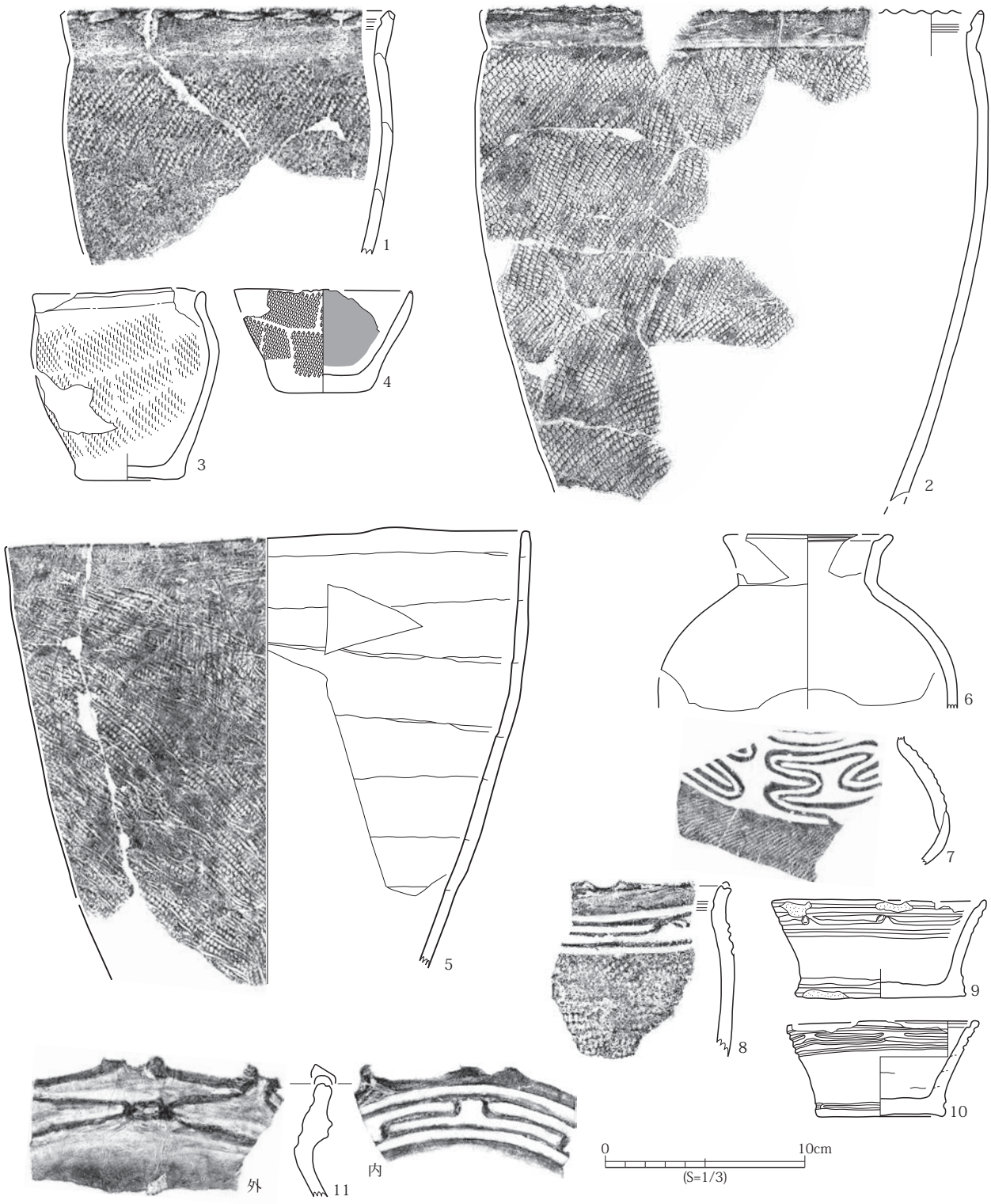
第4表　西1地点　遺物包含層の対応関係　（⇔：同一層　≒：近似層）

調査区・層名					大別層群		
B-28区		B-10区東		B-11区	層名	堆積場所	特　徴
Ⅵa Ⅵb	≒	Ⅵa	⇔	Ⅵa	1層群	斜面部のほぼ全域	スクモを含む粘土～シルト質砂
		Ⅵb	⇔	Ⅵb	2層群	丘陵からやや離れた平坦部～斜面部	スクモを含む砂
Ⅵc Ⅵd	⇔	Ⅵc	⇔	Ⅵc	3層群	丘陵から離れた斜面部	スクモを多く含むシルト質砂～砂
		Ⅵd			4層群	丘陵に近い斜面部	粘土



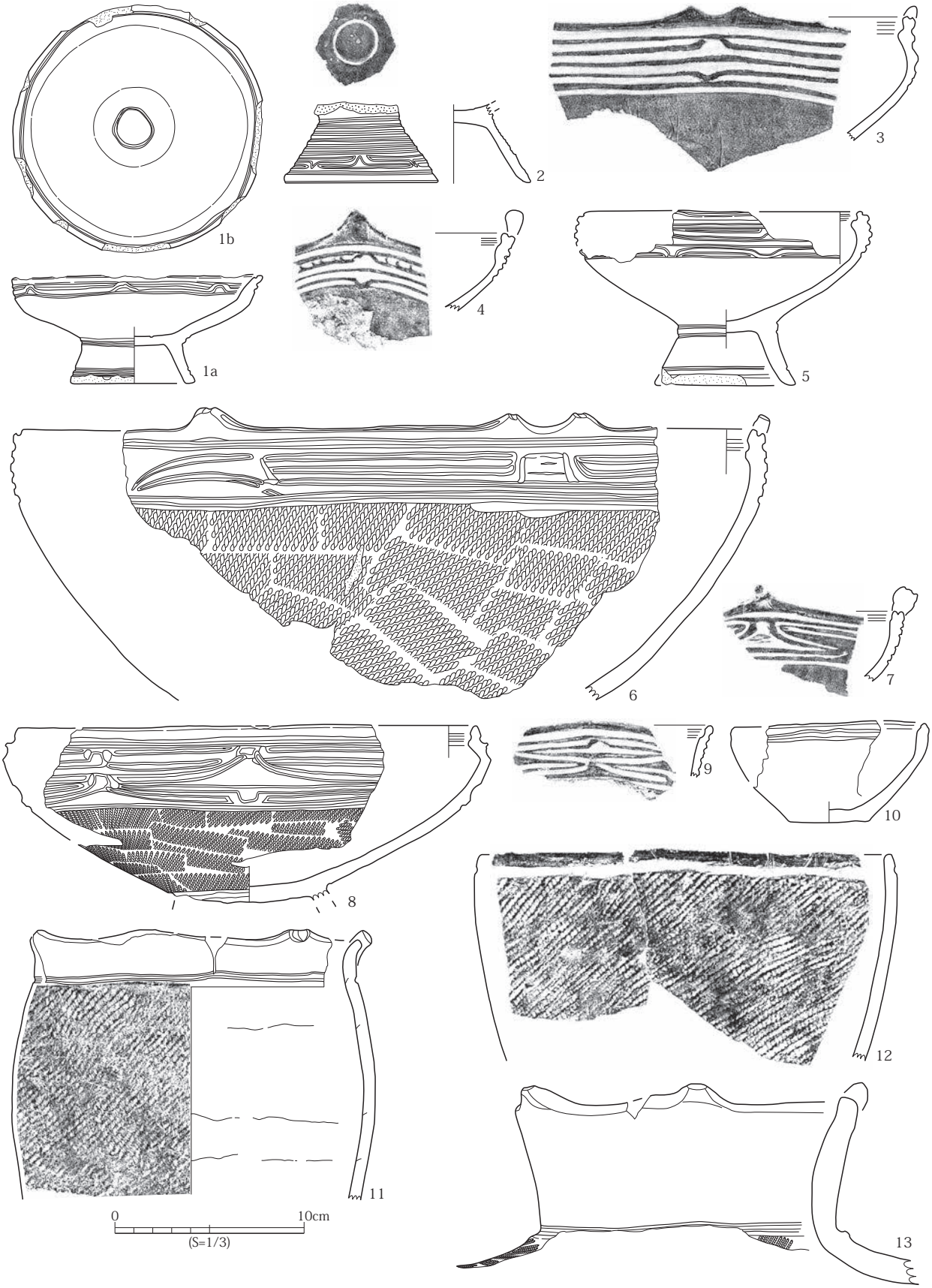
【4層群】1: 鉢 / B-10東・VId層 / 30図2, 2: 壺 / B-10東・VId層 / 30図4, 3: 漆容器（深鉢） / B-10東・VId層 / 30図5
【3層群】4: 浅鉢 / B-10東・VIc層 / 30図6, 5: 台付浅鉢 / B-28・VId層 / 45図3, 6: 台付浅鉢か / B-11・VIc層 / 39図1,
7: 鉢 / B-28・VId層 / 45図1, 8: 鉢 / B-28・VId層 / 45図2, 9: 壺 / B-10東・VIc層 / 30図7, 10: 浅鉢 / B-28・VId層 / 45図4,
11: 鉢 / B-28・VIc層 / 45図5
【2層群】12: 鉢 / B-10東・VIb層 /31図6, 13: 壺 / B-11・VIb層 / 41図3, 14: 四脚付浅鉢 / B-10東・VIb層 / 31図5,
15: 台部 / B-10東・VIb層 / 31図9, 16: 深鉢 / B-11・VIb層 / 40図2, 17: 深鉢 / B-11・VIb層 / 40図4, 18: 壺 / B-11・VIb層 / 40図3,
19: 壺 / B-11・VIb層 / 41図5, 20: 浅鉢 / B-10東・VIb層 / 31図4, 21: 深鉢 / B-10東・VIb層 / 30図12, 22: 台部 / B-10東・VIb層 / 31図10,
23: 蓋 / B-11・VIb層 / 41図1, 24: 鉢 / B-11・VIb層 / 40図7, 25: 壺 / B-10東・VIb層 / 31図7 （宮城県文化財調査報告書第223集）

第18図　西1地点　遺物包含層　出土土器（1）



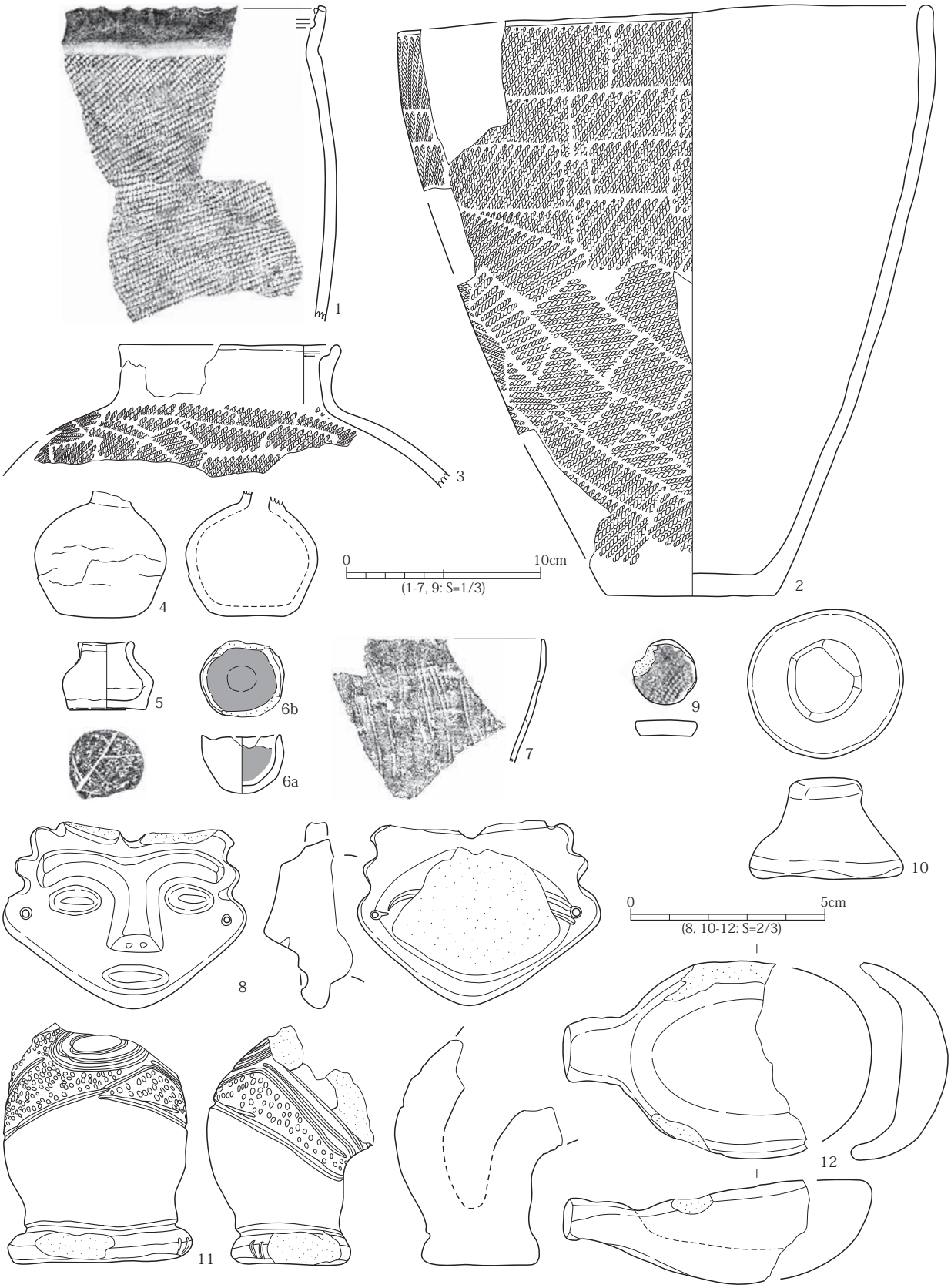
【2層群】1: 深鉢 / B-11・Ⅵb層 / 39図4, 2: 深鉢 / B-10東・Ⅵb層 / 30図8, 3: 深鉢 / B-11・Ⅵb層 / 39図2,
4: 漆容器（鉢） / B-10東・Ⅵb層 / 31図8, 5: 深鉢 / B-11・Ⅵb層 / 39図5, 6: 壺 / B-11・Ⅵb層 / 41図2
【1層群】7: 壺 / B-28・Ⅵa層 / 46図8, 8: 深鉢 / B-11・Ⅵa層 / 41図6, 9: 浅鉢 / B-11・Ⅵa層 / 42図4, 10: 浅鉢 / B-10東・Ⅵa層 / 33図2,
11: 壺 / B-11・Ⅵa層 / 42図7 （宮城県文化財調査報告書第223集）

第19図　西1地点　遺物包含層　出土土器（2）



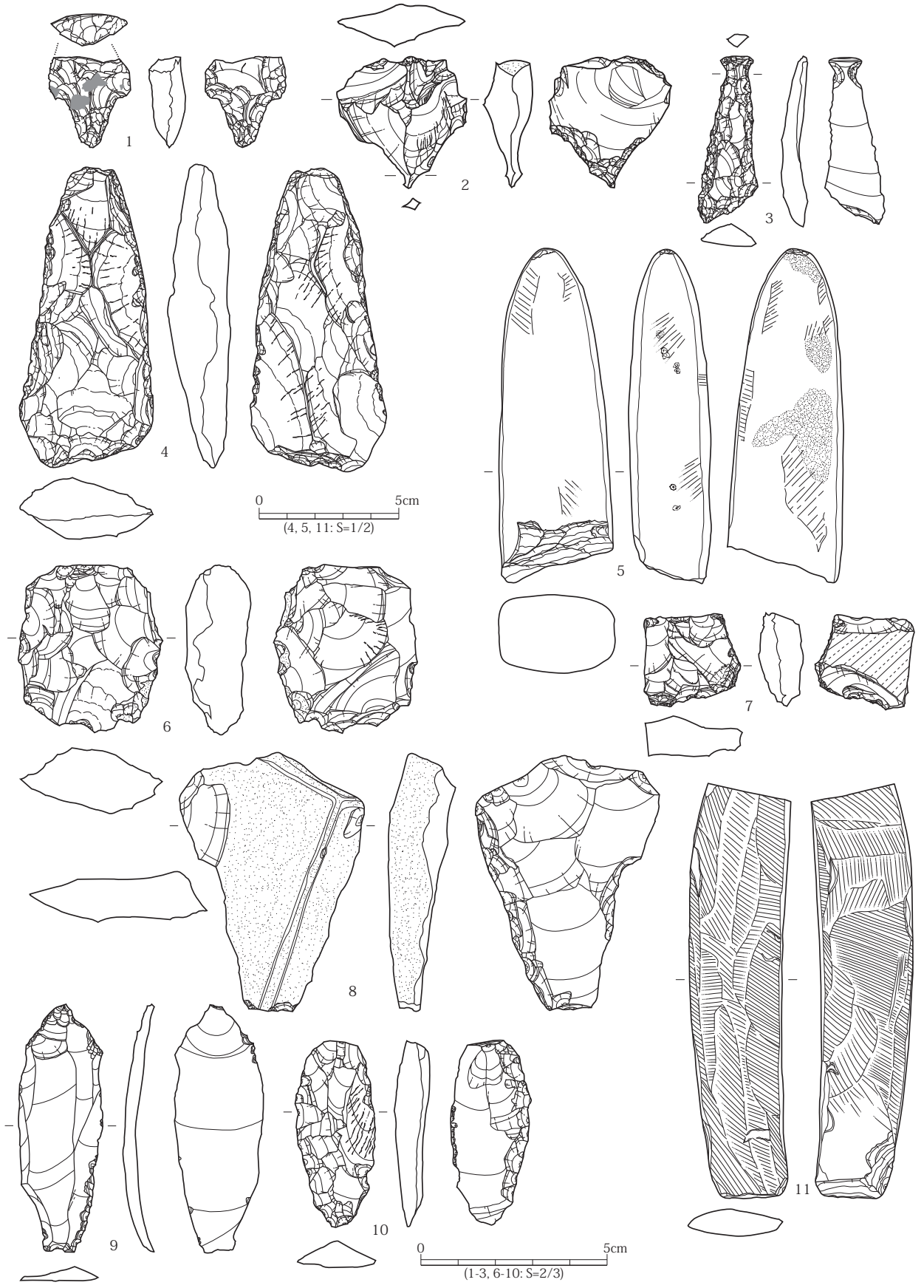
【1層群】1: 台付浅鉢 / B-10東・VIa層 / 33図1, 2: 台部 / B-28・VIa層 / 46図7, 3: 台付浅鉢か / B-11・VIa層 / 42図3, 4: 浅鉢 / B-28・VIa層 / 46図1, 5: 台付浅鉢 / B-28・VIa層 / 46図6, 6: 鉢 / B-28・VIa層 / 46図5, 7: 浅鉢 / B-10東・VIa層 / 32図7, 8: 台付浅鉢 / B-10東・VIa層 / 32図8, 9: 浅鉢 / B-11・VI層 / 42図8, 10: 鉢 / B-11・VIa層 / 42図5, 11: 深鉢 / B-28・VIa層 / 45図6, 12: 深鉢 / B-28・VIa層 / 45図8, 13: 壺 / B-28・VIa層 / 46図9 （宮城県文化財調査報告書第223集）

第20図　西1地点　遺物包含層　出土土器（3）



【1層群】1: 深鉢 / B-10東・Ⅵa層 / 32図3, 2: 深鉢 / B-11・Ⅵa層 / 42図1, 3: 壺 / B-28・Ⅵa層 / 46図10, 4: 漆容器（壺） / B-11・Ⅵa層 / 42図6, 5: 袖珍土器壺 / B-10東・Ⅵ層 / 33図5, 6: 袖珍土器鉢 / B-28・Ⅵa層 / 46図12, 7: 製塩土器深鉢 / B-11・Ⅵ層 / 42図9
【2層群】8: 土偶頭部 / B-10東・Ⅵb層 / 31図11
【1層群】9: 円盤状土製品 / B-10東・Ⅵa層 / 33図3, 10: スタンプ形土製品 / B-28・Ⅵa層 / 46図13, 11: 土偶右脚 / B-10東・Ⅵa層 / 33図4, 12: スプーン形土製品 / B-11・Ⅵ層 / 42図10 （宮城県文化財調査報告書第223集）

第21図　西1地点　遺物包含層　出土土器（4）・土製品



【2層群】1: 尖頭器 / B-10東・Ⅵb層 / 34図2, 2: 石錐 / B-11・Ⅵb層 / 43図1, 3: 石匙 / B-11・Ⅵb層 / 43図2,
4: 打製石斧 / B-10東・Ⅵb層 / 35図1, 5: 磨製石斧 / B-11・Ⅵb層 / 43図4, 6: 楔形石器 / B-10東・Ⅵb層 / 34図4,
7: 楔形石器 / B-11・Ⅵb層/ 43図3, 8: 不定形石器 / B-10東・Ⅵb層 / 34図9, 9: 不定形石器 / B-10東・Ⅵb層 / 34図6,
10: 不定形石器 / B-10東・Ⅵb層 / 34図7, 11: 石刀 / B-11・Ⅵb層 / 43図5 （宮城県文化財調査報告書第223集）

第22図　西1地点　遺物包含層　出土石器・石製品（1）

【2層群】1: 磨石 / B-11・VIb層 / 43図7, 2: 凹石 / B-10東・VIb層 / 35図4
【1層群】3: 石鏃 / B-10東・VIa層 / 34図1, 4: 石錐 / B-28・VIa層 / 47図1, 5: 石篦 / B-28・VIa層 / 47図2,
6: 楔形石器 / B-10東・VIa層 / 34図3, 7: 不定形石器 / B-28・VIa層 / 47図7, 8: 不定形石器 / B-28・VIa層 / 47図9,
9: 不定形石器 / B-10東・VIa層 / 34図10, 10: 石皿 / B-10東・VIa層 / 35図5, 11: 凹石 / B-28・VIa層 / 47図10,
12: 磨石 / B-11・VIa層 / 43図6 （宮城県文化財調査報告書第223集）

第23図　西1地点　遺物包含層　出土石器・石製品（2）

なり、いずれも弥生時代前期頃に相当する年代値が得られた。1層群からは、流水工字文が施された壺（同図7）、π字文が施された深鉢・鉢・浅鉢・台付浅鉢（同図8～10、第20図1・2）や壺（第19図11）、上下対向のπ字文が施された浅鉢・台付浅鉢（第20図3～5）、変形工字文が施された鉢・浅鉢・台付浅鉢（同図6～9）がなどが出土した。また、製塩土器深鉢（第21図7）も出土している。

土製品には、2層群から出土した土偶頭部（第21図8）、1層群から出土した土偶右脚（同図11）やスプーン形土製品（同図12）、スタンプ形土製品（同図10）などがある。土偶は、晩期後葉以降の髪を結い上げた土偶とみられる。

石器・石製品は、石鏃や尖頭器、石錐、石匙、石篦、打製石斧、磨製石斧、楔形石器、石皿や磨石などの礫石器、石刀などが出土している（第22・23図）。

(3) 集落の時期と特徴

遺物包含層から出土した土器型式や土器付着炭化物の年代測定から、西1地点の遺物包含層では晩期後葉（晩期5a期）から弥生時代前期（弥生1期）の遺物が出土しており、なかでも3層群が晩期末葉（晩期6a期）、2層群から1層群は弥生時代前期に形成されたものとみられる。前述のとおり、貯蔵穴とみられる土坑1基は検出層位から1層群よりも古く、また、一括廃棄の土器の年代から、機能していた時期が晩期後葉とみられ、これに矛盾しない。

西1地点は、遺構が土坑2基と遺物包含層のみであるため、集落の性格を推定するのは困難であるが、遺物量が多く、土器破片の残存状況が良好で摩耗も少ないことから、近くの丘陵上で居住域が営まれていたものと推定される。また、貯蔵穴の存在から、一定期間あるいは回帰的な場の利用がなされた可能性がある。さらに、遺物包含層出土遺物の種別ごとの器種組成を検討すると、非実用的な遺物が少ないことがわかる。このことから、居住を含む日常的な生活の場として長期間あるいは繰り返し利用されたものとみられる。

写真7　B-10区東およびB-11区（北西から）

写真8　B-10区東　調査風景（西から）

第２節　諏訪遺跡

諏訪遺跡は、調査対象地の西側にある丘陵のうち、対象地内で北から２番目（西Ｂ丘陵）と３番目に位置する丘陵（西Ｃ丘陵）を含む範囲である（第 11 図）。平成 19 年度に発掘調査を実施し、遺物包含層を４地点で検出した。この４地点は、西Ｂ丘陵の北斜面、東端部および南東斜面、西Ｃ丘陵の東端部であり、順に「西２地点」、「西３地点」、「西４地点」、「西５地点」と呼称する。以下に、それぞれの地点で検出した遺構や遺物包含層、出土遺物について述べ、それぞれの地点の時期や特徴等について考察する。

1. 西２地点

西２地点は、西Ｂ丘陵のうち標高が高いところの北斜面に位置し、丘陵裾部で遺物包含層を検出した（西Ｂ丘陵北斜面ｂ包含層）。この地点に含まれる発掘調査区は、B-20 ～ 24 区の５調査区である（第 12 図）。遺物は、縄文土器や弥生土器、土製品、石器、植物遺存体が出土している。

(1) 遺物包含層と出土遺物

遺物包含層（Ⅵ層）は、B-20・21・22・23・24 区で検出した。その範囲は、東西約 209m（B-20 区と B-24 区間の直線距離）、南北約 27m（B-21 区南端の X 座標と B-24 区Ⅵ層検出範囲の北端の X 座標のおおよその差）となる。なお、B-20 区の西側にある B-4 区においてもⅥ層を検出しているが、遺物は出土していない。また、B-24 区から東へ続く丘陵裾部は発掘調査の対象外であり、B-24 区の東側にある B-25 区ではⅥ層を確認できなかった。

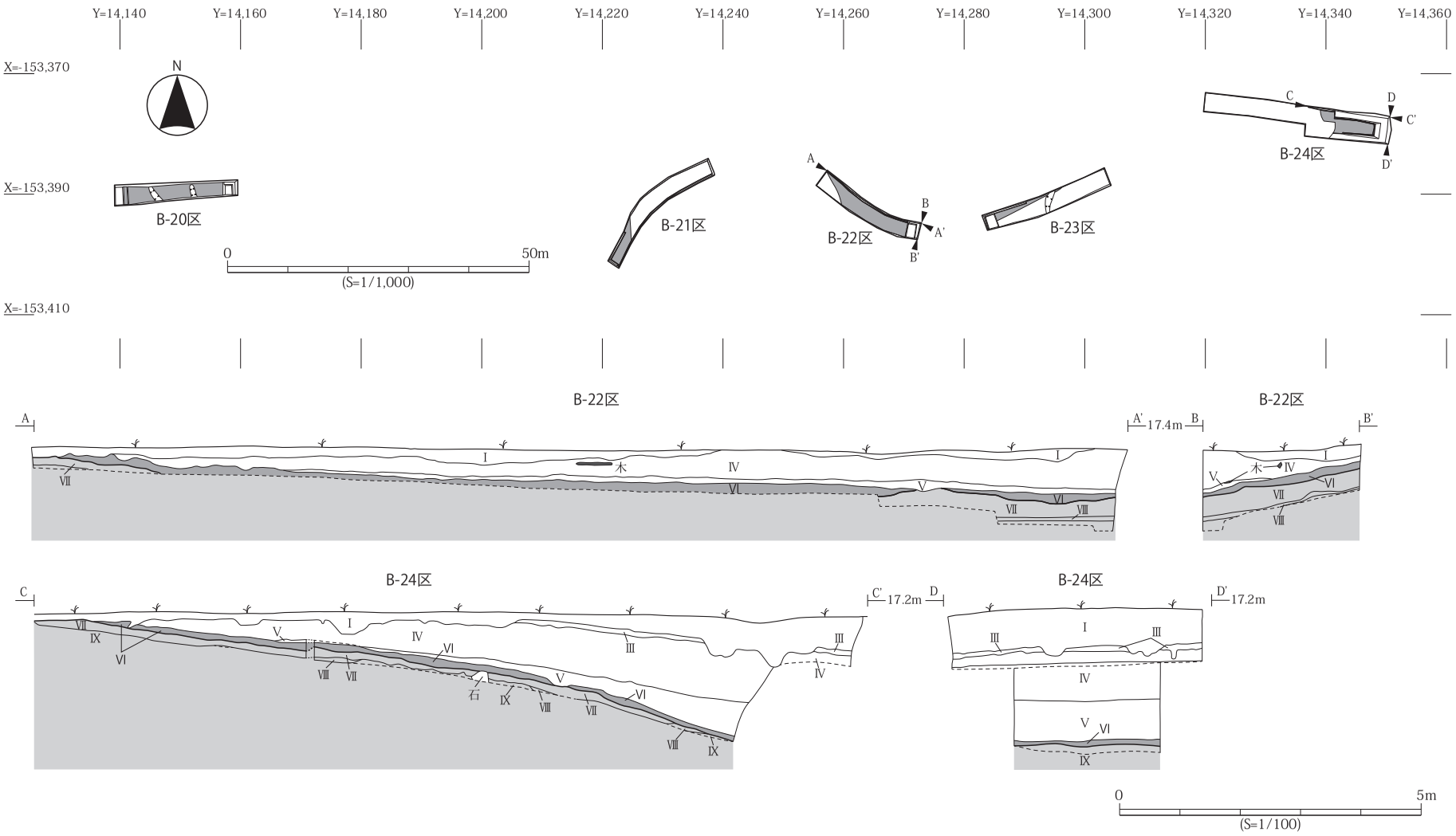
Ⅵ層上面は、B-24 区東部で東に緩やかに傾斜する地形となっている。調査区壁面におけるⅥ層の検出範囲は、B-24 区北壁では直線距離で約 10.6m あり、Ⅵ層上面での比高は約 1.9m、勾配は約 17.9% である。なお、Ⅵ層は堆積が薄く細分することはできなかった。

遺物は、遺物収納箱換算で１箱未満に相当する量である。π字文が施された浅鉢（第 25 図 1）や土偶腕？（同図 3）が出土している。石器は、石皿と剥片が出土した。また、Ⅴ層からの出土であるが、大波状口縁で装飾的な突起をもち、変形工字文が施される台付浅鉢（同図 2）もみられる。台付浅鉢は栗原市青木畑遺跡（宮城県教育委員会　1982a）に類例が認められ、弥生時代前期中葉（弥生 2a 期）に位置づけられる。

(2) 集落の時期と特徴

土器型式のわかる遺物量が少ないため、詳細な時期を検討するには不十分であるが、π字文の存在から、晩期後葉（晩期５期）以降と推定される。

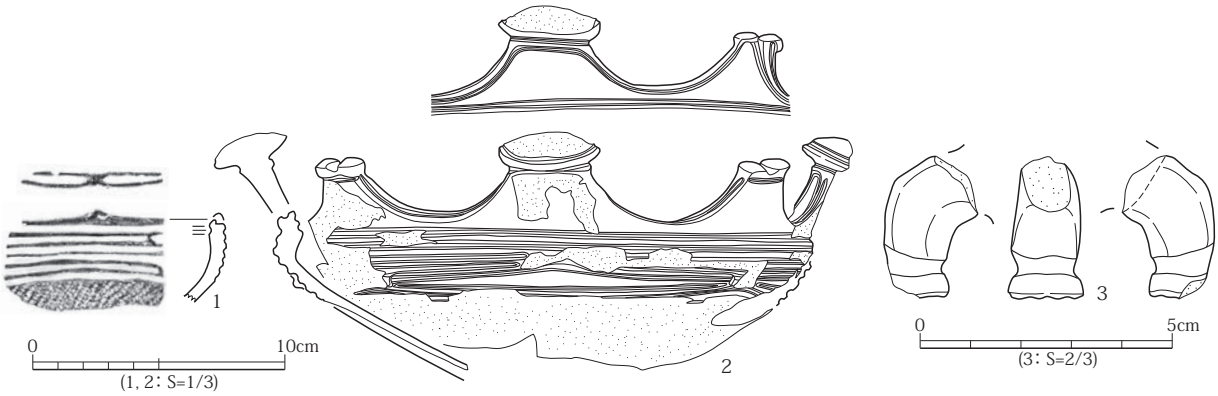
西２地点は遺物包含層の堆積が薄いものの、ある程度広い面積でⅥ層を検出している。また、丘陵にほど近い場所も調査していることから、集落が立地可能な場所から遠く離れているものでもない。このような条件であるにもかかわらず遺物量が少ないことは、本地点は居住域からやや離れているか、



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
B-22 区	A-A' B-B'	Ⅵ	黒色（10YR1.7/1）	粘土	砂少量
B-24 区	C-C' D-D'	Ⅵ	黒褐色（2.5Y3/1）	粘土	斜面下部でスクモやや多量

第24図　西2地点　調査区平面図・断面図

あるいは、近隣で生活の痕跡があったとしても、一時的な活動の場であった可能性が考えられる。



1: 浅鉢 / B-22・Ⅵ層 / 56図2, 2: 台付浅坏 / B22・Ⅴ層 / 64図1, 3: 土偶腕か / B-22・Ⅵ層 / 56図4 （宮城県文化財調査報告書第223集）

第25図　西2地点　出土土器・土製品

写真9　B-21区　遺物包含層（南から）

写真10　B-22区　遺物包含層（西から）

写真11　B-23区　遺物包含層（南西から）

写真12　B-24区　遺物包含層（西から）

2. 西 3 地点

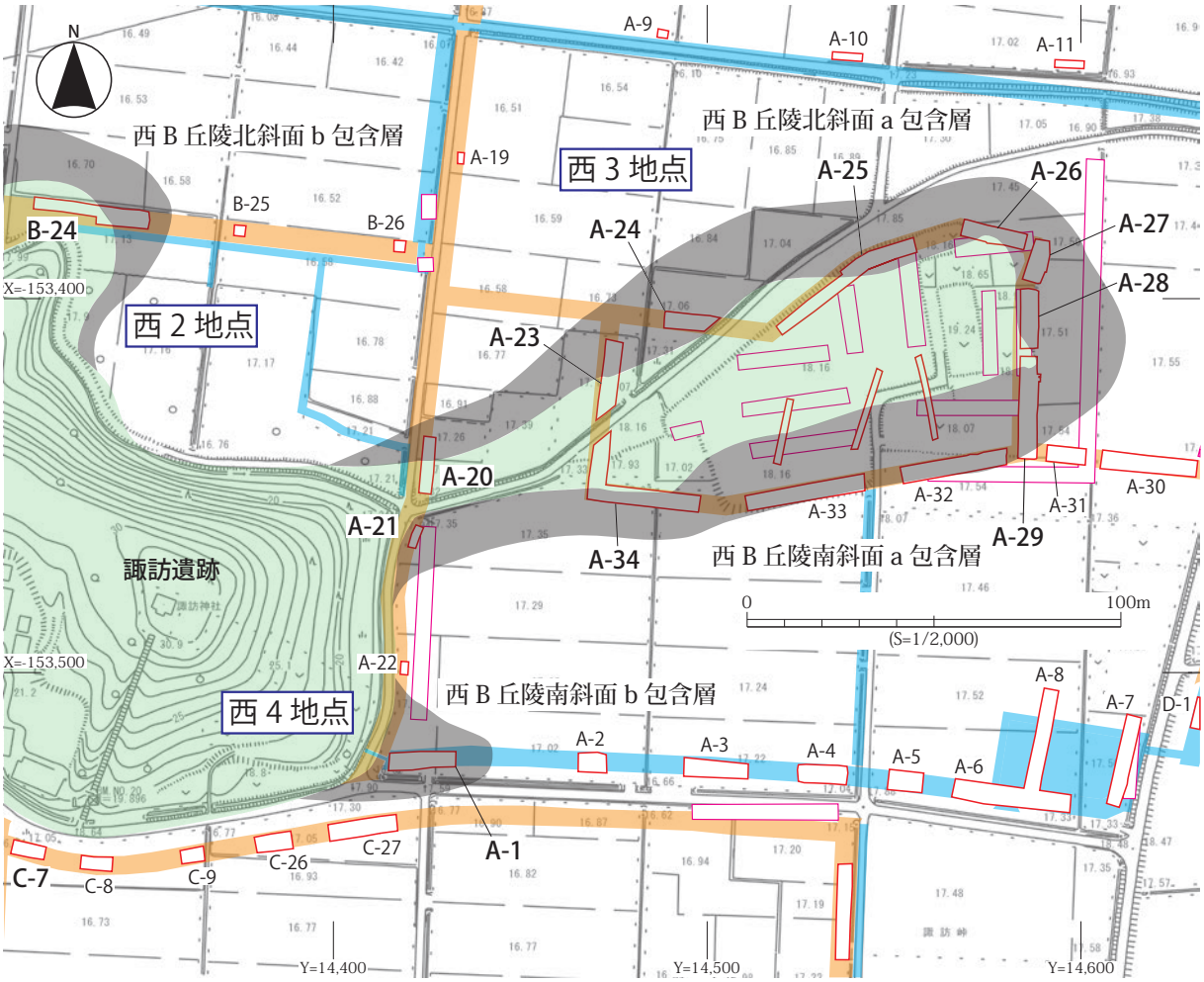
西 3 地点は、西 B 丘陵のうち標高が低くなり半島状に東へ延びるところに位置する。この低丘陵の東端部で竪穴状遺構 1 基、土坑 4 基、焼け面 4 箇所などを検出し、南斜面で焼け面 1 箇所を検出した。また、遺物包含層はこの低丘陵を囲むように形成される（西 B 丘陵北斜面 a 包含層、西 B 丘陵南斜面 a 包含層）。この地点に含まれる発掘調査区は、A-20 区、A-21 区、A-23 ～ 29 区、A-32 ～ 34 区の 12 調査区である（第 26 図）。遺物は、縄文土器や土製品、石器・石製品、動物遺存体、植物遺存体が出土している。

（1）遺構

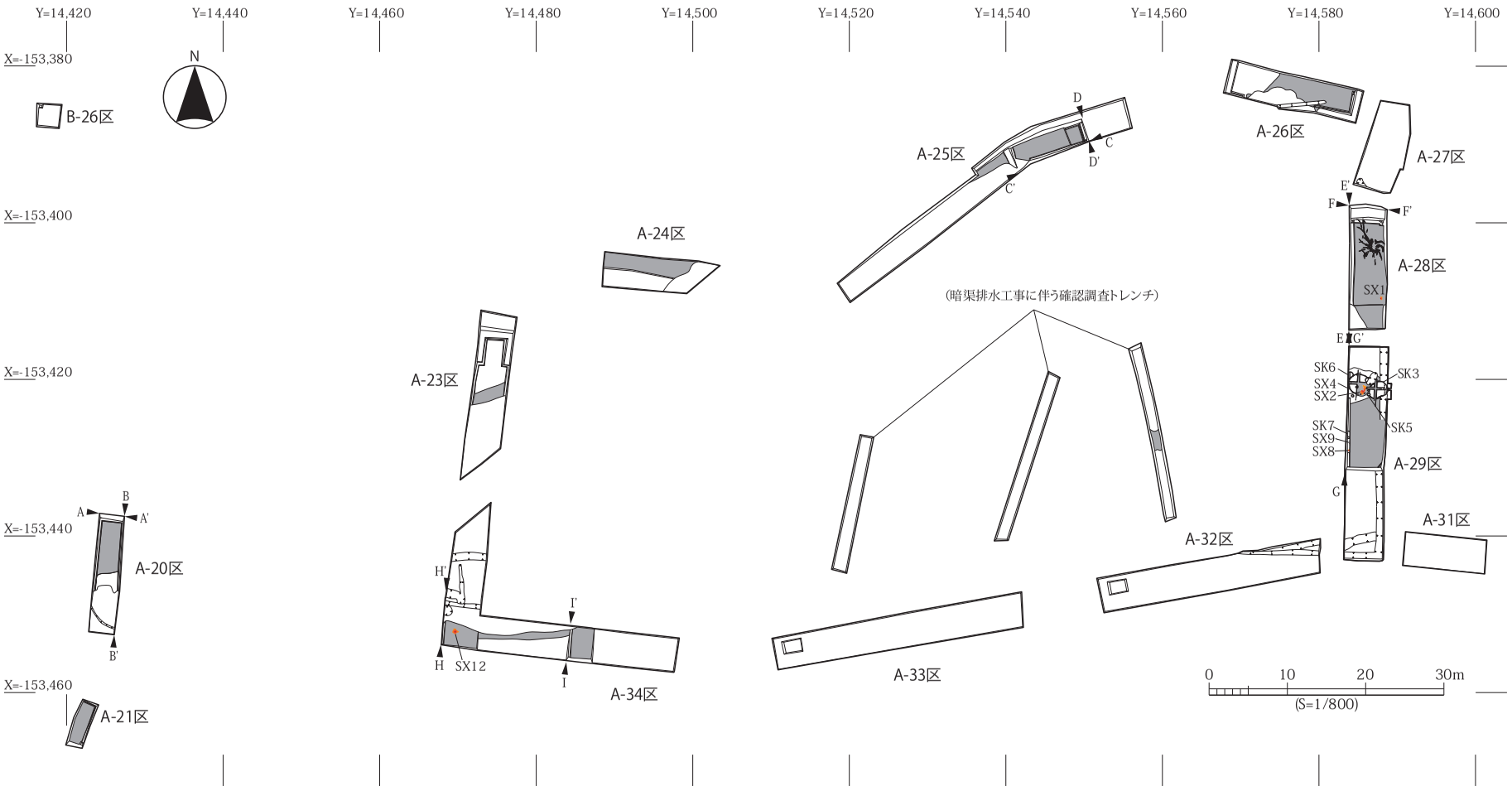
A-29 区で竪穴状遺構 1 基、土坑 4 基、焼け面 3 箇所、A-28 区と A-34 区でそれぞれ焼け面 1 箇所を検出した。また、A-28 区からはオニグルミの根張りを検出している。以下に、おもなものについて述べる。

【SX4 竪穴状遺構】

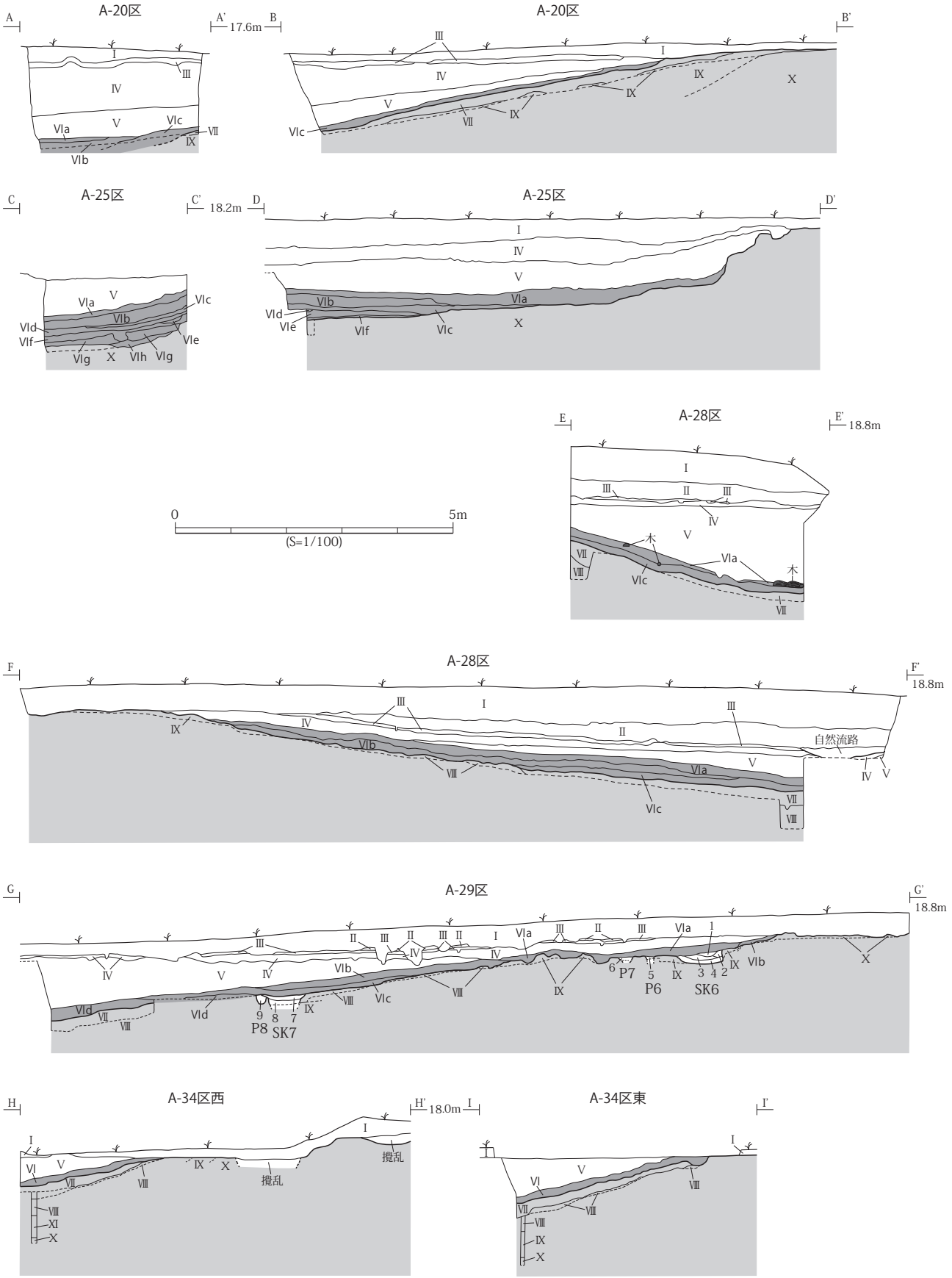
A-29 区北部のほぼ平坦な丘陵上で検出した（第 29 図）。検出面はⅨ層上面で、遺物包含層（Ⅵ a 層）



第26図　西3・4地点周辺における発掘調査区の位置および遺物包含層の分布



第27図　西3地点　調査区平面図



第28図　西3地点　調査区断面図

第5表　西3地点　調査区　土層観察表

調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　　徴
A-20 区	A-A' B-B'	Ⅵ a	黒色（10YR2/1）	粘土	植物遺存体わずか
		Ⅵ b	褐灰色（10YR4/1）	砂	植物遺存体わずか
		Ⅵ c	黒褐色（10YR2/2）	粘土	砂少量、植物遺存体わずか
A-25 区	C-C' D-D'	Ⅵ a	暗緑灰色（10GY3/1）	粘土	地山（X層）粒～中ブロック極多量、炭化物粒少量
		Ⅵ b	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	黒褐色（10YR3/1）粘土と互層。炭化物粒少量
		Ⅵ c	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（X層）粒少量、植物遺存体多量、炭化物粒やや多量
		Ⅵ d	褐灰色（10YR4/1）	シルト質粘土	炭化物粒やや多量
		Ⅵ e	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト質粘土	地山（X層）粒やや多量、炭化物粒少量
		Ⅵ f	灰黄褐色（10YR5/2）	シルト	地山（X層）粒～小ブロック多量
		Ⅵ g	黒褐色（10YR3/2）	シルト質粘土	地山（X層）粒少量
		Ⅵ h	にぶい黄褐色（10YR4/3）	シルト質粘土	地山（X層）粒少量
A-28 区	E-E' F-F'	Ⅵ a	黒褐色（10YR2/2）	粘土	黒褐色砂質シルトやや多量、炭化物粒中量、スクモわずか
		Ⅵ b	黒色（10YR2/1）	粘土	スクモわずか
		Ⅵ c	黒色（10YR2/2）	粘土	
A-29 区	G-G'	Ⅵ a	黒褐色（10YR2/2）	シルト	X層起源の小礫多量、炭化物粒・焼土粒わずか
		Ⅵ b	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ・X層）粒多量、炭化物粒わずか
		Ⅵ c	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ・X層）粒少量
		Ⅵ d	黒色（10YR2/1）	粘土	
SK6		1	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト	X層起源の小礫少量、炭化物粒わずか　【堆積土】
		2	灰黄褐色（10YR5/2）	シルト	X層起源の小礫やや多量　【堆積土】
		3	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト	X層起源の小礫多量、炭化物粒少量　【堆積土】
		4	にぶい黄褐色（10YR5/3）	粘土質シルト	地山（Ⅸ・X層）小ブロック多量　【堆積土】
P6		5	暗褐色（10YR3/3）	粘土質シルト	地山（Ⅸ・X層）粒中量、炭化物粒わずか　【堆積土】
P7		6	暗褐色（10YR3/3）	粘土質シルト	地山（Ⅸ・X層）粒多量、炭化物粒少量　【堆積土】
SK7		7	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	Ⅵ c 層起源か　【堆積土】
		8	黒褐色（10YR3/1）	粘土	砂多量　【堆積土】
P8		9	黒色（10YR2/1）	粘土	砂少量　【堆積土】
A-34 区	H-H' I-I'	Ⅵ	黒色（10YR2/1）	粘土	スクモ少量

第6表　西3地点　北斜面遺物包含層の対応関係　（⇔：同一層　≒：近似層）

調査区・層名					大別層群		
A-20 区		A-25 区東		A-28 区	層名	堆積場所	特　　徴
		Ⅵ a			1 層群	A-25 区全域	地山ブロックを多く含む粘土
Ⅵ a	≒	Ⅵ b	≒	Ⅵ a	2 層群	斜面部	砂を多く含む粘土、植物を含む
Ⅵ b		Ⅵ c					
Ⅵ c	≒	Ⅵ d	≒	Ⅵ b	3 層群		植物をわずかに含む粘土～シルト質粘土
		Ⅵ e		Ⅵ c			
		Ⅵ f			4 層群	丘陵からやや離れた斜面部	地山ブロックを多く含むシルト
		Ⅵ g			5 層群		シルト質粘土
		Ⅵ h					

第7表　西3地点　南斜面遺物包含層の対応関係　（⇔：同一層　≒：近似層）

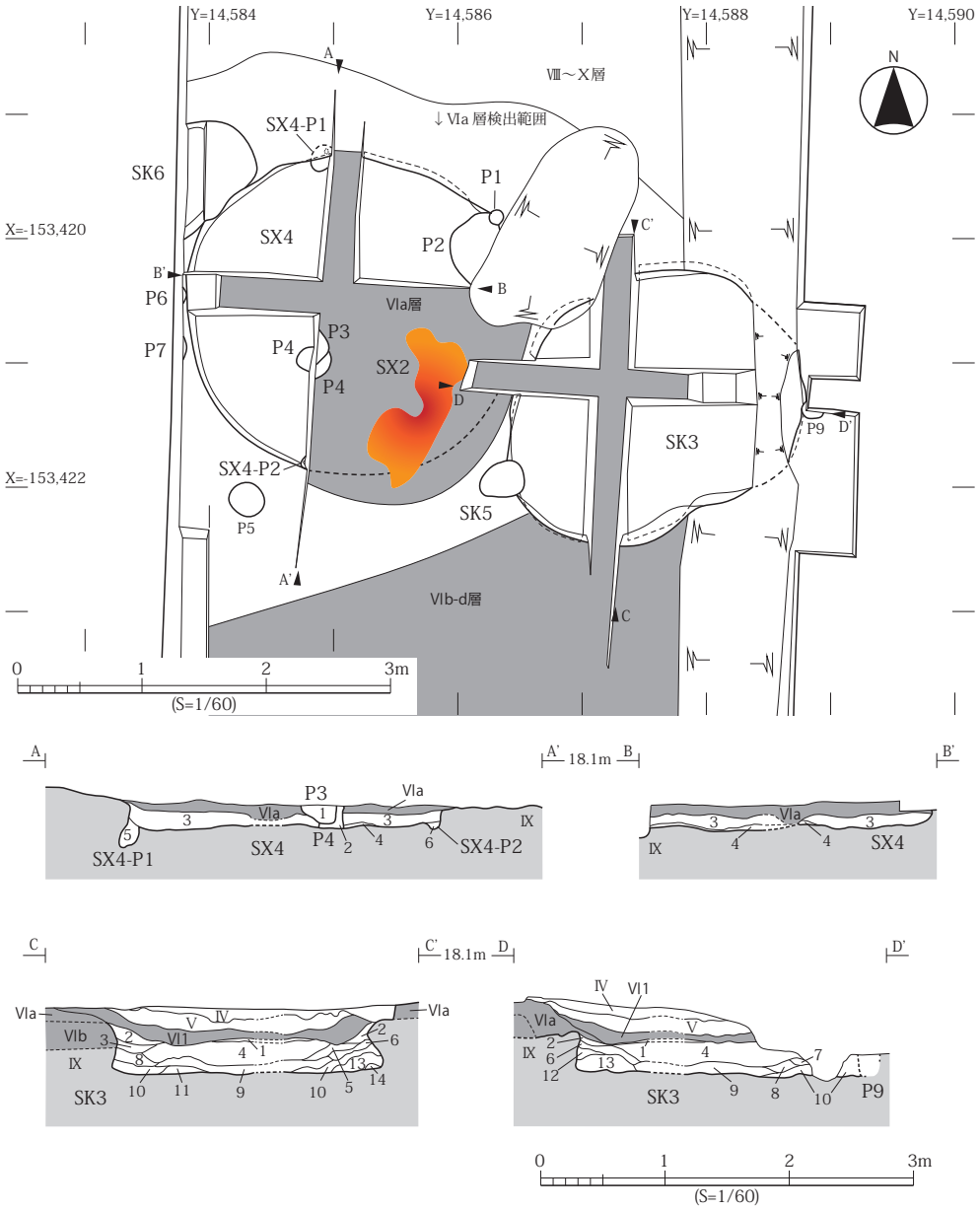
調査区・層名			大別層群		
A-29 区		A-34 区	層名	堆積場所	特　　徴
Ⅵ 1			1 層群	斜面部	地山粒を含み、炭化物粒や焼土粒をわずかに含む粘土質シルト～シルト
Ⅵ a					
Ⅵ b					
Ⅵ c			2 層群	丘陵からやや離れた斜面部	地山粒を少量含むシルト質粘土
Ⅵ d	≒	Ⅵ	3 層群	丘陵からやや離れた斜面部	粘土

に覆われる。SK6 土坑およびピット 4 個と重複し、SK6 より新しく、ピットよりも古い。平面形は、直径 260cm の円形を呈する。断面形は皿形を呈し、深さが 23cm ある。壁は床面からほぼまっすぐに立ち上がり、床面は平坦となっている。壁および床面はいずれもⅨ層である。壁際の床面でピットを 2 個検出しており、主柱穴の可能性がある。堆積土は 2 層あり、いずれも自然堆積土である。

出土した遺物には土器や石器があり、遺構底面からは縄文土器深鉢や皿、壺が出土している（第 30 図）。皿には、沈線で表現される簡素化した雲形文が見られる。遺構底面の土器型式から、晩期中葉後半（晩期 4b 期）に位置づけられる。

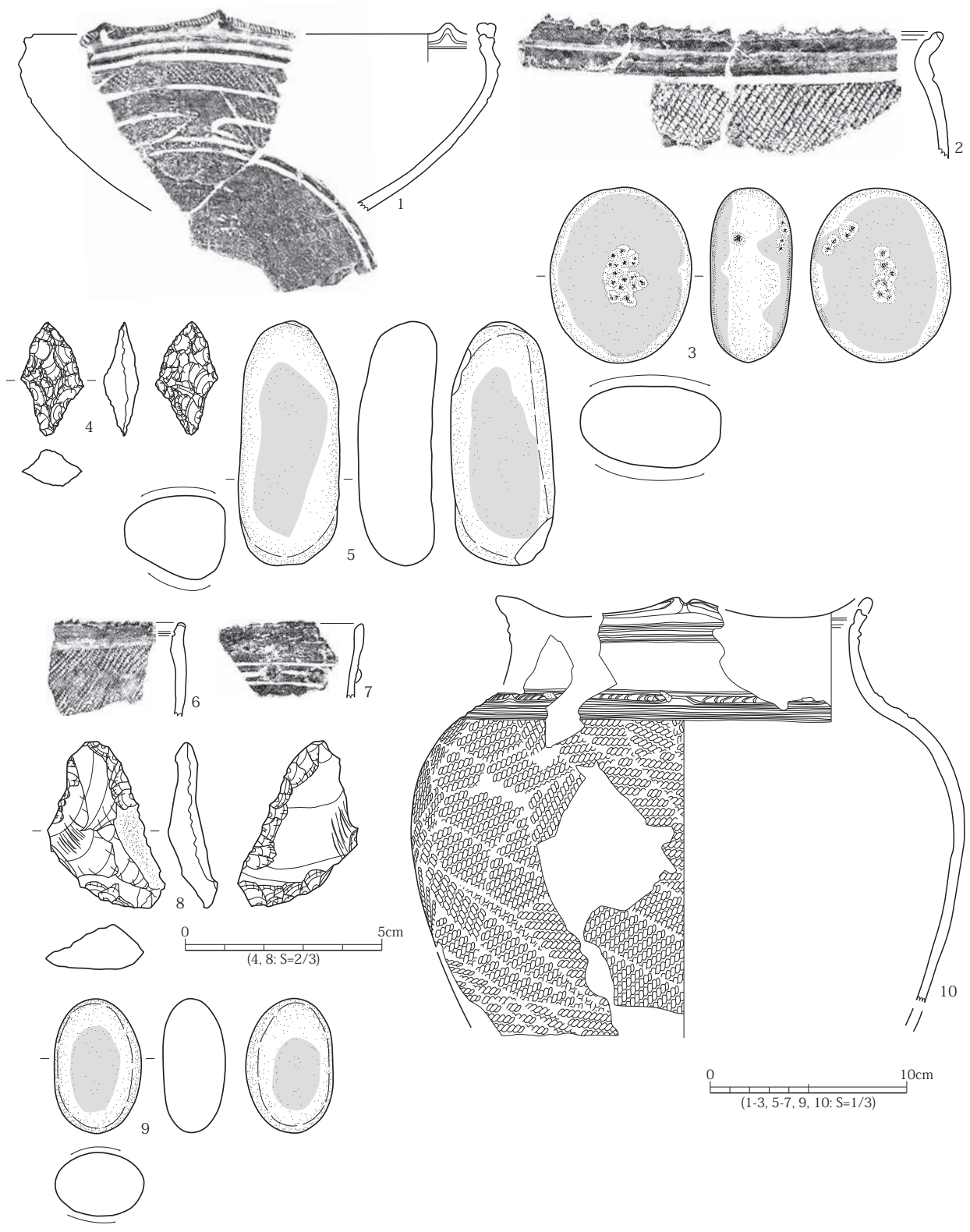
【SK3 土坑】

A-29 区北部のほぼ平坦な丘陵上で検出した（第 29 図）。検出面はⅥ b 層およびⅨ層上面で、遺物包含層（Ⅵ 1 層、Ⅵ a 層）に覆われる。SK5 土坑およびピット 1 個と重複し、これらよりも古い。



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
P3	A-A' B-B'	1	灰黄褐色（10YR4/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ・Ⅹ層）中ブロック中量、地山粒・炭化物粒わずか　【堆積土】
P4		2	灰黄褐色（10YR5/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ・Ⅹ層）小～中ブロック多量、炭化物粒・焼土粒・灰わずか　【堆積土】
SX4		3	灰黄褐色（10YR4/2）	粘土質シルト	Ⅹ層起源の白色礫わずか、地山（Ⅸ層）小ブロック少量、炭化物粒・焼土粒わずか　【堆積土】
		4	灰黄褐色（10YR4/2）	粘土質シルト	【堆積土】
SX4-P1		5	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト	地山（Ⅸ層）粒わずか　【堆積土】
SX4-P2		6	黒褐色（10YR3/2）	粘土質シルト	【堆積土】
A-29 区	C-C' D-D'	Ⅵ 1	にぶい黄褐色（10YR4/3）	シルト	地山（Ⅸ・Ⅹ層）粒わずか。調査区壁面では確認されない遺物包含層
SK3		1	にぶい黄褐色（10YR4/3）	シルト	炭化物粒主体　【埋土】
		2	にぶい黄褐色（10YR4/3）	シルト	地山（Ⅸ層）粒多量　【堆積土】
		3	暗褐色（10YR3/3）	シルト	地山（Ⅸ層）粒・炭化物粒わずか　【堆積土】
		4	灰黄褐色（10YR5/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小～中ブロック多量　【埋土】
		5	暗褐色（10YR3/3）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒少量、炭化物粒わずか　【埋土】
		6	黒褐色（10YR2/2）	シルト	地山（Ⅸ層）粒やや多量、地山小ブロックわずか　【埋土】
		7	黒褐色（10YR2/2）	シルト	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック多量　【埋土】
		8	灰黄褐色（10YR5/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック多量　【埋土】
		9	灰黄褐色（10YR5/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小～中ブロック多量、砂わずか　【埋土】
		10	黒色（10YR2/1）	粘土	【堆積土】
		11	黒色（10YR2/1）	粘土	地山（Ⅸ層）小～中ブロック多量　【堆積土】
		12	灰黄褐色（10YR5/2）	シルト	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック多量、黒褐色シルトわずか　【堆積土】
		13	にぶい黄橙色（10YR6/3）	粘土	砂わずか　【堆積土】
		14	黄褐色（10YR6/5）	砂	【堆積土】

第29図　SX4竪穴状遺構、SK3土坑　平面図・断面図



【SX4】1: 浅鉢 / SX4・底面 / 25図2, 2: 深鉢 / SX4・底面 / 25図1, 3: 磨石 / SX4・1層 / 25図4, 4: 石鏃 / SX4・イカク / 25図3, 5: 磨石 / SX4イカク / 25図5
【SK3】6: 深鉢 / SK3・底面 / 22図1, 7: 深鉢 / SK3・10層 / 22図2, 8: 不定形石器 / SK3・1-2層 / 22図4, 9: 磨石 / SK3・11-12層 / 22図3
【SK5】10: 壺 / SK5・堆積土 / 23図1 （宮城県文化財調査報告書第223集）

第30図　SX4竪穴状遺構、SK3・5土坑　出土遺物

平面形は、長径 230cm ×短径 210cm の不整円形を呈する。断面形は、底面がほぼ平坦で、開口部よりも底面付近が広くなる台形を呈し、深さが 46cm ある。その形状から貯蔵穴とみられる。その後、壁面等の崩落により壁際が一部埋没した後に埋め戻されている。

出土した遺物には土器や石器があり、堆積土下層から深鉢や鉢、磨石、剥片が出土している（第 30 図）。鉢には、平行沈線に二個一対の貼瘤で表現されたπ字文が施されたものがある（同図 7）。おおむね晩期後葉（大洞 A 式新段階、晩期 5c 期）以降に位置づけられる。なお、上層から出土した炭化物について放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,520 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 757 ～ 550calBC となり、縄文時代晩期中葉から後葉頃の年代値（小林　2019）が得られている。出土した土器からは晩期後葉以降に位置づけられるが、遺物包含層との重複関係では、後述するⅥb 層よりも新しいことから、弥生時代前期（弥生 1 期）に位置づけられる。

(2) 遺物包含層と出土遺物

遺物包含層（Ⅵ層）は、A-20・21・23・24・25・26・28・29・34 区で検出した。その範囲は、東西約 170m（A-21 区と A-29 区間の直線距離）、南北約 60m（A-26 区と A-29 区間の直線距離）ある。なお、A-20 区の西側の丘陵裾部は調査対象外であり、A-20 区の北側にある調査区（B-26 区など）や A-29 区の東側にある調査区（A-31 区など）、A-21 区の南側にある調査区（A-22 区）ではⅥ層を確認できなかった。

Ⅵ層上面は、A-20・25・28 区では北に、A-29・34 区では南に緩やかに傾斜する地形となっている。調査区壁面におけるⅥ層の検出範囲は、A-20 区東壁では直線距離で約 6.1m あり、Ⅵ層上面での比高は約 1.0m、勾配は約 16.4%、A-28 区西壁では直線距離で約 10.8m あり、Ⅵ層上面での比高は約 1.1m、勾配は約 10.2%、A-29 区西壁では直線距離で約 13.1m あり、Ⅵ層上面での比高は約 1.4m、勾配は約 10.7% である。

この地点における遺物包含層（Ⅵ層）は、地形により北斜面と南斜面に大別される。北斜面の遺物包含層は、土色や土性、含有物などの特徴から、遺物が多く出土した調査区でおおむね 3 ～ 8 層に細分される。調査区によりⅥ層の堆積状況は異なるため、各調査区における細分層名は同一のものではないが、それぞれの層の特徴からこれらを 1 層群から 5 層群に再構成した（第 6 表）。

遺物は 5 層群から 1 層群まで出土しているが、上層の 1 層群や 2 層群で多く出土している。遺物量はすべての種類を合わせると、遺物収納箱換算で約 5 箱相当である。

土器は、3 層群から工字文が施された四脚付浅鉢（第 32 図 3）などが出土した。また、この大別層群から出土した深鉢 1 点（同図 2）について、土器付着炭化物を対象として放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,320 ± 30yrBP、暦年較正年代（1σ）が 456 ～ 388calBC となり、縄文時代晩期末葉から弥生時代前期頃に相当する年代値（小林　2019）が得られた。2 層群からは、綾杉状文が施された鉢（同図 5）や変形工字文が施された鉢・浅鉢（同図 7 ～ 9・11）、上下対向のπ字文が施された鉢（同図 10）などが出土している。1 層群からは、上下対向のπ字文が施された浅鉢（同図 14）などが出土した。

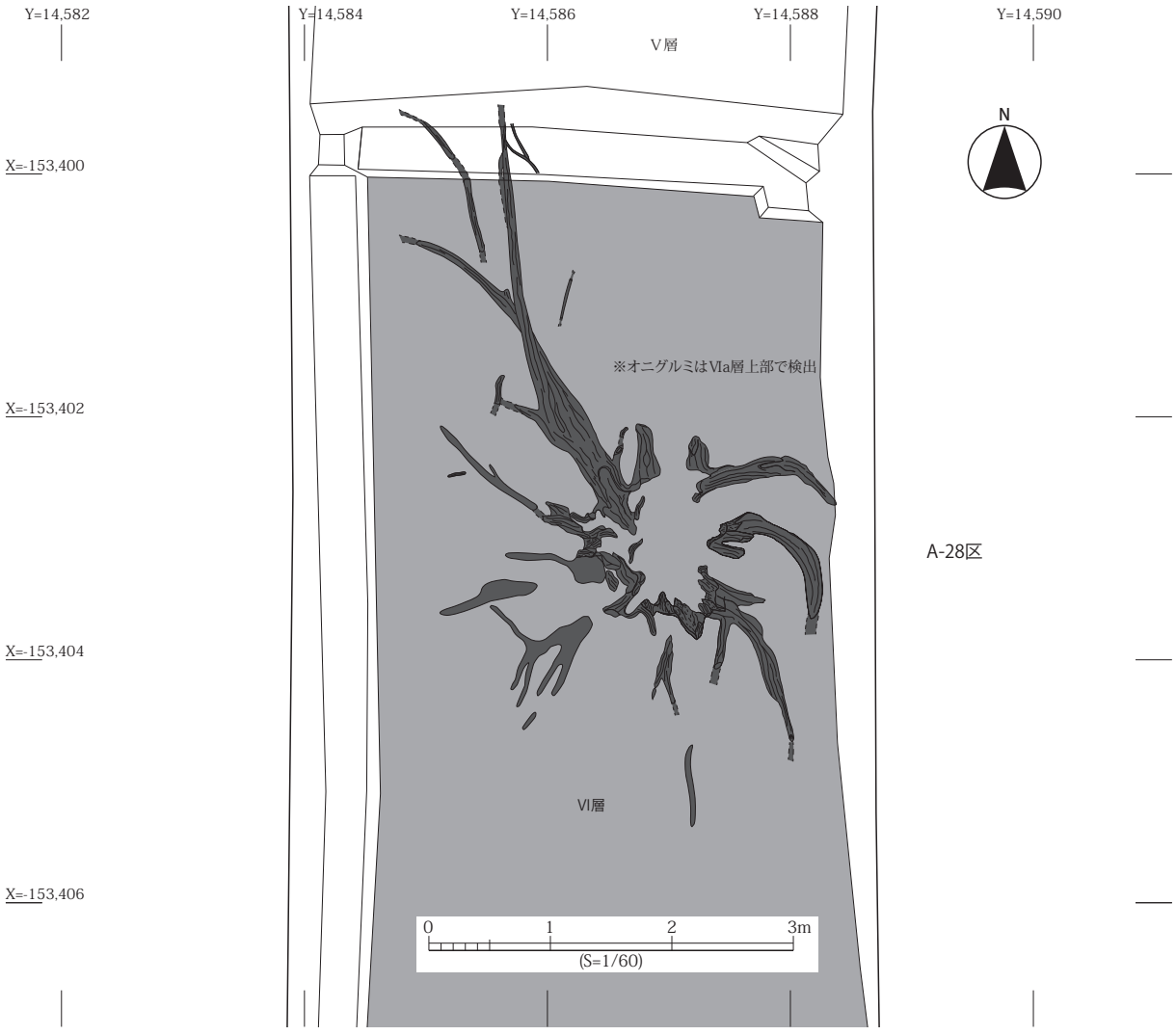
土製品には、土偶頭部（第 33 図 1）や土偶脚（同図 2）がある。土偶頭部は、晩期中葉から後葉頃によく見られる角状の突起をもつ土偶の一部である。

石器･石製品には、石鏃や尖頭器、石錐、石匙、石篦、磨製石斧、板状石器、石皿、磨石などの礫石器、石棒･石刀などがある（第 33 図）。板状石器は粘板岩製で、周辺を剥離により成形している（同図 8）。

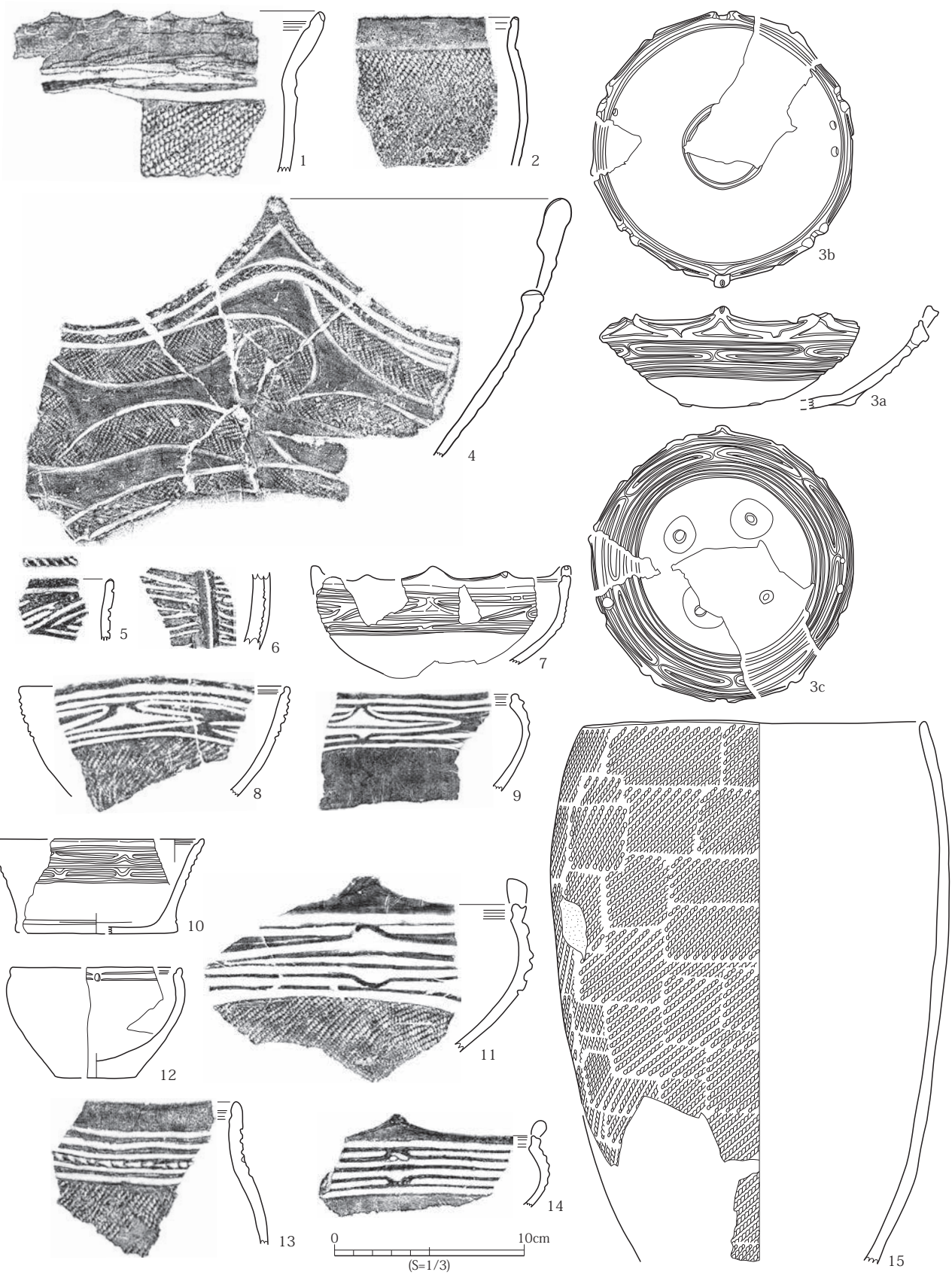
以上の遺物のほかに、A-25 区ではニワトコの集積、A-29 区ではオニグルミの根張りを検出した。なお、オニグルミの根張り（2 試料）について、放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、1 試料目は ^{14}C 年代が 2,220 ± 30yrBP、暦年較正年代（1σ）が 360 ～ 216calBC となり、弥生時代前期から中期頃に相当する年代値（小林 2009）、2 試料目は ^{14}C 年代が 2,310 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 401 ～ 380calBC となり、弥生時代前期頃に相当する年代値（小林　2019）が得られた。

南斜面の遺物包含層は、遺物が多く出土した調査区でおおむね 1 ～ 4 層に細分される。調査区によりⅥ層の堆積状況は異なるため、各調査区における細分層名は同一のものではないが、それぞれの層の特徴からこれらを 1 層群から 3 層群に再構成した（第 7 表）。

遺物は 3 層群から 1 層群まで出土しているが、1 層群で多く出土している。遺物量はすべての種類

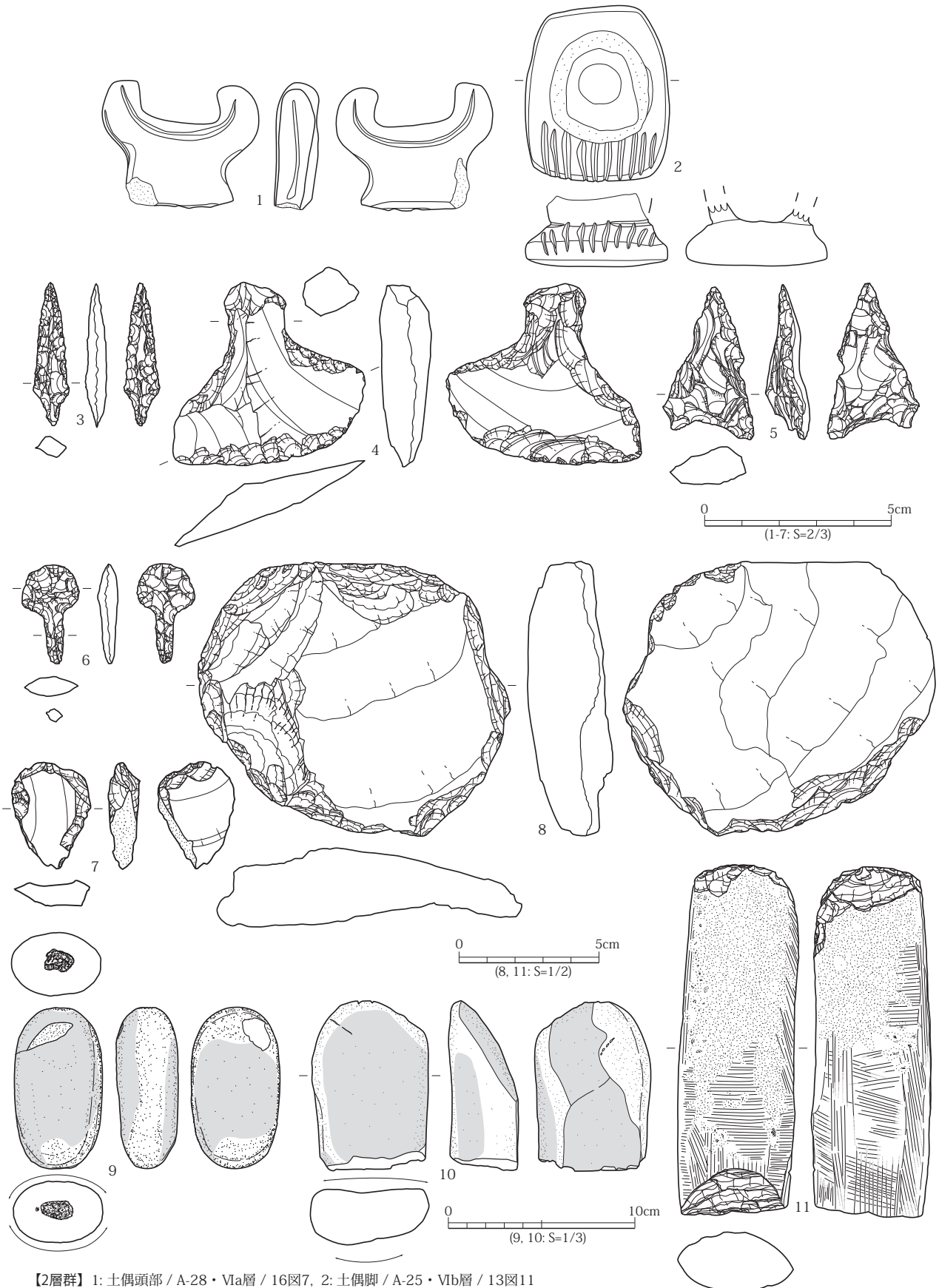


第31図　A-28区　オニグルミ根張り　検出状況



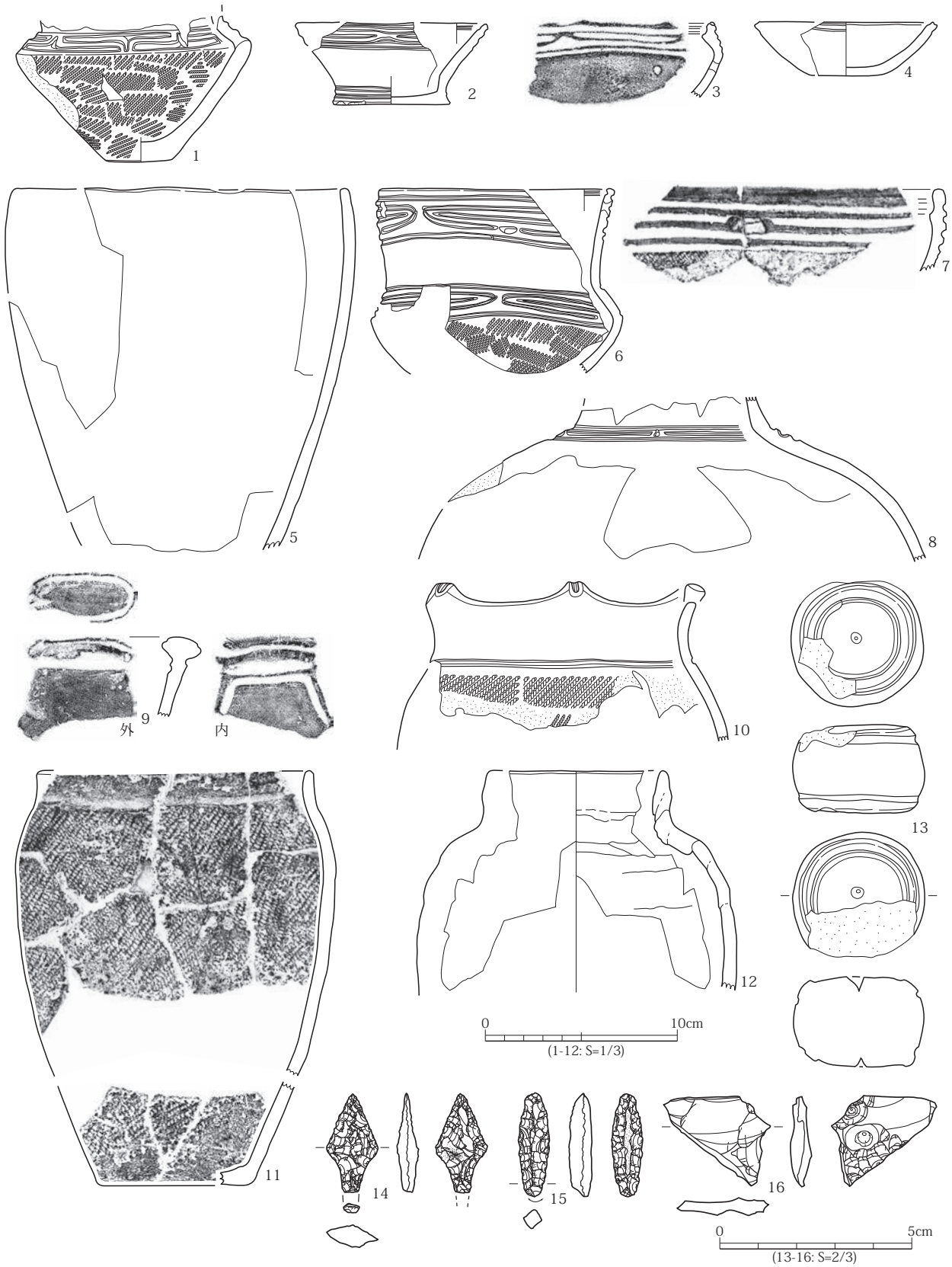
【5層群】1: 深鉢 / A-25・Ⅵg層 / 13図1
【3層群】2: 深鉢 / A-28・Ⅵb層 / 16図1, 3: 浅鉢 / A-20・Ⅵc層 / 11図4
【2層群】4: 深鉢 / A-28・Ⅵa層 / 16図6, 5: 鉢 / A-28・Ⅵa層 / 16図4, 6: 壺 / A-28・Ⅵa層 / 16図5, 7: 浅鉢 / A-25・Ⅵc層 / 13図2, 8: 鉢 / A-25・Ⅵb層 / 13図6, 9: 鉢 / A-25・Ⅵb層 / 13図8, 10: 鉢 / A-25・Ⅵc層 / 13図3, 11: 浅鉢 / A-25・Ⅵb層 / 13図9, 12: 鉢 / A-25・Ⅵb層 / 13図7, 13: 深鉢 / A-25・Ⅵb層 / 13図5, 15: 深鉢 / A-28・Ⅵ層 / 16図8
【1層群】14: 浅鉢 / A-25・Ⅵa / 13図12 （宮城県文化財調査報告書第223集）

第32図　西3地点　北斜面遺物包含層　出土土器



【2層群】1: 土偶頭部 / A-28・VIa層 / 16図7, 2: 土偶脚 / A-25・VIb層 / 13図11
【3層群】3: 石鏃 / A-23・VIb層 / 57図1, 4: 石匙 / A-20・VIc層 / 10図1
【2層群】5: 尖頭器 / A-28・VIa層 / 17図1, 6: 石錐 / A-25・VIb層 / 14図1, 7: 不定形石器 / A-25・VIb層 / 14図2,
8: 板状石器 / A-28・VI層 / 17図2, 9: 磨石 / A-28・VIa層 / 17図4, 10: 磨石 / A-28・VIa層 / 17図3, 11: 磨製石斧 / A-20・VI層 / 10図2
（宮城県文化財調査報告書第223集）

第33図　西3地点　北斜面遺物包含層　出土土製品・石器



【3層群】1: 壺 / A-34西・Ⅵ層 / 27図3, 2: 鉢 / A-34西・Ⅵ層 / 27図4, 3: 浅鉢 / A-34西・Ⅵ層 / 27図6, 4: 浅鉢 / A-34西・Ⅵ層 / 27図5, 5: 深鉢 / A-34東・Ⅵ層 / 27図2
【2層群】6: 鉢 / A-29・Ⅵc層 / 19図2
【1層群】7: 鉢 / A-29・Ⅵb層 / 19図5, 8: 壺 / A-29・Ⅵ1層 / 19図6, 9: 台付浅鉢 / A-29・Ⅵ1層 / 19図7, 10: 深鉢 / A-29・Ⅵb層 / 19図3, 11: 深鉢 / A-29・Ⅵb層 / 19図4, 12: 壺 / A-29・Ⅵ層 / 19図8, 13: 円形土製品 / A-29・Ⅵ層 / 19図9, 14: 石鏃 / A-29・Ⅵ層 / 20図1, 15: 石錐 / A-29・Ⅵ層 / 20図2, 16: 不定形石器 / A-29・Ⅵ層 / 20図3 （宮城県文化財調査報告書第223集）

第34図　西3地点　南斜面遺物包含層　出土土器・土製品・石器

を合わせると、遺物収納箱換算で約 4 箱相当である。

土器は、3 層群からπ字文が施された鉢・浅鉢・壺（第 34 図 1 ～ 3）などが出土した。2 層群からは変形工字文が施された鉢（同図 6）などが出土している。1 層群からは、工字文が施された壺（同図 8）や、π字文が施された鉢（同図 7）、大波状口縁で装飾的な突起をもつ深鉢や台付浅鉢（同図 9・10）などが出土した。なお、同図 6・9・10 は栗原市青木畑遺跡（宮城県教育委員会　1982a）や同市山王囲遺跡Ⅲ l・m 層出土資料（須藤　1983）に類例が認められる。

土製品には貫通孔の穿たれた円形土製品（第 34 図 13）があり、石器には石鏃や石錐、不定形石器などがある（同図 14 ～ 16）。

(3) 集落の時期と特徴

遺物包含層から出土した土器型式や土器付着炭化物の年代測定から、西 3 地点の遺物包含層は、おもに晩期後葉（大洞 A 式中段階、晩期 5b 期）から弥生時代前期（青木畑式、弥生 2a 期）に形成されたものとみられる。なかでも、北斜面の遺物包含層は 3 層群以上が晩期末葉（大洞 A' 式、晩期 6 期）、南斜面の遺物包含層は 2 層群以上が弥生時代前期と考えられる。南斜面の遺物包含層の 1 層群に覆われる竪穴状遺構や土坑は、それぞれ晩期中葉後半、晩期後葉とみられ、これに矛盾しない。

西 3 地点では、丘陵の東端部において、本遺跡および周辺遺跡ではあまり検出されない竪穴状遺構と大型の貯蔵穴を検出している。これらの施設を含めて、丘陵上では居住を伴う集落が営まれていたものとみられる。しかしながら、丘陵頂部の大部分がすでに削平を受けており詳細をつかむことは難しい状況となっている。

本地点は、諏訪遺跡の位置する丘陵から半島状に東に細長く延びる低丘陵とその周辺に当たる。この地点での発掘調査は確認調査対象であったために、遺物包含層の最上層のみで調査を終えることが多く、下層まで精査することはなかったが、広範囲で遺物包含層を検出している。しかしながら、遺物包含層を広範囲に検出したものの遺物量はあまり多くない。居住域の可能性はあるが、その規模はあまり大きくなかった可能性が考えられる。また、遺物は晩期後葉から弥生時代前期が主体となるが、晩期前葉や後期後葉の遺物も散見され、長期間この場で生活が営まれていたとみられる。

写真13　A-28区　調査風景（北東から）

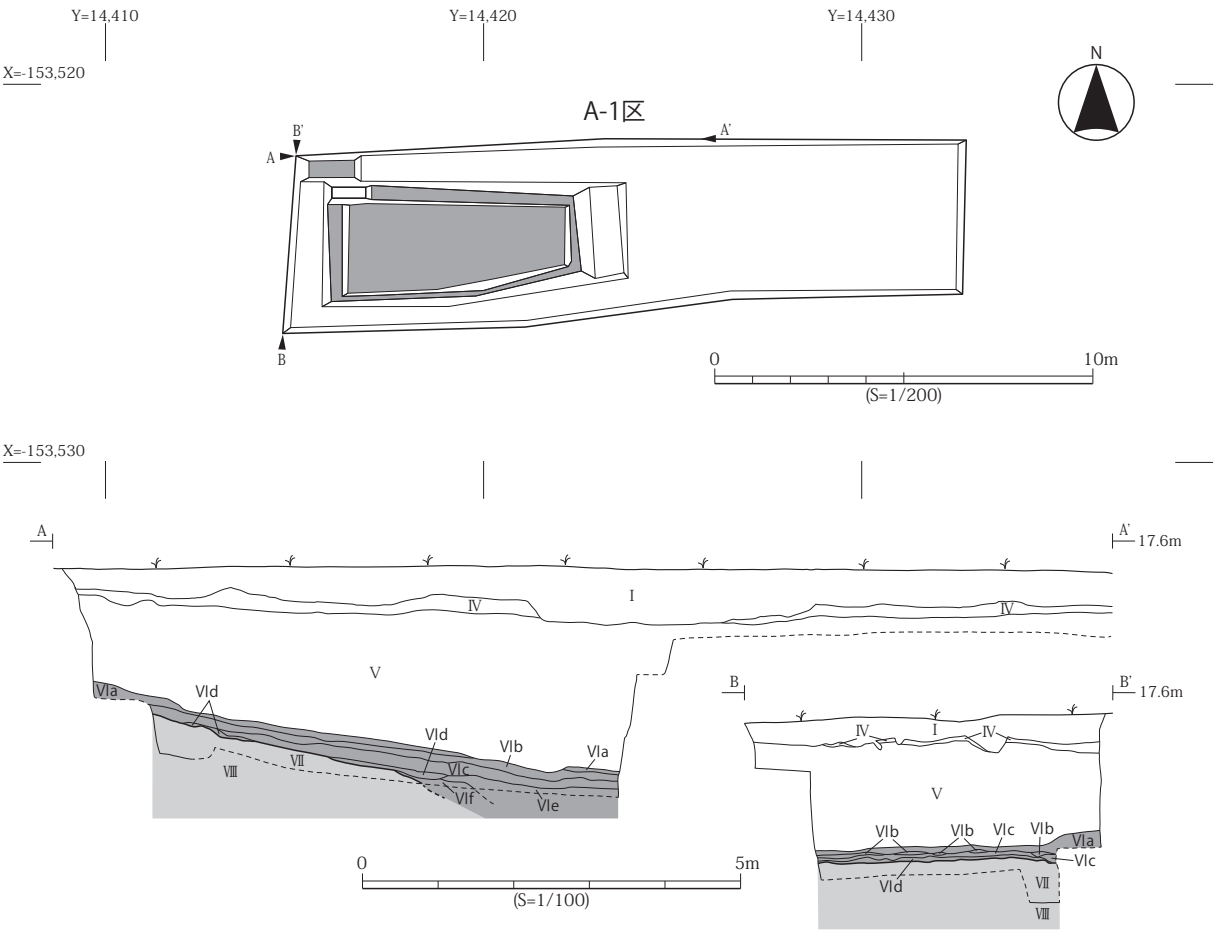
写真14　A-29区　調査風景（南東から）

3. 西 4 地点

西 4 地点は、西 B 丘陵の標高が高い部分の南東部に位置し、丘陵裾部で遺物包含層を検出した（西 B 丘陵南斜面 b 包含層）。この地点に含まれる発掘調査区は A-1 区のみである（第 26 図）。遺物は、縄文土器や石器、動物遺存体、植物遺存体が出土している。

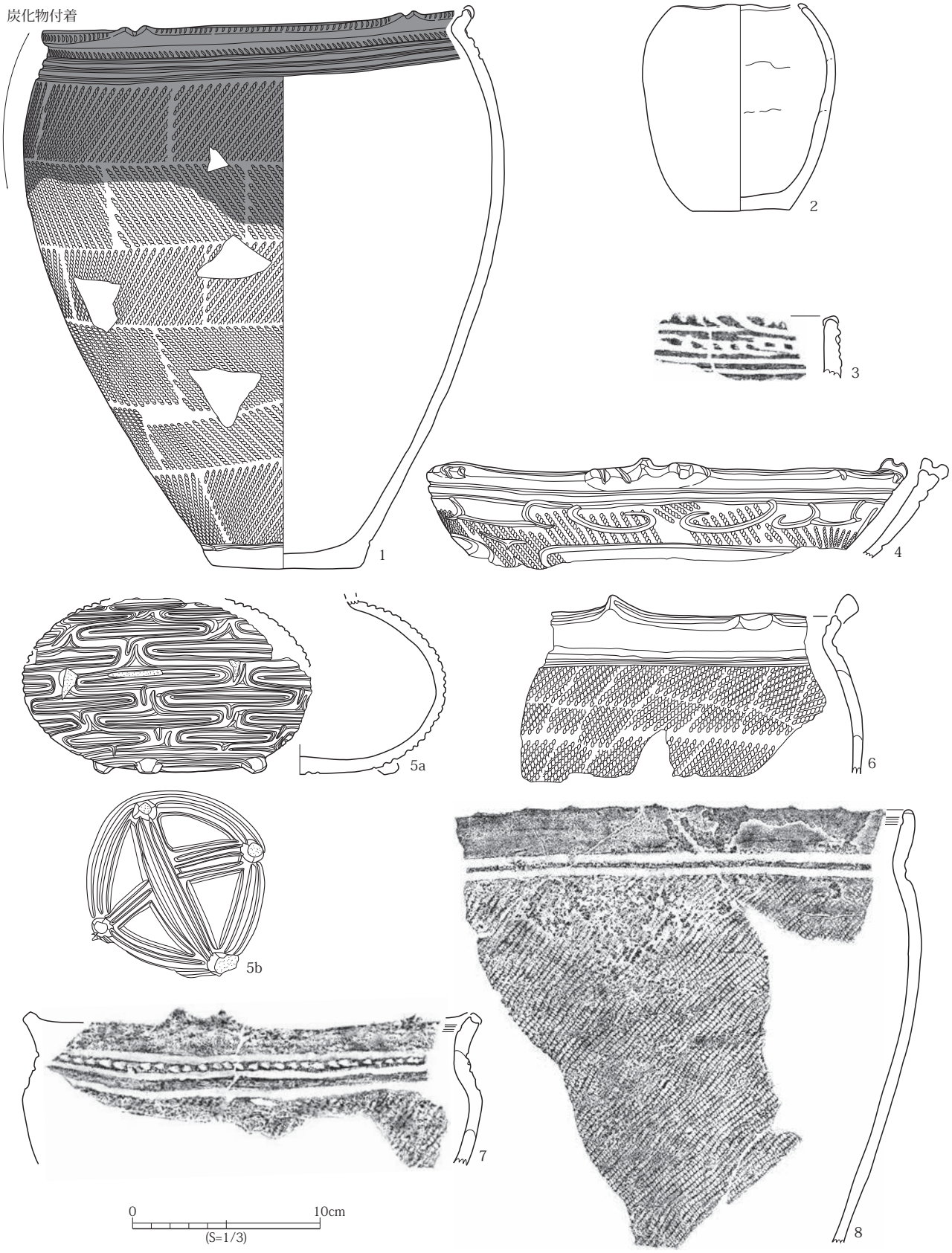
(1) 遺物包含層と出土遺物

遺物包含層（Ⅵ層）は A-1 区で検出した。その範囲は東西約 7m、南北約 4m ある（A-1 区における検出範囲）。なお、A-1 区の北側にある調査区（A-22 区）や西側にある調査区（A-2 区など）、南西側にある調査区（C-27 区）ではⅥ層を確認できなかった。ただし、A-1 区から丘陵に沿って西側約 100m のところに位置する C-7 区で、Ⅵ層中から遺物がわずかに出土していることから、丘陵南斜面のより丘陵に近いところで遺物包含層が広がっていた可能性がある。



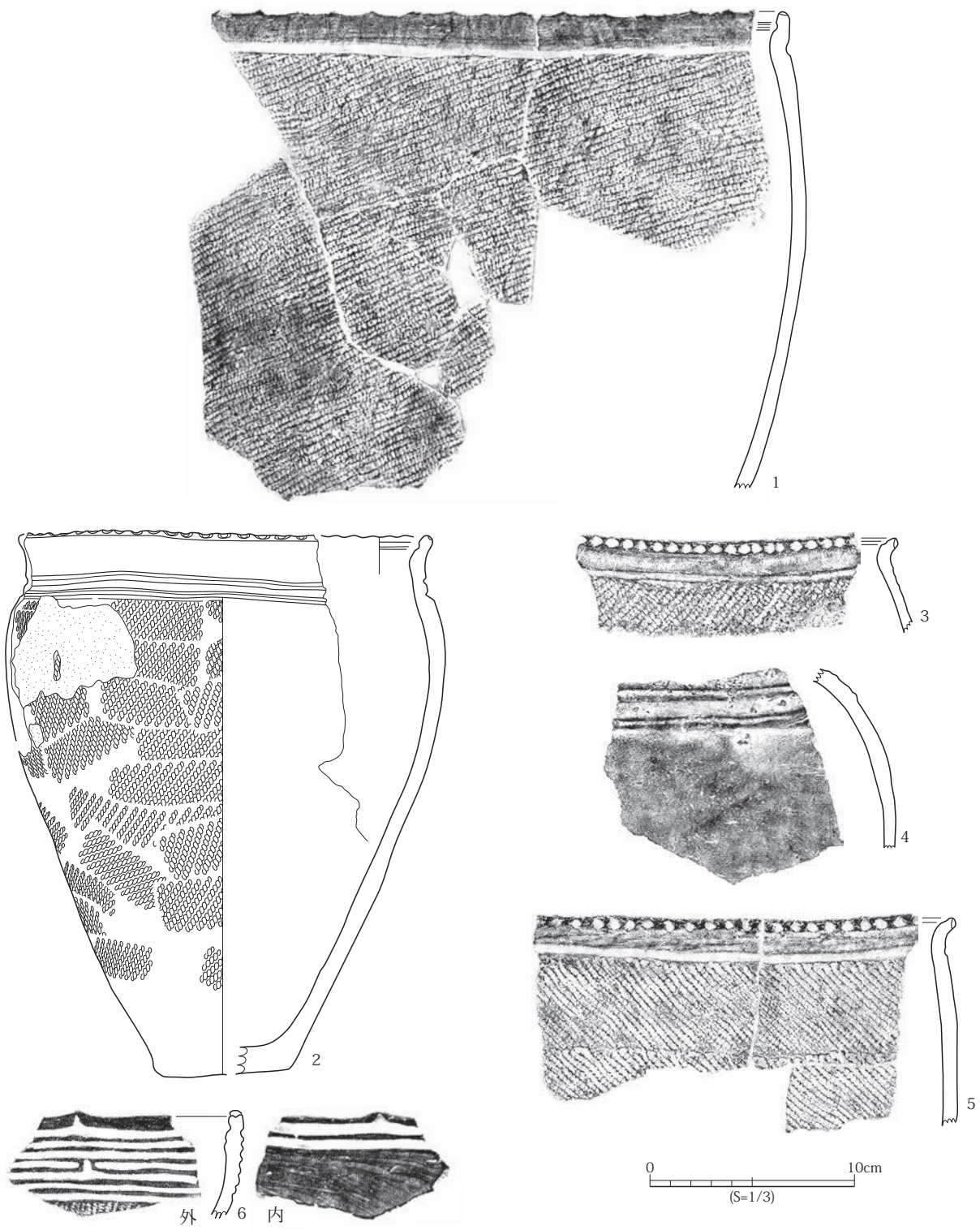
調査区 / 遺構	層序		土色	土性	特徴
A-1 区	A-A' B-B'	Ⅵa	黒色（10YR1.7/1）	粘土	炭化物粒・植物遺存体中量
		Ⅵb	黒褐色（10YR3/1）	粘土	スクモ・炭化物粒・植物遺存体中量
		Ⅵc	暗灰黄色（2.5Y4/2）	砂まじり粘土	スクモ多量、植物遺存体中量
		Ⅵd	黒褐色（2.5YR3/1）	砂	植物遺存体中量
		Ⅵe	暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）	シルト質粘土	スクモ主体、植物遺存体中量
		Ⅵf	黒褐色（2.5Y3/1）	粘土	スクモラミナ状、植物遺存体中量

第35図　西4地点　調査区平面図・断面図



【VIe層】1: 深鉢 / A-1・VIe層 / 6図1, 2: 深鉢 / A-1・VIe層 / 6図2
【VId層】3: 鉢 / A-1・VId層 / 6図3, 4: 皿 / A-1・VId層 / 6図6, 5: 四脚付壺 / A-1・VId層 / 6図5, 6: 深鉢 / A-1・VId層 / 6図4
【VIc層】7: 深鉢 / A-1・VIc層 / 7図1, 8: 深鉢 / A-1・VIc層 / 7図2（宮城県文化財調査報告書第223集）

第36図　西4地点　出土土器（1）



【Ⅵc層】1: 深鉢 / A-1・Ⅵc層 / 7図3
【Ⅵb層】2: 深鉢 / A-1・Ⅵb層 / 7図4，3: 深鉢 / A-1・Ⅵb層 / 7図5，4: 壺 / A-1・Ⅵb層 / 7図6
【Ⅵa層】5: 深鉢 / A-1・Ⅵa層 / 8図1，6: 鉢 / A-1・Ⅵa層 / 8図2（宮城県文化財調査報告書第223集）

第37図　西4地点　出土土器（2）

Ⅵ層上面は東に緩やかに傾斜する地形となっている。調査区北壁におけるⅥ層の検出範囲は、直線距離で約 6.9m あり、Ⅵ層上面での比高は約 1.2m、勾配は約 17.5% である。

遺物包含層は、土色や土性、含有物などの特徴から、おおむね 6 層に細分される。遺物はⅥ f 層か

らⅥａ層まで出土しているが、上層のⅥｂ層やⅥａ層で多く出土している。縄文土器や石器などが出土しており、遺物量は、遺物収納箱換算で２箱程度である。

縄文土器は、Ⅵｄ層から、列点文が施された鉢（第36図3）や、やや簡素化した雲形文が施された皿（同図4）、入り組んだ工字文が施された四脚付壺（同図5）などが出土した。Ⅵｃ層からは深鉢などが出土しているが、この層から出土した深鉢１点（同図8）について、土器付着炭化物を対象として放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、^{14}C年代が2,390±30yrBP、暦年較正年代（1σ）が721～416calBCとなり、縄文時代晩期後葉から弥生時代前期頃の年代値（小林　2019）が得られた。Ⅵａ層からはπ字文が施された鉢（第37図6）などが出土している。石器は、石皿と剥片が出土した。

（2）集落の時期と特徴

遺物包含層から出土した土器型式や土器付着炭化物の年代測定から、西４地点の遺物包含層は、おおむね晩期中葉（大洞C2式、晩期４期）から晩期後葉（大洞Ａ式、晩期５期）に形成されたものとみられる。わずかに古い時期の遺物が散見されるものの、ほかの地点と比べて時期幅がやや狭い。

なお、本地点は遺物包含層の検出深度が深く、集落の存在が想定される丘陵からやや離れた地点であるとみられる。したがって、遺物包含層の形成要因となる集落の性格や場の特徴をつかむことは難しいものと考える。

写真15　A-1区　遺物包含層（南西から）

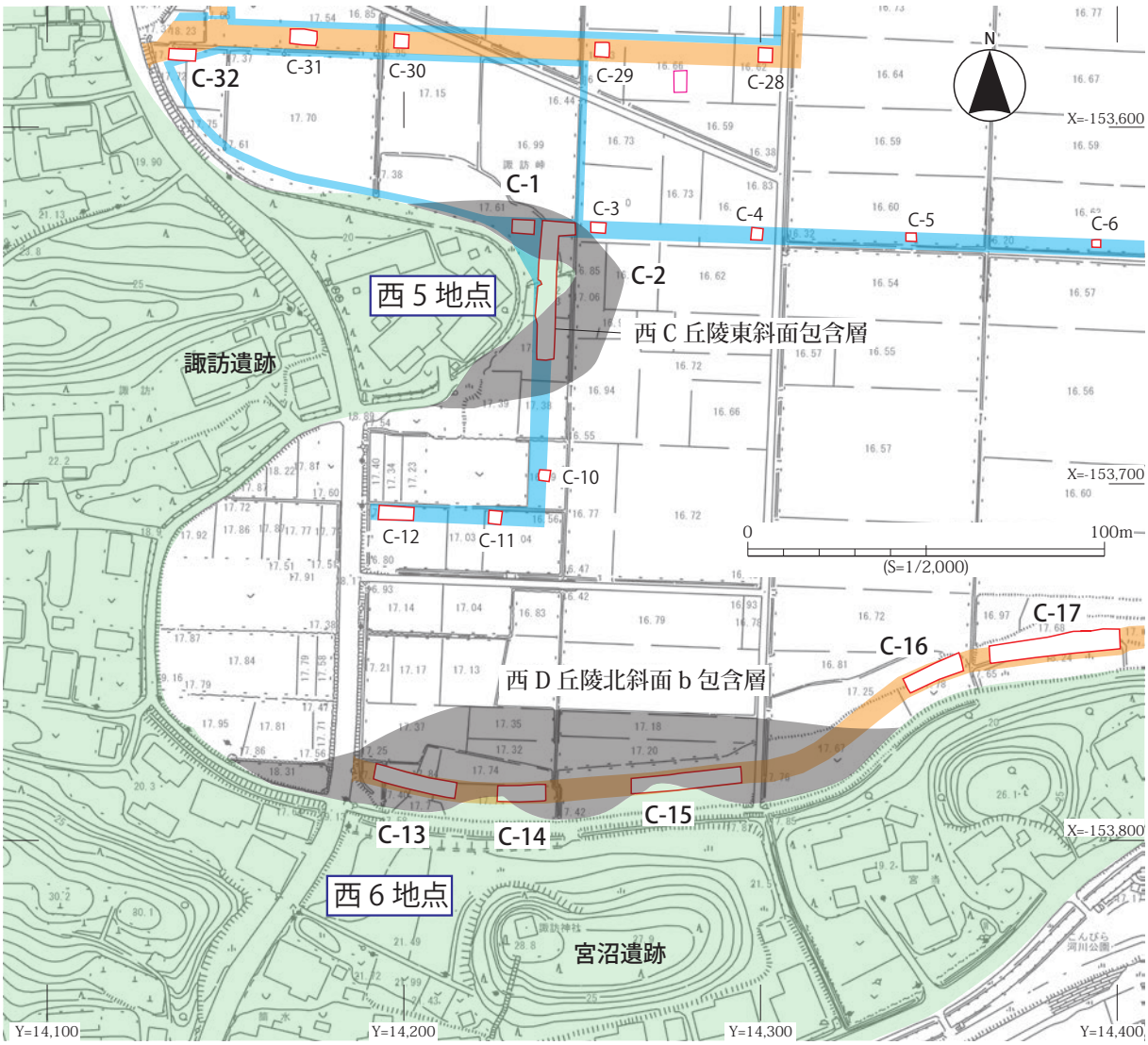
写真16　A-1区　調査風景（南東から）

4. 西 5 地点

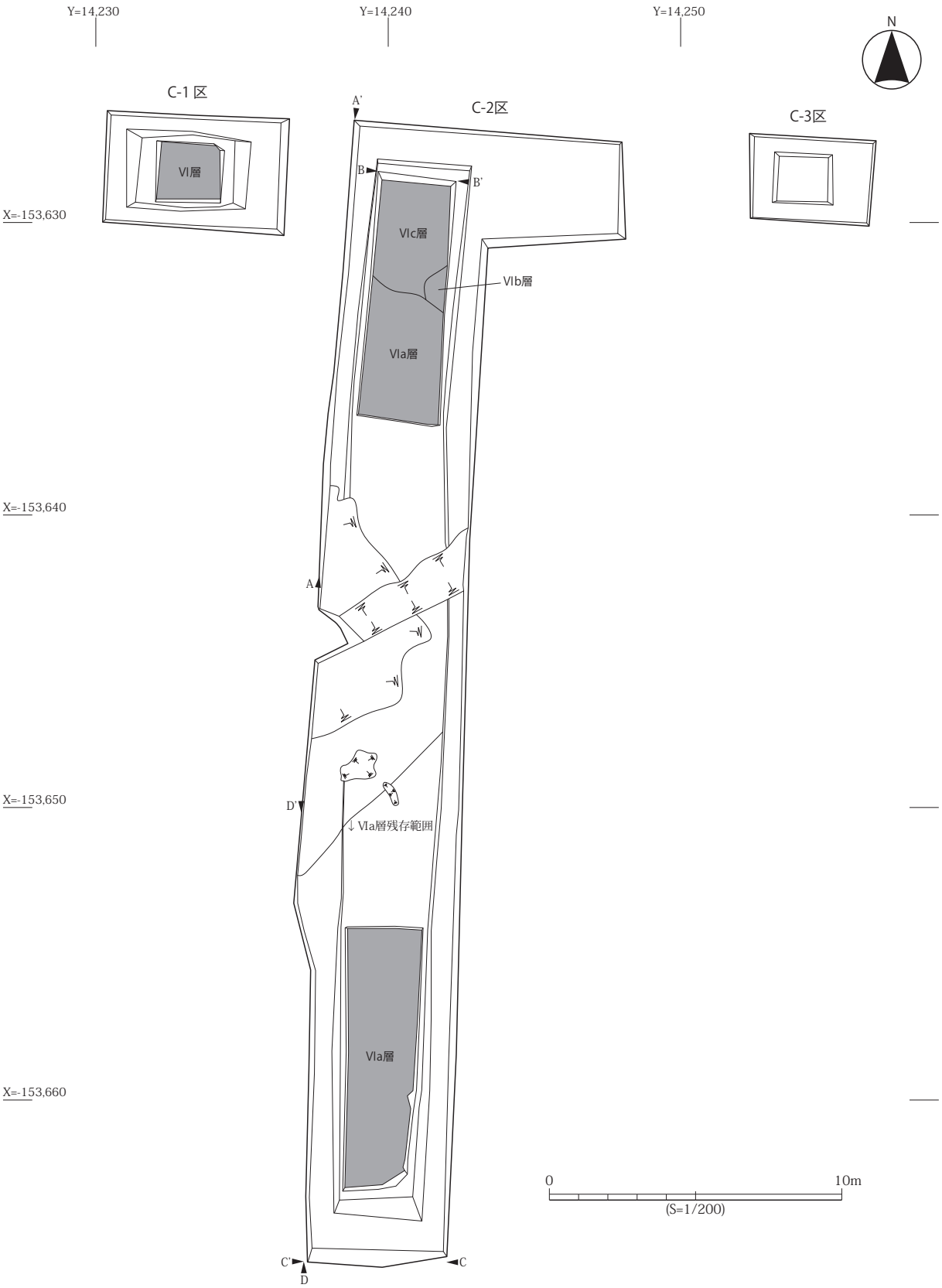
西 5 地点は、西 C 丘陵の東端部に位置し、丘陵裾部で遺物包含層を検出した（西 C 丘陵東端部包含層）。この地点に含まれる発掘調査区は C-1 区と C-2 区である（第 38 図）。遺物は、縄文土器や石器、植物遺存体が出土している。

（1）遺物包含層と出土遺物

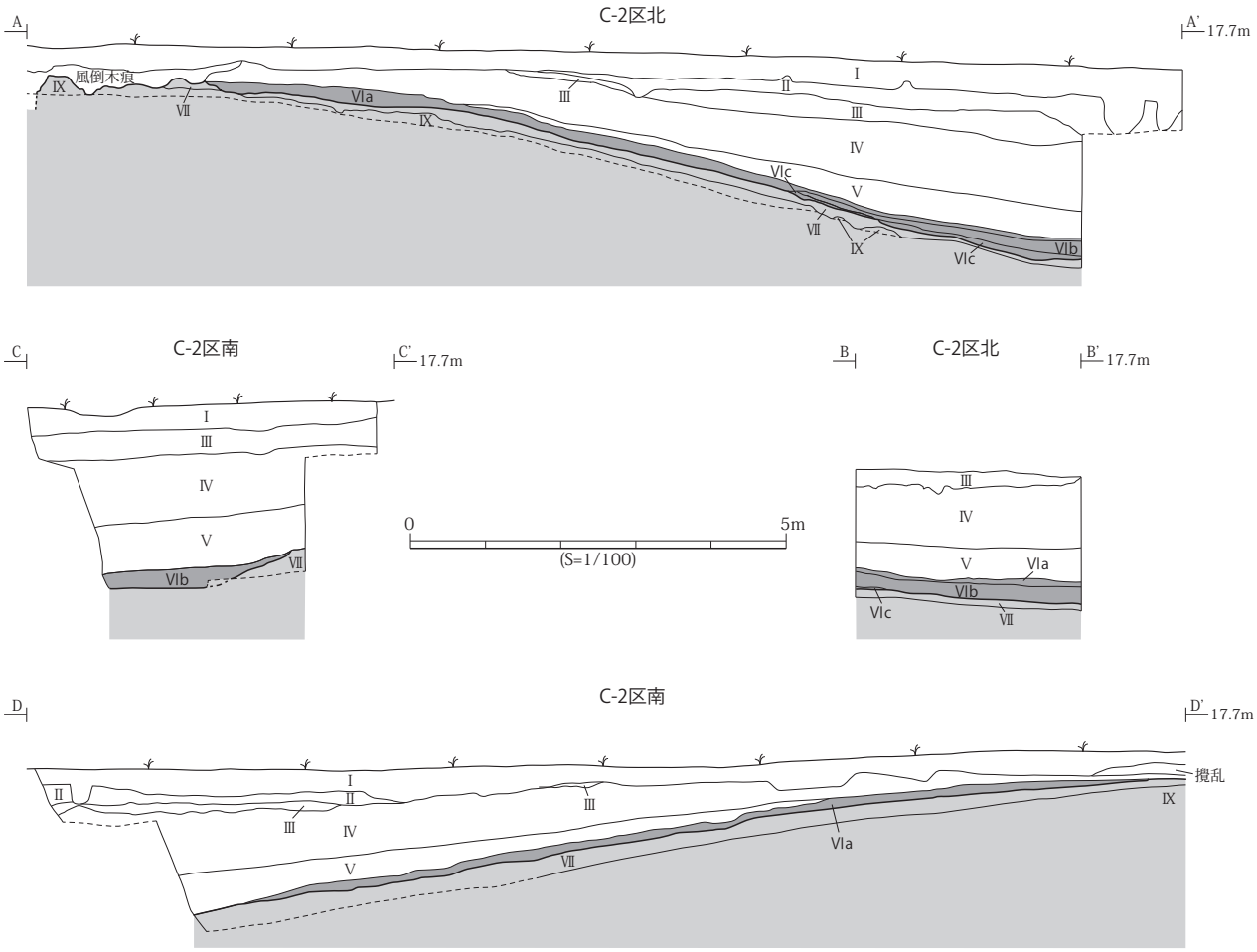
遺物包含層（Ⅵ層）は C-1・2 区で検出した。その範囲は東西約 12m（C-1 区西端と C-2 区東端を結ぶ直線距離）、南北約 36m（C-2 区における検出範囲）ある。なお、C-2 区の東側にある調査区（C-3 区）や南側にある調査区（C-10 区）ではⅥ層は確認されなかった。また、西 C 丘陵の基部付近にある C-12 区ではⅥ層を検出しているが遺物の出土はなく、C-32 区においてもⅥ層を検出しているが出土した遺物はごくわずかである。このことから遺物包含層は、西 C 丘陵裾部に沿って丘陵基部側に



第38図　西5・6地点周辺における発掘調査区の位置および遺物包含層の分布



第39図　西5地点　調査区平面図



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
C-2 区	A-A' B-B'	Ⅵ a	黒色（10YR2/1）	粘土	植物遺存体やや多量
		Ⅵ b	浅黄色（2.5Y7/3）	粘土	植物遺存体わずか
		Ⅵ c	褐灰色（10YR4/1）	砂	

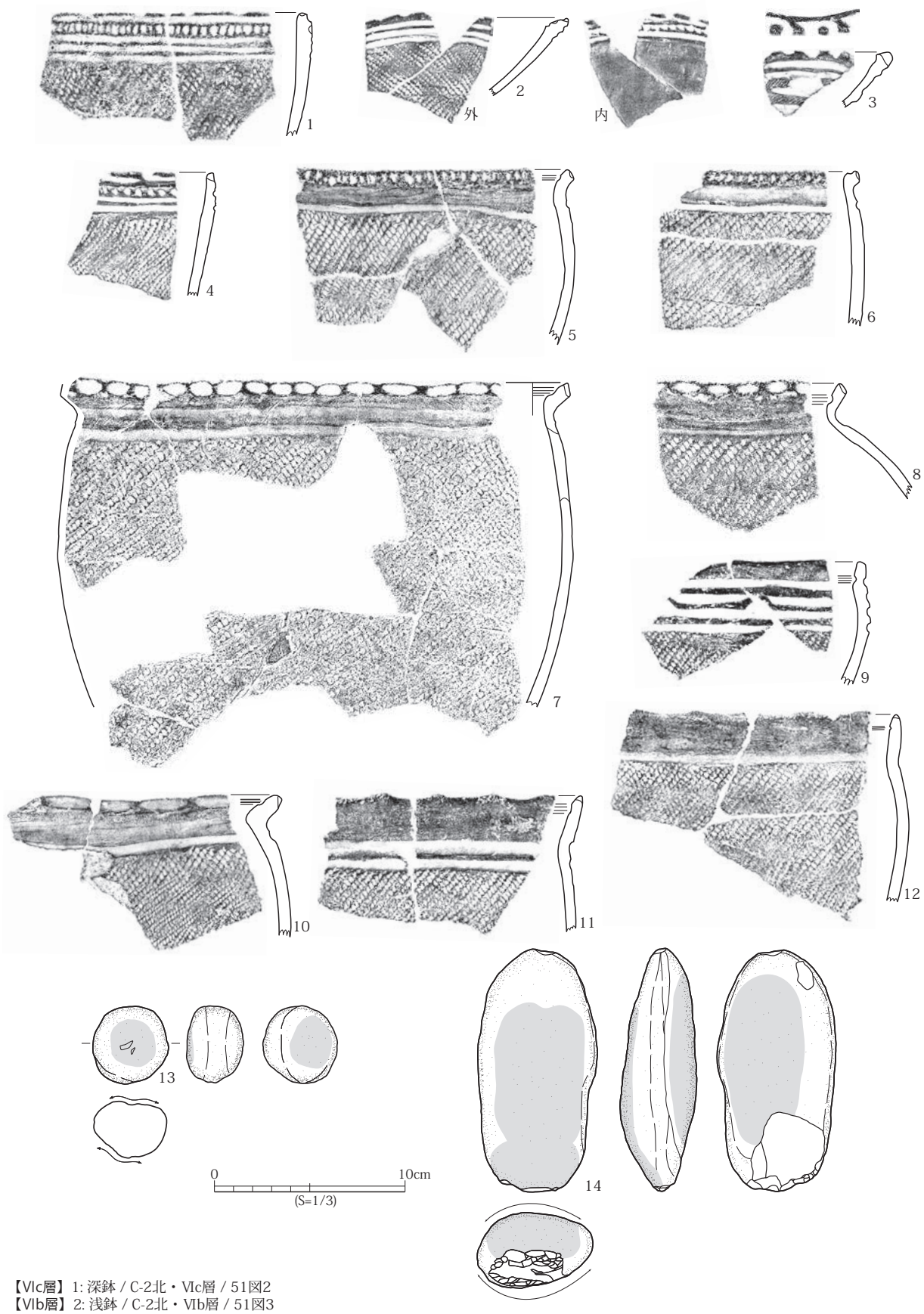
第40図　西5地点　調査区断面図

も広がるものとみられる。

Ⅵ層上面は、C-2 区北部で北東方向、C-2 区南部で南東方向に緩やかに傾斜する地形となっている。調査区西壁におけるⅥ層の検出範囲は、C-2 区北部で直線距離が約 11.7m、Ⅵ層上面での比高が約 2.1m、勾配が約 17.9% であり、C-2 区南部で直線距離が約 14.0m、Ⅵ層上面での比高が約 2.3m、勾配が約 16.4% である。

遺物包含層は、土色や土性、含有物などの特徴から、C-2 区でおおむね 3 層に細分される。遺物はⅥ c 層からⅥ a 層まで出土しているが、Ⅵ a 層で多く出土している。縄文土器や石器などが出土しており、遺物量は、遺物収納箱換算で 2 箱程度である。

縄文土器は、Ⅵ b 層から、内面に列点文が施された浅鉢（第 41 図 2）などが出土している。Ⅵ a 層からは、雲形文が施された皿（同図 3）やπ字文が施された鉢（同図 9）などが出土した。また、この層から出土した深鉢 1 点（同図 7）について、土器付着炭化物を対象に放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,650 ± 30yrBP、暦年較正年代（1σ）が 898 ～ 826calBC となり、縄文時代晩期中葉頃に相当する年代値（小林　2019）が得られた。



【Ⅵc層】1: 深鉢 / C-2北・Ⅵc層 / 51図2
【Ⅵb層】2: 浅鉢 / C-2北・Ⅵb層 / 51図3
【Ⅵa層】3: 皿 / C-2南・Ⅵa層 / 53図7, 4: 鉢 / C-2南・Ⅵa層 / 52図2, 5: 深鉢 / C-2南・Ⅵa層 / 53図2, 6: 深鉢 / C-2南・Ⅵa層 / 52図3, 7: 深鉢 / C-2南・Ⅵa層 / 53図1, 8: 壺 / C-2南・Ⅵa層 / 53図9, 9: 鉢 / C-2南・Ⅵa層 / 53図8, 10: 深鉢 / C-2南・Ⅵa層 / 53図4, 11: 深鉢 / C-2北・Ⅵa層 / 51図4, 12: 深鉢 / C-2北・Ⅵa層 / 51図5, 13: 磨石 / C-2南・Ⅵ層 / 50図1, 14: 磨石 / C-2南・Ⅵ層 / 50図2
（宮城県文化財調査報告書第223集）

第41図　西5地点　出土土器・石器

石器は、石皿と磨石（第 41 図 13・14）が出土している。

(2) 集落の時期と特徴

遺物包含層から出土した土器型式や土器付着炭化物の年代測定から、西 5 地点の遺物包含層は晩期中葉前半（大洞 C1 式、晩期 3 期）から晩期後葉（大洞 A 式、晩期 5 期）に形成されたものとみられ、Ⅵ b 層以下は晩期中葉前半、Ⅵ a 層は晩期中葉後半（大洞 C2 式、晩期 4 期）から晩期後葉に位置づけられる。

本地点では丘陵の一部を精査しているが、攪乱等により遺構は検出されなかった。検出した遺物包含層は丘陵裾部に形成されたものであるが、遺物量は少なく、時期幅もほかの地点と比べて小さい。また、本地点の位置する西 C 丘陵は、低地部に突き出た部分がほかの丘陵と比べて狭く、丘陵裾部における傾斜がやや急であることから、集落を営むことが可能な場所が限られていた可能性が考えられる。以上から、小規模な集落、またはそれぞれの時期で集落が短期間営まれていたものと想定される。

写真17　C-2区南　遺物包含層（南から）

写真18　C-2区北　遺物包含層（北から）

写真19　C-1区　遺物包含層（南東から）

写真20　C-2区　調査風景（南西から）

第３節　宮沼遺跡

宮沼遺跡は、調査対象地の西側にある丘陵のうち、対象地内で北から４番目（西Ｄ丘陵）に位置する丘陵（西Ｄ丘陵）を含む範囲である（第 11 図）。平成 19 年度に発掘調査を実施し、遺物包含層を２地点で検出した。この２地点は、西Ｄ丘陵の北斜面基部および先端部であり、西から順に「西６地点」、「西７地点」と呼称する。以下に、それぞれの地点で検出した遺物包含層と出土遺物について述べ、それぞれの地点の時期や特徴等について考察する。

1. 西６地点

西６地点は、西Ｄ丘陵基部側の北斜面に位置し、丘陵裾部で遺物包含層を検出した（西Ｄ丘陵北斜面ｂ包含層）。この地点に含まれる発掘調査区は C-13 ～ 15 区の３調査区である（第 38 図）。遺物は、縄文土器や石器・石製品、植物遺存体が出土している。

(1) 遺物包含層と出土遺物

遺物包含層（Ⅵ層）は C-13・14・15 区で検出した。その範囲は東西約 103m（C-13 区西端と C-15 区東端を結ぶ直線距離）、南北約 10m（C-13 区における検出範囲）ある。なお、C-15 区の東側にある調査区（C-16 区）ではⅥ層は確認されず、さらに東の調査区（C-17 区）ではⅥ層を検出したものの遺物の出土はごくわずかであったことから、遺物包含層は東に広がらないものとみられる。また、C-13 区の西側にある丘陵裾部は、発掘調査の対象外であったため、遺物包含層の西への広がりは不明である。

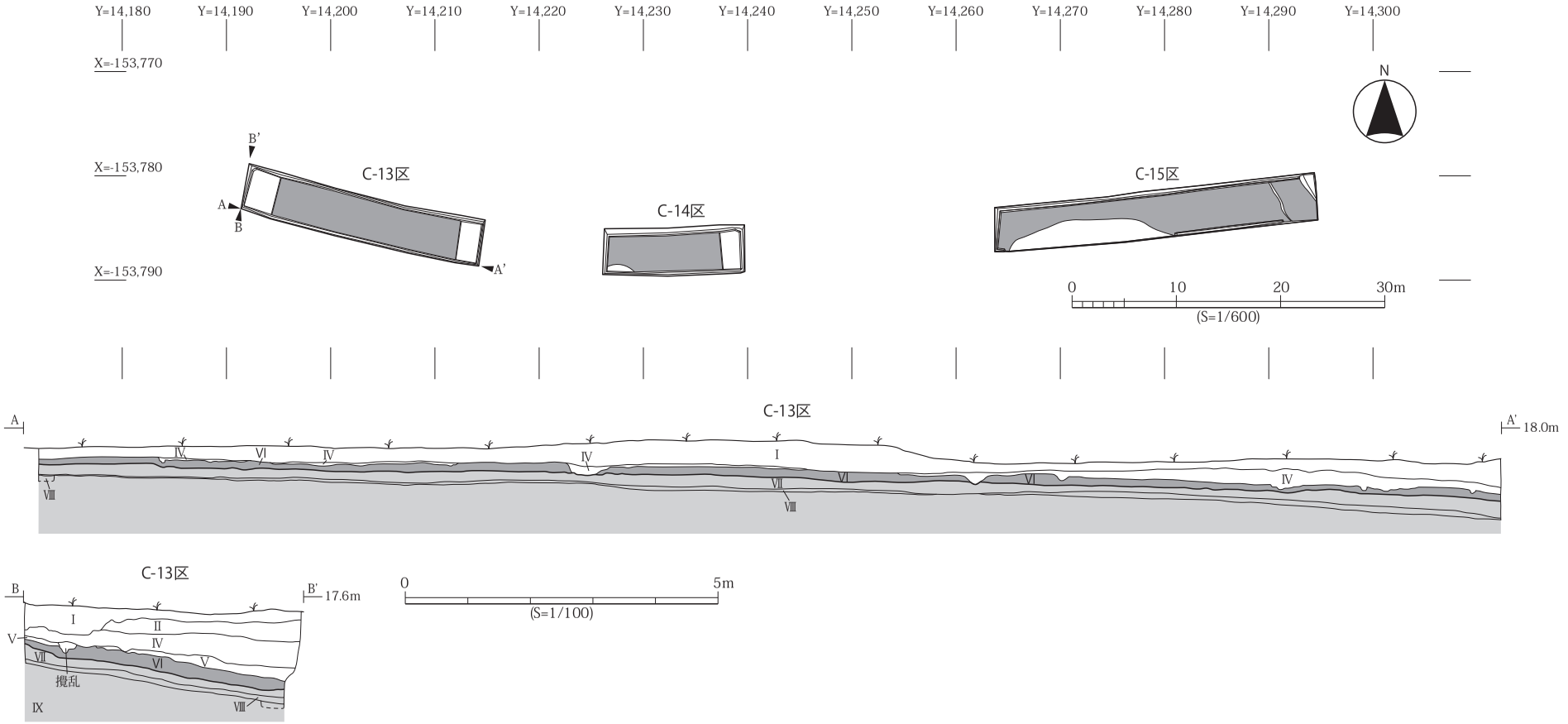
Ⅵ層上面は、C-13 区で北に緩やかに傾斜する地形となっている。調査区西壁におけるⅥ層の検出範囲は、直線距離で約 4.2m あり、Ⅵ層上面での比高は約 0.7m、勾配は約 16.7% である。なお、Ⅵ層は堆積が薄く細分することはできなかった。

遺物は、遺物収納箱換算で１箱未満に相当する量である。縄文土器は図示しなかったが、時期のわかるものとして晩期中葉（大洞 C2 式）のものが出土している。石器は、石鏃（第 43 図 1）や石匙（同図 2）、円盤状石製品が出土した（同図 3）。

(2) 集落の時期と特徴

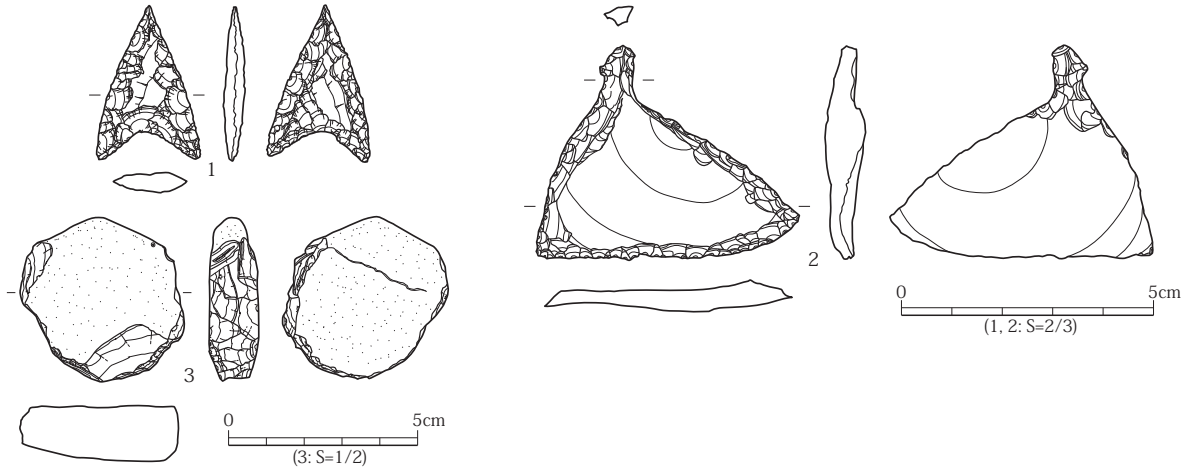
土器型式のわかる遺物が少ないため、詳細な時期を検討するには不十分であるが、雲形文の存在から晩期中葉頃と推定される。

西６地点で検出した遺物包含層は、薄い堆積状況であるものの、ある程度広い範囲で検出しており、また、検出地点は丘陵にほど近い場所に位置する。このような条件であるにもかかわらず遺物量は少ないことから、西２地点と同様に、居住域からからやや離れた地点であるか、あるいは一時的な活動の場であった可能性が考えられる。



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
C-13 区	A-A' B-B'	Ⅵ	黒色（10YR2/1）	粘土	スクモ少量

第42図　西6地点　調査区平面図・断面図



1: 石鏃 / C-15・Ⅵ層 / 57図2, 2: 石匙 / C-15・Ⅵ層 / 57図3, 3: 円盤状石製品 / C-13・Ⅵ層 / 57図4 （宮城県文化財調査報告書第223集）

第43図　西6地点　出土石器・石製品

写真21　西6地点全景（西から）

写真22　C-13区　遺物包含層（東から）

写真23　C-14区　遺物包含層（西から）

写真24　C-15区　遺物包含層（東から）

2. 西 7 地点

西 7 地点は、西 D 丘陵先端部の北斜面に位置し、丘陵裾部で遺物包含層を検出した（西 D 丘陵北斜面 a 包含層）。この地点に含まれる発掘調査区は C-20 区と C-21 区である（第 44 図）。遺物は、縄文土器や石器、植物遺存体が出土している。

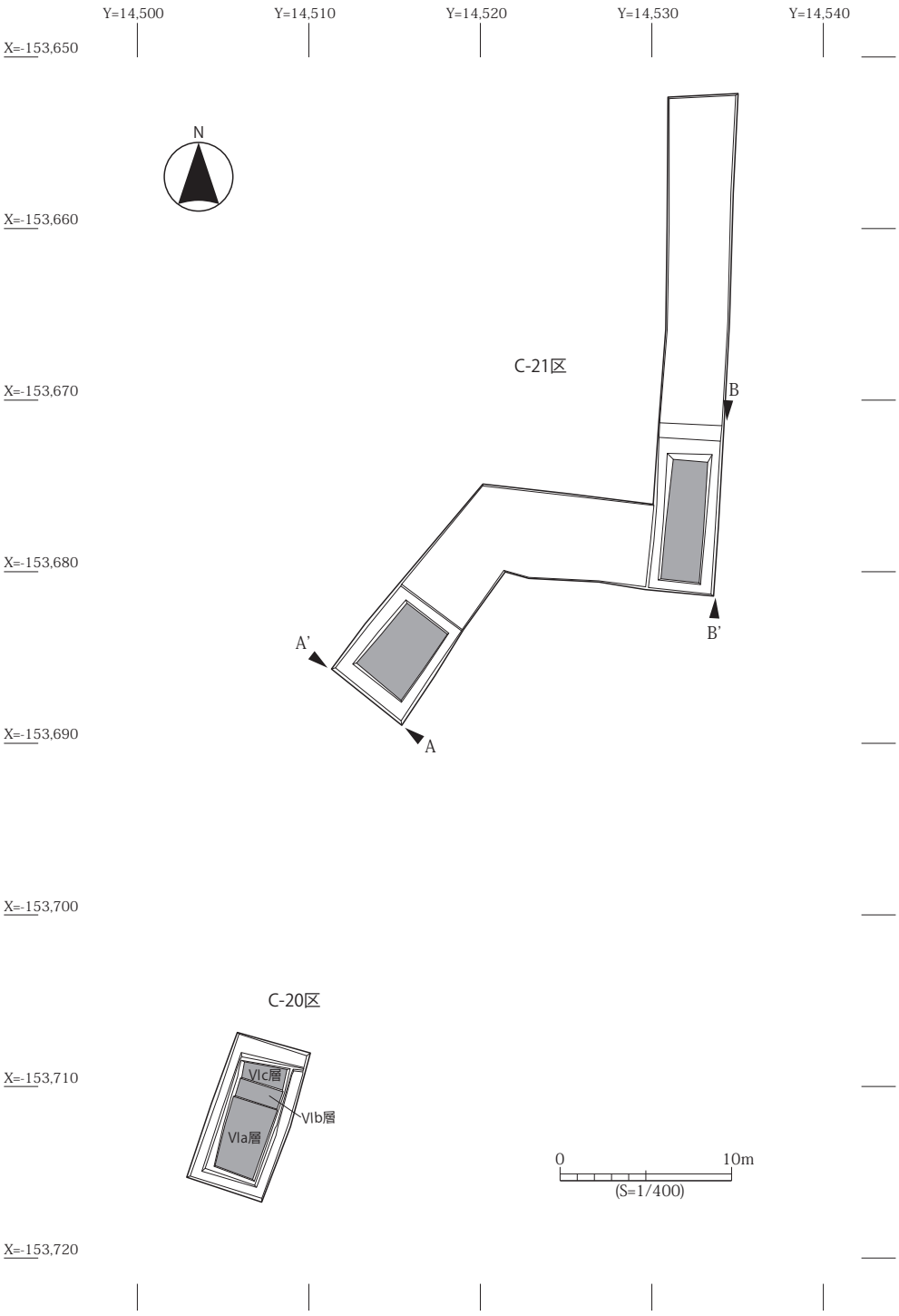
（1）遺物包含層と出土遺物

遺物包含層（Ⅵ層）は C-20・21 区で検出した。その範囲は南北約 51m（C-20 区南端と C-21 区北端を結ぶ直線距離）、東西約 21m（C-21 区における検出範囲）ある。なお、C-21 区の北側にある調査区（C-24 区など）ではⅥ層が確認されず、C-20 区の丘陵沿いに西側にある調査区（C-19 区）ではⅥ層の深度は深いところに堆積し、遺物の出土がごくわずかであったことから、遺物包含層は広がらないものとみられる。

Ⅵ層上面は、C-21 区西部で北西方向に緩やかに傾斜する地形となっている。調査区南壁におけるⅥ層の検出範囲は、直線距離で約 3.8m あり、Ⅵ層上面での比高は約 0.7m、勾配は約 18.4% である。

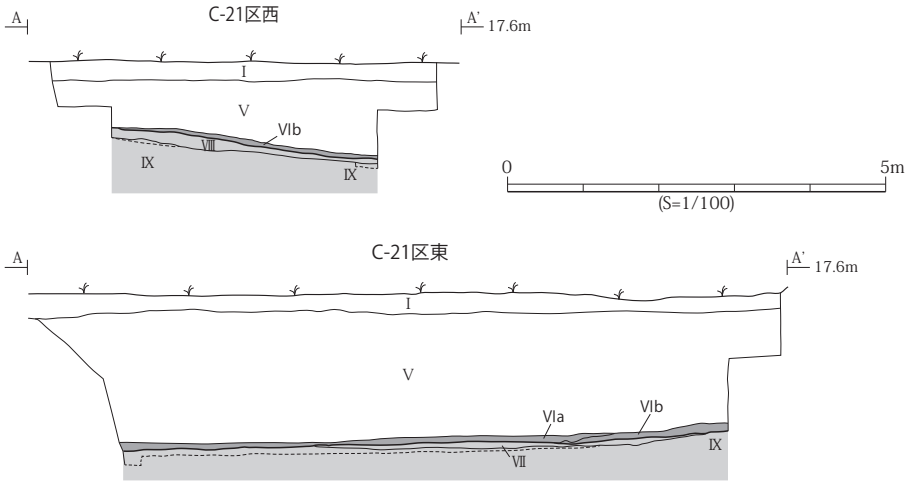
遺物包含層は、土色や土性、含有物などの特徴から、C-20 区でおおむね 3 層、C-21 区でおおむね 2 層に細分される。遺物がやや多く出土した C-21 区では、Ⅵ b 層とⅥ a 層から縄文土器や石器など出土しているが、Ⅵ b 層で多く出土している。本地点における遺物量は、遺物収納箱換算で 2 箱程

第44図　西7地点周辺における発掘調査区の位置および遺物包含層の分布



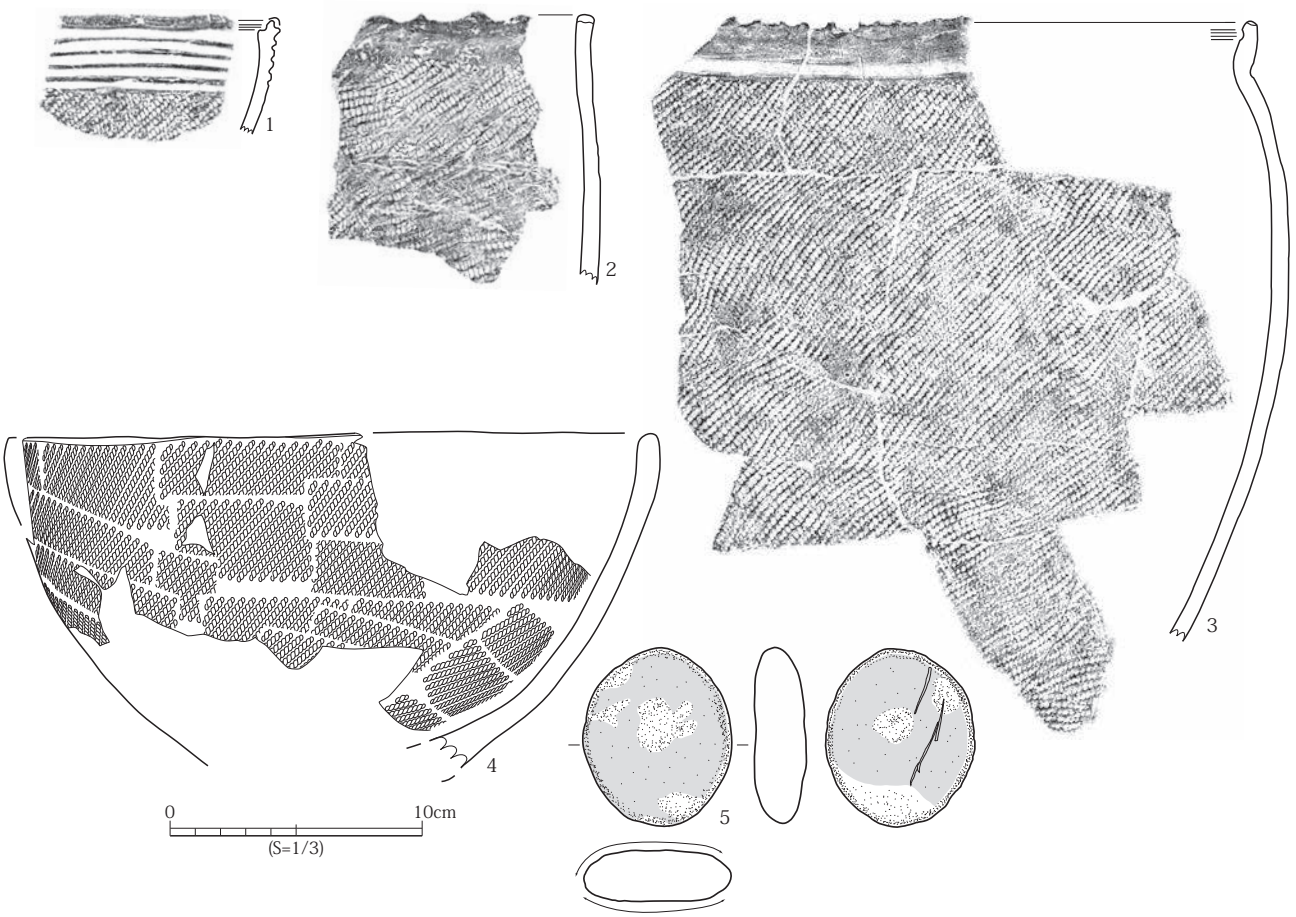
第45図　西7地点　調査区平面図

度である。出土した縄文土器で時期のわかるものは少ないが、晩期後葉頃の深鉢（第 47 図 2・3）や鉢（同図 1）が出土している。平行沈線文が施された鉢（同図 1）について、土器付着炭化物を対象に放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,480 ± 30yrBP、暦年較正年代（1 σ）が 760 ～ 547calBC となり、縄文時代晩期中葉から後葉頃に相当する年代値（小林　2019）が得られた。石器は、砥石（第 47 図 5）が出土している。



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
C-21 区	A-A' B-B'	Ⅵa	オリーブ黒色（5Y3/1）	粘土質シルト	
		Ⅵb	黒褐色（10YR3/2）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）粒少量、炭化物粒中量

第46図　西7地点　調査区断面図



【VIb層】1: 鉢 / C-21西・VIb層 / 55図5，2: 深鉢 / C-21西・VIb層 / 55図2，3: 深鉢 / C-21東・VIb層 / 55図1，4: 鉢 : C-21西・VIb層 / 55図4
【VIa層】5: 砥石 / C-20・VIa層 / 57図5 （宮城県文化財調査報告書第223集）

第47図　西7地点　出土土器・石器

(2) 集落の時期と特徴

本地点からは、晩期後葉頃の縄文土器が出土していることから、遺物包含層はこの時期以降に形成されたものとみられる。検出した遺物包含層は深い位置にあり、遺物量も少ないことから、集落の存在が想定される丘陵からやや離れている。したがって、遺物包含層の形成要因となる集落の性格や場の特徴をつかむことは難しいものと考える。

写真25　C-21区全景（北東から）

写真26　C-21区西　遺物包含層（西から）

写真27　C-21区東　遺物包含層（北西から）

写真28　C-21区東　遺物出土状況（北東から）

写真29　C-20区　遺物包含層（北西から）

写真30　C-20区　調査風景（北東から）

第４節　北小松遺跡

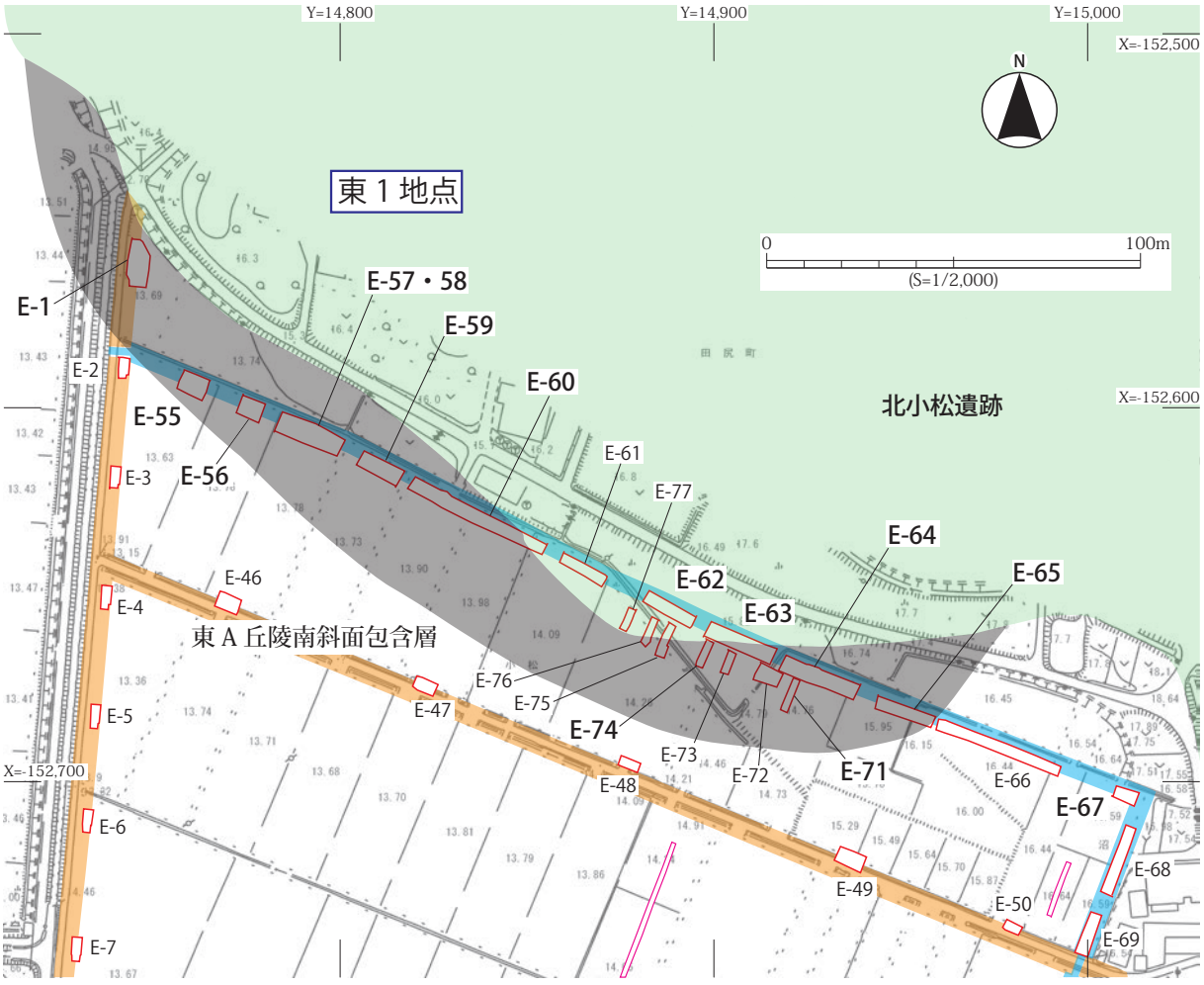
北小松遺跡は、調査対象地の東側にある丘陵上およびその裾部を含む範囲である（第 11 図）。平成 20 年度から 22 年度にかけて発掘調査を実施し、遺物包含層を 12 地点で検出した。この 12 地点は、西へ延びる５つの小丘陵それぞれの斜面部や突端部に位置し、北から順に東１～東 12 の地点名を付与する。以下に、それぞれの地点で検出した遺構や遺物包含層、出土遺物について述べ、それぞれの地点の時期や特徴等について考察する。

1. 東１地点

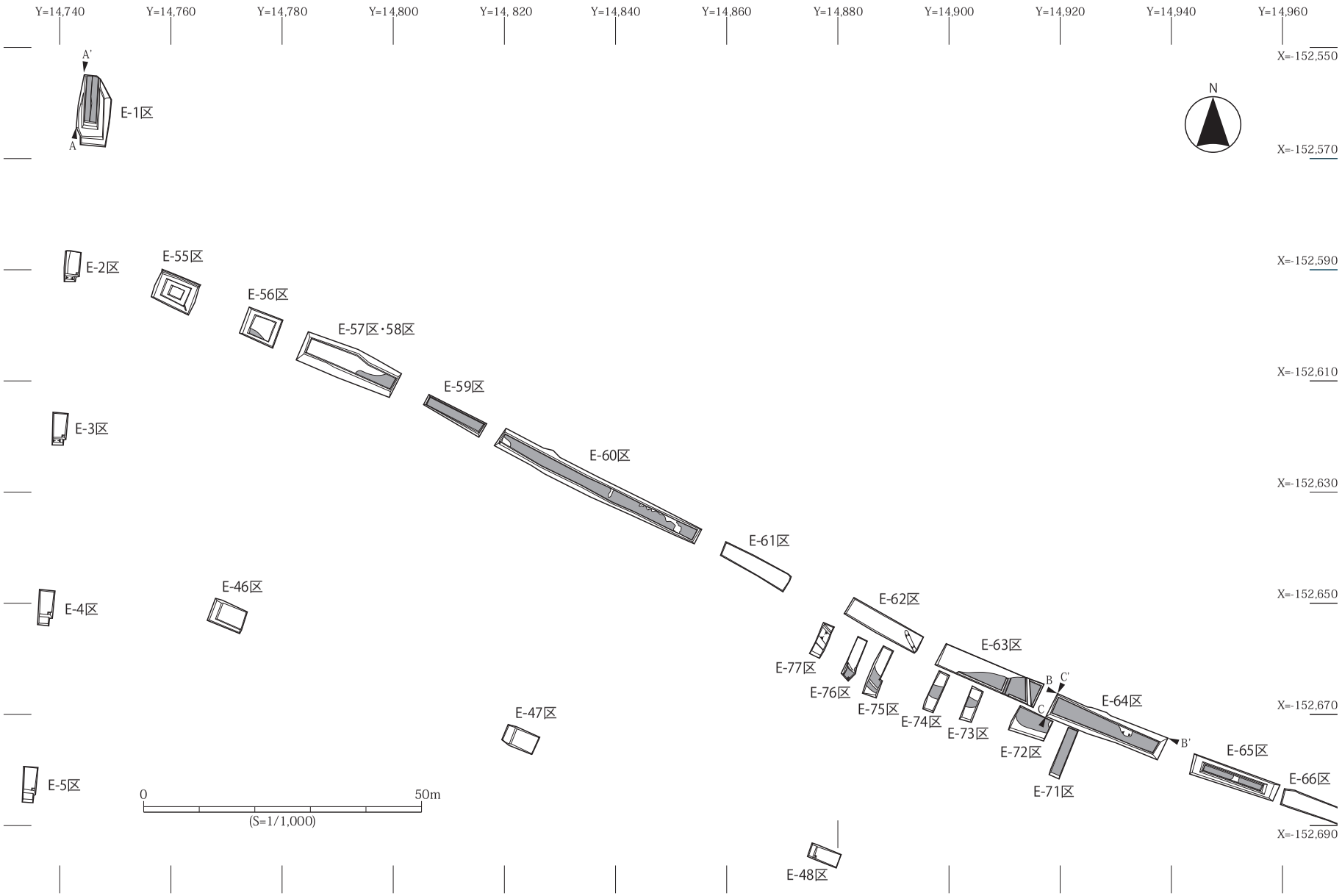
東１地点は、東 A 丘陵の南斜面に位置し、丘陵裾部で遺物包含層を検出した（東 A 丘陵南斜面包含層）。この地点に含まれる発掘調査区は、E-1 区、E-55 ～ 65 区、E-71 ～ 77 区である（第 48 図）。遺物は、縄文土器や石器、植物遺存体が出土している。

（1）遺物包含層と出土遺物

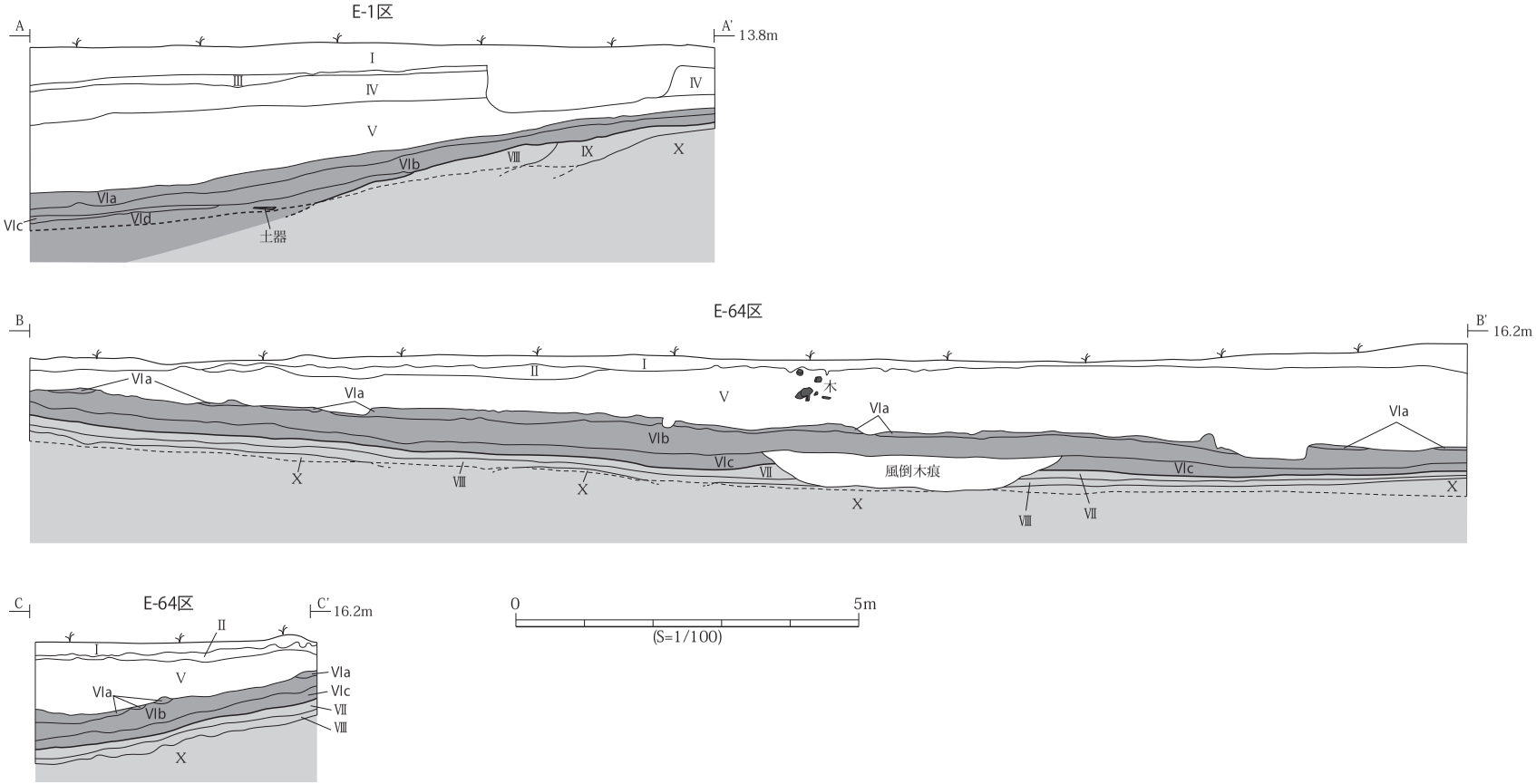
遺物包含層（Ⅵ層）は E-1・55・56・57・58・59・60・63・64・65・71・72・73・74・75・76 区で



第48図　東1地点周辺における発掘調査区の位置および遺物包含層の分布

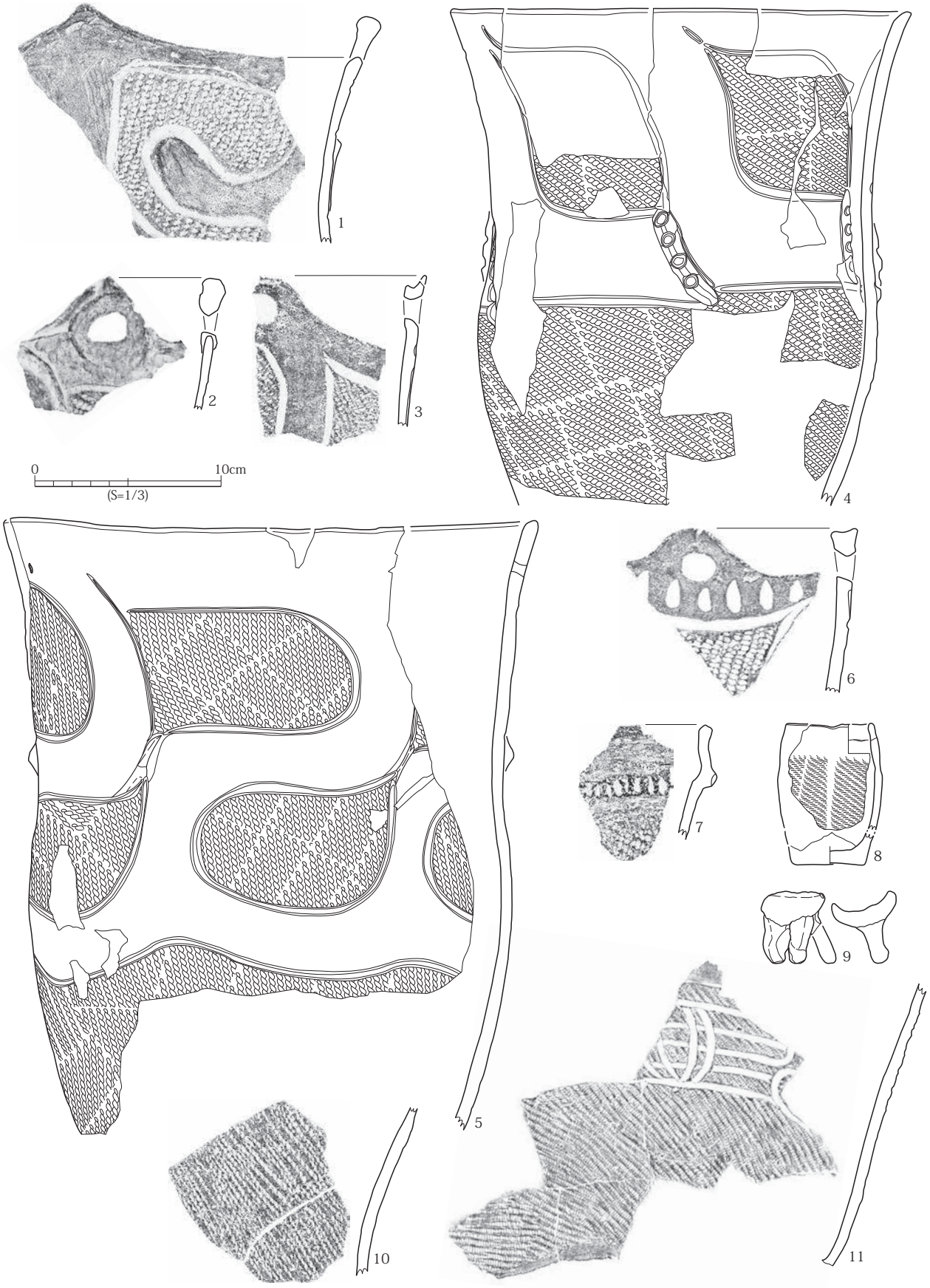


第49図　東1地点　調査区平面図



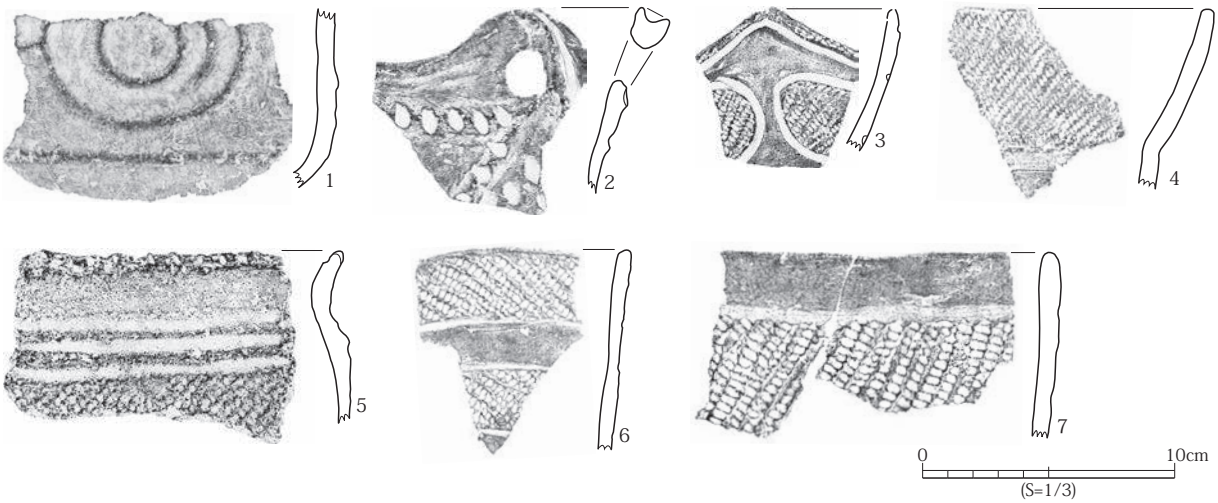
調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
E-1 区	A-A'	VI a	黒褐色（10YR3/1）	粘土混じり砂	
		VI b	黒色（10YR2/1）	粘土	植物遺存体わずか
		VI c	黒褐色（10YR2/2）	粘土	スクモ主体、植物遺存体多量
		VI d	黒色（10YR2/1）	粘土	植物遺存体少量
E-64 区	B-B' C-C'	VI a	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	砂多量
		VI b	黒色（10YR2/1）	粘土	
		VI c	褐灰色（10YR4/1）	粘土質シルト	砂多量

第50図　東1地点　調査区断面図



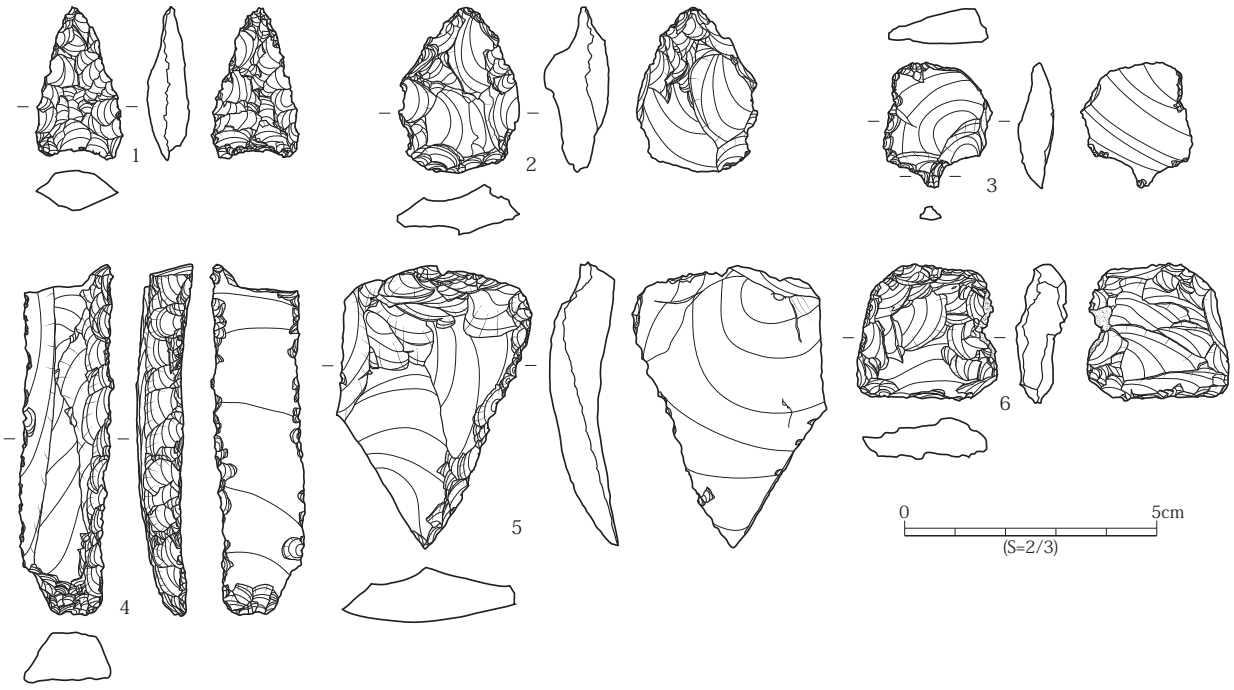
【VId層】1: 深鉢 / E-1・VId層 / 10図3, 2: 深鉢 / E-1・VId層 / 10図7, 3: 深鉢 / E-1・VId層 / 10図2, 4: 深鉢 / E-1・VId層 / 10図6, 5: 深鉢 / E-1・VId層 / 10図12, 6: 深鉢 / E-1・VId層 / 10図1, 7: 深鉢 / E-1・VId層 / 10図5, 8: 袖珍土器深鉢 / E-1・VId層 / 10図15, 9: 袖珍土器三脚付鉢 / E-1・VId層 / 10図16, 10: 深鉢 / E-1・VId層 / 10図14
【VIb層】11: 深鉢 / E-1・VIb層 / 12図1 （宮城県文化財調査報告書第226集）

第51図　東1地点　E-1区　出土土器（1）



【Vla層】1: 深鉢 / E-1・Ⅵ層 / 13図5, 2: 深鉢 / E-1・Ⅵ層 / 13図4, 3: 深鉢 / E-1・Ⅵ層 / 13図3, 4: 深鉢 / E-1・Ⅵ層 / 13図8, 5: 深鉢 / E-1・Ⅵ層 / 13図10, 6: 深鉢 / E-1・Vla層 / 13図1, 7: 深鉢 / E-1・Ⅵ層 / 13図6 （宮城県文化財調査報告書第226集）

第52図　東1地点　E-1区　出土土器（2）



【Vld層】1: 石鏃 / E-1・Vld層 / 11図1, 2: 石鏃 / E-1・Vld層 / 11図2, 3: 石錐 / E-1・Vld層 / 11図3, 4: 不定形石器 / E-1・Vld層 / 11図5, 5: 不定形石器 / E-1・Vld層 / 11図4
【Vlb層】6: 楔形石器 / E-1・Vlb層 / 12図2 （宮城県文化財調査報告書第226集）

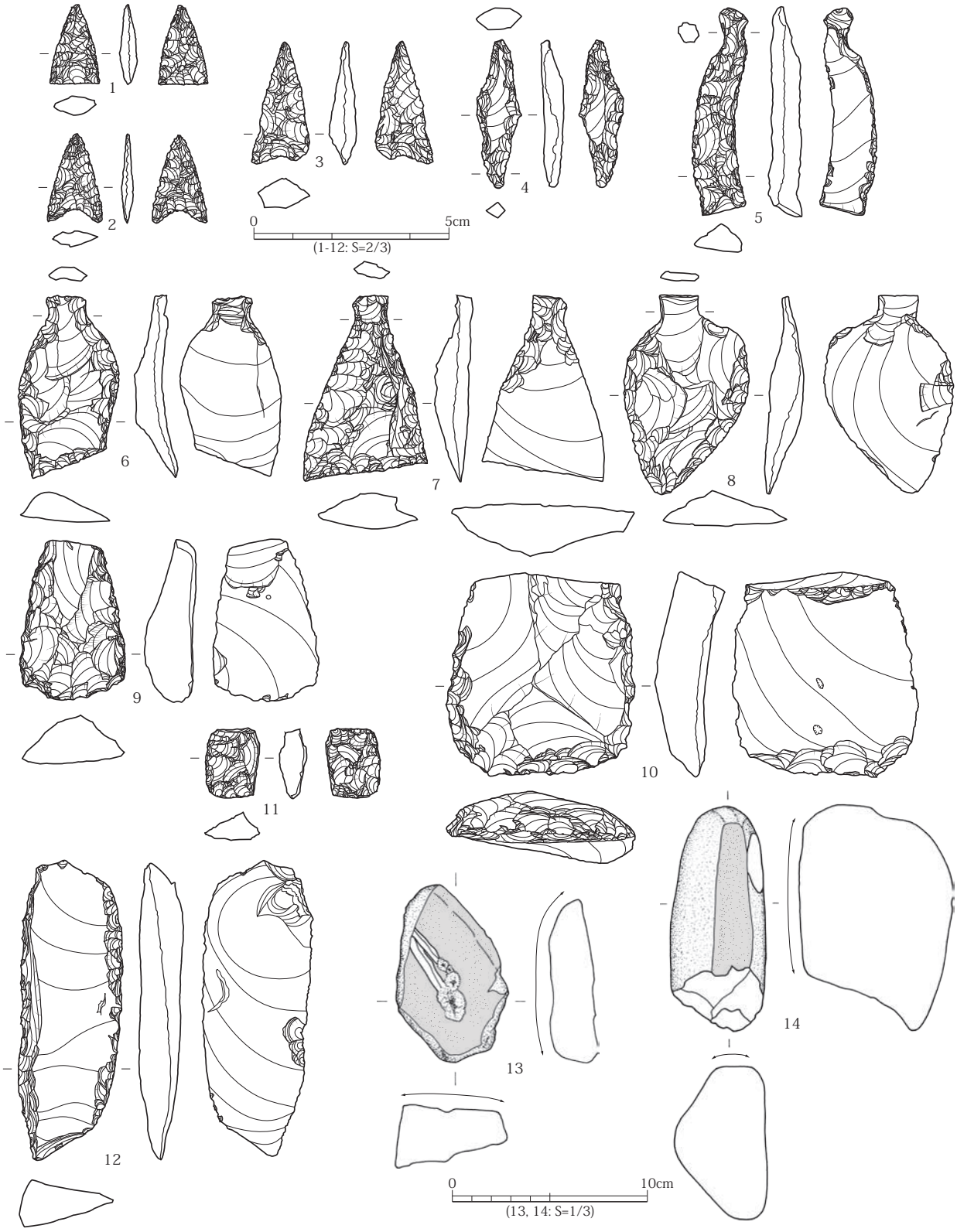
第53図　東1地点　E-1区　出土石器

検出した。その範囲は南北約 13m（E-64 北壁と E-71 区南東端を結ぶ直線距離）、東西約 247m（E-1 区北西端と E-65 区南東端を結ぶ直線距離）ある。E-1 区の南側にある調査区（E-2 区）や E-65 区の東側にある調査区（E-66 区など）、さらに E-56・60・76 区の南側にある調査区（E-46 区など）では、Ⅵ層が確認されなかった。なお、E-1 区の西側は事業地外のため遺物包含層の広がりは不明である。

Ⅵ層上面は、おおむね南に緩やかに傾斜する地形となっている。E-1 区西壁におけるⅥ層の検出範囲は、直線距離で約 9.6m あり、Ⅵ層上面での比高は約 1.2m、勾配は約 12.5% である。また、E-64 区西壁におけるⅥ層の検出範囲は、直線距離で約 4.1m あり、Ⅵ層上面での比高は約 0.6m、勾配は

【Vlc層】1: 深鉢 / E-64・Vlc層 / 55図1，2: 深鉢 / E-64・Vlc層 / 55図2，3: 深鉢 / E-64・Vlc層 / 55図8，4: 深鉢 / E-64・Vlc層 / 55図4，
5: 深鉢 / E-64・Vlc層 / 55図6，6: 深鉢 / E-64・Vlc層 / 55図7，7: 深鉢 / E-64・Vlc層 / 55図9，8: 深鉢 / E-64・Vlc層 / 55図12，
9: 深鉢 / E-64・Vlc層 / 55図11，10: 深鉢 / E-64・Vlc層 / 55図14，11: 深鉢 / E-64・Vlc層 / 55図13
【Vlb層】12: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図1，13: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図5，14: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図11，
15: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図8，16: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図7，17: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図35，18: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図36，
19: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図37，20: 浅鉢 / E-64・Vlb層 / 56図38，21: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図34，22: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図31，
23: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図30，24: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図32，25: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図23，26: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図33，
27: 浅鉢 / E-64・Vlb層 / 56図27，28: 鉢 / E-64・Vlb層 / 56図28，29: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図29，30: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図24，
31: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図26，32: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図16，33: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図13，34: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図17，
35: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図15，36: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図21，37: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図18，38: 深鉢 / E-64・Vlb層 / 56図12
【Vl層】39: 深鉢 / E-71・Vl層 / 77図2 （宮城県文化財調査報告書第226集）

第54図　東1地点　E-64・71区　出土土器



1: 石鏃 / E-64・Ⅵc層 / 55図16, 2: 石鏃 / E-64・Ⅵc層 / 55図17, 3: 石鏃 / E-64・Ⅵb層 / 57図1, 4: 石錐 / E-64・Ⅵb層 / 57図2,
5: 石匙 / E-64・Ⅵc層 / 55図18, 6: 石匙 / E-64・Ⅵb層 / 57図4, 7: 石匙 / E-64・Ⅵb層 / 57図6, 8: 石匙 / E-64・Ⅵb層 / 57図3,
9: 石篦 / E-64・Ⅵb層 / 57図9, 10: 石篦 / E-64・Ⅵb層 / 57図8, 11: 楔形石器 / E-64・Ⅵb層 / 57図10,
12: 不定形石器 / E-64・Ⅵb層 / 57図12, 13: 砥石 / E-64・Ⅵb層 / 58図4, 14: 磨石 / E-64・Ⅰ層 / 80図2 （宮城県文化財調査報告書第226集）

第55図　東1地点　E-64区　出土石器

約 14.6% ある。

この地点における遺物包含層（Ⅵ層）では、E-1 区と E-64 区でそれぞれ遺物が多く出土し、それ以外の調査区ではあまり多く出土していない。E-1 区と E-64 区では主体となる土器型式が大きく異なることから、両者は異なる時期に形成されたものと判断される。

E-1 区では、土色や土性、含有物などの特徴からおおむね 4 層に細分される。遺物はⅥ c 層を除く各層から出土している。縄文土器や石器などが出土しており、その量は、遺物収納箱換算で約 3 箱に相当する。縄文土器は、Ⅵ d 層から、無文部による楕円形や方形の区画文が施された深鉢（第 51 図 1 ～ 6）などが出土している。Ⅵ b 層からは、平行沈線文を直交する弧線で区画する、あるいは反転する平行沈線文が施された深鉢（同図 11）など、Ⅵ a 層からは、無文部による楕円形の区画文（第 52 図 3）や平行沈線文（弧線あり?、同図 5）、帯状文（同図 6）が施された深鉢などが出土した。石器は、石鏃（第 53 図 1・2）や石錐（同図 3）、楔形石器（同図 6）、不定形石器（同図 4・5）、石皿、磨石などが出土している。

E-64 区では、土色や土性、含有物などの特徴からおおむね 3 層に細分される。遺物はⅥ c 層とⅥ b 層から多く出土している。縄文土器や石器などが出土しており、その量は、遺物収納箱換算で約 5 箱に相当する。縄文土器は、Ⅵ c 層から、貝殻腹縁文と条痕文が施された深鉢（第 54 図 1）や縄文条痕土器（同図 2）、押圧縄文（同図 3）、羽状縄文（同図 4 ～ 6）、網目状や木目状などの撚糸文（同図 7 ～ 11）がそれぞれ施された深鉢などが出土している。Ⅵ b 層からは、縄文条痕土器（同図 12）やループ文（同図 14）、半截竹管による平行沈線文（同図 18 ～ 21）、木目状・網目状・葺瓦状などの撚糸文（同図 21 ～ 37）、貼付文（同図 38）が施された深鉢や鉢、浅鉢などが出土した。石器は、石鏃（第 55 図 1 ～ 3）や石錐（同図 4）、石匙（同図 5 ～ 8）、石篦（同図 9・10）、磨製石斧、楔形石器（同図 11）、不定形石器（同図 12）、石皿、磨石（同図 14）、砥石（同図 13）などが出土している。

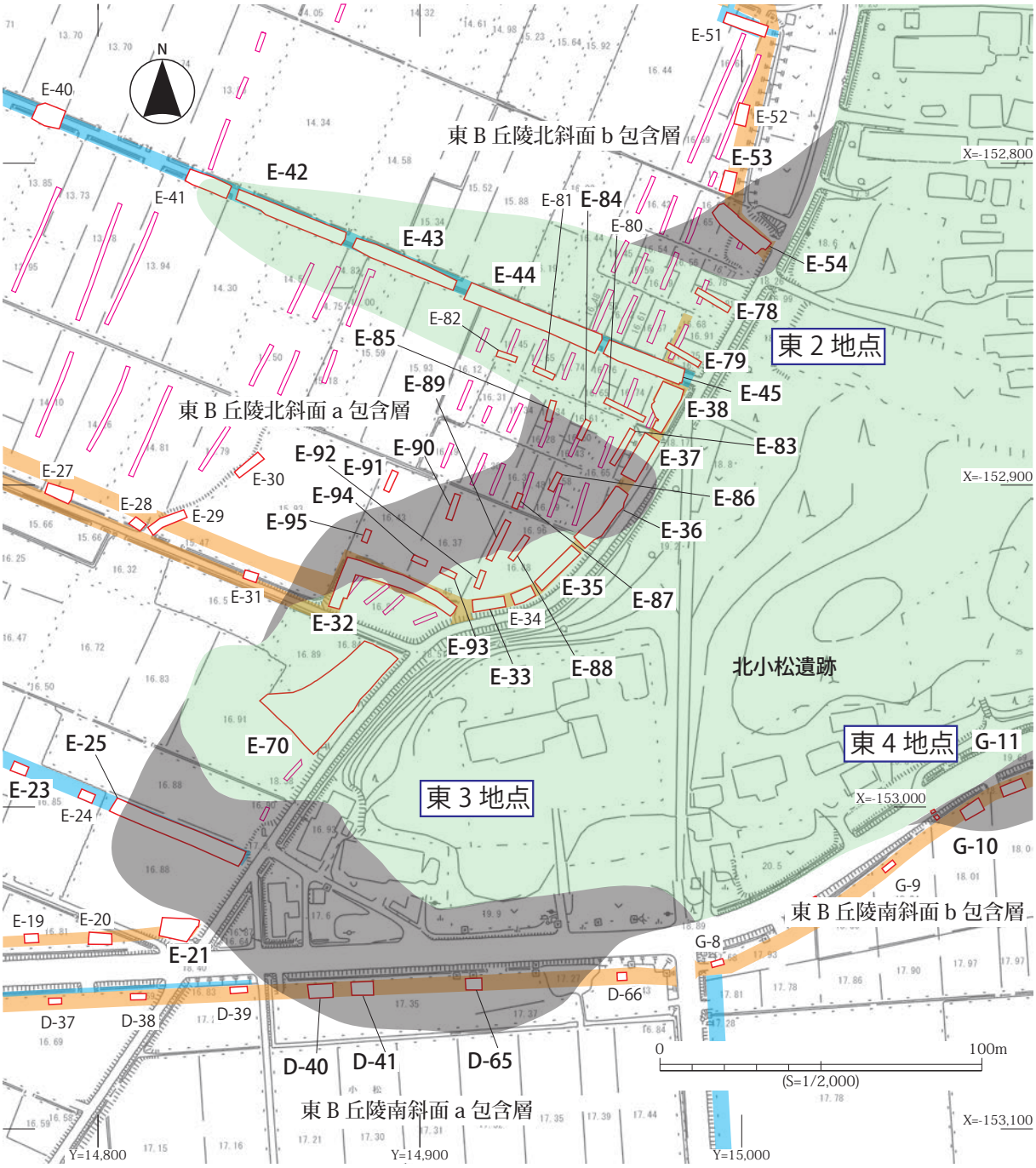
(2) 集落の時期と特徴

遺物包含層から出土した土器型式から、東 1 地点西側の遺物包含層（E-1 区）は中期末葉から後期後葉に形成されたものとみられ、Ⅵ d 層が中期末葉（大木 10 式）、Ⅵ b 層以上が後期中葉から後葉に位置づけられる。一方で、東側の遺物包含層（E-64 区）は早期中葉から前期前葉（大木 2a 式）に形成されたものとみられる。両者は東 A 丘陵の同じ南斜面に位置するが、やや離れており、時期によって生活の場が異なる。

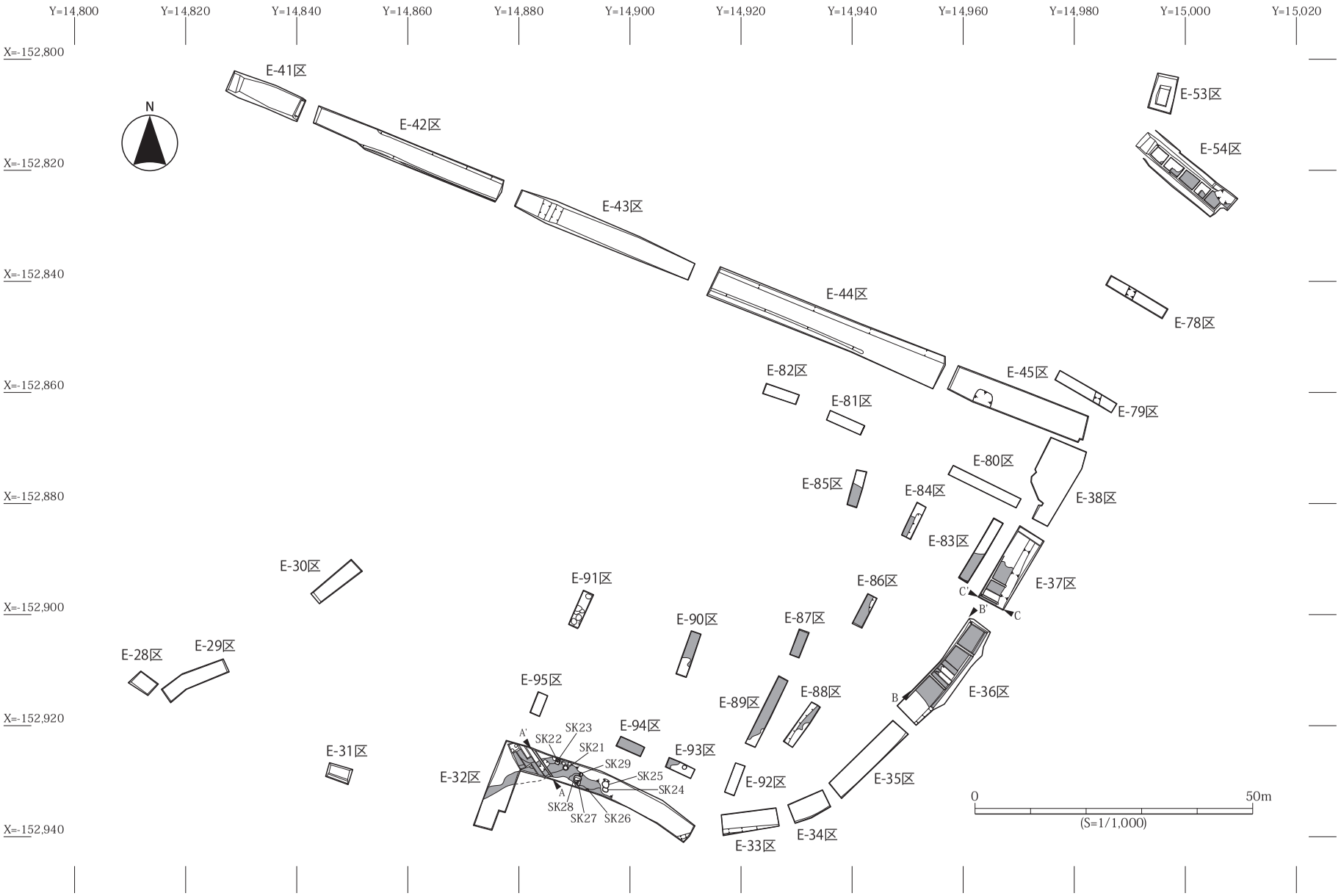
東 1 地点西側の E-1 区では、遺物包含層は深いところで検出しており、周辺の調査状況も加味すると、集落の位置は丘陵西端部のやや離れたところにあったものとみられる。東側の E-64 区周辺では、丘陵部も検出しているが、遺構の検出はなかった。また、遺物包含層を広い範囲で検出しているものの遺物はあまり多くないことから、小規模あるいは継続期間の短い集落が営まれていた可能性が考えられる。両者はそれぞれ主体となる時期は異なるが、いずれもその時期は限られている。したがって、東 A 丘陵では比較的短い時期に営まれた集落が形成されたものとみられる。

2. 東 2 地点

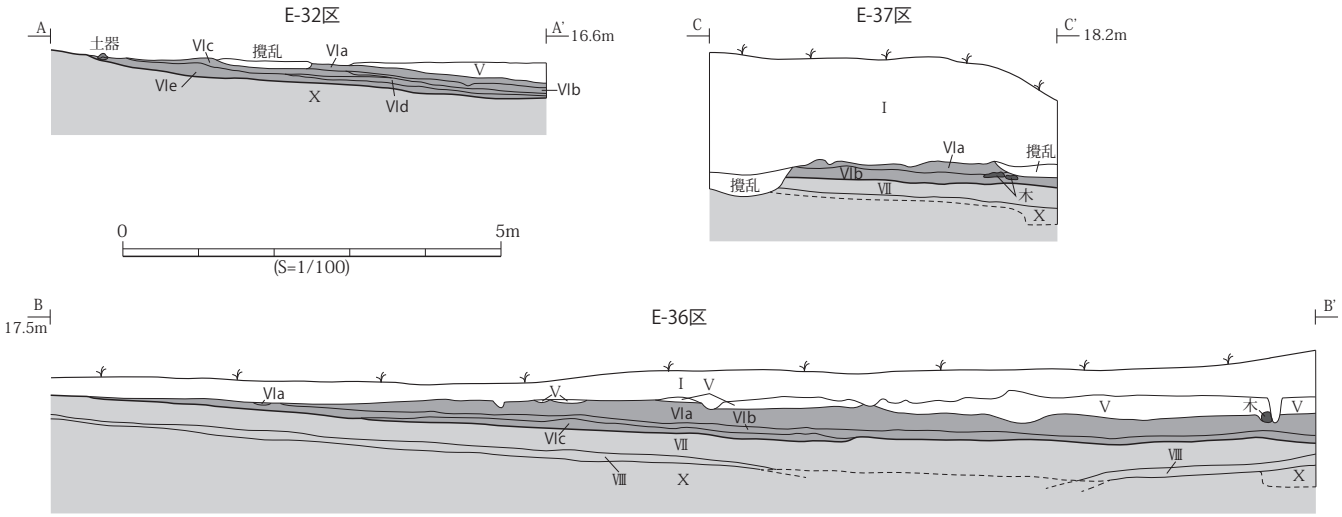
東 2 地点は、東 B 丘陵の西斜面からさらに西に延びる低丘陵の基部付近に位置する。この低丘陵の南側で土坑 9 基を検出した。遺物包含層はこの低丘陵の南北の基部付近、東 B 丘陵の西側裾部に形成される（東 B 丘陵北斜面 a 包含層、東 B 丘陵北斜面 b 包含層）。この地点に含まれる発掘調査区は、E-32 区、E-36 区、E-37 区、E-54 区、E-83 ～ 90 区、E-93 ～ 95 区の 15 調査区である（第 56 図）。遺物は、縄文土器や土製品、石器・石製品、植物遺存体が出土しており、その量は遺物収納箱換算で約 10 箱に相当する。



第56図　東2・3地点周辺における発掘調査区の位置および遺物包含層の分布



第57図　東2地点　調査区平面図



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
E-32 区	A-A'	Ⅵ a	黒褐色（10YR2/3）	粘土	小礫少量、炭化物粒わずか
		Ⅵ b	黄灰色（2.5Y4/1）	粗砂	小礫少量
		Ⅵ c	にぶい黄橙色（10YR7/3）	シルト	地山崩落土
		Ⅵ d	暗褐色（7.5YR3/3）	粘土	砂中量
		Ⅵ e	オリーブ黄色（5Y6/3）	砂	
E-36 区 E-37 区	B-B' C-C'	Ⅵ a	黒色（10YR2/1）	粘土	スクモやや多量
		Ⅵ b	黒色（10YR2/1）	粘土	地山（X層）小ブロック多量
		Ⅵ c	黒褐色（10YR2/2）	砂	地山（X層）小ブロックわずか

第58図　東2地点　調査区断面図

第8表　東2地点　遺物包含層の対応関係　（⇔：同一層　≒：近似層）

調査区・層名			大別層群		
E-32 区		E-36・37 区	層名	堆積場所	特　徴
		Ⅵ a	1 層群	斜面部	スクモを多く含む黒色粘土
Ⅵ a	≒	Ⅵ b	2 層群	平坦部～斜面部	地山小ブロックや小礫を含む黒色～黒褐色粘土
Ⅵ b	≒	Ⅵ c	3 層群	平坦部～斜面部	砂や地山ブロック等を含む（河川等による堆積か）
Ⅵ c					
Ⅵ d					
Ⅵ e					

（1）遺構

E-32 区で土坑 9 基を検出した。以下に、おもなものについて述べる。

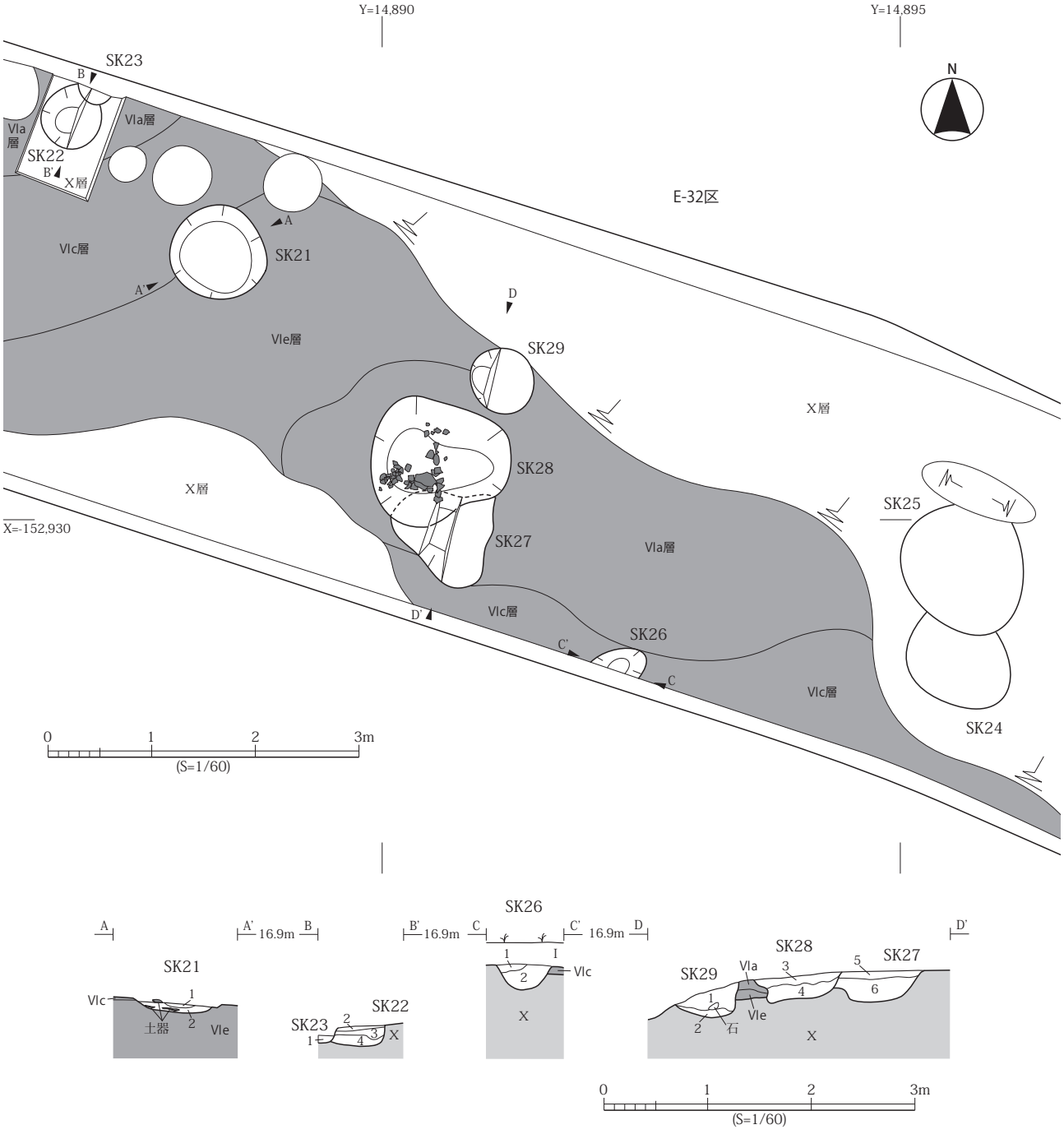
【SK21 土坑】

E-32 区中央部の北緩斜面上で検出した（第 59 図）。検出面はⅥ c 層上面である。遺物包含層以外の遺構との重複はない。平面形は、直径 96cm の円形を呈する。断面形は浅い皿形を呈し、深さが 14cm ある。遺構堆積土は 2 層あり、いずれも自然堆積土である。

出土した遺物には縄文土器深鉢・壺があり（第 60 図 1 ～ 5）、羊歯状の突起や列点文が施される。遺構堆積土から出土した土器型式から、晩期前葉（大洞 BC 式、晩期 2 期）に位置づけられる。

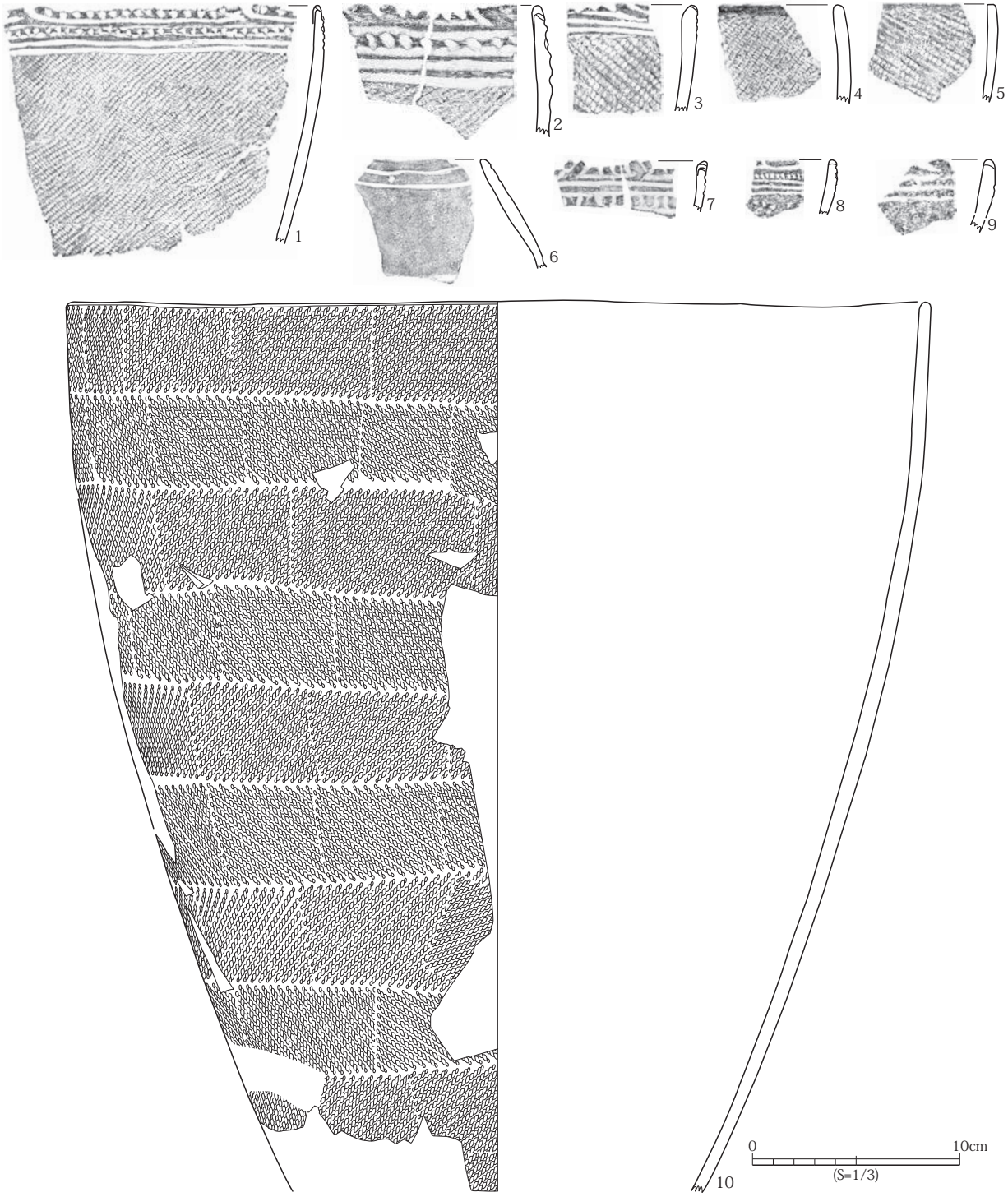
【SK28 土坑】

E-32 区中央部の北側緩斜面上で検出した（第 59 図）。検出面はⅥ a 層上面である。SK27 土坑と重複し、これよりも新しい。平面形は、長径 135cm ×短径 125cm の不整円形を呈する。断面形は、底面がほぼ平坦となる逆台形を呈し、深さが 30cm ある。土坑は埋め戻されており、その上層に自然堆



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
SK21	A-A'	1	黒色（10YR2/1）	粘土	小礫やや多量、植物遺存体・炭化物粒わずか 【堆積土】
		2	黒色（10YR2/1）	粘土	植物遺存体・炭化物粒 【堆積土】
SK23	B-B'	1	灰黄褐色（10YR5/2）	砂	【堆積土】
SK22		2	にぶい黄褐色（10YR5/3）	砂	小礫・炭化物粒多量 【堆積土】
		3	褐灰色（10YR4/1）	粘土混じり砂	【堆積土】
		4	にぶい黄褐色（10YR5/3）	砂	小礫多量 【堆積土】
SK26	C-C'	1	にぶい黄橙色（10YR6/3）	粘土	地山（X層）大ブロック主体 【埋土】
		2	黒褐色（10YR2/2）	粘土	地山（X層）大ブロック極多量 【埋土】
SK29	D-D'	1	黒色（10YR2/1）	シルト	【堆積土】
		2	にぶい黄褐色（10YR5/3）	粗砂	【堆積土】
SK28		3	黒色（10YR2/1）	シルト	地山（X層）小ブロック・炭化物粒少量 【堆積土】
		4	黒褐色（10YR3/1）	砂	地山（X層）小ブロック少量、炭化物粒わずか 【堆積土】
SK27		5	黒色（10YR2/1）	シルト	地山（X層）小ブロック多量、炭化物粒少量 【堆積土】
		6	灰黄褐色（10YR5/2）	砂混じり粘土	地山（X層）大ブロック多量、炭化物粒わずか 【埋土】

第59図　SK21～29土坑　平面図・断面図



【SK21】 1: 深鉢 / SK21 / 48図1, 2: 深鉢 / SK21 / 48図2, 3: 深鉢 / SK21 / 48図3, 4: 深鉢 / SK21 / 48図5, 5: 深鉢 / SK21 / 48図4
【SK28】 6: 注口土器 / SK28 / 50図5, 7: 鉢 / SK28 / 50図4, 8: 鉢 / SK28 / 50図2, 9: 鉢 / SK28 / 50図3, 10: 深鉢 / SK28 / 50図1
（宮城県文化財調査報告書第226集）

第60図　SK21・28土坑　出土土器

積土が残る。

出土した遺物には縄文土器深鉢・鉢・浅鉢・壺・注口土器や石皿、磨石、剥片がある（第 60 図 6 ～ 10）。鉢には、羊歯状の突起や列点文が施されており、これらの土器型式から晩期前葉後半から中葉前半（大洞 BC 式から大洞 C1 式、晩期 2 ～ 3 期）に位置づけられる。

(2) 遺物包含層と出土遺物

遺物包含層（Ⅵ層）は、E-32・36・37・54・83・84・85・86・87・89区で検出した。また、E-88・90・93・94・95区ではⅥ層を検出しているが、この層からの遺物の出土はなかった。ただし、これらの調査区は、遺物包含層を検出した調査区と近接していることから、一連のものとみられる。遺物包含層は東B丘陵の北斜面に位置するが、東B丘陵の北斜面部から細長い半島状に突き出た低丘陵が北西方向に延びており、これにより遺物包含層はこの低丘陵基部付近の南北2箇所に形成されている。遺物包含層2箇所をまとめた範囲は、南北約169m（E-54区北端とE-32区の遺物包含層南端間の直線距離）、東西約83m（E-36区とE-95区間の直線距離）ある。なお、E-54区の北側の丘陵裾部は調査対象外であり、同じくE-54区の北側に隣接するE-53区ではⅥ層を確認できなかった。また、E-32区やE-90区、E-95区の西側にある調査区（E-31区やE-91区など）においてもⅥ層を確認できず、これらの調査区まで遺物包含層は広がらないものとみられる。

Ⅵ層上面は、E-32区では北に、E-37区では西に緩やかに傾斜する地形となっている。調査区壁面におけるⅥ層の検出範囲は、E-32区の土層観察地点では直線距離で約6.1mあり、Ⅵ層上面での比高は約0.4m、勾配は約6.6%、E-37区南壁では直線距離で約7.1mあり、Ⅵ層上面での比高は約0.3m、勾配は約4.2%である。

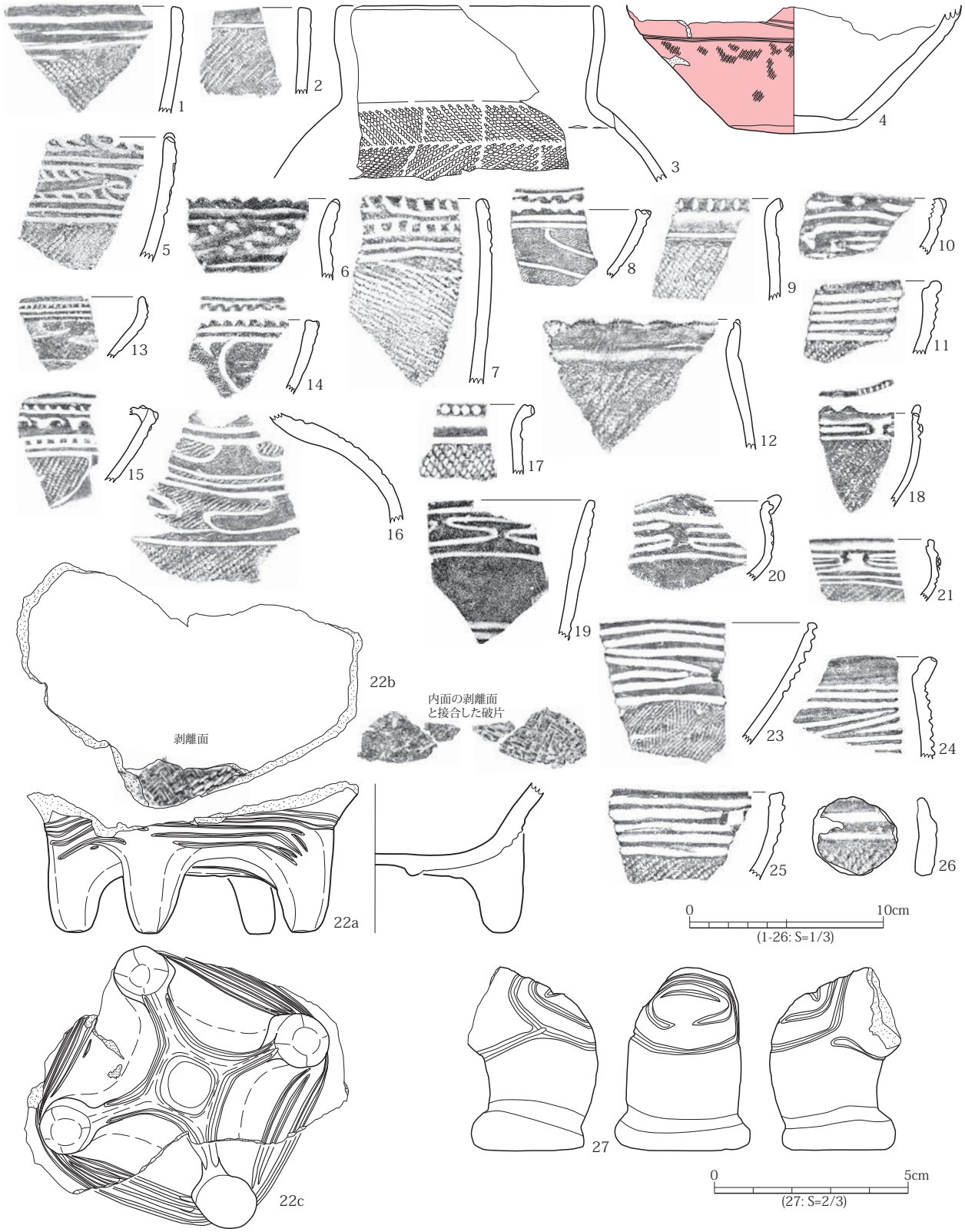
この地点における遺物包含層は低丘陵により北側と南側に分かれる。遺物が多く出土した南側の遺物包含層は、土色や土性、含有物などの特徴からE-32区およびE-36区、E-37区でおおむね3～5層に細分される。調査区によりⅥ層の堆積状況は異なるため、各調査区における細分層名は同一のものではないが、それぞれの層の特徴からこれらを1層群から3層群に再構成した（第8表）。

遺物は3層群から1層群まで出土している。おもな遺物には、縄文土器や土製品、石器・石製品がある。縄文土器は、2層群から、羊歯状文が施された鉢（第61図5・6）ややや簡素化した雲形文が施された皿（同図8）、工字文が施された注口土器（同図10）が出土した。1層群からは、雲形文が施された皿・壺・注口土器など（同図13～16）、工字文が施された鉢（同図18・19）も出土しているが、 変形工字文が施された鉢や浅鉢など（同図20･21･23･24）が出土するようになる。石器は、石鏃（第62図1～3）や石匙（同図4･9･10）、磨製石斧（同図5）、楔形石器（同図6）、不定形石器（同図7）、石皿、磨石などの礫石器、円盤状石製品（同図8）、石棒・石刀、不明石製品（同図11）などが出土している。

(3) 集落の時期と特徴

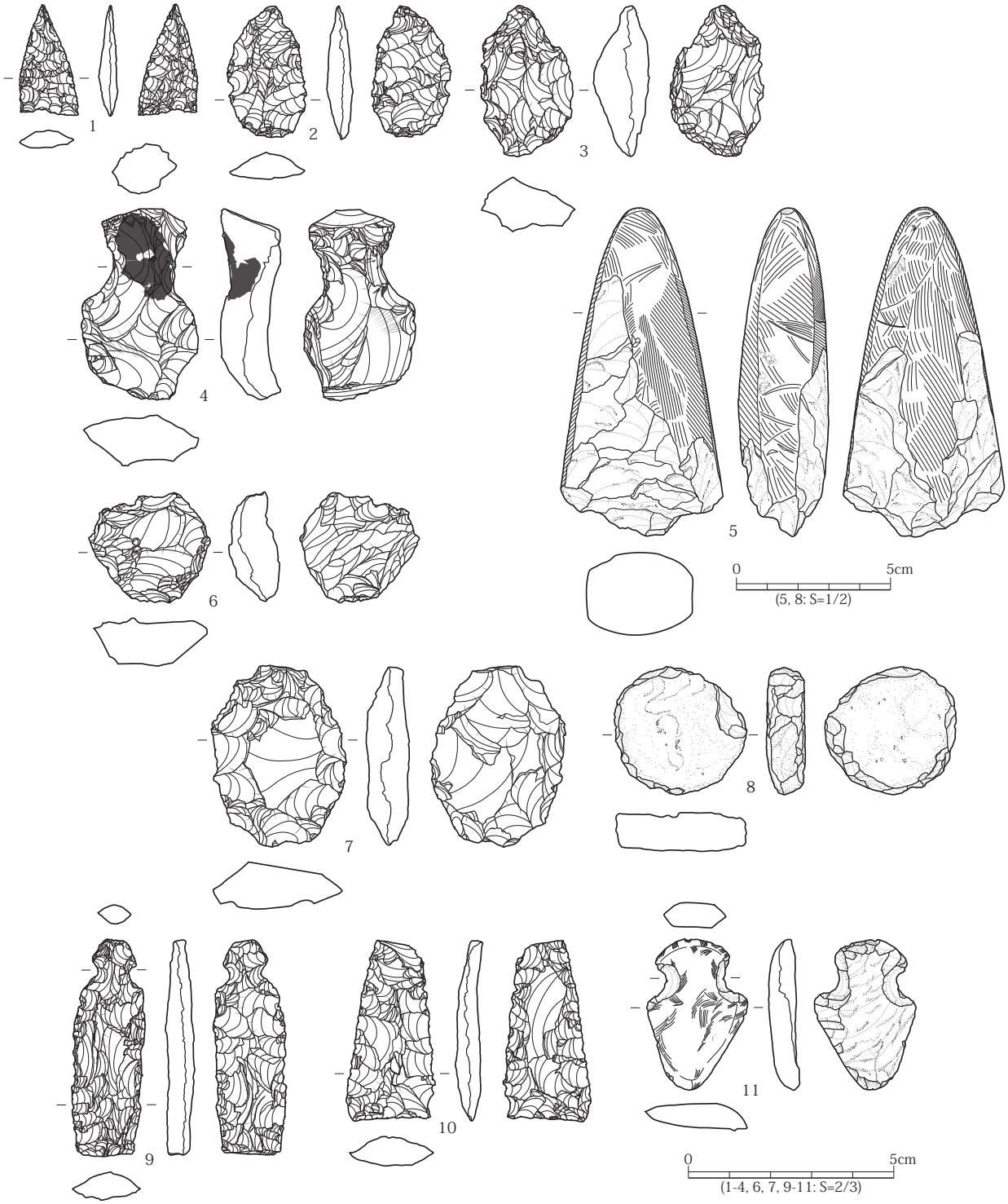
本地点では後期後葉から弥生時代前期の遺物が見られるが、遺物包含層から出土した土器型式から、東2地点の3層群は晩期前葉頃、2層群は晩期前葉から晩期後葉、1層群は晩期末葉（晩期6期）から弥生時代前期（弥生1期）に位置づけられる。なお、E-32区では晩期後葉以降とみられる遺物は出土していないことから、後葉以降は生活の場をより北側に移したものとみられる。

本地点では、南側で土坑群を検出しており、人為的に埋め戻されたものもあることから、貯蔵穴群



【3層群】 1: 鉢 / E-32・Ⅵd層 / 46図2, 2: 鉢 / E-32・Ⅵe層 / 46図1, 3: 壺 / E-32・Ⅵd層 / 46図3
【2層群】 4: 壺 / E-32・Ⅵa層 / 46図6, 5: 鉢 / E-36・Ⅵb層 / 52図2, 6: 鉢 / E-36・Ⅵb層 / 52図1, 7: 深鉢 / E-36・Ⅵb層 / 52図3,
8: 皿 / E-36・Ⅵb層 / 52図6, 9: 深鉢 / E-36・Ⅵb層 / 52図4, 10: 注口土器 / E-37・Ⅵb層 / 52図8, 11: 鉢 / E-37・Ⅵb層 / 52図7,
12: 深鉢 / E-36・Ⅵb層 / 52図5
【1層群】 13: 皿 / E-37・Ⅵa層 / 53図5, 14: 皿 / E-36・Ⅵa層 / 53図4, 15: 注口土器 / E-36・Ⅵa層 / 53図12, 16: 壺 / E-36・Ⅵa層 / 53図13,
17: 深鉢 / E-36・Ⅵa層 / 53図3, 18: 鉢 / E-36・Ⅵa層 / 53図1, 19: 鉢 / E-37・Ⅵa層 / 53図11, 20: 台付浅鉢 / E-36・Ⅵa層 / 53図10,
21: 浅鉢 / E-36・Ⅵa層 / 53図8, 22: 四脚付鉢 / E-36・Ⅵa層 / 53図7, 23: 浅鉢 / E-36・Ⅵa層 / 53図9,
26: 円盤状土製品 / E-36・Ⅵa層 / 53図14, 27: 土偶左脚 / E-36・Ⅵa層確認面 / 53図15
【その他】 24: 鉢 / E-84・Ⅵ層 / 77図7, 25: 鉢 / E-54・Ⅵ層 / 77図6 （宮城県文化財調査報告書第226集）

第61図　東2地点　遺物包含層　出土土器・土製品



【2層群】 1: 石鏃 / E-36・Ⅵb層 / 52図9, 2: 石鏃 / E-32・遺構確認面 / 79図9, 3: 石鏃 / E-32・Ⅵa層 / 46図7, 4: 石匙 / E-36・Ⅵb層 / 52図10, 5: 磨製石斧 / E-32・遺構確認面 / 80図1, 6: 楔形石器 / E-32・Ⅵa層 / 46図8
【1層群】 7: 不定形石器 / E-36・Ⅵa層 / 53図16, 8: 円盤状石製品 / E-36・Ⅵa層 / 53図17
【その他】 9: 石匙 / E-54・Ⅴ層 / 79図10, 10: 石匙 / E-54・Ⅴ層 / 79図11, 11: 不明石製品 / E-54・Ⅰ層 / 80図5
（宮城県文化財調査報告書第226集）

第62図　東2地点　遺物包含層ほか　出土石器・石製品

の可能性が考えられる。貯蔵穴群のある E-32 区では、晩期前葉後半から中葉前半頃と出土遺物の時期幅が小さい。東 2 地点全体では弥生時代前期までの遺物が出土しているが、遺物量は多くないことから、小規模な集落が場所を変えながら多くの時期にわたって存続していたものとみられる。

3. 東 3 地点

東 3 地点は、東 B 丘陵の南西端部に位置する。この地点の丘陵裾部で集石遺構 1 基と遺物包含層（東 B 丘陵南斜面 a 包含層）を検出した。この地点に含まれる発掘調査区は、D-40 区、D-41 区、D-65 区、E-25 区の 4 調査区である（第 56 図）。遺物は、縄文土器や弥生土器、土製品、石器・石製品、骨角牙製品、漆製品、動物遺存体、植物遺存体が出土した。その量はすべての種類を合わせて、遺物収納箱換算で約 52 箱に相当する。また、本地点では、E-25 区の東側（ほ場整備の事業区域外）で、平成 25 年度に個人住宅新築および浄化槽設置工事に伴う発掘調査が大崎市教育委員会により行われており、縄文時代晩期から弥生時代前期の遺物包含層が検出され、土器や土製品、石器・石製品、動物遺存体が多く出土している（大崎市教育委員会　2015b）。

（1）遺構

E-25 区で集石遺構 1 基を検出した。

【SX31 集石遺構】

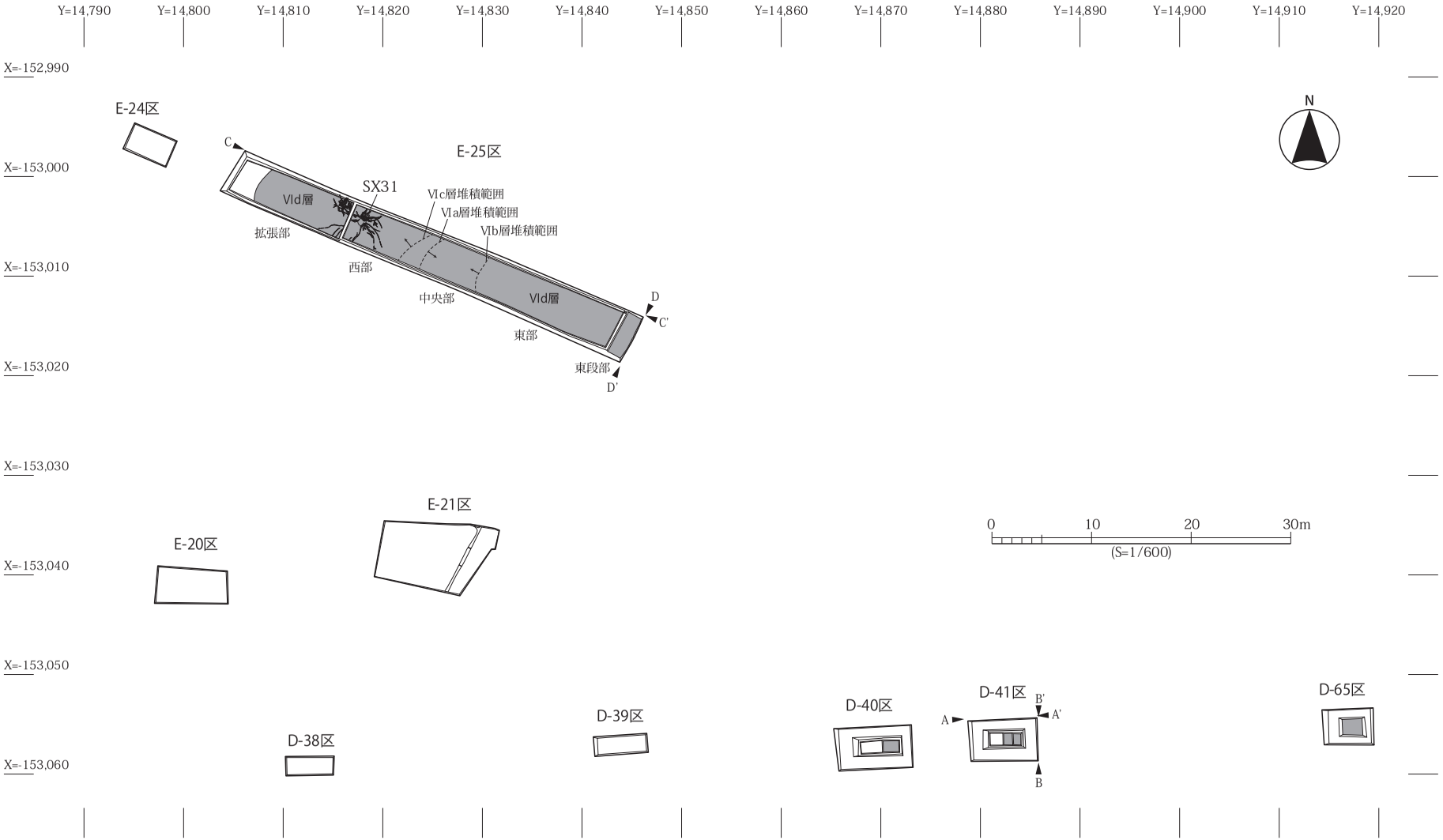
E-25 区西部のほぼ平坦な遺物包含層上で検出した（第 66 図）。遺物はⅥ d 層上部に分布し、その上を遺物包含層（Ⅵ c 層）が覆う（第 67 図）。土坑状の掘り込みは確認できないが、集石範囲の平面形は長径 81cm、短径 50cm の楕円形を呈する。高さは 8cm あり、遺物は密集するように集められているが、それぞれの重なりはあまり見られない。

集積された遺物は 87 点あり、石核 1 点、磨石 16 点、自然石 70 点がある（第 67 図）。自然石が約 8 割を占め、石器が少ないことが特徴である。石器は、石核 1 点を除いてすべて磨石である。磨石の石材は凝灰岩と安山岩であり、自然石の石材もまた凝灰岩と安山岩がほとんどである。加えて、石器と自然石とで大きさに差異が見られず、さらに、石器と自然石の分布にも差異が認められないことから、本遺構は礫石器（特に磨石）やその素材を集積したものとみられる。

（2）遺物包含層と出土遺物

遺物包含層（Ⅵ層）は、D-40･41 区、D-65 区、E-25 区で検出した。その範囲は、東西約 124m（D-65 区と E-25 区間の直線距離）、南北約 60m（D-40 区と大崎市教育委員会調査地点間の直線距離）ある。なお、E-25 区の北側の丘陵裾部は調査対象外であり、D-65 区の東側にある調査区（D-66 区など）や D-40 区の西側にある調査区（D-39 区など）では、Ⅵ層を確認できなかった。また、E-25 区の南側にある調査区（E-21 区など）や西側にある調査区（E-24 区など）ではⅥ層を確認できず、北側にある調査区（E-70 区）ではⅥ層は残存していない。

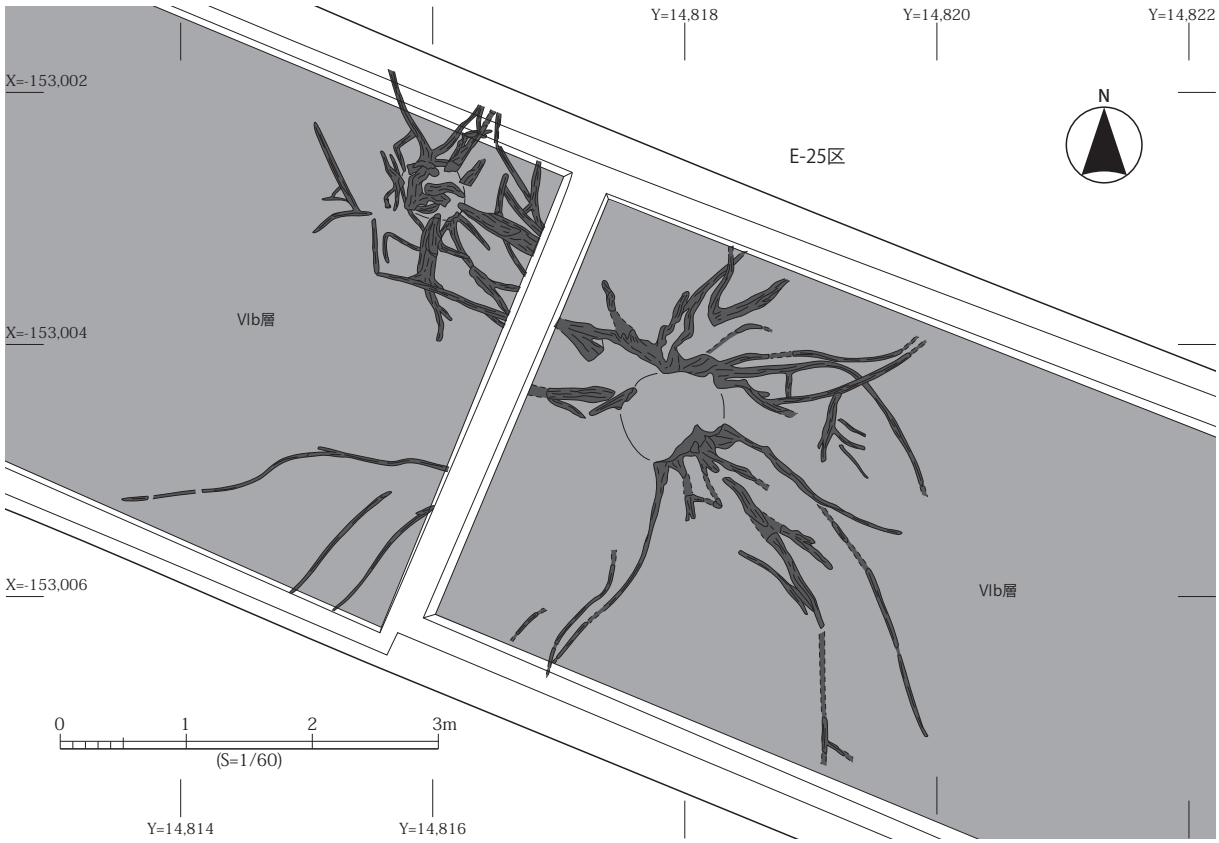
Ⅵ層上面は、D-41 区では南に、E-25 区では調査区西側で西に緩やかに傾斜する地形となっている。調査区壁面におけるⅥ層の検出範囲は、D-41 区東壁では直線距離で約 1.8m あり、Ⅵ層上面での比高は約 0.2m、勾配は約 11.1%、E-25 区北壁では直線距離で約 40.0m あり、Ⅵ層上面での比高は約 1.3m、勾配は約 3.3% である。



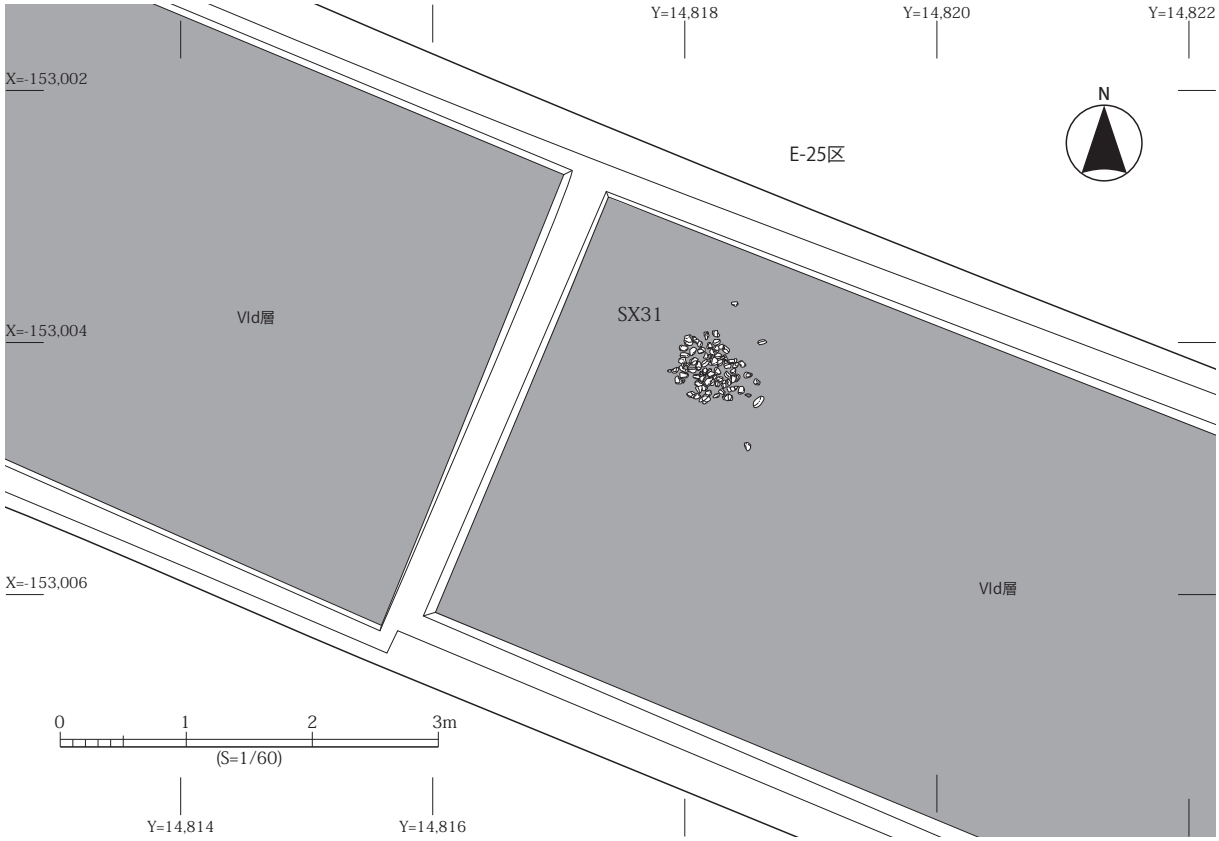
第63図　東3地点　調査区平面図

調査区／遺構	層序	土色	土性	特徴
D-41区	A-A' B-B'	VIa 黒色（10YR1.7/1）	粘土	スクモ少量
		VIb 灰黄褐色（10YR4/2）	粘土	スクモ極多量
E-25区	C-C' D-D'	VIa 黒色（10YR2/1）	粘土	スクモ多量
		VIb 黒褐色（10YR2/2）	砂	小礫多量
		VIc 暗灰黄褐色（2.5Y5/2）	粗砂	
		VId 黒色（10YR1.7/1）	粘土	層下部でスクモやや多量

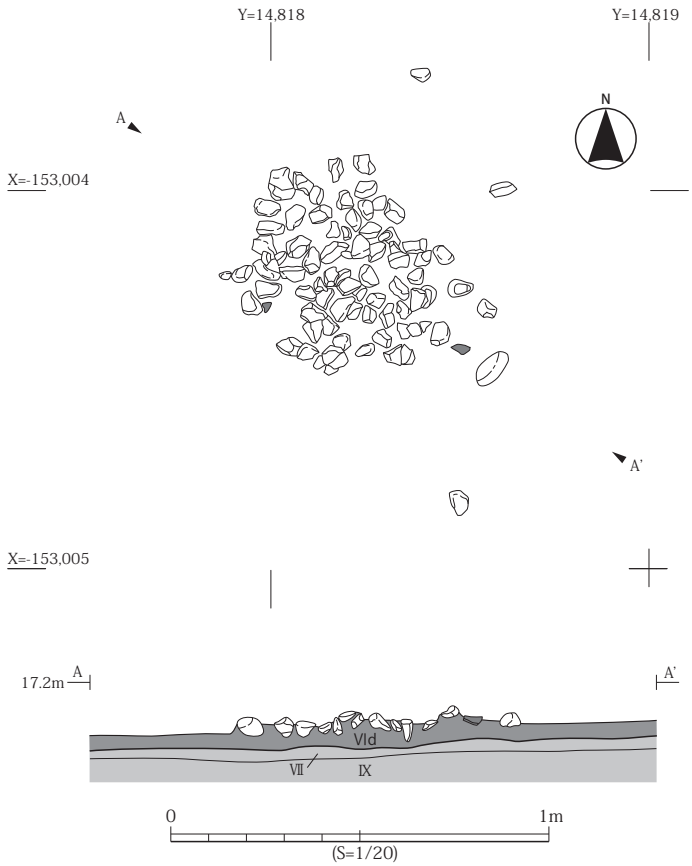
第64図　東3地点　調査区断面図



第65図　E-25区Ⅵb層　ヤマグワ根張り　検出状況



第66図　E-25区Ⅵd層　SX31集石遺構　検出状況

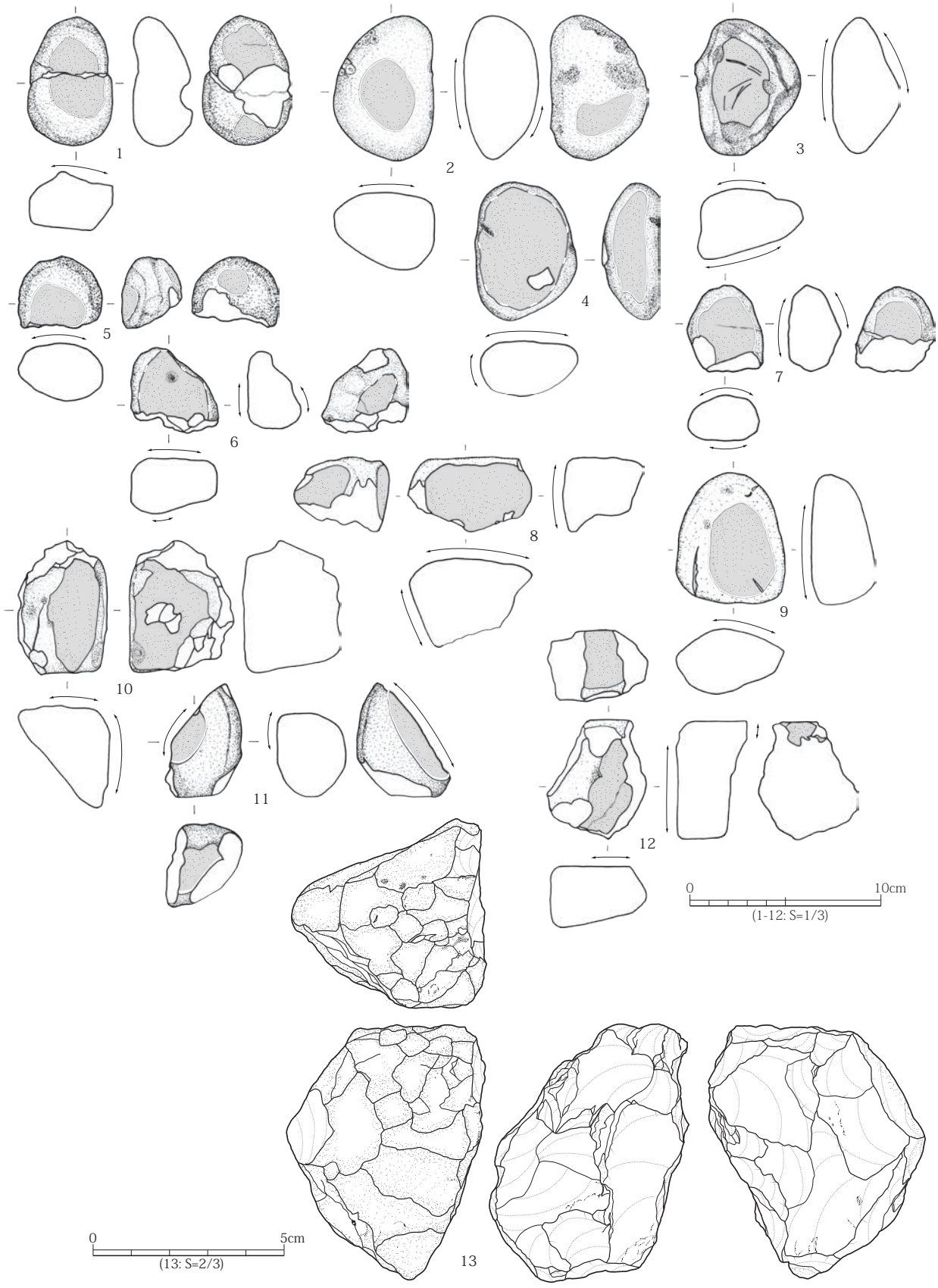


器種	珪化凝灰岩	緑色凝灰岩	凝灰岩	安山岩	玄武岩質安山岩	玄武岩	緑色岩	蛇紋岩	泥岩	細礫岩	不明	計
石核						1						1
磨石			8	8								16
自然石	2	8	32	18	1		1	1	4	1	2	70
計	2	8	40	26	1	1	1	1	4	1	2	87

第67図　SX31集石遺構　平面図・断面図・遺物組成

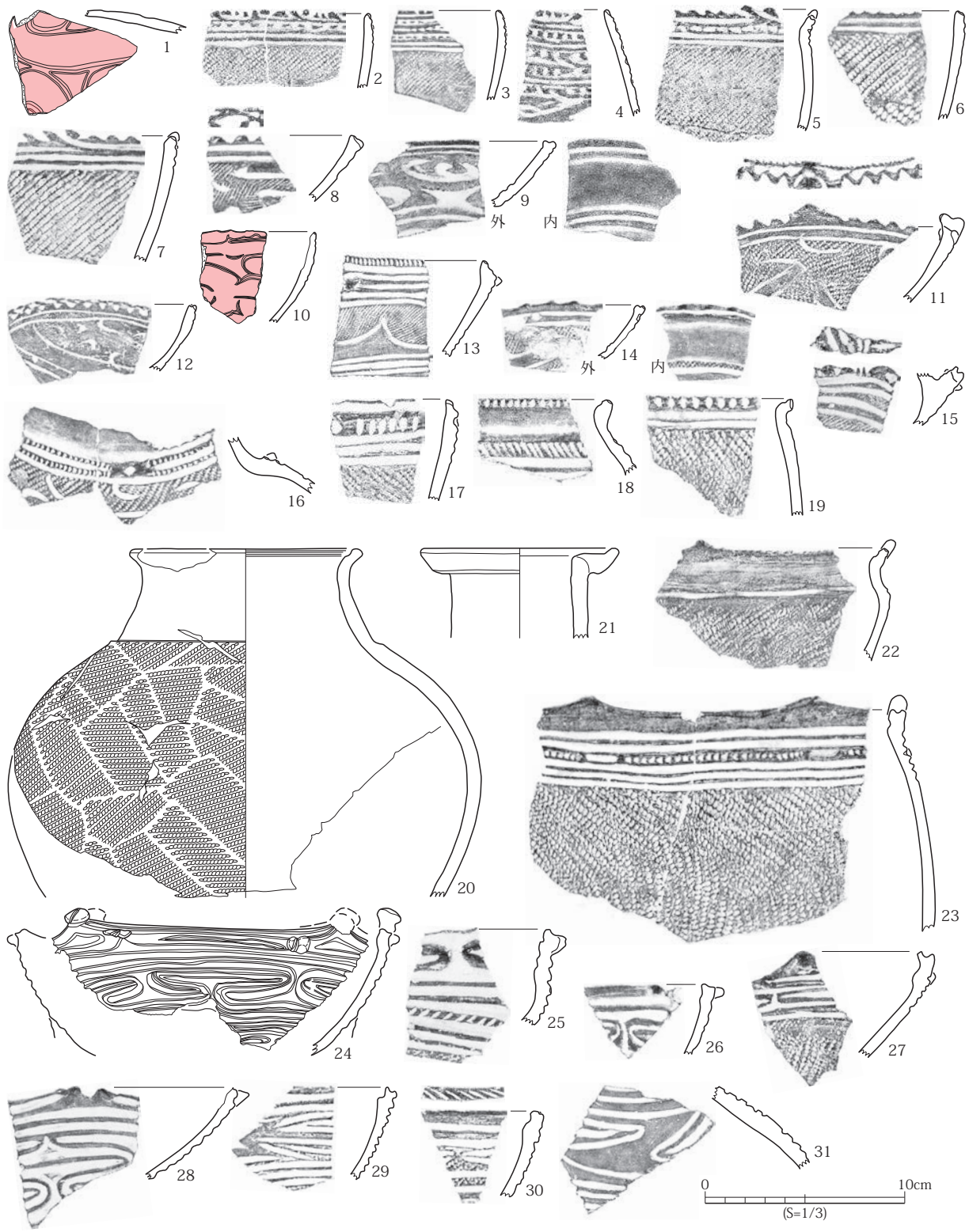
Ⅵ層は、土色や土性、含有物などの特徴から、遺物が特に多く出土したE-25区ではおおむね4層に細分される（第64図）。遺物はⅥd層からⅥa層まで出土しているが、Ⅵc層では遺物の出土が少なく、それ以外の層では多量に出土している。出土した遺物には、縄文土器や弥生土器、土製品、石器・石製品、骨角牙製品、漆製品、動物遺存体などがある。

土器は、Ⅵd層から、三叉文が施された壺（第69図1）や羊歯状文が施された鉢・注口土器（同図2～4）、雲形文が施された鉢・浅鉢・皿・壺・注口土器（同図8～16）、工字文が施された鉢・浅鉢・壺（同図24～31）、π字文が施された深鉢・鉢・四脚付鉢・浅鉢・壺（同図28、第70図1～4・6・7・9）などが出土している。また、この層から出土した土器3点について、土器付着炭化物や漆を対象として放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、三叉文が施された壺（第69図1）の ^{14}C 年代が2,925±25yrBP、暦年較正年代（1σ）が1198～1055calBCとなり、縄文時代晩期前葉頃に相当する年代値（小林　2019、以下同）、雲形文が施された鉢（同図10）の ^{14}C 年代が2,840±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が1046～934calBCとなり、縄文時代晩期中葉前半頃に相当する年代値、平行沈線間に刺突列が施された深鉢（同図23）の ^{14}C 年代が2,440±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が731～422calBCとなり、縄文時代晩期後葉から弥生時代前期に相当する年代値が得られた。



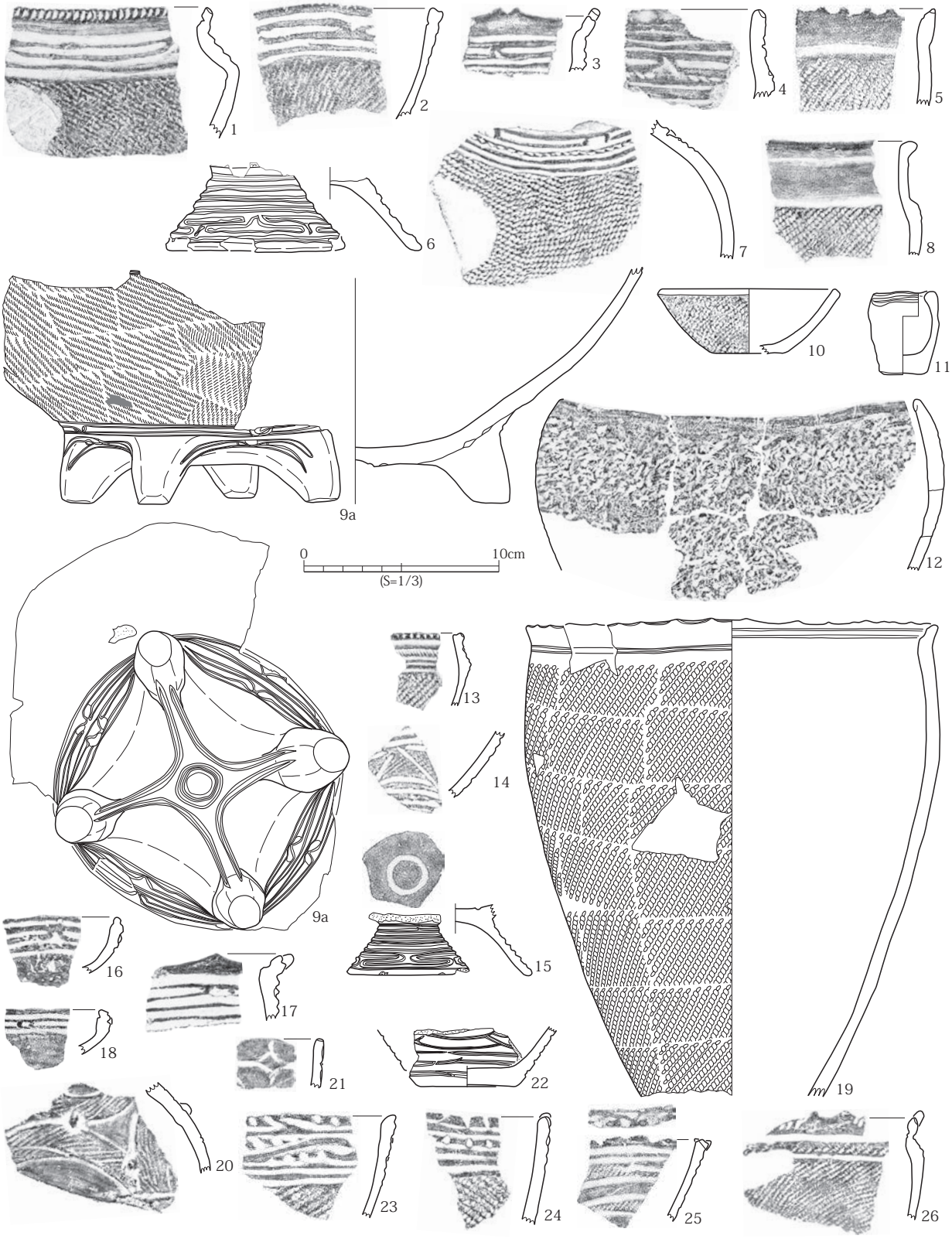
1: 磨石 / SX31 / 43図4, 2: 磨石 / SX31 / 43図8, 3: 磨石 / SX31 / 43図6, 4: 磨石 / SX31 / 43図5, 5: 磨石 / SX31 / 43図1,
6: 磨石 / SX31 / 43図3, 7: 磨石 / SX31 / 43図2, 8: 磨石 / SX31 / 43図11, 9: 磨石 / SX31 / 43図7, 10: 磨石 / SX31 / 43図10,
11: 磨石 / SX31 / 43図9, 12: 磨石 / SX31 / 43図12, 13: 石核 / SX31 / 43図13 （宮城県文化財調査報告書第226集）

第68図　SX31集石遺構　出土石器



【Vld層】1: 壺 / E-25中央・Vld層 / 16図24，2: 鉢 / E-25東・Vld層 / 15図2，3: 鉢 / E-25中央・Vld層 / 15図1，
4: 注口土器 / E-25中央・Vld層 / 17図4，5: 深鉢 / E-25東段・Vld層 / 15図4，6: 深鉢 / E-25西・Vld層 / 15図27，
7: 深鉢 / E-25東・Vld層 / 15図5，8: 皿 / E-25西・Vld層 / 16図6，9: 皿 / E-25東・Vld層 / 16図2，10: 浅鉢 / E-25東段・Vld層 / 16図3，
11: 皿 / E-25西・Vld層 / 16図9，12: 皿 / E-25東・Vld層 / 16図5，13: 浅鉢 / E-25東・Vld層 / 16図10，14: 皿 / E-25東・Vld層 / 16図4，
15: 注口土器 / E-25西・Vld層 / 17図5，16: 壺 / E-25西・Vld層 / 16図25，17: 鉢 / E-25中央・Vld層 / 15図6，
18: 深鉢 / E-25西・Vld層 / 15図23，19: 深鉢 / E-25東段・Vld層 / 15図25，20: 壺 / E-25東・Vld層 / 17図1，21: 壺 / E-25西・Vld層 / 17図3，
22: 深鉢 / E-25東・Vld層 / 15図32，23: 深鉢 / E-25東段・Vld層 / 15図7，24: 浅鉢 / E-25東・Vld層 / 16図18，
25: 浅鉢 / E-25西・Vld層 / 16図16，26: 鉢 / E-25東・Vld層 / 16図15，27: 浅鉢 / E-25西・Vld層 / 16図12，
28: 浅鉢 / E-25中央・Vld層 / 16図14，29: 鉢 / E-25東・Vld層 / 16図17，30: 鉢 / E-25東段・Vld層 / 15図12，
31: 壺 / E-25西・Vld層 / 16図26 （宮城県文化財調査報告書第226集）

第69図　東3地点　遺物包含層　出土土器（1）

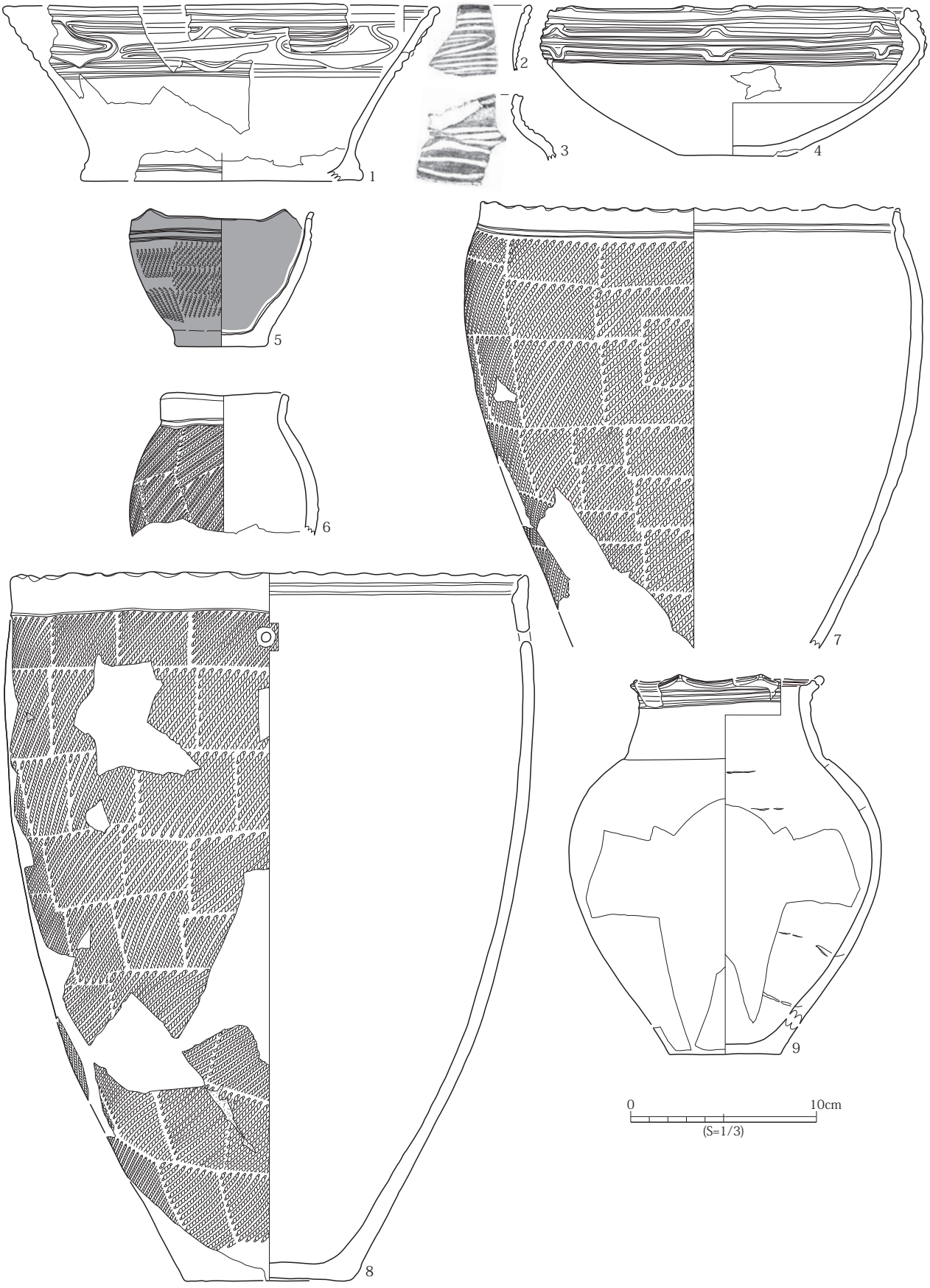


【Vld層】1: 深鉢 / E-25拡張・Vld層 / 15図10, 2: 鉢 / E-25東・Vld層 / 15図11, 3: 深鉢 / E-25東・Vld層 / 15図8,
4: 鉢 / E-25拡張・Vlb・d層 / 15図9, 5: 深鉢 / E-25西・Vld層 / 15図28, 6: 台部 / E-25西・Vld層 / 16図20,
7: 壺 / E-25東段・Vld層 / 16図27, 8: 深鉢 / E-25東・Vlb・d層 / 15図22, 9: 四脚付鉢 / E-25東段・Vld層 / 16図19,
10: 浅鉢 / E-25東段・Vld層 / 16図22, 11: 袖珍土器深鉢 / E-25区東・Vld層 / 17図10, 12: 鉢 / E-25東段・Vld層 / 15図31
【Vlc層】13: 深鉢 / E-25拡張・Vlc層 / 22図3, 14: 壺 / E-25東・Vlc層 / 22図8, 15: 台部 / E-25東・Vlc層 / 22図7,
16: 浅鉢 / E-25拡張・Vlc層 / 22図5, 17: 深鉢 / E-25拡張・Vlc層 / 22図4, 18: 浅鉢 / E-25拡張・Vlc層 / 22図6,
19: 深鉢 / E-25拡張・Vlc層 / 27図1
【Vlb層】20: 壺 / E-25中央・Vlb層 / 29図18, 21: 壺 / E-25拡張・Vlb・d層 / 29図19, 22: 壺か / E-25拡張・Vlb層 / 29図23,
23: 鉢 / E-25中央・Vlb層 / 28図2, 24: 深鉢 / E-25拡張・Vlb層 / 28図1, 25: 皿 / E-25中央・Vlb層 / 29図3, 26: 深鉢 / E-25西・Vlb層 / 28図8
（宮城県文化財調査報告書第226集）

第70図　東3地点　遺物包含層　出土土器（2）

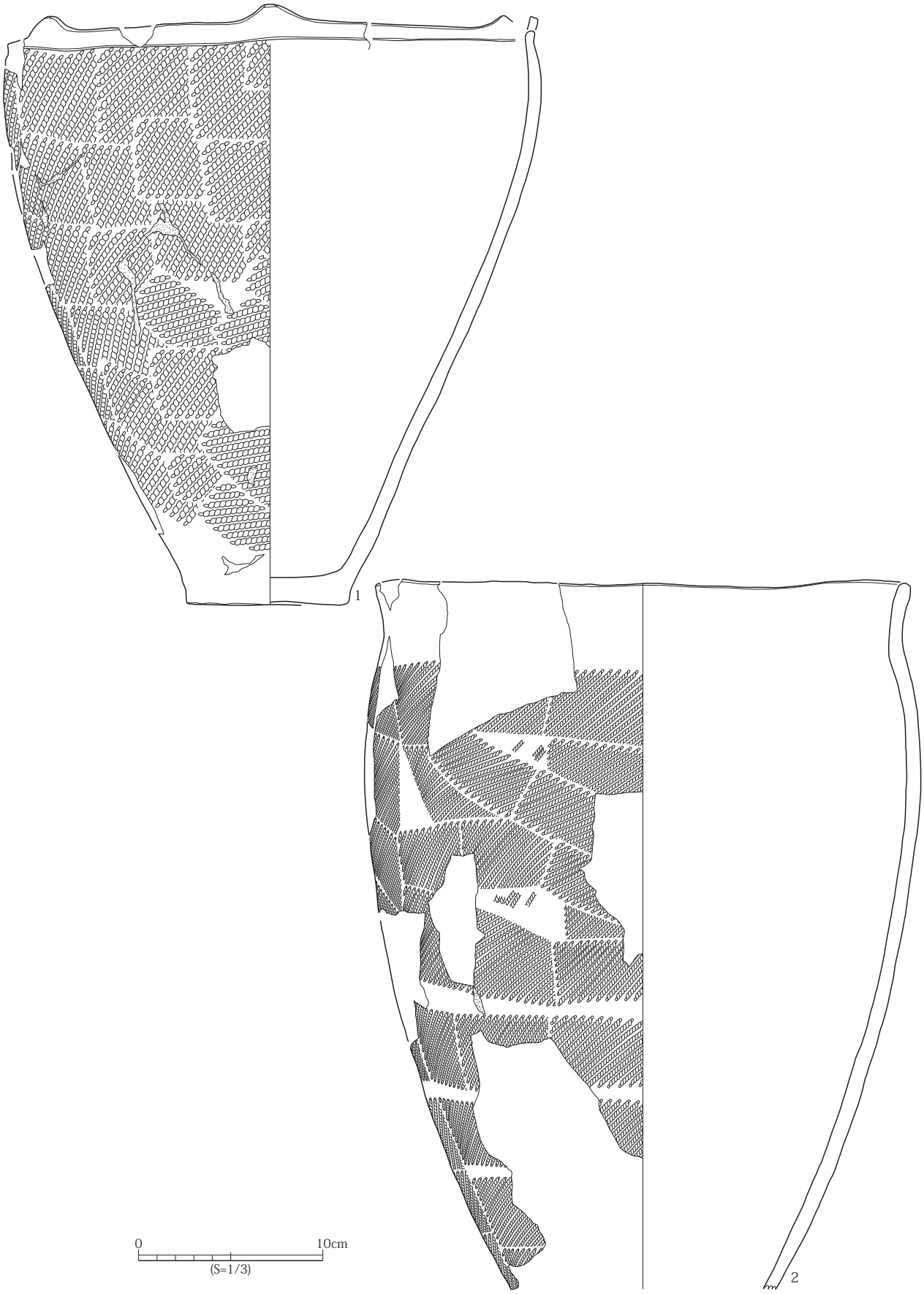
【Vlb層】1: 浅鉢 / E-25拡張・Vlb層 / 29図5, 2: 壺 / E-25中央・Vlb層 / 29図22, 3: 鉢 / E-25中央・Vlb・d層 / 29図7,
4: 鉢 / E-25西・Vlb・d層 / 28図5, 5: 深鉢 / E-25西・Vlb層 / 28図9, 6: 壺 / E-25中央・Vlb層 / 29図25, 7: 深鉢 / E-25西・Vlb層 / 28図4,
8: 浅鉢 / E-25西・Vlb・d層 / 29図10, 9: 浅鉢 / E-25拡張・Vlb層 / 29図14, 10: 鉢 / E-25中央・Vlb層 / 29図9,
11: 鉢 / E-25拡張・Vlb層 / 29図11, 12: 鉢 / E-25中央・Vlb層 / 29図4, 13: 鉢 / E-25中央・Vlb層 / 29図6, 14: 壺 / E-25西・Vlb層 / 29図24,
15: 深鉢 / E-25西・Vlb層 / 29図2, 16: 壺 / E-25西・Vlb・d層 / 29図20, 17: 浅鉢 / E-25拡張・Vlb層 / 29図12,
18: 深鉢 / E-25中央・Vlb層 / 28図3, 19: 深鉢 / E-25拡張・Vlb層 / 27図4 （宮城県文化財調査報告書第226集）

第71図　東3地点　遺物包含層　出土土器（3）



【Vlb層】1: 浅鉢 / E-25拡張・Vlb層 / 29図13, 2: 鉢 / E-25西・Vlb層 / 28図6, 3: 壺 / E-25西・Vlb層 / 29図21,
4: 浅鉢 / E-25拡張・Vlb層 / 27図5, 5: 漆容器（鉢） / E-25拡張・Vlb層 / 29図17, 6: 壺 / E-25拡張・Vlb層 / 27図6,
7: 深鉢 / E-25中央・Vlb層 / 29図1, 8: 深鉢 / E-25西・Vlb層 / 28図10, 9: 壺 / E-25西・Vlb層 / 30図1 （宮城県文化財調査報告書第226集）

第72図　東3地点　遺物包含層　出土土器（4）

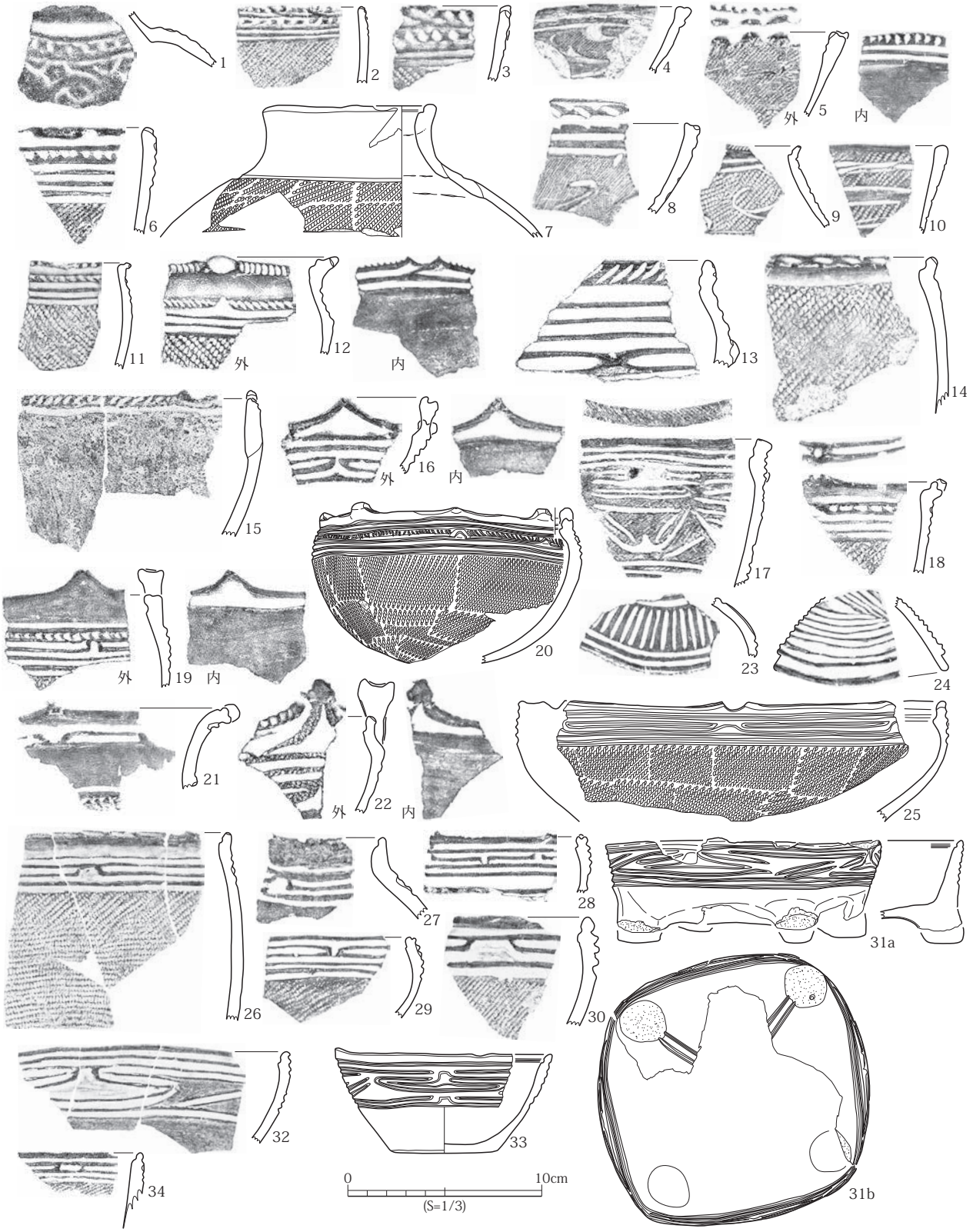


【VIb層】1: 深鉢 / E-25西・VIb層 / 27図3, 2: 深鉢 / E-25拡張・VIb層 / 26図3 （宮城県文化財調査報告書第226集）

第73図　東3地点　遺物包含層　出土土器（5）

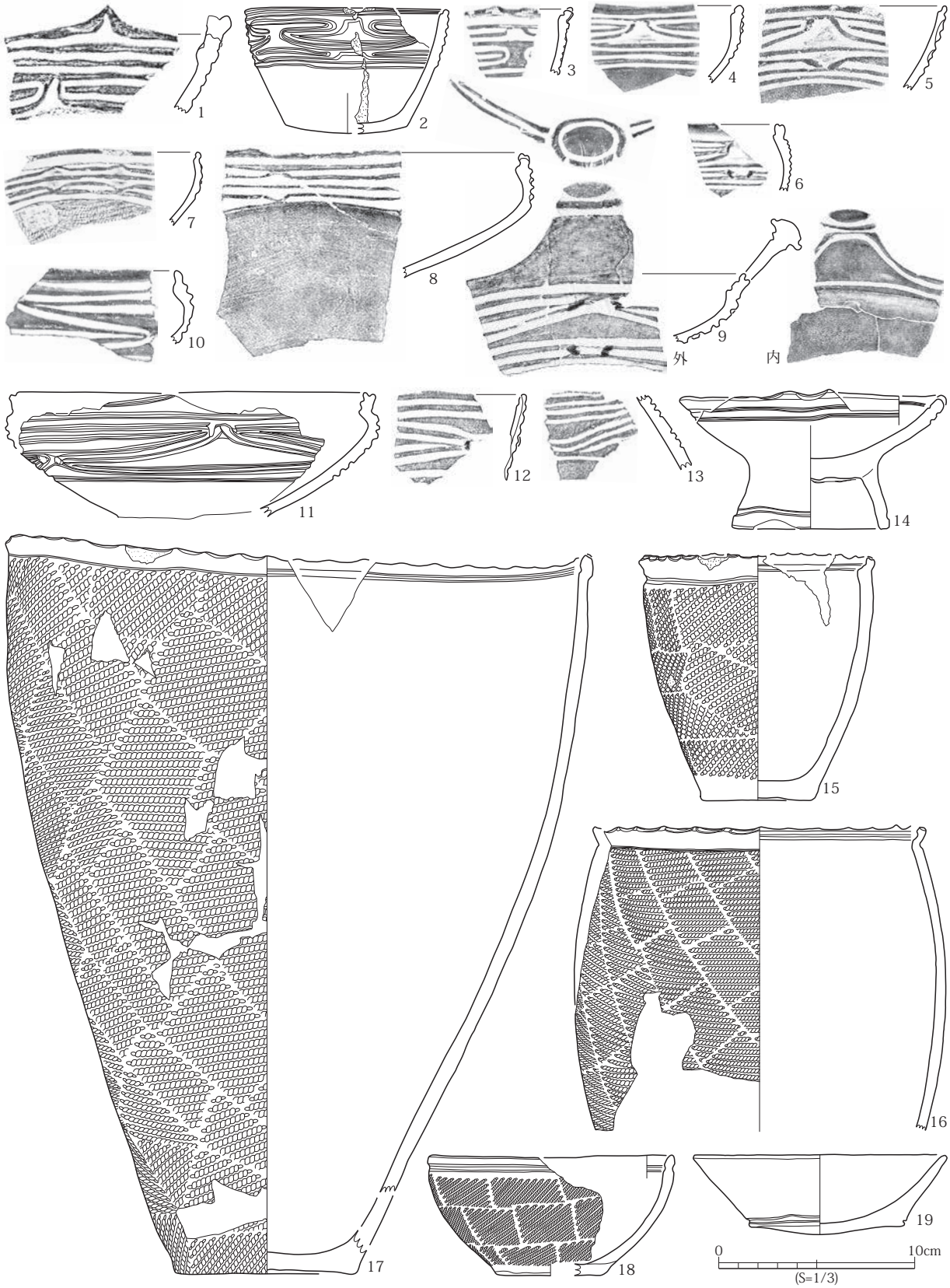
【Vlb層】1: 深鉢 / E-25西・Vlb層 / 24図1, 2: 深鉢 / E-25拡張・Vlb層 / 24図2, 3: 深鉢 / E-25拡張・Vlb層 / 24図3
（宮城県文化財調査報告書第226集）

第74図　東3地点　遺物包含層　出土土器（6）



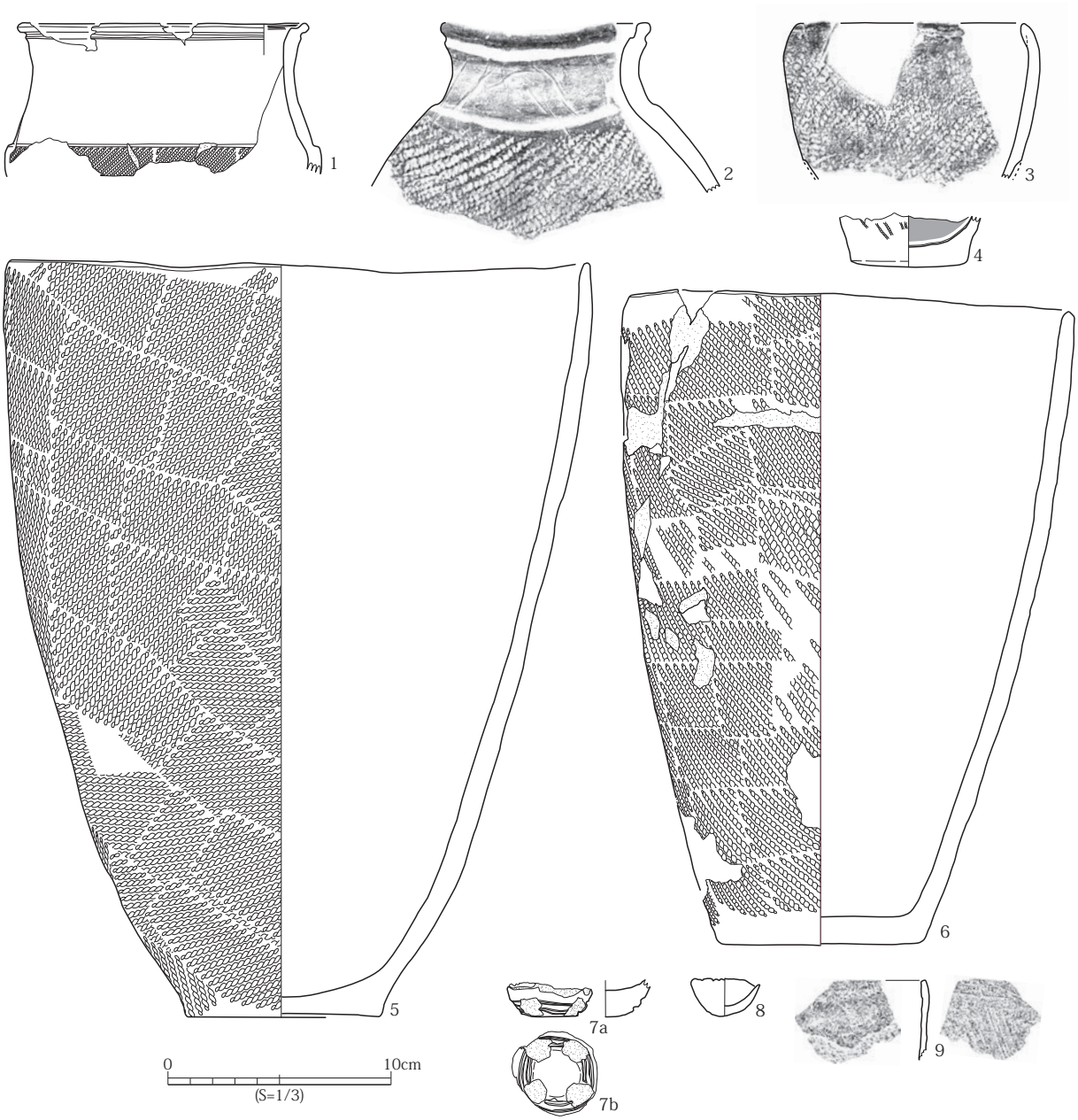
【Ⅵa層】1: 壺 / E-25東・Ⅵa層 / 36図17, 2: 深鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 33図1, 3: 鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 33図2, 4: 皿 / E-25中央・Ⅵa層 / 35図9,
5: 浅鉢 / E-25東・Ⅵa・d層 / 35図8, 6: 深鉢 / E-25東・Ⅵa・d層 / 33図11, 7: 壺 / E-25東・Ⅵa層 / 36図23, 8: 皿 / E-25東・Ⅵa層 / 35図10,
9: 注口土器 / E-25東・Ⅵa層 / 36図19, 10: 鉢 / E-25中央・Ⅵa・b・d層 / 33図13, 11: 深鉢 / E-25東・Ⅵa・d層 / 33図12,
12: 深鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 33図16, 13: 深鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 35図23, 14: 深鉢 / E-25西・Ⅵa層 / 34図4,
15: 鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 34図3, 16: 台付浅鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 35図28, 17: 鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 33図4,
18: 深鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 33図17, 19: 深鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 35図30, 20: 鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 35図31, 21: 壺 / E-25東・Ⅵa層 / 36図20,
22: 鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 36図2, 23: 壺 / E-25東・Ⅵa層 / 36図25, 24: 蓋 / E-25東・Ⅵa層 / 36図26, 25: 浅鉢 / E-25東段・Ⅵa層 / 35図34,
26: 深鉢 / E-25東・Ⅵa・d層 / 33図5, 27: 壺 / E-25東・Ⅵa層 / 33図7, 28: 鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 35図26, 29: 鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 35図14,
30: 鉢 / E-25東段・Ⅵa層 / 33図10, 31: 四脚付浅鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 36図14, 32: 浅鉢 / E-25区東・Ⅵa層 / 35図18,
33: 鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 35図32, 34: 鉢 / E-25東・Ⅵa・d層 / 33図8 （宮城県文化財調査報告書第226集）

第75図　東3地点　遺物包含層　出土土器（7）



【Ⅵa層】1: 浅鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 35図29, 2: 鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 35図33, 3: 鉢 / E-25東・Ⅵa・d層 / 33図20,
4: 浅鉢 / E-25中央・Ⅵa層 / 35図19, 5: 浅鉢 / E-25西・Ⅵa層 / 35図13, 6: 鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 35図11, 7: 浅鉢 / E-25中央・Ⅵa層 / 35図12,
8: 浅鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 35図25, 9: 台付浅鉢 / E-25東・Ⅵ層 / 36図3, 10: 浅鉢 / E-25中央・Ⅵa層 / 35図21,
11: 台付浅鉢 / E-25拡張・Ⅰ層 / 86図1, 12: 鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 35図22, 13: 台部 / E-25東段・Ⅴ層 / 86図2,
14: 台付浅鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 36図16, 15: 深鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 34図9, 16: 深鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 34図11,
17: 深鉢 / E-25東段・Ⅵa層 / 34図12, 18: 浅鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 36図12, 19: 深鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 36図13
（宮城県文化財調査報告書第226集）

第76図　東3地点　遺物包含層　出土土器（8）



【Ⅵa層】1: 鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 36図11, 2: 壺 / E-25東・Ⅵa層 / 36図24, 3: 深鉢 / E-25東・Ⅵa・d層 / 33図24,
4: 漆容器（深鉢） / E-25東・Ⅵa・d層 / 36図10, 5: 深鉢 / E-25東段・Ⅵa層 / 33図27, 6: 深鉢 / E-25東・Ⅵa層 / 33図26,
7: 袖珍土器四脚付鉢 / E-25東 ・Ⅵa・d層 / 37図15, 8: 袖珍土器鉢 / E-25区東 ・Ⅵa層 / 37図16,
9: 製塩土器深鉢 / E-25区東段・Ⅵa層 / 33図25（宮城県文化財調査報告書第226集）

第77図　東3地点　遺物包含層　出土土器（9）

Ⅵc層からは、工字文が施された壺・台部（第70図14・15）やπ字文が施された深鉢・浅鉢（同図16～18）などが出土している。Ⅵb層からは、瘤付土器や三叉文、羊歯状文、雲形文がそれぞれ施された土器が出土しているが、晩期後葉以降のものが主体となる。工字文が施された鉢・壺（第71図2～4）、π字文が施された深鉢・鉢・浅鉢・壺（同図1・2・7・11～19）、浮線文が施された浅鉢（同図8・9）、上下対向のπ字文が施された浅鉢（第72図4）、変形工字文が施された鉢・浅鉢・壺（同図1～3）などが出土している。また、この層から出土した土器4点について、土器付着炭化物や漆を対象として放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、π字文が施された深鉢（第71図15）の ^{14}C 年代が2,440±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が754～545calBCとなり、縄文時代晩期中

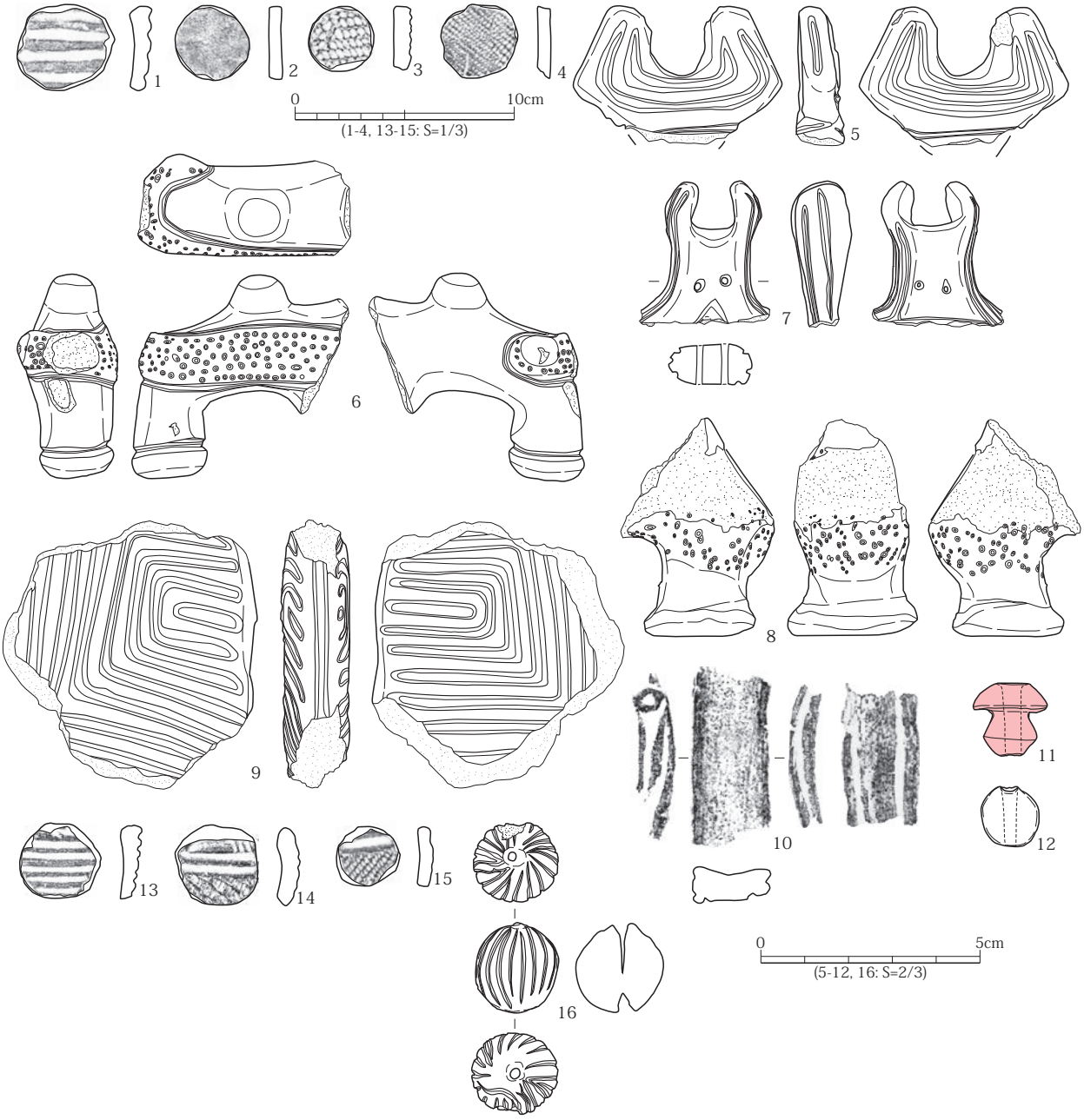
葉後半から後葉頃に相当する年代値、上下対向のπ字文が施された浅鉢（第72図4）の^{14}C年代が2,545±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が790～596calBCとなり、縄文時代晩期中葉後半から後葉頃に相当する年代値、平行沈線文が施された鉢（同図5）の^{14}C年代が2,445±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が736～425calBCとなり、縄文時代晩期後葉から弥生時代前期頃に相当する年代値、粗製深鉢（第74図1）の^{14}C年代が2,495±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が758～563calBCとなり、縄文時代晩期中葉後半から後葉頃に相当する年代値が得られた。Ⅵa層からは、羊歯状文や雲形文がそれぞれ施された土器が出土しているが、この層もまた晩期後葉以降のものが主体となる。工字文が施された鉢・台付浅鉢（第75図16・17）、π字文が施された深鉢・鉢・浅鉢・壺（同図18～22・25～30）、浮線渦巻文が施された蓋（同図24）、上下対向のπ字文が施された浅鉢（第76図7・8）、変形工字文が施された鉢・浅鉢・台付浅鉢・四脚付浅鉢（第75図31～33、第76図1～6・9・10・12）などが出土している。また、この層から出土した深鉢（第75図18）について、土器付着炭化物を対象として放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、^{14}C年代が2,520±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が774～572calBCとなり、縄文時代晩期中葉後半から後葉頃に相当する年代値が得られた。

土製品には、土偶頭部（第78図5・7）や土偶肩部（同図6）、土偶左脚（同図8）、土版（同図9）、耳飾（同図10・11）、球形土製品（同図12・16）、円盤状土製品（同図1～4・13～15）がある。土偶頭部は角状を呈しており、晩期中葉から後葉頃によく見られる土偶である。土偶肩部や左脚には帯状に多数の刺突が施されている。耳飾には環形とキノコ形がある。環形のものは側面に沈線等で装飾が施されている。

石器・石製品は、Ⅵd層から石鏃1点（第79図1）、石錐1点（同図2）、石篦1点（同図3）、磨製石斧3点（同図4）、不定形石器1点、石皿6点（同図8）、磨石などの礫石器46点（同図5～7）、剥片・石核69点、円盤状石製品4点（同図10）、石棒・石刀2点、有孔石製品1点（同図9）が出土した。礫石器の割合が大きいことが特徴である。Ⅵc層からは磨石4点（同図11）と剥片6点が出土している。Ⅵb層からは、石鏃1点（同図12）、環状石斧1点（第80図1）、不定形石器5点、石皿15点、磨石などの礫石器40点（同図2～4）、剥片・石核108点、円盤状石製品5点（同図5）、勾玉1点（同図7）、岩版1点（同図6）が出土した。環状石斧は未成品とみられる。この層もまたⅥd層と同様に礫石器の割合が大きく、特に石皿の割合が大きいことが特徴である。Ⅵa層からは、石鏃8点（同図8～10）、石錐2点（同図12･13）、石匙1点、石篦1点（第81図1）、磨製石斧6点（同図3・4）、楔形石器2点（第80図11）、不定形石器20点（第81図2）、石皿6点（同図5）、磨石などの礫石器34点（同図6）、剥片・石核330点、円盤状石製品2点（同図7）、石棒・石刀5点（同図8）、不明石製品3点（同図9）が出土している。

骨角牙製品は、刺突具（第82図1・4・16）や棒状角製品（同図3・5～7）、簪（同図8）、針状製品（同図9）、垂飾・管状垂飾・猪牙製垂飾（同図2・10～15）などが出土した。また、漆製品は堅櫛が出土している（同図17）。

以上の遺物のほかに、Ⅵb層上面でヤマグワ根張りを検出した（第65図）。なお、これについて、放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、^{14}C年代が2,430±20yrBP、暦年較正年代（1σ）



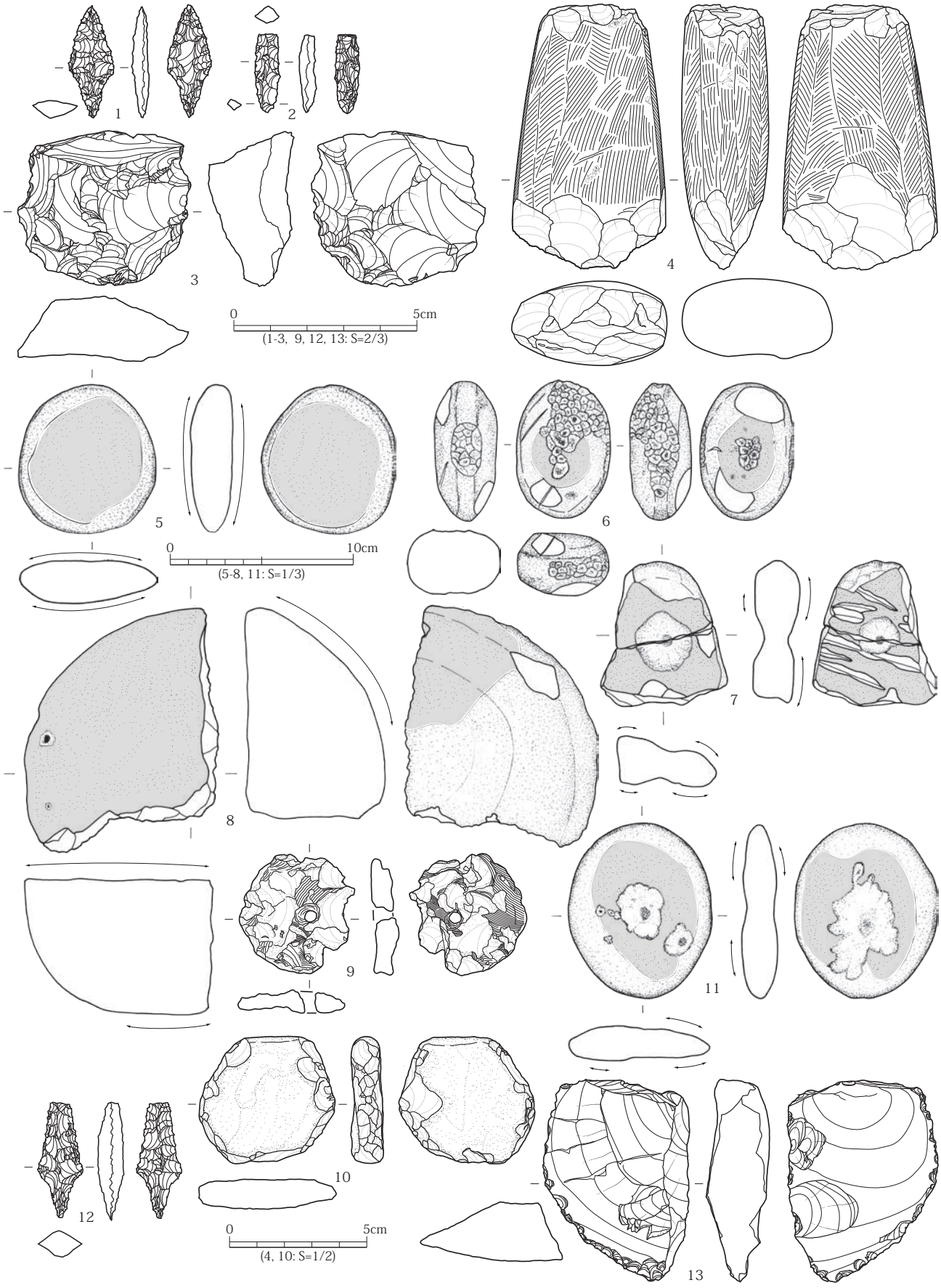
【Vld層】1: 円盤状土製品 / E-25西・Vld層 / 17図7, 2: 円盤状土製品 / E-25西・Vld層 / 17図8, 3: 円盤状土製品 / E-25中央・Vld層 / 17図9
【Vlb層】4: 円盤状土製品 / E-25西・Vlb層 / 30図2, 5: 土偶頭部 / E-25中央・Vlb層 / 30図3, 6: 土偶肩部・右腕 / E-25中央・Vlb層 / 30図4
【Vla層】7: 土偶頭部 / E-25東・Vla・d層 / 37図1, 8: 土偶左脚 / E-25東段・Vla層 / 37図6, 9: 土版 / E-25区東・Vla層 / 37図9,
10: 耳飾 / E-25区東・Vla・d層 / 37図13, 11: 耳飾 / E-25東・Vla層 / 37図12, 12: 球形土製品 / E-25東・Vla層 / 37図10,
13: 円盤状土製品 / E-25西・Vla層 / 36図28, 14: 円盤状土製品 / E-25中央・Vla層 / 36図29, 15: 円盤状土製品 / E-25東・Vla・d層 / 36図27
【V層】16: 球形土製品 / E-25拡張・Vf層 / 79図8 （宮城県文化財調査報告書第226集）

第78図　東3地点　遺物包含層　出土土製品

が 540 ～ 416calBC となり、縄文時代晩期後葉頃に相当する年代値（小林　2019）が得られた。

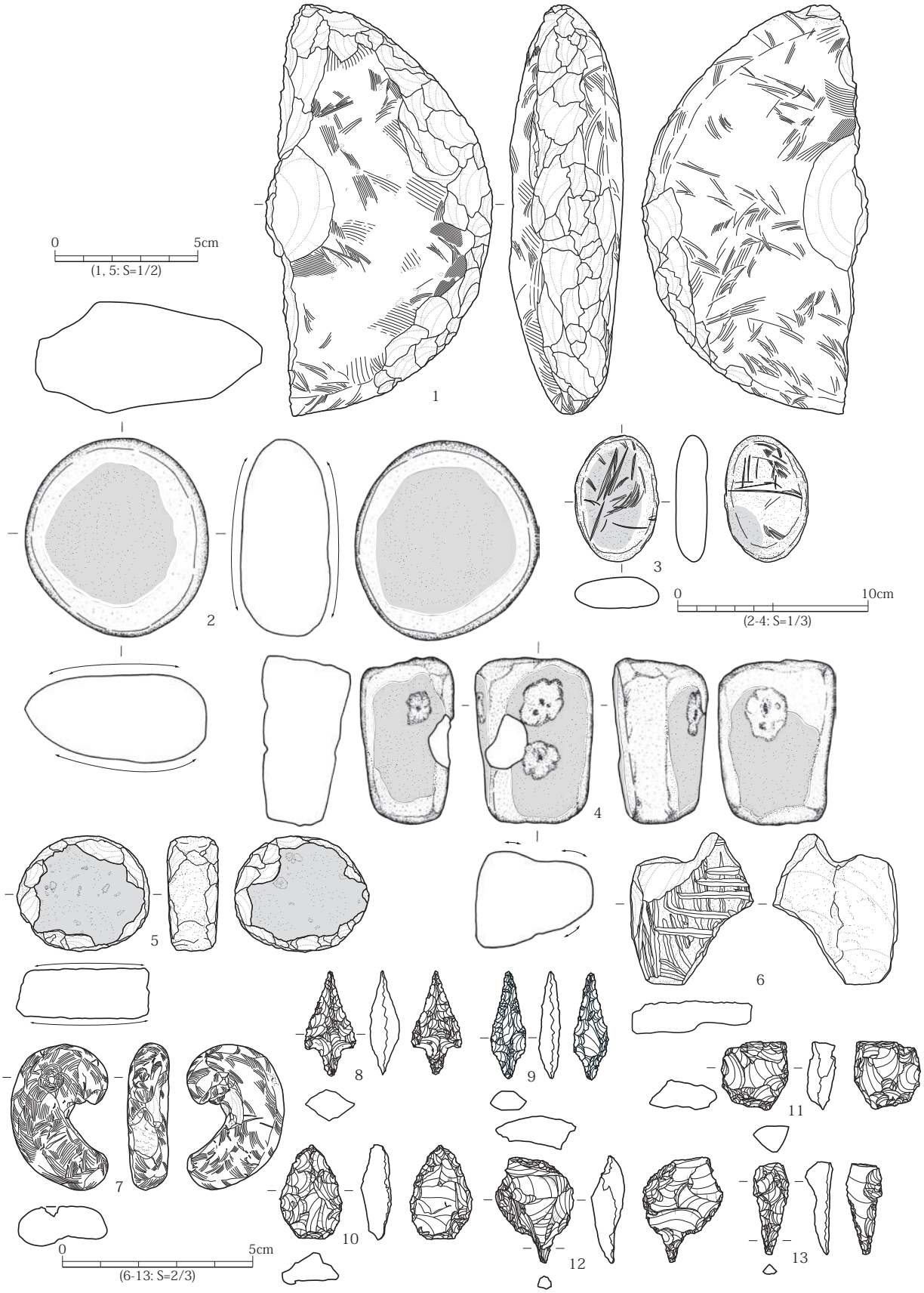
（3）集落の時期と特徴

本地点では、後期後葉以降の遺物が出土しているが、遺物包含層から出土した土器型式や土器付着炭化物等の年代測定から、東 3 地点の遺物包含層はおもに晩期前葉から弥生時代前期に形成されたものとみられる。特に出土量の多い E-25 区について層位別に検討すると、Ⅵ d 層は晩期後葉（大洞 A



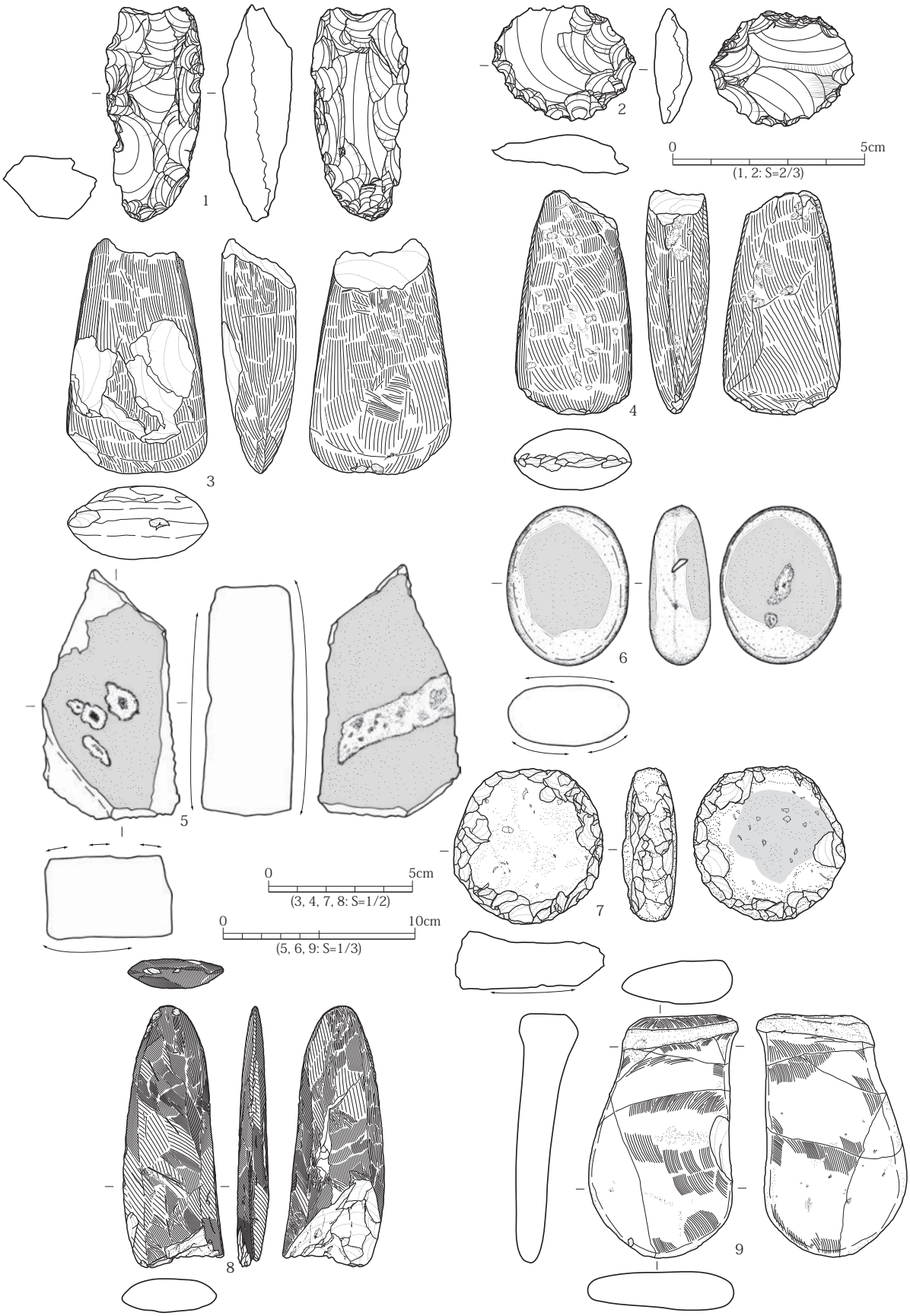
【VId層】1: 石鏃 / E-25東・VId層 / 18図1, 2: 石錐 / E-25東・VId層 / 18図2, 3: 石篦 / E-25東・VId層 / 18図3,
4: 磨製石斧 / E-25東段・VId層 / 19図1, 5: 磨石 / E-25東・VId層 / 19図6, 6: 凹石 / E-25東段・VId層 / 20図4,
7: 凹石 / E-25拡張・VId層 / 20図2, 8: 石皿 / E-25東・VId層 / 20図5, 9: 有孔石製品 / E-25東・VId層 / 21図2,
10: 円盤状石製品 / E-25中央・VId層 / 21図1
【VIc層】11: 磨石 / E-25拡張・VIc層 / 22図9
【VIb層】12: 石鏃 / E-25西・VIb層 / 31図1, 13: 不定形石器 / E-25中央・VIb層 / 31図3 （宮城県文化財調査報告書第226集）

第79図　東3地点　遺物包含層　出土石器・石製品（1）



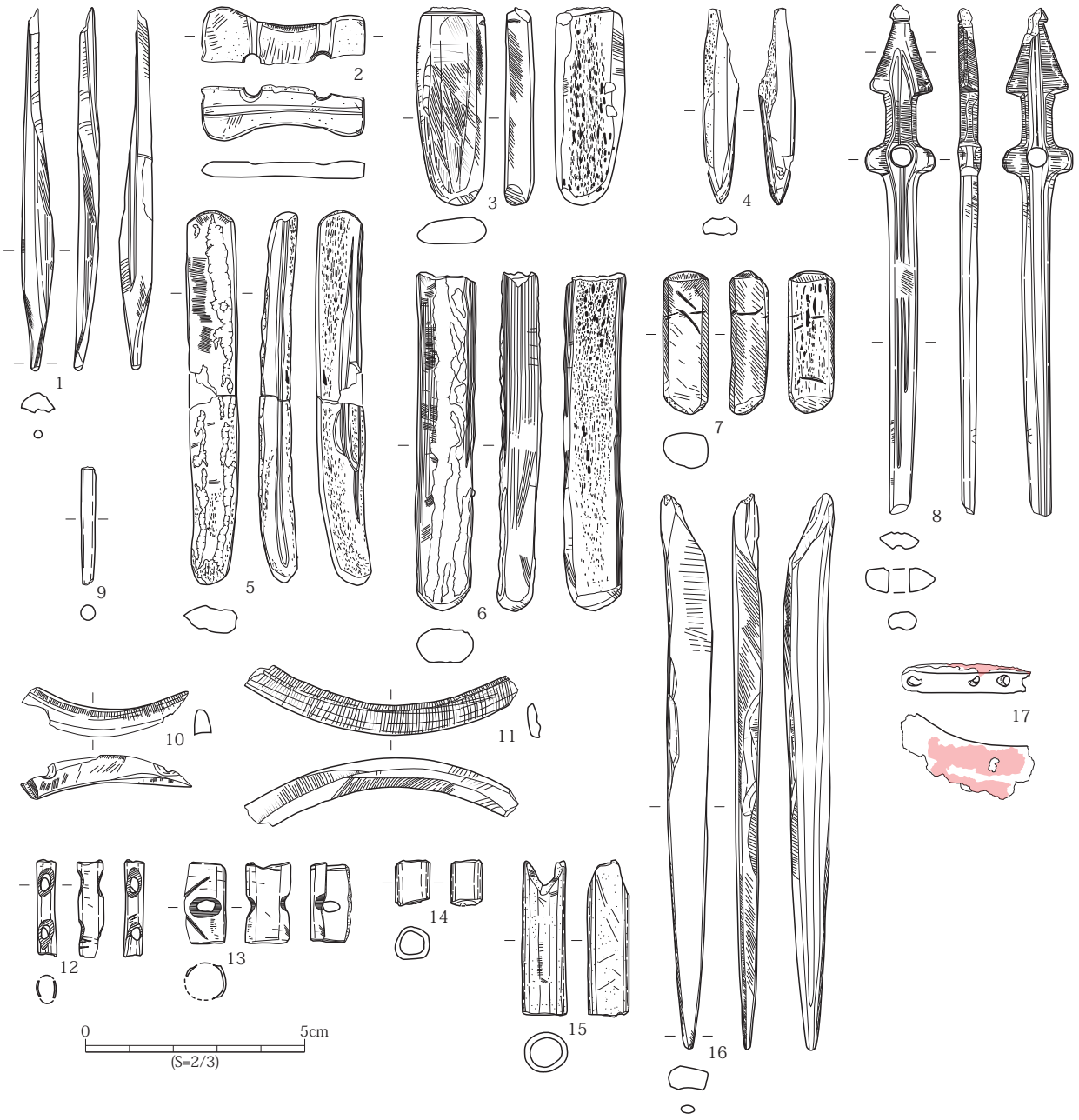
【Vlb層】1: 環状石斧未成品か / E-25西・Vlb層 / 31図4, 2: 磨石 / E-25拡張・Vlb層 / 32図1, 3: 磨石 / E-25西・Vlb層 / 32図2,
4: 磨石 / E-25拡張・Vlb層 / 31図6, 5: 円盤状石製品 / E-25拡張・Vlb層 / 32図4, 6: 岩版 / E-25拡張・Vlb層 / 32図8,
7: 勾玉 / E-25西・Vlb層 / 32図7
【Vla層】8: 石鏃 / E-25東・Vla層 / 38図2, 9: 石鏃 / E-25東・Vla層 / 38図1, 10: 石鏃 / E-25東・Vla層 / 38図7,
11: 楔形石器 / E-25東・Vla層 / 38図12, 12: 石錐 / E-25東・Vla層 / 38図8, 13: 石錐 / E-25中央・Vla層 / 38図9
（宮城県文化財調査報告書第226集）

第80図　東3地点　遺物包含層　出土石器・石製品（2）



【VIa層】1: 石篦 / E-25東・VIa層 / 38図10, 2: 不定形石器 / E-25・VIa層 / 38図14, 3: 磨製石斧 / E-25東・VIa層 / 38図18, 4: 磨製石斧 / E-25東・VIa層 / 38図17, 5: 石皿 / E-25東・VIa層 / 39図1, 6: 磨石 / E-25西・VIa層 / 39図2, 7: 円盤状石製品 / E-25西・VIa層 / 39図5, 8: 石刀 / E-25東・VIa層 / 39図7, 9: 不明石製品 / E-25中央・VIa層 / 40図2
（宮城県文化財調査報告書第226集）

第81図　東3地点　遺物包含層　出土石器・石製品（3）



1: 刺突具 / E-25東・Ⅵd層 / 21図4, 2: 垂飾 / E-25東段・Ⅵd層 / 21図3, 3: 棒状角製品 / E-25中央・Ⅵb層 / 32図9,
4: 刺突具 / E-25東段・Ⅵa層 / 41図1, 5: 棒状角製品 / E-25東・Ⅵa層 / 41図4, 6: 棒状角製品 / E-25東段・Ⅵa層 / 41図5,
7: 棒状角製品 / E-25東段・Ⅵa層 / 41図6, 8: 簪 / E-25東段・Ⅵa層 / 41図7, 9: 針状製品 / E-25区東・Ⅵa層 / 41図2,
10: 猪牙製垂飾 / E-25東・Ⅵa層 / 41図11, 11: 猪牙製垂飾 / E-25東・Ⅵa層 / 41図12, 12: 垂飾 / E-25東段・Ⅵa層 / 41図9,
13: 垂飾 / E-25東段・Ⅵa層 / 41図10, 14: 管状垂飾 / E-25東・Ⅵa層 / 41図8, 15: 管状垂飾か / E-25東段・Ⅵa層 / 41図3,
16: 刺突具 / E-25東段・Ⅴ層 / 80図7, 17: 竪櫛 / E-25西・Ⅵd層 / 22図10 （宮城県文化財調査報告書第226集）

第82図　東3地点　遺物包含層　出土骨角牙製品

式中段階、晩期 5b 期）まで、Ⅵ c 層は晩期後葉（大洞 A 式中段階、晩期 5b 期）、Ⅵ b 層は晩期後葉から末葉（大洞 A 式新段階、晩期 5c 期）、Ⅵ a 層は晩期末葉（大洞 A' 式、晩期 6 期）から弥生時代前期（青木畑式、弥生 2a 期）に位置づけられる。

東 3 地点では、丘陵裾部に形成された遺物包含層の西端部において、集石遺構を検出している。礫石器やその素材を集積したものとみられ、重複する遺物包含層の年代から、晩期 5b 期に位置づけられる。この集石遺構の遺物組成と類似するように、本地点における石器組成は礫石器の割合が大きい

ことが特徴となっている。

本地点は、土器や石器・石製品を中心とした遺物の出土が、遺物収納箱で50箱以上に上り、北小松遺跡とその周辺遺跡では遺物量の多い地点の一つである。本地点の調査区では、竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの居住施設を含む遺構は検出されなかったものの、石器組成における礫石器の割合の大きさや、E-25区Ⅵb層から完形近くまで復元できる粗製深鉢が多く出土している点も加味すると、付近にある程度の規模で長期間営まれた集落が存在していた可能性が考えられる。遺物包含層の形式時期から、おもに晩期前葉から弥生時代前期にかけて集落が営まれ、特に晩期後葉以降その規模が大きくなったものとみられる。さらに、本地点で検出した集石遺構は、類似する遺構が、後述する東7地点において、葬送行為にかかわる遺構に近接あるいは同一斜面上で検出されていることから、同様に付近に葬送にかかわる遺構が存在していた可能性もある。

写真31　E-25区東　調査風景（北西から）

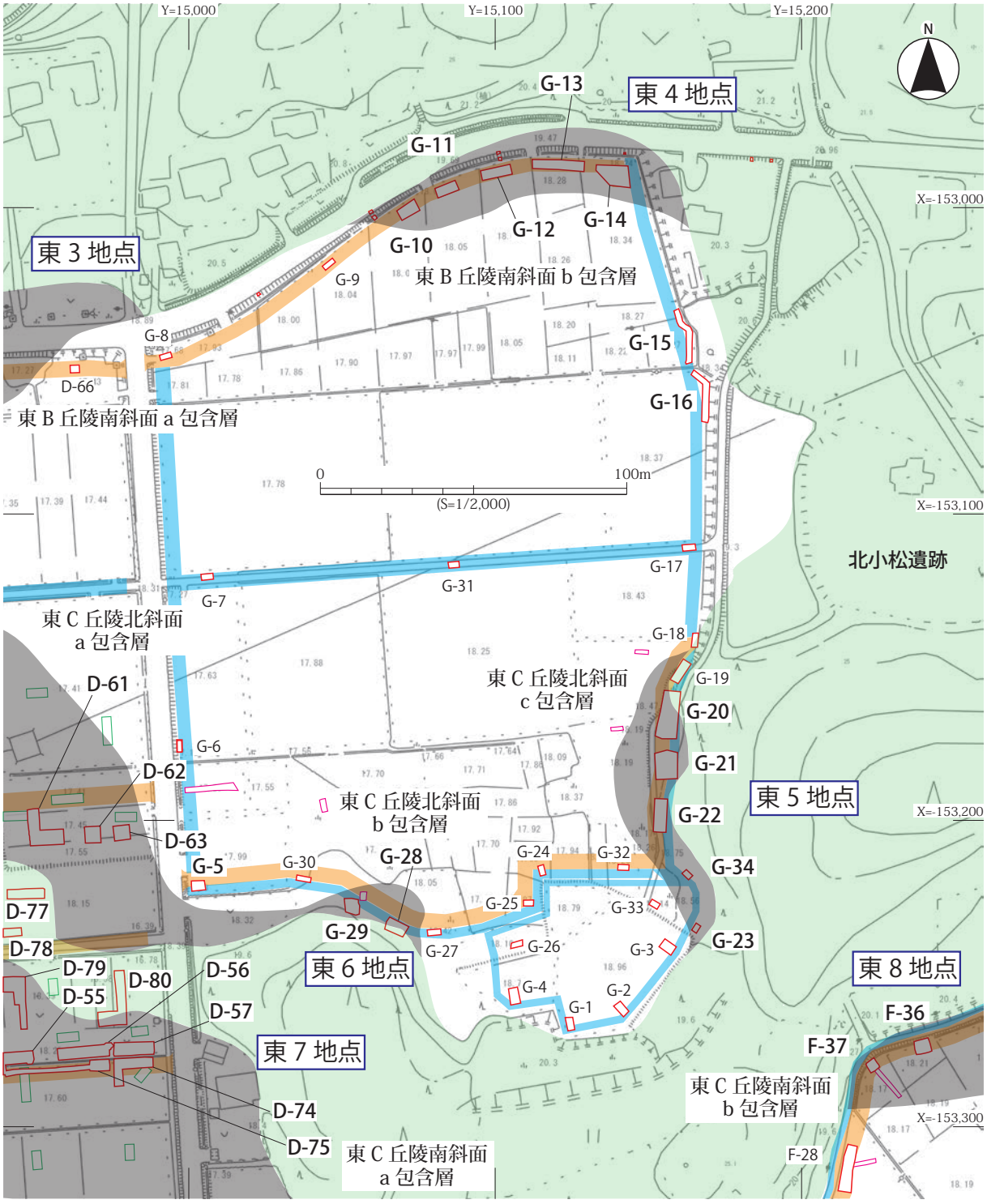
写真32　E-25区西　調査風景（北から）

写真33　SX31集石遺構　調査風景（北東から）

写真34　E-25区　分析用土壌採取（南西から）

4. 東 4 地点

東 4 地点は、東 B 丘陵基部の南斜面に位置し、丘陵裾部で自然流路跡 2 条と遺物包含層（東 B 丘陵南斜面 b 包含層）を検出した。この地点に含まれる発掘調査区は、G-10 ～ 14 区である（第 83 図）。遺物は、縄文土器や土製品、石器・石製品、植物遺存体が出土している。



第83図　東4・5・6地点周辺における発掘調査区の位置および遺物包含層の分布

(1) 遺構

自然流路跡を G-13 区と G-14 区でそれぞれ 1 条ずつ、計 2 条検出した。いずれも遺物包含層と重複し、G-13 区ではⅥb 層、G-14 区ではⅥc 層を掘り込んでいる。

(2) 遺物包含層と出土遺物

遺物包含層（Ⅵ層）は G-10・11・12・13・14 区で検出した。その範囲は東西約 73m（G-10 区と G-14 区を結ぶ直線距離）、南北約 7m（G-14 区東壁におけるⅥ層の検出長）ある。G-10 区の西側にある調査区（G-9 区）ではⅥ層を検出しているが、遺物は出土していない。また、G-14 区の南側にある調査区（G-15･16 区）においてもⅥ層を検出しているが、遺物の出土はわずかであった。このことから、遺物包含層はこれらの調査区よりも西側および南側には広がらないものとみられる。

Ⅵ層上面は、おおむね南に緩やかに傾斜する地形となっている。G-12 区中央におけるⅥ層の検出範囲は直線距離で約 3.0m あり、Ⅵ層上面での比高は約 0.2m、勾配は約 6.7%、また、G-14 区東壁におけるⅥ層の検出範囲は、直線距離で約 6.9m あり、Ⅵ層上面での比高は約 0.4m、勾配は約 5.8% である。

遺物包含層は、土色や土性、含有物などの特徴からおおむね 3 層に大別される。遺物はⅥc 層でわずかに、Ⅵb 層およびⅥa 層でやや多く出土している。おもな遺物には、縄文土器や土製品、石器・石製品があり、その量は遺物収納箱換算で約 4 箱に相当する。

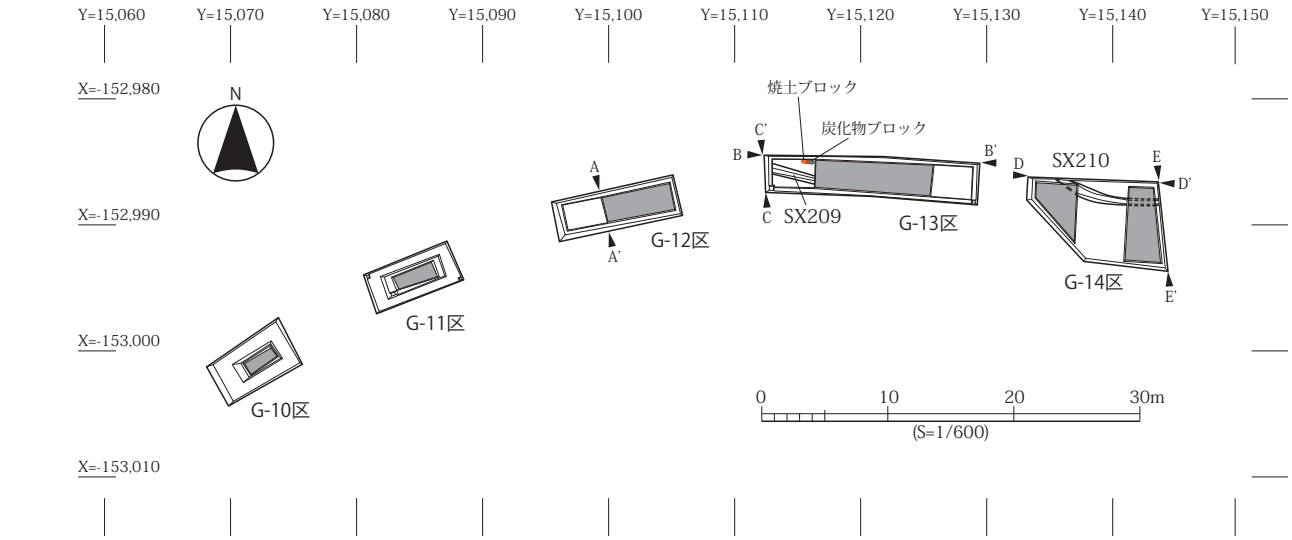
縄文土器は、Ⅵb 層から、三叉文とみられる装飾が施された台付鉢や壺（第 85 図 1・2）、π字文が施された深鉢や壺（同図 7･8）などが出土している。Ⅵa 層からは、三叉文が施された深鉢や皿（同図 10・11）、羊歯状文が施された深鉢（同図 11・12）、雲形文が施された皿や注口土器など（同図 17 ～ 19）、π字文が施された浅鉢（第 86 図 5）、変形工字文が施された鉢（同図 6）などが出土した。

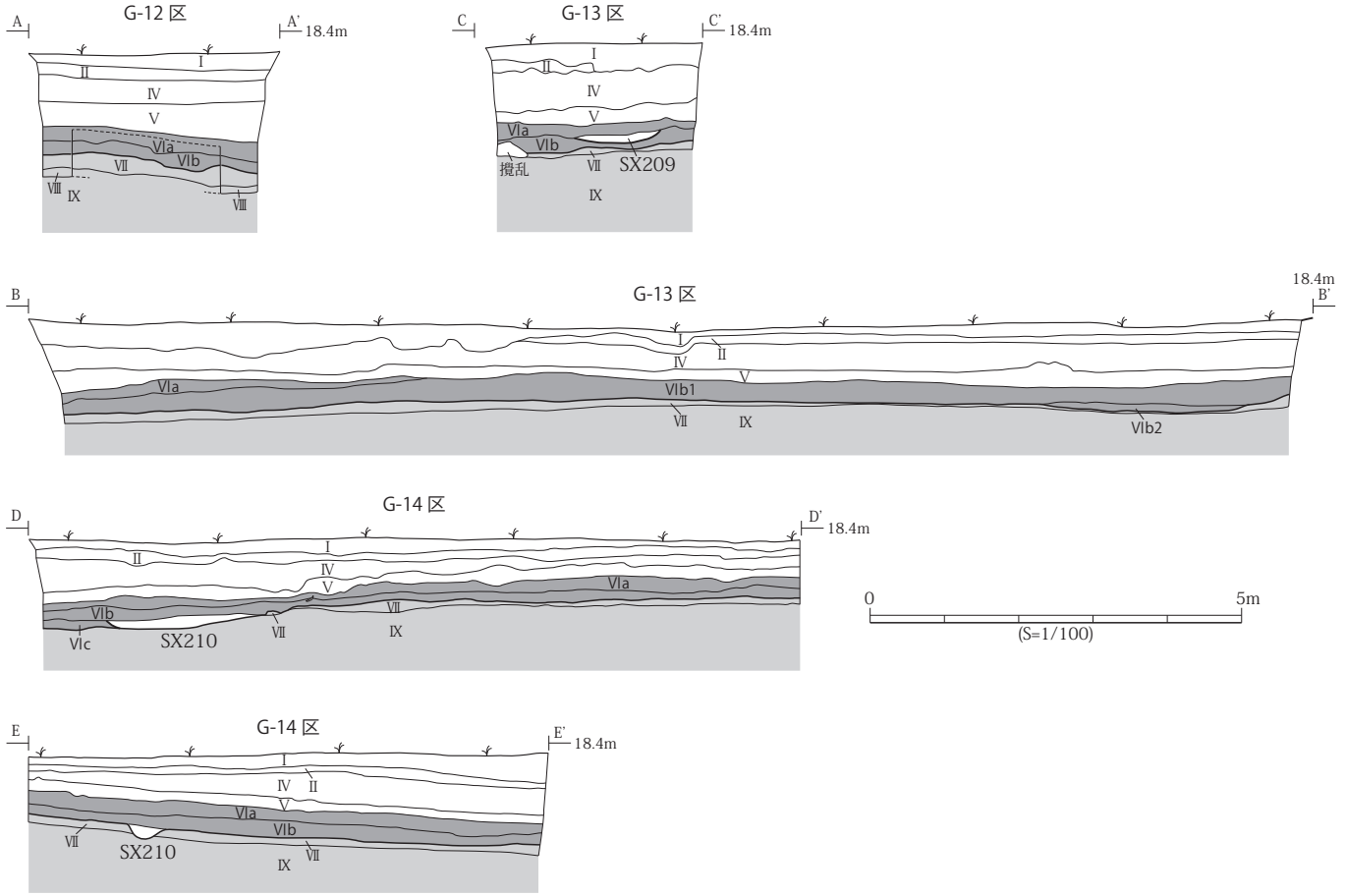
石器･石製品は、磨製石斧（第 86 図 8）や楔形石器、不定形石器、石皿（同図 9）、磨石などの礫石器（同図 10・11）、石棒・石刀などが出土している。

(3) 集落の時期と特徴

遺物包含層から出土した土器型式から、東 4 地点の遺物包含層は晩期前葉から晩期末葉頃に形成されたものとみられる。出土遺物の時期幅は大きいものの、遺物は晩期前葉（大洞 B 式、晩期 1 期）から中葉前半（大洞 C1 式、晩期 3 期）のものの残りがよく、やや多く出土している。

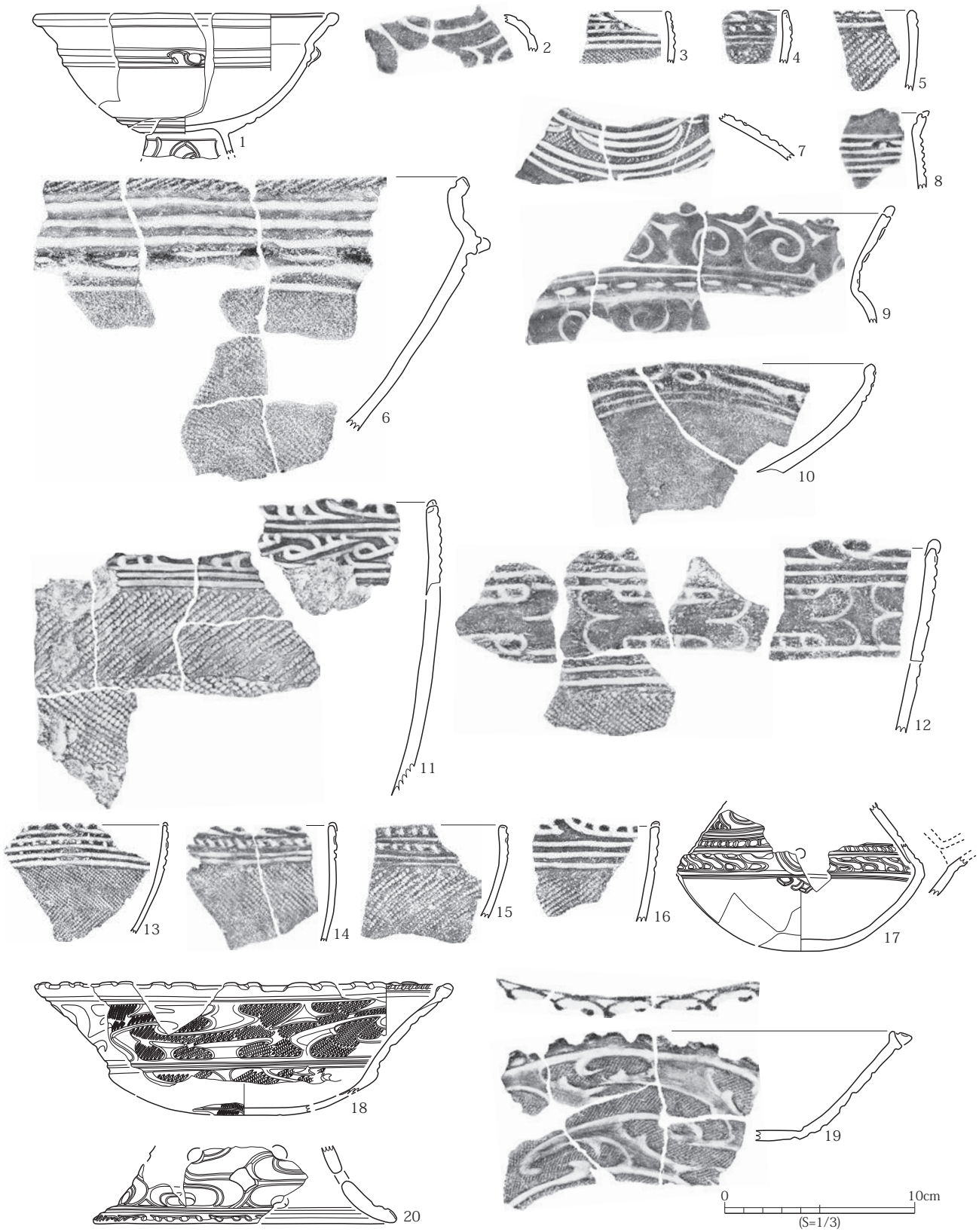
本地点では、遺物包含層もやや深いところで検出している。また、土器や石器などの器種が少ないことから、出土した遺物は限られたものである。さらに土器の表面がやや摩耗していることから、検出した遺物包含層は集落からやや離れているものとみられる。したがって、本地点における集落は、調査地点よりも丘陵裾部に近く、標高のやや高いところから丘陵上にかけて営まれたと推測される。





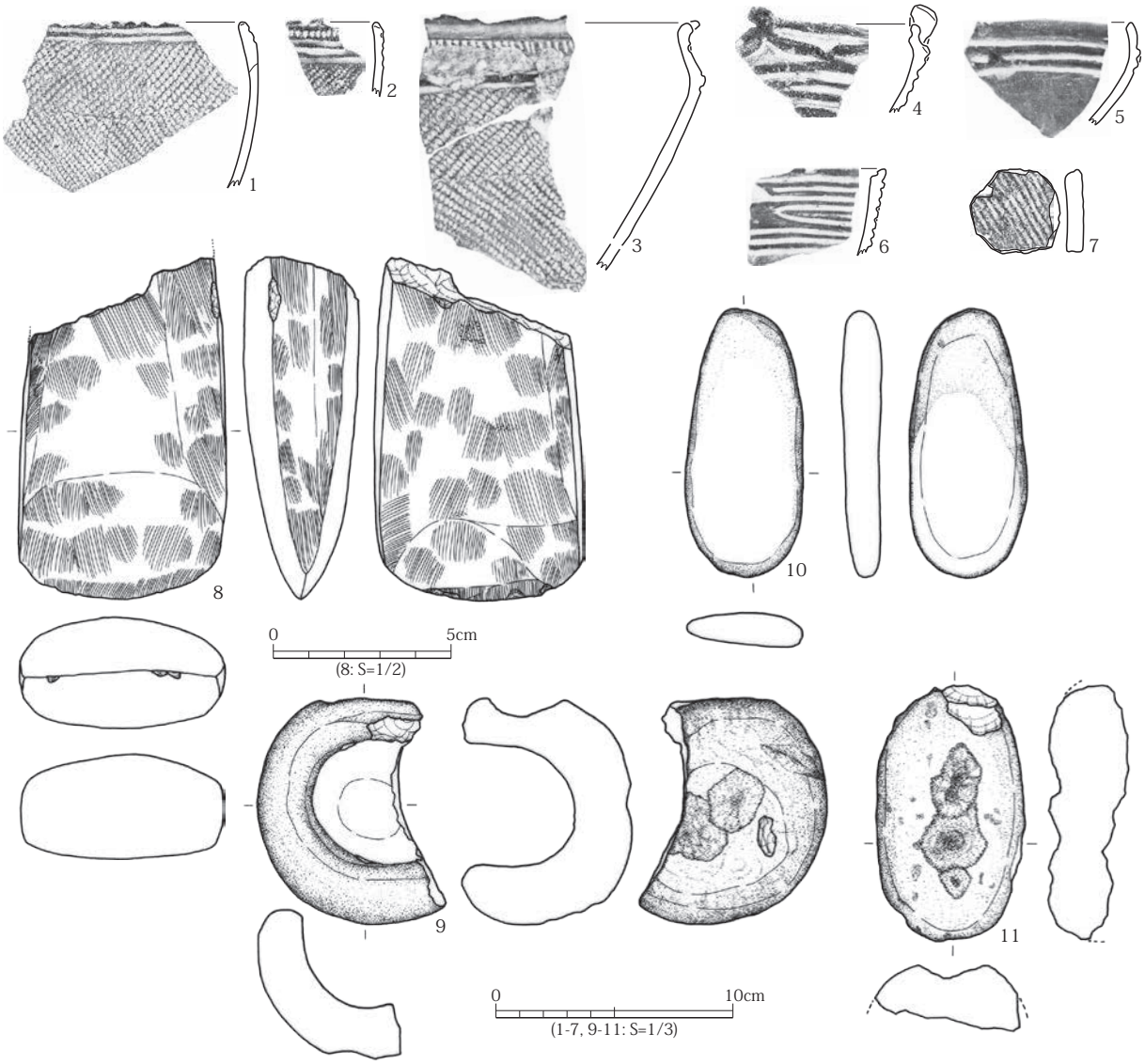
調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
G-12 区	A-A'	VI a	黒褐色（10YR2/2）	粘土	スクモ多量
		VI b	黒褐色（10YR2/2）	粘土	スクモ少量
G-13 区 G-14 区	B-B' C-C' D-D' E-E'	VI a	黒褐色（10YR2/2）	粘土	スクモ多量
		VI b1	黒褐色（10YR2/2）	粘土	スクモ少量
		VI b2	黒褐色（10YR3/1）	粘土	
		VI c	黒色（10YR2/1）	砂質シルト	地山（IX層）粒やや多量
SX209	B-B'		灰黄褐色（10YR4/2）	砂	地山（IX層）粒少量、黒褐色粘土（VI b1 層）ブロック少量
SX210	C-C' D-D'		灰黄褐色（10YR4/2）	砂質シルト	地山（IX層）粒少量

第84図　東4地点　調査区平面図・断面図



【Ⅵb層】1: 台付鉢 / G-14・Ⅵb層 / 274図5, 2: 壺か / G-12・Ⅵb層 / 274図3, 3: 鉢 / G-14・Ⅵb層 / 274図4, 4: 鉢 / G-12・Ⅵb層 / 274図6, 5: 鉢 / G-12・Ⅵb層 / 274図7, 6: 鉢 / G-13・Ⅵb層 / 274図8, 7: 壺 / G-14・Ⅵb層 / 274図11, 8: 深鉢 / G-13・Ⅵb層 / 274図10
【Ⅵa層】9: 浅鉢 / G-14・Ⅵa層 / 274図13, 10: 皿 / G-14・Ⅵa層 / 274図15, 11: 深鉢 / G-14・Ⅵa層 / 274図16, 12: 深鉢 / G-14・Ⅵa層 / 274図17, 13: 鉢 / G-14・Ⅵa層 / 274図21, 14: 深鉢 / G-14・Ⅵa層 / 275図6, 15: 鉢 / G-12・Ⅵa層 / 275図7, 16: 深鉢 / G-12・Ⅵa層 / 275図5, 17: 注口土器 / G-14・Ⅵa層 / 275図1, 18: 皿 / G-14・Ⅵa層 / 275図2, 19: 皿 / G-14・Ⅵa層 / 275図9, 20: 台部 / G-14・Ⅵa層 / 274図19（宮城県文化財調査報告書第234集）

第85図　東4地点　遺物包含層　出土土器（1）



【VIa層】1: 深鉢 / G-14・VIa層 / 275図11, 2: 鉢 / G-12・VIa層 / 275図12, 3: 鉢 / G-14・VIa層 / 275図17,
4: 浅鉢 / G-13・VIa層 / 275図18, 5: 浅鉢 / G-14・VIa層 / 275図19, 6: 鉢 / G-11・VIa層 / 275図20,
【VIb層】7: 円盤状土製品 / G-13・VIb層 / 276図7, 11: 凹石 / G-12・VIb層 / 276図12
【VIa層】8: 磨製石斧 / G-14・VIa層 / 276図9, 9: 石皿 / G-13・VIa層 / 276図10, 10: 磨石 / G-12・VIa層 / 276図11
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第86図　東4地点　遺物包含層　出土土器（2）・土製品・石器

写真35　G-14区　遺物包含層（東から）

写真36　G-14区　調査風景（東から）

5. 東５地点

東５地点は、東Ｃ丘陵基部の北西斜面に位置し、丘陵裾部で遺物包含層を検出した（東Ｃ丘陵北斜面ｃ包含層）。この地点に含まれる発掘調査区は、G-20 ～ 23 区および G-34 区である（第 83 図）。遺物は、縄文土器や土製品、石器・石製品、植物遺存体が出土している。

(1) 遺物包含層と出土遺物

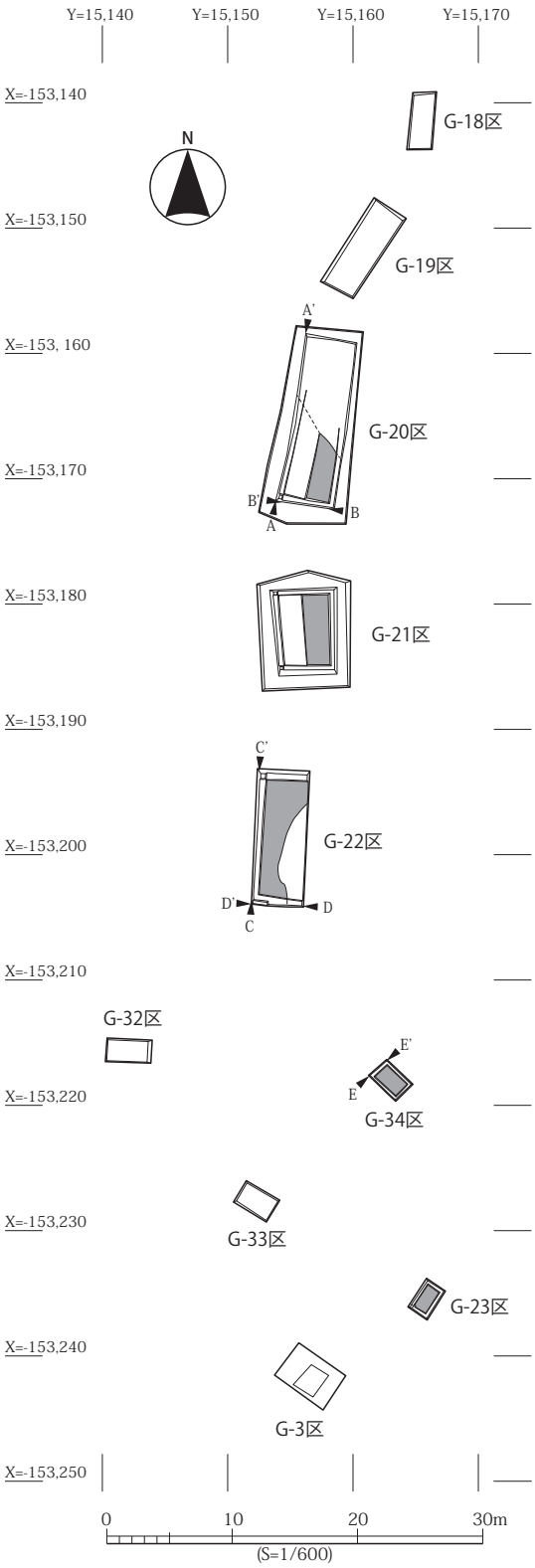
遺物包含層（Ⅵ層）は G-20・21・22・23・34 区で検出した。その範囲は南北約 74m（G-20 区と G-23 区を結ぶ直線距離）、東西約 3m（G-21 区北壁におけるⅥ層の検出長）ある。G-20 区の北側にある調査区（G-19 区）ではⅥ層を確認できず、G-23 区の南側にある調査区ではⅥ層を検出しているが、遺物は出土していない。また、G-34 区の西側にある調査区（G-32・33 区）においてもⅥ層を検出しているが、遺物の出土はなかった。このことから、遺物包含層はこれらの調査区まで広がらないものとみられる。

Ⅵ層上面は、おおむね西に緩やかに傾斜する地形となっている。G-20 区南壁におけるⅥ層の検出範囲は直線距離で約 3.6m あり、Ⅵ層上面での比高は約 0.3m、勾配は約 8.3% である。また、G-34 区北壁におけるⅥ層の検出範囲は、直線距離で約 2.0m あり、Ⅵ層上面での比高は約 0.3m、勾配は約 15.0% ある。

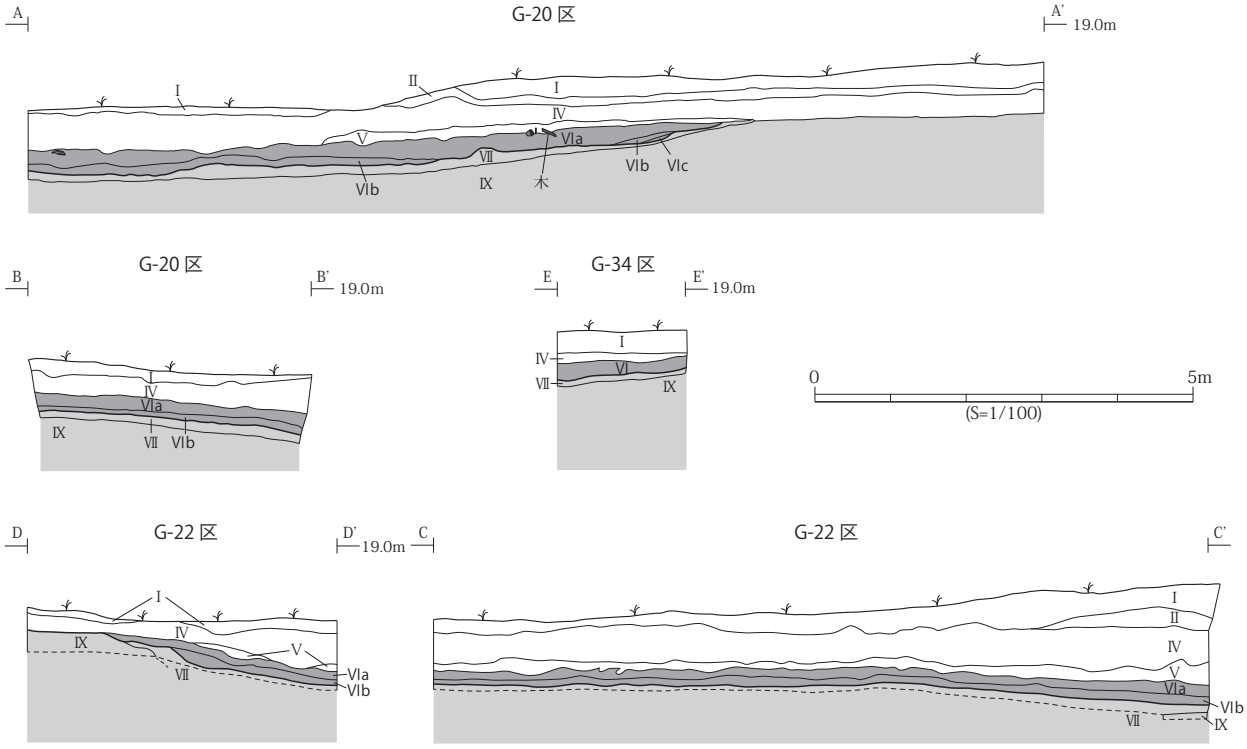
遺物包含層は、土色や土性、含有物などの特徴からおおむね 3 層に大別される。遺物はⅥｂ層およびⅥａ層から出土し、Ⅵａ層でやや多く出土している。おもな遺物には、縄文土器や土製品、石器･石製品があり、その量は遺物収納箱換算で約 6 箱に相当する。

縄文土器は、列点文が施された深鉢・鉢・浅鉢（第 89 図 1 ～ 3）、雲形文が施された鉢・浅鉢・皿・注口土器（同図 4・6 ～ 8）、工字文が施された鉢（同図 19）、π字文が施された深鉢（同図 20）などが出土している。

石器・石製品は、石匙（第 90 図 8）や磨製石斧、



第87図　東5地点　調査区平面図



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　　徴
G-20 区	A-A' B-B'	VI a	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	スクモ多量
		VI b	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	スクモ多量
		VI c	黒褐色（10YR3/1）	シルト	砂中量
G-22 区	C-C' D-D'	VI a	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	スクモ多量
		VI b	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	スクモ多量
G-34 区	E-E'	VI	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	スクモ少量

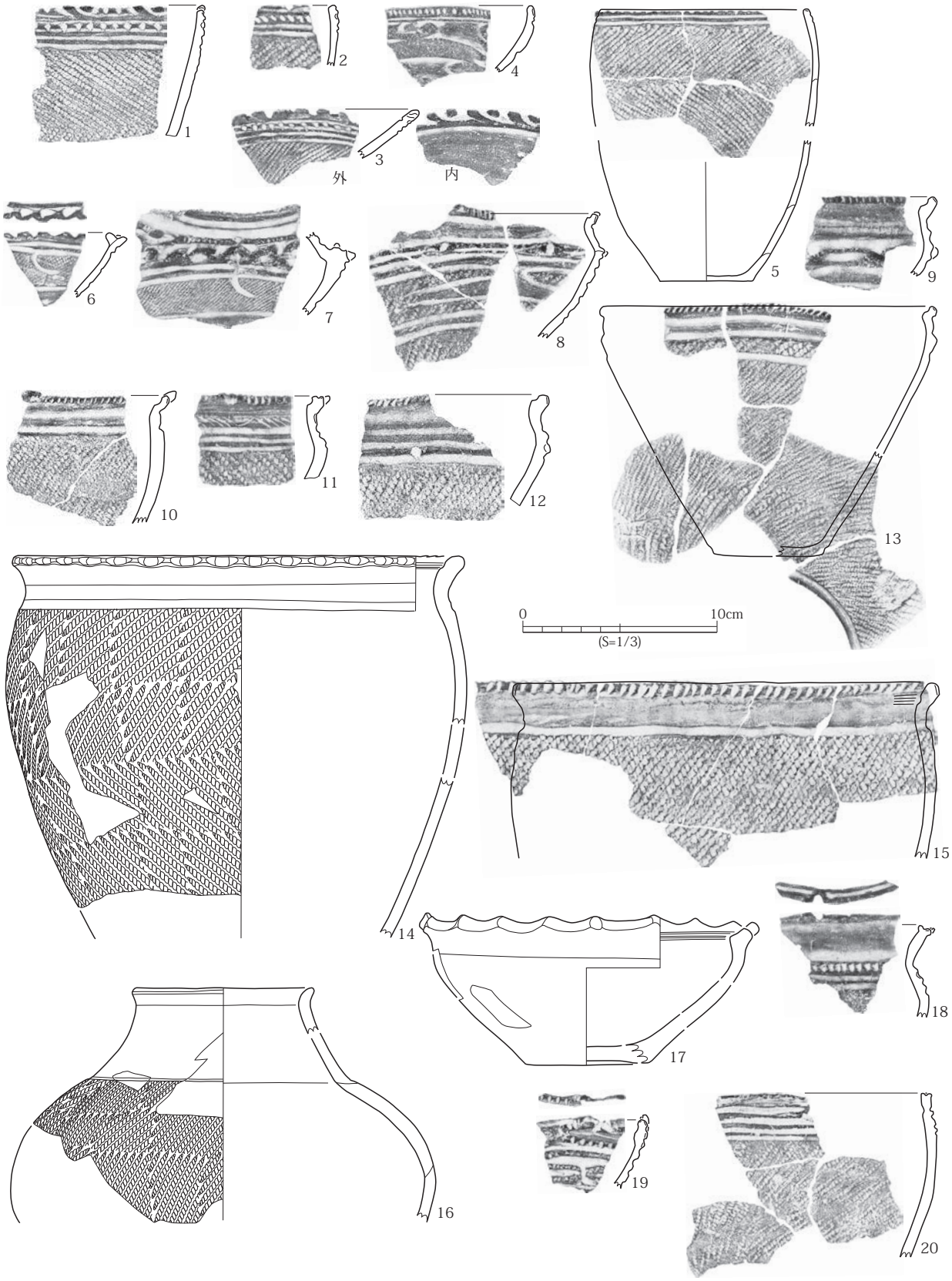
第88図　東5地点　調査区断面図

板状石器（第 90 図 9）、石皿、磨石などの礫石器、石棒・石刀などが出土している。

（2）集落の時期と特徴

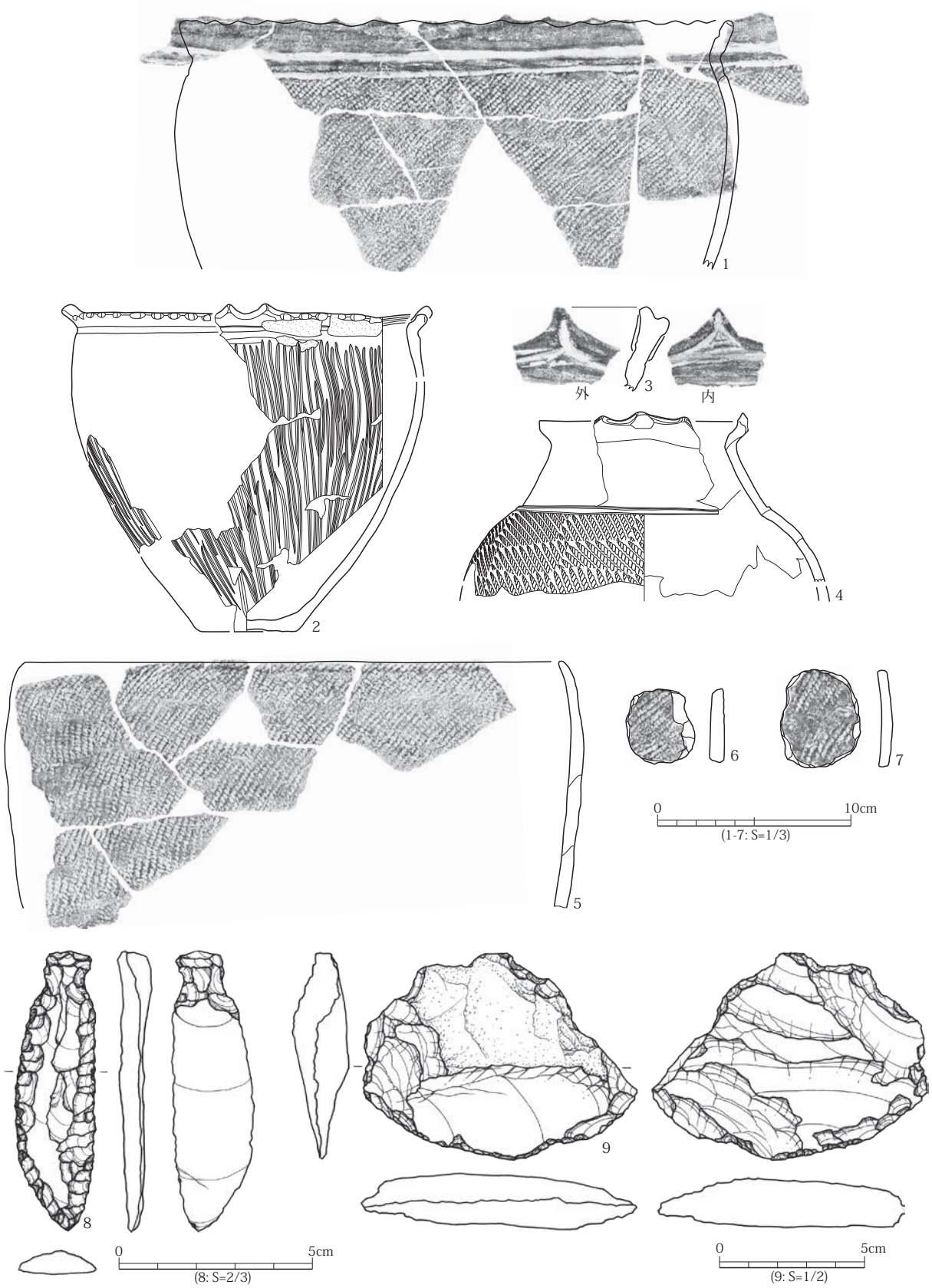
遺物包含層から出土した土器型式から、東 5 地点の遺物包含層は晩期前葉（大洞 B 式、晩期 2 期）から後葉（大洞 A 式､晩期 5 期）頃に形成されたものとみられる。出土遺物の時期幅は大きいものの、晩期中葉後半（大洞 C2 式、晩期 4 期）のものがやや多く出土している。

本地点では、丘陵の一部も発掘調査を行っており、検出した遺物包含層は、丘陵からそれほど離れていないところに形成されたものである。しかしながら、丘陵の一部を調査したにもかかわらず、遺構は確認されなかった。また、東 4 地点と同様に土器や石器の器種が少なく、出土した遺物は限られたものであることから、小規模または短期間に営まれた集落とみられる。



1: 深鉢 / G-20・Ⅵa層 / 267図6, 2: 鉢 / G-21・Ⅵa層 / 267図7, 3: 浅鉢 / G-20・Ⅵa層 / 267図8, 4: 浅鉢 / G-21・Ⅵa層 / 267図9,
5: 深鉢 / G-20・Ⅵa層 / 267図10, 6: 皿 / G-20・Ⅵa層 / 267図15, 7: 注口土器 / G-21・Ⅵa層 / 267図16, 8: 鉢 / G-21・Ⅵa層 / 267図13,
9: 鉢 / G-20・Ⅵa層 / 267図11, 10: 深鉢 / G-20・Ⅵa層 / 267図17, 11: 深鉢 / G-21・Ⅵa層 / 267図18, 12: 鉢 / G-20・Ⅵa層 / 267図19,
13: 深鉢 / G-21・Ⅵa層 / 267図24, 14: 深鉢 / G-20・Ⅵa層 / 268図1, 15: 深鉢 / G-20・Ⅵb層 / 267図1, 16: 壺 / G-20・Ⅵa層 / 268図4,
17: 浅鉢 / G-20・Ⅵa層 / 268図2, 18: 深鉢 / G-21・Ⅵa層 / 268図7, 19: 鉢 / G-20・Ⅵa層 / 268図9, 20: 深鉢 / G-21・Ⅵa層 / 268図8
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第89図　東5地点　遺物包含層　出土土器（1）



1: 深鉢 / G-21・Ⅵa層 / 268図11, 2: 深鉢 / G-20・Ⅵa層 / 269図1, 3: 鉢 / G-20・Ⅵa層 / 269図2, 4: 壺 / G-20・Ⅵa層 / 269図3,
5: 深鉢 / G-21・Ⅵa層 / 269図12, 6: 円盤状土製品 / G-20・Ⅵa層 / 269図14, 7: 円盤状土製品 / G-21・Ⅵa層 / 269図15,
8: 石匙 / G-21・Ⅵa層 / 270図1, 9: 板状石器 / G-20・Ⅵ層 / 270図2 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第90図　東5地点　遺物包含層　出土土器（2）・土製品・石器

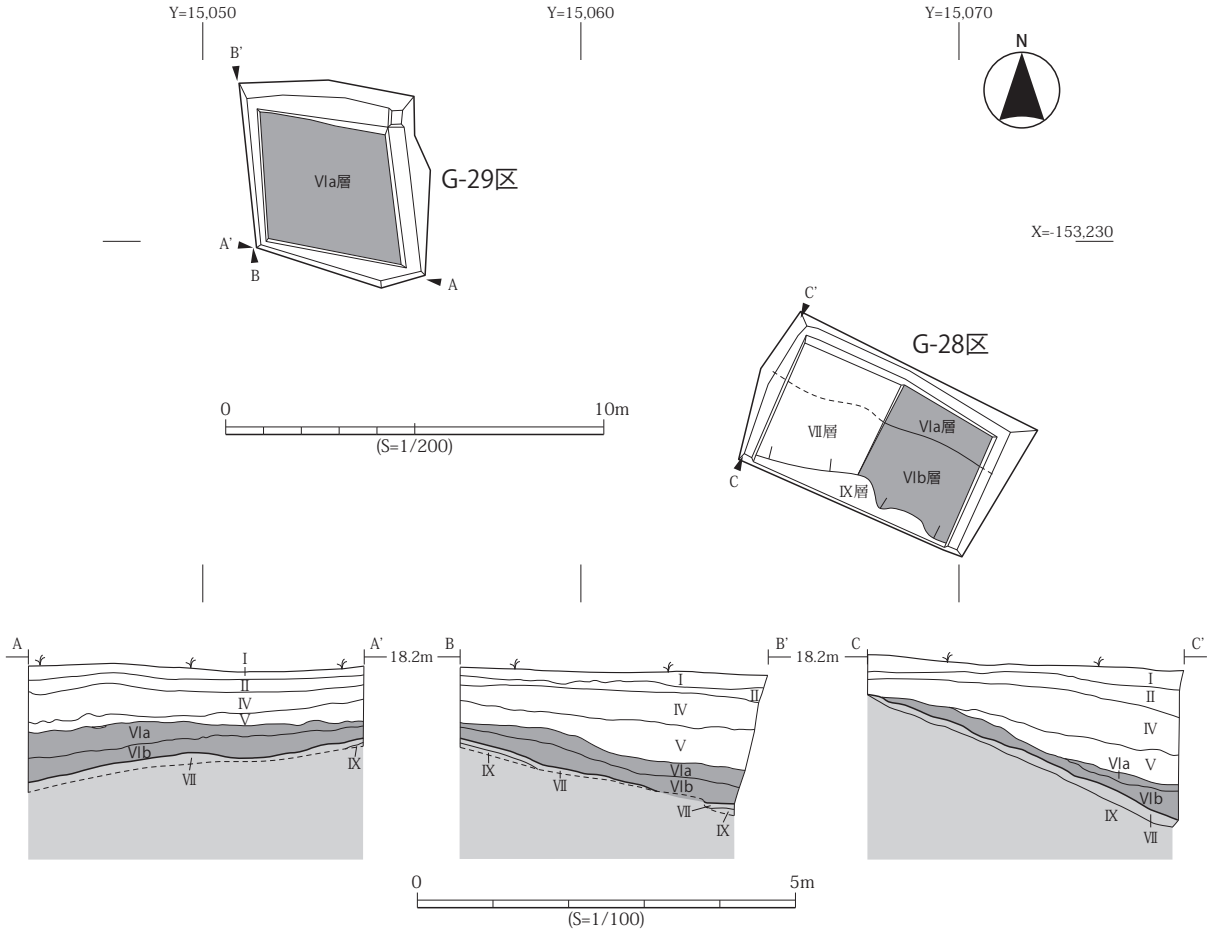
6. 東 6 地点

東 6 地点は、東 C 丘陵の北斜面に位置し、丘陵裾部で遺物包含層を検出した（東 C 丘陵北斜面 b 包含層）。この地点に含まれる発掘調査区は、G-28・29 区である（第 83 図）。遺物は、縄文土器や土製品、石器・石製品、植物遺存体が出土している。

(1) 遺物包含層と出土遺物

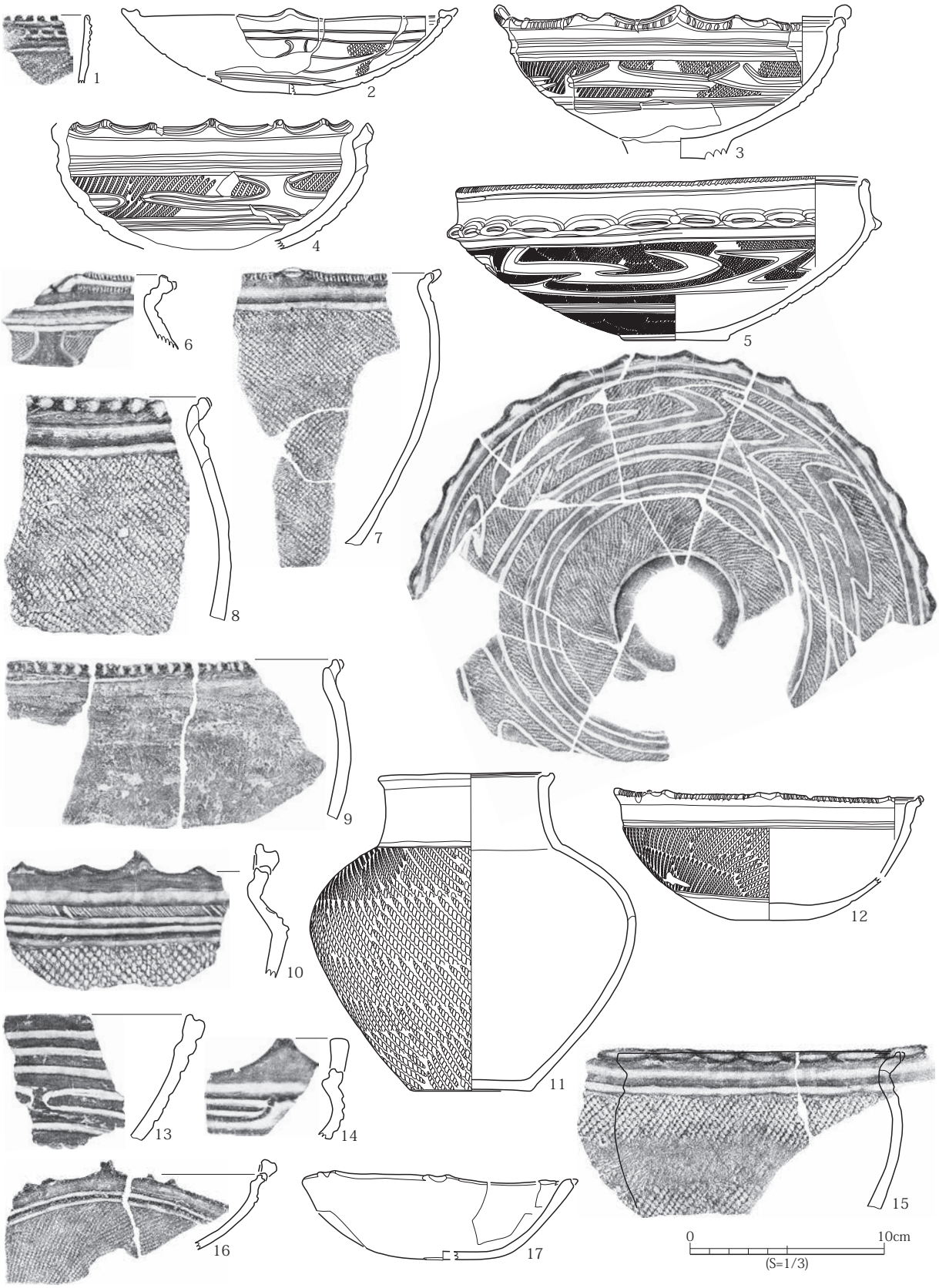
遺物包含層（Ⅵ層）は G-28・29 区で検出した。その範囲は東西約 21m（G-29 西壁と G-28 区東端を結ぶ直線距離）、南北約 4m（G-28 区西壁における Ⅵ層の検出範囲）ある。G-29 区の西側にある調査区（G-30 区）では Ⅵ層が確認されず、G-28 区の東側にある調査区（G-27 区）では Ⅵ層を検出しているが、遺物は出土していない。このことから、遺物包含層はこれらの調査区まで広がらないものとみられる。

Ⅵ層上面は、おおむね北に傾斜する地形となっている。G-29 区西壁における Ⅵ層の検出範囲は、直線距離で約 3.8m あり、Ⅵ層上面での比高は約 0.4m、勾配は約 10.5% である。一方で、G-28 区西壁



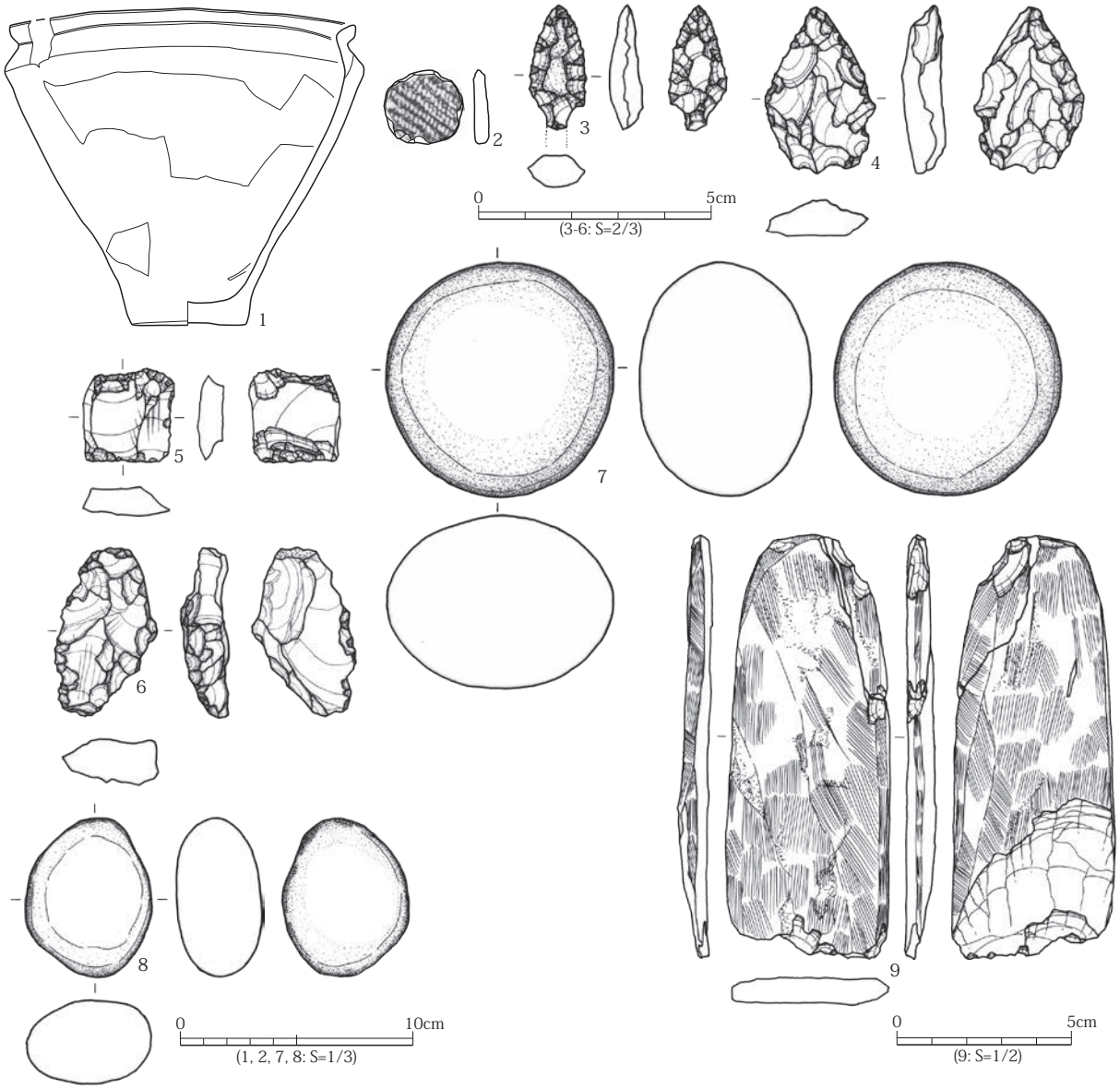
調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
G-28 区 G-29 区	A-A' B-B' C-C'	Ⅵ a	黒褐色（10YR3/1）	粘土	地山（Ⅸ層）ブロック・砂少量、スクモ多量
		Ⅵ b	黒色（10YR2/1）	粘土	砂やや多量、スクモ多量

第91図　東6地点　調査区平面図・断面図



1: 鉢 / G-29・Ⅵa層 / 262図2, 2: 皿 / G-29・Ⅵa層 / 262図7, 3: 台付浅鉢 / G-29・Ⅵa層 / 262図4, 4: 浅鉢 / G-29・Ⅵa層 / 262図5,
5: 浅鉢 / G-29・Ⅵa層 / 262図3, 6: 注口土器 / G-29・Ⅵa層 / 262図8, 7: 深鉢 / G-29・Ⅵa層 / 262図11, 8: 深鉢 / G-29・Ⅵa層 / 262図15,
9: 深鉢 / G-29・Ⅵa層 / 262図16, 10: 深鉢 / G-29・Ⅵa層 / 262図9, 11: 壺 / G-29・Ⅵa層 / 263図1, 12: 浅鉢 / G-29・Ⅵa層 / 263図2,
13: 浅鉢 / G-29・Ⅵa層 / 263図4, 14: 鉢 / G-28・Ⅵa層 / 263図5, 15: 深鉢 / G-29・Ⅵa層 / 262図17, 16: 皿 / G-29・Ⅵa層 / 263図7,
17: 皿 / G-29・Ⅵa層 / 263図6（宮城県文化財調査報告書第234集）

第92図　東6地点　遺物包含層　出土土器（1）



1: 深鉢 / G-29・Ⅵa層 / 263図9, 2: 円盤状土製品 / G-29・Ⅵa層 / 263図13, 3: 石鏃 / G-29・Ⅵa層 / 264図1,
4: 石鏃 / G-29・Ⅵa層 / 264図2, 5: 楔形石器 / G-29・Ⅵa層 / 264図3, 6: 不定形石器 / G-29・Ⅵa層 / 264図4,
7: 磨石 / G-29・Ⅵa層 / 264図8, 8: 磨石 / G-29・Ⅵa層 / 264図6, 9: 石刀 / G-29・Ⅵa層 / 264図7（宮城県文化財調査報告書第234集）

第93図　東6地点　遺物包含層　出土土器（2）・土製品・石器・石製品

におけるⅥ層の検出範囲は、直線距離で約 3.9m あり、Ⅵ層上面での比高は約 1.6m、勾配は約 41.0% であり、本地点の西側がやや緩やかな傾斜、東側が急傾斜となっている。

遺物包含層は、土色や土性、含有物などの特徴からおおむね 2 層に大別される。遺物はⅥｂ層およびⅥａ層から出土しているが、Ⅵｂ層は小破片がわずかに出土しているのみで、Ⅵａ層で大・中破片や完形のものがやや多く出土するようになる。おもな遺物には、縄文土器や土製品、石器・石製品があり、その量は遺物収納箱換算で約 4 箱に相当する。

縄文土器は、列点文が施された鉢（第 92 図 1）、雲形文が施された浅鉢･台付浅鉢･皿･注口土器（同図 2 ～ 6）、工字文が施された浅鉢（同図 13）、π字文が施された鉢（同図 14）などが出土している。

石器･石製品は、石鏃（第 93 図 3･4）や磨製石斧、楔形石器（同図 5）や不定形石器（同図 6）、石皿、磨石などの礫石器（同図 7・8）、石刀（同図 9）などが出土した。

(2) 集落の時期と特徴

遺物包含層から出土した土器型式から、東 6 地点の遺物包含層は晩期中葉から後葉頃にかけて形成されたものとみられる。なかでも、大洞 C2 式新段階（晩期 4b 期）から大洞 A 式古段階（晩期 5a 期）のものが主体となる。

本地点では、丘陵の一部も発掘調査を行っており、検出した遺物包含層は、丘陵からそれほど離れていないところに形成されたものである。しかしながら、遺物包含層が形成される斜面がほかの地点と比べて急傾斜であり、丘陵裾部では平坦地を広く確保できる場所ではない。また、出土した遺物は時期幅が小さく、また器種も限られたものであることから、小規模または短期間に営まれた集落とみられる。

写真37　G-28区　遺物包含層（南東から）

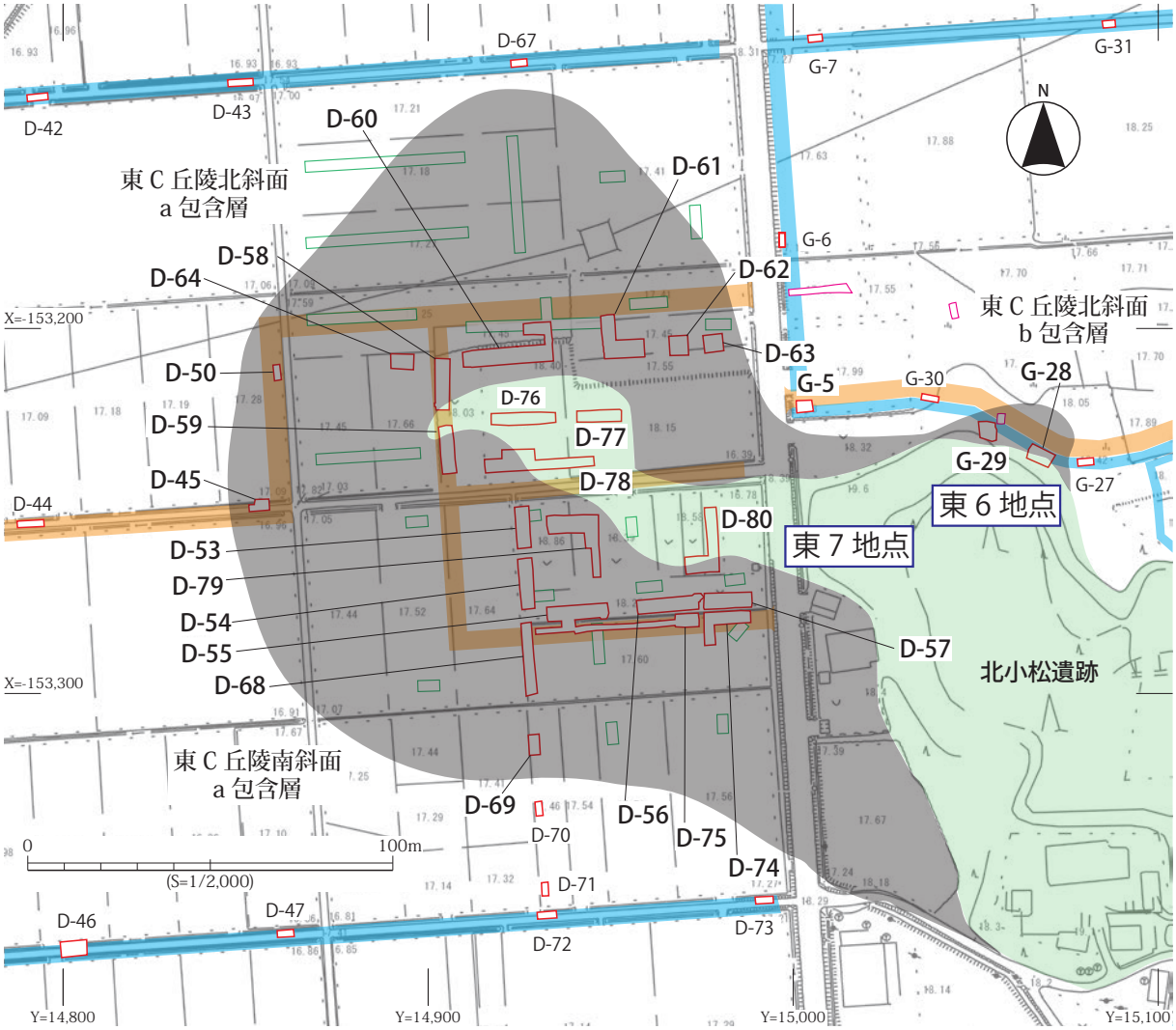
写真38　G-29区　遺物包含層（北東から）

写真39　G-29区　遺物出土状況（Ⅵa層）（南から）

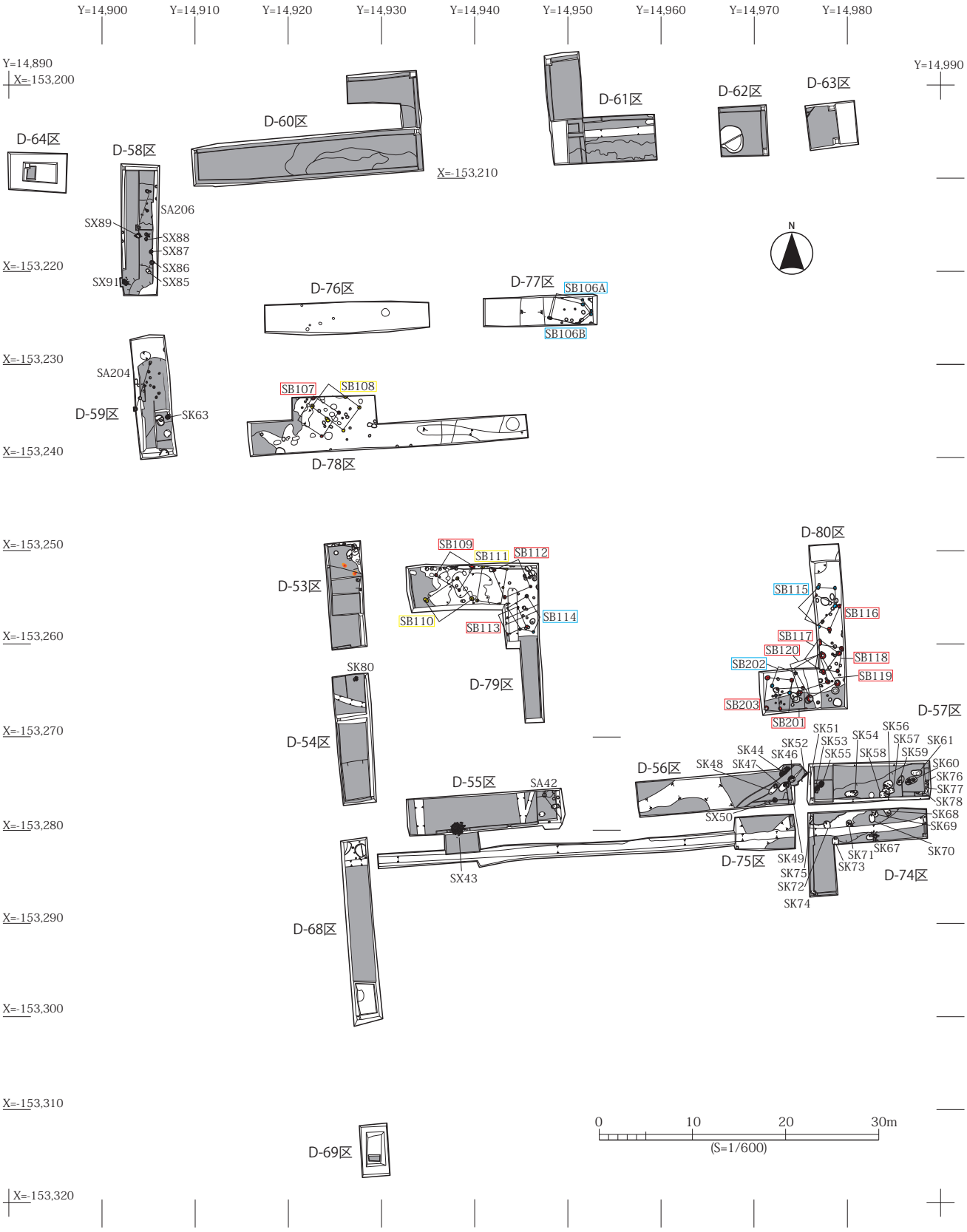
写真40　G-29区　縄文土器壺出土状況（Ⅵa層）（南東から）

7. 東 7 地点

東 7 地点は、東 C 丘陵のうち標高が低くなり西へ半島状に延びるところに位置する。現況は畑地および水田であり、過去の開田工事の切土や盛土により平坦面が段状につくられている。この低丘陵の頂部や南北緩斜面で、掘立柱建物跡 19 棟、柱列跡 3 条、集石遺構 3 基、土坑墓 27 基、埋葬犬骨 3 基、土器埋設遺構 5 基、土坑 17 基、焼け面 2 箇所、自然流路跡 1 条、ピット多数を検出した。また、遺物包含層はこの低丘陵を囲むように形成される（東 C 丘陵南斜面 a 包含層、東 C 丘陵北斜面 a 包含層）。この地点に含まれる発掘調査区は、D-45 区、D-50 区、D53 ～ 64 区、D-68 区、D-69 区、D-74 ～ 80 区の 23 調査区である（第 94 図）。遺物は、縄文土器や弥生土器、土製品、石器・石製品、骨角牙製品、木製品、漆製品、人骨、動物遺存体、植物遺存体が出土している。本地点で検出した遺構・遺物の種類や量は北小松遺跡周辺で最も豊富であり、また、東 C 丘陵西端部に形成される遺物包含層は、ほかの遺物包含層に比べて推定面積、層厚、遺物量いずれにおいても本遺跡周辺で最大のものと推定される。なお、遺物量はすべての種類を合わせると、遺物収納箱換算で約 284 箱に相当する。



第94図　東7地点周辺における発掘調査区の位置および遺物包含層の分布



第95図　東7地点　調査区平面図

本地点の遺構は、半島状に突き出た丘陵頂部とその南北緩斜面上に形成され、さらにその外側に遺物包含層が形成される。丘陵先端部はD-58区とD-59区にまたがるように位置し、遺構群や遺物包含層はこれを基点として南北に大きく二分される。遺構の種類や性格、またそれらの分布状況から、南側の遺構群には丘陵頂部および南斜面の遺構・遺物包含層、北側の遺構群には北斜面の遺構・遺物包含層が含まれる。さらに、Ⅵ層の堆積状況や遺構・遺物の検出状況から、遺物包含層はそれぞれの斜面において、西側包含層と東側包含層の2つに細分される（第9表）。

遺物包含層は丘陵頂部に位置するD-76・77区を除く21調査区で検出し、Ⅵ層は土色や土性、含有物などの特徴から1つの調査区で最大16層に細分される。調査区によりⅥ層の堆積状況が異なるため、

第9表　東7地点　遺物包含層の対応関係　（⇔：同一層、≒：近似層）

東C丘陵南斜面

南斜面（西側）										南斜面（東側）	大別層群			
D-59区		D-53区		D-54区		D-68区		D-55区		D-56・57・74・75区	層名	細分層	特徴	時期
		Ⅵa	⇔	Ⅵa	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	Ⅵa	南1層群		地山粒・ブロックを多く含む黒色～黒褐色を呈する粘土層。再堆積か	晩期6b期
		Ⅵb	⇔	Ⅵb	⇔	Ⅵa	⇔	Ⅵa	⇔	Ⅵb	南2層群	2A	スクモを多く含む黒色～黒褐色を呈する粘土層	晩期6a期
Ⅵa	⇔	⇔	⇔	Ⅵc	≒	Ⅵb	⇔	Ⅵb				2B	砂・地山粒を含む黒色～黒褐色を呈する粘土層。上層に比べてスクモが少なくなる	晩期4b～5c期
Ⅵb											南3層群		地山粒・ブロックを含む黒色～黒褐色を呈する粘土層	晩期3～4a期
Ⅵc	≒	Ⅵc	⇔	Ⅵd	≒	Ⅵc	≒	Ⅵc	⇔	Ⅵc				
										Ⅵd				
										Ⅵe				
								Ⅵd						
										Ⅵf	南4層群	4A	貝を含む黒褐色粘土層（東側のみに堆積する）	晩期2期
										Ⅵg				
										Ⅵh				
										Ⅵi		4B	砂が多く混じる黒色粘土質シルト層（東側のみに堆積する）	
										Ⅵj				
										Ⅵk				
Ⅵd														
Ⅵe										Ⅵl	南5層群		砂が多く混じる黒色～褐灰色を呈する粘土～粘土質シルト層	後期後葉
Ⅵf	⇔	Ⅵd	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	Ⅵm				
Ⅵg										Ⅵn				

※上記以外の調査区におけるⅥ層は以下の大別層群に対応する。
南1層群：D-80区Ⅵa層　南2A層群：D-69区Ⅵ層、D-79区Ⅵa層、D-80区Ⅵb・Ⅵc層
南2B層群：D-78区Ⅵa層、D-79区Ⅵb層　南3層群：D-78区Ⅵb層、D-80区Ⅵd層

東C丘陵北斜面

北斜面（西側）						北斜面（東側）							大別層群			
D-64区		D-58区		D-60区（西）		D-60区（中央・東）		D-61区		D-62区		D-63区	層名	細分層	特徴	時期
Ⅵa	⇔	Ⅵa	⇔	Ⅵ1	≒	≒	≒	≒	≒	Ⅵa	⇔	Ⅵa	北1層群	1A	スクモを多く含む黒色～黒褐色を呈する粘土層	晩期6b～弥生1期
												Ⅵb				
												Ⅵc				
												Ⅵd				
										Ⅵb	⇔	Ⅵe		1B	黒色～黒褐色を呈する粘土質シルト層	晩期6b期
										Ⅵc						
										Ⅵd						
										Ⅵe						
						Ⅵa							北2層群	2A	地山粒・ブロックを含む黒褐色砂～シルト層（D-60・61区の斜面部のみに堆積する）	晩期6a期
						Ⅵb										
						Ⅵc	⇔	Ⅵa								
						Ⅵd	⇔	Ⅵb						2B	地山粒・ブロックを含む黒色砂質シルト層（D-60・61区の斜面部のみに堆積する）	晩期5c期
						Ⅵe	≒	Ⅵc					北3層群		地山粒・ブロックを含む黒色～黒褐色を呈する砂～シルト層（D-60・61区の斜面部のみに堆積する）	晩期5b期
						Ⅵf										
						Ⅵg	⇔	Ⅵd								
Ⅵb	⇔	Ⅵb	≒	≒	≒	Ⅵh	≒	Ⅵe					北4層群		砂が混じる黒色～灰黄褐色を呈するシルト層	晩期4b～5a期
						Ⅵi										
						Ⅵj										
						Ⅵk										
						Ⅵl										
						Ⅵm	≒	Ⅵf					北5層群		砂が混じる黒色～黒褐色を呈するシルト～粘土層（D-60・61区のみに堆積する）	晩期3～4a期
						Ⅵn	≒	Ⅵg								
						Ⅵo	≒	Ⅵh								
		Ⅵc											北6層群		砂が混じる黒褐色～灰黄褐色を呈するシルト～粘土層（西側のみに堆積する）	晩期2期
		Ⅵd														
Ⅵc	⇔	Ⅵe														

各調査区における細分層名は同一のものではない。これらは、土性や土色、含有物などⅥ層の細分層の特徴から、南斜面で5つ、北斜面で6つの大別層群に分類し、さらに、南2・4層群、北1・2層群については含有物の差異などからそれぞれ2層に細分した。

遺構・遺物の種類や量がそれぞれ豊富であるため、本項では、東7地点の遺構や遺物を上記の分類にしたがって述べる。

A. 東7地点南側（東C丘陵頂部および南斜面）の遺構と遺物

(1) 遺構

東7地点南側（東C丘陵頂部および南斜面）では、掘立柱建物跡19棟（建て替えを含む）、柱列跡2条、集石遺構2基、土坑墓27基、埋葬犬骨3基、土坑16基、焼け面2箇所、自然流路跡1条、ピット多数を検出した。以下に、おもな遺構について述べる。

①掘立柱建物跡

D-53・59・76～80区でピットを多数検出し、掘立柱建物跡を19棟確認した（第95～97図）。すべて丘陵頂部で検出している。調査範囲が限られているために、全体の構成を認識できたものは少なく、確定的なものではない。なお、個別の建物跡の諸属性について第11表にまとめた。

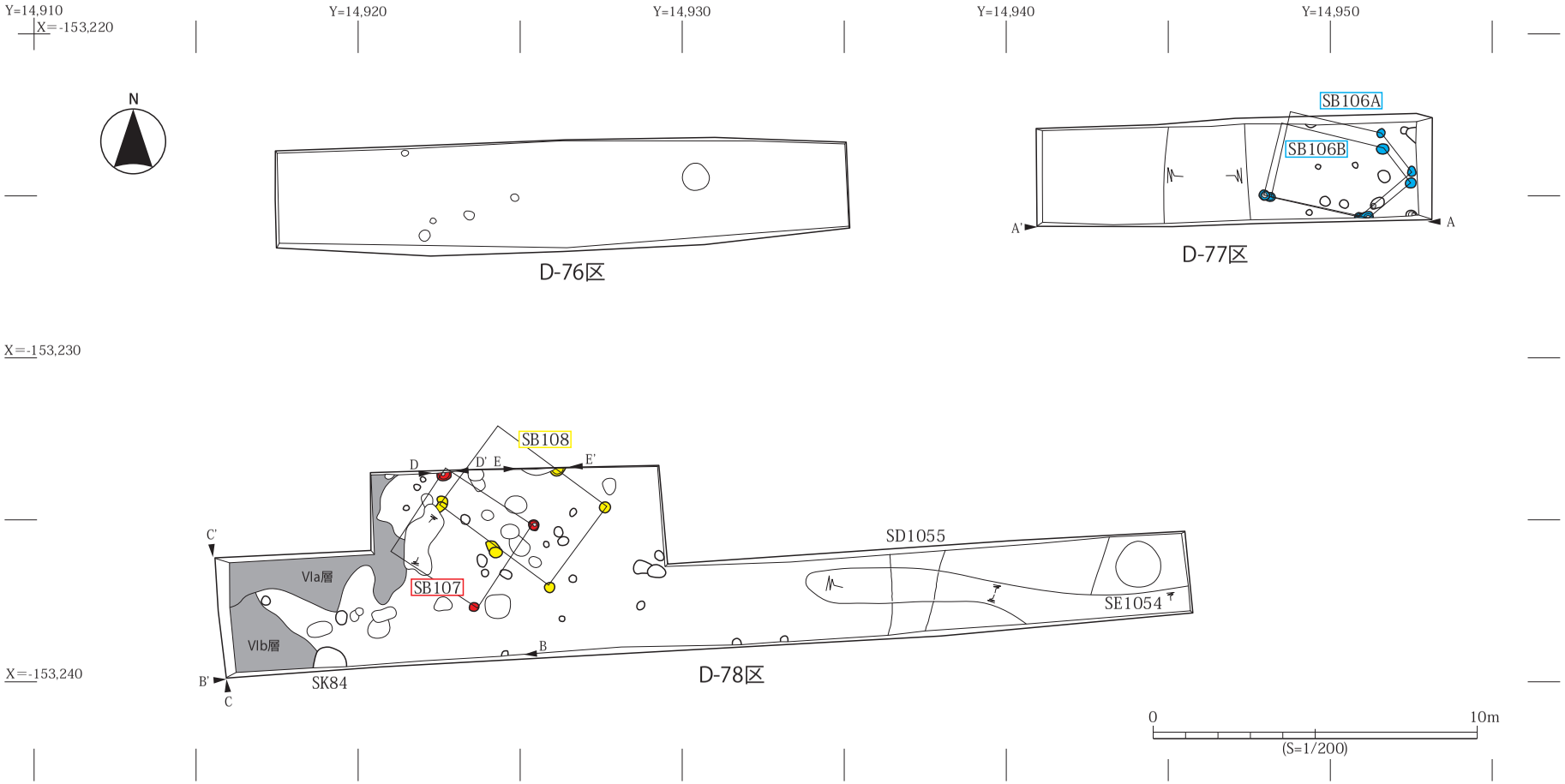
本地点で確認した掘立柱建物跡は柱の配置から、建物の梁行側面中央柱が外に張り出す五角形の建物跡、1間×1間の四本柱構造の建物跡、桁行が2間ある建物跡の3つに大別される。

五角形の建物跡はD-77・79・80区で5棟確認している。いずれも1間×1間の梁行側に張出部の付く構造である。桁行総長が2.2～3.3m、梁行総長が2.1～2.7mあり、平面形は張出部を除くと正方形を呈するものが多い。張出部は東を向くものが2棟、南を向くもの2棟、北を向くものが1棟ある。柱穴の大きさは直径23～54cm、柱痕跡径が9～21cmあり、ほかの構造の建物跡と比べてやや小型の傾向を示す。正方形の建物跡と重複するが、時間的な前後関係は不明である。

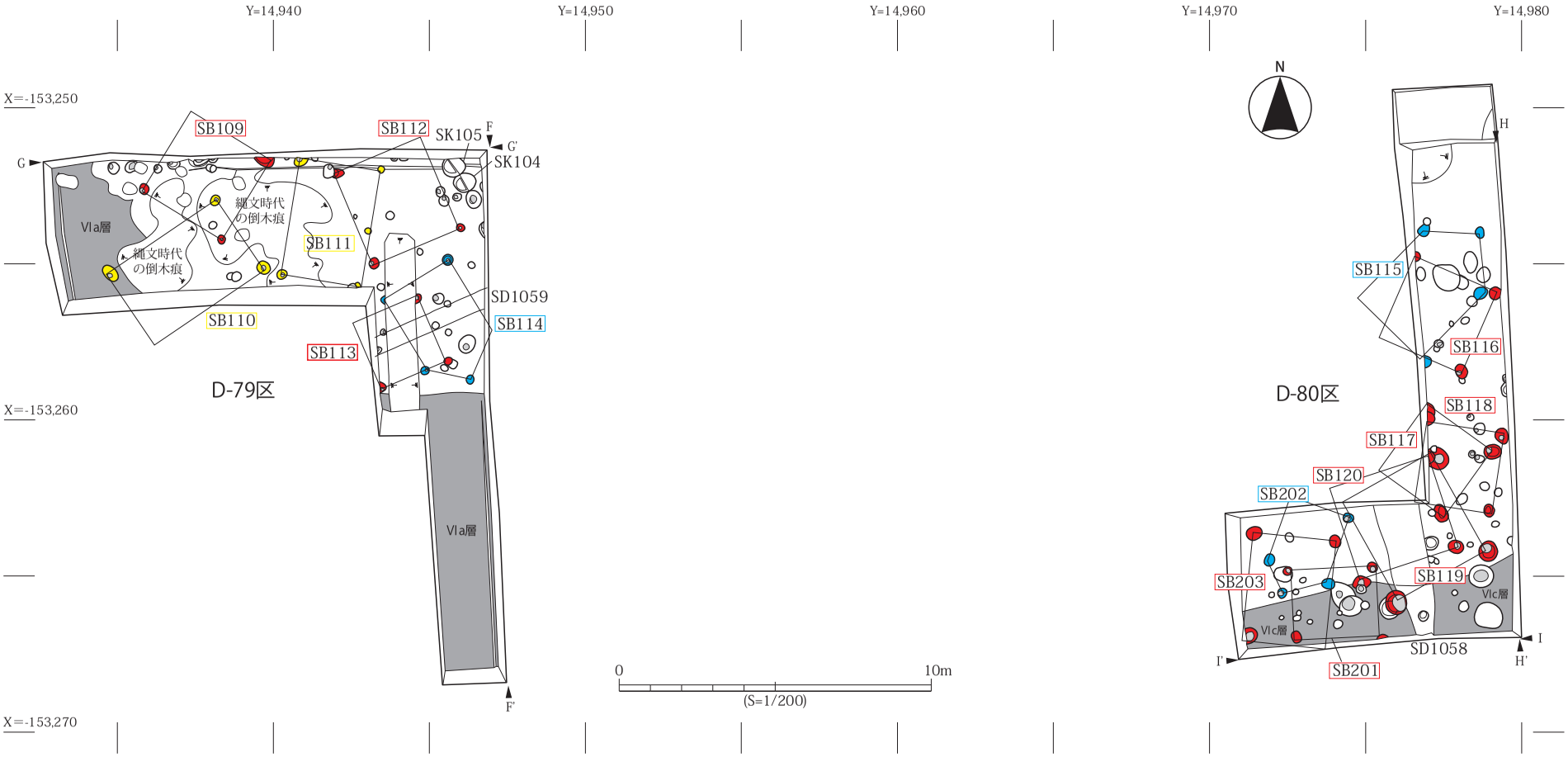
1間×1間の四本柱構造の建物跡はD-78・79・80区で11棟確認している。桁行総長が2.3～3.3m、梁行総長が2.2～3.3mある。柱穴の大きさは直径27～77cm、柱痕跡径が10～54cmといずれも多様である。柱穴の大きな建物跡はD-80区の南側に多く存在することが特徴的である。なお、五角形および長方形の建物跡と重複するが、いずれも時間的な前後関係は不明である。

桁行が2間ある建物跡はD-78・79区で3棟確認している。丘陵の西端部のみで確認され、五角形や正方形の建物跡と異なり検出される位置に偏りがある。いずれも桁行2間、梁行1間の六本柱構造である。桁行総長が3.7～4.2m、梁行総長が2.6～3.0mある。柱穴の大きさは直径20～60cm、柱痕跡径が13～18cmあり、四本柱構造のものとは異なり大型のものは見られない。

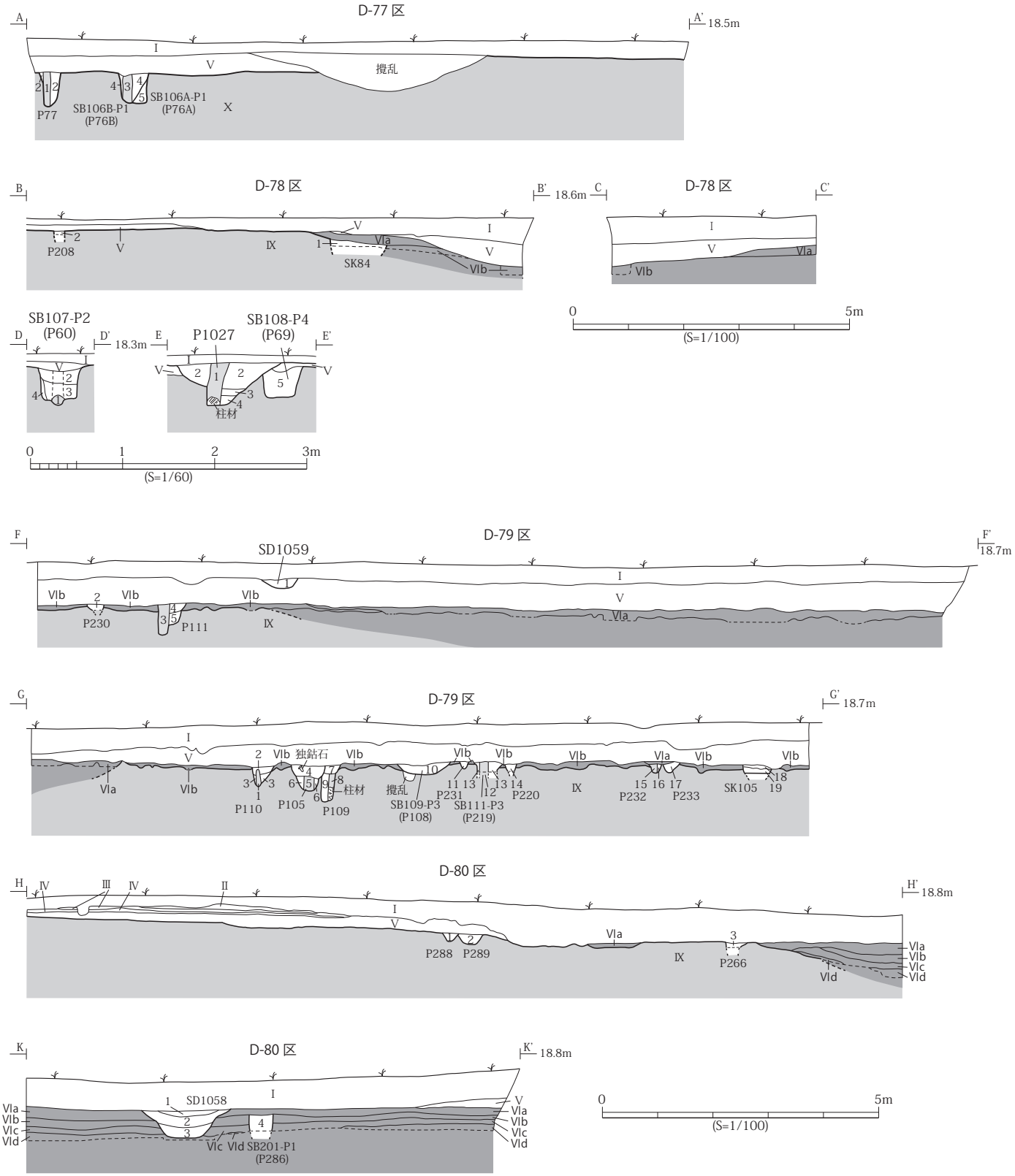
なお、これらの建物跡の床構造については、床面に伴う構築物が検出されていないことや、遺構形成時の地表面を床と想定した場合、炉跡や炭化物集中などの遺構が、建物群と重複する同一平面上で確認されなかったことから、竪穴や土間などは想定されない。ただし、床面に相当する層が削平されたためにこれらの痕跡が失われた可能性も十分に考えられるが、柱穴掘込面の直上が遺物包含層（Ⅵ



第96図　D-76・77・78区　平面図



第97図　D-79・80区　平面図



第98図　D-77・78・79・80区　断面図

層）に覆われるものも少なくないことから、高床のものが存在していた可能性が考えられる。

平面形が正方形や長方形を呈する掘立柱建物跡は、本県では蔵王町鍛冶沢遺跡で検出しており、晩期中葉に位置づけられている（宮城県教育委員会　2010a）。特に、Ⅱ区で検出した大型の四本柱構造

第10表　D-77・78・79・80区　土層観察表

調査区 / 遺構	層序		土色	土性	特徴
P77	A-A'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土	地山（Ⅸ層）小ブロック少量 【柱痕跡】
		2	褐灰色（10YR5/1）	粘土	地山（Ⅸ層）小ブロック多量 【掘方埋土】
SB106-P1 (P76A・B)		3	褐灰色（10YR4/1）	粘土	地山（Ⅸ層）小ブロック少量 【柱痕跡】
		4	明青灰色（10BG7/1）	粘土	褐灰色（10YR4/1）粘土ブロック少量 【掘方埋土（新）】
		5	黒褐色（10YR3/1）	粘土	地山（Ⅸ層）小ブロック少量 【掘方埋土（旧）】
D-78区	A-A' B-B'	Ⅵa	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック多量
		Ⅵb	黒褐色（10YR2/2）	粘土	地山（Ⅸ層）小ブロック少量
SK84		1	黒色（10YR2/1）	粘土	地山（Ⅸ層）小ブロック少量、砂少量、炭化物粒少量 【堆積土】
P208		2	褐灰色（10YR4/1）	シルト	小礫（Ⅹ層）多量 【堆積土】
SB107-P2 (P60)	C-C'	1	黒褐色（10YR3/2）	シルト	【柱痕跡】
		2	灰黄褐色（10YR4/2）	砂質シルト	小礫（Ⅹ層）多量、炭化物粒少量 【掘方埋土】
		3	灰黄褐色（10YR4/2）	砂	【掘方埋土】
		4	褐色（10YR4/4）	粘土質シルト	【掘方埋土】
SB107-P3 (P66)	D-D'	1	黒褐色（10YR3/1）	シルト	小礫（Ⅹ層）中量 【柱痕跡】
		2	褐灰色（10YR4/1）	砂質シルト	小礫（Ⅹ層）多量、炭化物粒少量 【掘方埋土】
P1027	E-E'	1	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト	【柱痕跡】
		2	黒褐色（10YR2/2）	シルト	粘土（Ⅴ層）ブロック多量 【掘方埋土】
		3	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	粘土（Ⅴ層）ブロック少量 【掘方埋土】
		4	黒褐色（10YR2/2）	シルト	粘土（Ⅴ層）ブロック多量 【掘方埋土】
SB108-P4 (P69)		5	褐灰色（10YR4/1）	砂質シルト	小礫（Ⅹ層）多量 【掘方埋土】
D-79区	A-A' B-B'	Ⅵa	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	粗砂少量、植物少量
		Ⅵb	黒褐色（10YR3/1）	シルト	粗砂多量、植物少量
SD1059	A-A'	1	黒褐色（10YR3/1）	シルト	粘土（Ⅴ層）小ブロック少量 【堆積土】
P230		2	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	砂・小礫（Ⅹ層）少量、植物やや多量 【堆積土】
P111		3	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	砂・小礫（Ⅹ層）少量、植物やや多量 【柱痕跡】
		4	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	小礫（Ⅹ層）やや多量、植物少量 【掘方埋土】
		5	黒色（10YR2/1）	シルト	砂・小礫（Ⅹ層）やや多量 【掘方埋土】
P110	B-B'	1	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	砂・小礫（Ⅹ層）少量、植物やや多量 【柱痕跡】
		2	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	小礫（Ⅹ層）やや多量、植物少量 【掘方埋土】
		3	黒褐色（10YR3/1）	シルト	小礫（Ⅹ層）多量、植物少量
P105		4	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	小礫（Ⅹ層）少量、炭化物粒少量、植物少量
		5	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	砂・小礫（Ⅹ層）少量、植物やや多量 【柱痕跡】
		6	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	小礫（Ⅹ層）やや多量、植物少量 【掘方埋土】
P109		7	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒少量、炭化物粒少量、植物やや多量
		8	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	砂・小礫（Ⅹ層）少量、植物やや多量 【柱痕跡】
		9	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	小礫（Ⅹ層）やや多量、植物少量 【掘方埋土】
SB109-P3 (P108)		10	黒褐色（10YR3/1）	シルト	小礫（Ⅹ層）やや多量 【掘方埋土】
P231		11	黒褐色（10YR3/1）	シルト	小礫（Ⅹ層）やや多量 【掘方埋土】
SB111-P3 (P219)		12	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	砂・小礫（Ⅹ層）少量、植物やや多量 【柱痕跡】
		13	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	小礫（Ⅹ層）やや多量、植物少量 【掘方埋土】
P220		14	黒褐色（10YR3/1）	シルト	小礫（Ⅹ層）やや多量 【掘方埋土】
P232		15	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	砂・小礫（Ⅹ層）少量、植物やや多量 【柱痕跡】
		16	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	小礫（Ⅹ層）やや多量、植物少量 【掘方埋土】
P233		17	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	砂・小礫（Ⅹ層）少量、植物やや多量 【堆積土】
SK105		18	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	小礫（Ⅹ層）やや多量、植物少量 【堆積土】
		19	黒褐色（10YR3/1）	シルト	砂・小礫（Ⅹ層）多量 【堆積土】
D-80区	A-A' B-B'	Ⅵa	黒褐色（10YR2/2）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）小ブロックやや多量、粘土小ブロック少量、砂わずか、炭化物粒やや多量、植物少量
		Ⅵb	黒褐色（10YR3/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）小ブロック・粘土小ブロック少量、砂やや多量
		Ⅵc	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒わずか、スクモ・砂・炭化物粒少量。
		Ⅵd	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	砂やや多量。
P288	A-A'	1	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）ブロックやや多量、礫（Ⅹ層）中量、炭化物粒少量 【掘方埋土】
P289		2	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）ブロックわずか 【掘方埋土】
P266		3	黒褐色（10YR2/3）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）ブロックわずか 【掘方埋土】
SD1058	B-B'	1	暗褐色（10YR3/3）	シルト質砂	小礫（Ⅹ層）多量、黒色粘土（Ⅵ層）ブロック中量 【堆積土】
		2	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	小礫（Ⅹ層）・砂中量 【堆積土】
		3	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック・小礫（Ⅹ層）中量 【堆積土】
SB201-P1 (P286)		4	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）ブロック少量、砂やや多量 【掘方埋土】

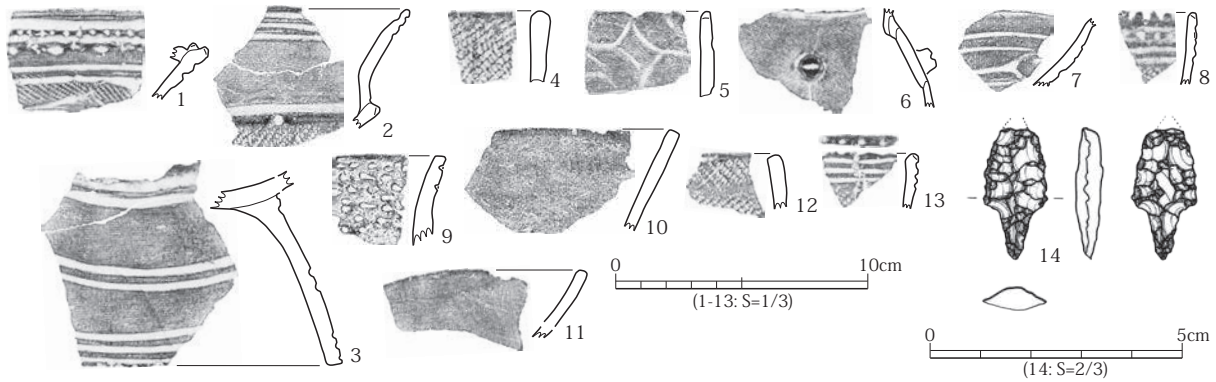
建物跡群は、その特徴として、広場と考えられる空閑地を扇状に囲むように配置され、同じ位置で何度も建て替えが行われていること、建物の規模や柱の大きさに大きな差が認められないことなどが特徴としてあげられ、食料や日常生活、祭祀道具などを保管した倉庫の可能性を指摘している（宮城県教育委員会　前掲）。本遺跡ではこのような規則性は認められないが、鍛冶沢遺跡同様に調査区内で貯蔵穴などの貯蔵施設が検出されていないこと、鍛冶沢遺跡とは異なり同時期の居住施設が確認されていないことから、居住施設もしくは倉庫の役割が考えられる。

掘立柱建物跡の時期は、遺構検出面である遺物包含層との重複関係等から、SB107が晩期中葉後

第11表　東7地点　掘立柱建物跡一覧

遺構名	検出面			推定時期	間数		平面形	平面規模							方向		柱穴掘方			柱痕跡径(cm)	柱抜取穴(個)	備　考(出土遺物など)
								桁行			梁行			張出長(m)			規模(cm)					
	調査区	層位	大別層		桁行	梁行		総長(m)	計測柱列	柱間寸法(m)	総長(m)	計測柱列	柱間寸法(m)		角度	計測柱列	直径	深度	平面形			
SB106A	D-77	(V)	-	晩期2～(大洞BC～)	1	1	五角形(東張出)	2.8	南	2.8	2.7	東	2.7	1.2	E-13-S	南	28-32	35-53	円形	-	0	縄文土器注口土器
SB106B	D-77	(V)	-	晩期2～(大洞BC～)	1	1	五角形(東張出)	3.3	南	3.3	2.2	東	2.2	1.1	E-12-S	南	23-54	54	円形、楕円形	16-18	1	
SB107	D-78	(VI a)	(南2B)	晩期4b(大洞C2新)	1	1	正方形	3.2	北	3.2	3.2	東	3.2	-	E-29-S	北	30-46	28-42	円形	13-14	0	縄文土器鉢・台付鉢、剥片
SB108	D-78	(V)	-	晩期2～(大洞BC～)	2	1	長方形(東西棟)	4.2	南	2.0+2.2	3.0	東	3.0	-	E-37-S	南	29-48	33	円形	-	0	建て替え1か
SB109	D-79	VI b	南2B	晩期6a～(大洞A'古～)	1	1	正方形	3.0	南	3.0	3.0	東	3.0	-	E-31-S	南	30-64	24	円形、楕円形	10-17	0	縄文土器深鉢
SB110	D-79	VI a	南2A	晩期6b～(大洞A'新～)	(2)	1	長方形(東西棟)	4.2	北	4.2(2間分)	2.7	東	2.7	-	E-36-N	北	34-60	-	円形、楕円形	13-18	0	縄文土器
SB111	D-79	VI b	南2B	晩期6a～(大洞A'古～)	2	1	長方形(南北棟)	3.7	西	1.8+2.0(東側柱列)	2.6	北	2.6	-	N-8-E	西	20-48	-	円形、楕円形	14-18	0	石棒
SB112	D-79	(V)	-	晩期2～(大洞BC～)	1	1	正方形	3.1	西	3.1	3.1	南	3.1	-	N-23-W	西	27-40	-	円形、楕円形	10-15	1	縄文土器
SB113	D-79	(V)	-	晩期2～(大洞BC～)	1	1	正方形	2.3	南	2.3	2.3	東	2.3	-	E-23-N	南	28-32	-	円形	11-15	0	剥片
SB114	D-79	(V)	-	晩期2～(大洞BC～)	1	1	五角形(南張出)	2.6	西	2.6	2.4	北	2.4	1.0	N-31-W	西	26-35	50	円形	9-13	0	剥片
SB115	D-80	(V)	-	晩期2～(大洞BC～)	1	1	五角形(北張出)	2.9	東	2.9	2.7	北	2.7	1.3	N-39-E	東	38-47	-	円形、楕円形	-	0	縄文土器
SB116	D-80	(V)	-	晩期2～(大洞BC～)	1	1	正方形	2.8	東	2.8	2.8	北	2.8	-	N-25-E	東	33-48	-	円形、楕円形	17	0	
SB117	D-80	(V)	-	※晩期6～(大洞A'～)	1	1	正方形	2.5	東	2.5	2.3	北	2.3	-	N-37-E	東	56-58	41	楕円形	19	1	柱材1。縄文土器深鉢、剥片
SB118	D-80	(V)	-	晩期6～(大洞A'～)	1	1	正方形	2.5	北	2.5	2.4	東	2.4	-	E-14-S	北	43-52	-	円形	18	1	縄文土器
SB119	D-80	VI c	南2A	晩期6b(大洞A'新)	1	1	正方形	3.3	南	3.3	3.3	東	3.3	-	E-33-N	南	66-77	48-70	円形	30-51	0	縄文土器浅鉢・皿・注口土器、磨石、剥片
SB120	D-80	VI c	南2A	晩期6b(大洞A'新)	1	1	正方形	3.3	南	3.3	3.0	東	3.0	-	E-21-N	南	40-59	-	円形、楕円形	22-23	0	縄文土器鉢
SB201	D-80	VI b	南2A	晩期6b(大洞A'新)	1	1	長方形(東西棟)	2.7	北	2.7	2.2	西	2.2	-	E-1-N	北	28-37	-	円形、楕円形	16-17	0	石鏃、剥片
SB202	D-80	(V)	-	晩期2～(大洞BC～)	1	1	五角形(南張出)	2.2	東	2.2	2.1	南	2.1	0.8	N-26-E	東	34-41	-	円形、楕円形	19-21	0	
SB203	D-80	VI c	南2A	晩期6b(大洞A'新)	1	1	長方形(南北棟)	3.3	西	3.3	2.6	北	2.6	-	N-3-E	西	42-54	-	円形、楕円形	32	0	剥片

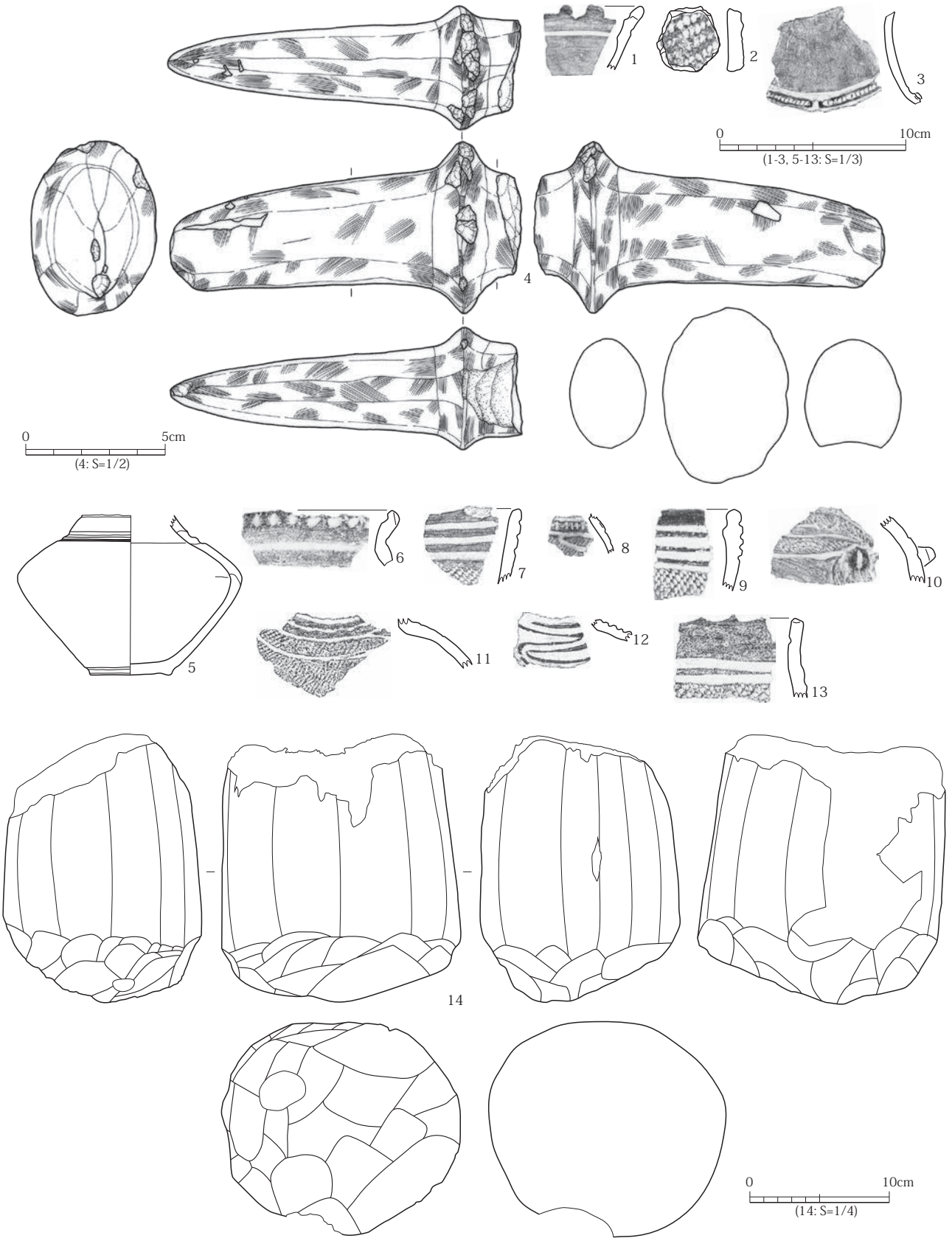
1　検出面がIX層のものは遺構直上層を（　）で記した。
2　遺構を覆う大別層を（　）で記した。
3　時期の項目における※は^{14}C年代測定により推定した時期
4　※間数の（数値）は推定。



1: 注口土器 / SB106B-P4・堆積土 / 16図1, 2: 鉢 / SB107-P2・堆積土 / 16図2, 3: 台部 / SB107-P2・堆積土 / 16図3,
4: 深鉢 / SB109-P2・堆積土 / 16図4, 5: 深鉢 / SB117-P3・掘方埋土 / 16図5, 6: 壺 / SB119-P2・掘方埋土 / 16図6,
7: 注口土器か / SB119-P2・柱痕跡 / 16図7, 8: 鉢 / SB119-P2・掘方埋土 / 16図8, 9: 鉢か / SB119-P2・掘方埋土 / 16図9,
10: 深鉢 / SB119-P2・掘方埋土 / 16図10, 11: 皿 / SB119-P1・掘方埋土 / 16図11, 12: 鉢 / SB119-P1・掘方埋土 / 16図12,
13: 鉢 / SB120-P2・柱痕跡 / 16図13, 14: 石鏃 / SB201-P3・掘方埋土 / 16図14（宮城県文化財調査報告書第234集）

第99図　東7地点　掘立柱建物跡　出土土器・石器

半（大洞C2式新段階、晩期4b期）、SB109・111が晩期末葉（大洞A'式古段階、晩期6a期）遺構、SB110･119･120･201･203が晩期末葉（大洞A'式新段階､晩期6b期）またはそれ以降と推定される（第11表）。また、柱穴の重複関係から、SB118はSB117よりも新しい。SB117の柱材の放射性炭素年代測定（AMS法）では、^{14}C年代が2,390±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が479～402calBCとなり、



1: 浅鉢 / P104・堆積土 / 22図1, 2: 円盤状土製品 / P109・堆 / 22図2, 3: 壺 / P94・堆 / 22図3, 4: 独鈷石 / P105・柱抜取穴 / 22図5,
5: 壺 / P121・掘方埋土 / 22図6, 6: 深鉢 / P128・掘方埋土 / 22図9, 7: 深鉢 / P133・掘方埋土 / 22図12, 8: 壺 / P56・堆積土 / 22図15,
9: 浅鉢 / P56・柱痕跡 / 22図16, 10: 壺 / P59・掘方埋土 / 22図19, 11: 壺 / P32・掘方埋土 / 22図23, 12: 壺 / P33・堆積土 / 22図24,
13: 深鉢 / P33・柱痕跡 / 22図25, 14: 柱材 / P59 / 23図1（宮城県文化財調査報告書第234集）

第100図　東7地点　その他のピット　出土土器・土製品・石製品・柱材

晩期末葉から弥生時代前期の年代値（小林　2019）が得られている。したがって、SB117・118 は晩期末葉以降と推定される。なお、柱穴掘方埋土から出土した遺物で時期のわかるものはすべて、建物跡の推定時期よりも古い時期の遺物のみが出土している。

②集石遺構

集石遺構は、D-55 区と D-56 区でそれぞれ 1 基ずつ検出した。D-55 区で検出した SX43 集石遺構では、石器・石製品のほかに自然石や土器・土製品、自然木が 1,000 点以上集積されている。D-56 区で検出した SX50 集石遺構では、石皿のみ 4 点が集積されており、また、SX43 では確認できなかった土坑状の掘り込みが見られるなど、両者で集積の方法や、集積された遺物の種類・量に大きな差異が認められる。以下に、それぞれの遺構について述べる。

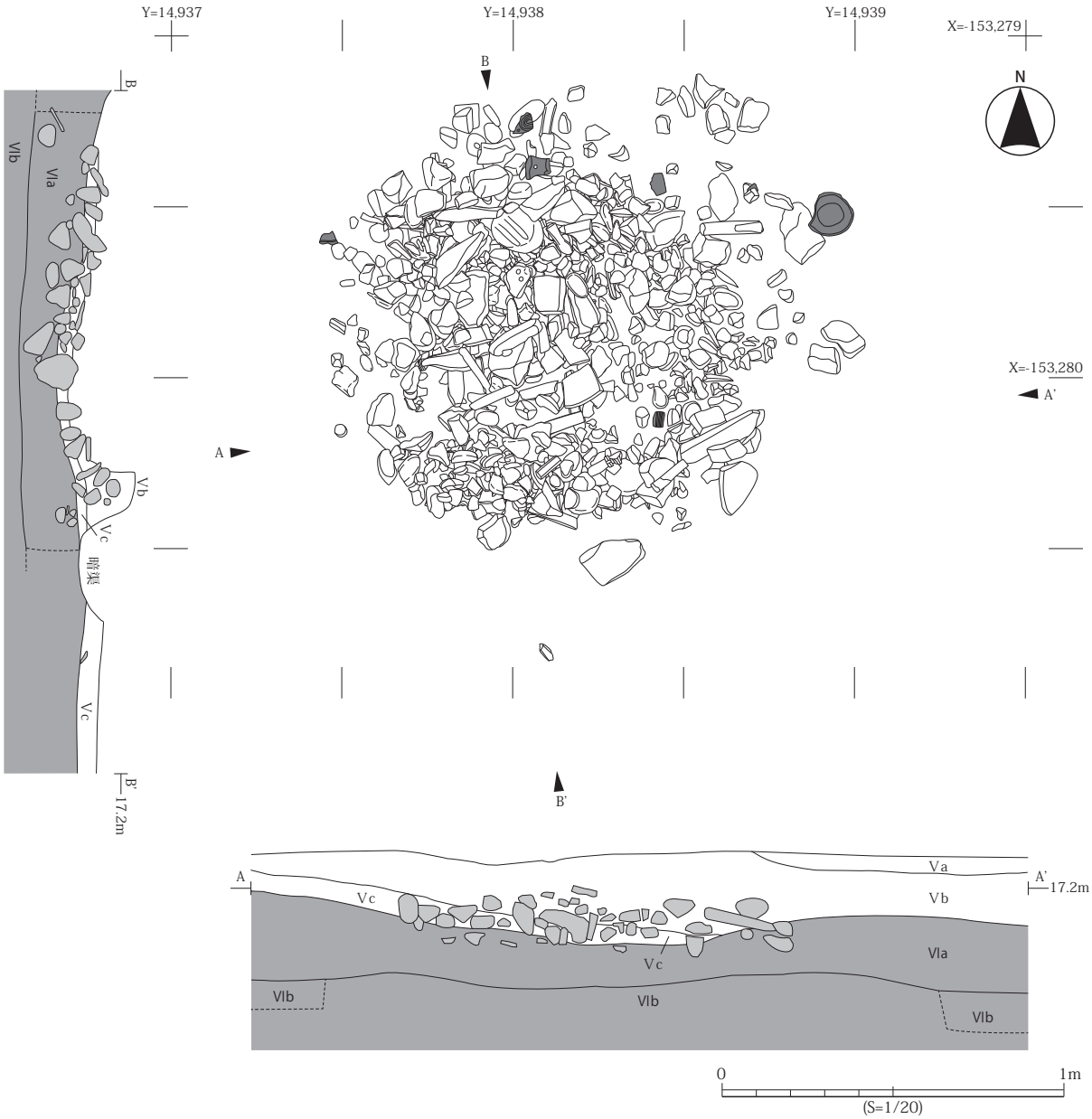
【SX43 集石遺構】

D-55 区西側の南に緩やかに傾斜する遺物包含層上で検出した（第 101 図）。遺物は基本層のⅤｂ層下部からⅥａ層（南 2A 層群）にかけて分布する。特にⅤｃ層からⅥａ層上面にかけて集中しており、Ⅵａ層上面に遺構が形成されたものと推定される。遺物の分布は、長径約 162m、短径約 132m の円形を呈する。なお、洪水の影響により一部の遺物が原位置から離れたものとみられ、本来の範囲よりやや広がっている。遺物は周辺部を除き、重なり合うように集積されている。断面では最大で 5 重の重なりを確認できた。

集積された遺物には、石器・石製品、自然石、土器、土製品、自然木があり（第 105 ～ 114 図）、出土した位置を記録して取り上げた遺物が 759 点、一括で取り上げた遺物が 547 点の計 1,306 点ある[註5]。集積された遺物で最も多い種類が自然石で、数量比で全体の約 6 割を占める（第 102 図）。次いで礫石器が多く集積されているが、石製品の割合も比較的大きいことが特徴と言える。集積された遺物は、自然石や石器（磨製石斧を除く）では完形のものの割合が大きいが、礫石器や石製品、なかでも石皿や磨石、石棒類では破片の割合が大きくなる（第 12 表）。遺物の大きさは、重量分布から小さいものほど多く（第 103 図）、また大きさや形状の分布から特定の範囲に集中する傾向は認められない（第 104 図）[註6]。

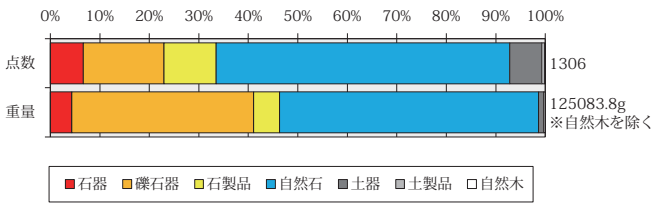
器種別に見ると、石器ではトゥールが少なく、剥片・石核が多く集積される（第 12 表）。トゥールでは磨製石斧が主体となり、遺物包含層で多く出土する剥片石器はわずかで、定形的な剥片石器は石篦 1 点のみにとどまる。礫石器では磨石が最も多く、次いで石皿も多く集積される。石製品では石棒類が主体となる。また、独鈷石や石冠などが少量出土しているが、これは遺物包含層などから出土した点数よりも多い。自然石では、剥片石器や石棒類の素材となる良質の粘板岩や碧玉 B1・2 類が多く出土していることが特徴的である。また、形状が石製品に類似したり、表面の凹凸が大きいなど、珍しい形状・色調をもつ自然石（奇石）も一定量集積されている。

石材は、礫石器や自然石（石材を除く）で安山岩や凝灰岩の割合が大きく、石器や石製品で粘板岩の割合が大きくなる（第 13 表）。特に剥片や石核では、遺物包含層出土の石材組成とは異なり、北小松遺跡で最も多く見られる珪質頁岩よりも粘板岩や碧玉 B 類の割合が大きいことが特徴である。こ



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
D-55 区	A-A' B-B'	Ⅴa	褐灰色（10YR6/1）	粘土	
		Ⅴb	褐灰色（10YR4/1）	粘土	
		Ⅴc	灰黄褐色（10YR6/2）	粘土	
		Ⅵa	黒色（10YR2/1）	粘土	最上部に粘土（Ⅴ層）中ブロックやや多量、粗砂多量、小礫（Ⅹ層）少量、スクモ多量、炭化物わずか
		Ⅵb	黒色（10YR2/1）	粘土	砂多量、スクモわずか、炭化物わずか

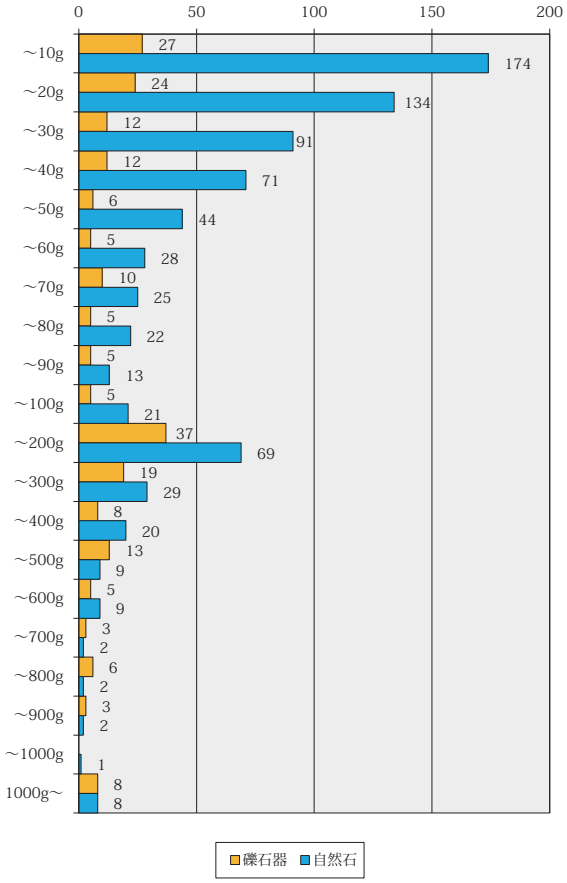
第101図　SX43集石遺構　平面図・断面図



第102図　SX43集石遺構　遺物組成

第12表　SX43集石遺構　器種組成

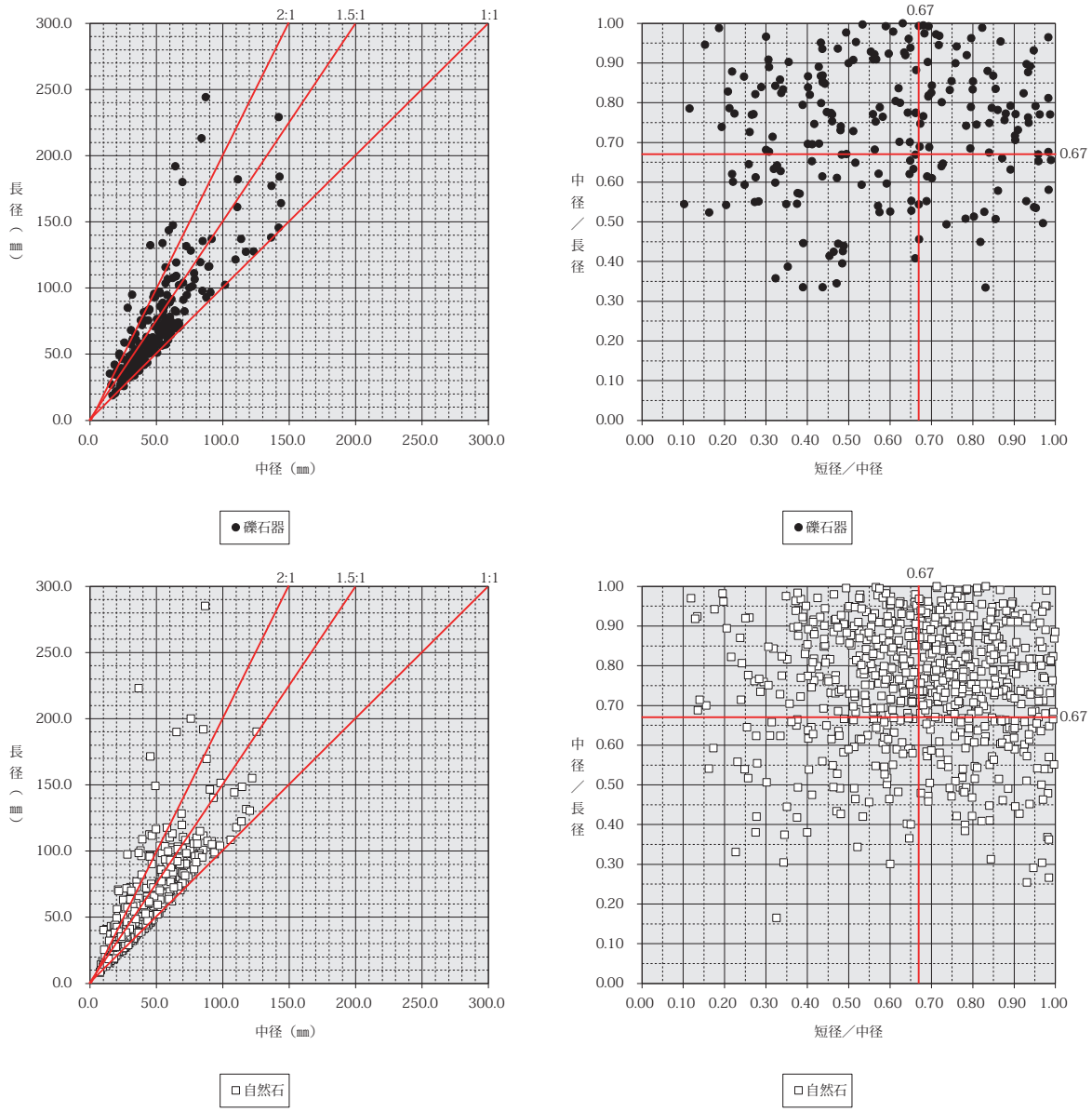
種別	器種	完形	一部欠	破片	計
石器	石篦	1			1
	打製石斧		1		1
	磨製石斧	3		8	11
	不定形石器	1	1	1	3
	剥片	28	11	15	54
	石核	17			17
	計	50	13	24	87
礫石器	石皿	1	8	51	60
	磨石	25	23	93	141
	凹石	1	2	5	8
	砥石	1	1	1	3
	敲石	1			1
	計	29	34	150	213
石製品	円盤状石製品	1	1	1	3
	石錘	2			2
	石冠		3	3	6
	独鈷石		4	3	7
	石棒	1	9	28	38
	石刀		6	69	75
	線刻礫			1	1
	不明石製品		2	4	6
	計	4	25	109	138
自然石	石材	38	21	19	78
	礫（奇石）	20	7	3	30
	礫	306	190	170	666
	計	364	218	192	774
土器	深鉢			39	39
	鉢			23	23
	台付鉢			1	1
	四脚付鉢			2	2
	浅鉢			8	8
	壺			1	1
	注口土器			5	5
	袖珍土器浅鉢			1	1
	器種不明			5	5
	計			85	85
土製品	土偶			5	5
	土版			2	2
	有孔土製品			1	1
	計			8	8
自然木				1	1
総計		447	290	569	1306



第103図　SX43集石遺構　重量分布（礫石器・自然石）

第13表　SX43集石遺構　器種別石材組成

種別	器種	珪質頁岩A	珪質頁岩B	頁岩	珪質凝灰岩A	珪質凝灰岩B	凝灰岩	安山岩質凝灰岩	デイサイト質凝灰岩	碧玉A	碧玉B1	碧玉B2	碧玉C	玉髄	流紋岩	粘板岩	千枚岩	片岩	玄武岩	安山岩	玄武岩質安山岩	デイサイト	ホルンフェルス	花崗岩	斑岩	珪化木	軽石	泥岩	凝灰質泥岩	砂岩	凝灰質砂岩	礫岩	総計
石器	石篦					1																										1
	打製石斧																					1										1
	磨製石斧														1				4		1	1							4			11
	不定形石器			2						1																						3
	剥片	2	1	1		3				2	5					39				1												54
	石核	3	1	2		1	1				8				1																	17
	計	5	2	5		5	1			3	13				1	40				5		1	2						4			87
礫石器	石皿			1			3	1								12		1		32	1	2	5					1	1			60
	磨石						46	7	2							2			1	59	1	14	3	1		4				1		141
	凹石						1													4		1	2									8
	砥石																						1			1			1			3
	敲石																			1												1
	計			1			50	8	2							14		1	1	96	2	17	11	1			5		1	2	1		213
石製品	円盤状石製品						3																									3
	石錘						2																									2
	石冠															1				3								2				6
	独鈷石															3				4												7
	石棒						1									33							3			1							38
	石刀															73							1			1							75
	線刻礫						1																									1
	不明石製品															4				1		1										6
	計						7									114				8		1	4			2		2				138
自然石	石材	4	4	4							20	2	3		1	28		1		2			4			5						78
	礫（奇石）			2	1	1	5	1							2	2	1			10		2	1					1			1	30
	礫	8		36		6	115	65	30		1	1	1	2	4					290	6	68	7		1		21				3	1	666
	計	12	4	42	1	7	120	66	30		21	3	4	2	7	30	1	1		302	6	70	12		1	5	21	1			4	1	774
総　計		17	6	48	1	12	178	74	32	3	34	3	4	2	8	198	1	2	1	411	8	89	29	1	1	7	26	3	1	6	5	1	1212

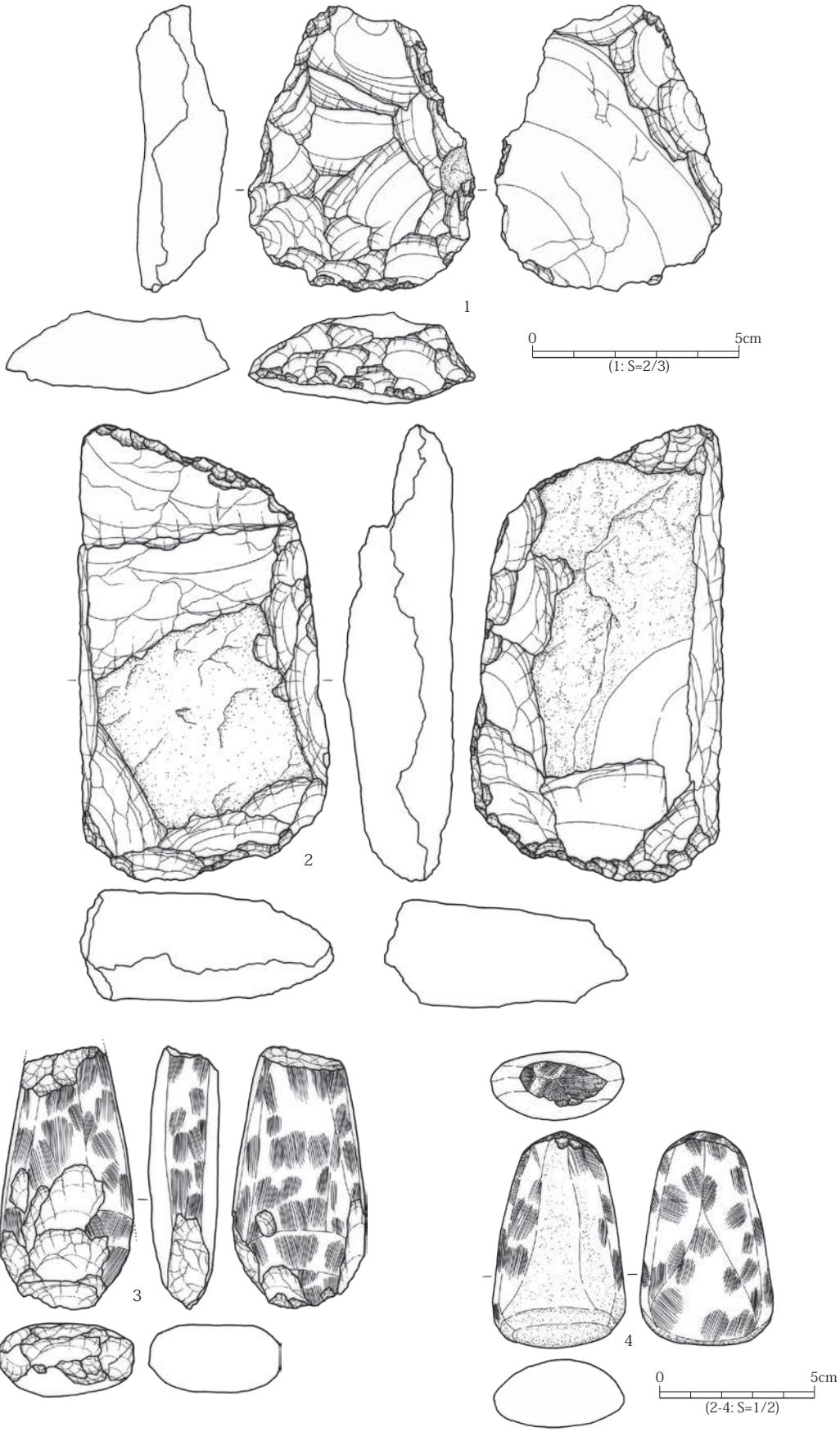


第104図　SX43集石遺構　礫石器および自然石の大きさ・形状

の傾向は、集積された石器石材（原石）でも同様に認められ、これら2種類の石材を意図的に選択して集められたものと考えられる。

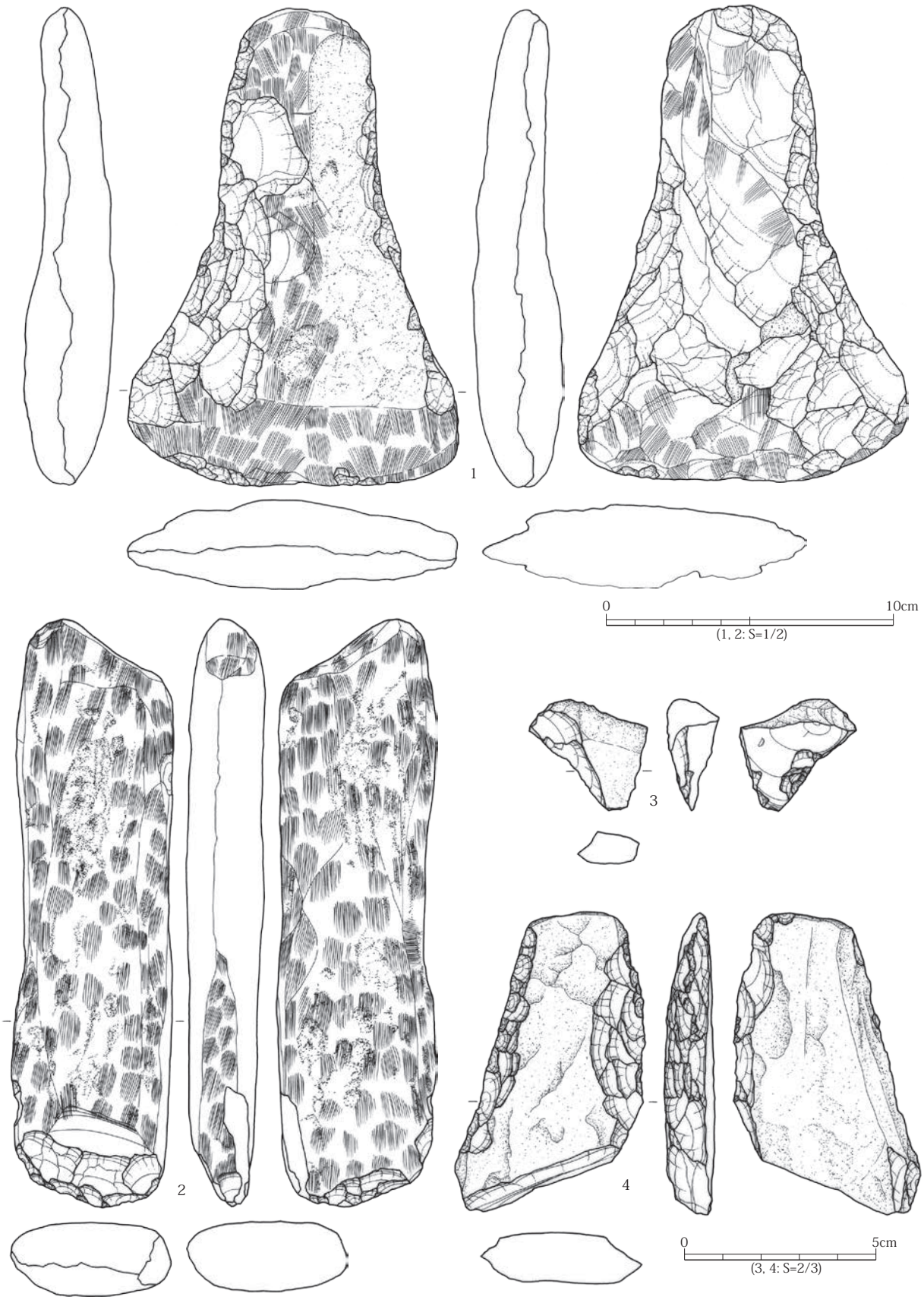
さらに、SX43には土器・土製品があわせて93点集積されている。多くが縄文時代晩期の土器であるが、わずかに後期の土器などが見られる。すべて破片もしくは破損品で、土器では53点（うち、摩耗が著しいもの14点）、土製品では8点すべてが摩耗し、破損してから時間が経過したものが多く集積される傾向が見られる。特に土製品では摩耗が著しいものが6点あり、高い割合を示す。

なお、本遺構に集積された土器1点（第113図12）について、土器付着炭化物を対象に放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、^{14}C年代が2,410±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が514～408calBCの年代値が得られた。また、自然木1点（SX43-579）についても放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、^{14}C年代が2,390±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が480～402calBCの年代値が得られ、いずれも縄文時代晩期末葉から弥生時代前期頃に位置づけられる（小林　2019）。



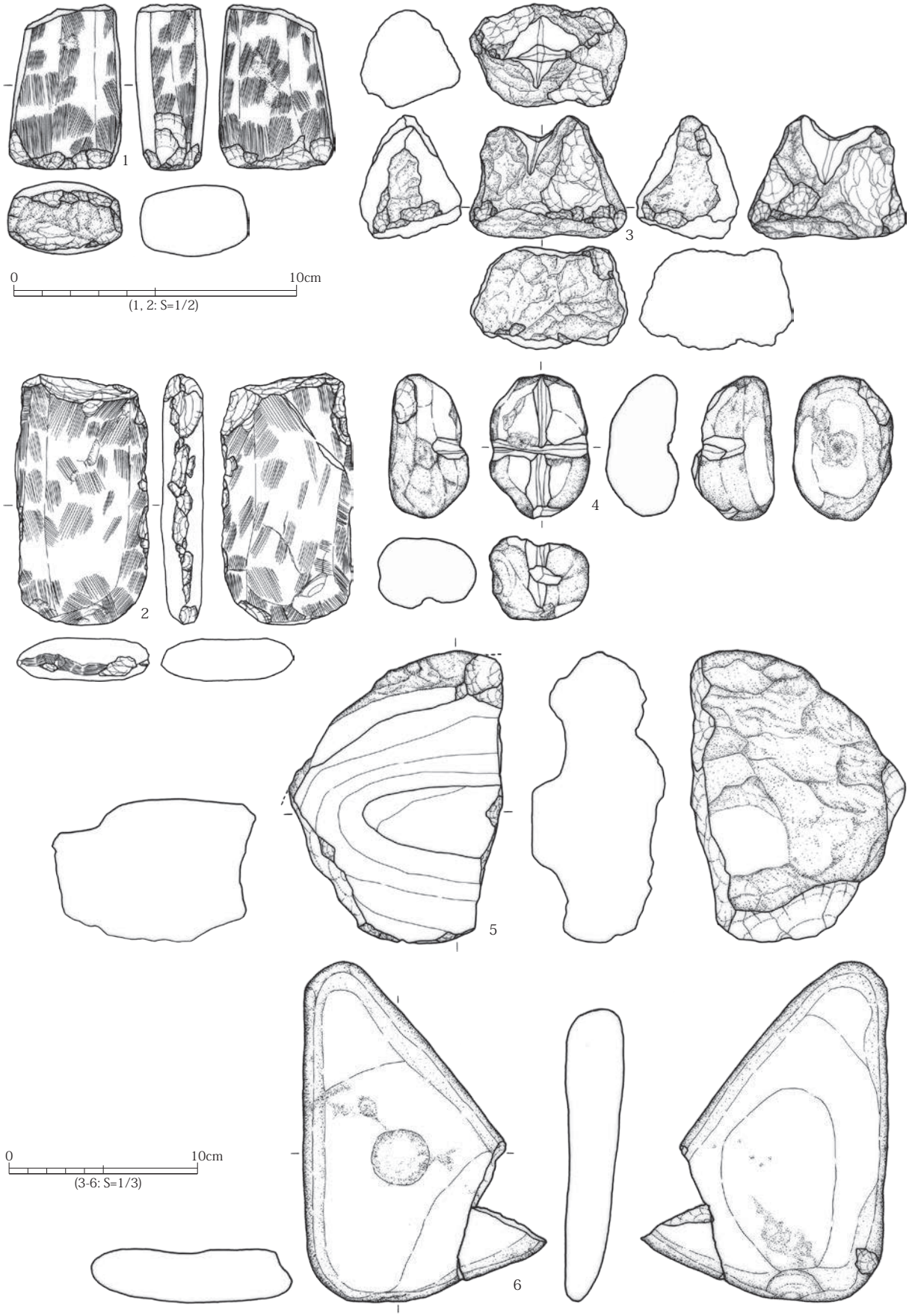
1: 石篦 / SX43-757 / 30図1, 2: 打製石斧 / SX43-765 / 30図2, 3: 磨製石斧 / SX43-450 / 31図2, 4: 磨製石斧 / SX43-163 / 31図3
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第105図　SX43集石遺構　出土石器・石製品（1）



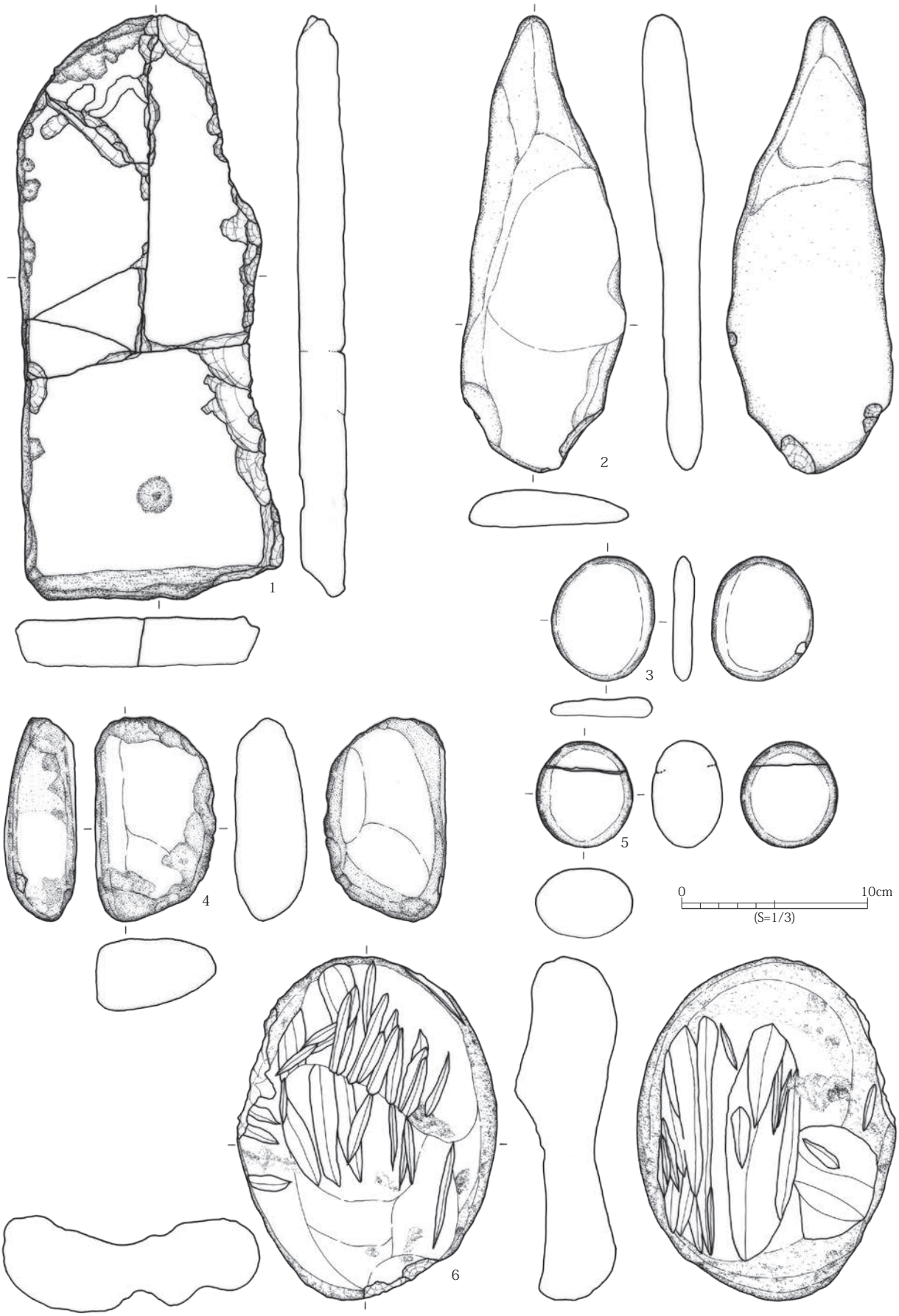
1: 磨製石斧 / SX43-1006 / 31図1, 2: 磨製石斧 / SX43-543 / 31図4, 3: 不定形石器 / SX43-595 / 32図4, 4: 不定形石器 / SX43-650 / 32図5
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第106図　SX43集石遺構　出土石器・石製品（2）



1: 敲石 / SX43-683 / 32図2, 2: 不明石製品 / SX43-1011 / 32図3, 3: 石錘 / SX43-149 / 32図6, 4: 石錘 / SX43-590 / 32図7,
5: 石皿 / SX43-120 / 34図2, 6: 石皿 / SX43-272+1346 / 35図3 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第107図　SX43集石遺構　出土石器・石製品（3）

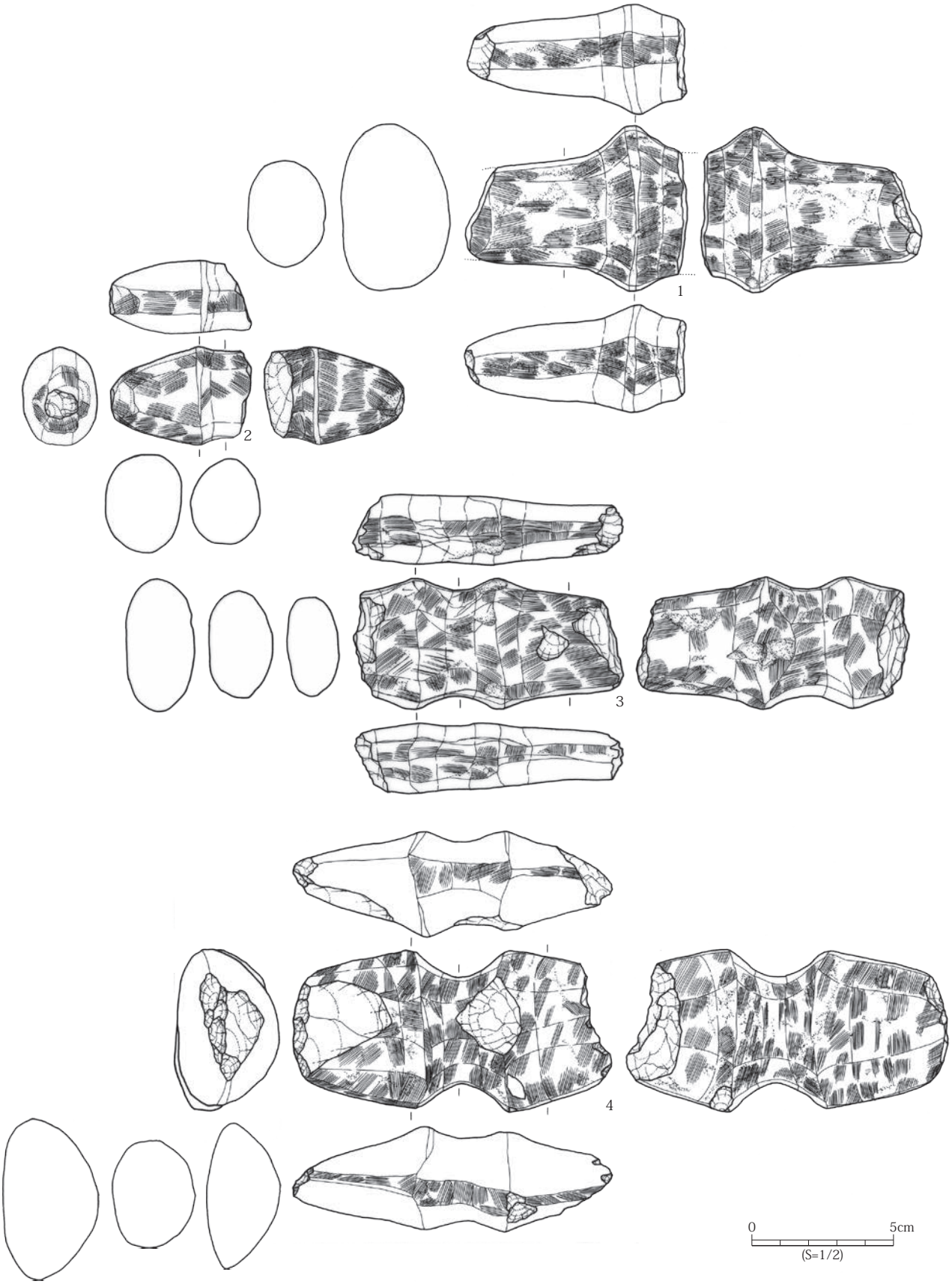


1: 石皿 / SX43-111+116+117+426+431+432+S3526 / 37図1, 2: 石皿 / SX43-60 / 35図1, 3: 磨石 / SX43-369 / 38図4,
4: 磨石 / SX43-206 / 38図9, 5: 磨石 / SX43-1151+S3332 / 37図5, 6: 石皿 / SX43-139 / 35図4（宮城県文化財調査報告書第234集）

第108図　SX43集石遺構　出土石器・石製品（4）

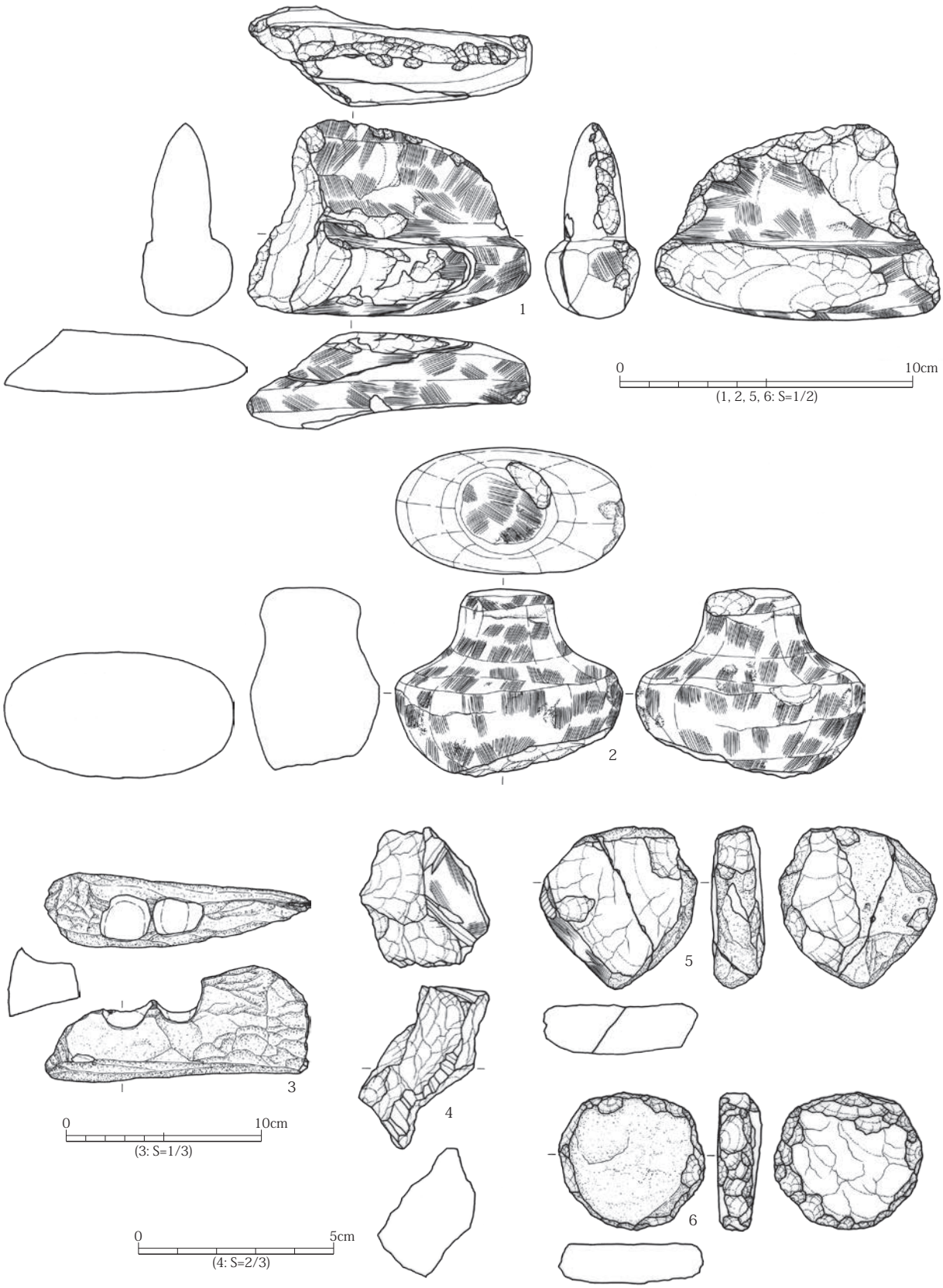
1: 磨石 / SX43-425 / 39図2, 2: 磨石 / SX43-53+449+526+562+569+1169+1277+S13772 / 39図10, 3: 凹石 / SX43-760 / 41図1,
4: 砥石 / SX43-366 / 41図6, 5: 凹石 / SX43-132 / 41図7, 6: 凹石 / SX43-265+341 / 41図4, 7: 磨石 / SX43-700/ 42図1
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第109図　SX43集石遺構　出土石器・石製品（5）



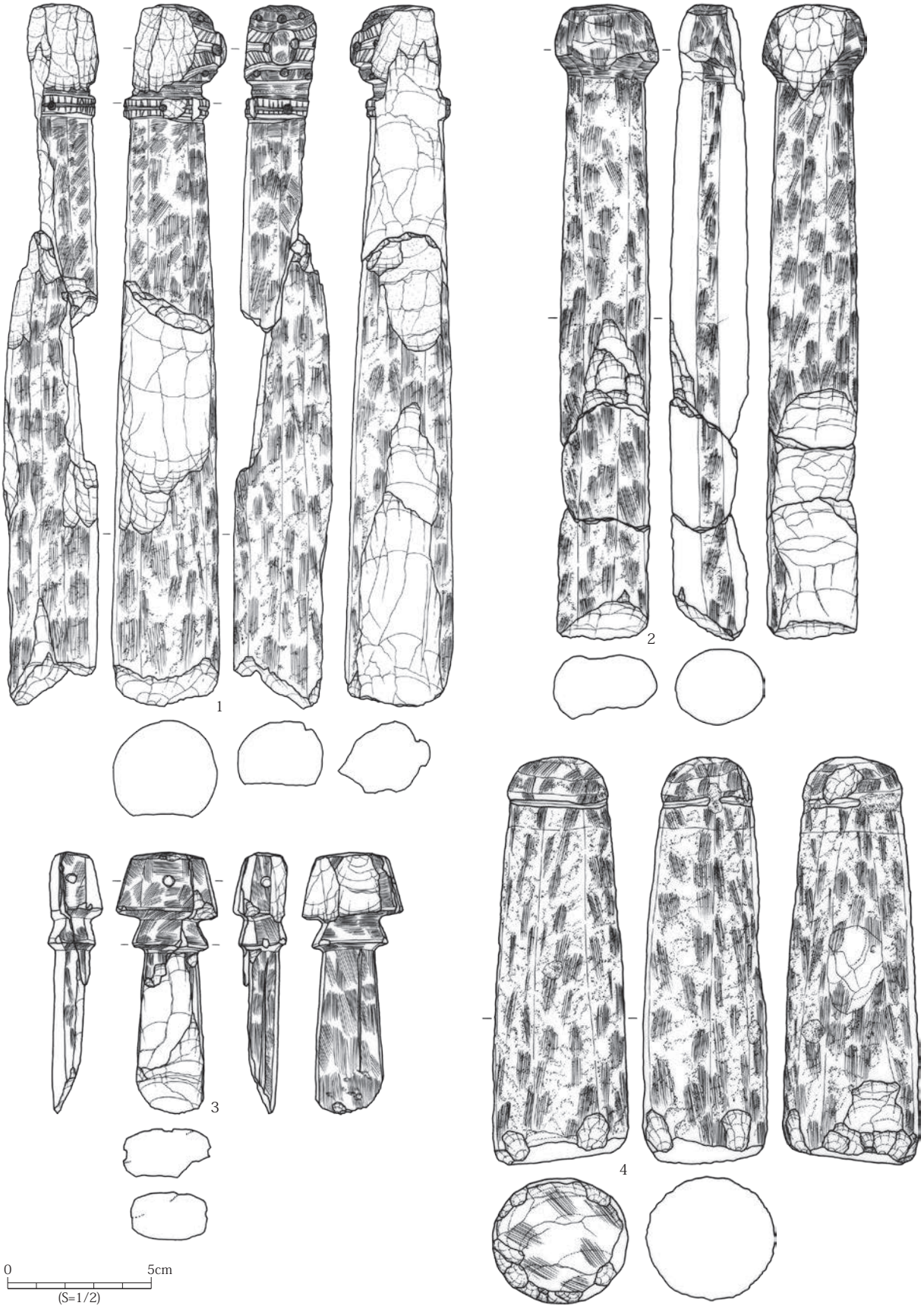
1: 独鈷石 / SX43-202 / 43図1, 2: 独鈷石 / SX43-642 / 42図7, 3: 独鈷石 / SX43-144 / 43図2, 4: 独鈷石 / SX43-79 / 43図3
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第110図　SX43集石遺構　出土石器・石製品（6）



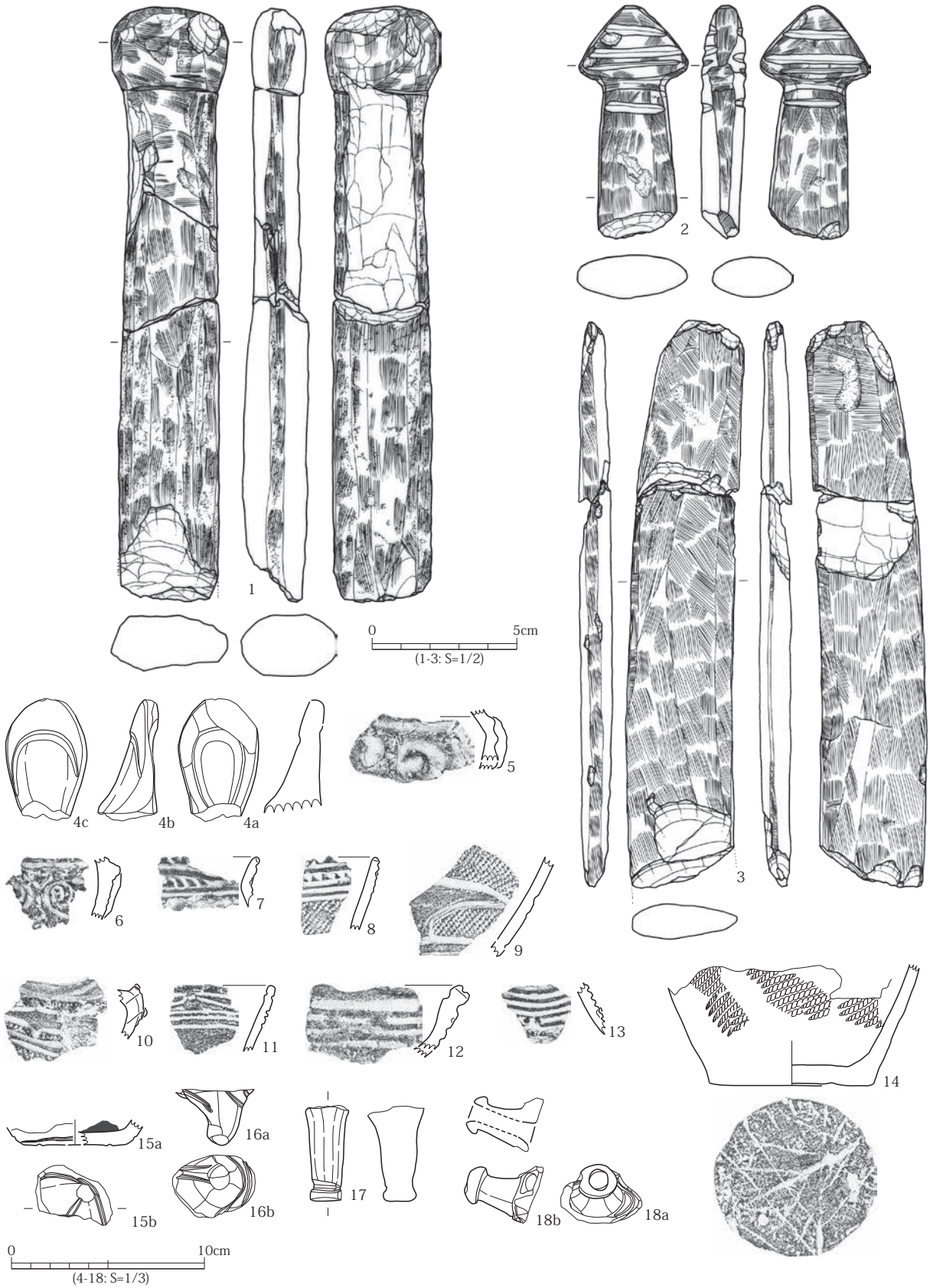
1: 石冠 / SX43-337+639 / 44図4, 2: 石冠 / SX43-108 / 44図1, 3: 砥石 / SX43-335 / 42図2, 4: 線刻礫 / SX43-221 / 42図6,
5: 円盤状石製品 / SX43-166+358 / 42図3, 6: 円盤状石製品 / SX43-325 / 42図4（宮城県文化財調査報告書第234集）

第111図　SX43集石遺構　出土石器・石製品（7）



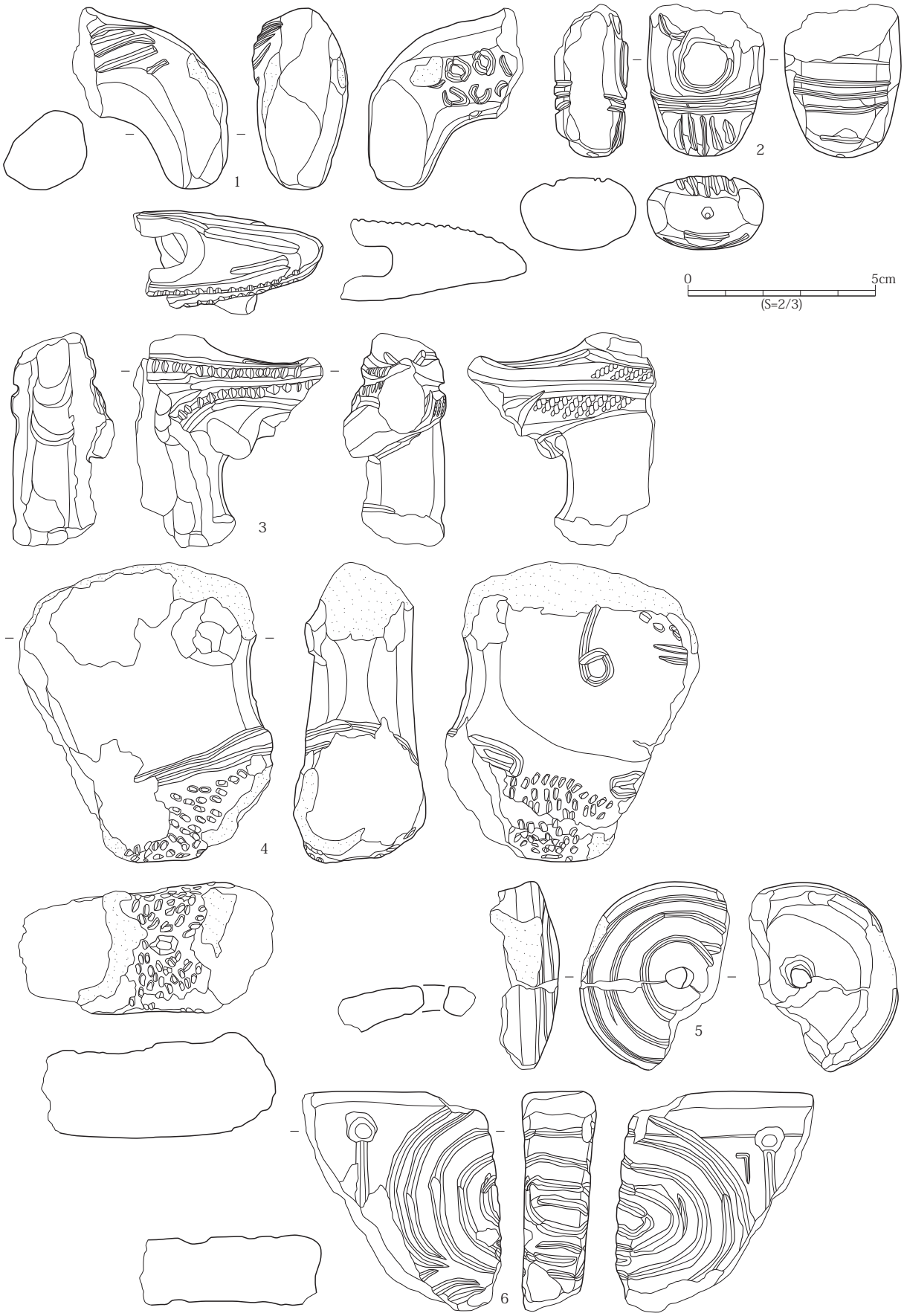
1: 石棒 / SX43-179+236 / 45図5, 2: 石棒 / SX43-57+285+502 / 46図4, 3: 石刀 / SX43-1122+S3342 / 45図2,
4: 石棒 / SX43-288 / 45図1 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第112図　SX43集石遺構　出土石器・石製品（8）



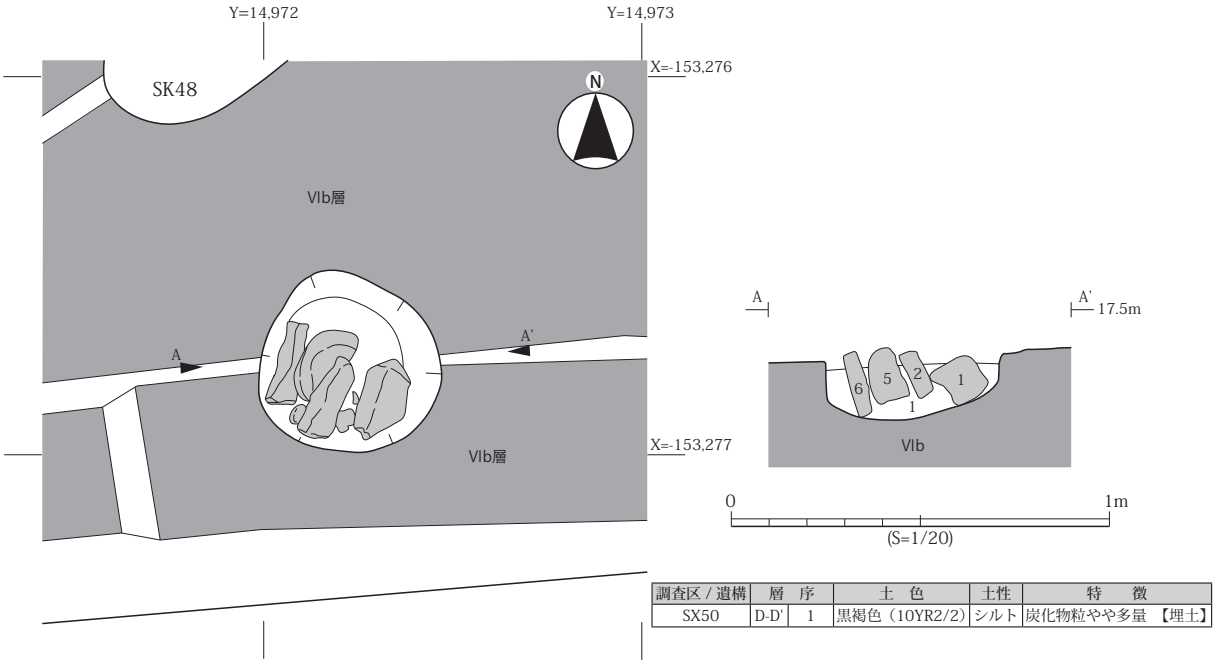
1: 石棒 / SX43-106+660+1149 / 46図5, 2: 石刀 / SX43-1007 / 45図4, 3: 石刀 / SX43-570+729 / 47図1, 4: 深鉢 / SX43-1501 / 48図1,
5: 深鉢 / SX43-390 / 48図2, 6: 深鉢 / SX43-1510 / 48図3, 7: 鉢 / SX43-1507 / 48図5, 8: 鉢 / SX43-1503 / 48図6,
9: 鉢 / SX43-695 / 48図7, 10: 注口土器 / SX43-1504 / 48図9, 11: 浅鉢 / SX43-1506 / 48図12, 12: 鉢 / SX43-224 / 48図13,
13: 台部 / SX43-474 / 48図14, 14: 深鉢 / SX43-175 / 48図18, 15: 四脚付鉢 / SX43-1509 / 48図19, 16: 四脚付鉢か / SX43-541 / 48図20,
17: 脚部 / SX43-620 / 48図21, 18: 注口土器 / SX43-1508 / 48図22（宮城県文化財調査報告書第234集）

第113図　SX43集石遺構　出土石器・石製品（9）・土器



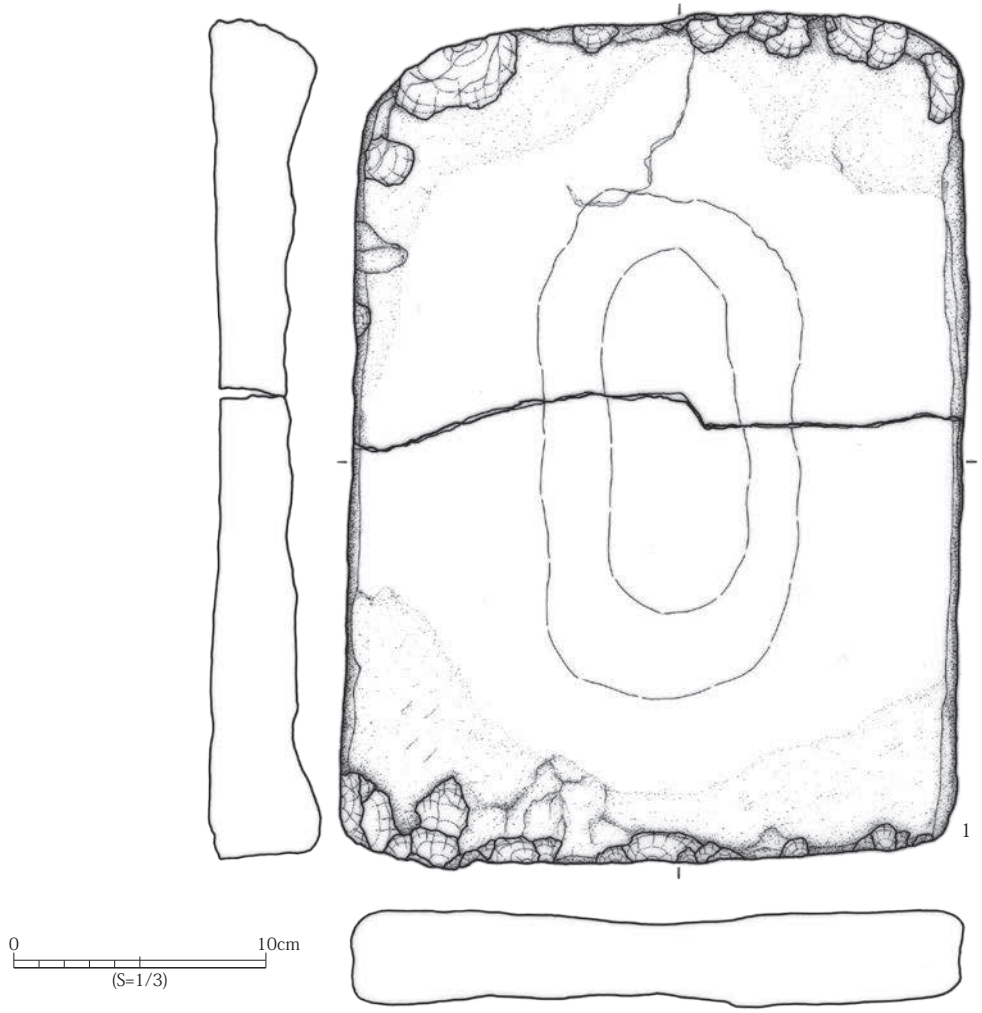
1: 土偶（左腕） / SX43-461 / 48図25, 2: 土偶（脚部） / SX43-626 / 48図26, 3: 土偶（上半身（左）） / SX43-686 / 49図2,
4: 土偶（胴部） / SX43-1 / 49図1, 5: 有孔土製品 / SX43-500 / 49図5, 6: 土版 / SX43-743 / 49図3 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第114図　SX43集石遺構　出土土製品



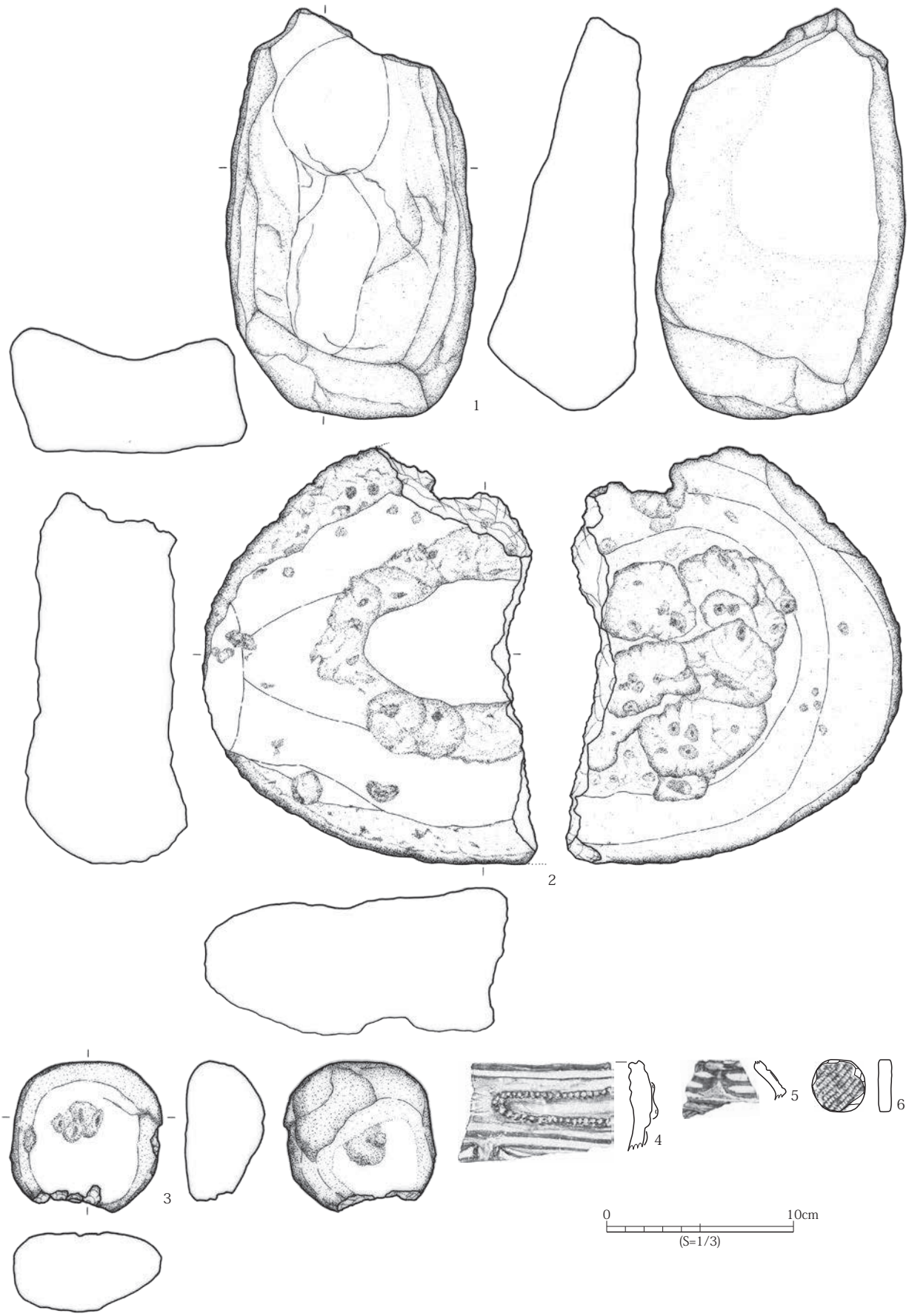
調査区 / 遺構	層　序		土　色	土性	特　徴
SX50	D-D'	1	黒褐色（10YR2/2）	シルト	炭化物粒やや多量　【埋土】

第115図　SX50集石遺構　平面図・断面図



1: 石皿 / SX50-2 / 52図1 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第116図　SX50集石遺構　出土遺物（1）



1: 石皿 / SX50-1 / 51図1, 2: 石皿 / SX50-2 / 51図2, 3: 磨石 / SX50-4 / 52図2, 4: 鉢 / SX50・埋土 / 52図3, 5: 浅鉢 / SX50・埋土 / 52図4, 6: 円盤状土製品 / SX50・堆 / 52図5 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第117図　SX50集石遺構　出土遺物（2）

【SX50 集石遺構】

D-56 区東側の南に緩やかに傾斜する遺物包含層上で検出した（第 115 図）。検出面はⅥb 層（南 2A 層群）で、掘りくぼめられた土坑のなかに石器が集積されている。平面形は直径 49cm の円形を呈する。断面形は、底面が緩やかにくぼみ、壁が急に立ち上がる逆台形を呈し、残存する深さが 27cm ある。石皿 4 点を立てて並べた状態で集積（埋納）されている。

埋納された石皿は 4 点であるが、うち 2 点が接合するため 3 個体分である（第 116 図 1、第 117 図 1・2）。ほかに、埋土から石皿 2 点、磨石 1 点（同図 3）、工字文が施された鉢（同図 4）や、変形工字文が施された浅鉢（同図 5）、円盤状土製品（同図 6）が出土している。

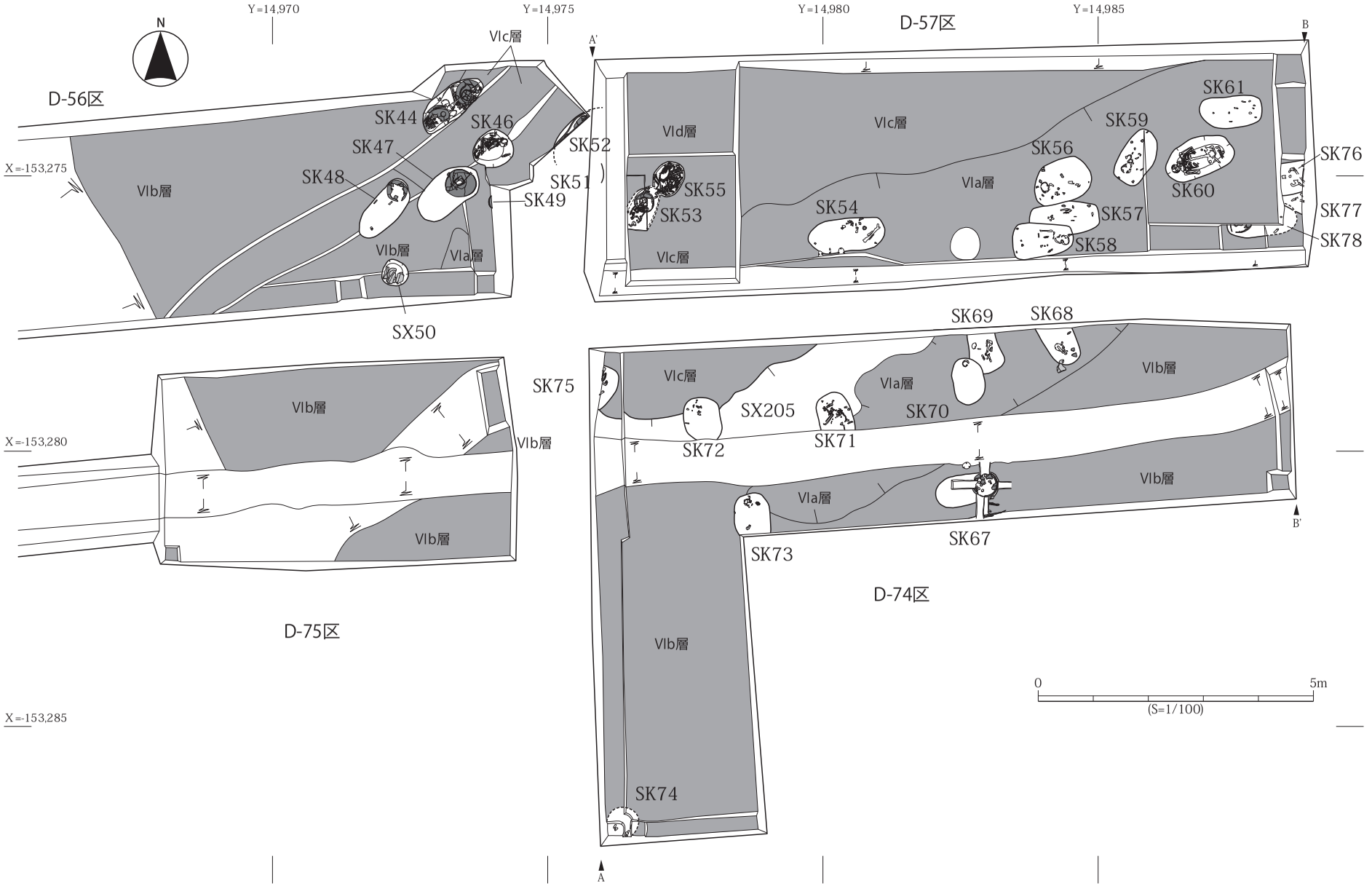
③土坑墓

ヒトが一次埋葬された土坑墓は、D-56 区で 6 基、D-57 区で 12 基、D-74 区で 9 基の計 27 基検出した。土坑墓を含む調査区は現地保存となったため、27 基中 23 基は検出のみにとどめている。また、検出状況を記録した後は地表面に露出した遺物（土器や人骨）を取り上げてから埋め戻した。なお、SK44 は完掘し、SK46・53・60 は土壌ごと切り取っている。土坑墓の諸属性を第 16 表にまとめた。

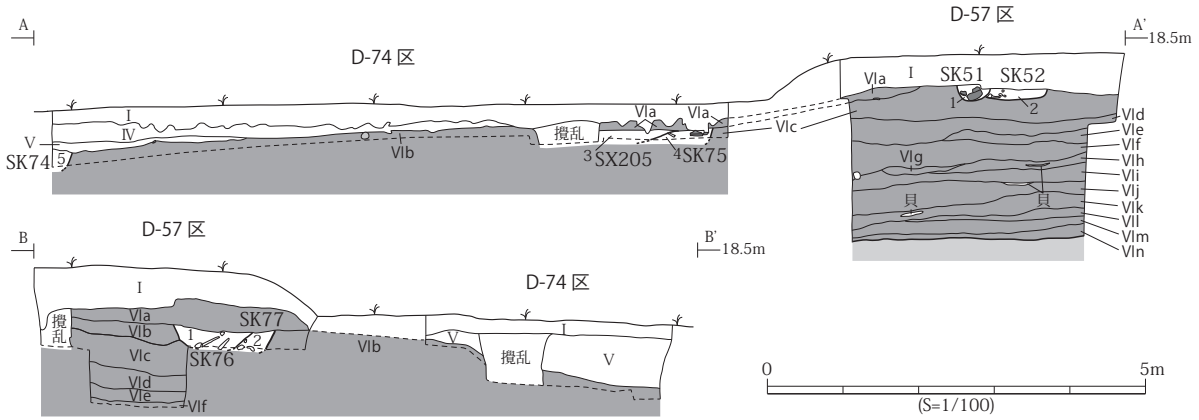
土坑墓は、いずれも東 C 丘陵西端部南斜面の微高地上で検出しており、遺物包含層と重複する。22 基で人骨を検出し、12 基で埋葬姿勢を確認できた。11 基が仰臥屈葬位で、1 基が右下側臥屈葬位である。なお、本遺跡で主体となる埋葬姿勢である仰臥屈葬位は、東北地方においても一般的な埋葬姿勢とされている（山田　2001、中村　2007）。

本地点で検出した土坑墓は、遺体に土器を被せるもの（A 類）と被せないもの（B 類）の 2 つに大別される。A 類が 10 基、B 類が 13 基、類型不明が 4 基ある。A 類の土坑墓にはπ字文が施された大型の鉢が埋設される。埋設された鉢の器形はある程度の斉一性をもつが、装飾は、π字文が施される点が共通するものの、それ以外では、四脚付で口縁部に大型の突起が付くのものや、平坦口縁で脚が付かないものなど多様である。

墓域内における平面分布を見ると、A 類が墓域の西側に、B 類が東側に多く分布する傾向が見られる。垂直分布では、A 類がⅥb 層検出 8 基、Ⅵc 層検出 2 基、B 類がⅥa 層検出 10 基、Ⅵb 層検出 2 基、SX205 自然流路跡堆積土検出 1 基となっている。A 類でⅥc 層検出の土坑墓（SK51・75）はその上位にⅥb 層の堆積が確認されず、SK51 はⅥb 層検出の SK52 と重複しこれよりも新しいことから、これら 2 基の土坑墓は、ほかの土坑墓 A 類と同一層準で形成されたものとみなすことが可能である。また、A 類では遺構直上をⅥa 層が覆うものが 4 基あることから、これらの遺構掘込面はⅥb 層となる。一方で、B 類では、Ⅵb 層検出の土坑墓（SK46・74）はその上位にⅥa 層の堆積が確認されないことから、ほかの土坑墓 B 類と同一層準で形成されたものとみなすことが可能である。したがって、類型別にみると A 類の遺構掘込面がおおむねⅥb 層（南 2A 層群：晩期 6a 期）、B 類の遺構掘込面がおおむねⅥa 層（南 1 層群：晩期 6b 期）と層位的に区別され、A 類→B 類の時間的変遷がとらえられる。また、これにより、墓域内における土坑墓の位置が、おおよそ墓域の西側から東側へ移



第118図　D-56・57・74・75区　平面図



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
D-57・74 区	A-A' B-B'	Ⅵ a	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	凝灰岩（X層）粒・地山（Ⅸ層）粒・粗砂・炭化物粒多量
		Ⅵ b	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）ブロック・粗砂多量、炭化物粒少量、スクモ多量
		Ⅵ c	黒褐色（2.5Y3/2）	粘土	地山（Ⅸ層）大ブロック・粗砂・炭化物粒多量、スクモやや多量
		Ⅵ d	灰黄褐色（2.5Y4/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）ブロック多量、粗砂・炭化物粒やや多量、スクモやや多量
		Ⅵ e	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）ブロックやや多量、粗砂多量、炭化物粒少量、スクモやや多量
		Ⅵ f	黒色（7.5Y2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック・炭化物粒少量、粗砂やや多量、貝少量
		Ⅵ g	黒色（7.5Y2/1）	粘土	地山（Ⅸ層）ブロック・炭化物粒やや多量、貝多量、火山灰？多量
		Ⅵ h	オリーブ黒色（5Y3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）ブロック・炭化物粒やや多量、粗砂多量、貝少量
		Ⅵ i	黒色（2.5Y2/1）	粘土質シルト	粗砂やや多量、炭化物粒わずか、貝わずか
		Ⅵ j	オリーブ黒色（5Y3/1）	粘土質シルト	粗砂・炭化物粒やや多量、貝少量
		Ⅵ k	黒色（5Y2/1）	粘土質シルト	粗砂やや多量、炭化物粒少量、貝少量
		Ⅵ l	黒色（10YR1.7/1）	粘土	地山（Ⅸ層）小ブロック少量、砂多量
		Ⅵ m	褐灰色（10YR4/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック少量、粗砂やや多量
		Ⅵ n	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）大ブロック多量、粗砂少量
SK51	A-A'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	小礫（X層）やや多量 【埋土】
SK52		2	暗褐色（10YR3/3）	粘土質シルト	小礫（X層）・地山（Ⅸ層）小ブロック多量 【埋土】
SX205		3	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）ブロック多量、スクモ多量、火山灰？ブロック多量 【堆積土】
SK75		4	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	砂少量 【埋土】
SK74		5	黒褐色（10YR2/3）	シルト	砂わずか 【埋土】
SK76	B-B'	1	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック多量 【埋土】
SK77		2	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック少量 【埋土】

第119図　D-57・74区　断面図

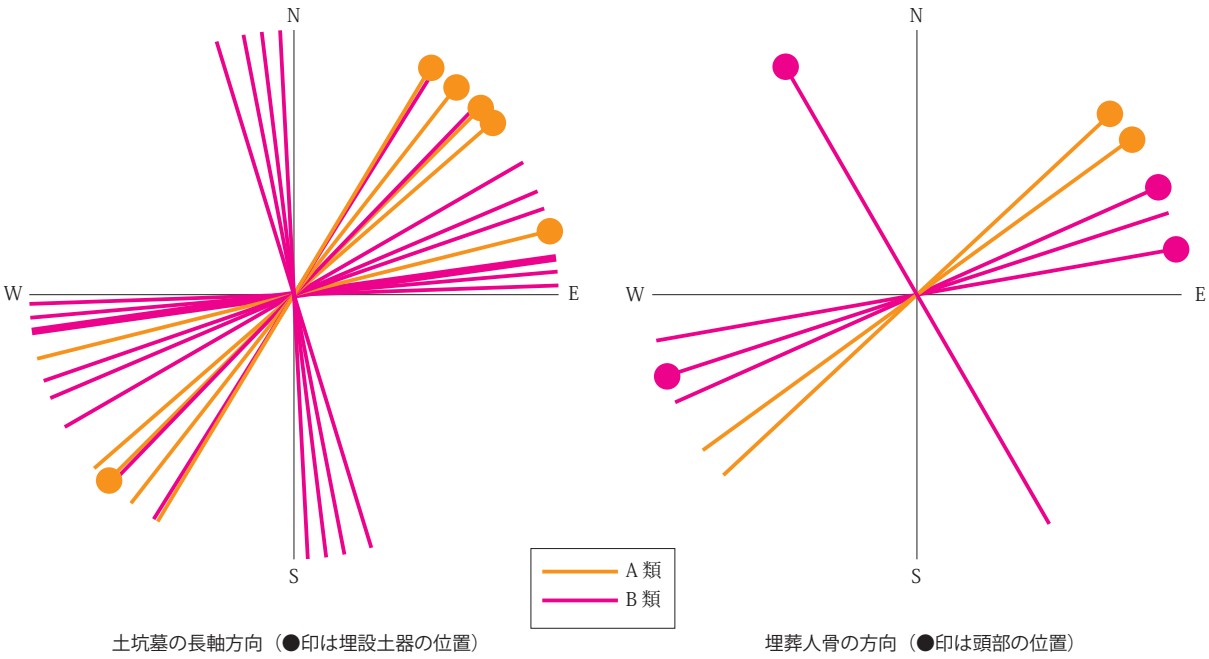
動することも判明した。

平面･垂直分布以外では､土坑墓の長軸方向および埋葬人骨の方向･頭部の位置に差異が認められる。A 類は土坑墓の長軸方向が N-31° -E ～ E-14° -N の範囲に収斂し、埋設土器の位置も大部分が北東～東に位置するが、B 類は長軸方向が N-17° -W ～ E-2° -N とより広範囲に分布する。また、方向が計測できた埋葬人骨についても同様の傾向を示す(第 120 図)。さらに､埋葬人骨の頭部の位置を見ると、A 類は北～北東～東に位置するが、B 類は北～北西～西に位置するものが多くなる（第 14 表)。

以上から､本遺跡における土坑墓は､A 類が晩期末葉（晩期 6b 期)､B 類が弥生時代前期（弥生 1 期）に位置づけられる(註7)。このことから､埋設土器を伴う A 類から埋設土器を伴わない B 類へと変化し、これに伴い墓域も西から東へ移動する現象を確認できる。さらに土坑の長軸方向や、埋葬人骨の頭部の位置も両者でそれぞれまとまり、異なった様相を示すという結果が得られた（第 15 表)。

なお､これらの土坑墓群の検出面よりも下層の南 4B 層群（晩期 2 期）や南 3 層群（晩期 3 ～ 4b 期）からも人骨破片がわずかに出土しており、南斜面下層にも土坑墓が存在していた可能性がある。

ここで、完掘した、あるいは遺構ごと切り取った土坑墓について個別に述べる。



土坑墓の長軸方向（●印は埋設土器の位置）　　埋葬人骨の方向（●印は頭部の位置）

第120図　土坑墓の方向

類型 / 位置	北	北東	東	南西	西	北西	不明	計
A 類	1	4	1		1		3	10
B 類	3	1	2	1	5	1		13
計	4	5	3	1	6	1	3	23

第14表　埋葬人骨の頭部の位置

類型	埋設土器	平面分布	検出面	時期	長軸方向	埋葬人骨の頭部位置
A 類	あり	墓域西側	Ⅵ b 層（南 2A）	晩期 6b	北東～東	北～北東～東が多い
B 類	なし	墓域東側	Ⅵ a 層（南 1）	弥生 1	北西～東	北～北西～西が多い

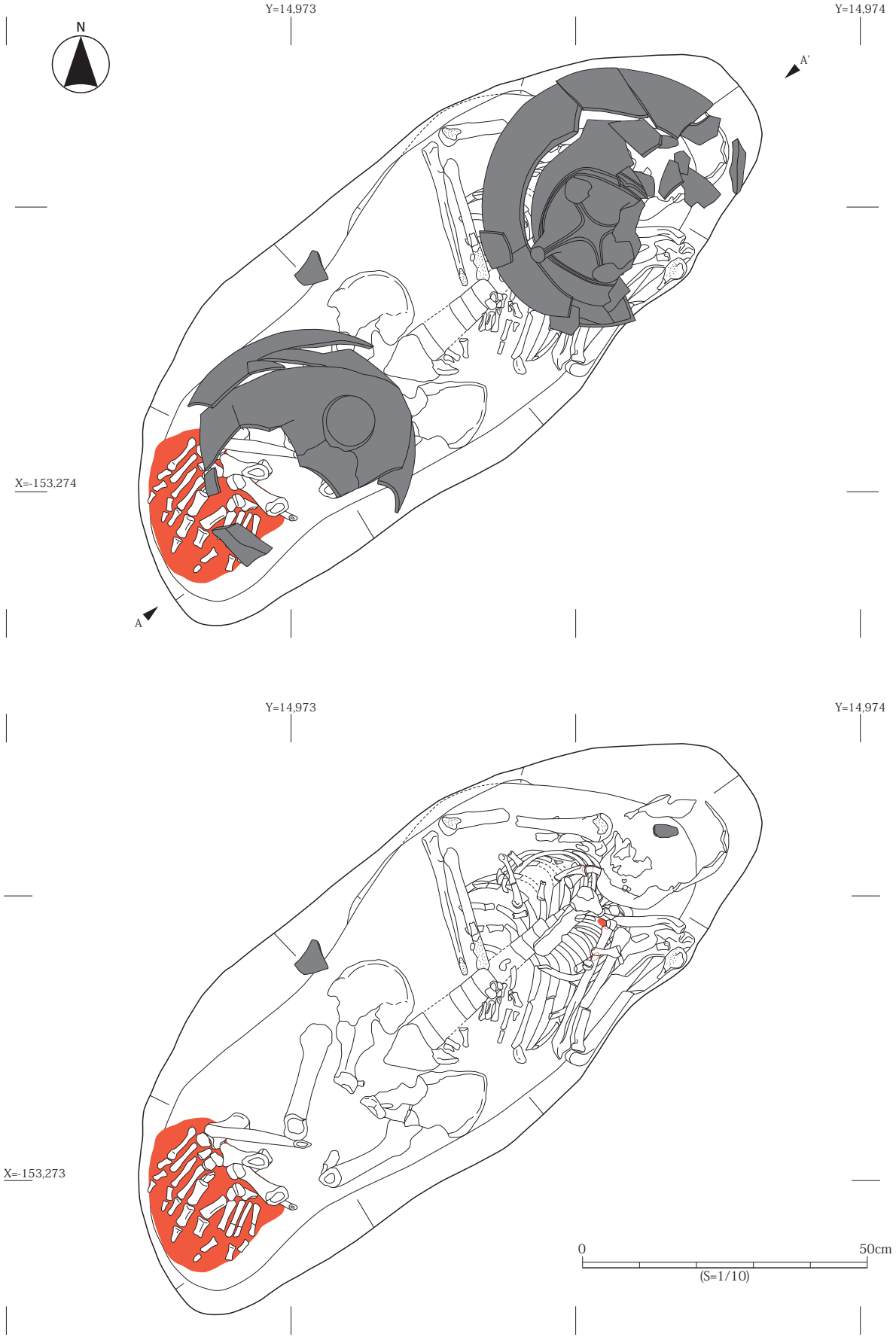
第15表　土坑墓の特徴

【SK44 土坑墓】

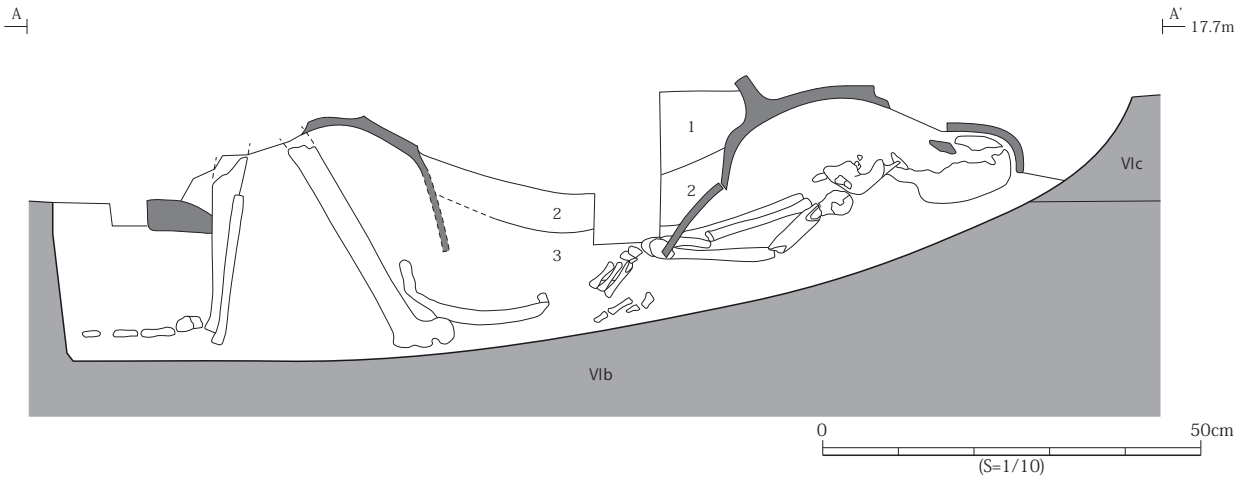
D-56 区東側の南に緩やかに傾斜する遺物包含層上で検出した（第 121 図）。検出面はⅥ b 層（南 2A 層群）で、遺体の頭部から胸部にかけて、また脚部に土器を伏せて埋葬した土坑墓である。平面形は長径 133cm ×短径 55cm の長楕円形を呈する。断面形は皿形～逆台形を呈し、底面がほぼ平坦で、頭部側が緩やかに立ち上がり、脚部側が急に立ち上がる。残存する深さが 32cm ある。埋土は 3 層確認し、下部は地山（Ⅸ層）粒を少量含む緑黒色砂質シルト、上部は地山（Ⅸ層）ブロックを多く含む黒色や黒褐色を呈する粘土質シルトで埋め戻されている。

被葬者は、40 歳前後またはそれ以上の成年～熟年の男性 1 名である（鈴木　2014）。遺体の頭部は北東に位置し、東で 36° 北に偏する。体幹骨は北東から南西に並ぶ。仰臥屈葬位で、上肢の左肢は胸部に手を当てるかたちで強く屈曲し、右肢は腹部に手を当てるかたちで屈曲している。下肢は左右両肢を揃えて膝を立てるかたちで屈曲する。胸部付近ではわずかに、足先では広範囲に赤色顔料が残存している。遺体の上には土器が 2 個体伏せられており、頭部から胸部にかけて上下対向のπ字文が施された四脚付鉢（第 124 図 1）、脚部にπ字文が施された鉢（同図 2）がある。なお、埋葬遺体について、放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,500 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 766 ～ 568calBC となり、縄文時代晩期中葉から後葉頃の年代値（小林　2019）が得られた。

埋葬遺体や埋設土器以外では、埋土から、羊歯状の突起をもつ深鉢（第 123 図 1）や、円盤状土製品（同図 2）、石錐（同図 3）、石皿、磨石、石棒、剥片などが出土している。

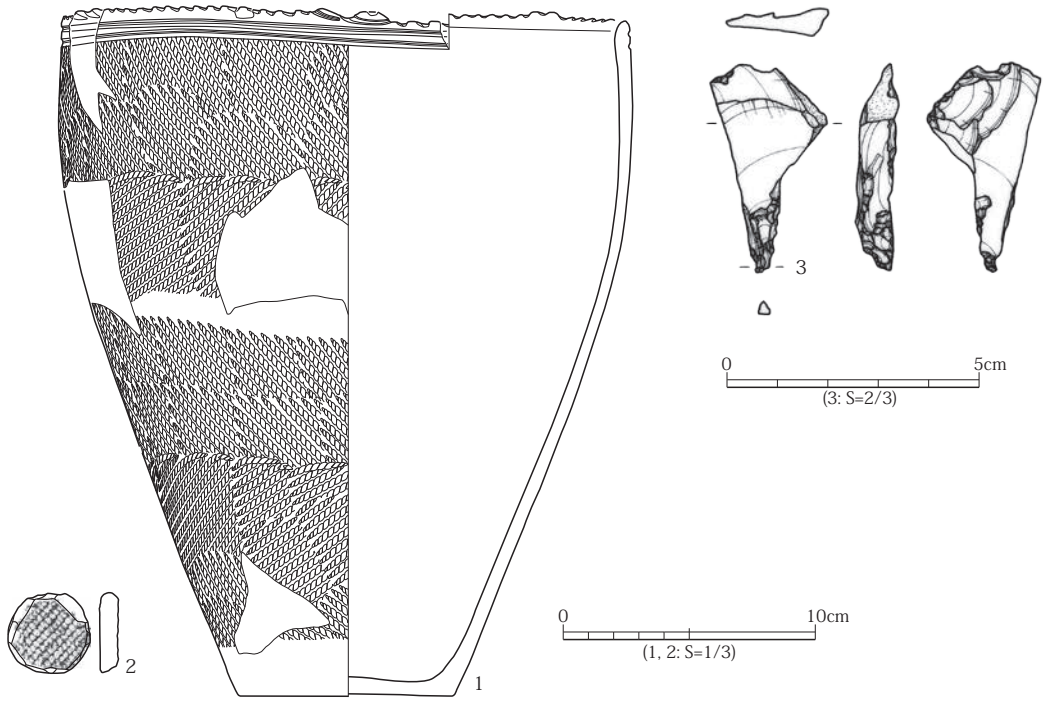


第121図　SK44土坑墓　平面図　（上：検出時　下：埋設土器取り上げ後）



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
SK44	A-A'	1	黒褐色（10YR2/3）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック多量 【埋土】
		2	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）ブロックやや多量 【埋土】
		3	緑黒色（5G2/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）粒少量 【埋土】

第122図　SK44土坑墓　断面図

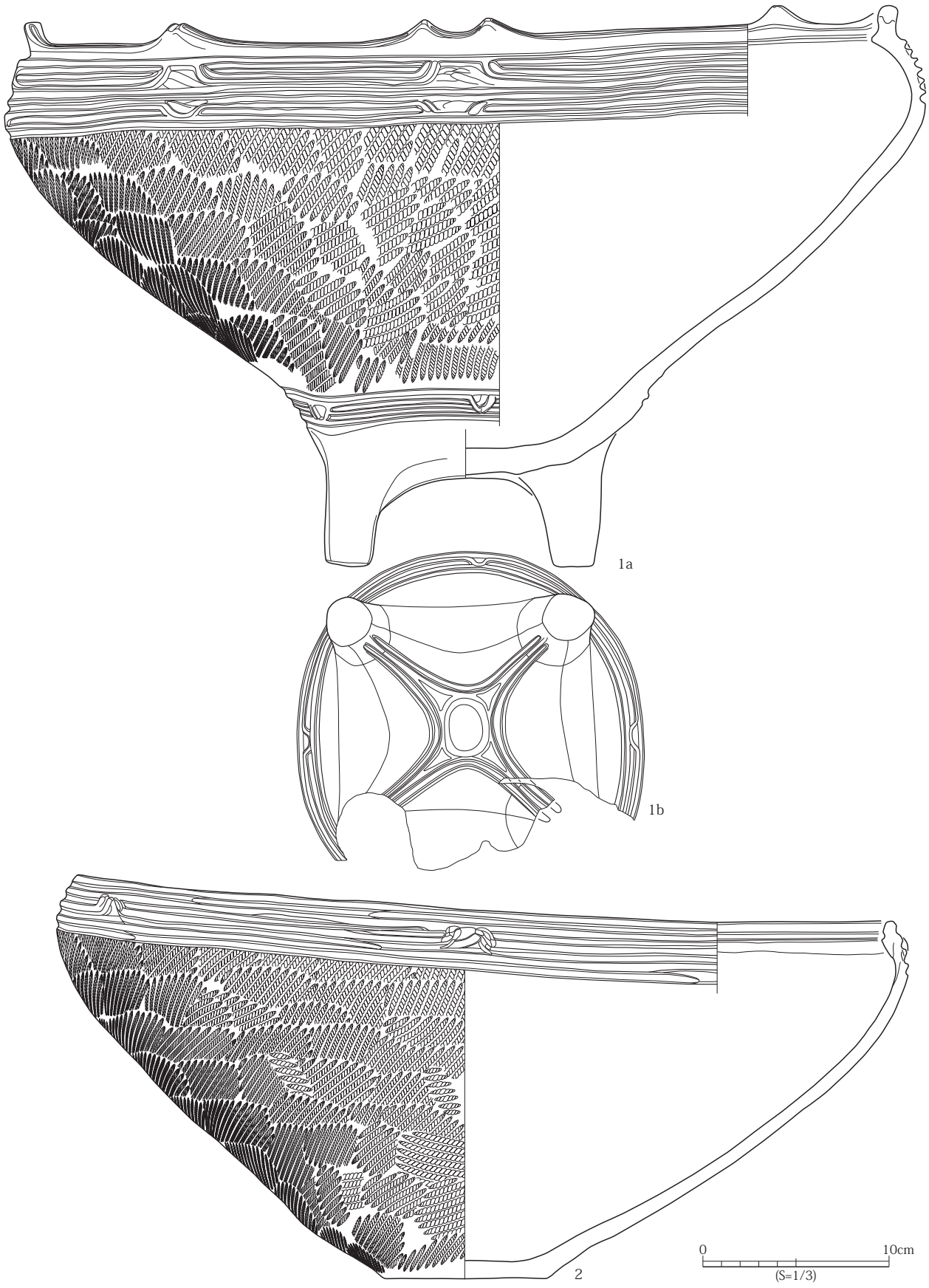


1: 深鉢 / SK44・埋土 / 58図1, 2: 円盤状土製品 / SK44・埋土 / 58図2, 3: 石錐 / SK44・2層 / 58図3 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第123図　SK44土坑墓　出土遺物

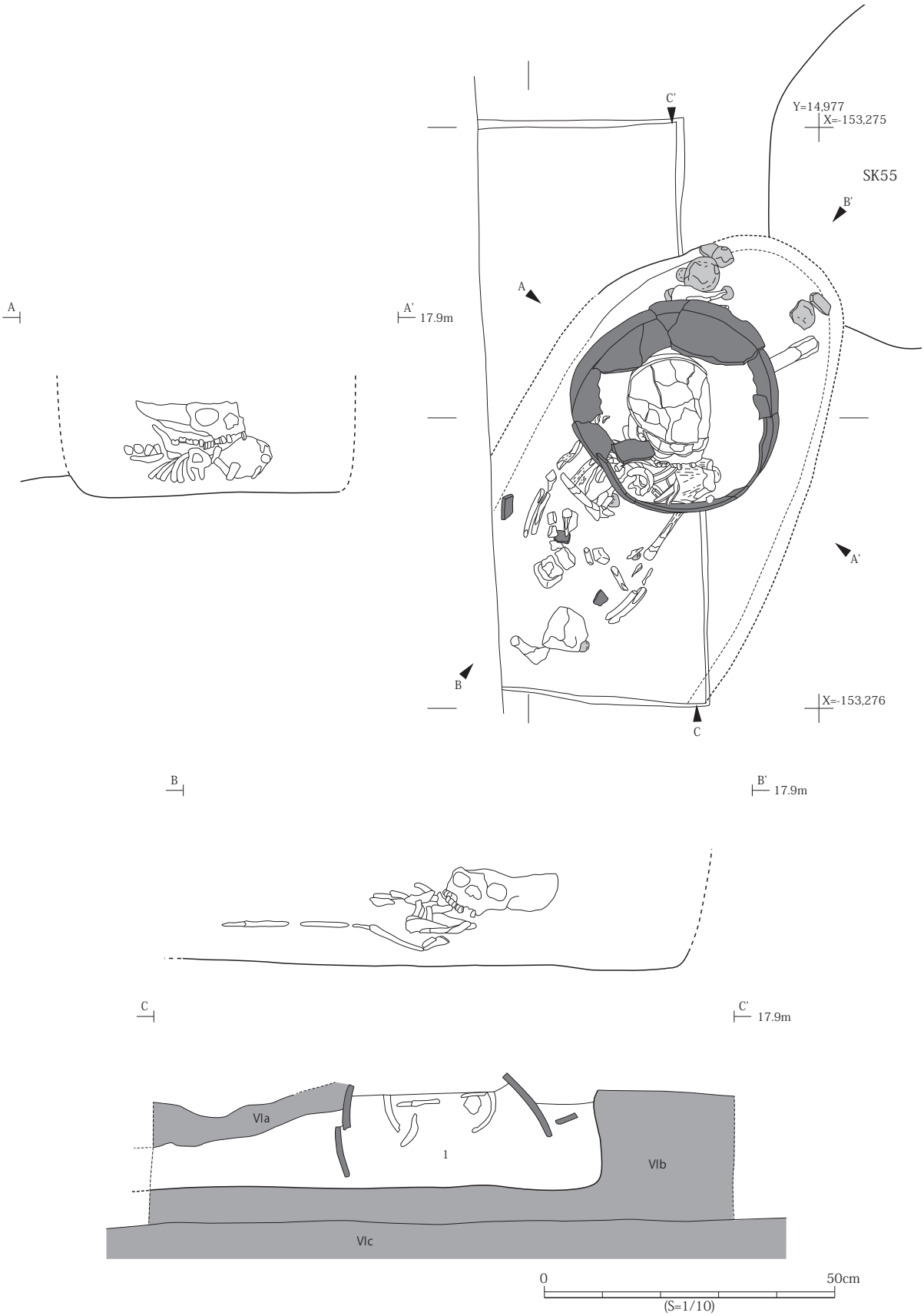
【SK53 土坑墓】

D-57 区西側の南に緩やかに傾斜する遺物包含層上で検出した（第 125 図）。検出面はⅥ b 層（南 2A 層群）で、Ⅵ a 層（南 1 層群）に覆われる。遺体の頭部から胸部にかけて土器を伏せて埋葬した土坑墓である。SK55 埋葬犬骨と重複し、これより新しい。平面形は長径 91cm 以上×幅 53cm 以上の長楕円形を呈する。断面形は、底面がほぼ平坦で、壁が急に立ち上がる箱形を呈し、残存する深さが 20cm ある。埋土は 1 層確認し、X 層起源の小礫や炭化物粒を多く含む黒褐色粘土質シルトで埋め



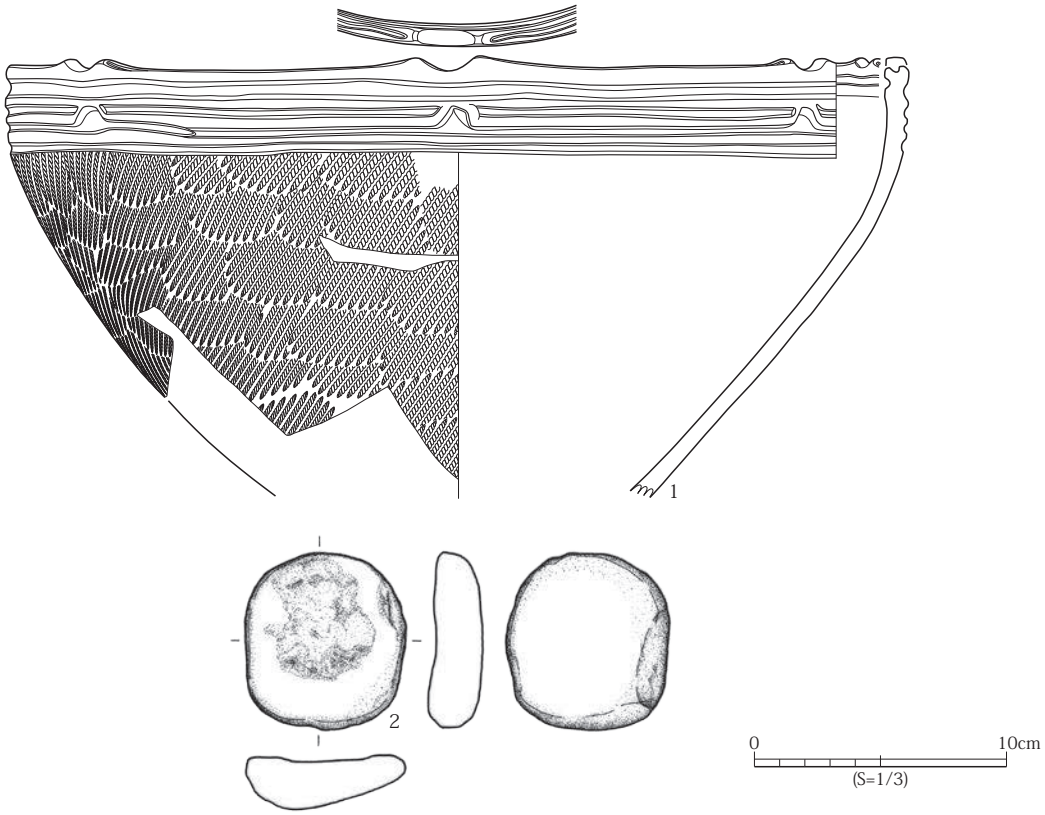
1: 四脚付鉢 / SK44・埋設土器 / 57図1, 2: 鉢 / SK44・埋設土器 / 57図2（宮城県文化財調査報告書第234集）

第124図　SK44土坑墓　埋設土器



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
SK53	A-A'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	小礫（X層）・炭化物粒多量 【埋土】

第125図　SK53土坑墓　平面図・断面図



1: 鉢 / SK53・埋設土器 / 67図1, 2: 磨石 / SK53・埋土 / 67図2 （宮城県文化財調査報告書第234集）

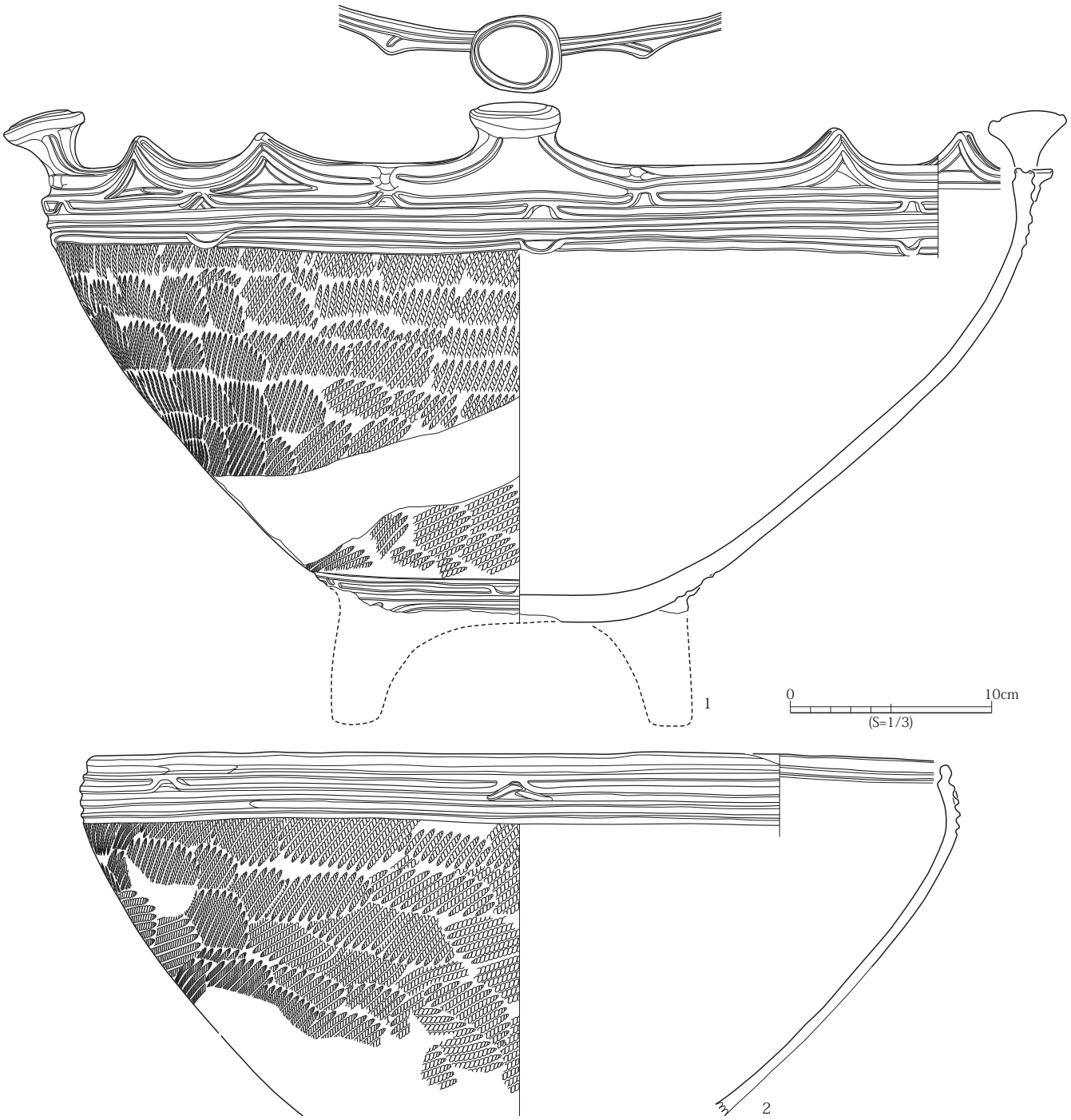
第126図　SK53土坑墓　埋設土器・出土遺物

戻されている。

被葬者は、6 ～ 7 歳程度と推定される未成人 1 名である（鈴木　2014)。骨からの性別推定は不可能であるが、歯冠サイズから男性の可能性がある。頭部は北東に位置し、東で 43° 北に偏する。体幹骨は北東から南西に並ぶ。仰臥屈葬位である。埋葬骨の遺存状態がきわめて不良であり、胸部付近や下半身が攪乱により壊されているため、上肢および下肢の姿勢は不明である。遺体の上には、頭部から胸部にかけてπ字文が施された鉢（第 126 図 1）が伏せられている。なお、埋葬遺体について、放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,050 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 91 ～ 8calBC となり、弥生時代中期頃の年代値（小林　2009）が得られた。遺構の検出層位や埋設土器の型式と比べて新しい年代値となっている。

埋葬遺体や埋設土器以外では、埋土から、不定形石器や石皿、磨石（第 126 図 2)、剥片などが出土した。

上記 2 基（SK44・53）の土坑墓はいずれも埋設土器を伴うもの（A 類）である。これら以外に SK47 や SK48 などで埋設土器を検出して取り上げた。SK47 は、上下対向のπ字文が施され、方形突起に円盤状飾りの付く四脚付鉢（第 127 図 1)、SK48 は、π字文が施された鉢（同図 2）がそれぞれ埋設されている。



1: 四脚付鉢 / SK47・埋設土器 / 63図1, 2: 鉢 / SK48・埋設土器 / 63図2（宮城県文化財調査報告書第234集）

第127図　SK47・48土坑墓　埋設土器

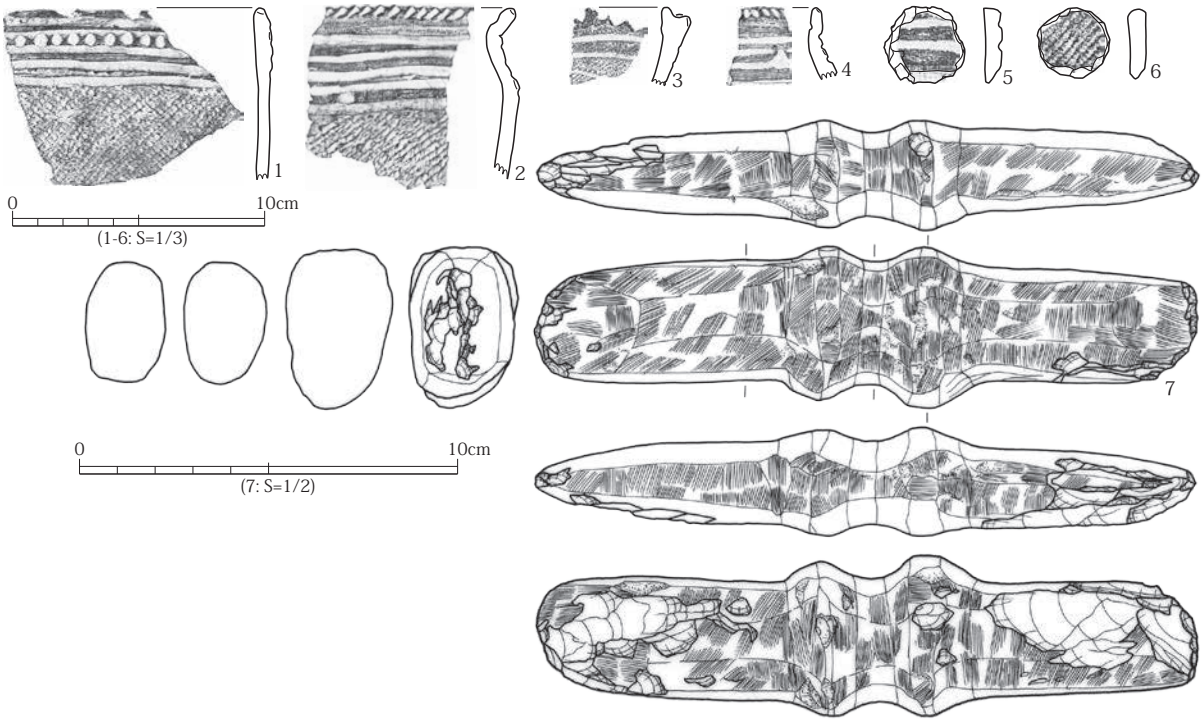
【SK46 土坑墓】

D-56 区東側の南に緩やかに傾斜する遺物包含層上で検出した（第 128 図）。検出面はⅥｂ層（南 2A 層群）である。平面形は長径 75cm ×短径 66cm の円形を呈する。断面形は、底面が緩やかにくぼみ、壁が緩やかに立ち上がる皿形を呈し、残存する深さが 25cm ある。埋土は 4 層確認し、下部は地山（Ⅸ層）ブロックを多く含む黒青色や暗青灰色を呈する粘土質シルト、上部は地山（Ⅸ層）ブロックをやや多く含む黒色やにぶい黄褐色を呈する粘土質シルトで埋め戻されている。

被葬者は、11 歳程度の未成人 1 名である（鈴木　2014）。骨からの性別推定は不可能であるが、歯冠サイズは女性の大きさに近い。土坑の北側に埋葬され、頭部は東に位置し、東で 24° 北に偏する。体幹骨は東から西に並ぶ。仰臥屈葬位で、上肢の左右両肢は胸部の前で交差させるかたちで強く屈曲している。下肢は左右両肢を揃えて膝を立てるかたちで体幹の右側に強く屈曲する。上肢の右肢の手首付近に赤色顔料が残存している。土器は埋設されていない。なお、埋葬遺体について、放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,320 ± 20yrBP、暦年較正年代（1 σ）が 402 ～

調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
SK46	A-A'	1	にぶい黄褐色（10YR5/4）	粘土質シルト	地山（IX層）ブロック・砂粒やや多量、炭化物粒少量
		2	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（IX層）ブロック・砂粒やや多量、炭化物粒少量
		3	暗青灰色（5BG4/1）	粘土質シルト	地山（IX層）ブロック・砂粒多量、炭化物粒少量
		4	黒青色（5BG2/1）	粘土質シルト	地山（IX層）ブロック・砂粒やや多量、炭化物粒少量

第128図　SK46土坑墓　平面図・断面図



1: 深鉢 / SK46・埋土 / 60図1, 2: 深鉢 / SK46・埋土 / 60図2, 3: 皿 / SK46・2層 / 60図3, 4: 深鉢か / SK46・埋土 / 60図4,
5: 円盤状土製品 / SK46・2・3層 / 60図5, 6: 円盤状土製品 / SK46・埋土 / 60図6, 7: 独鈷石 / SK46・埋土 / 60図7
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第129図　SK46土坑墓　出土遺物

387calBC となり、弥生時代前期頃の年代値（小林　2019）が得られた。

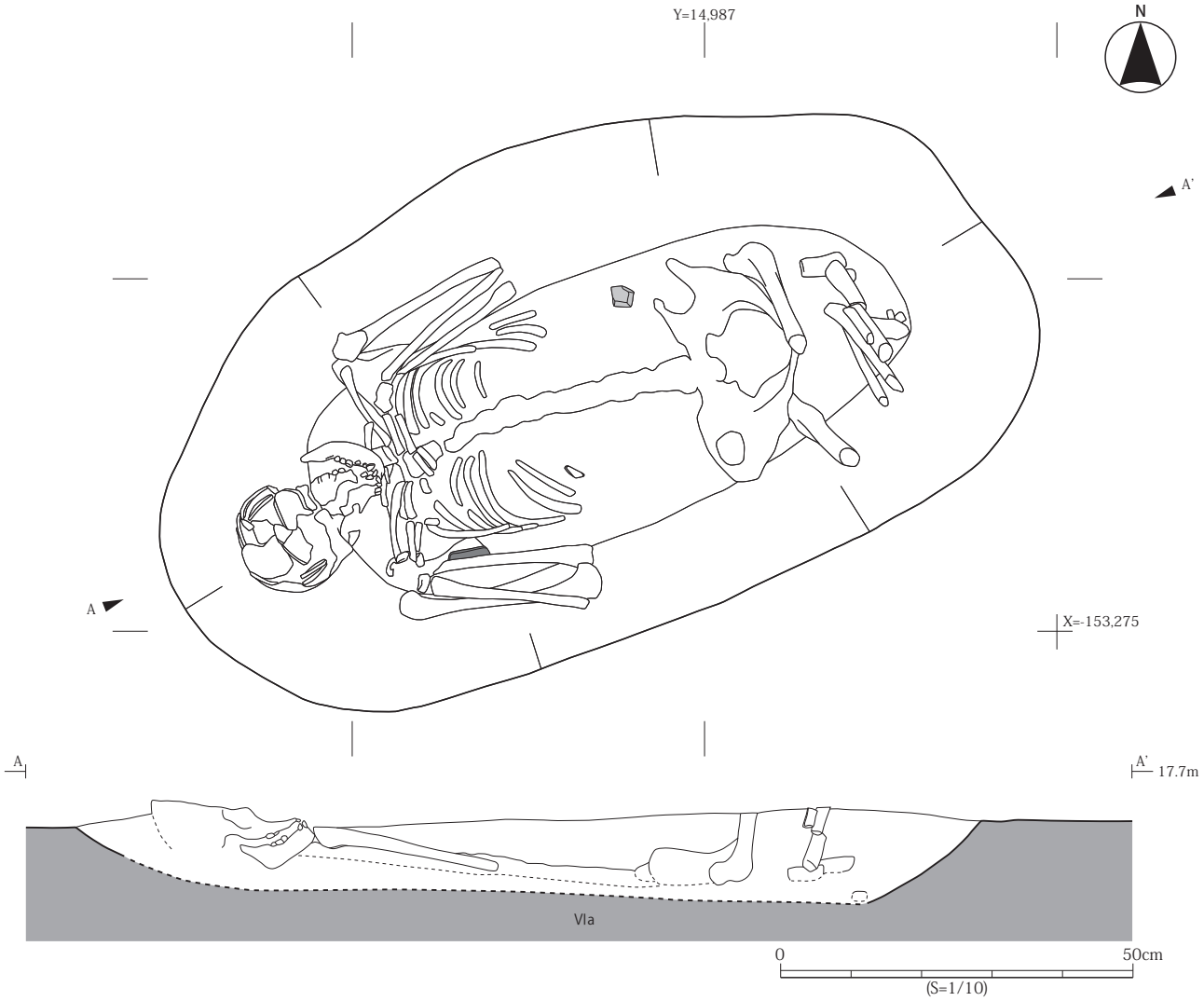
埋葬遺体以外では、埋土から、雲形文が施された皿（第 129 図 3）や、π字文が施された深鉢（同図 4）、円盤状土製品（同図 5・6）、不定形石器、独鈷石（同図 7）、剥片などが出土している。独鈷石はほぼ完形であり、土坑の南東部に位置し埋葬遺体からやや離れているが、副葬品の可能性が考えられる。

【SK60 土坑墓】

D-57 区東側の南に緩やかに傾斜する遺物包含層上で検出した（第 130 図）。検出面はⅥａ層（南 1 層群）である。平面形は長径 129cm ×短径 71cm の長楕円形を呈する。断面形は、底面がほぼ平坦で、壁が緩やかに立ち上がる浅い皿形を呈し、残存する深さが 15cm ある。埋土は 1 層確認し、X 層起源の小礫や地山（Ⅸ層）ブロック、炭化物粒をやや多く含む黒褐色粘土質シルトで埋め戻されている。

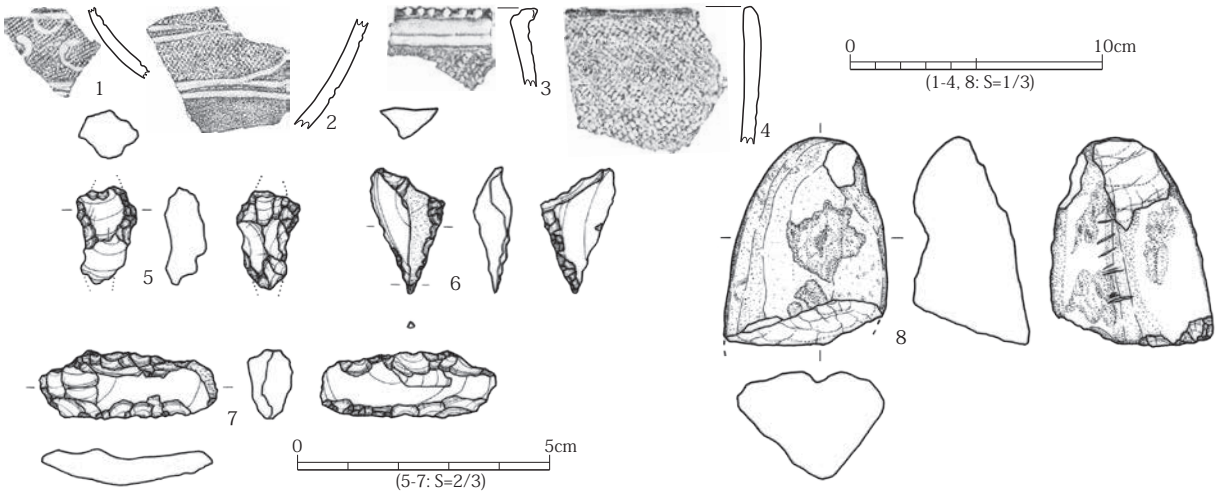
被葬者は 20 歳から 40 歳程度の成人 1 名である（鈴木　2014）。骨からの性別推定は不可能であるが、歯の大きさから男性の可能性がある。頭部は西に位置し、東で 18° 北に偏する。体幹骨は西から東に並ぶ。仰臥屈葬位で、上肢の左右両肢は胸部に手を当てるかたちで強く屈曲している。下肢は左右両肢を揃えて膝を立てるかたちで強く屈曲する。土器は埋設されていない。

本遺構の埋葬遺体について、放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,390 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 479 ～ 402calBC となり、縄文時代晩期末葉から弥生時代前



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
SK60	A-A'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	小礫（X層）・地山（IX層）小ブロック・炭化物粒やや多量、スクモ少量 【埋土】

第130図　SK60土坑墓　平面図・断面図



1: 注口土器 / SK60・埋土 / 71図1, 2: 鉢 / SK60・埋土 / 71図2, 3: 深鉢 / SK60・埋土 / 71図3, 4: 深鉢 / SK60・埋土 / 71図4,
5: 石錐 / SK60・埋土 / 71図5, 6: 不定形石器 / SK60・埋土 / 71図6, 7: 不定形石器 / SK60・埋土 / 71図7, 8: 凹石 / SK60・埋土 / 71図8
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第131図　SK60土坑墓　出土遺物

期頃の年代値（小林　2019）が得られた。

埋葬遺体以外では、埋土から、雲形文が施された鉢（第 131 図 2）や注口土器（同図 1）、深鉢（同図 3・4）、石錐（同図 5）、不定形石器（同図 6・7）、磨石、凹石（同図 8）、剥片などが出土している。

なお、上記 4 基以外の土坑墓 4 基（SK74・76・77・78）についても、それぞれ埋葬遺体を対象に放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施している。埋設土器を伴う SK78 では埋葬遺体（脛骨）を対象に実施し、^{14}C 年代が 2,580 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 794 ～ 774calBC となり、晩期中葉頃の年代値（小林　2019、以下同）が得られた。埋設土器を伴わない土坑墓 1 基（SK74）の埋葬遺体（脛骨）では、^{14}C 年代が 2,550 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 794 ～ 596calBC となり、縄文時代晩期中葉から後葉頃の年代値が得られている。埋設土器の共伴が不明な 2 基（SK76・77）の埋葬遺体については、SK76（大腿骨）では ^{14}C 年代が 2,530 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 776 ～ 573calBC となり、縄文時代晩期中葉から後葉頃の年代値が得られ、SK77（大腿骨）では ^{14}C 年代が 2,380 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 476 ～ 397calBC となり、縄文時代晩期末葉から弥生時代前期頃の年代値が得られた。

これらの年代測定の結果では、特に SK76・77・78 で土坑墓の新旧関係と埋葬遺体の年代値が整合しない。ただし、これらはコラーゲン回収率や炭素・窒素の量がやや低くあるいは低いことから、注意を要するあるいは信頼性が高くない結果となっている（加速器分析研究所　2021d）。

④埋葬犬骨

埋葬犬骨は D-54 区（SK63）、D-57 区（SK55）、D-59 区（SK80）でそれぞれ 1 基ずつ、計 3 基検出した。なお、SK63 および SK80 が 1 体ずつの単独葬、SK55 が 3 体合葬（同時埋葬）である。なお、SK55 については、土壌ごと切り取り、東北歴史博物館で保存処理を行っている。なお、諸属性を第 16 表にまとめた。

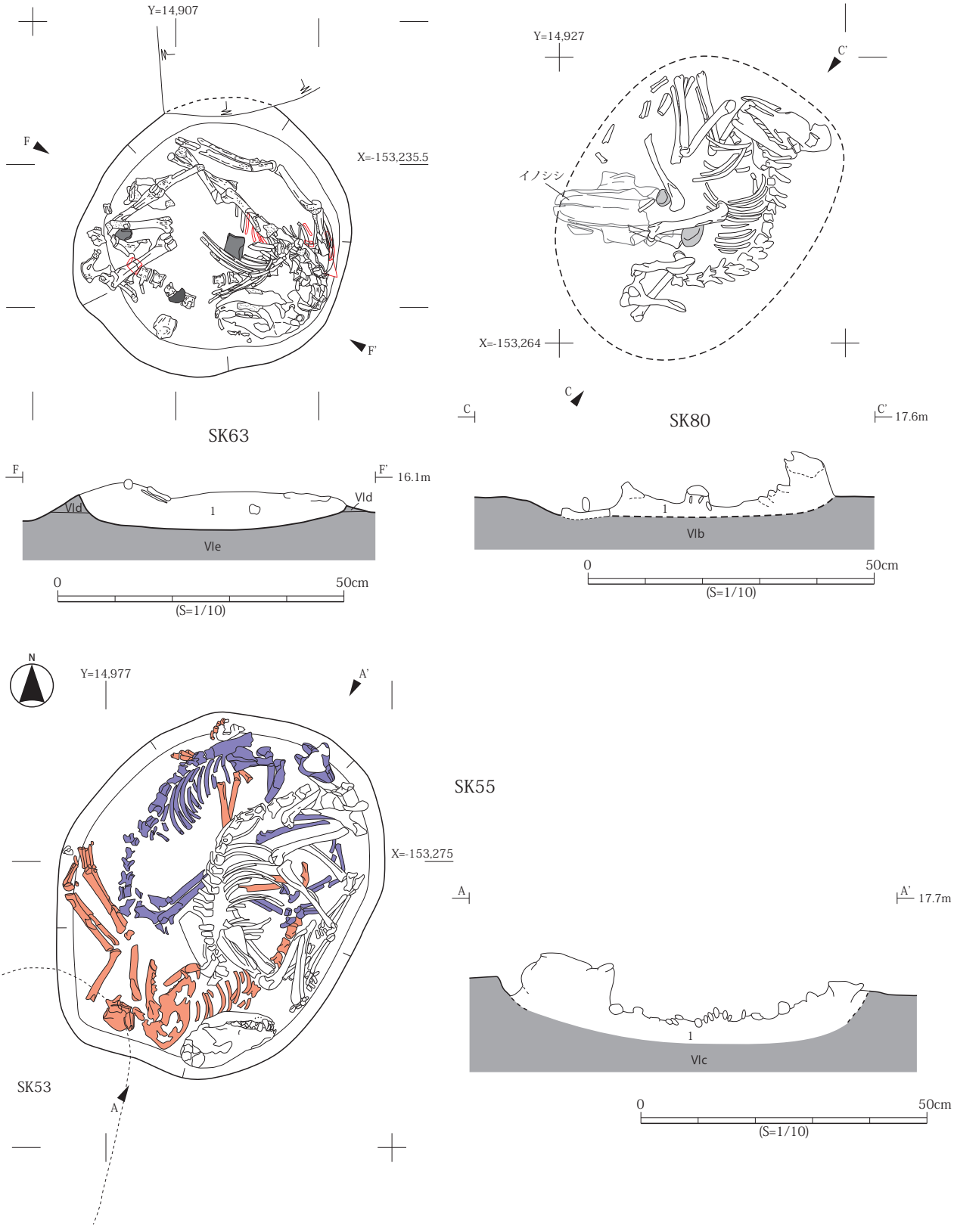
遺構検出面および形成時期は、SK63 が南 5 層群であり晩期前葉（晩期 2 期）、SK55 が南 3 層群であり晩期後葉（晩期 5 期）、SK80 が南 2A 層群であり晩期末葉（晩期 6b 期）とそれぞれ推定される。ヒトの土坑墓と異なり分布は散漫で、時期もそれぞれ異なる結果となった。

【SK63 埋葬犬骨】

D-59 区南側の南に緩やかに傾斜する遺物包含層上で検出した（第 132 図）。検出面はⅦｄ層（南 5 層群）である。平面形は直径 50cm の円形を呈する。断面形は、底面がほぼ平坦で、壁が緩やかに立ち上がる浅い皿形を呈し、残存する深さが 8cm ある。埋土は 1 層確認し、土器や動植物遺存体を含む黒褐色粘土質シルトで埋め戻されている。

土坑には老犬が 1 体埋葬されている（古賀・富岡　2014）。左側を上にした姿勢で、頭部は背側に反転している。頭部は南に位置し東で 4° 北に偏している。椎骨が東から西へ並ぶ。前肢は後肢に向けて伸展させている。後肢の状態は不明である。

埋葬遺体以外では、埋土から、縄文土器深鉢や三叉文が施された土器、磨石、石核、剥片が出土し



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
SK63	F-F'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	植物中量　【埋土】
SK80	C-C'	1	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	地山（IX層）粒少量、炭化物粒わずか　【埋土】
SK55	A-A'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	小礫（X層）やや多量、地山（IX層）ブロック・炭化物粒少量　【埋土】

第132図　東7地点　埋葬犬骨　平面図・断面図

第16表　東7地点　土坑墓・埋葬犬骨一覧

遺構名	検出面			埋葬遺体	埋葬姿勢（ヒトのみ）	埋設土器（位置）	平面形	断面形	大きさ (cm)	深さ (cm)	方向			出土遺物	備考
	調査区	層位	大別層								土坑	遺体	頭部位置		
SK44	D-56 東	Ⅵb	南 2A	ヒト 1	仰臥屈葬	四脚付鉢（頭部）、鉢（脚部）	長楕円形	皿形～逆台形	133 × 55	32	N-45-E	E-36-N	NE	縄文土器四脚付鉢（埋設土器）・鉢（埋設土器）・深鉢、円盤状土製品、石錐 1、石皿 2、磨石 2、石棒 1、剥片 12	
SK46	D-56 東	Ⅵb	南 2A	ヒト 1	仰臥屈葬	なし	円形	皿形	75 × 66	25	E-30-N	E-24-N	E	縄文土器深鉢・浅鉢、円盤状土製品、不定形石器 1、独鈷石 1、剥片 4	
SK47	D-56 東	Ⅵb	南 2A	ヒト 1 か	-	四脚付鉢（頭部か）	長楕円形	逆台形	128 × 67	26	E-41-N	-	NE か	縄文土器四脚付鉢（埋設土器）、縄文土器	
SK48	D-56 東	Ⅵb	南 2A	ヒト 1	仰臥屈葬か	鉢（頭部）	長楕円形	逆台形	125 × 55	17	N-38-E	-	NE	縄文土器四脚付鉢（埋設土器）、剥片 1	
SK49	D-56 東	Ⅵb	南 2A	ヒト 1 か	-	鉢（不明）	-	逆台形	幅 57 以上	25	-	-	-		断面での検出
SK51	D-57 西	Ⅵc	南 3	ヒト 1 か	-	鉢（不明）	-	逆台形	幅 38 以上	22	-	-	-	縄文土器鉢（埋設土器）	断面での検出。SK52 → SK51
SK52	D-56 東	Ⅵb	南 2A	ヒト 1 か	-	鉢（不明）	楕円形	皿形	108 以上× 19 以上	18	-	-	-		SK52 → SK51
SK53	D-57 西	Ⅵb	南 2A	ヒト 1	仰臥屈葬	鉢（頭部）	長楕円形	箱形	91 以上× 53 以上	20	N-31-E	E-43-N	NE	縄文土器鉢（埋設土器）、不定形石器 1、石皿 1、磨石 1、剥片 5	
SK54	D-57 西	Ⅵa	南 1	ヒト 1	左横臥屈葬	なし	長楕円形	-	141 × 61	-	E-8-N	-	W	縄文土器深鉢・浅鉢、磨石 1	
SK55	D-57 西	Ⅵc	南 3	イヌ 3	-	なし	楕円形	皿形	67 × 53	13	E-44-N	(N-34-E) → (N-27-E) → (N-26-E)	S → N → S	縄文土器	
SK56	D-57 東	Ⅵa	南 1	ヒト 1	仰臥屈葬	なし	楕円形	-	110 × 78	-	E-23-N	-	W	縄文土器	
SK57	D-57 東	Ⅵa	南 1	ヒト 1	-	なし	隅丸長方形	-	128 × 61 以上	-	E-8-N	-	W	縄文土器鉢・皿	
SK58	D-57 東	Ⅵa	南 1	ヒト 1	仰臥屈葬	なし	隅丸長方形	-	111 × 66	-	E-5-N	E-10-N	E	なし	
SK59	D-57 東	Ⅵa	南 1	ヒト 1	-	なし	長楕円形	-	103 × 61	-	N-32-E	-	SW	なし	
SK60	D-57 東	Ⅵa	南 1	ヒト 1	仰臥屈葬	なし	長楕円形	皿形	127 × 71	15	E-19-N	E-18-N	W	縄文土器深鉢・浅鉢・注口土器、石錐 1、不定形石器 2、磨石 1、凹石 1、剥片 9	
SK61	D-57 東	Ⅵa	南 1	ヒト 1	仰臥屈葬か	なし	長楕円形	-	114 × 58	-	E-2-N	-	W	なし	
SK63	D-59 南	Ⅵd	南 5	イヌ 1	-	なし	円形	皿形	径 50	8	E-20-N	E-4-N	S	縄文土器深鉢、磨石 1、石核 1、剥片 2	
SK67	D-74 東	Ⅵb	南 2A	ヒト 1 か	-	鉢（頭部か）	長楕円形	-	117 × 57	16 以上	E-14-N	-	E か	縄文土器壺	
SK68	D-74 東	Ⅵa	南 1	ヒト 1	-	不明	長楕円形	-	89 以上× 59 以上	-	N-27-W	-	NW	なし	
SK69	D-74 東	Ⅵa	南 1	ヒト 1	-	不明	隅丸長方形	-	74 以上× 55 以上	-	N-10-W	-	N	なし	SK70 → SK69
SK70	D-74 東	Ⅵa	南 1	ヒト 1	-	なし	楕円形	-	85 × 58	-	N-11-W	-	N	なし	SK70 → SK69
SK71	D-74 西	Ⅵa	南 1	ヒト 1	仰臥屈葬	なし	長楕円形	-	77 以上× 63	-	N-17-W	N-30-W	NW	縄文土器深鉢・浅鉢	SX205 → SK71
SK72	D-74 西	SX205 堆積土	-	ヒト 1	-	なし	楕円形	-	76 以上× 67	-	N-7-W	-	N	縄文土器深鉢・浅鉢、磨石 1	SX205 → SK72
SK73	D-74 西	Ⅵa	南 1	ヒト 1	-	なし	楕円形	-	74 以上× 66	-	N-3-W	-	N	縄文土器深鉢・皿、剥片 1	
SK74	D-74 南	Ⅵb	南 2A	ヒト 1	-	なし	-	逆台形	54 以上× 53	24 以上	N-44-E	-	NE	なし	
SK75	D-74 西	Ⅵc	南 3	ヒト 1	-	鉢（頭部）	楕円形か	逆台形	79 以上× 33 以上	16 以上	-	-	N		SK75 → SX205
SK76	D-57 東	Ⅵb	南 2A	ヒト 1	仰臥屈葬	不明	-	逆台形	44 以上× 58	34 以上	E-10-N	-	W	なし	SK77 → SK76
SK77	D-57 東	Ⅵb	南 2A	ヒト 1	-	不明	-	逆台形	41 以上× 37 以上	25 以上	-	-	W	縄文土器	SK77 → SK76 SK77 → SK78
SK78	D-57 東	Ⅵb	南 2A	ヒト 1	仰臥屈葬か	鉢（頭部）	長楕円形か	-	68 以上× 44 以上	27 以上	-	-	W	なし	SK77 → SK78
SK80	D-54 北	Ⅵb	南 2A	イヌ 1	-	なし	-	-	-	-	-	N-36-E	NE	縄文土器深鉢、剥片 2	掘り方不明

ている。

【SK80 埋葬犬骨】

D-54 区西側の南に緩やかに傾斜する遺物包含層上で検出した（第 132 図）。検出面はⅥb 層（南 2A 層群）である。平面形は不明であるが、埋葬骨は長軸 48cm、短軸 36cm の範囲に分布する。断面

形は、底面がほぼ平坦で、壁が緩やかに立ち上がる浅い皿形を呈する。埋葬骨の周囲に地山（Ⅸ層）粒や炭化物粒を少量含む黒褐色粘土質シルトが堆積しており、埋土とみられる。

埋葬遺体(1 体)は成～老犬である(古賀･富岡　2014)。左側を上にした姿勢で､頭部は北東に位置し､北で 36° 東へ偏する。椎骨が北東から南西へ並ぶ。前肢は強く屈曲し、後肢は軽く曲げた状態で前肢の方向に向く。

埋葬遺体以外では、埋土から縄文土器深鉢や剥片が出土している。

【SK55 埋葬犬骨】

D-57 区西側の南に緩やかに傾斜する遺物包含層上で検出した(第 132 図)。検出面はⅥc 層(南 3 層群)であり､SK53 土坑墓と重複し､これよりも古い。平面形は長径 67cm ×短径 53cm の楕円形を呈する。断面形は浅い皿形を呈するとみられ、底面がほぼ平坦で、壁が緩やかに立ち上がる。残存する深さは 13cm ある。埋土は 1 層確認し、X 層起源の小礫を多く含み、地山（Ⅸ層）ブロックや炭化物粒を少量含む黒褐色粘土質シルトで埋め戻されている。

土坑には若犬 1 体（3、第 132 図下段青)、若～成犬 1 体（1、同白)、成犬 1 体（2、同赤）の 3 体が埋葬されている（古賀・富岡　2014)。埋土の差異や掘削による遺体の人為的な破損が見られないことから、ほぼ同時に埋葬されたとみられる。埋葬の順序は 2 → 3 → 1 である。2 は右側を上にした姿勢で、頭部は南に位置し、頭部を背側に反転させて胸部へ乗せている。椎骨は南西から北東へ並ぶ。前肢・後肢ともに伸展させている。3 は右側を上にした姿勢で、頭部は北東に位置し、椎骨が北東から南西へ並ぶ。前肢はやや屈曲し、後肢は前肢の先に向けて伸展させている。1 は左側を上にした姿勢で、頭部は南に位置し、椎骨が南から北東へ屈曲するように並ぶ。前肢は強く屈曲し、後肢を胸部へ伸ばしている。

埋葬遺体以外では、埋土から縄文土器が出土している。

第17表　東7地点　土坑一覧

遺構名	検出面			平面形	断面形	大きさ (m)	深さ (m)	堆積土	出土遺物	備考
	調査区	層位	大別層							
SK41	D-68 北	Ⅸ	-	円形	皿形	1.4 × 1.2 以上	0.2	自然	縄文土器深鉢、磨石 1	
SK64	D-59 南	Ⅵd	南 5	楕円形	皿形	0.8 以上× 0.6 以上	0.2	自然	縄文土器深鉢、磨石 2、石核 1	
SK65	D-59 南	Ⅵd	南 5	円形	皿形	0.8 × 0.7	0.1	自然	縄文土器深鉢、石鏃 1	
SK66	D-59 南	Ⅵd	南 5	円形	皿形	0.9 × 0.8	0.2	自然	縄文土器深鉢・壺、不定形石器 1、石皿 1、剥片 4	
SK84	D-78 西	Ⅵb	南 3	楕円形か	-	1.0 以上× 0.7 以上	-	自然		
SK92	D-62	Ⅵa	北 1A	不整円形	皿形	3.1 × 2.6 以上	0.4	自然	縄文土器深鉢・台付鉢・四脚付鉢・浅鉢・壺、円盤状土製品、土偶、石鏃 2、石篦 1、楔形石器 1、不定形石器 1、石皿 2、磨石 5、剥片 38	
SK93	D-68 北	Ⅸ	-	不整円形か	皿形	1.5 以上× 0.9 以上	0.2	自然		
SK94	D-59 南	Ⅵc	南 3	楕円形か	逆台形	0.8 以上× 0.8 以上	0.5	自然		
SK95	D-53 北	Ⅵa	南 1	円形	-	径 0.4	-	自然		
SK96	D-53 北	Ⅵa	南 1	楕円形	-	0.8 × 0.4	-	自然		SK97 → SK98 → SK96
SK97	D-53 北	Ⅵa	南 1	楕円形か	-	0.4 以上× 0.3 以上	-	自然		SK97 → SK98 → SK96
SK98	D-53 北	Ⅵa	南 1	円形	-	径 0.3	-	自然		SK97 → SK98 → SK96
SK101	D-53 北	Ⅸ	-	円形か	-	径 0.3	-	自然		
SK102	D-53 北	Ⅵb	南 2A	不整円形か	-	径 0.4	-	自然		SK103 → SK102
SK103	D-53 北	Ⅸ	-	不整円形か	-	径 0.4 以上	-	自然		SK103 → SK102
SK104	D-79 東	Ⅸ	-	円形	皿形	0.7 × 0.6	0.2	自然	磨石 1	SK104 → SK105
SK105	D-79 東	Ⅵb	南 2B	円形	皿形	径 0.7	0.2	自然	剥片 2	SK104 → SK105

⑤土坑

東C丘陵頂部および南斜面では、土坑を16基検出した。また、北斜面で1基検出し、東7地点では合計17基検出している。土坑の諸属性を第17表にまとめた。

(2) 遺物包含層と出土遺物

東C丘陵西端部南斜面の遺物包含層（Ⅵ層）は、D-45・53・54・55・56・57・59・68・69・74・75・78・79・80区で検出した。その範囲は、東西約139m（D-45区とD-57区間の直線距離）、南北約91m（D-59区とD-69区間の直線距離）ある。なお、D-57・74区東側の丘陵裾部は調査対象外であり[(註8)]、D-69区の南側にある調査区（D-70区など）やD-45区の西側にある調査区（D-44区）ではⅥ層を確認できなかった。また、D-78区東側およびD-80区北側は丘陵頂部に当たり、Ⅵ層の堆積はなかった。

遺物包含層（Ⅵ層）は、土色や土性、含有物などの特徴から各調査区で複数の層に細分され、また調査区によりⅥ層の堆積状況が異なる。前述のとおり、これらの細分層の土性や土色、含有物などの特徴から、南斜面におけるⅥ層を南1～5層群まで7層に大別した（第9表）。さらに遺物が多く出土している範囲では、西側（D-53・54・55・59・68・69・78・79区）と東側（D-56・57・74・75・80区）でⅥ層の層厚や南4A・B層群の有無に差異が認められる。

遺物包含層西側では、D-78区からD-59区にかけて西に緩やかに傾斜する地形となっている。D-78区東側でⅥ層が確認される地点からD-59区南壁西端まで、直線距離で約16.0m、Ⅵ層上面での比高は約1.2m、勾配は約7.5%である。また、D-78区からD-69区では南へ緩やかに傾斜する地形となっている。D-78区東側でⅥ層が確認される地点からD-69区西壁南端まで、直線距離で約76.6m、Ⅵ層上面での比高は約2.1m、勾配は約2.7%である。各調査区で検出したⅥ層は最大で7層に細分されるが、大別層群でみると、下層から南5層群、南3層群、南2B層群、南2A層群、南1層群が堆積している。南5層群は北西部にあたるD-59区とD-53区でのみ確認し、南3・2B・2A層群は広範囲で分布が認められる。南1層群はD-53区とD-54区でのみ確認した。

遺物包含層東側では、D-80区からD-74区にかけて南へ緩やかに傾斜する地形となっている。D-80区南壁中央付近からD-74区西壁南端まで直線距離で約20.0m、Ⅵ層上面での比高は約0.8m以上、勾配は約4.0%以上である。また、D-74区南側では東へ緩やかに傾斜する地形となっている。D-74区西壁中央付近から東壁南端まで、直線距離で約13.0m、Ⅵ層上面での比高は約0.6m、勾配は約4.6%である。各調査区で検出したⅥ層は最大で14層に細分されるが、大別層群で見ると、下層から南5層群、南4B層群、南4A層群、南3層群、南2A層群、南1層群が堆積している。

遺物は南5層群から南1層群まで出土している。出土した遺物には、縄文土器や弥生土器、土製品、石器・石製品、骨角牙製品、漆製品、動物遺存体などがある。遺物量が特に多いことから、本稿では遺物種別ごとの概要を述べるにとどめる。なお、詳細は、本包含層について記載している報告書（宮城県文化財調査報告書第234集）を参照されたい。

①土器

南斜面遺物包含層から出土した土器について、以下に、大別層群別に述べる。

南5層群では、遺物包含層西側から、深鉢や鉢が出土している。装飾には瘤の付く入組帯状文が見られる。東側からは、深鉢や鉢、皿、壺、台付壺、注口土器が出土しているが、深鉢が大部分を占める。装飾には瘤の付く帯状文や入組帯状文がやや多く見られる。帯状文の充填要素として縄文が多く見られ、また、瘤の付くものも多く見られる。入組帯状文の充填要素としては、櫛歯状刻目が多く見られ、縄文も多い。出土量が少ないため土器群の全容が捉えにくいものの、本資料は後期後葉に位置づけられる。

南4B層群は遺物包含層東側のみに堆積しており、深鉢や鉢、浅鉢、皿、台付皿、注口土器が出土している。資料数は少ないもの、装飾には入組帯状文や羊歯状文がやや多く見られる。後期後葉の土器の混入も認められるが、晩期前葉の「大洞BC式」（山内　1930）の特徴をもつ土器が多く出土している。したがって、晩期前葉後半段階（晩期2期）に位置づけられる。

南4A層群は東側のみに堆積しており、深鉢や鉢、皿、注口土器が出土している。装飾には三叉文が多く、列点文がやや多く見られる。資料数が少ないため時期の限定は難しいが、下位の南4B層群が晩期前葉後半段階であることから、同様に晩期前葉後半段階（晩期2期）に位置づけられる。

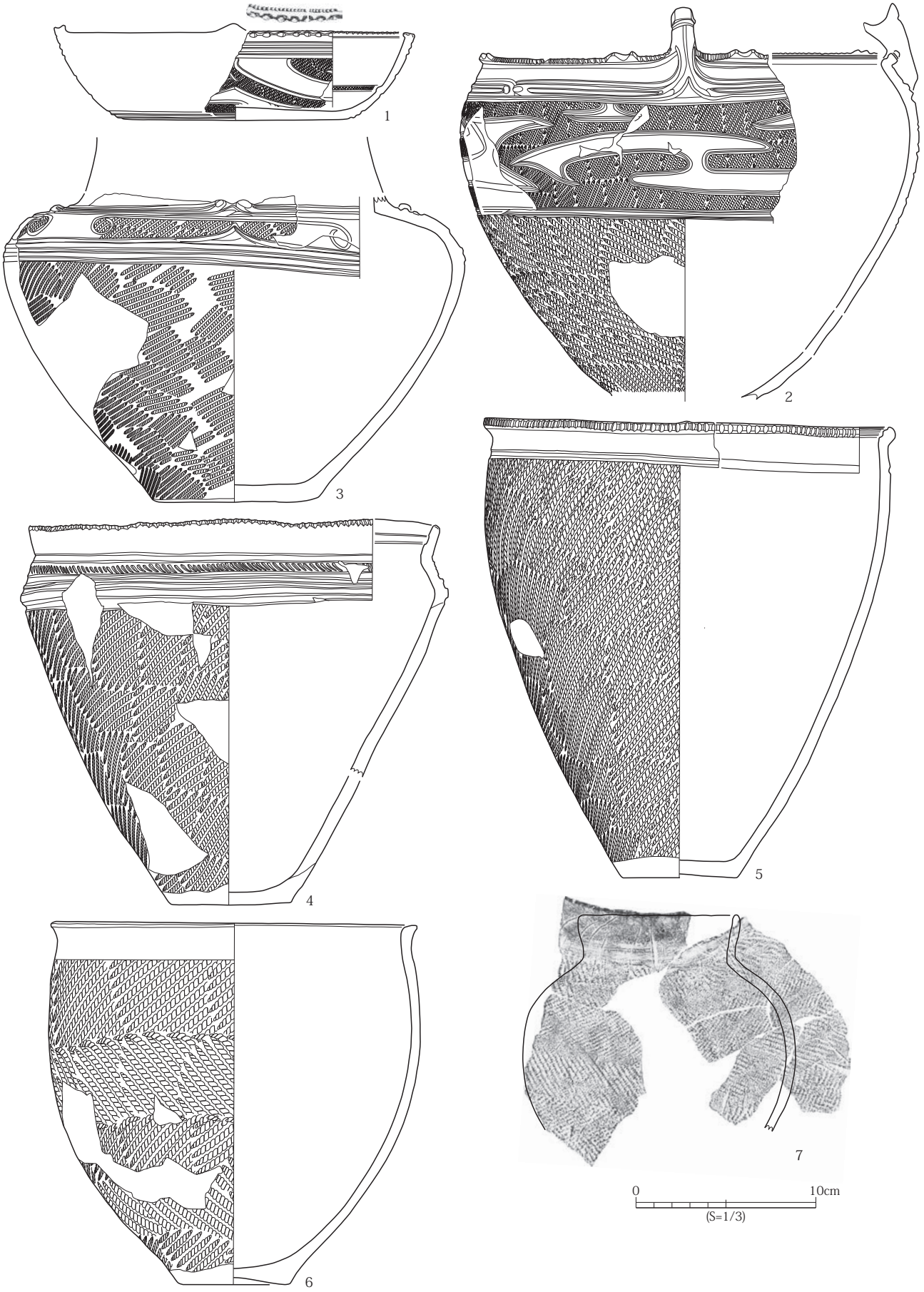
南3層群では西側から、深鉢や鉢、四脚付鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器、香炉形土器、蓋のほかに袖珍土器鉢・浅鉢・壺が出土している。深鉢・鉢・浅鉢・皿類はいずれも、平坦口縁で口縁部が緩やかに内湾または直立するものが出土量の大部分を占めるが、深鉢では口縁部がく字形に外反するものもやや多く見られる。装飾は帯状文からπ字文までさまざまな文様がみられるが、雲形文が最も多く出土し、これ以外は三叉文や羊歯状文が少量ある。東側からは、深鉢や鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器のほかに袖珍土器深鉢・鉢が出土している。装飾には列点文や雲形文がやや多く、羊歯状文が少量見られる。西側と東側いずれにおいても雲形文が施された土器が多い。雲形文は、晩期中葉の「大洞C_1式」（山内　1930）と「大洞C_2式」（山内　前掲）に特徴的に見られる装飾意匠である。なかでも、西側はやや簡素化した曲線文で構成される雲形文、東側はより複雑な曲線文で構成される雲形文が多く見られ、前者が大洞C2式古段階（東北歴史資料館　1983、宮城県教育委員会　1990、須藤　1996）、後者が大洞C1式の特徴をもつ土器が多く見られる。一方で、メガネ状浮文やπ字文が施されたもの、小波状口縁の深鉢など、後続する時期に特徴的に見られるものも出土しているが、その量は少ない。以上から、南3層群は晩期中葉（晩期3～4a期）に位置づけられる。

なお、南3層群から出土した土器1点について、土器付着炭化物を対象に放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、列点文が施された深鉢（第147図24）の^{14}C年代が2,720±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が898～829calBCとなり、晩期中葉後半頃の年代値（小林　2019）が得られており、包含層の推定時期の範囲内におおむね収まる。

南2B層群は西側のみに堆積しており、深鉢や鉢、浅鉢、台付浅鉢、皿、壺、注口土器、香炉形土器のほかに袖珍土器鉢・皿が出土している。深鉢は、平坦口縁で口縁部が緩やかに内湾または直立するものと、同じく平坦口縁で口縁部がく字形に外反するものがほぼ同じような割合となり、また、小

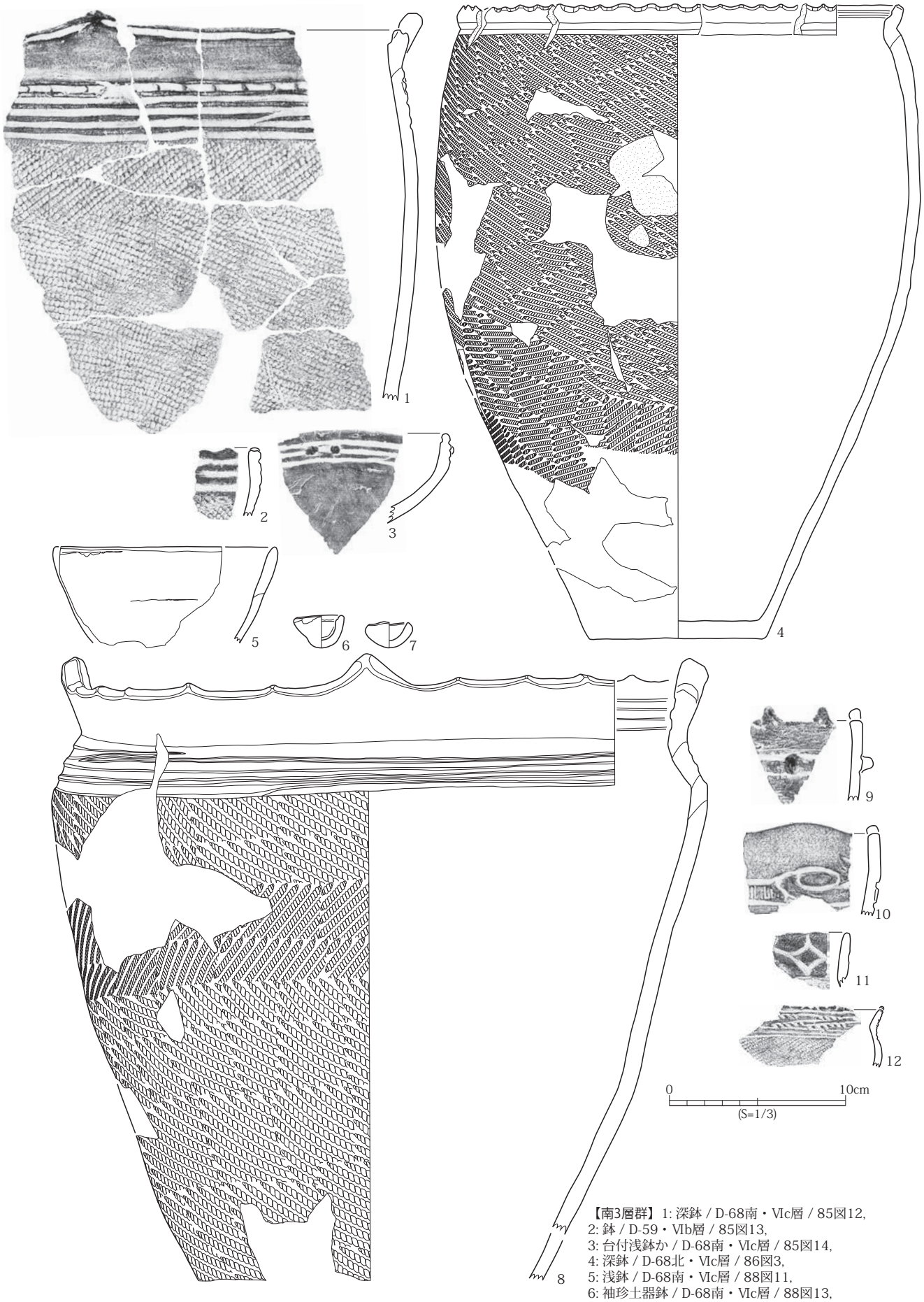
【南5層群】1: 深鉢 / D-53南・Ⅵd1・2層 / 81図2, 2: 深鉢 / D-59・Ⅵf層 / 81図3, 3: 深鉢 / D-59・Ⅵg層 / 81図4,
4: 深鉢 / D-59・Ⅵg層 / 81図5, 5: 深鉢 / D-59・Ⅵe層 / 81図6
【南3層群】6: 鉢か / D-53南・Ⅵc1・2層 / 81図16, 7: 袖珍土器壺 / D-68北・Ⅵc層 / 81図17, 8: 深鉢 / D-53南・Ⅵc1層 / 81図18,
9: 鉢 / D-53北・Ⅵc層 / 81図23, 10: 鉢 / D-59・Ⅵc・e層 / 81図25, 11: 深鉢 / D-53北・Ⅵc層 / 81図26,
12: 香炉形土器か / D-53南・Ⅵc1・2層 / 81図28, 13: 注口土器 / D-59・Ⅵc・e層 / 81図27, 14: 蓋 / D-53南・Ⅵc1・2層 / 81図32,
15: 浅鉢 / D-59・Ⅵc・e層 / 81図31, 16: 鉢 / D-59・Ⅵc・e層 / 81図35, 17: 鉢 / D-59・Ⅵc・e層 / 82図6,
18: 注口土器 / D-59・Ⅵc・e層 / 82図8, 19: 台部 / D-59・Ⅵb層 / 82図10, 20: 深鉢 / D-68北・Ⅵc層 / 82図13,
21: 深鉢 / D-68北・Ⅵc層 / 82図14, 22: 皿 / D-54北・Ⅵd1・2層 / 82図18, 23: 浅鉢 / D-68南・Ⅵc層 / 82図20,
24: 鉢 / D-53南・Ⅵc1層 / 82図21, 25: 皿 / D-68南・Ⅵc層 / 82図25, 26: 注口土器か / D-54北・Ⅵd1・2層 / 84図11,
27: 皿 / D-68南・Ⅵc層 / 84図3 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第133図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土土器（1）



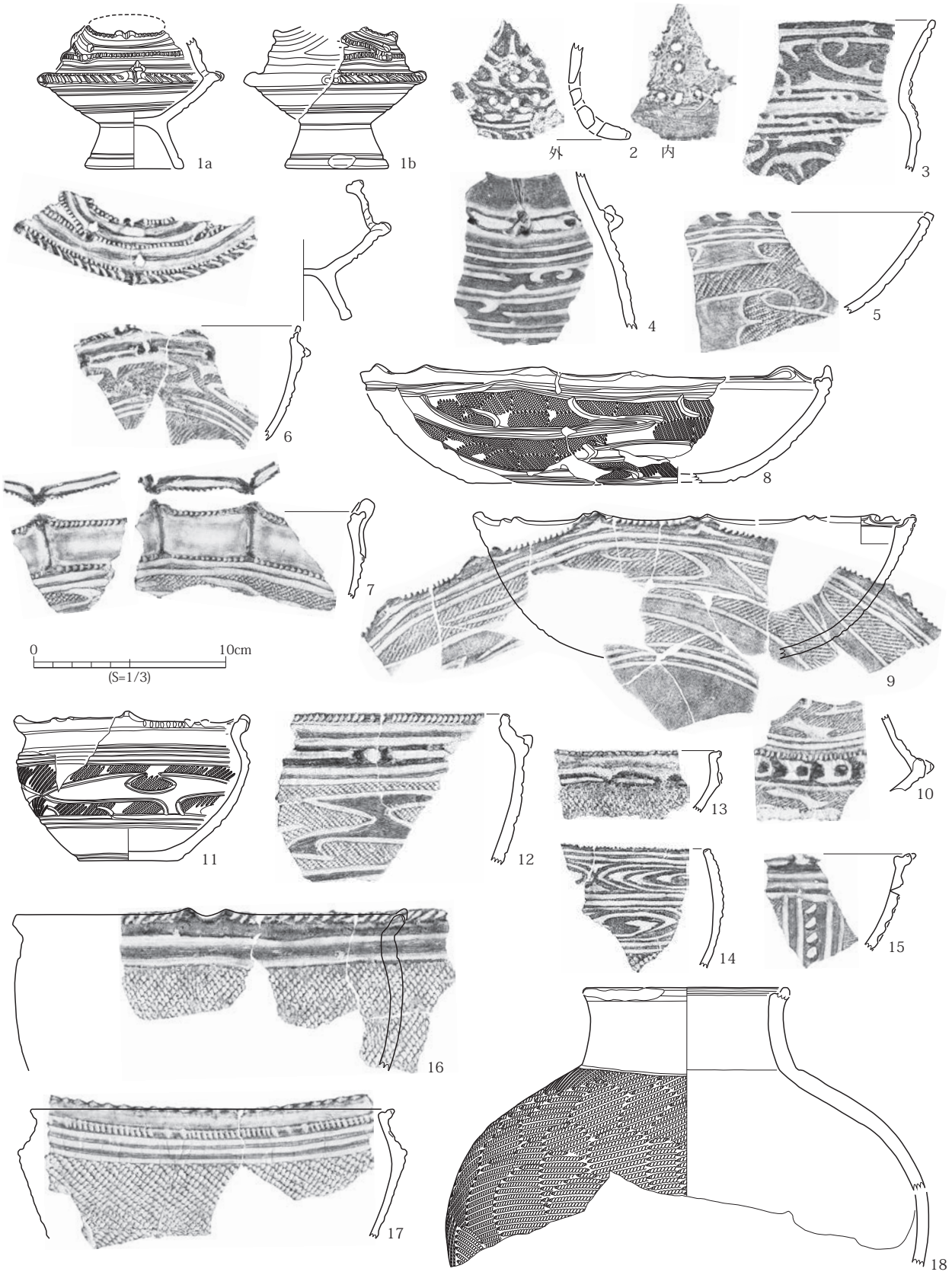
【南3層群】1: 皿 / D-54北・Ⅵd1・2層 / 84図2, 2: 深鉢 / D-53南・Ⅵc1・2層 / 83図10, 3: 壺 / D-68北・Ⅵc層 / 84図7, 4: 深鉢 / D-68南・Ⅵc層 / 84図13, 5: 深鉢 / D-54南・Ⅵd1・2層 / 85図1, 6: 深鉢 / D-68南・Ⅵc　層 / 85図10, 7: 壺 / D-59・Ⅵc・e層 / 85図11 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第134図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土土器（2）



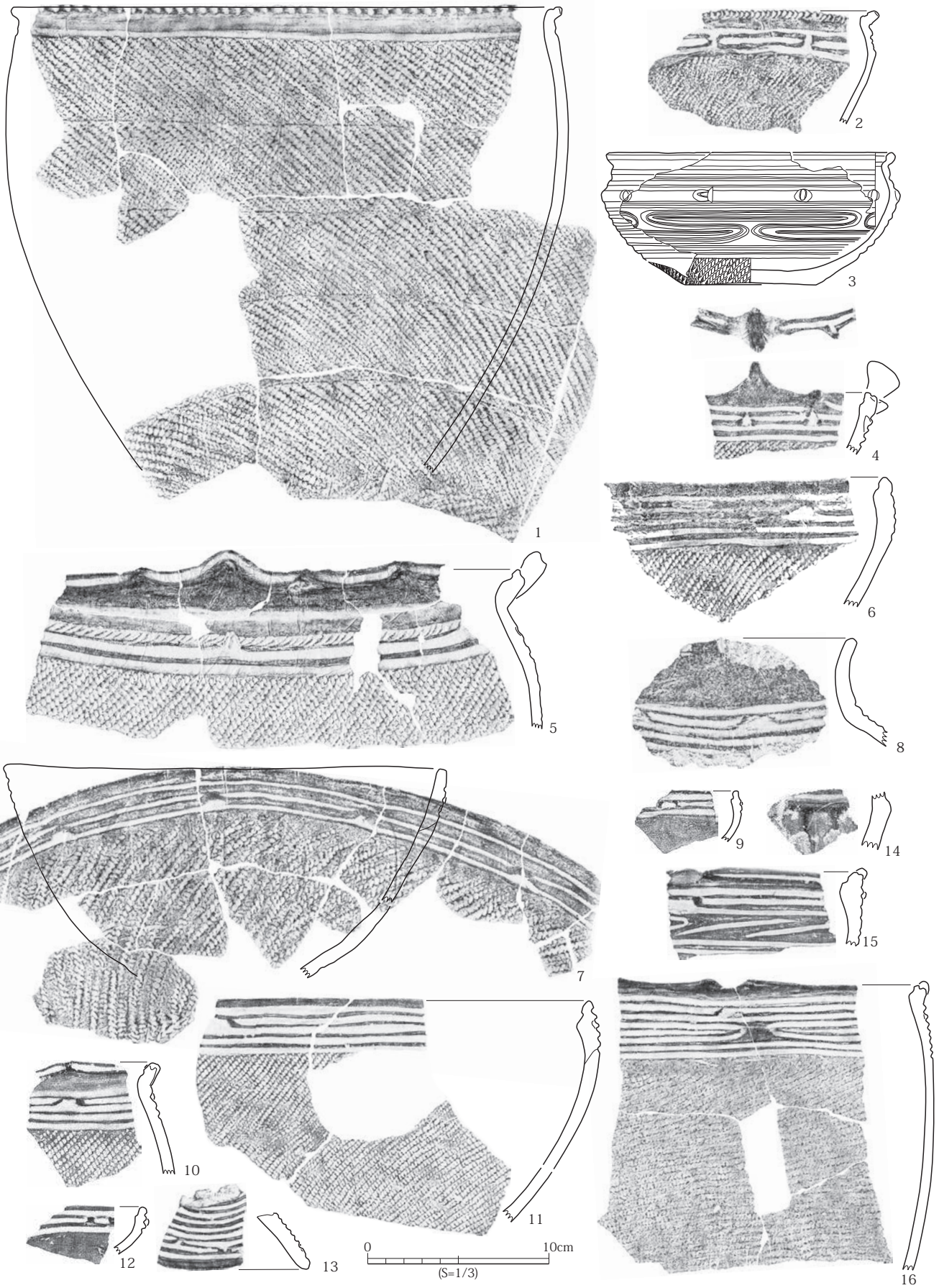
【南3層群】1: 深鉢 / D-68南・Ⅵc層 / 85図12,
2: 鉢 / D-59・Ⅵb層 / 85図13,
3: 台付浅鉢か / D-68南・Ⅵc層 / 85図14,
4: 深鉢 / D-68北・Ⅵc層 / 86図3,
5: 浅鉢 / D-68南・Ⅵc層 / 88図11,
6: 袖珍土器鉢 / D-68南・Ⅵc層 / 88図13,
7: 袖珍土器浅鉢 / D-68南・Ⅵc層 / 88図14, 8: 深鉢 / D-68南・Ⅵc層 / 87図1
【南2B層群】9: 深鉢 / D-54北・Ⅵc1-d2層 / 88図18, 10: 深鉢 / D-54南・Ⅵc1-3層 / 88図21, 11: 鉢 / D-59・Ⅵa2層 / 88図22,
12: 鉢 / D-59・Ⅵa2層 / 88図25 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第135図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土土器（3）



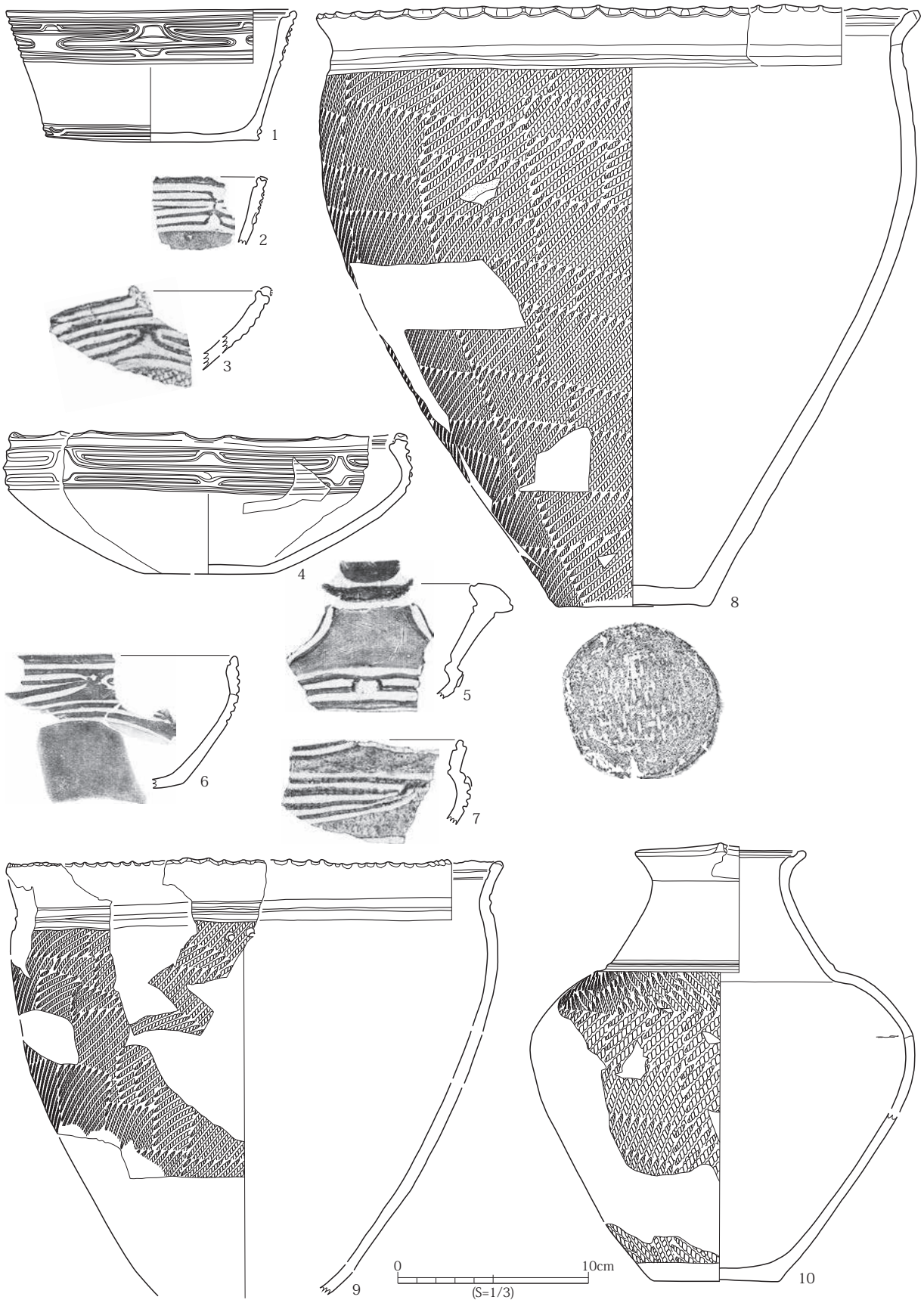
【南2B層群】1: 香炉形土器 / D-54北・Ⅵc1層 / 88図27, 2: 台部 / D-59・Ⅵa-d層 / 89図1, 3: 鉢 / D-59・Ⅵa2層 / 89図2,
4: 壺 / D-68南・Ⅵb層 / 89図3, 5: 皿 / D-54北・Ⅵc1層 / 89図7, 6: 鉢 / D-54北・Ⅵc1層 / 89図15, 7: 鉢 / D-54北・Ⅵc1・2層 / 89図14,
8: 皿 / D-54北・Ⅵc1-d2層 / 89図24, 9: 皿 / D-59・Ⅵa2層 / 90図6, 10: 注口土器 / D-59・Ⅵa2層 / 90図17,
11: 鉢 / D-68北・Ⅵb層 / 89図12, 12: 鉢 / D-59・Ⅵa2層 / 89図13, 13: 鉢 / D-54北・Ⅵc2層 / 89図20,
14: 鉢 / D-54北・Ⅵc1・2層 / 89図22, 15: 鉢 / D-68南・Ⅵb・c / 93図4, 16: 深鉢 / D-68北・Ⅵb層 / 91図1,
17: 深鉢 / D-54北・Ⅵc1層 / 91図9, 18: 壺 / D-54南・Ⅵc2層 / 92図8 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第136図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土土器（4）



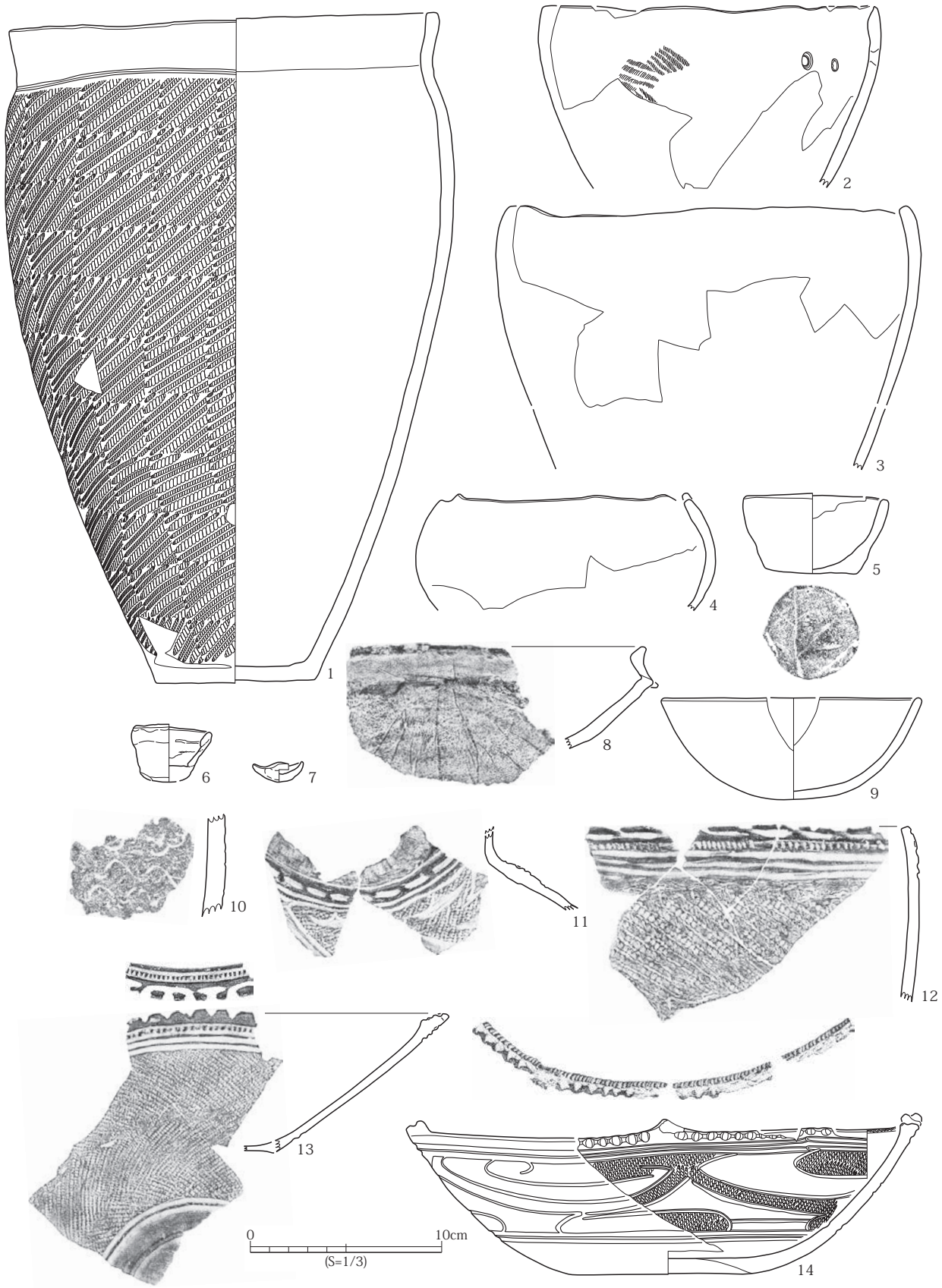
【南2B層群】1: 深鉢 / D-54北・Ⅵc1層 / 92図1, 2: 鉢 / D-54南・Ⅵc1・2層 / 93図1, 3: 浅鉢 / D-54南・Ⅵc1・2層 / 93図3,
4: 鉢 / D-54南・Ⅵc1-3層 /93図6, 5: 深鉢 / D-54北・Ⅵc1層 / 93図5, 6: 鉢 / D-55東・Ⅵb層 / 93図8, 7: 鉢 / D-55東・Ⅵb層 / 93図9,
8: 壺 / D-59・Ⅵa2層 / 94図5, 9: 皿 / D-59・Ⅵa2層 / 94図4, 10: 深鉢 / D-68南・Ⅵb層 / 93図10, 11: 鉢 / D-68南・Ⅵb層 / 93図14,
12: 浅鉢 / D-68南・Ⅵb・c層 / 94図1, 13: 台部 / D-54南・Ⅵc2層 / 94図7, 14: 壺 / D-68北・Ⅵb層 / 94図6,
15: 鉢 / D-68南・Ⅵb層 / 96図2, 16: 深鉢 / D-68南・Ⅵb層 / 93図12 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第137図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土土器（5）



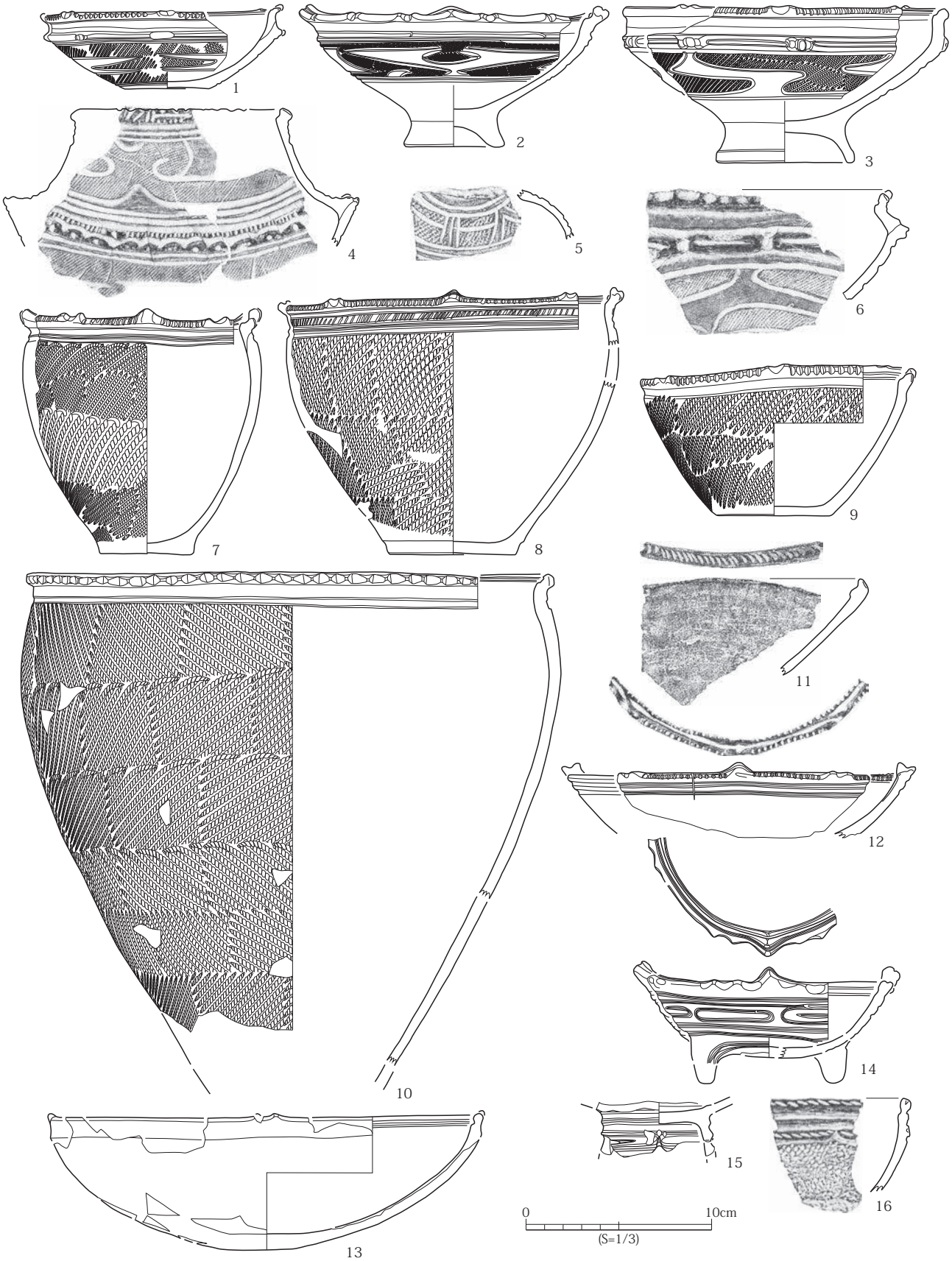
【南2B層群】1: 浅鉢 / D-68南・VIb層 / 93図13, 2: 鉢 / D-68南・VIb層 / 94図2, 3: 浅鉢 / D-59・VIa2層 / 94図3,
4: 浅鉢 / D-54南・VIc1・2層 / 96図4, 5: 台付浅鉢 / D-59・VIa1層 / 96図6, 6: 鉢 / D-68南・VIb・c層 / 96図3,
7: 台付浅鉢 / D-59・VIa2層 / 96図7, 8: 深鉢 / D-68北・VIb層/ 94図8, 9: 深鉢 / D-68北・VIb層/94図9,
10: 壺 / D-54北・VIc1・2層, D-54南・VIc1-3層 / 96図1 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第138図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土土器（6）



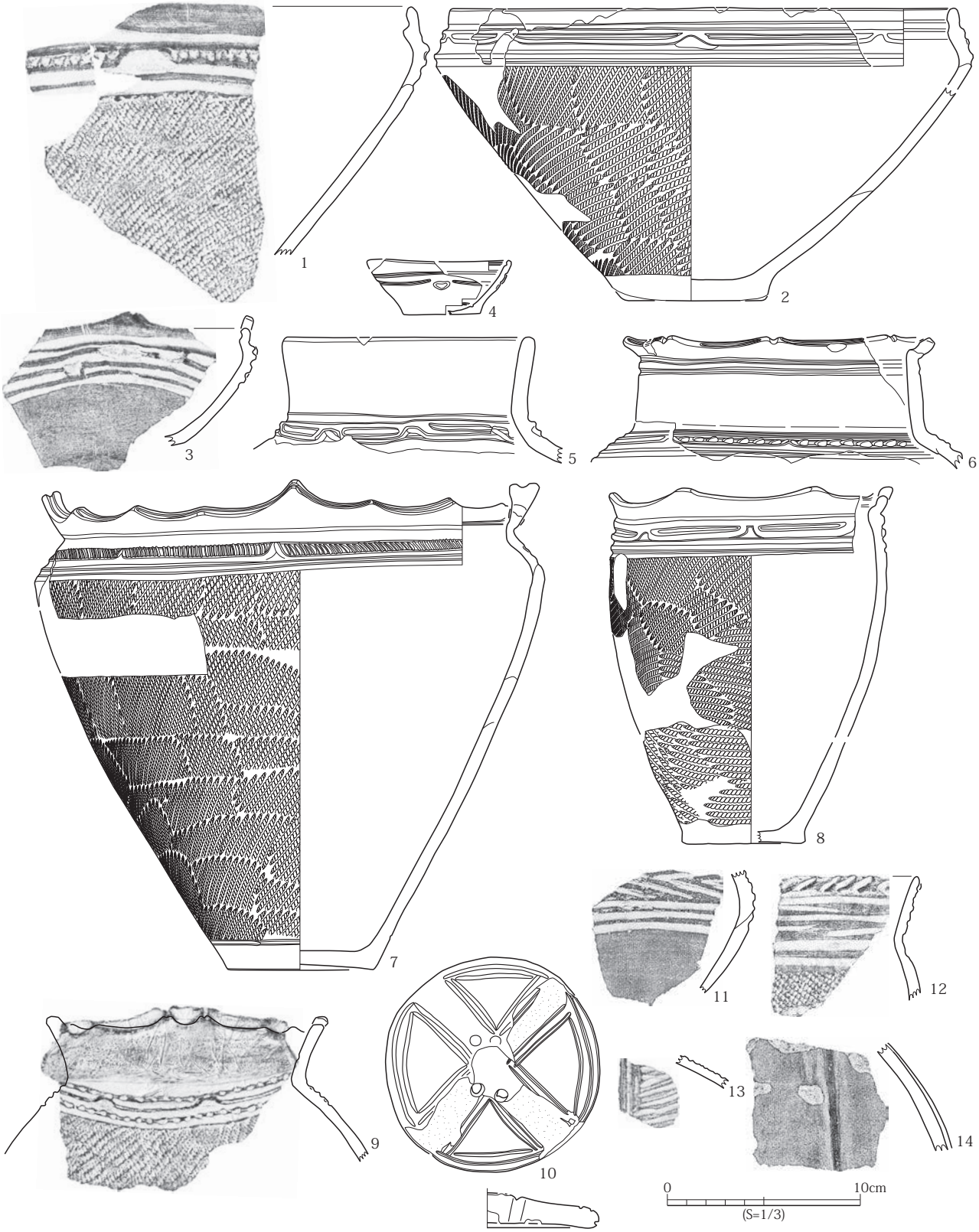
【南2B層群】1: 深鉢 / D-55東・Ⅵb層 / 96図9, 2: 鉢 / D-59・Ⅵa2層 / 97図4, 3: 深鉢 / D-68北・Ⅵb層 / 97図7,
4: 鉢 / D-54北・Ⅵc2層 / 97図8, 5: 浅鉢 / D-59・Ⅵa2層 / 97図9, 6: 袖珍土器鉢 / D-54北・Ⅵc2層 / 97図10,
7: 袖珍土器皿 / D-68北・Ⅵb層 / 97図11, 8: 浅鉢 / D-54北・Ⅵc2層 / 97図13, 9: 浅鉢 / D-54北・Ⅵc2層 / 97図14
【南2A層群】10: 深鉢 / D-54北・Ⅵb層 / 99図1, 11: 壺 / D-53南・Ⅵb1・2層 / 99図3, 12: 深鉢 / D-53南・Ⅵb1・2層 / 99図4,
13: 浅鉢 / D-53南・Ⅵb1・2層 / 99図5, 14: 皿 / D-53南・Ⅵb1層 / 99図14 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第139図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土土器（7）



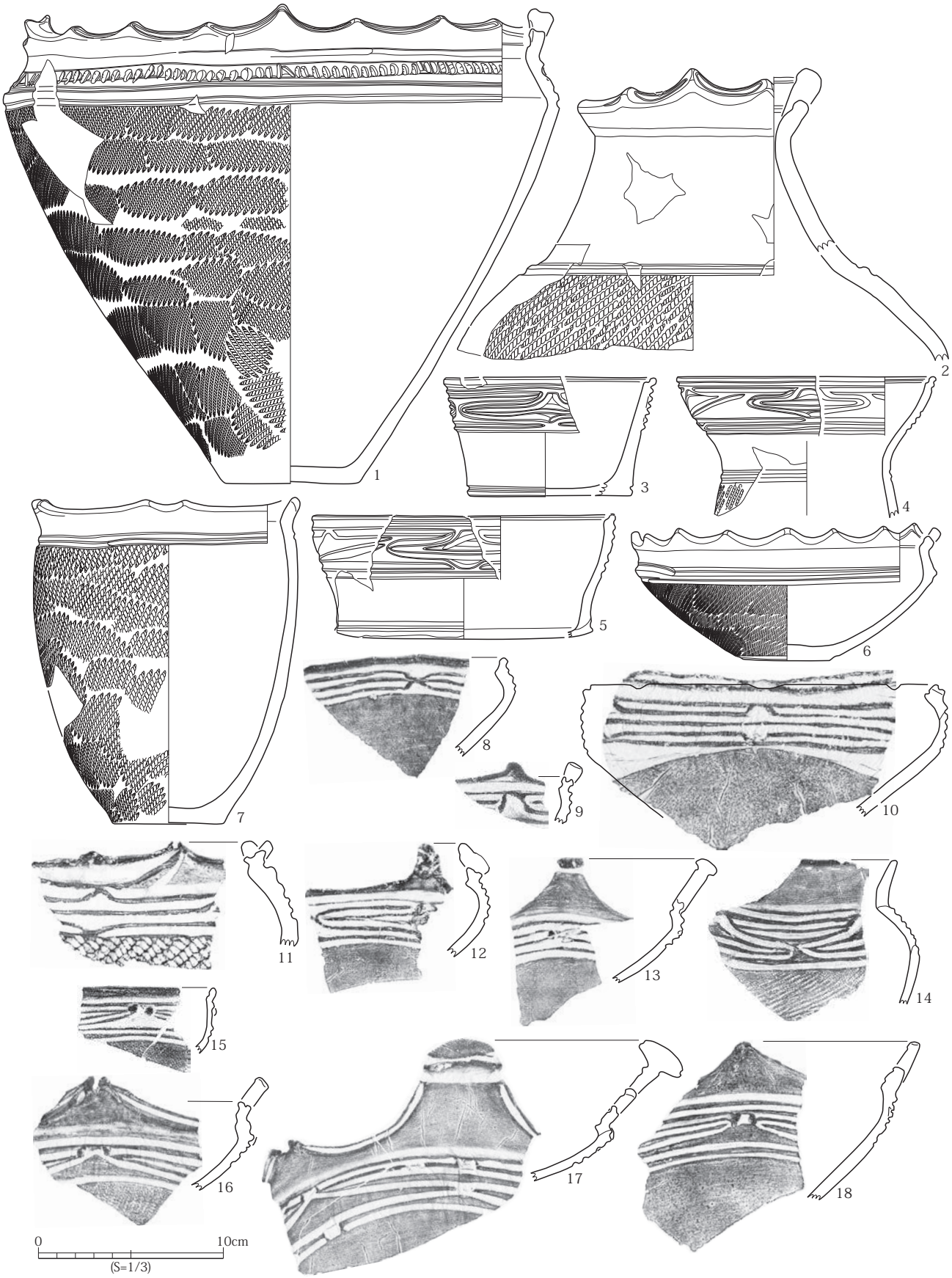
【南2A層群】1: 浅鉢 / D-53南・Ⅵb1層 / 99図8, 2: 台付浅鉢 / D-53南・Ⅵb1層 / 99図12, 3: 台付浅鉢 / D-53南・Ⅵb1層 / 99図11,
4: 注口土器 / D-55西・Ⅵa層 / 100図12, 5: 壺 / D-54北・Ⅵb層 / 100図9, 6: 浅鉢 / D-54北・Ⅵb層 / 99図10,
7: 深鉢 / D-68北・Ⅵa層 / 100図19, 8: 深鉢 / D-53南・Ⅵb1層 / 100図18, 9: 鉢 / D-53南・Ⅵb1層 / 102図5,
10: 深鉢 / D-53南・Ⅵb1層 / 101図9, 11: 皿 / D-54北・Ⅵb層 / 102図7, 12: 皿 / D-53南・Ⅵb1・2層 / 102図10,
13: 皿 / D-53南・Ⅵb1層 / 102図8, 14: 四脚付浅鉢 / D-54北・Ⅵb層 / 102図15, 15: 台部 / D-54南・Ⅵb層 / 102図16,
16: 鉢 / D-54北・Ⅵb層 / 102図17 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第140図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土土器（8）



【南2A層群】1: 鉢 / D-55西・VIa層 / 102図18, 2: 鉢 / D-55東・VIa層 / 103図1, 3: 浅鉢 / D-55西・VIa層 / 103図10,
4: 袖珍土器浅鉢 / D-54南・VIb層 / 103図12, 5: 壺 / D-55西・VIa層 / 103図13, 6: 壺 / D-54南・VIb層 / 103図16,
7: 深鉢 / D-54北・VIb層 / 104図3, 8: 深鉢 / D-54南・VIb層 / 106図7, 9: 壺 / D-55西・VIa層 / 103図15,
10: 蓋 / D-55東・VIa層 / 104図1, 11: 壺 / D-68北・VIa層 / 100図11, 12: 深鉢 / D-54北・VIb層 / 100図15,
13: 壺か / D-55東・VIa層 / 108図14, 14: 壺 / D-68北・VIa層 / 108図15 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第141図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土土器（9）

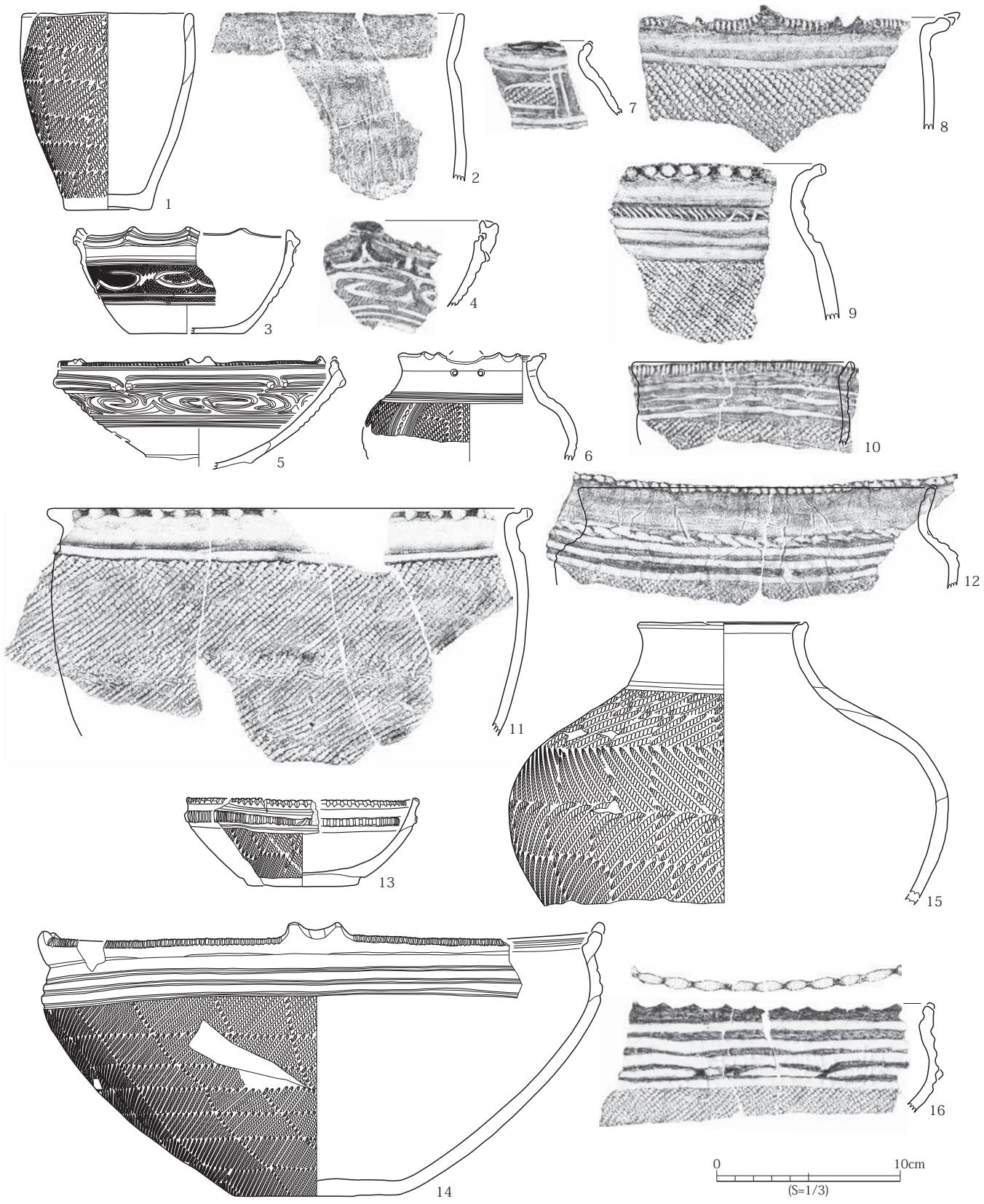


【南2A層群】1: 深鉢 / D-68北・VIa層 / 104図8, 2: 壺 / D-53南・VIb1層 / 106図6, 3: 浅鉢 / D-54南・VIb層 / 103図9,
4: 鉢 / D-54南・VIb層 / 107図2, 5: 浅鉢 / D-54南・VIb層 / 103図8, 6: 浅鉢 / D-54北・VIb層 / 106図1,
7: 深鉢 / D-55東・VIa層 / 104図7, 8: 浅鉢 / D-54南・VIb層 / 106図15, 9: 鉢か / D-68北・VIa層 / 103図2,
10: 浅鉢 / D-55西・VIa層 / 106図13, 11: 鉢 / D-54南・VIb層 / 106図9, 12: 浅鉢 / D-54南・VIb層 / 106図19,
13: 台付浅鉢 / D-79・VIa層 / 106図16, 14: 壺 / D-68北・VIa層 / 107図11, 15: 浅鉢 / D-54南・VIb層 / 107図5,
16: 浅鉢 / D-54南・VIb層 / 107図6, 17: 台付浅鉢 / D-55西・VIa層 / 107図14, 18: 浅鉢 / D-54南・VIb層 / 107図7
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第142図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土土器（10）

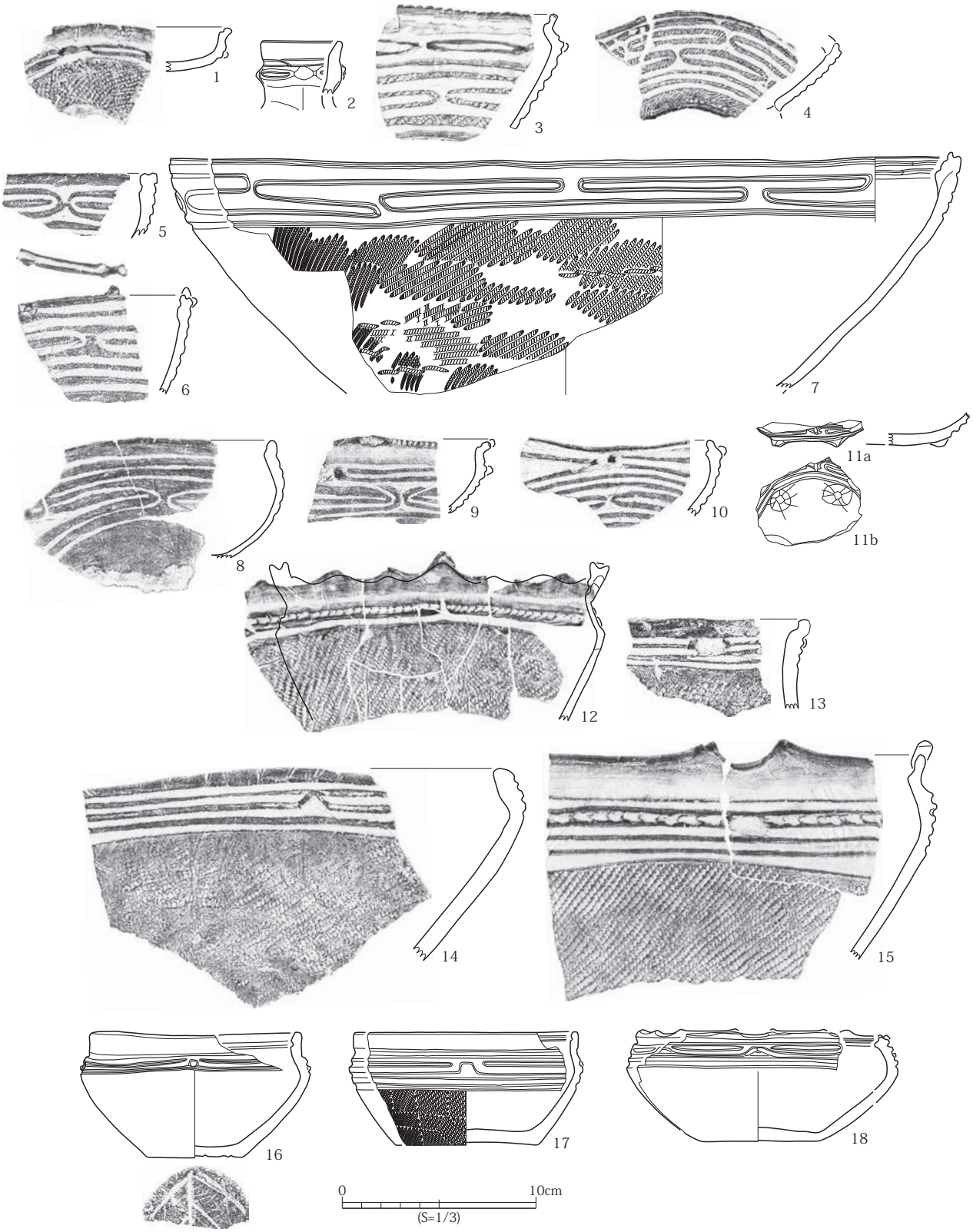
【南2A層群】1: 浅鉢 / D-55東・VIa層 / 107図9, 2: 浅鉢 / D-55西・VIa層 / 107図10, 3: 浅鉢 / D-54南・VIb層 / 107図13,
4: 深鉢 / D-55西・VIa層 / 107図1, 5: 台付浅鉢 / D-68・VI層 / 107図8, 6: 袖珍土器浅鉢 / D-54南・VIb層 / 107図16,
7: 台付深鉢 / D-55東・VIa層 / 108図3, 8: 蓋 / D-68北・VIa層 / 108図17, 9: 鉢 / D-54南・VIb層 / 108図4,
10: 皿 / D-53南・VIb1・2層 / 108図13, 11: 壺 / D-68北・VIa層 / 108図12, 12: 袖珍土器深鉢 / D-54南・VIb層 / 107図15,
13: 袖珍土器鉢 / D-54南・VIb層 / 108図10, 14: 袖珍土器鉢 / D-68北・VI層 / 108図11, 15: 漆容器（鉢） / D-54南・VIb層 / 108図18,
16: 深鉢 / D-54南・VIb層 / 109図1, 17: 製塩土器深鉢 / D-54北・VIb層 / 108図8 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第143図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土土器（11）



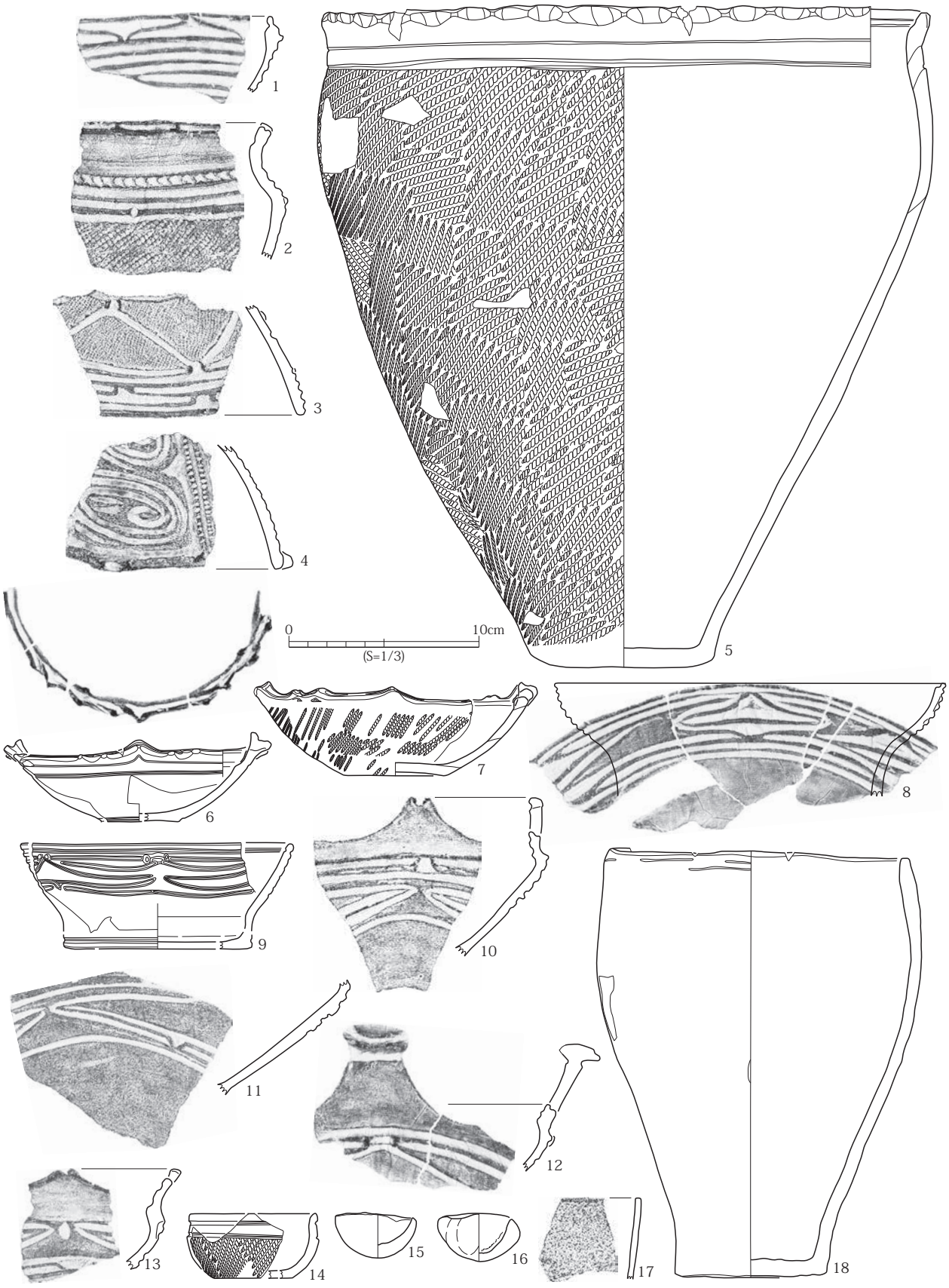
【南2A層群】1: 深鉢 / D-53南・Ⅵb1・2層 / 109図2, 2: 深鉢 / D-55東・Ⅵa層 / 110図11
【南1層群】3: 鉢 / D-53南・Ⅵa層 / 111図1, 4: 鉢 / D-54北・Ⅵa層 / 111図2, 5: 台付浅鉢 / D-53北・Ⅵa層 / 111図14,
6: 壺 / D-53南・Ⅵa層 / 111図19, 7: 壺 / D-54南・Ⅵa・b層 / 111図20, 8: 深鉢 / D-53南・Ⅵa層 / 111図24,
9: 深鉢 / D-53南・Ⅵa層 / 112図4, 10: 鉢 / D-54北・Ⅵa層 / 112図8, 11: 深鉢 / D-53南・Ⅵa層 / 113図1,
12: 深鉢 / D-54北・Ⅵa層 / 112図6, 13: 浅鉢 / D-53南・Ⅵa層 / 113図4, 14: 浅鉢 / D-53南・Ⅵa層 / 113図3,
15: 壺 / D-53南・Ⅵa層 / 113図7, 16: 深鉢 / D-54北・Ⅵa層 / 113図8 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第144図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土土器（12）



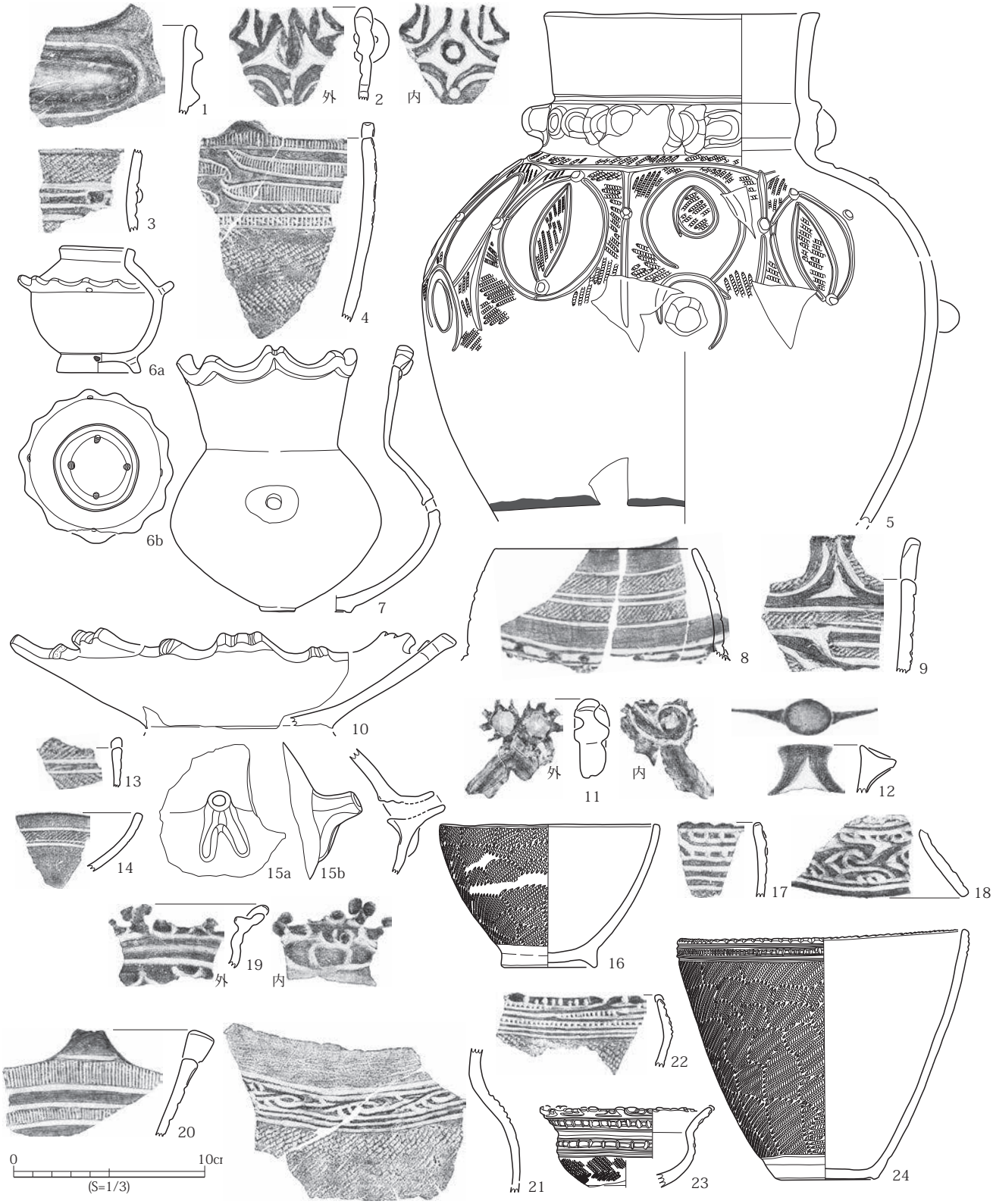
【南1層群】1: 皿 / D-53南・Via層 / 113図9, 2: 壷 / D-53南・Via層 / 113図11, 3: 鉢 / D-54北・Via層 / 113図13,
4: 鉢か / D-53南・Via層 / 113図14, 5: 浅鉢 / D-53南・Via層 / 114図1, 6: 鉢 / D-54北・Via層 / 114図2, 7: 浅鉢 / D-54北・Via層 / 114図3,
8: 四脚付浅鉢 / D-53南・Via層 / 114図5, 9: 浅鉢 / D-54北・Via層 / 114図6, 10: 浅鉢 / D-53北・Via層 / 114図7,
11: 四脚付鉢 / D-54南・Via層 / 114図10, 12: 深鉢 / D-53南・Via層 / 114図12, 13: 深鉢 / D-54南・Via層 / 114図14,
14: 鉢 / D-54南・Via層 / 115図2, 15: 鉢 / D-54南・Via層 / 115図1, 16: 鉢 / D-54南・Via層 / 115図4, 17: 浅鉢 / D-53北・Via層 / 115図5,
18: 浅鉢 / D-54南・Via層 / 115図6 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第145図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土土器（13）



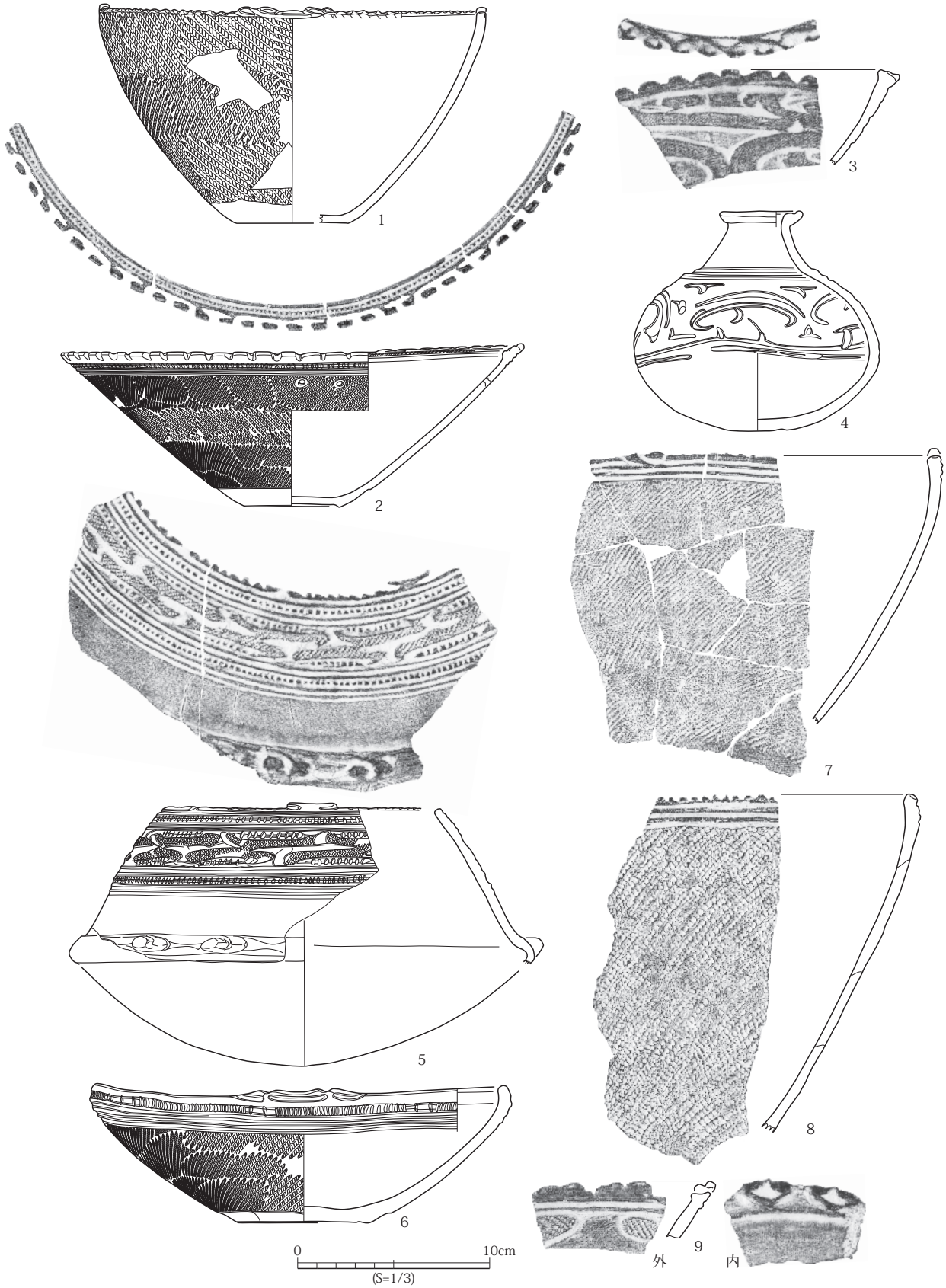
【南1層群】1: 浅鉢 / D-54北・VIa層 / 115図7, 2: 深鉢 / D-54北・VIa層 / 115図12, 3: 台部 / D-54南・VIa層 / 118図2,
4: 蓋 / D-54南・VIa層 / 118図3, 5: 深鉢 / D-53北・VIa層 / 116図3, 6: 皿 / D-53南・VIa層 / 117図2, 7: 皿 / D-53南・VIa層 / 117図3,
8: 鉢 / D-54北・VIa層, D-54南・VIa層 / 117図8, 9: 浅鉢 / D-53南・VI層 / 117図7, 10: 台付浅鉢 / D-54北・VIa層 / 117図12,
11: 浅鉢 / D-54南・VIa層 / 117図11, 12: 台付浅鉢 / D-54北・VIa層 / 118図1, 13: 浅鉢 / D-54北・VIa層 / 117図10,
14: 袖珍土器浅鉢 / D-53南・VIa層 / 118図11, 15: 袖珍土器鉢 / D-54南・VIa層 / 118図12, 16: 袖珍土器鉢 / D-54北・VIa層 / 118図13,
17: 深鉢（製塩土器）/ D-54南・VIa・b層 / 119図7, 18: 深鉢 / D-54北・VIa層, D-54南・VIa層 / 119図6 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第146図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土土器（14）



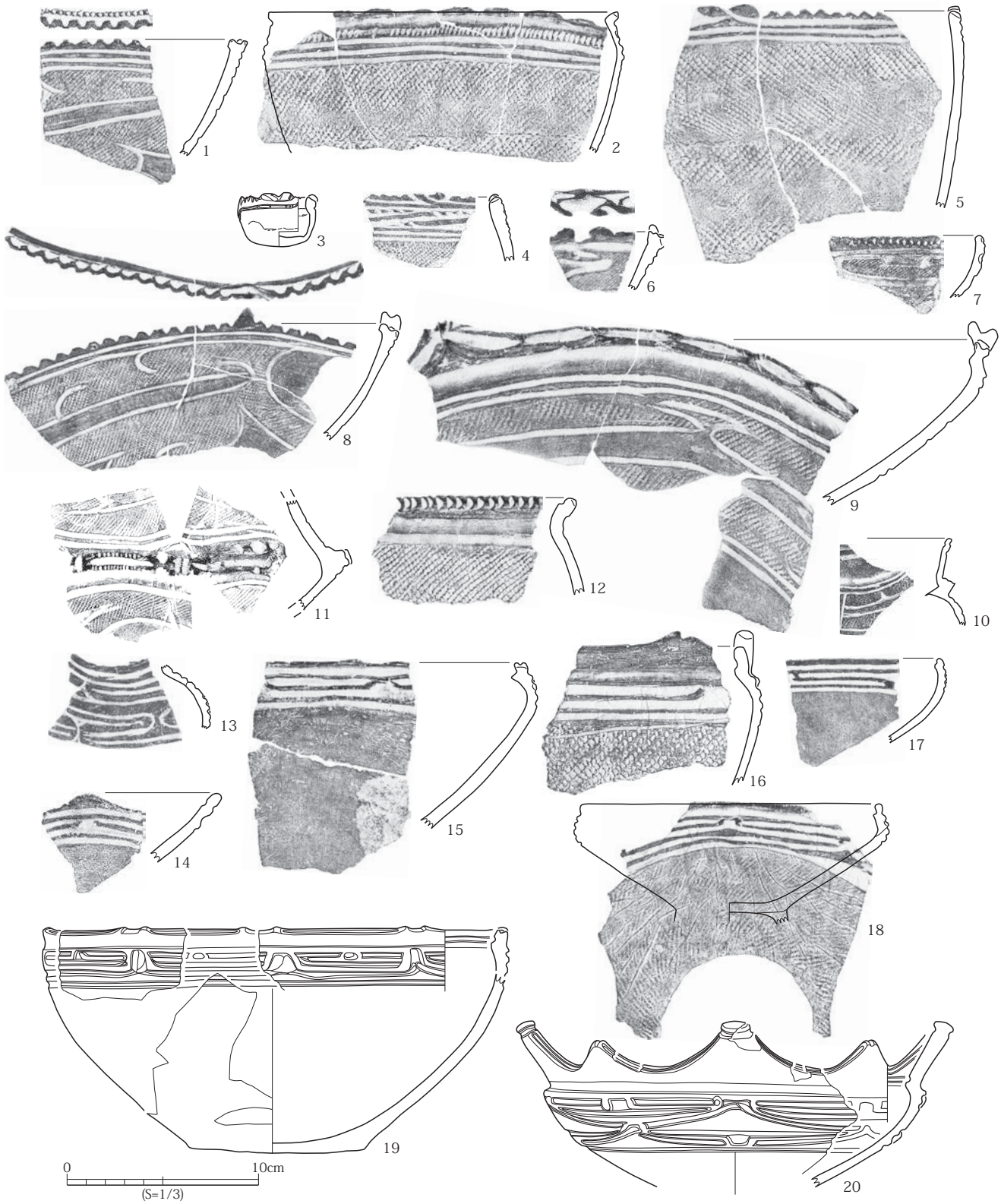
【南5層群】1: 深鉢 / D-57西・Ⅵn層 / 120図1, 2: 深鉢か / D-57西・Ⅶl-n層 / 120図2, 3: 深鉢 / D-57西・Ⅶl-n層 / 120図3,
4: 深鉢 / D-57西・Ⅵn層 / 120図8, 5: 壺 / D-57西・Ⅶl-n層 / 120図12, 6: 台付壺 / D-57西・Ⅵn層 / 120図13,
7: 注口土器 / D-57西・Ⅶl-n層 / 120図14, 8: 注口土器 / D-57西・Ⅵn層 / 120図15
【南4B層群】9: 深鉢/ D-57西・Ⅵi-k層 / 121図11, 10: 台付皿 / D-57西・Ⅵi-n層 / 121図12, 11: 深鉢 / D-57西・Ⅵi-k層 / 121図13,
12: 深鉢か / D-57西・Ⅵi-k層 / 121図14, 13: 鉢 / D-57西・Ⅵi-k層 / 121図15, 14: 浅鉢 / D-57西・Ⅵi-n層 / 121図16,
15: 注口土器 / D-57西・Ⅵi-k層 / 121図20, 16: 鉢 / D-57西・Ⅵi-n層 / 121図22, 17: 鉢 / D-57西・Ⅵi-k層 / 121図23,
18: 台部 / D-57西・Ⅵi-n層 / 122図1
【南4A層群】19: 注口土器か / D-57西・Ⅵg・h層 / 122図15
【南3層群】20: 深鉢 / D-56西・Ⅵd層 / 123図1, 21: 壺 / D-57東・Ⅵe・f層 / 123図3, 22: 鉢 / D-57西・Ⅵc層 / 123図5,
23: 浅鉢（台付か） / D-57西・Ⅵe・f層 / 123図14, 24: 深鉢 / D-57西・Ⅵc層 / 123図11 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第147図　東7地点　南斜面遺物包含層（東側）　出土土器（1）



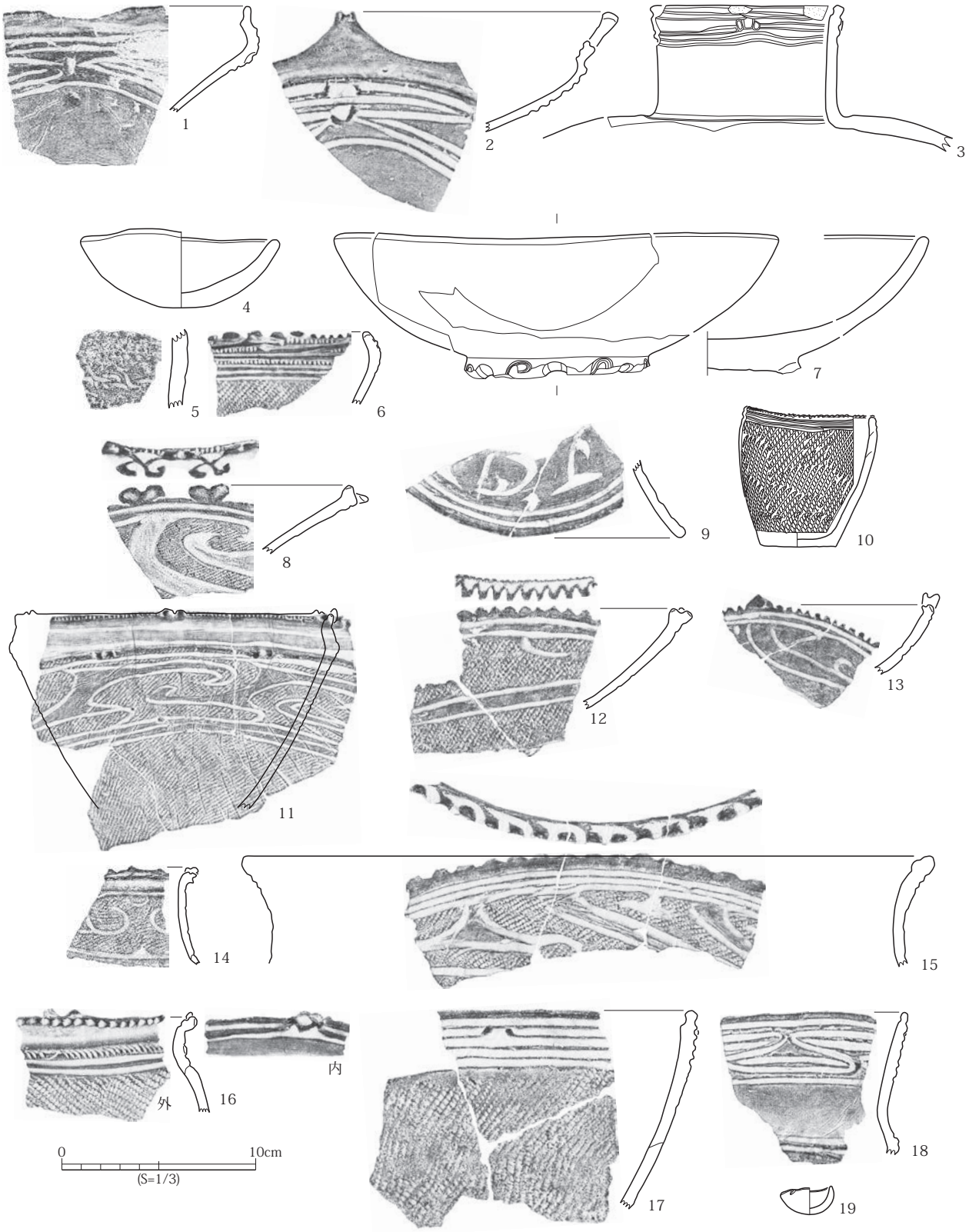
【南3層群】1: 鉢 / D-56東・Ⅵc層 / 123図16, 2: 浅鉢 / D-57西・Ⅵc層 / 123図18, 3: 皿 / D-57西・Ⅵc層 / 124図3, 4: 壺 / D-57西・Ⅵc層 / 124図9, 5: 注口土器 / D-57西・Ⅵc層 / 124図10, 6: 皿 / D-57西・Ⅵc層 / 124図7, 7: 深鉢 / D-57西・Ⅵc層 / 124図11, 8: 深鉢 / D-57西・Ⅵc層 / 125図1, 9: 浅鉢 / D-57西・Ⅵc層 / 125図3
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第148図　東7地点　南斜面遺物包含層（東側）　出土土器（2）



【南3層群】1: 皿 / D-57東・Ⅵc-e層 / 125図8, 2: 深鉢 / D-57西・Ⅵc層 / 125図10, 3: 袖珍土器鉢 / D-57西・Ⅵc層 / 125図21
【南2A層群】4: 鉢 / D-56東・Ⅵb層 / 126図9, 5: 深鉢 / D-56東・Ⅵb層 / 127図1, 6: 皿 / D-74・Ⅵb層 / 126図10,
7: 浅鉢 / D-56東・Ⅵb層 / 127図3, 8: 皿 / D-74拡張・Ⅵb層 / 127図4, 9: 皿 / D-74拡張・Ⅵb層 / 127図10,
10: 壺 / D-74拡張・Ⅵb層 / 127図11, 11: 注口土器 / D-74・Ⅵb・c層 / 127図12, 12: 深鉢 / D-74拡張・Ⅵb層 / 127図13,
13: 壺 / D-74・Ⅵb・c層 / 128図4, 14: 皿 / D-56西・Ⅵb層 / 128図2, 15: 台付浅鉢 / D-74拡張・Ⅵb層 / 128図1,
16: 鉢 / D-56東・Ⅵb層 / 127図14, 17: 浅鉢 / D-74・Ⅵb層 / 127図16, 18: 台付浅鉢 / D-56東・Ⅵb層 / 128図7,
19: 鉢 / D-74・Ⅵb層 / 127図15, 20: 台付浅鉢 / D-75・Ⅵb層 / 128図8 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第149図　東7地点　南斜面遺物包含層（東側）　出土土器（3）



【南2A層群】1: 浅鉢 / D-56西・Ⅵb層 / 128図9, 2: 台付浅鉢 / D-75・Ⅵb層 / 128図10, 3: 壺 / D-75・Ⅵb層 / 128図11,
4: 皿 / D-56東・Ⅵb層 / 128図12
【南1層群】5: 深鉢 / D-56東・Ⅵa・b層 / 128図16, 6: 鉢 / D-57西・Ⅵa・c層 / 128図18, 7: 台付浅鉢 / D-80・Ⅵ層 / 128図17,
8: 皿 / D-57西・Ⅵa・c層 / 129図1, 9: 台部 / D-56東・Ⅵa-c層 / 129図3, 10: 深鉢 / D-57西・Ⅵa・c層 / 129図4,
11: 鉢 / D-57東・Ⅵa層 / 129図5, 12: 皿 / D-57東・Ⅵa層 / 129図7, 13: 皿 / D-74・Ⅵa・b層 / 129図9,
14: 注口土器 / D-57中央・Ⅵa層 / 129図12, 15: 皿 / D-57西・Ⅵa・c層/ 129図11, 16: 深鉢 / D-74・Ⅵa層 / 129図14,
17: 鉢 / D-57東・Ⅵa層 / 129図16, 18: 鉢 / D-56東・Ⅵa層 / 129図17, 19: 袖珍土器浅鉢 / D-57東・Ⅵa層 / 129図20
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第150図　東7地点　南斜面遺物包含層（東側）　出土土器（4）

波状口縁のものも一定量出土するなど、口縁部がく字形に外反するものの割合が大きくなる。さらに、口縁部が緩やかに外湾するものも一定量見られるようになる。装飾には帯状文から変形工字文までさまざまなものが見られるが、雲形文がやや多い。雲形文はやや簡素化した曲線文で構成されるものがほとんどであり、大洞C2式のなかでも直線文的要素の加わる新段階（東北歴史資料館　1983、宮城県教育委員会　1990、須藤　1996）の特徴をもつものも多く見られるようになる。一方で、工字文やπ字文、変形工字文などの晩期後葉以降に見られる装飾も一定量出土している。工字文は晩期後葉の「大洞A式」（山内　1930）に特徴的に見られる装飾意匠であり、π字文や変形工字文は大洞A式中段階から新段階に位置づけられる栗原市山王囲遺跡Ⅴ層出土資料（伊東・須藤　1985）に類似するものが多い。晩期末葉以降に見られるような変形工字文や上下対向のπ字文なども出土しているが、その量はわずかである。以上から、晩期中葉後半段階（晩期4b期）から晩期後葉（大洞A式、晩期5期）に位置づけられるものとみられる。

なお、南2B層群から出土した土器2点について、土器付着炭化物を対象に放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、雲形文とメガネ状浮文が施された鉢（第136図6）の^{14}C年代が2,660±30yrBP、暦年較正年代（1σ）が825～800calBCとなり、晩期中葉後半頃の年代値（小林　2019、以下同）が得られ、π字文が施された鉢（第137図6）の^{14}C年代が2,450±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が744～424calBCとなり、晩期後葉から末葉頃の年代値が得られている。いずれも包含層の推定時期の範囲内におおむね収まる。

南2A層群では、西側から深鉢や鉢、浅鉢、台付浅鉢、四脚付浅鉢、皿、壺、注口土器、蓋のほかに袖珍土器深鉢・鉢・浅鉢が出土している。また製塩土器深鉢も見られる。深鉢・鉢・浅鉢・皿類は、出土量の大部分が平坦口縁で口縁部が緩やかに内湾または直立するものであるが、深鉢では口縁部がく字形に外反するものや、口縁部が緩やかに外湾するものが一定量見られ、鉢や浅鉢でも口縁部がく字形に外反するものが一定量見られるようになる。また、深鉢や浅鉢では口縁部が波状となるものの割合が大きい。装飾にはπ字文がやや多く見られ、雲形文や変形工字文が少量見られる。東側からは、深鉢や鉢、浅鉢、台付浅鉢、皿、壺、注口土器が出土している。装飾には雲形文がやや多く、π字文が少量見られる。また、工字文や変形工字文がわずかにある。特に、西側は「大洞A'式」（山内　1930）に特徴的に見られる変形工字文や上下対向のπ字文の出現頻度が大きくなり、また、東側についても資料数は少ないものの、変形工字文が施された土器が出土している。以上から、いずれも晩期末葉（晩期6a期）に位置づけられる。

なお、南2A層群から出土した土器1点について、土器付着炭化物を対象に放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、変形工字文が施された深鉢（第143図4）の^{14}C年代が2,500±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が766～568calBCとなり、晩期中葉後半から後葉頃の年代値（小林　2019）が得られている。包含層の推定時期よりもやや古い年代値となった。

南1層群では、西側から深鉢や鉢、四脚付鉢、浅鉢、台付浅鉢、四脚付浅鉢、皿、壺、注口土器、蓋のほかに袖珍土器鉢・浅鉢が出土している。また、製塩土器深鉢も見られる。鉢・浅鉢・皿は、平坦口縁で口縁部が緩やかに内湾または直立するものが最も多く出土しているが、口縁部がく字形に外

反するものの割合が大きくなる。深鉢は、平坦口縁で口縁部がく字形に外反するものが最も多く出土し、次いで、平坦口縁で口縁部が緩やかに内湾または直立するものと、小波状口縁で口縁部がく字形に外反するものがほぼ同じような割合を占める。また、口縁部が緩やかに外湾するものの割合も大きくなる。装飾には雲形文とπ字文がやや多く、工字文や、変形工字文の組み合わせが少量見られる。東側からは、深鉢や鉢、台付浅鉢、皿、注口土器のほかに袖珍土器浅鉢が出土している。装飾は雲形文が非常に多く見られるが、π字文や変形工字文もわずかに見られる。西側および東側ともに雲形文が施された土器など大洞C2式の特徴をもつ土器が出土量の大部分を占める。しかし、π字文や変形工字文が施された土器が出土していること、直下の南2A層群が晩期末葉(晩期6a期)であることから、同じく晩期末葉とみられる。当該期の土器が少ないため南2A層群との差異があまり認められないが、層位的に上位であることから晩期6b期に位置づけられる。なお、南1層群は、下層にくらべて雲形文の割合が大きく、主たる土器の時期が逆転していること、また、地山粒や地山ブロックを多く含むという特徴から、二次堆積により形成されたものと考えられる。この堆積状況が自然によるものかあるいは人為によるものかについては、調査範囲が限定されていたこともあり判断はできなかったが、丘陵南斜面の低湿地の一部がこの層の堆積により乾いた環境の微高地となり、これを利用して土坑墓などがつくられたものとみられる。

②土製品

土製品は南4A層群を除く大別層群から出土している。

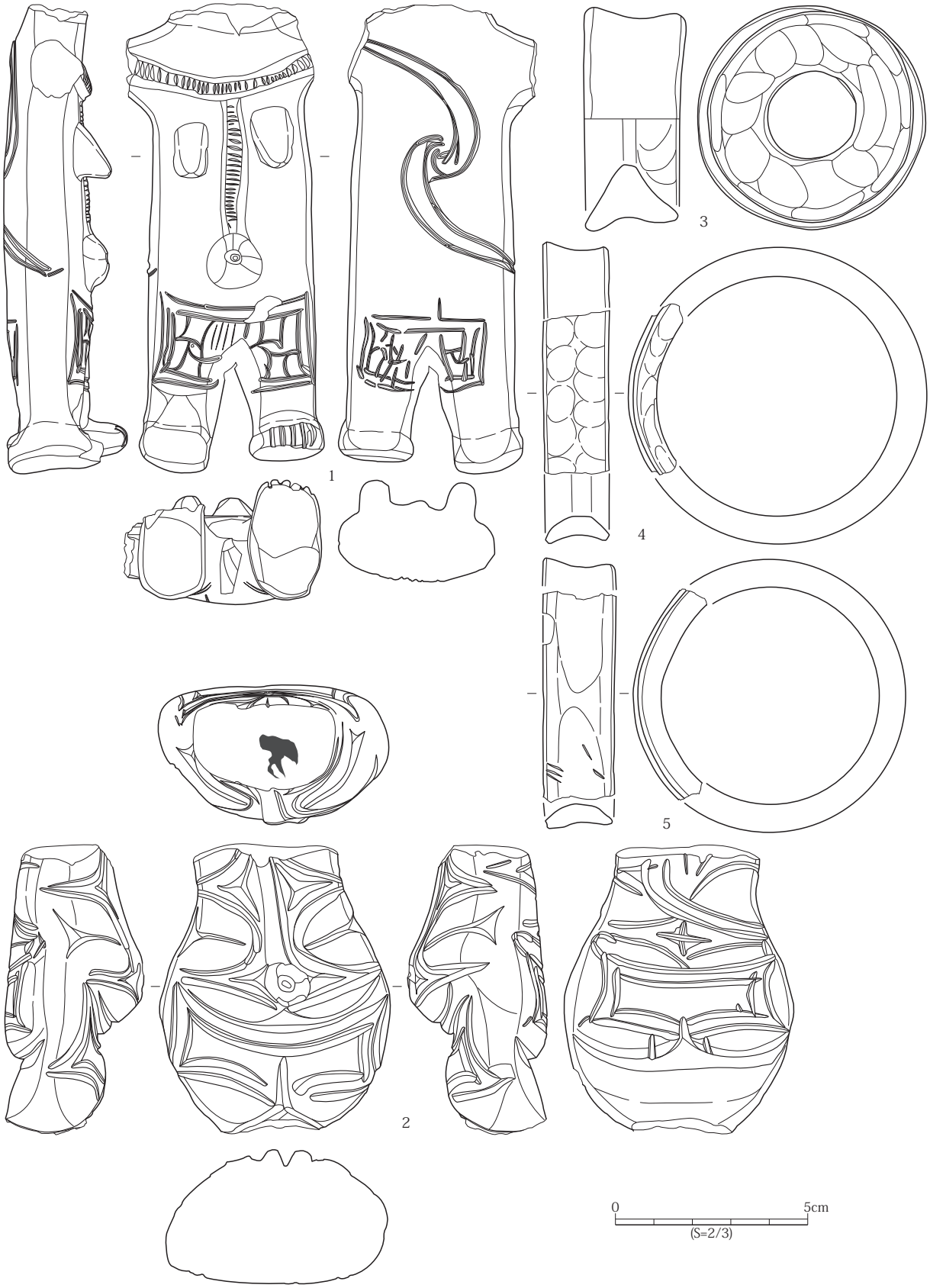
南5層群からは、土偶や耳飾、円盤状土製品などが出土している。土偶には入組文（第151図1）や三叉文（同図2）が施される。また、遺物包含層東側で環形の耳飾がほかの大別層群に比べて多く出土していることが特徴である。

南4B層群からは、三角形を呈する土版や耳飾が出土している。下層の南5層群と同様に環形の耳飾りが多い。

南3層群からは、土偶や土版、耳飾、円盤状土製品などが出土している。土偶の頭部が3点出土しており、角状や半円形の突起が付く（第152図5・6)。

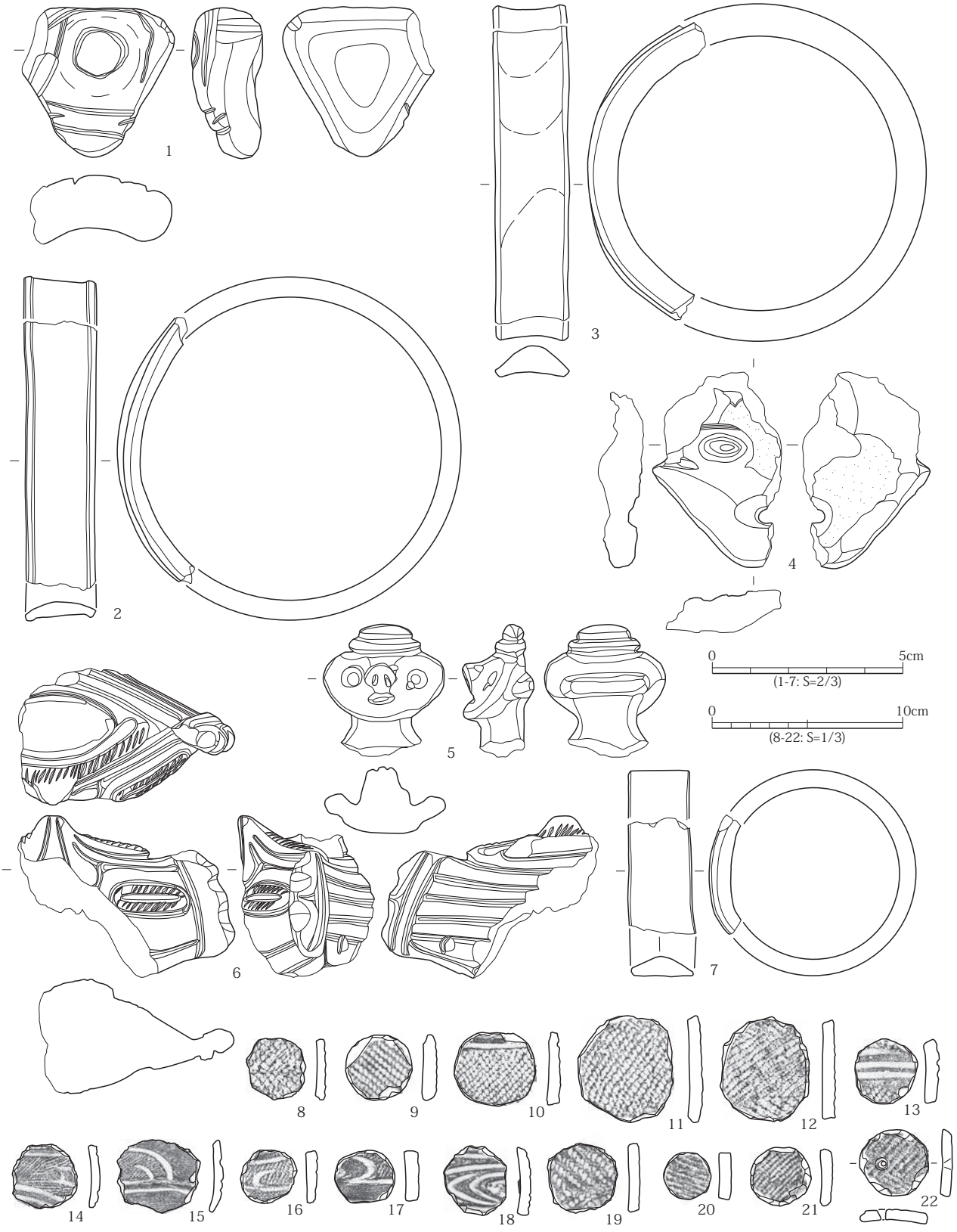
南2B層群からは、土偶や土版、土製仮面、環状土製品、円盤状土製品などが出土している。土偶や土版には、平行する数条の円弧を沈線で左右対称に描く表現が多用される。また、隆帯などに刻目を施す表現も多く見られ、土偶頭部の目の周りにこの表現を用いている。土製仮面は、左眼上部付近の破片であるが、土偶や土版と同様に隆帯に刻目が施される（第153図1)。大和町摺萩遺跡（宮城県教育委員会　1990a）に類例がある。円盤状土製品の素材には雲形文や綾杉状文が施された土器などが用いられる。

南2A層群からは、土偶や動物形土製品（クマ顔)、土版、環状土製品、耳飾、土製小玉、ボタン状土製品、円盤状土製品などが出土している。土偶や土版は下層と同様のものが多く見られるが、クマを擬人化したとみられる動物形土製品(第155図3)など下層では出土していない遺物も散見される。耳飾は下層で多く見られた環形のものではなく、キノコ形のもの（同図5）が出土している。円盤状



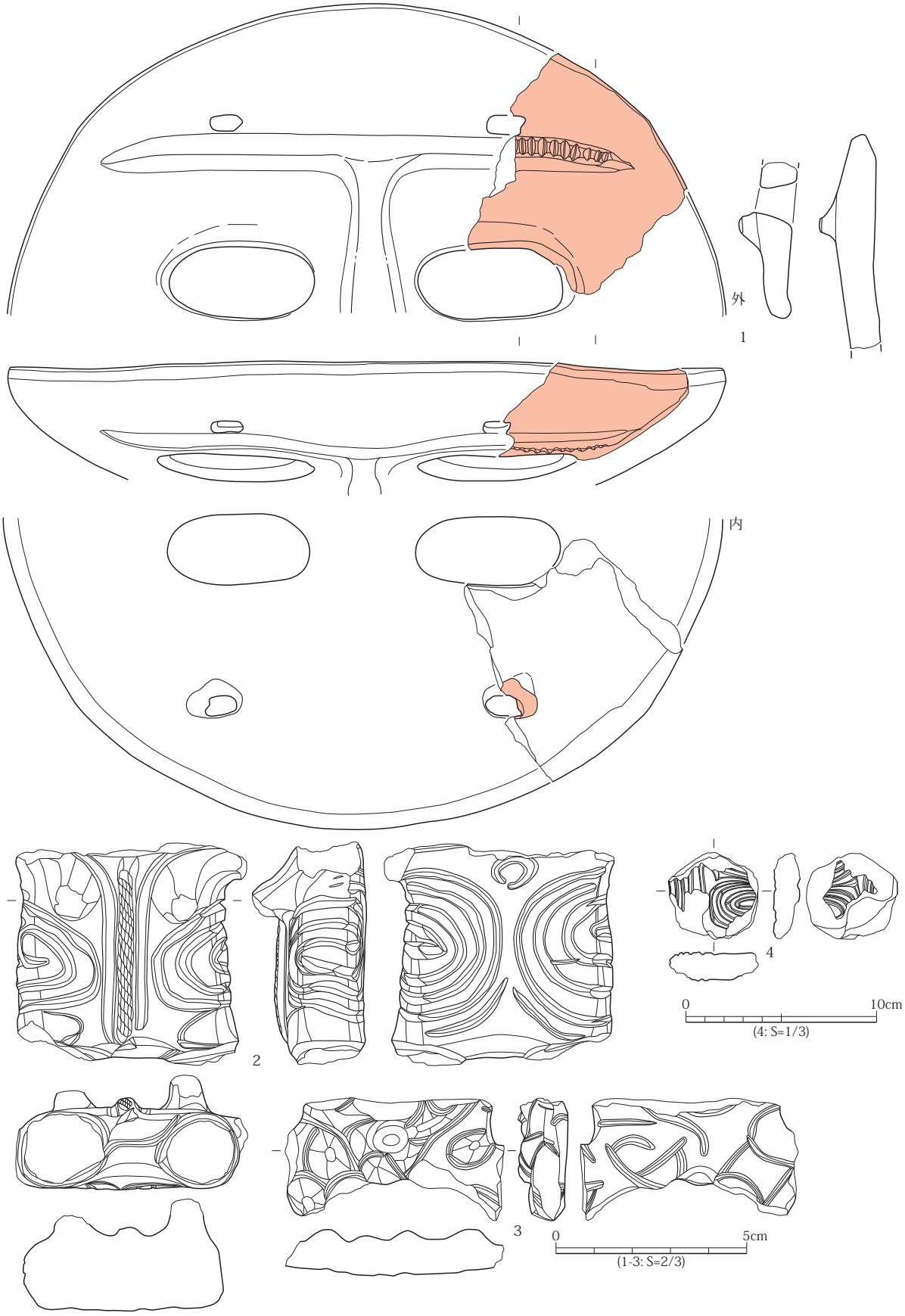
【南5層群】1: 土偶胴部・両脚 / D-57西・Ⅶl-n層 / 130図2, 2: 土偶下半身 / D-57西・Ⅶl-n層 / 130図3, 3: 耳飾 / D-57西・Ⅶl-n層 / 130図4, 4: 耳飾 / D-57西・Ⅶl-n層 / 131図1, 5: 耳飾 / D-57西・Ⅶl-n層 / 131図4 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第151図　東7地点　南斜面遺物包含層　出土土製品（1）



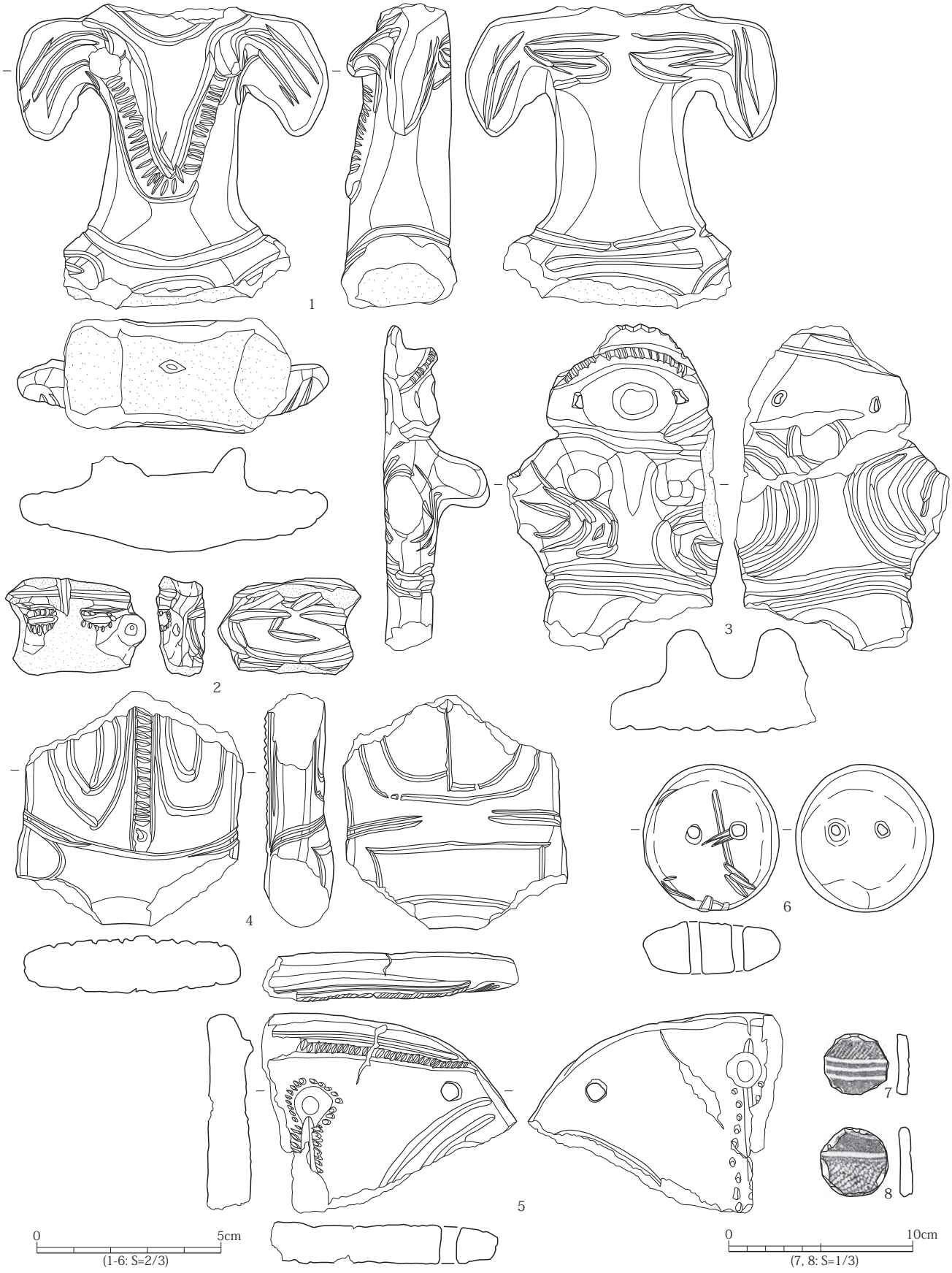
【南4B層群】1: 土版 / D-57西・Ⅵi-n層 / 132図1, 2: 耳飾 / D-57西・Ⅵi-n層 / 132図2, 3: 耳飾 / D-57西・Ⅵi-k層 / 132図3
【南3層群】4: 土偶顔 / D-57西・Ⅵe•f層 / 132図6, 5: 土偶頭部 / D-68北・Ⅵc層 / 132図7, 6: 土偶頭部 / D-54南・Ⅵd1•2層 / 133図1,
7: 耳飾 / D-56西・Ⅵd層 / 133図2, 8: 円盤状土製品 / D-59・Ⅵc•e層 / 133図3, 9: 円盤状土製品 / D-68南・Ⅵc層 / 133図4,
10: 円盤状土製品 / D-68北・Ⅵc層 / 133図5, 11: 円盤状土製品 / D-55東・Ⅵd層 / 133図6, 12: 円盤状土製品 / D-57西・Ⅵe•f層 / 133図7
【南2B層群】13: 円盤状土製品 / D-54北・Ⅵc1層 / 135図10, 14: 円盤状土製品 / D-54北・Ⅵc1•2層 / 135図6,
15: 円盤状土製品 / D-54北・Ⅵc1層 / 135図7, 16: 円盤状土製品 / D-54北・Ⅵc1層 / 135図8, 17: 円盤状土製品 / D-59・Ⅵa2層 / 135図9,
18: 円盤状土製品 / D-54北・Ⅵc1-d2層 / 135図5, 19: 円盤状土製品 / D-68北・Ⅵb層 / 135図11,
20: 円盤状土製品 / D-59・Ⅵa2層 / 135図12, 21: 円盤状土製品 / D-55東・Ⅵb層 / 135図13, 22: 円盤状土製品 / D-54北・Ⅵc2層 / 135図14
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第152図　東7地点　南斜面遺物包含層　出土土製品（2）



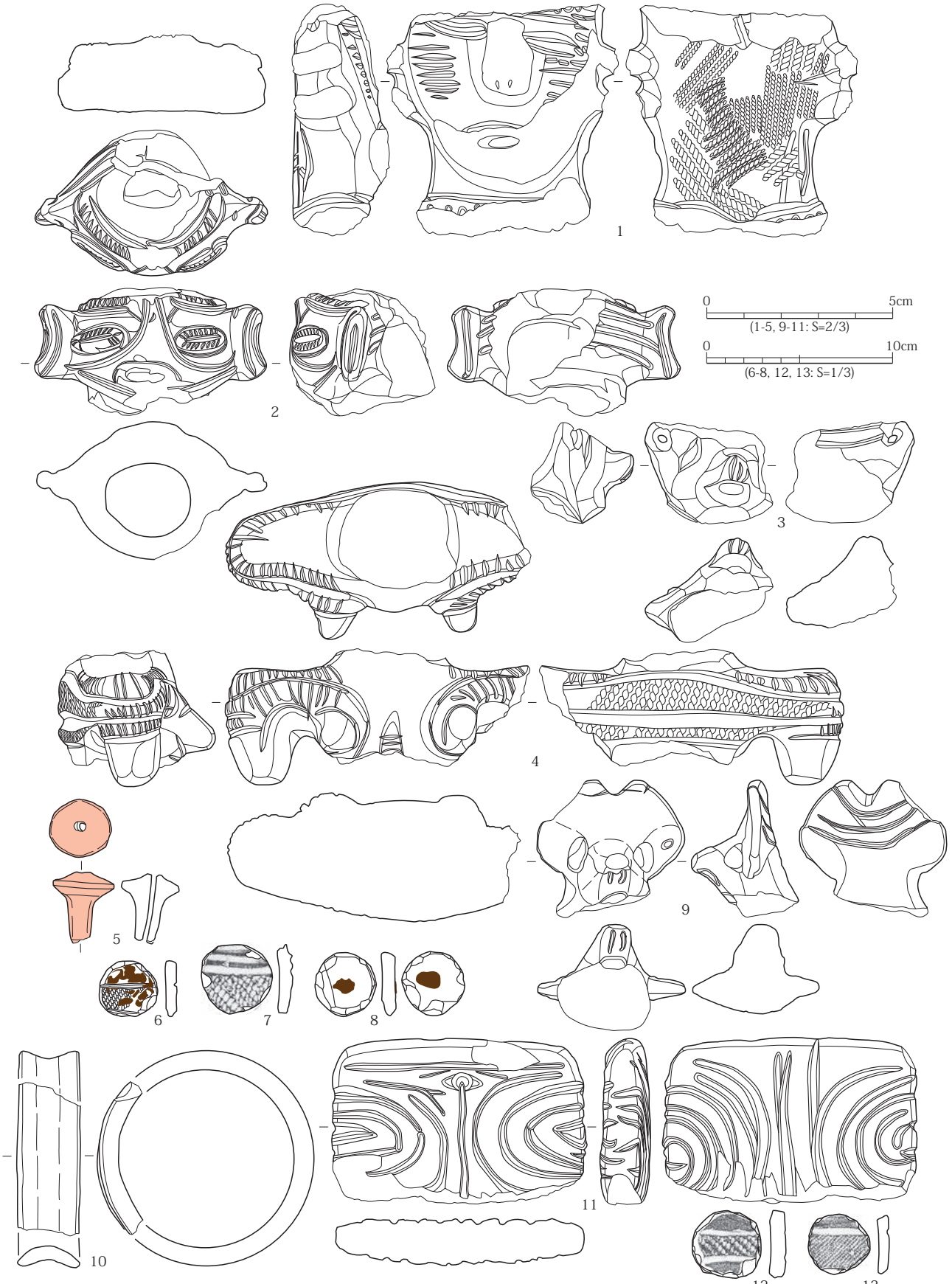
【南2B層群】1: 土面 / D-54北・Ⅵc1層 / 133図8, 2: 土偶胴部 / D-68南・Ⅵb層 / 134図4, 3: 環状土製品か / D-59・Ⅵa2層 / 135図2, 4: 円盤状土製品 / D-54北・Ⅵc1層 / 135図15 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第153図　東7地点　南斜面遺物包含層　出土土製品（3）



【南2B層群】1: 土偶胴部・両腕 / D-68北・Ⅵb層 / 134図3, 2: 土偶頭部 / D-68南・Ⅵb層 / 134図2, 3: 土偶頭部・胴部 / D-59・Ⅵa2層 / 134図1, 4: 土偶胴部 / D-68南・Ⅵb層 / 135図1, 5: 土版 / D-59・Ⅵa2層 / 135図4
【南2A層群】6: ボタン状土製品 / D-68北・Ⅵa層 / 137図5, 7: 円盤状土製品 / D-54北・Ⅵb層 / 137図7, 8: 円盤状土製品 / D-68北・Ⅵa層 / 137図8
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第154図　東7地点　南斜面遺物包含層　出土土製品（4）



【南2A層群】1: 土偶頭部 / D-75・Ⅵb層 / 135図16, 2: 土偶頭部 / D-54南・Ⅵb層 / 136図1,
3: 動物形土製品（クマ顔）/ D-54北・Ⅵb層 / 137図1, 4: 土偶胸部・右腕 / D-74拡張・Ⅵb層 / 136図2, 5: 耳飾 / D-75・Ⅵb層 / 137図6,
6: 円盤状土製品 / D-54北・Ⅵb層 / 137図9, 7: 円盤状土製品 / D-53南・Ⅵb1•2層 / 137図10, 8: 円盤状土製品 / D-53南・Ⅵb1層 / 137図11
【南1層群】9: 動物形土製品（クマ顔）/ D-53南・Ⅵa層 / 137図13, 10: 耳飾 / D-53北・Ⅵa層 / 138図3, 11: 土版 / D-54南・Ⅵa層 / 138図1,
12: 円盤状土製品 / D-57西・Ⅵa層 / 138図8, 13: 円盤状土製品 / D-53南・Ⅵa層 / 138図9 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第155図　東7地点　南斜面遺物包含層　出土土製品（5）

土製品の一部（同図 6・8）には黒色物質（アスファルト?）が付着している。

南 1 層群からは、土偶や動物形土製品（クマ頭）、土版、耳飾、円盤状土製品などが出土している。この層は二次堆積層とみられ古い時期の遺物が多く混入しているが、クマを擬人化したとみられる動物形土製品（第 155 図 9）などは晩期末葉頃のものとみられる。

③石器・石製品

南斜面遺物包含層からは、石鏃 105 点、尖頭器 13 点、石錐 38 点、石匙 9 点、石篦 15 点、打製石斧 1 点、磨製石斧 32 点、板状石器 1 点、楔形石器 111 点、不定形石器 326 点、石皿 139 点、磨石 462 点、凹石 14 点、砥石 6 点、敲石 2 点といったトゥール類や剥片 2,801 点、石核 232 点、また、円盤状石製品 19 点、石錘 2 点、独鈷石 2 点、石棒 44 点、石刀 47 点、異形石器 1 点、小玉 1 点、イモガイ形石製品 (註 9) 1 点、岩版 4 点、線刻礫 2 点、有孔石製品 3 点、不明石製品 15 点といった石製品、あわせて 4,458 点が出土している (註 10)。大別層群別の器種および石材組成を第 18 表に示した。

石製品は、本地点の遺物包含層から 220 点出土しているが、うち 141 点（64%）が南斜面からの出土である。石錘や石冠、独鈷石、石刀の一部などには実用品と見られるものもあるが（宮城県教育委員会　2010a、鹿又　2010）、多くは非実用的な遺物と考えられる。また、北斜面と比べて種類も豊富である。南斜面では土坑墓や埋葬犬骨、集石遺構といった葬送にかかわる遺構が多く検出されていることから、南斜面出土の石製品の多くは葬送行為に関連する遺物であったものとみられる。

なお、石器・石製品は、既刊報告書（宮城県文化財調査報告書第 234 集）において、北斜面遺物包含層出土のものとあわせて詳細に分析を行っており、ここではその概要のみを述べる。分析にかかわる図表は、既刊報告書も合わせて参照されたい。

ｉ）石材選択から石器製作

[石材]

本地点の遺物包含層から出土した石器・石製品の石材について、南斜面と北斜面をあわせてその組

第18表　東7地点　南斜面遺物包含層　石器・石製品の大別層群別器種組成

大別層		石鏃	尖頭器	石錐	石匙	石篦	打製石斧	磨製石斧	板状石器	楔形石器	不定形石器	石皿	磨石	凹石	砥石	敲石	トゥール計	剥片	石核	石器計	円盤状石製品	石錘	石冠	独鈷石	石棒	石刀	異形石器	耳飾か	小玉	イモガイ形石製品	岩版	線刻礫	有孔石製品	不明石製品	石製品計	総計
南 1	西	20	1	13	2	4		4	1	22	91	20	72	3	1	2	256	683	48	987	2	1			4	8	1				1		1	6	24	1011
	東	14		6	1	2		4		13	39	15	40	2	1		137	325	39	501	4				3	4								2	13	514
南 2A	西	32	4	4	1	2		6		23	55	32	99	3			261	516	35	812	5			1	17	14					1			2	40	852
	東	11	1	1	1	2		4		14	15	9	23	1	1		83	198	23	304		1			2	4								7	311
南 2B	西	11	2	8	2	2	1	12		18	62	40	109	3	1		271	456	39	766	7				10	16						1		3	37	803
南 3	西	11	2	3	1	2		2		12	31	11	70	1			146	334	35	515	1				5	1					1		1	1	10	525
	東	2		3	1	1				3	12	3	24		1		50	131	11	192				1	2					1	1			1	6	198
南 4A	東	1									1	1					3	2		5															5
南 4B	東	1	3							3	12	3	9				31	83	4	118												1		1	119
南 5	西	2								1	2	3	10		1		19	18	5	42					1			1						2	44
	東									2	6	2	6	1			17	55	3	75												1		1	76
南計		105	13	38	9	15	1	32	1	111	326	139	462	14	6	2	1274	2801	242	4317	19	2		2	44	47	1		1	1	4	2	3	15	141	4458

第19表　東7地点　南斜面遺物包含層　大別層群別石材組成（トゥール）

トゥール（礫石器を除く）	珪質頁岩A	珪質頁岩B	頁岩	珪質凝灰岩A	珪質凝灰岩B	凝灰岩	安山岩質凝灰岩	デイサイト質凝灰岩	緑色凝灰岩	碧玉A	碧玉B1	碧玉B2	碧玉C	碧玉D	玉髄	流紋岩	黒曜石	粘板岩	片岩	緑色片岩	緑岩	蛇紋岩	蛇紋岩か	安山岩	凝灰質安山岩	デイサイト	ホルンフェルス	珪化木	泥岩	砂岩	凝灰質砂岩	礫岩	総計
南1	130	9	3	14	3	1		1		17	24	4	1	1	14	2	2	4					1	2				2	1	1			237
南2A	58	7	2	7	2	1	1		1	11	16	3	8	2	40	2	1	3			1	1		7		1					1		176
南2B	55	5	1	2	4	2				7	11	2	2		7		3	3	1					8	1			1		2		1	118
南3	39	5	3	11	1					5	9	3	2	1	2		2	1						2									86
南4A	1										1																						2
南4B	14	3													1													1					19
南5	7	2	1							3																							13
南斜面計	304	31	10	34	10	4	1	1	1	43	61	12	13	4	64	4	8	11	1		1	1	1	19	1	1		4	1	3	1	1	651

第20表　東7地点　南斜面遺物包含層　大別層群別石材組成（礫石器）

礫石器	頁岩	珪質凝灰岩A	珪質凝灰岩B	凝灰岩	流紋岩質凝灰岩	安山岩質凝灰岩	デイサイト質凝灰岩	碧玉A	玉髄	流紋岩	流紋岩（真珠岩）	粘板岩	千枚岩	玄武岩	安山岩	凝灰質安山岩	玄武岩質安山岩	デイサイト	ホルンフェルス	石英斑岩	花崗岩	閃緑岩	軽石	泥岩	砂岩	凝灰質砂岩	礫岩	総計
南1	3	1	1	33	1	12	1	1		1	2	5		1	57	3	1	17	3		3	1	3	2	1	3		156
南2A	2			29		19	1		1			6			87	6	1	12		1			3					168
南2B	1	1		41		19	1			3	1	4		1	58	3		11			5		2	2				153
南3			1	25		14						3		2	47	3		10			3					2		110
南4A																		1										1
南4B				2		1						1			6			1					1					12
南5			1	6		3									11			1				1						23
南斜面計	6	2	3	136	1	68	3	1	1	4	3	19		4	266	15	2	53	3	1	11	2	9	4	1	5		623

第21表　東7地点　南斜面遺物包含層　大別層群別石材組成（剥片・石核）　点数

剥片・石核	珪質頁岩A	珪質頁岩B	頁岩	珪質凝灰岩A	珪質凝灰岩B	凝灰岩	安山岩質凝灰岩	碧玉A	碧玉B1	碧玉B2	碧玉C	碧玉D	玉髄	流紋岩	黒曜石	粘板岩	片岩	玄武岩	安山岩	ホルンフェルス	花崗岩	アプライト	石英	珪化木	泥岩	凝灰質砂岩	総計
南1	454	56	13	75	33	19	2	32	134	31	75	10	82	8	20	32	2		3	3	1		2	6	1	1	1095
南2A	282	32	9	38	27	15		18	96	19	49	13	103	5	9	42			4					10	1		772
南2B	179	25	6	38	21	8	1	16	75	17	24	14	32	5	8	13			3	1			2	6	1		495
南3	195	29	6	36	15	15		22	69	10	37	6	36	3	12	11			6			1		2			511
南4A	1	1																									2
南4B	38	6	3	4	1	1		5	5	1	2		16	1		2								1		1	87
南5	33	7	1	7	3	3		5	13	1			3		2	3											81
南斜面計	1182	156	38	198	100	61	3	98	392	79	187	43	272	22	51	103	2		16	4	1	1	4	25	3	2	3043

第22表　東7地点　南斜面遺物包含層　大別層群別石材組成（剥片・石核）　重量（g）

剥片・石核	珪質頁岩A	珪質頁岩B	頁岩	珪質凝灰岩A	珪質凝灰岩B	凝灰岩	安山岩質凝灰岩	碧玉A	碧玉B1	碧玉B2	碧玉C	碧玉D	玉髄	流紋岩
南1	2359.3	259.3	151.2	278.4	684.4	76.6	220.6	92.0	443.5	164.9	405.0	40.1	437.4	102.7
南2A	1440.2	145.4	123.0	210.6	155.3	103.6		117.6	237.3	94.5	250.4	129.5	186.1	40.9
南2B	1593.0	188.3	210.3	130.5	87.9	33.4	3.5	203.7	247.7	67.5	94.8	50.4	87.8	43.8
南3	1042.3	205.2	107.9	118.7	123.3	216.1		95.9	291.1	44.5	163.3	50.7	169.8	39.0
南4A	1.8	0.1												
南4B	150.2	22.0	101.3	8.2	1.4	0.5		24.3	12.0	0.5	4.6		38.9	10.6
南5	98.9	30.5	153.1	68.8	45.6	4.2		16.0	60.8	22.9			10.6	
南斜面計	6685.7	850.7	846.8	815.2	1097.9	434.4	224.1	549.4	1292.5	394.7	918.0	270.7	930.6	236.9

剥片・石核	黒曜石	粘板岩	片岩	玄武岩	安山岩	ホルンフェルス	花崗岩	アプライト	石英	珪化木	泥岩	凝灰質砂岩	総計
南1	80.0	599.9	24.3		15.0	34.1	42.6		1.4	28.8	10.7	12.1	6564.0
南2A	33.7	281.8			40.6					88.0	53.6		3732.0
南2B	34.8	62.4			20.9	4.4			199.5	47.1	4.7		3416.2
南3	44.6	166.6			58.0			36.2		8.6			2981.7
南4A													1.9
南4B		9.1								3.1		13.1	399.8
南5	7.4	122.5											641.1
南斜面計	200.5	1242.2	24.3		134.4	38.4	42.6	36.2	200.9	175.7	69.0	25.1	17736.7

成について検討する（第 19 ～ 22 表）。剥片石器では珪質頁岩 (註 11) が最も多く用いられ、次いで碧玉 (註 12)、ほかに玉髄や珪質凝灰岩 (註 13) も多く利用される。ただし、器種によりその傾向は異なり、主要な石材である珪質頁岩は、尖頭器や石錐、石篦で 6 割以上を占めるが、石鏃や楔形石器、不定形石器では 6 割未満となり、代わって碧玉や玉髄、珪質凝灰岩の割合が大きくなる。また、磨製石斧では安山岩が最も多く用いられている。礫石器では安山岩が最も多く用いられ、凝灰岩も多く利用される。剥片および石核では珪質頁岩が最も多く用いられ、次いで碧玉が多く用いられている。剥片・石核の石材組成は、石鏃や楔形石器、不定形石器のそれに類似し、両者の関係性は大きいものと考えられる。石製品においても器種により石材の選択が異なり、円盤状石製品では凝灰岩と安山岩、石棒・石刀では粘板岩、その他の石製品では凝灰岩が多く利用される傾向が見られる。

層位別（時期別）では、複数の器種で石材利用の変化を見ることができる。石鏃は、下層と比べて上層において珪質頁岩の利用の割合がやや大きくなる傾向が見られる。楔形石器は、碧玉で下層と比べて上層においてその割合がやや大きくなる。剥片・石核では、点数比を見ると、南斜面および北斜面ともに上層になるにつれて珪質頁岩の割合が小さくなる傾向が認められ、特に北斜面で顕著に認められる。重量比からも北斜面で同様の傾向が顕著に認められ、加えて、南斜面および北斜面ともに上層になるにつれて碧玉の割合が大きくなる傾向が見られる。

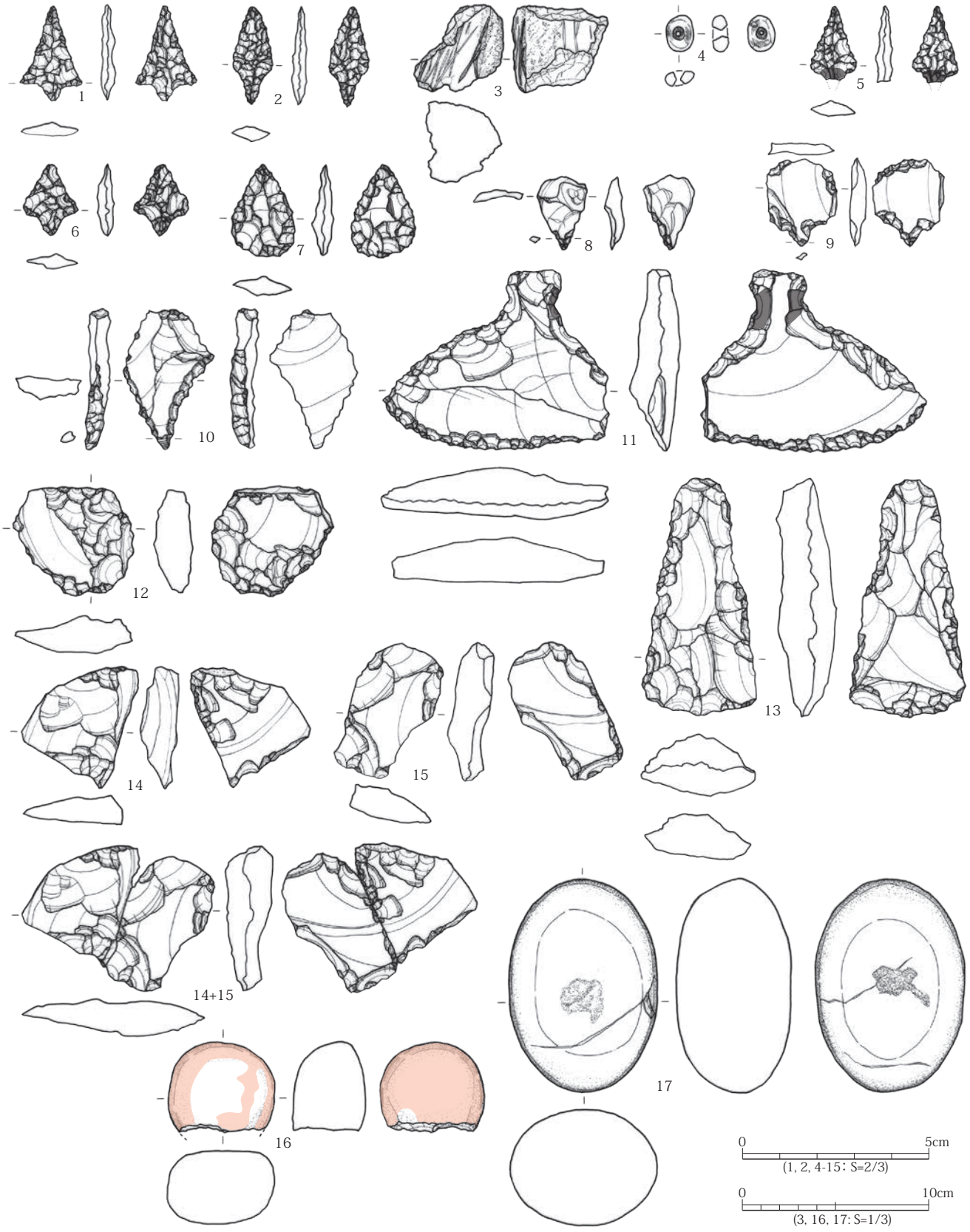
［石器の製作］

遺物包含層に含まれる自然石の石材組成は、凝灰岩が点数比・重量比ともに半数近い割合を占め、次いで安山岩の割合が大きい。このことは、珪質頁岩や碧玉などを主体とする剥片・石核の石材組成とは大きく異なる。また、自然石の主体となる凝灰岩は、石器にはあまり利用されていないことから、剥片石器に用いる石材のほとんどが遺跡外からの搬入と判断される。その搬入形態については、剥片・石核で自然面を有するものの割合が重量比で 50％以上あることから、原石もしくはそれに近い状態で搬入され、遺跡内で剥片生産が行われたものと推定できる。

剥片石器に用いられる石材と、剥片・石核の石材の種類に大きな差異は認められないことから、遺跡内で生産された剥片は、各種剥片石器の素材となったとみられる。前述のとおり、剥片・石核の石材組成は、石鏃や楔形石器、不定形石器の石材組成に類似することから、特にこれらの器種に用いられたものと推定される。それ以外の剥片石器（石錐や石匙など）は剥片・石核と石材組成が異なり、珪質頁岩の割合が大きくなるが、このことは、特に良質な珪質頁岩を意図的に選択した結果であるとみられるとともに、一部製品が直接搬入された可能性も考慮する必要がある。

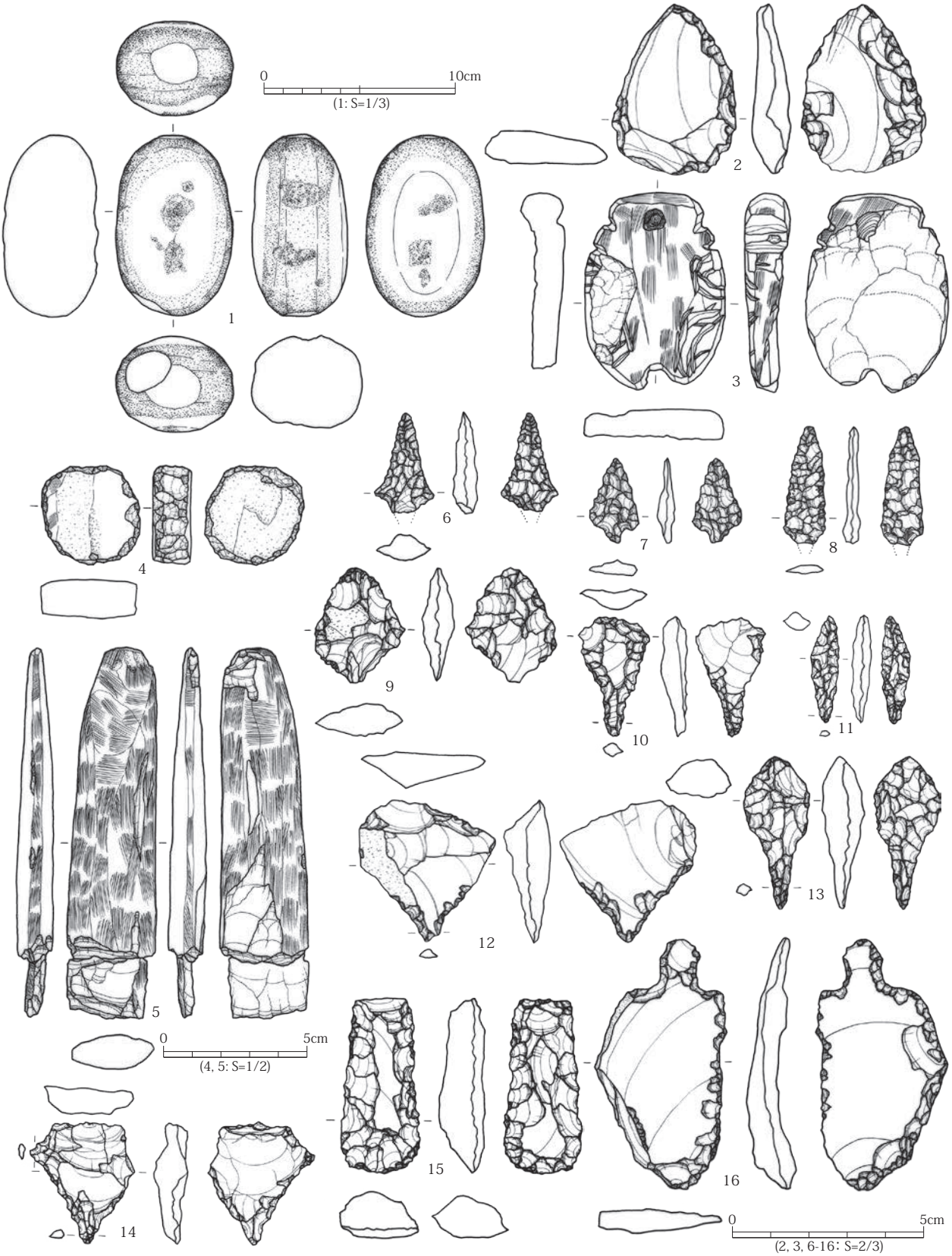
剥片剥離方法に着目すると、剥片素材の石核が約半数を占める。一方で、剥片素材の石核から剥離された剥片の背面にポジ面（素材剥片の腹面）を有するものは、点数比で 1/3 以上を占め、重量比ではその割合がさらに小さくなる。このことから、剥片素材の石核から剥離された剥片が小型で、石鏃等の小型石器の製作を意図して用いられた剥片剥離方法の可能性が考えられる。

また、剥片・石核の剥離面に光沢を有するものが一定量存在し、これらは加熱処理の痕跡の可能性が考えられる（御堂島　1993a・b）。点数比で 1 ～ 2 割程度にその痕跡が観察され、剥片生産の段階で一部の石核で加熱処理が行われている。これを重量比にするとその割合は小さくなることか



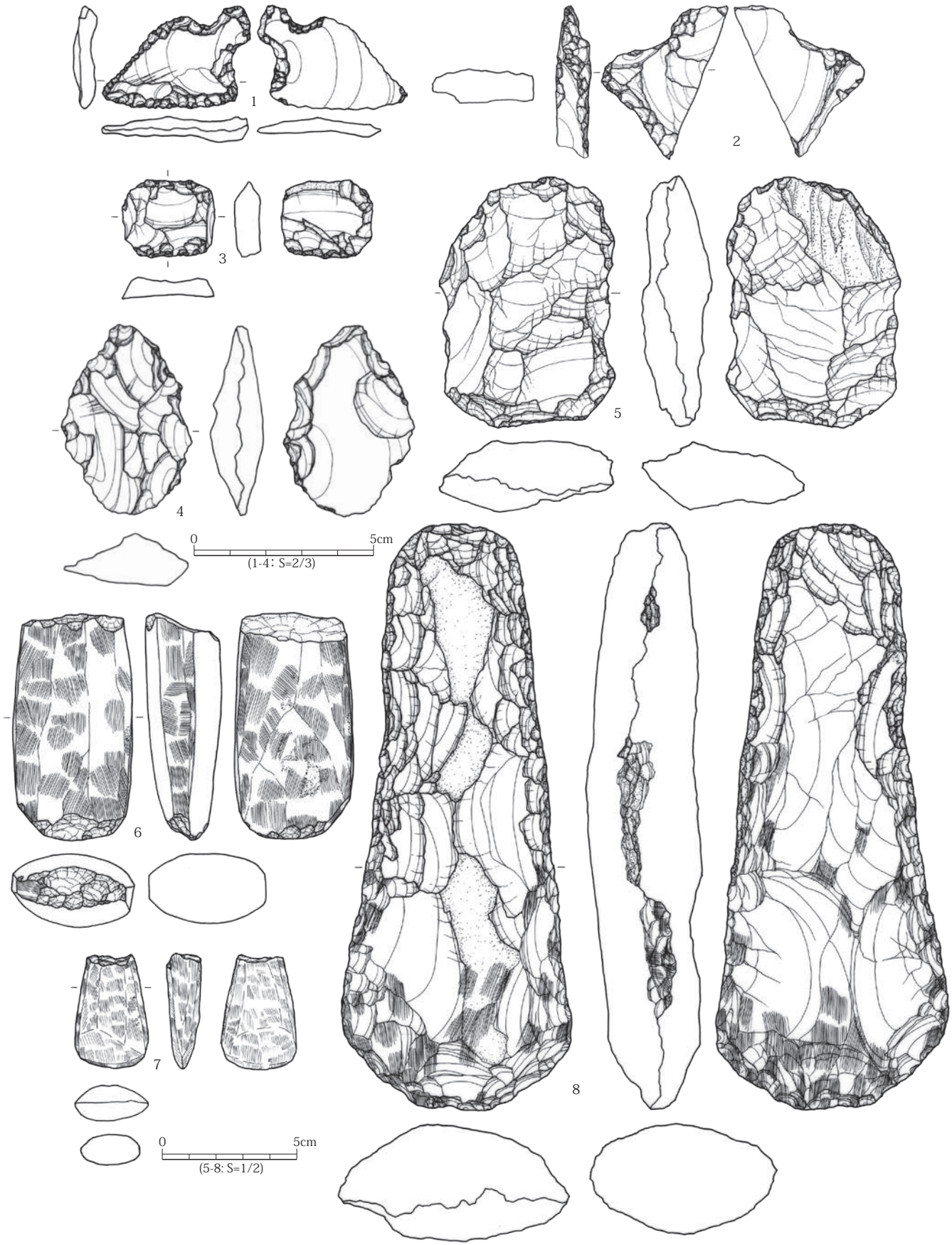
【南5層群】1: 石鏃 / D-59・Ⅵg層 / 139図1，2: 石鏃 / D-59・Ⅵg層 / 139図2，3: 砥石 / D-59・Ⅵf層 / 139図3，4: 小玉 / D-59・Ⅵg層 / 139図4
【南3層群】5: 石鏃 / D-53南・Ⅵc1-2層 / 139図6，6: 石鏃 / D-54北・Ⅵd1層 / 139図8，7: 石鏃 / D-54南・Ⅵd1-2層 / 139図9，
8: 石錐 / D-54北・Ⅵd2層 / 139図16，9: 石錐 / D-54北・Ⅵd1-2層 / 139図13，10: 石錐 / D-68北・Ⅵc層 / 139図15，
11: 石匙 / D-55東・Ⅵc1層 / 139図14，12: 楔形石器 / D-59・Ⅵc層 / 139図18，13: 石篦 / D-53南・Ⅵc2層 / 139図17，
14: 楔形石器 / D-68南・Ⅵc層 / 140図1，15: 楔形石器 / D-68南・Ⅵc層 / 140図2，16: 磨石 / D-53北・Ⅵc層 / 140図10，
17: 磨石 / D-68北・Ⅵc層 / 141図1 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第156図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土石器・石製品（1）



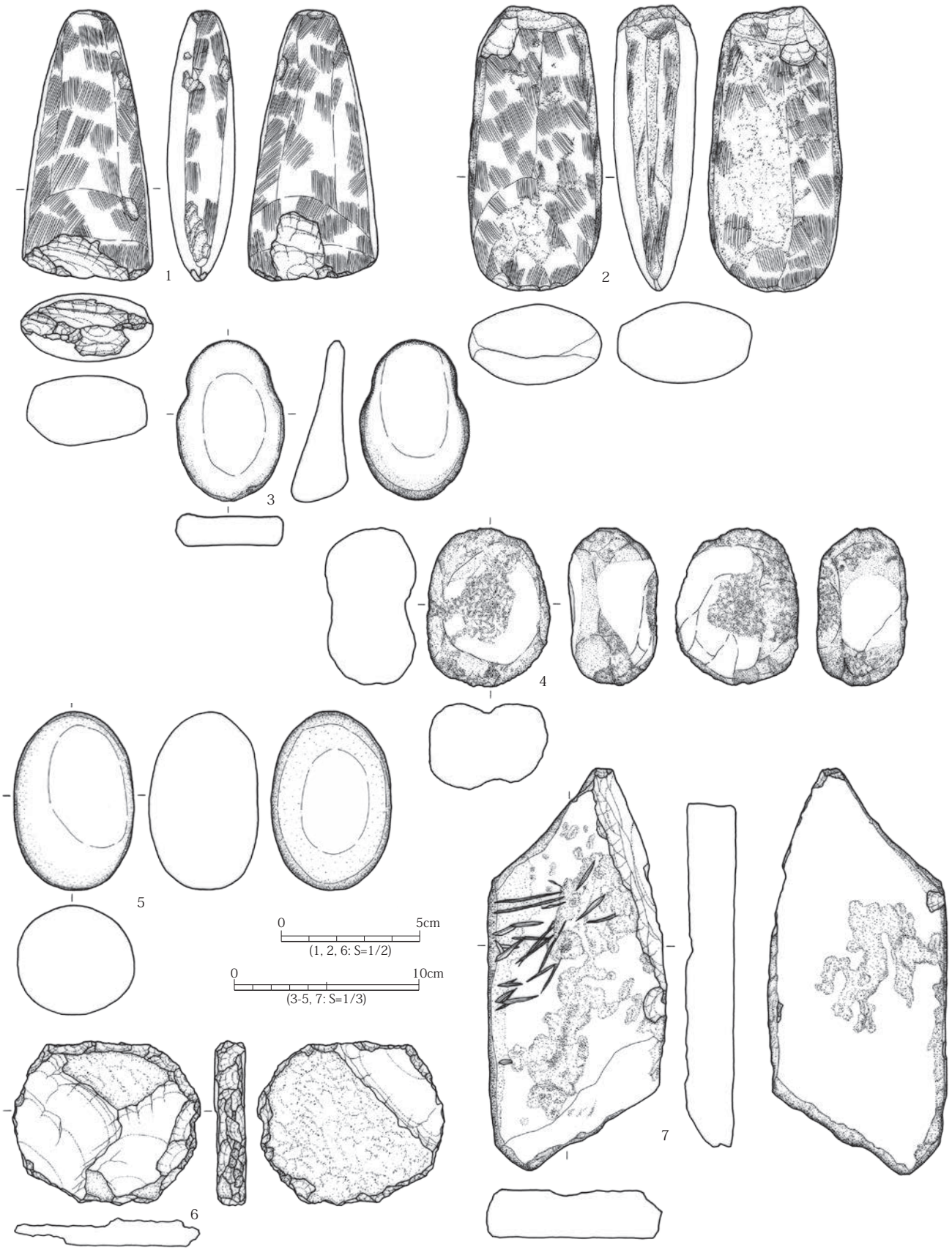
【南3層群】1: 磨石 / D-54南・Ⅵd1-2層 / 141図2, 2: 不定形石器 / D-53南・Ⅵc1-2層 / 140図6, 3: 岩版 / D-53南・Ⅵc1-2層 / 141図9,
4: 円盤状石製品 / D-54北・Ⅵd2層 / 141図6, 5: 石刀 / D-55東・Ⅵc1層 / 141図8
【南2B層群】6: 石鏃 / D-54北・Ⅵc1-2層 / 142図2, 7: 石鏃 / D-54北・Ⅵc1-2層 / 142図3, 8: 石鏃 / D-54北・Ⅵc1層 / 142図5,
9: 石鏃 / D-54南・Ⅵc2-3層 / 142図6, 10: 石錐 / D-54北・Ⅵc1-2層 / 142図9, 11: 石錐 / D-54北・Ⅵc1層 / 142図8,
12: 石錐 / D-54南・Ⅵc1-3層 / 142図12, 13: 石錐 / D-54北・Ⅵc2層 / 142図10, 14: 石錐 / D-68南・Ⅵb層 / 142図11,
15: 石篦 / D-59・Ⅵa1-2層 / 142図15, 16: 石匙 / D-68北・Ⅵb層 / 142図14 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第157図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土石器・石製品（2）



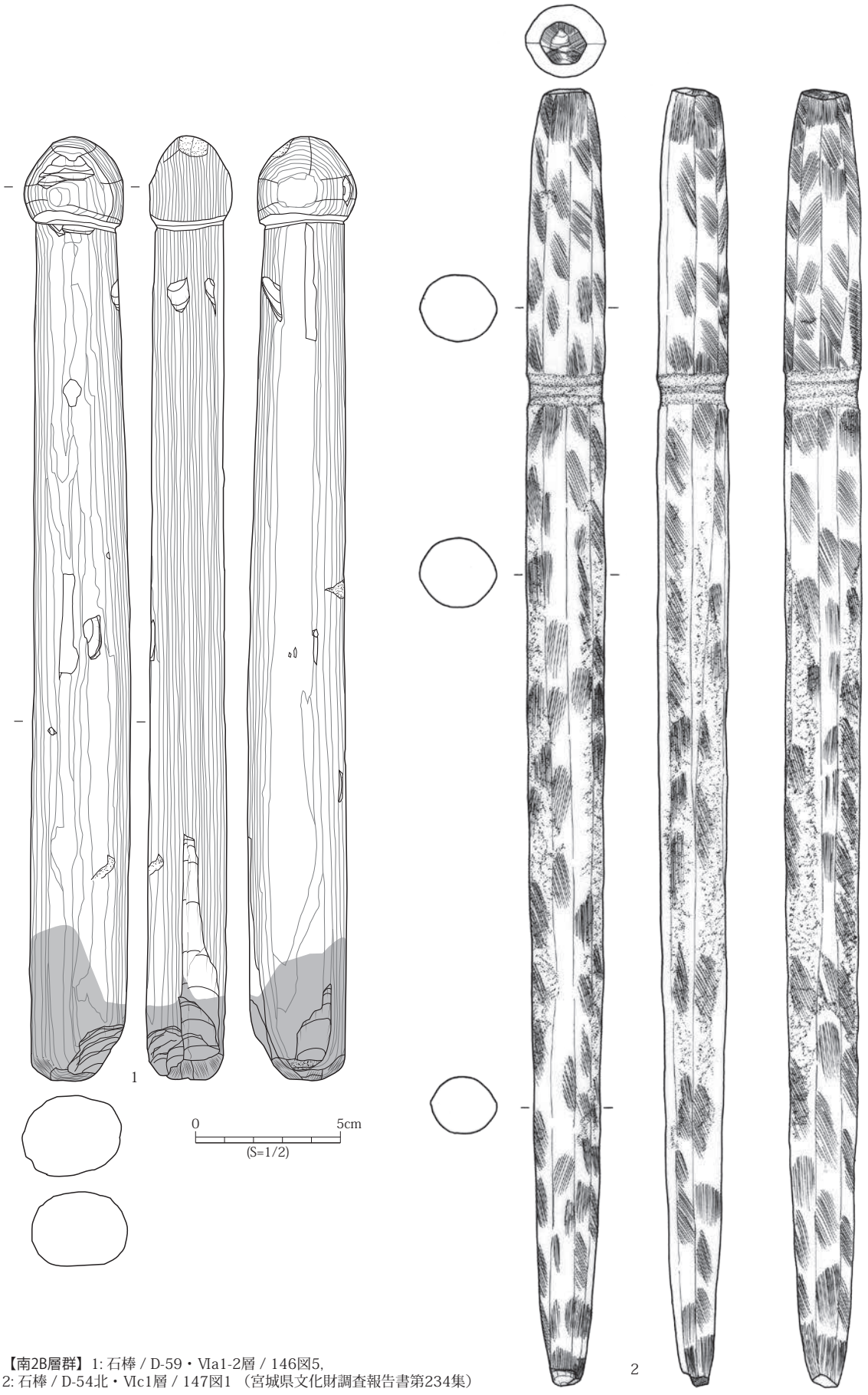
【南2B層群】1: 石匙 / D-59・Ⅵa2層 / 142図13, 2: 不定形石器 / D-54南・Ⅵc1-3層 / 144図11, 3: 楔形石器 / D-59・Ⅵa-e層 / 144図3, 4: 不定形石器 / D-54北・Ⅵc2層 / 144図7, 5: 打製石斧 / D-68北・Ⅵb層 / 144図1, 6: 磨製石斧 / D-54南・Ⅵc1-3層 / 143図5, 7: 磨製石斧 / D-68北・Ⅵb層 / 143図2, 8: 磨製石斧 / D-54南・Ⅵc1-d2層 / 143図1 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第158図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土石器・石製品（3）



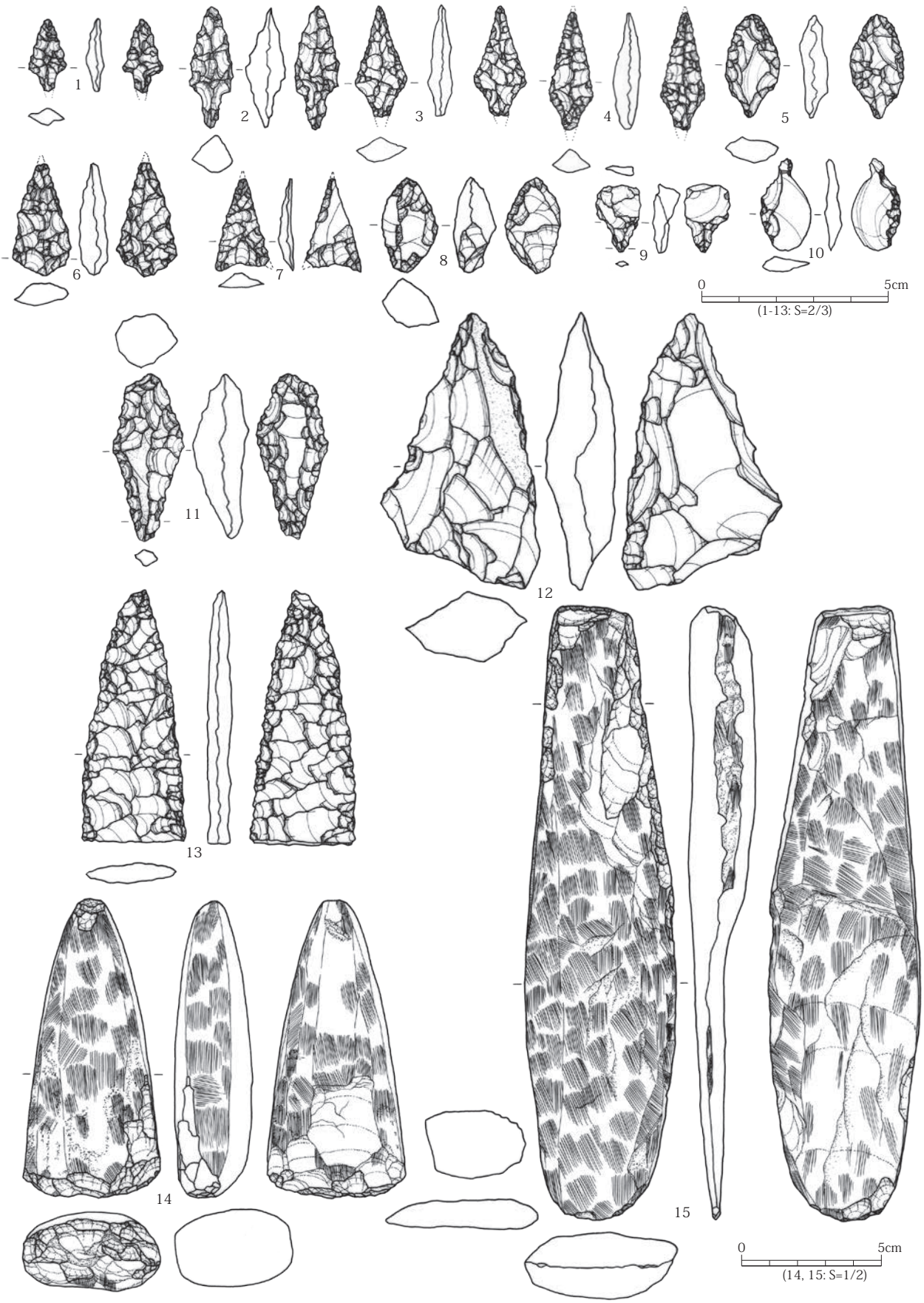
【南2B層群】 1: 磨製石斧 / D-68北・Ⅵb層 / 142図16, 2: 磨製石斧 / D-79・Ⅵb層 / 143図4, 3: 石皿 / D-79・Ⅵb層 / 145図9, 4: 磨石 / D-54北・Ⅵc2層 / 145図5, 5: 磨石 / D-59・Ⅵa1-2層 / 145図2, 6: 円盤状石製品 / D-54南・Ⅵc1-d2層 / 146図3, 7: 石皿 / D-59・Ⅵa1-2層 / 145図1 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第159図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土石器・石製品（4）



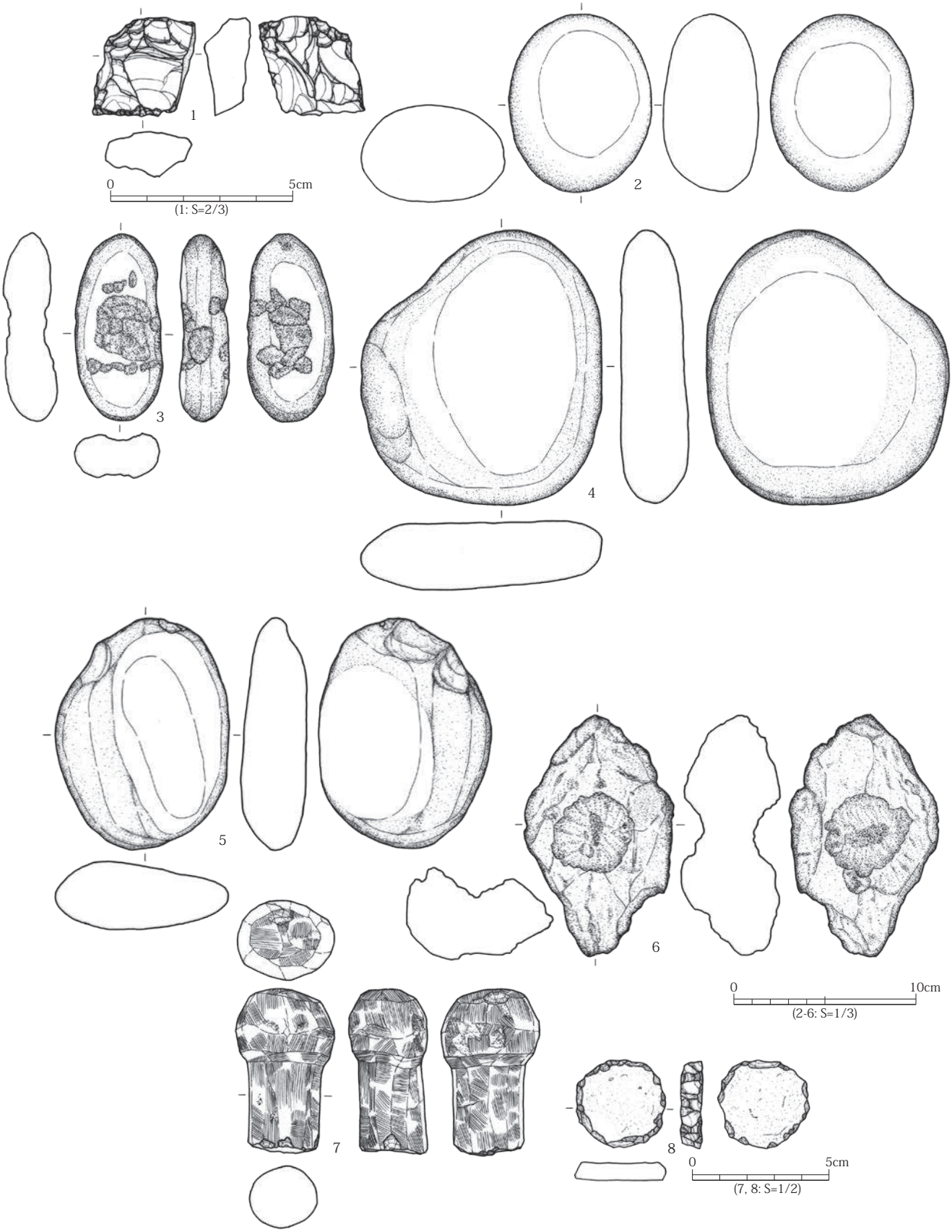
【南2B層群】1: 石棒 / D-59・Ⅵa1-2層 / 146図5,
2: 石棒 / D-54北・Ⅵc1層 / 147図1 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第160図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土石器・石製品（5）



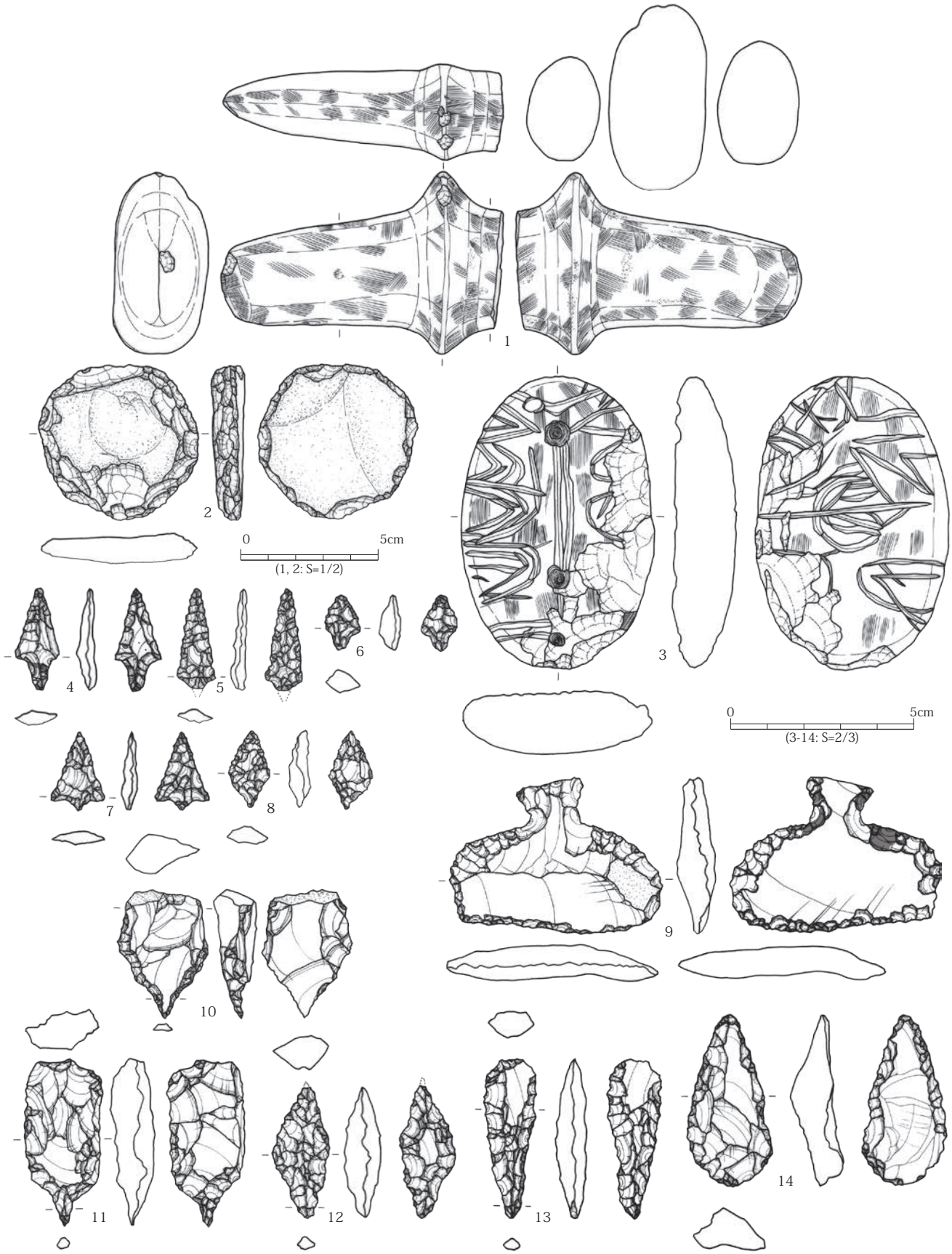
【南2A層群】1: 石鏃 / D-54北・Ⅵb層 / 148図1, 2: 石鏃 / D-54北・Ⅵb層 / 148図3, 3: 石鏃 / D-79・Ⅵ層 / 148図4,
4: 石鏃 / D-55西・Ⅵa層 / 148図5, 5: 石鏃 / D-68北・Ⅵa層 / 148図6, 6: 石鏃 / D-53南・Ⅵb1-2層 / 148図8,
7: 石鏃 / D-53南・Ⅵb1-2層 / 148図9, 8: 石鏃 / D-53南・Ⅵb1-2層 / 148図13, 9: 石錐 / D-68北・Ⅵa層 / 148図22,
10: 石匙 / D-55東・Ⅵa層 / 148図23, 11: 石錐 / D-54南・Ⅵb層 / 148図21, 12: 尖頭器 / D-53南・Ⅵb1層 / 148図19,
13: 尖頭器 / D-55西・Ⅵa層 / 148図20, 14: 磨製石斧 / D-53南・Ⅵb1層 / 149図4, 15: 磨製石斧 / D-55東・Ⅵa層 / 149図3
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第161図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土石器・石製品（6）



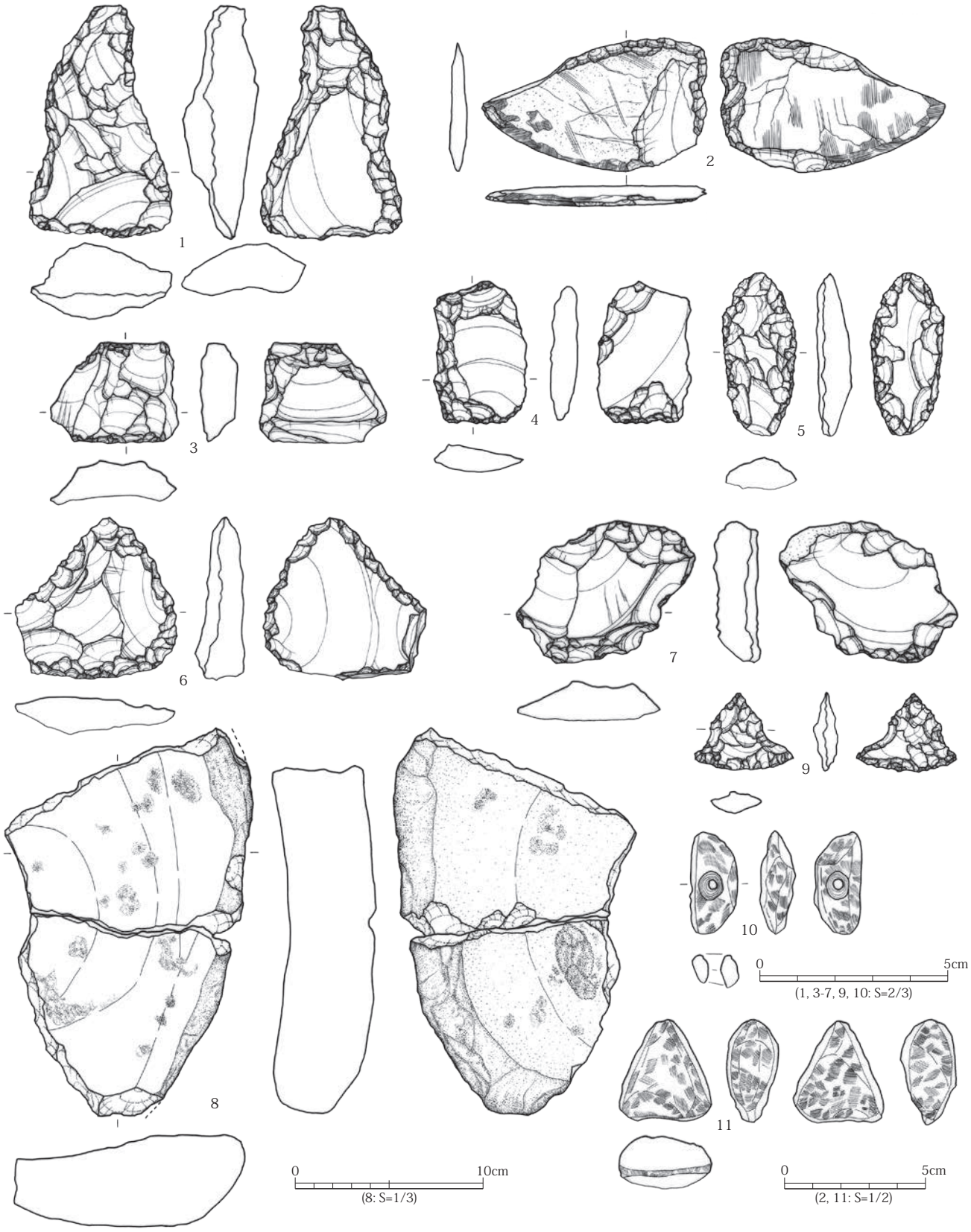
【南2A層群】1: 楔形石器 / D-55東・Ⅵa層 / 149図9, 2: 磨石 / D-55東・Ⅵ層 / 150図9, 3: 凹石 / D-55・Ⅵa層 / 151図2,
4: 磨石 / D-53南・Ⅵb1層 / 150図1, 5: 磨石 / D-53南・Ⅵb1-2層 / 150図4, 6: 凹石 / D-55東・Ⅵa層 / 150図11, 7: 石棒 / D-55西・Ⅵa層 / 151図8,
8: 円盤状石製品 / D-68北・Ⅵa層 / 151図5 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第162図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土石器・石製品（7）



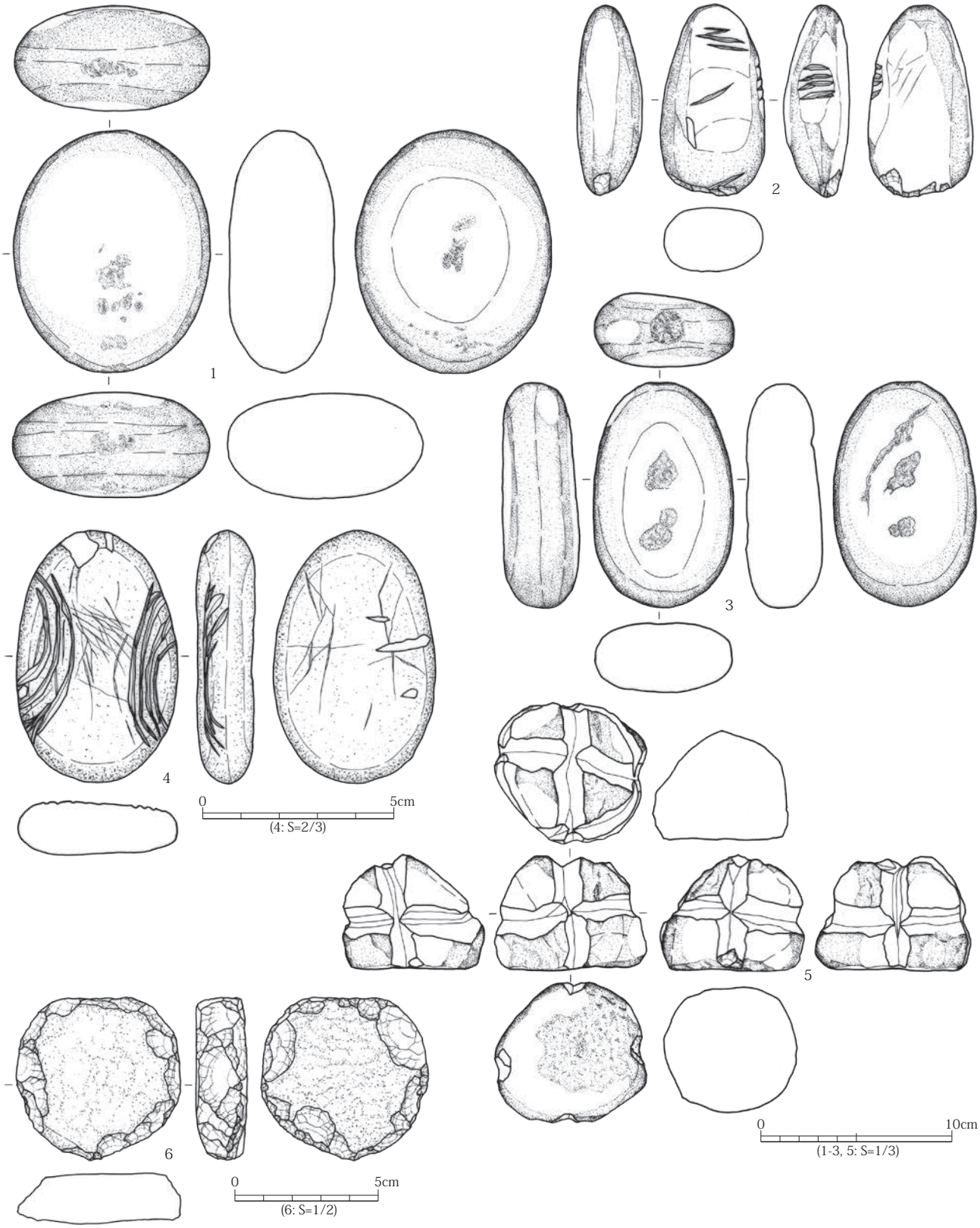
【南2A層群】1: 独鈷石 / D-55西・VIa層 / 151図6, 2: 円盤状石製品 / D-55東・VIa層 / 151図3, 3: 岩版 / D-54北・VIb / 152図1
【南1層群】4: 石鏃 / D-54北・VIa層 / 152図3, 5: 石鏃 / D-53南・VIa層 / 152図5, 6: 石鏃 / D-54北・VIa層 / 152図6,
7: 石鏃 / D-54北・VIa層 / 152図7, 8: 石鏃 / D-54北・VIa層 / 152図8, 9: 石匙 / D-54北・VIa層 / 153図1, 10: 石錐 / D-53南・VIa層 / 152図12,
11: 石錐 / D-53南・VIa層 / 152図15, 12: 石錐 / D-53南・VIa層 / 152図17, 13: 石錐 / D-54北・VIa層 / 152図18,
14: 尖頭器 / D-54北・VIa層 / 152図10 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第163図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土石器・石製品（8）



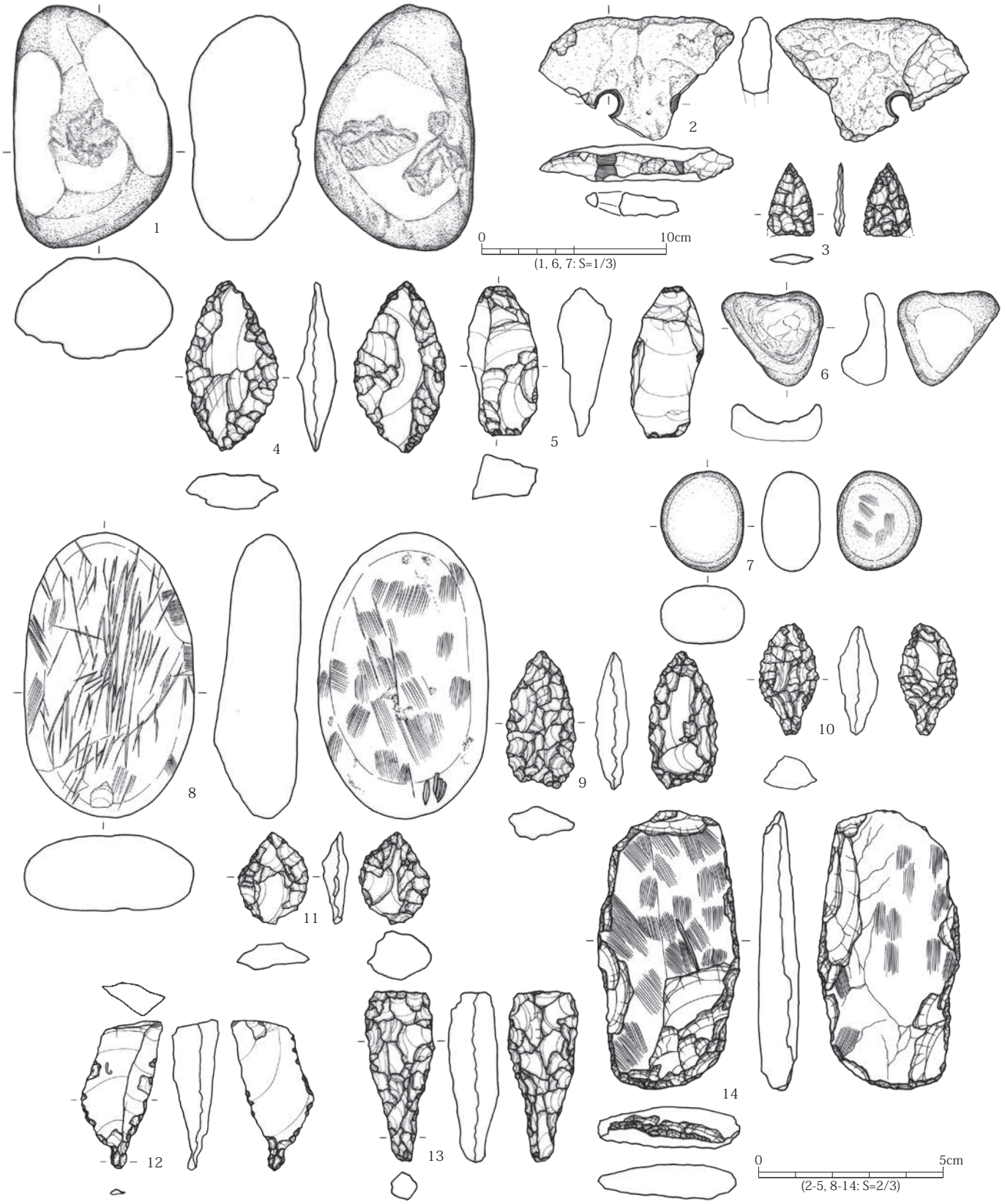
【南1層群】1: 石篦 / D-54北・VIa層 / 153図3, 2: 板状石器 / D-54北・VIa層 / 153図5, 3: 楔形石器 / D-54北・VIa層 / 153図6, 4: 楔形石器 / D-54北・VIa層 / 153図9, 5: 不定形石器 / D-54北・VIa層 / 153図11, 6: 不定形石器 / D-54北・VIa層 / 153図13, 7: 不定形石器 / D-54北・VIa層 / 154図4, 8: 石皿 / D-53・VIa層 / 154図11, 9: 異形石器 / D-54北・VIa層 / 156図6, 10: 有孔石製品 / D-54北・VIa層 / 156図9, 11: 不明石製品 / D-53南・VIa-b2層 / 156図5 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第164図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土石器・石製品（9）



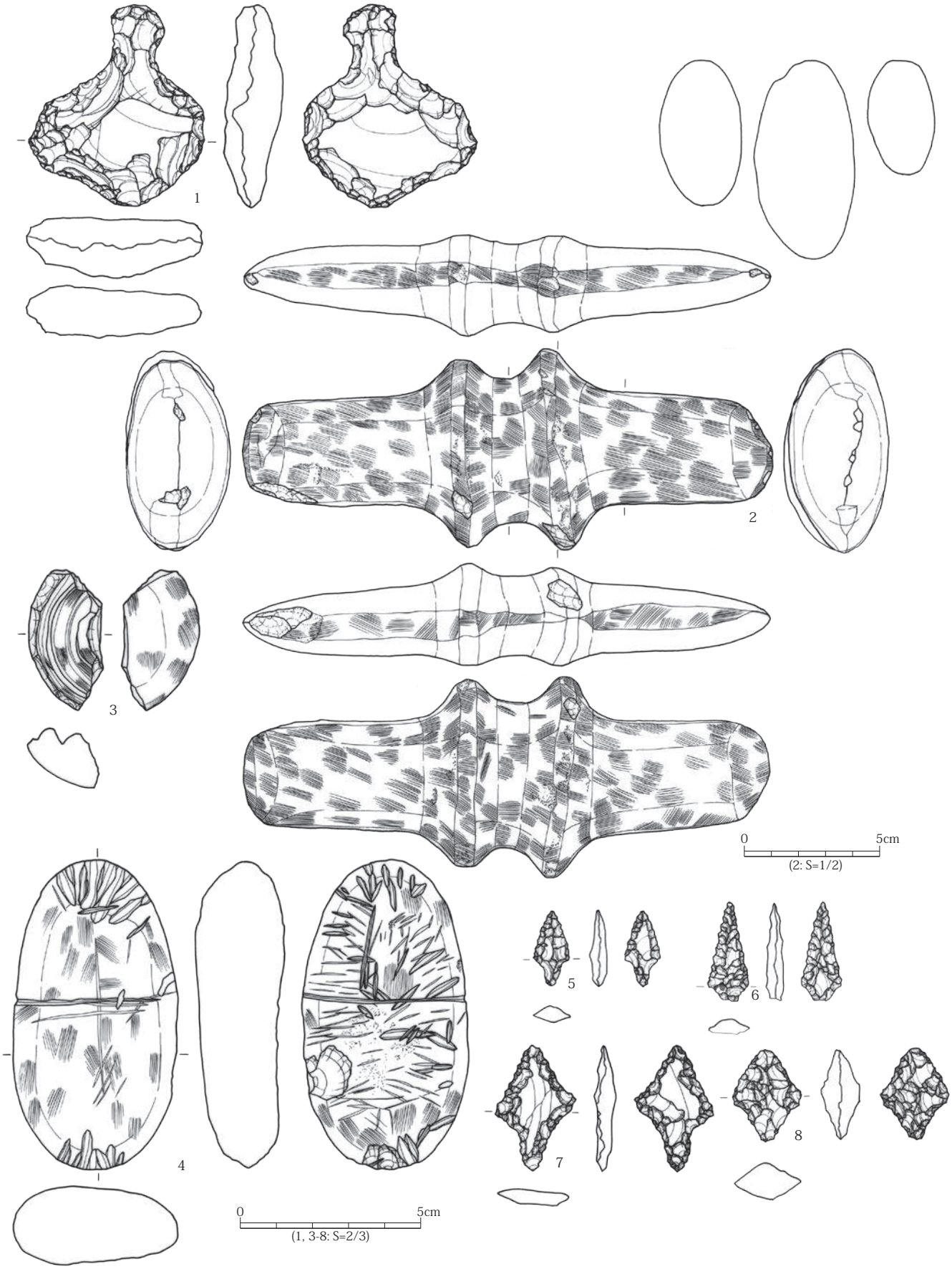
【南1層群】1: 敲石 / D-54北・VIa層 / 156図2, 2: 磨石 / D-54・VIa層 / 155図5, 3: 凹石 / D-54北・VIa層 / 155図9, 4: 岩版 / D-53南・VIa層 / 156図8, 5: 石錘 / D-53南・VIa層 / 156図7, 6: 円盤状石製品 / D-54南・VIa層 / 156図4
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第165図　東7地点　南斜面遺物包含層（西側）　出土石器・石製品（10）



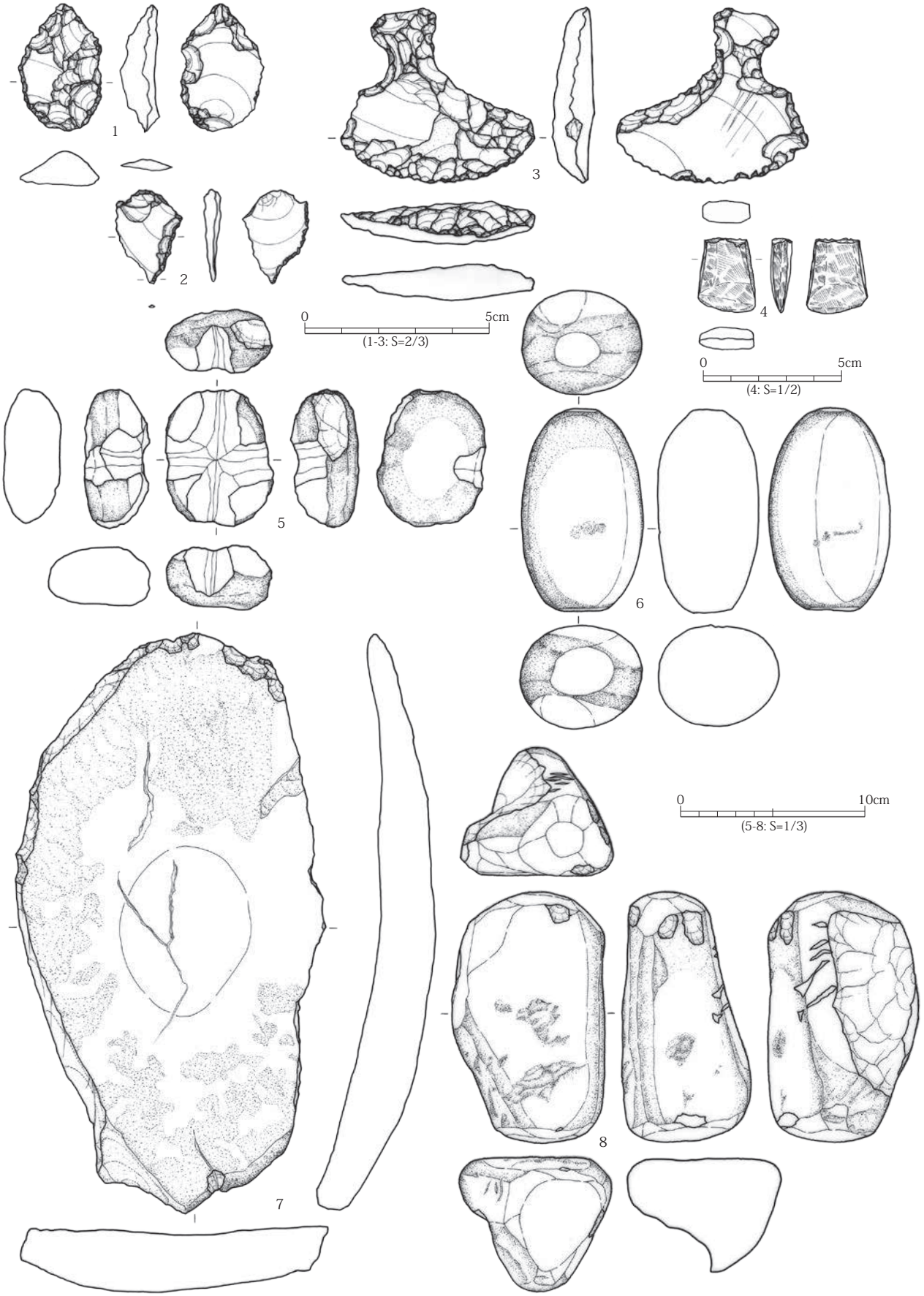
【南5層群】1: 磨石 / D-57西・Ⅵn層 / 157図1, 2: 有孔石製品 / D-57西・Ⅵn層 / 157図2
【南4B層群】3: 石鏃 / D-57西・Ⅵi-n層 / 157図3, 4: 尖頭器 / D-57西・Ⅵi-k層 / 157図5, 5: 楔形石器 / D-57西・Ⅵi-n層 / 157図7, 6: 石皿 / D-57西・Ⅵj-n層 / 157図9, 7: 磨石 / D-57西・Ⅵi-k層 / 157図10, 8: 線刻礫 / D-57西・Ⅵi-n層 / 157図11
【南4A層群】9: 石鏃 / D-57西・Ⅵf層 / 157図12
【南3層群】10: 石鏃 / D-57東・Ⅵe-f層 / 158図1, 11: 石鏃 / D-57東・Ⅵc層 / 158図2, 12: 石錐 / D-57西・Ⅵe-n層 / 158図3, 13: 石錐 / D-57西・Ⅵc層 / 158図4, 14: 石篦 / D-57東・Ⅵc-e層 / 158図6 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第166図　東7地点　南斜面遺物包含層（東側）　出土石器・石製品（1）



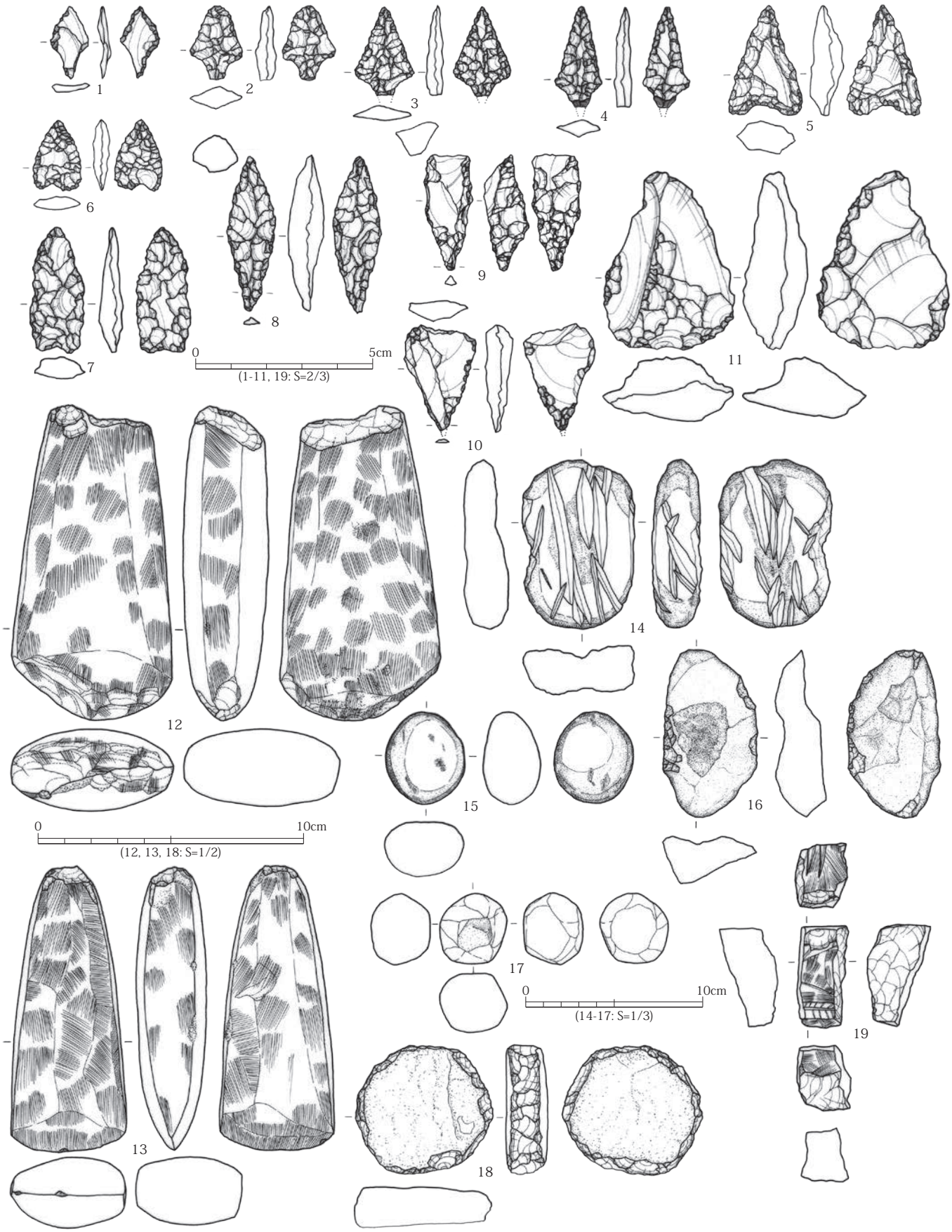
【南3層群】1: 石匙 / D-56東・VIc層 / 158図5, 2: 独鈷石 / D-56西・VId層 / 159図1, 3: イモガイ形石製品 / D-57東・VIe-f層 / 159図2, 4: 岩版 / D-57東・VIc-f層 / 159図3
【南2A層群】5: 石鏃 / D-75・VIb層 / 160図1, 6: 石鏃 / D-74・VIb層 / 160図4, 7: 石鏃 / D-75・VIb層 / 160図5, 8: 石鏃 / D-74・VIb層 / 160図6
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第167図　東7地点　南斜面遺物包含層（東側）　出土石器・石製品（2）



【南2A層群】1: 尖頭器 / D-74拡張・Ⅵb層 / 160図7, 2: 石錐 / D-74拡張・Ⅵb層 / 160図8, 3: 石匙 / D-74・Ⅵb層 / 160図9, 4: 磨製石斧 / D-74・Ⅵb層 / 160図10, 5: 石錘 / D-74拡張・Ⅵb層 / 160図14, 6: 磨石 / D-56東・Ⅵb層 / 161図3, 7: 石皿 / D-56東・Ⅵb層 / 161図2, 8: 磨石 / D-74拡張・Ⅵb層 / 161図4 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第168図　東7地点　南斜面遺物包含層（東側）　出土石器・石製品（3）



【南1層群】1: 石鏃 / D-74・Ⅵ層 / 162図1, 2: 石鏃 / D-74・Ⅵ層 / 162図2, 3: 石鏃 / D-74・Ⅵ層 / 162図3, 4: 石鏃 / D-56東・Ⅵa層 / 162図4, 5: 石鏃 / D-57東・Ⅵa層 / 162図5, 6: 石鏃 / D-74・Ⅵ層 / 162図6, 7: 石鏃 / D-57・Ⅵa層 / 162図7, 8: 石錐 / D-74・Ⅵ層 / 162図9, 9: 石錐 / D-74・Ⅵa-b層 / 162図10, 10: 石錐 / D-74・Ⅵ層 / 162図12, 11: 石篦 / D-56東・Ⅵ層 / 162図14, 12: 磨製石斧 / D-80・Ⅵ層 / 162図15, 13: 磨製石斧 / D-57東・Ⅵ層 / 162図16, 14: 砥石 / D-57西・Ⅵ層 / 163図9, 15: 磨石 / D-57西・Ⅵa層 / 163図5, 16: 凹石 / D-74・Ⅵa-b層 / 163図8, 17: 磨石 / D-57西・Ⅵa層 / 163図7, 18: 円盤状石製品 / D-74・Ⅵa-b層 / 163図10, 19: 不明石製品 / D-57東・Ⅵa層 / 163図12
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第169図　東7地点　南斜面遺物包含層（東側）　出土石器・石製品（4）

ら、特に小型の剥片生産に用いられたとみられる。石材別では、碧玉Ｂ類で多く確認され、半数近くに上る。一方で、主要な石材である珪質頁岩ではわずかに見られる程度であり、石材により光沢の程度や確認の容易さなどの差異を考慮に入れたとしても[註14]、これらの差は歴然としており、石材によりこの技術が選択的に用いられたとみることが可能である。加熱処理の技術は、製品（トゥール）の製作等における二次加工においても確認され、トゥールの約３割で二次加工面の加熱処理の痕跡が確認される[註15]。その割合は、剥片剥離の段階と比べて大きくなる。器種別では、石鏃や石錐に多く認められるように、小さな二次加工面で構成される石器でその割合が大きくなる傾向がある。石材別では、剥片・石核と同様に碧玉Ｂ類で最も割合が大きい。以上から、器種や石材によってこの技術が選択的に用いられたものと考えられる。

ⅱ）器種別の様相

遺物包含層から出土した石器・石製品について、出土数の多い器種や特徴的なものについて、南斜面と北斜面を合わせて、器種別に述べる。

[石鏃]

石鏃は、有茎鏃が最も多く出土し、南北斜面いずれにおいても７割以上を占める。茎を作出しない凸基無茎鏃も合わせると、凸基鏃の割合は８割以上となる。大別層群別では、南北斜面ともに下層と比べて上層で有茎鏃の割合が大きくなる傾向が見られる。類型ごとの石材組成では、主要石材である珪質頁岩の占める割合は各類型ともに４割前後と同様の傾向を示すが、碧玉Ｂ類では有茎鏃や凸基鏃でその割合が大きくなるという特徴がある。一方で、円基・平基鏃や凹基鏃では珪質凝灰岩や玉髄の割合が大きく、形状により石材の使い分けが推定される。

石鏃の大きさ・形状では、有茎鏃が縦長・薄手[註16]の傾向を示し、凸基無茎鏃や円基・平基鏃、凹基鏃が有茎族よりも幅広・厚手の傾向を示す。出土点数の多い有茎鏃について、時期別では、晩期中葉よりも晩期後葉で大型のものが多くなり、縦長・厚手の傾向が見られる。また、石材別では、珪質頁岩製が大型で、碧玉Ｂ類製が小型とほぼ二分化し、さらに珪質頁岩製が縦長で、碧玉Ｂ類製がやや幅広となる。

[不定形石器]

不定形石器は、剥片の縁辺に連続する二次加工を施したものが８割程度を占め、なかでも二次加工に規則性や規格性のないものが大部分を占める。尖頭状に加工するものや面的な加工を施すものは、各大別層群でその割合が少ないものの一定量出土している。各類型の出現頻度については各大別層群をとおして同様の傾向を示す。

類型別の石材組成では、いずれの類型でも珪質頁岩が５割以上を占める。なかでも刃部がノッチ状となる類型で最も割合が大きく、加工が少なく規則性や規格性のない類型でその割合が小さくなる。これ以外の石材では珪質凝灰岩や碧玉、玉髄、黒曜石などがやや多く用いられており、粗粒の頁岩や凝灰岩などの石材はあまり用いられない。このような傾向は、素材剥片の生産を経て良質な石材を意図的に選択していたことに影響されるものと考えられる。

［礫石器］

礫石器の大きさおよび形状について器種別に見ると、石皿では、長さ・幅がそれぞれ 15cm 以下のものが多いが、大きさが集中する範囲は見られず多様性に富む。磨石では、多くが 13 × 10cm 以下で、特に 3 ～ 7 × 2 ～ 6cm の範囲に大きさの分布が集中し、また、幅広と認識される幅長比 0.67 以上の範囲に多く分布する（註 17）。凹石では、長さ･幅が 8 ～ 12 × 5 ～ 8cm の範囲にやや多く分布する。磨石で多く見られた小型のものはわずかであり、磨石に比べて大型の礫を選択している傾向が見られる。また、縦長と認識される幅長比 0.67 以下に多く分布し、厚さについても 0.40 ～ 0.70 の範囲に多く分布する。磨石に比べてやや縦長の礫を選択し、厚さについてもある程度限定される傾向が見られる。

礫石器はいずれの器種においても、転用もしくは複数の使用の痕跡がみられ、なかでも凹石でその割合が大きい。凹石では磨石を転用したものが多くあり、磨石の一部で凹石として適当な大きさや形状をもつものは凹石に転用されやすいものと考えられる。凹石以外では、石皿で凹痕のあるものや凹石の転用が認められ、磨石で凹石の転用が多く確認される。

［円盤状石製品］

円盤状石製品の大きさは、時期別に見ると、径約 5cm 以下のところにまとまって分布する傾向から、最大約 7cm まで散漫に分布する傾向へと変化する。形状はおおむね「幅広・薄手」となるが、時期が下るにつれてより薄手のものが一定量出現するようになる（註 18）。

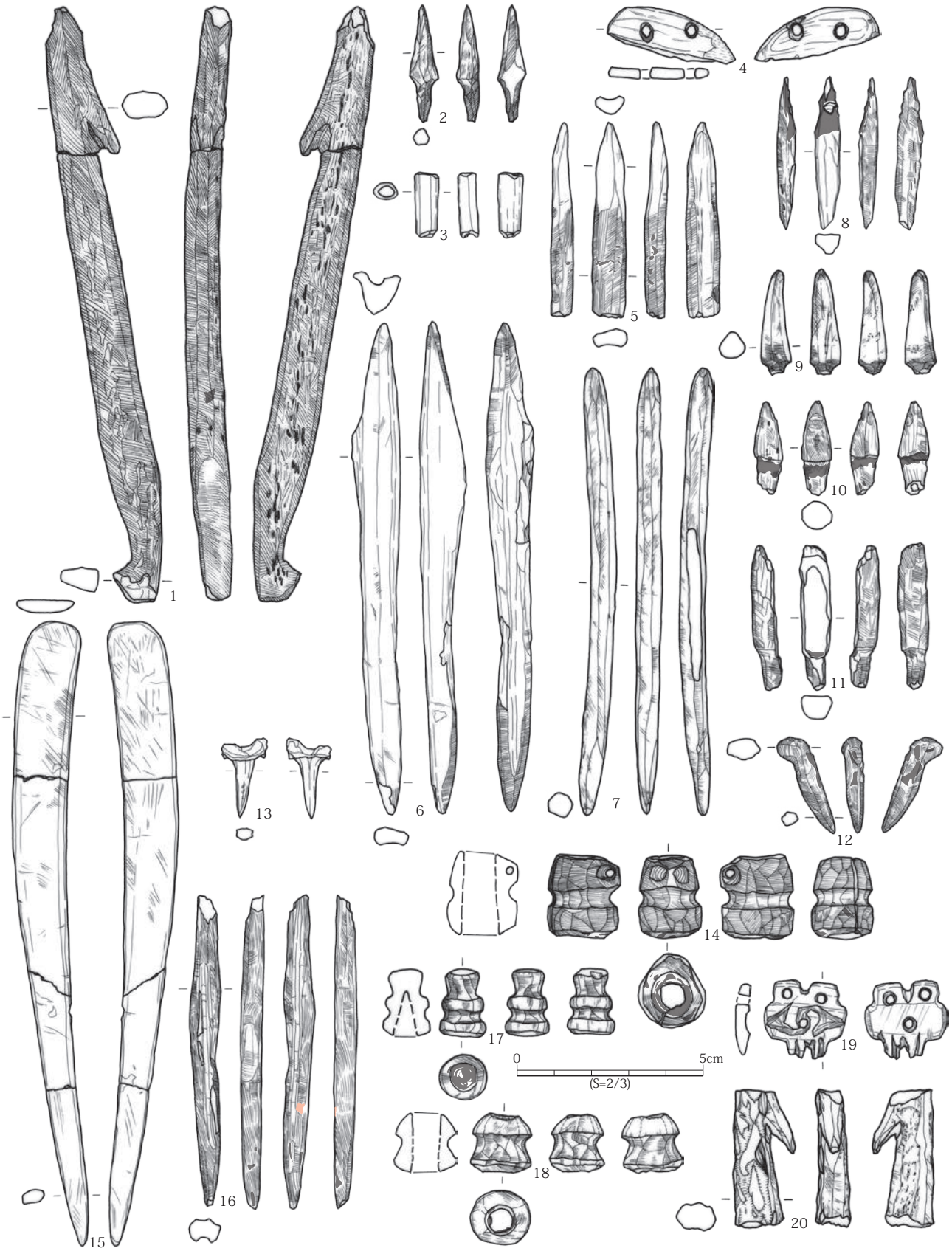
円盤状石製品は縁辺を剥離や敲打、研磨により成形したものであるが、その加工はおおむね粗い。また、平面形も必ずしも円形となるものではなく、四辺形や多角形のものが多い。さらにそれぞれの大きさにはばらつきが認められる。一方で、厚幅（長）比が特定のところ（0.3 ～ 0.4）にやや集中することから、形や大きさよりも厚さを意識して製作したものと推定される。

［独鈷石］

本地点からは、遺構等から出土したものも含めて 13 点出土している。うち 7 点で端部が残存しており、石斧の刃部状のものが 5 点、半球状のものが 2 点認められた。石斧の刃部状のものについては、刃部と直交するように細かい剥離痕が多く認められるものがあり、石斧同様の機能が推定される（鹿又　2014）。一方で、土坑墓の副葬品として埋納されたものや、集石遺構に集積されたものが出土していることから、単純に実用的な道具のみと捉えるだけでなく、特別な意味をもつものとして捉えられる。

［イモガイ形石製品］

東 7 地点では 1 点出土している。イモガイ形石製品は県内では 3 遺跡で確認されており、東北地方南部でも数えるほどしか出土していない（註 19）。鍛冶沢遺跡では、本製品は渦巻きの方向と全体形状により、殻頂部内面の渦巻きを表現した「左巻・半球状」と、殻頂部外面の渦巻きを表現した「右巻・円盤状」の 2 種類に分類される（宮城県教育委員会　2010a）。本地点出土のものは破片資料であるため、渦の方向は不明であるが、渦と反対の面の形状により「左巻・半球状」のものとみられる。



【南5層群】1: 組み合わせ式ヤス / D-57西・Ⅵ l-n層 / 164図1, 2: 鏃 / D-57西・Ⅵ l-n層 / 164図3, 3: 管玉 / D-57西・Ⅵ l-n層 / 164図5
【南4B層群】4: 垂飾か / D-57西・Ⅵ i層 / 164図7, 5: 刺突具 / D-57西・Ⅵ i-k層 / 164図8, 6: 刺突具 / D-57西・Ⅵ i-k層 / 164図10,
7: 刺突具 / D-57西・Ⅵ i-k層 / 164図11 【南4A層群】8: 根鋏 / D-57西・Ⅵ g-h層 / 164図9
【南3層群】9: 鏃 / D-57西・Ⅵ c層 / 164図14 , 10: 根鋏 / D-57西・Ⅵ c層 / 164図15, 11: 根鋏 / D-59・Ⅵ c-e層 / 164図16,
12: 組み合わせ式ヤス / D-54北・Ⅵ d1・2層 / 164図12, 13: 垂飾 / D-54北・Ⅵ d1・2 層/ 165図2, 14: 弭 / D-57西・Ⅵ c層 / 165図1
【南2B層群】15: 刺突具 / D-54北・Ⅵ c1層 / 165図4, 16: 刺突具 / D-54北・Ⅵ c1層 / 165図5, 17: 弭/ D-54北・Ⅵ c1-d2層 / 165図6,
18: 弭 / D-54北・Ⅵ c1層 / 165図7 【南2A層群】19: 垂飾または簪 / D-74・Ⅵ b層 / 165図9
【南1層群】20: 銛頭 / D-74・Ⅵ a・b層 / 165図10 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第170図　東7地点　南斜面遺物包含層　出土骨角牙製品

第23表　東7地点　南斜面遺物包含層　骨角牙製品の大別層群別出土状況

大別層群	銛頭	ヤス	ヤス or 鉤先	ヤス or 鏃	鏃	根挟	針	刺突具	刺突具 or 棒状製品	匙	篦か	斧	棒状製品	弭	弭 or 簪	管玉	垂飾	垂飾 or 簪	サメ歯装着具	不明製品	計
南1	1													1						4	6
南2A		1						3	1	1			1					1		2	10
南2B					1			2		1	1		1	2			1			3	12
南3		1	1		1	3		2	1					2			2			1	14
南4A						1															1
南4B	1							5			2						2				10
南5		2			1			3								1					7
南斜面計	2	4	1		3	4		15	2	2	3		2	5		1	5	1		10	60

④骨角牙製品

骨角牙製品はすべての大別層群から出土している。大別層群別の器種組成を第23表に示した。

南5層群からは、ヤスや鏃、刺突具、管玉が出土している。ヤスは2点ともシカ角を素材とし、組み合わせ式である。鏃は哺乳類骨製で、わずかにアスファルト状の黒色物質が残る（第170図2）。刺突具はいずれもシカ角を素材とする。

南4B層群からは、銛頭や刺突具、垂飾が出土している。銛頭は哺乳類骨製で、基部にアスファルト状の黒色物質が残る。刺突具はシカ角を素材とするものとシカ骨を素材とするものがある。垂飾は2点とも哺乳類骨製で、うち1点は孔にアスファルト状の黒色物質が残る（第170図4）。

南4A層群からは、根挟が出土している。シカ角を素材とし、縦に破損しているが、根挟み部にアスファルト状の黒色物質が残り、珪質頁岩製石器（石鏃か）の破片が付着している（第170図8）。

南3層群からは、ヤス、ヤスまたは鉤先、鏃、根挟、刺突具、弭、垂飾、加工痕ある骨片などが出土している。ヤスはシカ角を素材とし、組み合わせ式のカエシとみられる（第170図12）。ヤスまたは鉤先はシカ角を素材とし、基部にアスファルト状の黒色物質が紐状に残る。鏃や根挟、弭はいずれもシカ角を素材としている。垂飾のうち1点はアオザメ類の歯を素材としているが、加工はほとんど見られない（同図13）。

南2B層群からは、鏃や刺突具、骨匙、弭、垂飾などが出土している。刺突具は2点とも哺乳類骨製で、うち1点には赤色の漆状の顔料が残されている（第17図16）。弭はいずれもシカ角製である。

南2A層群からは、ヤスや刺突具、骨匙、垂飾または簪などが出土している。垂飾または簪はイノシシ牙製で、器体中央に穿たれた貫通孔を利用して「玉抱き三叉文」が施されている（第170図19）。

南1層群からは、銛頭や弭などが出土している。銛頭はシカ角を素材としており、被熱による白色化が見られる（第170図20）。

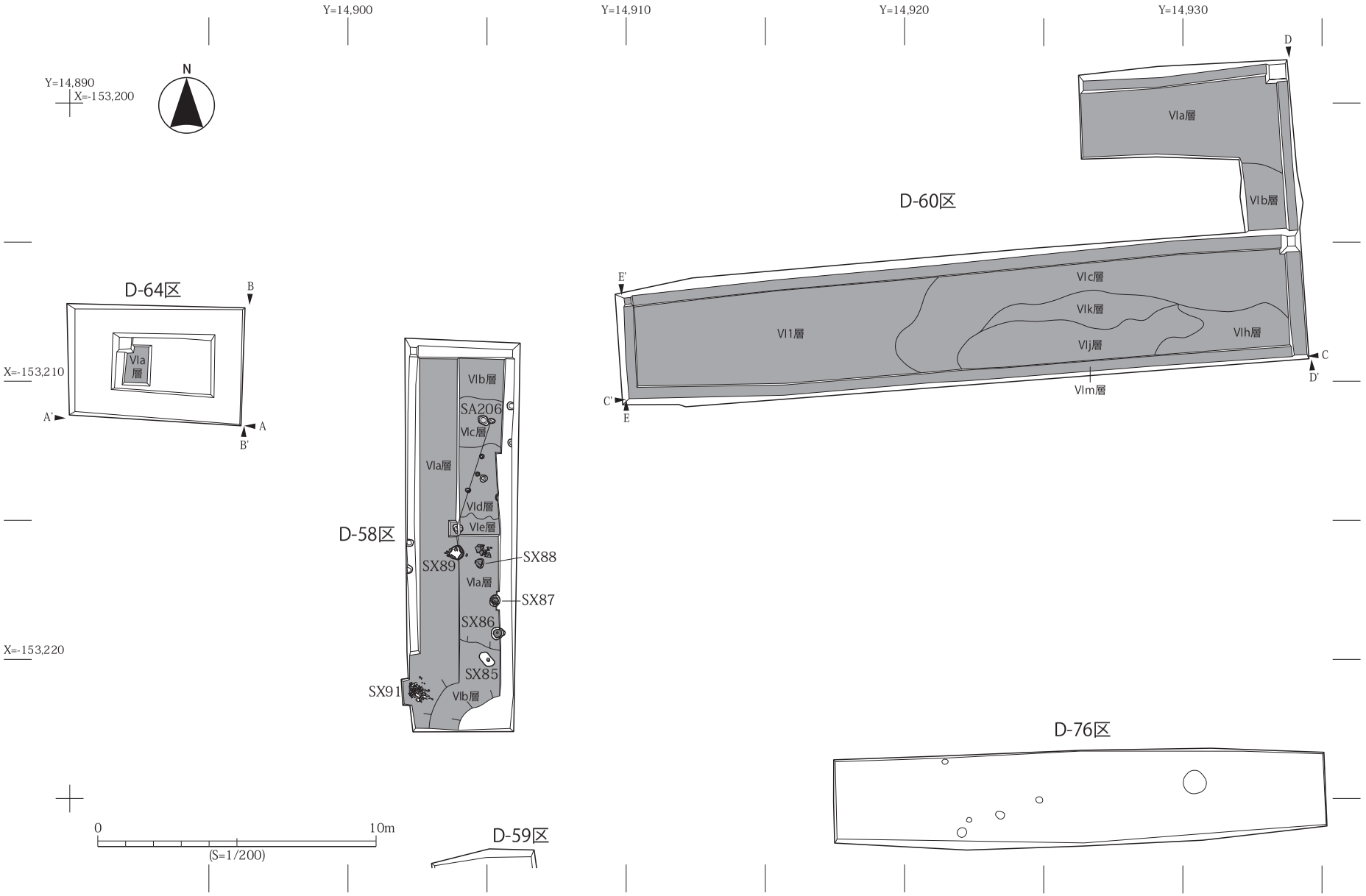
⑤漆製品

漆製品は、遺物包含層の南3層群（D-54区南Ⅵd層）と南1層群（D-57区東Ⅵa層）からそれぞれ、籃胎漆器が1点ずつ出土したのみである。いずれも小破片であったため図化していない。

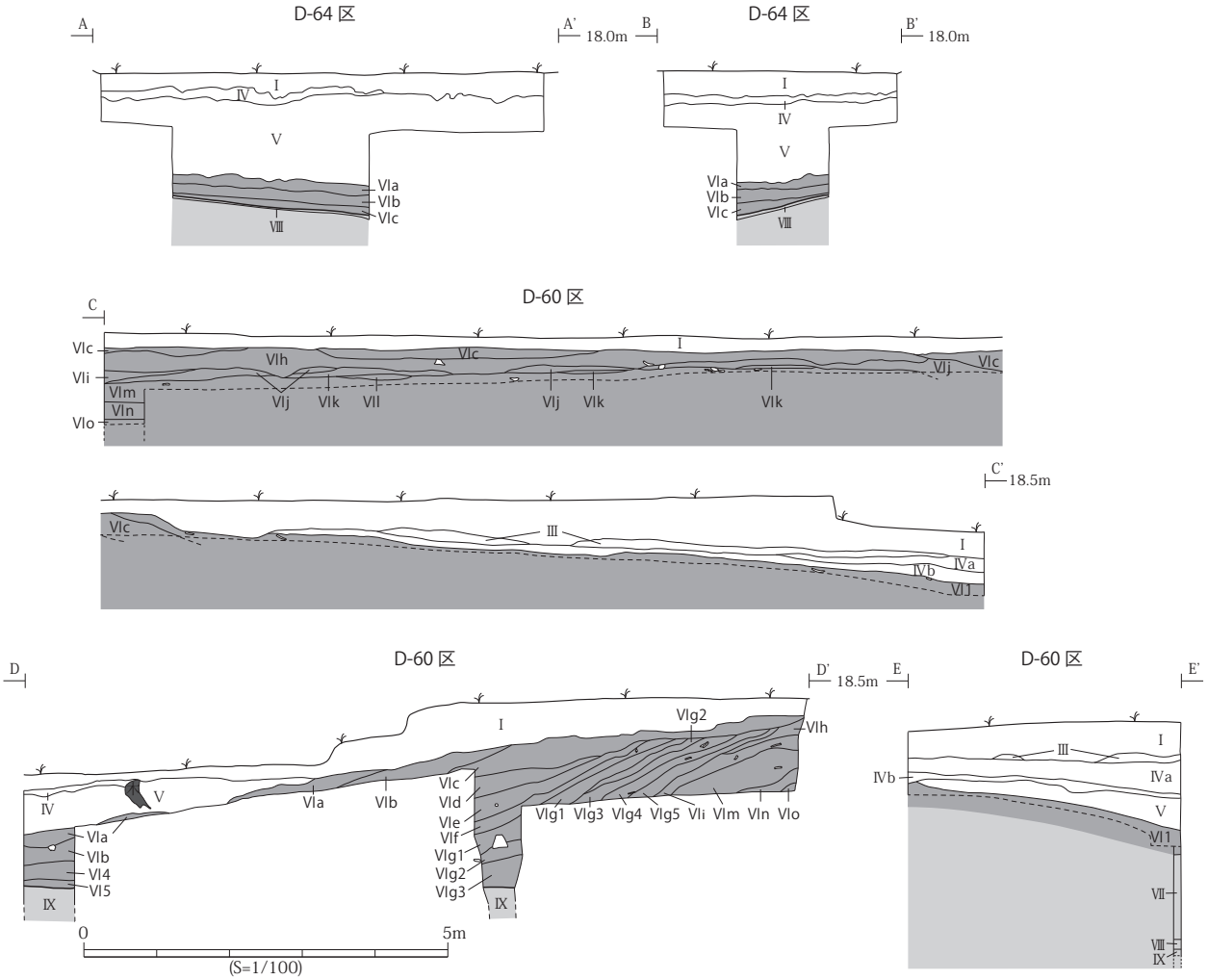
B. 東7地点北側（東C丘陵北斜面）の遺構と遺物

(1) 遺構

東7地点北側（東C丘陵北斜面）では、柱列跡1条、集石遺構1基、土器埋設遺構5基、土坑1基、

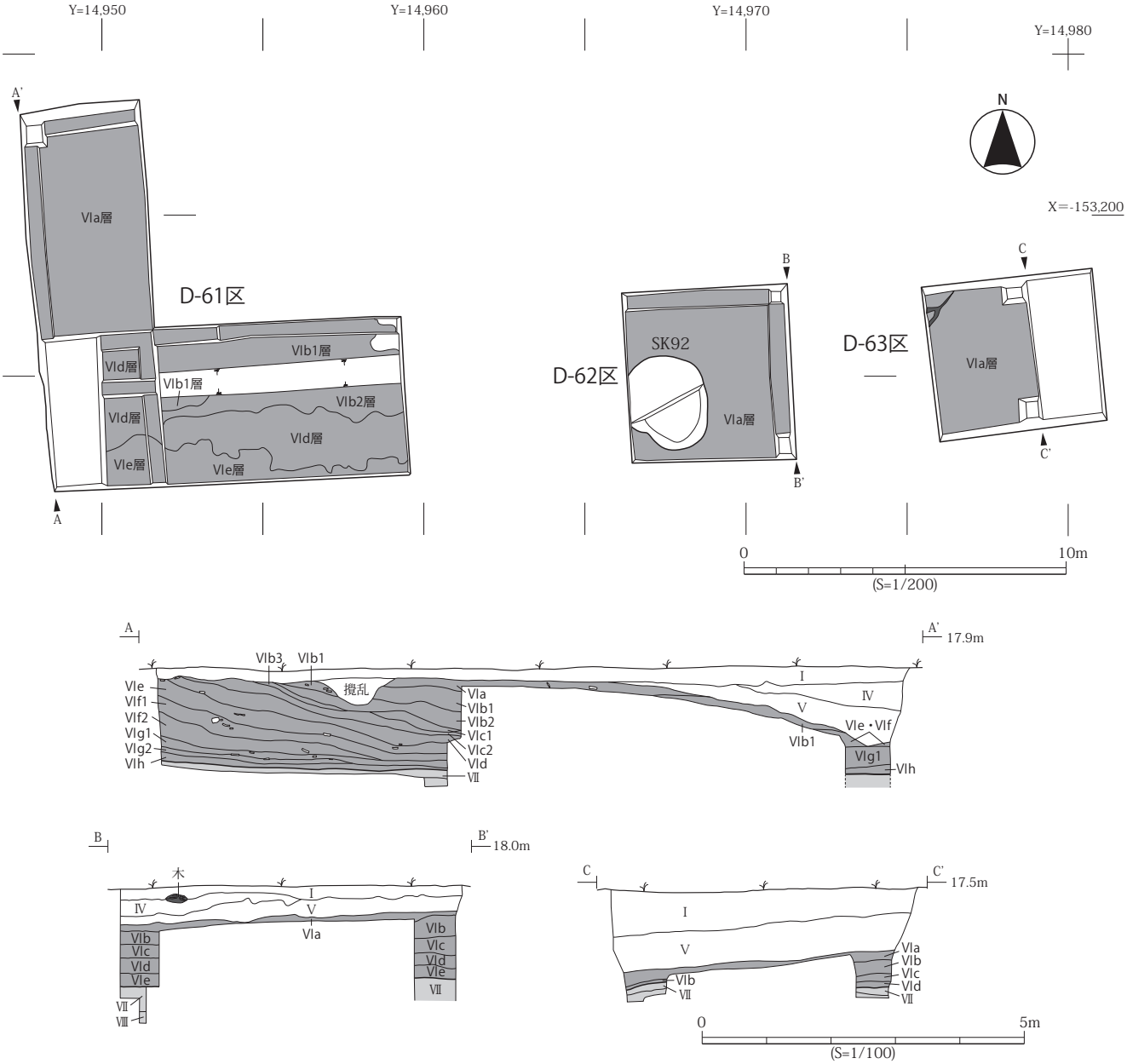


第171図　D-58・60・64区　平面図



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　　徴
D-64 区	A-A'' B-B'	Ⅵa	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	スクモ多量
		Ⅵb	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	スクモわずか
		Ⅵc	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト	
D-60 区	C-C' D-D' E-E'	Ⅵ1	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	砂多量、スクモわずか　※Ⅵaより上位か
		Ⅵa	黒褐色（10YR2/2）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック少量
		Ⅵb	黒褐色（10YR2/2）	シルト質砂	地山（Ⅸ層）小ブロックわずか、砂・炭化物粒少量
		Ⅵc	黒褐色（10YR3/2）	シルト	小礫（Ⅹ層）多量、炭化物粒やや多量
		Ⅵd	黒色（10YR2/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック少量、砂やや多量
		Ⅵe	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック少量、砂少量、炭化物粒やや多量
		Ⅵf	黒褐色（10YR2/2）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）小ブロックやや多量
		Ⅵg1	黒色（10YR2/1）	シルト質砂	地山（Ⅸ層）小ブロック少量、炭化物粒少量
		Ⅵg2	黒褐色（10YR3/1）	シルト質砂	地山（Ⅸ層）ブロック多量、砂少量
		Ⅵg3	黒褐色（10YR2/3）	シルト質砂	地山（Ⅸ層）ブロック少量、砂少量
		Ⅵg4	黒褐色（10YR3/2）	砂	地山（Ⅸ層）小ブロック少量、砂やや多量
		Ⅵg5	黒褐色（10YR2/2）	シルト質砂	地山（Ⅸ層）小ブロック少量、炭化物粒わずか
		Ⅵh	褐灰色（10YR4/1）	シルト	小礫（Ⅹ層）多量、地山（Ⅸ層）粒多量、炭化物粒やや多量
		Ⅵi	黒褐色（10YR3/2）	シルト質砂	地山（Ⅸ層）小ブロックわずか、炭化物粒やや多量
		Ⅵj	褐灰色（10YR4/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）大ブロック多量、炭化物粒やや多量
		Ⅵk	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	炭化物粒やや多量
		Ⅵl	褐灰色（10YR4/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）ブロック多量、炭化物粒少量
		Ⅵm	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）粒少量、炭化物粒少量
		Ⅵn	黒褐色（10YR3/1）	シルト質砂	砂やや多量
		Ⅵo	黒褐色（10YR2/2）	砂質シルト	砂少量
		Ⅵ2	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	砂やや多量　※Ⅵg2以下相当
		Ⅵ3	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	スクモ少量　※Ⅵg2以下相当
		Ⅵ4	暗褐色（10YR3/3）	粘土	スクモ多量　※Ⅵc以下相当
		Ⅵ5	黒褐色（10YR3/1）	粘土	※Ⅵc以下相当

第172図　D-60・64区　断面図



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
D-61 区	A-A'	Ⅵ a	黒褐色（10YR2/3）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒多量、スクモ少量
		Ⅵ b1	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）粒多量、スクモやや多量、炭化物粒やや多量
		Ⅵ b2	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロックわずか、砂やや多量、スクモやや多量、炭化物少量
		Ⅵ b3	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）大ブロックやや多量、砂粒多量、スクモわずか
		Ⅵ c1	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	スクモやや多量、炭化物粒やや多量
		Ⅵ c2	黒褐色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロックわずか、炭化物粒やや多量
		Ⅵ d	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロックわずか、砂やや多量
		Ⅵ e	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）大ブロックやや多量、砂わずか、植物やや多量
		Ⅵ f1	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）大ブロック少量、スクモやや多量
		Ⅵ f2	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	粗砂やや多量
		Ⅵ g1	黒褐色（10YR2/2）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）大ブロック少量、スクモ・粗砂少量
		Ⅵ g2	黒褐色（10YR2/2）	シルト質粘土	スクモ多量、貝多量
		Ⅵ h	黒色（10YR2/1）	粘土	
D-62 区	B-B'	Ⅵ a	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	スクモやや多量、炭化物粒やや多量
		Ⅵ b	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	砂・炭化物粒少量
		Ⅵ c	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	砂わずか、炭化物粒少量
		Ⅵ d	黒褐色（10YR2/1）	粘土質シルト	粗砂多量、炭化物粒少量
		Ⅵ e	黒褐色（10YR2/3）	シルト質粘土	スクモ少量
D-63 区	C-C'	Ⅵ a	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）ブロック少量、スクモ多量
		Ⅵ b	黒色（10YR2/1）	粘土	スクモ少量
		Ⅵ c	黒褐色（10YR2/2）	粘土	スクモ多量
		Ⅵ d	黒褐色（10YR2/3）	粘土	スクモわずか

第173図　D-61・62・63区　平面図・断面図

ピット 7 個を検出した。以下に、おもな遺構について述べる。

①集石遺構

集石遺構は、D-58 区で 1 基検出した。

【SX91 集石遺構】

D-58 区南側の北に緩やかに傾斜する遺物包含層上で検出した（第 174 図）。遺物は基本層のⅥa 層上部（北 1A 層群）に分布する。遺物の分布は、長径約 80cm、短径約 60m の楕円形を呈する。なお、洪水の影響により一部の遺物が原位置から離れたものとみられ、本来の範囲よりやや広がっている。遺物は、北西側で重なり合うように集積されているが、南西側になると重なりが見られなくなる。

集積された遺物には、石器や礫石器、石製品、自然石があり（第 179 ～ 181 図）、出土した位置を記録して取り上げた遺物が 52 点、Ⅴ層中に包含され原位置を移動したとみられる遺物が 9 点の計 61 点ある。SX43 集石遺構と異なり、土器・土製品や自然木は集積されていない。点数比・重量比ともに礫石器が 70% 以上の割合を占め、次いで自然石が多く集積されている（第 175 図）。集積された遺物の半数以上が破片である（第 24 表）。

器種別に見ると、主体となる礫石器では、石皿が 31 点と大部分を占める。次いで磨石が 10 点と多い。一方で、剥片石器や石製品はそれぞれ剥片 2 点、円盤状石製品 1 点と少ない。なお、これらは遺物包含層中にあった遺物が埋没後に移動した可能性もある。

石材は、礫石器で安山岩の割合が最も大きく、自然石では凝灰岩や安山岩、デイサイト、軽石がやや多く見られ、礫石器の素材となりうる石材が主体となる（第 25 表、第 176 図）。SX43 と異なり剥片・石核や石製品、石材の集積がわずかであるため、SX43 で多く集積された粘板岩はわずかで、また碧玉 B1・2 類は出土していない。

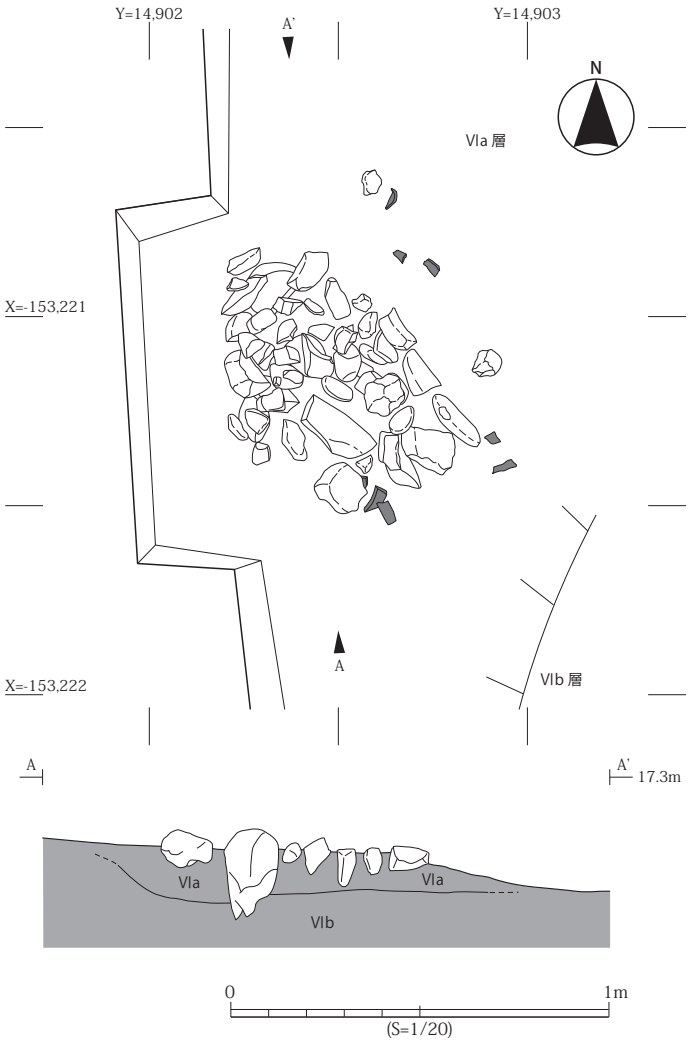
本遺構に集積された遺物は、SX43 のものと比べて大型で重量のあるものが多い（第 177 図）。ただし、大きさや形状の分布から特定の範囲に集中する傾向は認められない（第 178 図）[(註 20)]。

②土器埋設遺構

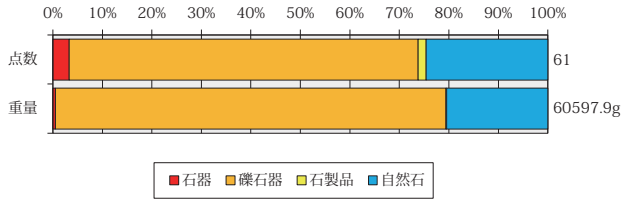
土器埋設遺構は、D-58 区で 5 基検出した。うち 4 基は、出土状況を記録した後に精査し、埋設土器を取り上げている。1 基（SX85）は検出状況のみの記録にとどめ、保存のため埋め戻した。

これらの遺構は丘陵南斜面の墓域から約 85m 離れた、丘陵西端部付近の北斜面に位置する。検出面は 1 基（SX85）がⅥb 層（北 4 層群）で、残る 4 基はすべてⅥa 層（北 1A 層群）である。SX85 を検出した地点はⅥa 層の堆積がきわめて薄く、SX85 とⅥa 層との層位的な上下関係は不明瞭であることから、遺構掘込面がⅥa 層であった可能性がある。また、SX85 から SX89 まで 1.0 ～ 1.6m 間隔で弧状に配列されており、これらは同一の時期のものとみることが可能である。

埋設土器は、いずれもπ字文が施された大型の鉢である。器形や装飾意匠は土坑墓（A 類）の埋設土器に類似するが、土坑墓で用いられている四脚付鉢は見られない。また、土坑墓の埋設土器と大きく異なる点は、土器に炭化物が広範囲に付着している点である。4 点中 3 点に炭化物の付着が広範



第174図　SX91集石遺構　平面図・断面図



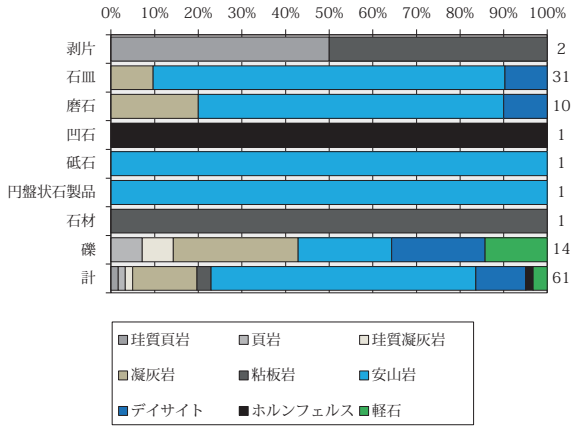
第175図　SX91集石遺構　遺物組成

第24表　SX91集石遺構　器種組成

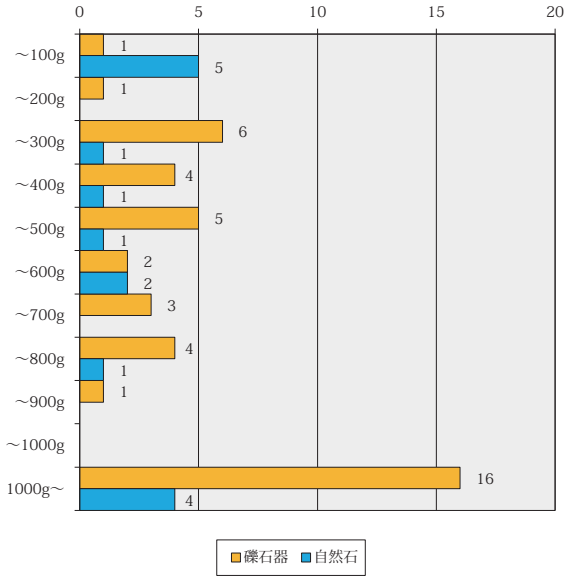
種別	器種	完形	一部欠	破片	計
石器	剥片	1		1	2
礫石器	石皿	2	5	24	31
	磨石	1	5	4	10
	凹石		1		1
	砥石	1			1
石製品	円盤状石製品	1			1
自然石	石材		1		1
	礫	3	4	7	14
計		9	16	36	61

第25表　SX91集石遺構　器種別石材組成

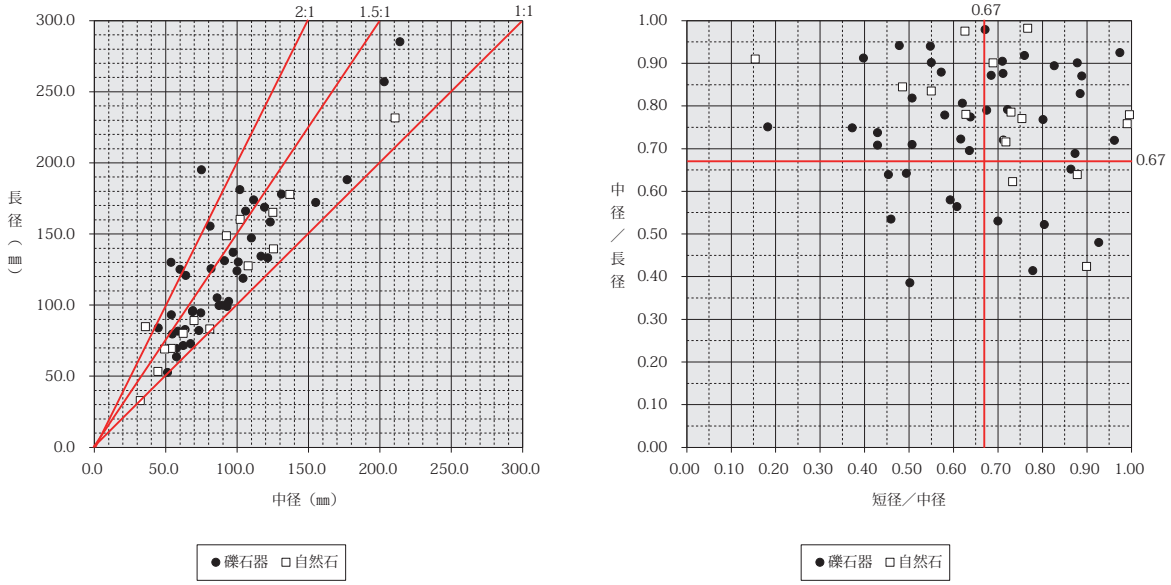
種別	器種	珪質頁岩 B	頁岩	珪質凝灰岩 B	凝灰岩	安山岩質凝灰岩	デイサイト質凝灰岩	粘板岩	安山岩	玄武岩質安山岩	デイサイト	ホルンフェルス	軽石	総計
石器	剥片	1						1						2
	計	1						1						2
礫石器	石皿				2		1		23	2	3			31
	磨石				2				7		1			10
	凹石											1		1
	砥石								1					1
	計				4		1		31	2	4	1		43
石製品	円盤状石製品								1					1
	計								1					1
自然石	石材							1						1
	礫		1	1		4			3		3		2	14
	計		1	1		4		1	3		3		2	15
総計		1	1	1	4	4	1	2	35	2	7	1	2	61



第176図　SX91集石遺構　器種別石材組成



第177図　SX91集石遺構　重量分布（礫石器・自然石）

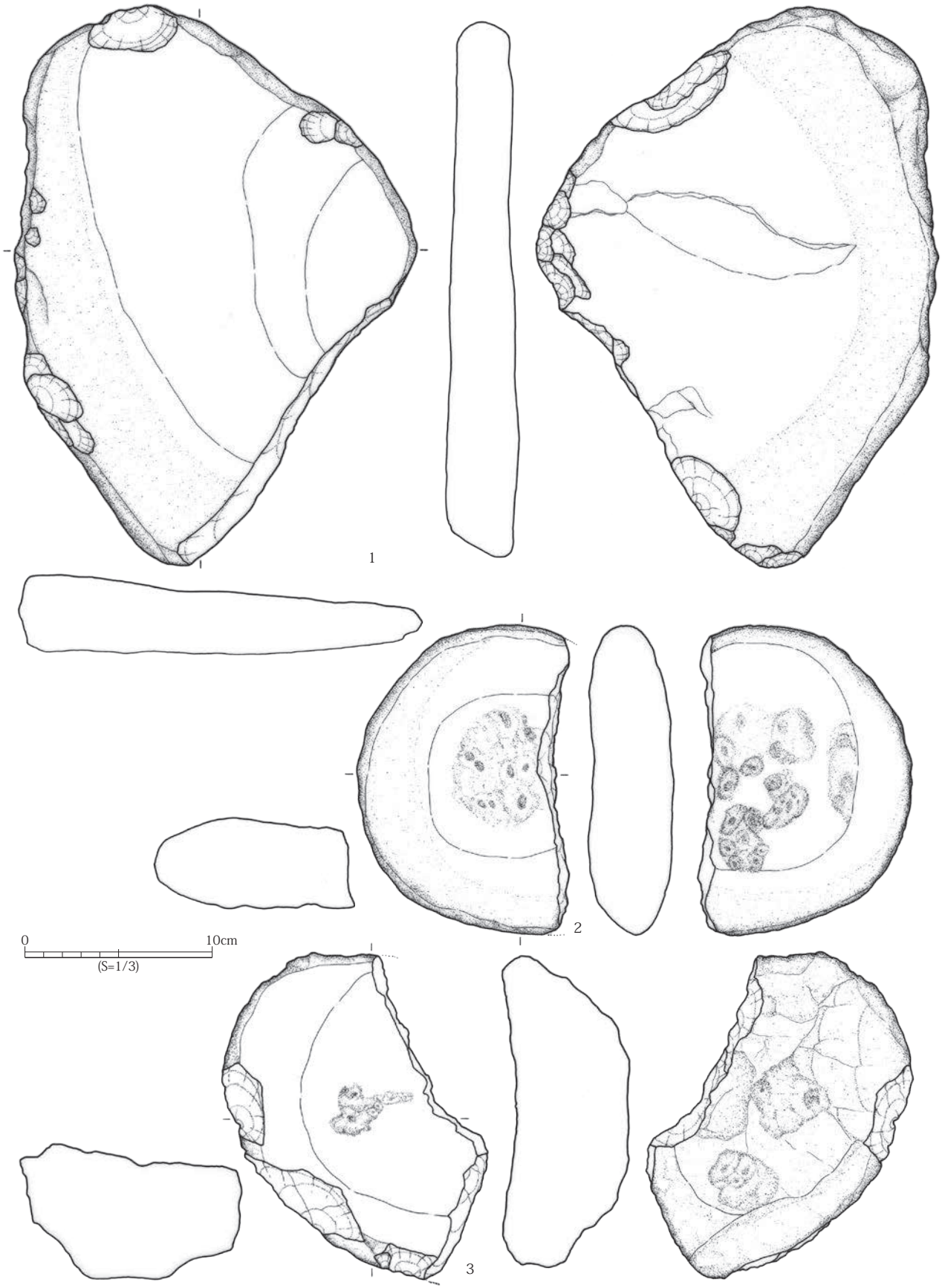


第178図　SX91集石遺構　礫石器および自然石の大きさ・形状

囲に認められ、さらにうち2点は内外面ともに広範囲に炭化物が付着している。

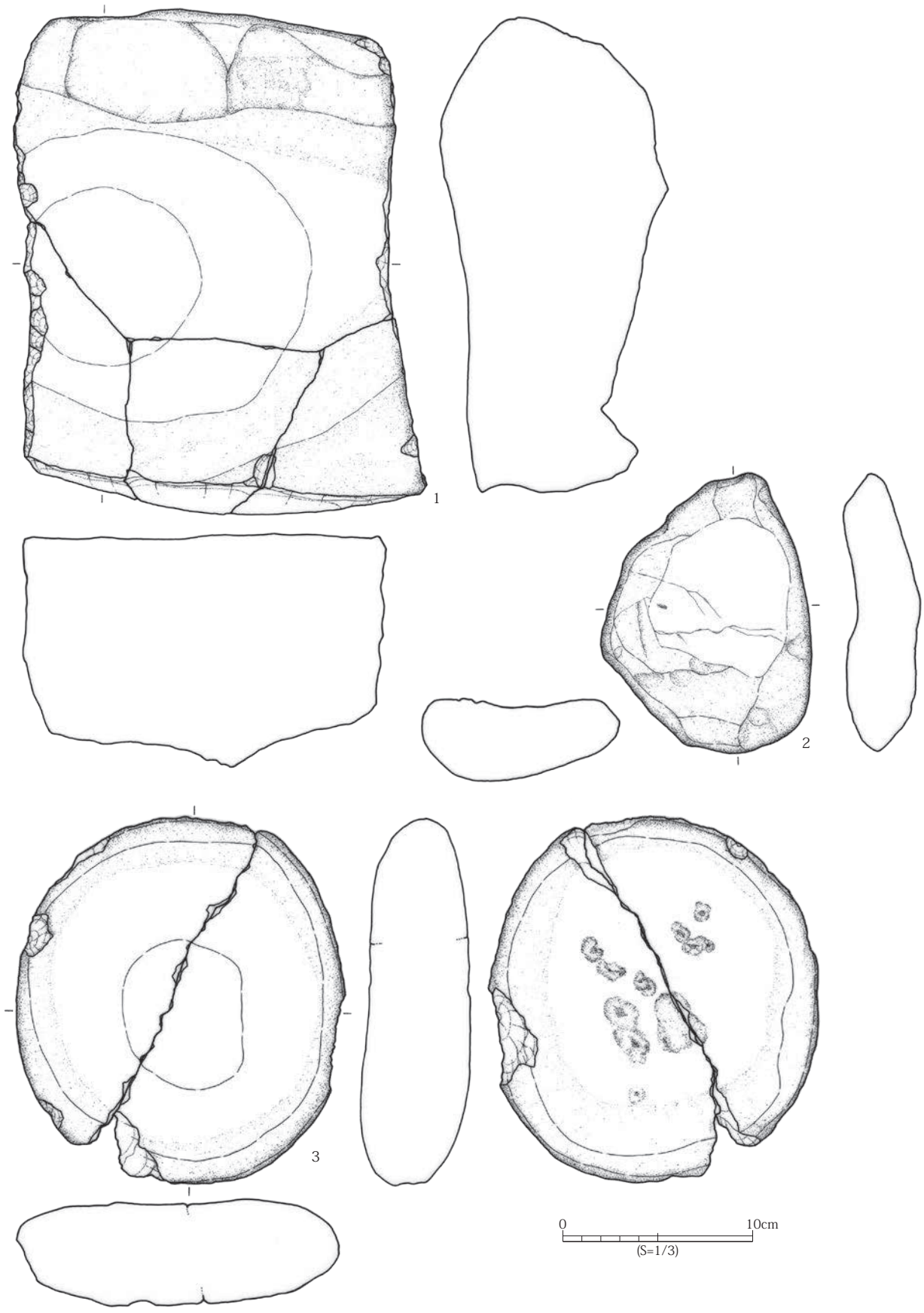
埋設土器内の堆積土からは、SX88から人骨が2点出土した。これらの遺構が形成されたD-58区の遺物包含層からは動物遺存体が出土しており、骨が良好に遺存される状況にある。しかしながら、人骨は破片がわずかに出土する程度で、墓域のように全身骨格が遺存する状況は確認されていない。したがって、これらの遺構は一次埋葬の墓壙ではなく、人骨が埋納される二次埋葬の墓壙、すなわち再葬墓と考えられる。

なお、SX88およびSX89の埋設土器に付着した炭化物について放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、SX88（第185図1）では^{14}C年代が2,460±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が748～481calBCとなり、縄文時代晩期中葉から末葉頃の年代値（小林　2019、以下同）が得られ、SX89



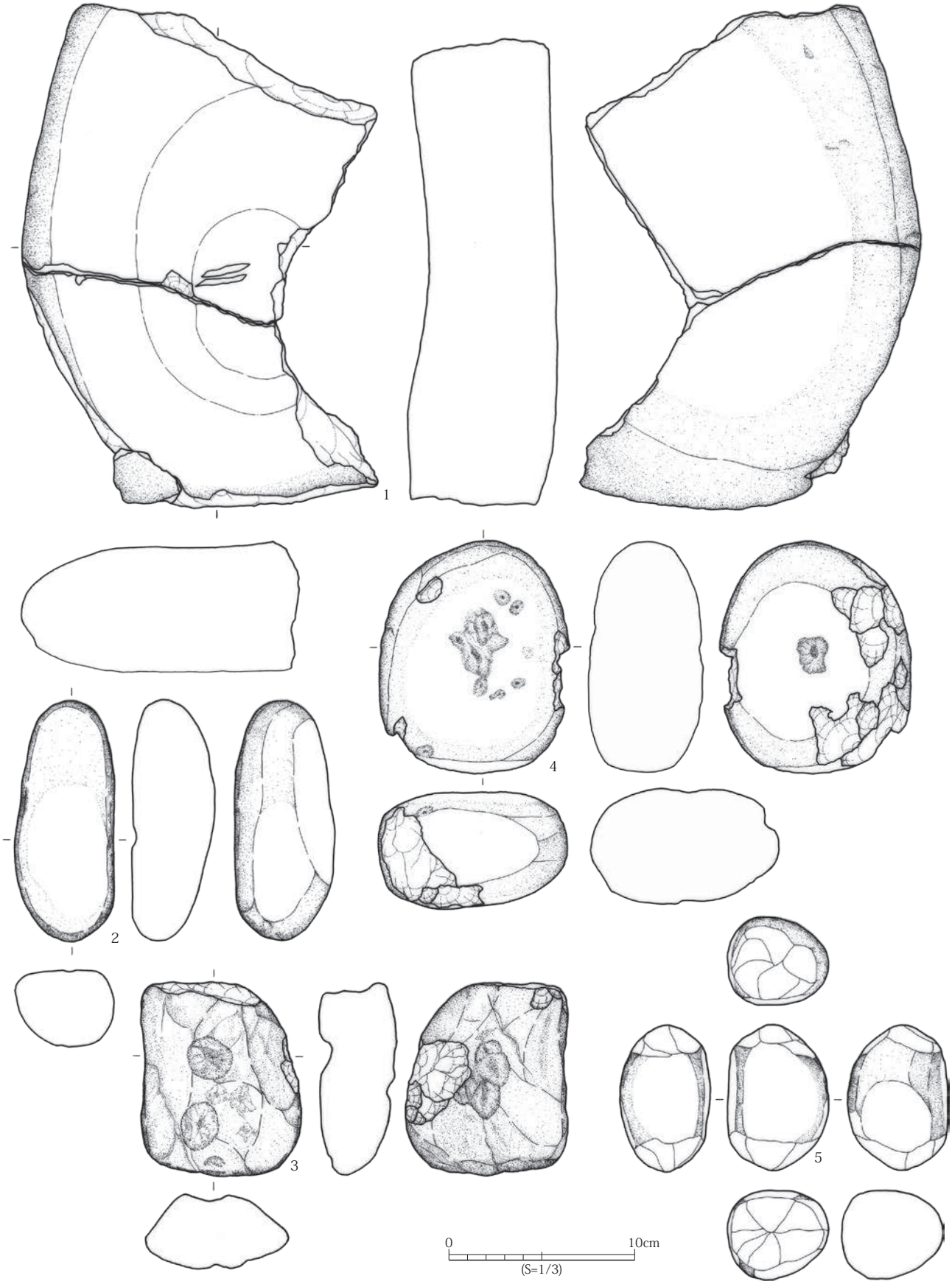
1: 石皿 / SX91-108 / 175図1, 2: 石皿 / SX91-8 / 175図2, 3: 石皿 / SX91-7 / 175図3 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第179図　SX91集石遺構　出土石器（1）



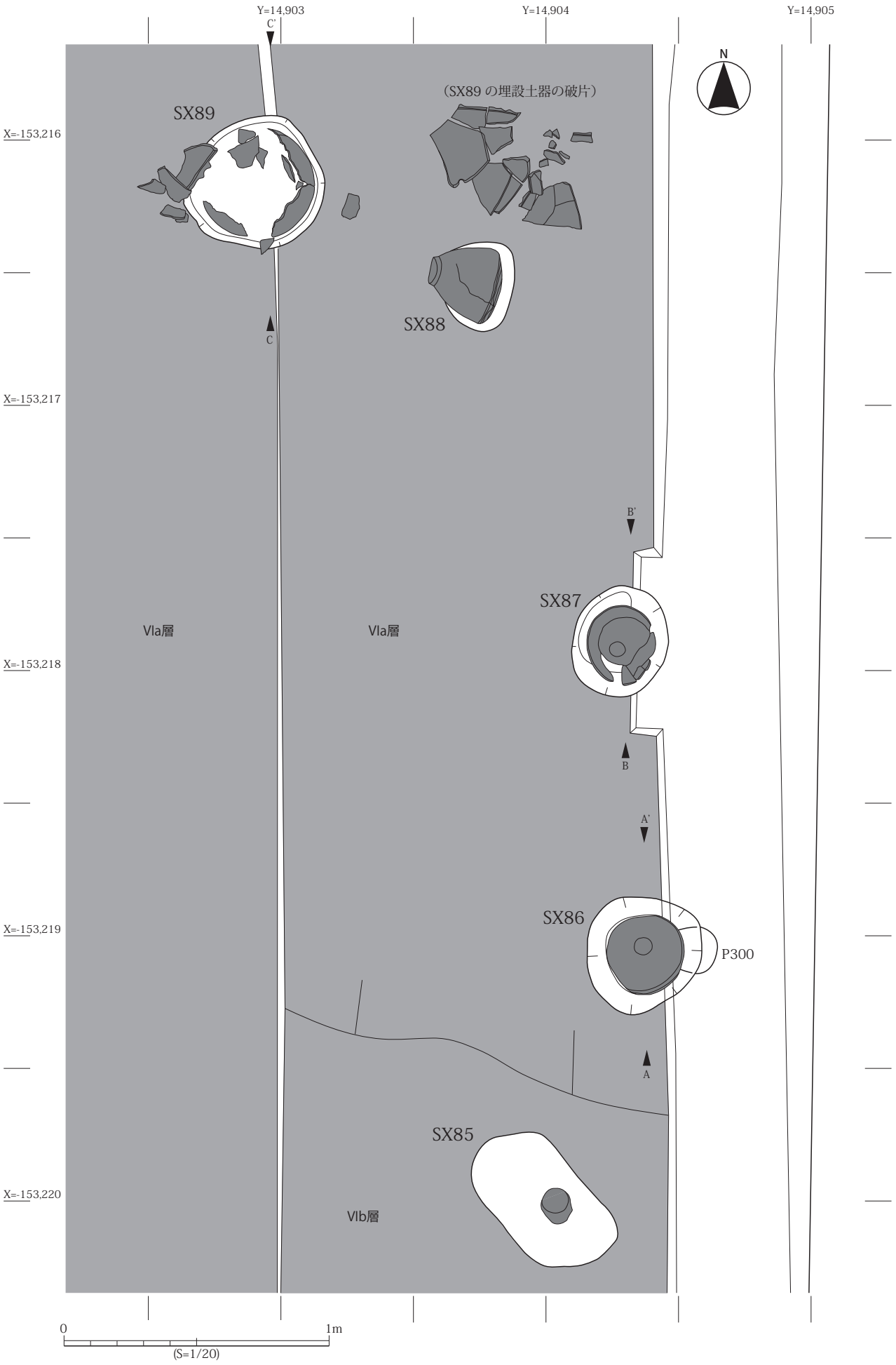
1: 石皿 / SX91-20+22+27+32 / 176図1, 2: 石皿 / SX91-10 / 176図2, 3: 石皿 / SX91-3+60 / 177図1 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第180図　SX91集石遺構　出土石器（2）

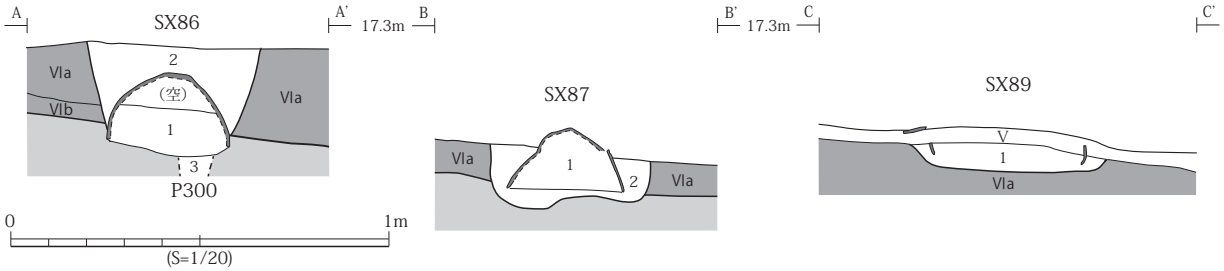


1: 石皿 / SX91-28+110 / 177図2, 2: 磨石 / SX91-23 / 178図1, 3: 凹石 / SX91-106 / 178図7, 4: 磨石 / SX91-58 / 178図4,
5: 砥石 / SX91-104 / 178図6 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第181図　SX91集石遺構　出土石器（3）

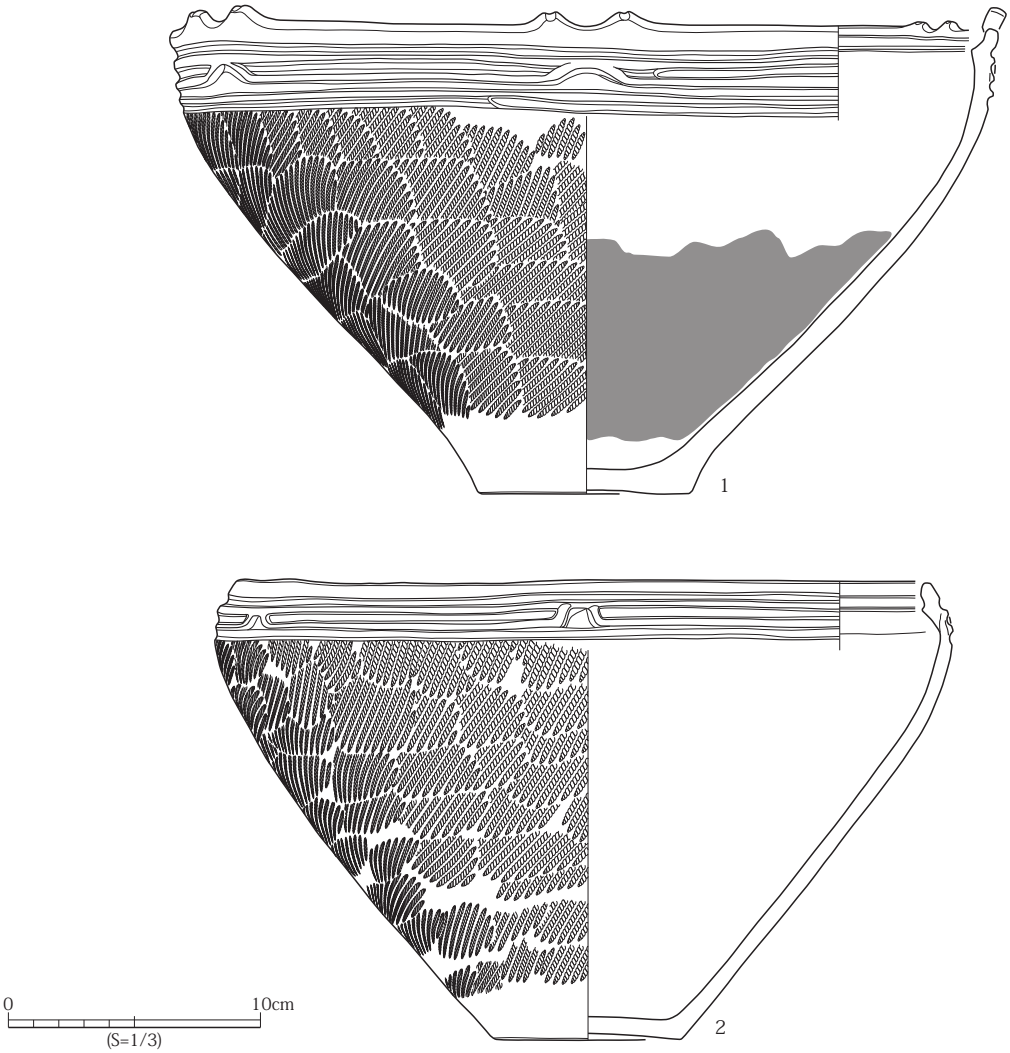


第182図　SX85・86・87・88・89土器埋設遺構　平面図



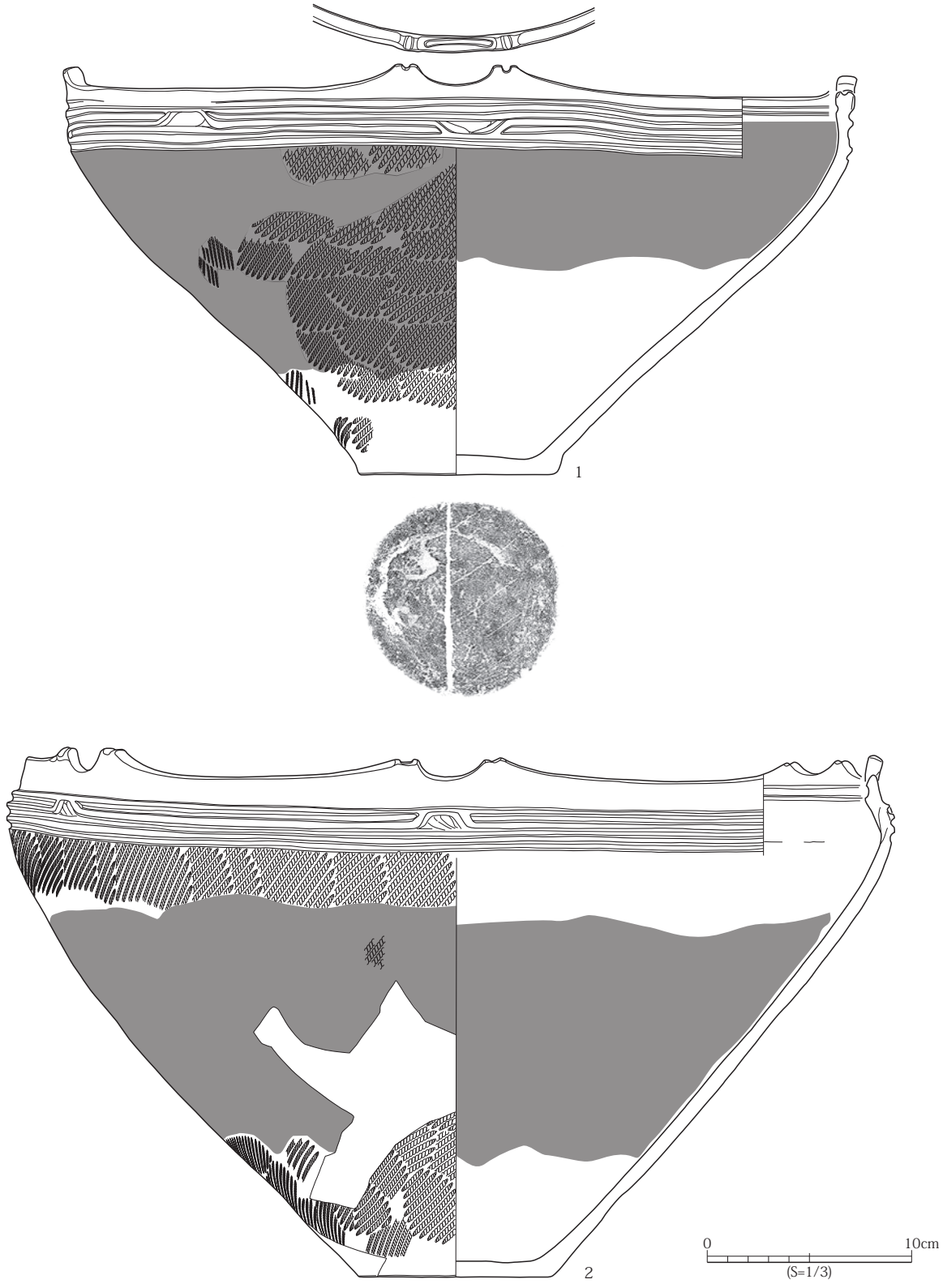
調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　徴
SX86	A-A'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	小礫（X層）やや多量 【混入土】
		2	黒色（2.5Y2/1）	粘土質シルト	地山（IX層）粒少量 【埋土】
P300		3	黒褐色（2.5Y3/1）	シルト	地山（IX層）粒中量
SX87	B-B'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	小礫（X層）少量 【混入土】
		2	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	小礫（X層）多量 【埋土】
SX89	C-C'	1	黒褐色（10YR3/1）	粘土	小礫（X層）多量、地山（IX層）粒少量 【埋土】

第183図　SX86・87・89土器埋設遺構　断面図



1: 鉢 / SX86・埋設土器 / 181図1, 2: 鉢 / SX87・埋設土器 / 181図2 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第184図　SX86・87土器埋設遺構　埋設土器



1: 鉢 / SX88・埋設土器 / 182図1，2: 鉢 / SX89・埋設土器 / 182図2 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第185図　SX88・89土器埋設遺構　埋設土器

（同図 2）では ^{14}C 年代が 2,440 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 725 ～ 420calBC となり、縄文時代晩期後葉から弥生時代前期頃の年代値が得られた。また、SX88 で出土した人骨についても放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,530 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 778 ～ 590calBC となり、縄文時代晩期中葉から後葉頃の年代値が得られている。土器付着炭化物と人骨とで年代差があることから、何らかの目的で使用した土器を、古い時期の遺体を改葬するための土器棺へと転用したものと推定され、再葬墓の可能性を示唆する結果となった。

宮城県内で発見されている、縄文時代晩期の土器埋設遺構や土器棺墓は深鉢を正位に埋設するものがほとんどである。本地点にみられるように大型の鉢を伏せて埋設するものはきわめて稀であり、栗原市山王囲遺跡で、本地点と同様にπ字文が施された大型の鉢を埋設した土坑が 1 基検出され、晩期末葉に位置づけられている（須藤・大場ほか　1996）。そこでは人骨は出土していないが、同様に再葬墓の可能性が考えられる。

以下に、埋設土器を取り上げたものについて個別に述べる。

【SX86 土器埋設遺構】

D-58 区南側の南に緩やかに傾斜する遺物包含層上で検出した（第 182･183 図）。検出面はⅥa 層（北 1A 層群）で、ピット（P300）と重複し、これよりも新しい。π字文が施された大型の鉢（第 184 図 1）を伏せた状態で埋設されている。掘り方の平面形は、長径 46cm ×短径 44cm の円形を呈する。断面形は、底面がほぼ平坦で、壁が急に立ち上がる逆台形を呈し、残存する深さが 29cm ある。埋土は 1 層確認し、地山（Ⅸ層）粒を少量含む黒色粘土質シルトで埋め戻されている。また、土器内の土壌はⅩ層起源の凝灰岩小礫をやや多く含む黒褐色粘土質シルトで、埋没後に自然に流入したものとみられる。なお、埋設土器以外の遺物は出土していない。

【SX87 土器埋設遺構】

D-58 区南側の南に緩やかに傾斜する遺物包含層上で検出した（第 182･183 図）。検出面はⅥa 層（北 1A 層群）である。π字文が施された大型の鉢（第 184 図 2）を伏せた状態で埋設されている。掘り方の平面形は、長径 42cm ×短径 36cm の楕円形を呈する。断面形は不整な逆台形を呈し、底面は南側がやや深く掘りくぼめられており、壁は急に立ち上がる。残存する深さは 17cm ある。埋土は 1 層確認し、Ⅹ層起源の凝灰岩小礫を多く含む黒色粘土質シルトで埋め戻されている。また、土器内の土壌はⅩ層起源の凝灰岩小礫を少量含む黒褐色粘土質シルトで、埋没後に自然に流入したものとみられる。埋設土器以外では、埋土から粗製の深鉢が出土している。

【SX88 土器埋設遺構】

D-58 区南側の南に緩やかに傾斜する遺物包含層上で検出した（第 182 図）。検出面はⅥa 層（北 1A 層群）である。π字文が施された大型の鉢（第 185 図 1）が横に倒れた形で出土している。斜面部に位置するため、後世の土壌堆積により倒れたものとみられる。掘り方の平面形は、長径 34cm ×短径 27cm の楕円形を呈する。埋土からは人骨 2 点（指骨（手）末節骨、臼歯）が出土している。

【SX89 土器埋設遺構】

D-58 区南側の南に緩やかに傾斜する遺物包含層上で検出した（第 182･183 図）。検出面はⅥ a 層（北 1A 層群）である。π字文が施された鉢（第 185 図 2）を伏せた状態で埋設されているが、遺構上部が後世の洪水の影響により攪乱を受けており、体部下半から底部の破片が東側に散乱した状況で出土した。掘り方の平面形は、長径 54cm ×短径 50cm の円形を呈する。断面形は、底面がほぼ平坦で、壁が緩やかに立ち上がる皿形を呈し、残存する深さが 8cm ある。埋土は 1 層確認し、X 層起源の凝灰岩小礫を多く含み、地山（Ⅸ層）粒を少量含む黒褐色粘土で埋め戻されている。なお、埋設土器以外の遺物は出土していない。

（2）遺物包含層と出土遺物

東 C 丘陵西端部北斜面における遺物包含層（Ⅵ層）は、D-50・58・60・61・62・63・64 区で検出した。その範囲は、東西約 123m（D-50 区と D-63 区間の直線距離）、南北約 23m（D-58 区南西隅から、D-58 区西壁の北延長線と D-61 区北壁の西延長線の交点までの距離）ある。また、平成 16 年度に宮城県教育委員会が実施した確認調査では、D-60 区の約 50m 北側で遺物包含層を検出しているため、南北は 70m 程度の長さとなる。なお、D-63 区と G-29 区の間の丘陵裾部は調査対象外であり、D-63 区の西側にある調査区（G-5 区など）や、平成 16 年度宮城県教育委員会確認調査トレンチの北側にある調査区（D-67 区など）ではⅥ層を確認できなかった。また、D-60・61 区の南側にある D-76・77 区は丘陵頂部に当たり、Ⅵ層の堆積はなかった。

遺物包含層（Ⅵ層）は、土色や土性、含有物などの特徴から各調査区で複数の層に細分され、また調査区によりⅥ層の堆積状況が異なる。前述のとおり、これらの細分層の土性や土色、含有物などの特徴から、北斜面におけるⅥ層を北 1A ～ 6 層群まで 8 層に大別した（第 9 表）。さらに遺物が多く出土している範囲では、西側（D-58・60（西側）・64 区）と東側（D-60（東側）・61・62・63 区）でⅥ層の層厚や大別層群の有無に明瞭な差異が認められる。

遺物包含層の西側では、D-60 区から D-64 区にかけて西に緩やかに傾斜する地形となっている。D-60 区西側でⅥ層の傾斜が始まる地点から D-64 区南壁西端まで、直線距離で約 26.0m、Ⅵ層上面での比高は約 1.9m、勾配は約 7.3% である。南北の傾斜については、D-58 区東壁で見ると北へ緩やかに傾斜する地形となっている。南側でⅥ層の傾斜が確認される地点から北壁まで、直線距離で約 11.8m、Ⅵ層上面での比高は約 0.8m、勾配は約 6.8% である。また、D-60 区西側では北西へ急傾斜する地形となっており、南壁から北壁まで直線距離で約 3.8m、Ⅵ層上面での比高は約 0.8m、勾配は約 21.1% である。各調査区で検出したⅥ層は最大で 5 層に細分されるが、大別層群でみると、下層から北 6 層群、北 4 層群、北 1A 層群が堆積している。北 6 層群は西側の D-64 区と D-58 区でのみ確認し、北 1A 層群は広範囲で分布が認められる。

遺物包含層東側では、D-62 区から D-63 区にかけて東へ緩やかに傾斜する地形となっており、D-62 区東壁南端から D-63 区東壁南端まで、直線距離で約 9.8m、Ⅵ層上面での比高は約 0.5m、勾配

は約 5.1% である。南北の傾斜については、D-60・61 区の丘陵頂部に近い部分ではⅥ層上部が削平されているため当時の地形は不明であるが、D-60・61 区の北側では北に急傾斜する地形となっており、D-60 区東壁で見ると、Ⅵ層直上のⅤ層の堆積が確認される地点から北壁まで、直線距離で約 4.0m、Ⅵ層上面での比高は約 0.8m、勾配は 20.0% である。各調査区で検出したⅥ層は最大で 15 層に細分されるが、大別層群で見ると、下層から北 5 層群、北 4 層群、北 3 層群、北 2B 層群、北 2A 層群、北 1B 層群、北 1A 層群が堆積している。北 5 ～ 2A 層群は西側の D-60 区および D-61 区でのみ検出し、北 1B・1A 層群は東側の D-62 区および D-63 区でのみ検出した。

遺物は北 6 層群から北 1A 層群まで出土している。出土した遺物には、縄文土器や弥生土器、土製品、石器・石製品、骨角牙製品、漆製品、動物遺存体などがある。遺物量が特に多いことから、本稿では遺物種別ごとの概要を述べるにとどめる。なお、詳細は、本包含層について記載している報告書（宮城県文化財調査報告書第 234 集）を参照されたい。

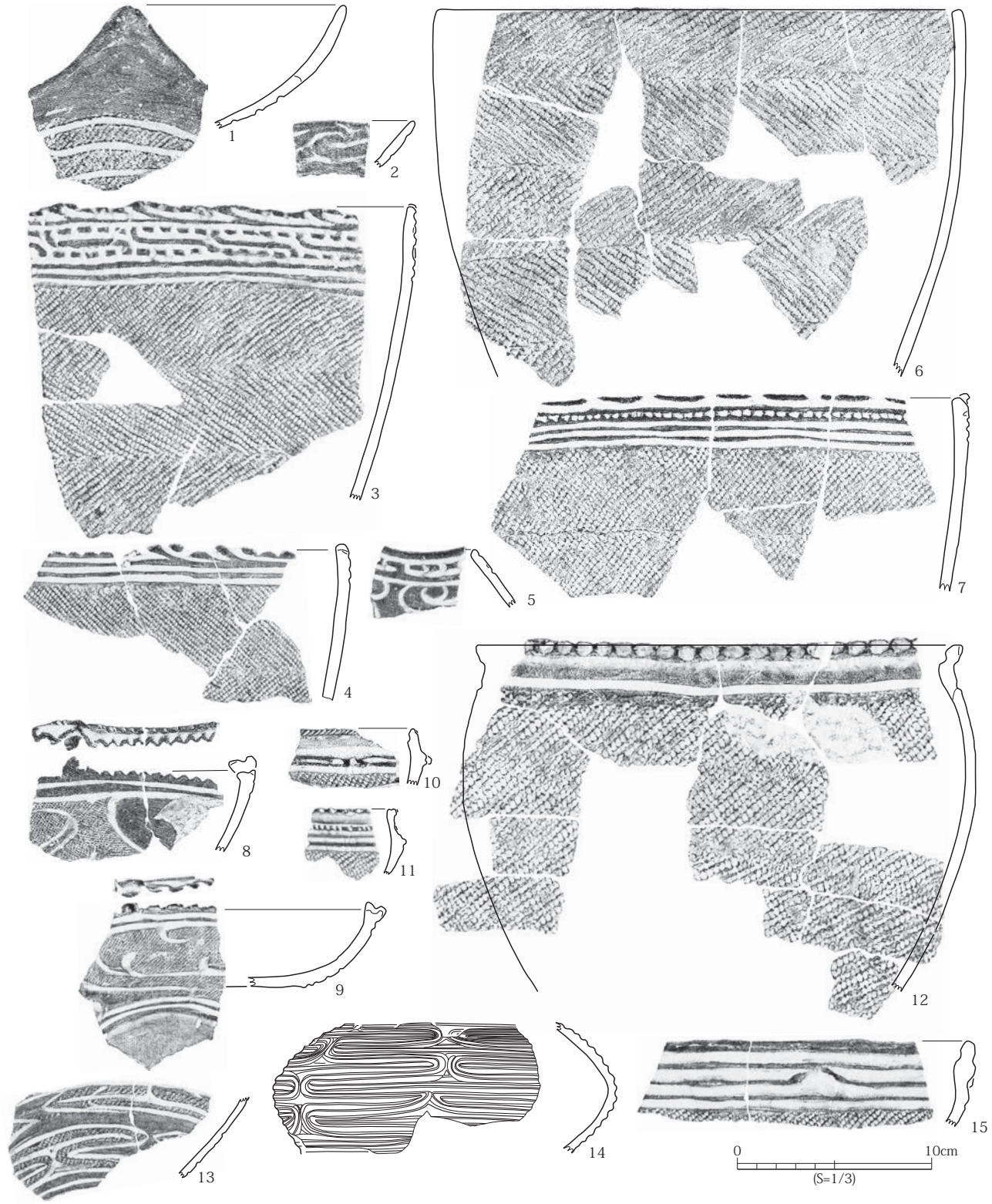
①土器

北斜面遺物包含層から出土した土器について、以下に、大別層群別に述べる。

北 6 層群は遺物包含層西側のみに堆積しており、深鉢や鉢、浅鉢、注口土器が出土している。装飾には羊歯状文が多く、三叉文が少量見られる。晩期前葉の大洞 BC 式に特徴的に見られる土器が多く出土していることから、晩期前葉後半段階（晩期 2 期）に位置づけられる。

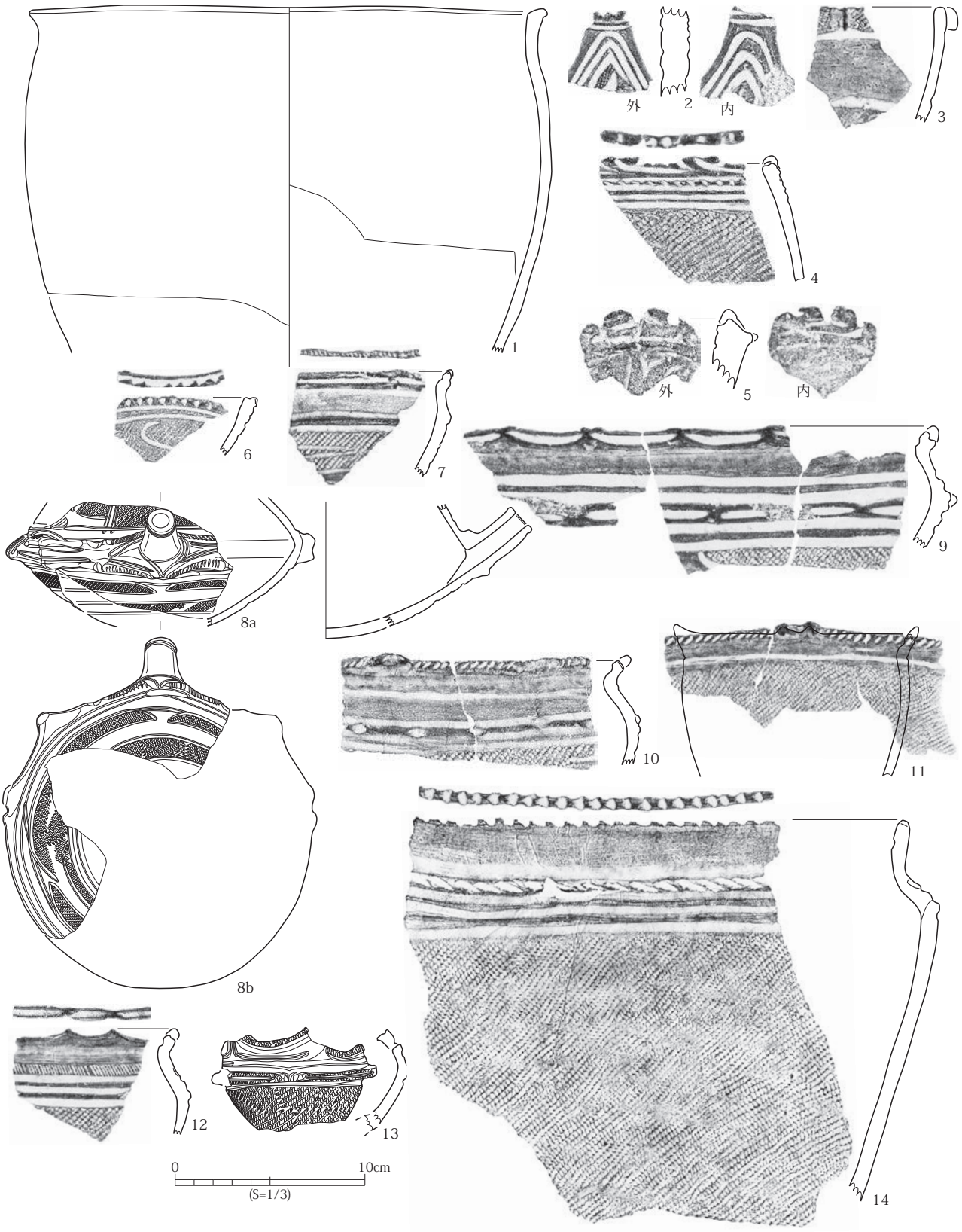
北 5 層群は遺物包含層東側のみに堆積しており、深鉢や鉢、四脚付鉢、浅鉢、台付浅鉢、皿、壺、注口土器、香炉形土器のほかに袖珍土器深鉢・鉢・浅鉢・皿が出土している。浅鉢や皿は、平坦口縁で口縁部が緩やかに内湾または直立するものがほとんどである。深鉢や鉢はいずれも、平坦口縁で口縁部がく字形に外反するものが最も多く出土し、次いで平坦口縁で口縁部が緩やかに内湾または直立するものが多く出土している。また深鉢は、小波状口縁で、口縁部が直立または内湾するものの割合も大きい。壺は、体部との境に明瞭な屈折点をもち、口頸部がく字形に外反し、平坦口縁となるものが特に多く見られることが特徴と言える。装飾には三叉文からπ字文まで見られるが、雲形文が出土量の大部分を占め、これ以外はわずかである。雲形文は大洞 C1 式と大洞 C2 式それぞれの特徴をもつものが出土しているが、後者が多い。さらに大洞 C2 式古段階と新段階の特徴をもつものが出土しているが、前者が多く、後者は少ない。以上から、晩期中葉（晩期 3 ～ 4a 期）に位置づけられる。

なお、北 5 層群から出土した土器 3 点について、土器付着炭化物および漆を対象に放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、沈線間にπ字状の櫛歯状刻目が施された深鉢（第 194 図 4）の ^{14}C 年代が 2,810 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 990 ～ 924calBC となり、晩期中葉前半頃の年代値（小林　2019、以下同）、平行沈線文が施された漆容器深鉢（第 191 図 2）の ^{14}C 年代が 2,740 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 907 ～ 834calBC となり、晩期中葉後半頃の年代値、雲形文とメガネ状浮文が施された鉢（第 193 図 3）の ^{14}C 年代が 2,580 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 796 ～ 777calBC となり、晩期中葉後半頃の年代値がそれぞれ得られた。これらの年代値は、包含層の推定時期の範囲内におおむね収まる。



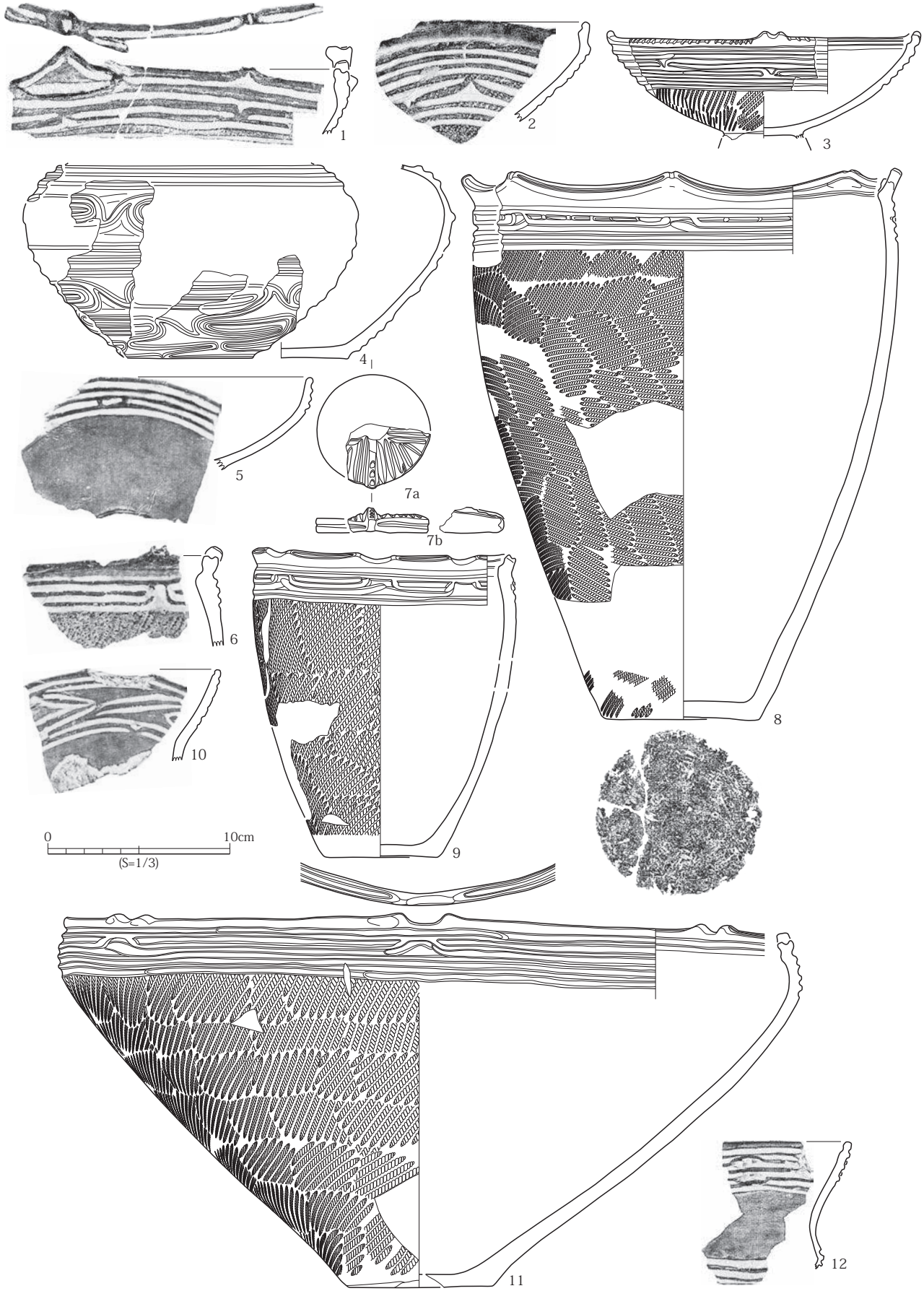
【北6層群】1: 浅鉢 / D-58北・Ⅵc-e層 / 187図1，2: 鉢 / D-58北・Ⅵe層 / 187図3，3: 深鉢 / D-58北・Ⅵe層/187図6，
4: 深鉢 / D-58北・Ⅵc層 / 187図7，5: 注口土器 / D-58北・Ⅵd層 / 187図11，6: 深鉢 / D-58北・Ⅵb層 / 187図12，
【北4層群】7: 深鉢 / D-58北・Ⅵb層 / 187図18，8: 皿 / D-58北・Ⅵb層 / 188図3，9: 皿 / D-58北・Ⅵb層 / 188図6，
10: 鉢 / D-58北・Ⅵb層 / 188図7，11: 鉢 / D-58北・Ⅵb層 / 188図8，12: 深鉢 / D-58北・Ⅵb層 / 188図9，
13: 浅鉢 / D-58北・Ⅵb層 / 188図13，14: 壺 / D-58北・Ⅵb層 / 188図12，15: 鉢 / D-58北・Ⅵb層 / 188図14
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第186図　東7地点　北斜面遺物包含層（西側）　出土土器（1）



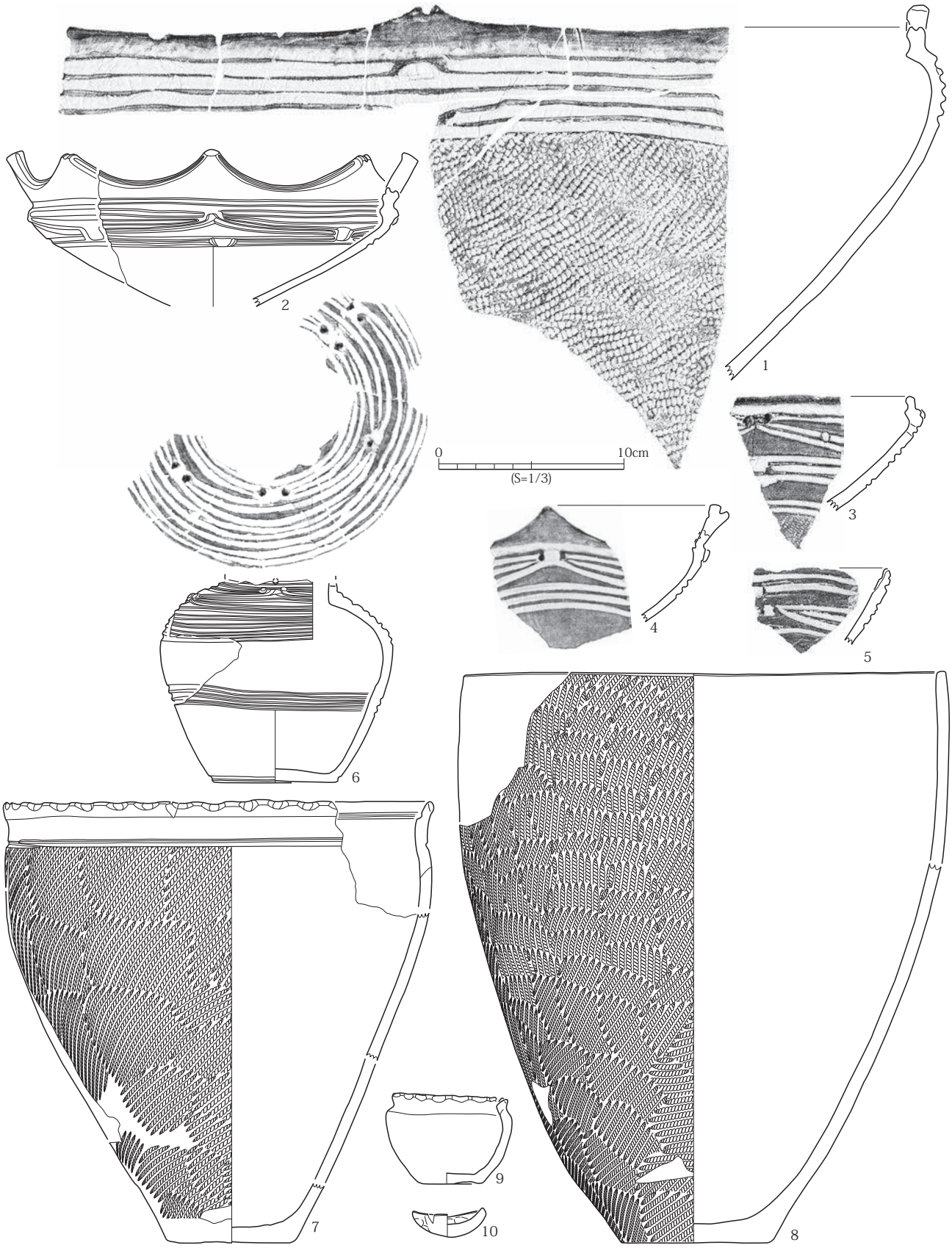
【北4層群】1: 深鉢 / D-58北・VIb層 / 188図17
【北1A層群】2: 深鉢 / D-58南・VIa層 / 189図4, 3: 鉢 / D-58北・VI層 / 189図5, 4: 鉢 / D-58北・VIa層 / 189図6,
5: 深鉢か / D-58南・VI層 / 189図8, 6: 皿 / D-58北・VIa層 / 189図12, 7: 鉢 / D-58北・VIa層 / 189図7,
8: 注口土器 / D-58北・VIa層 / 189図14, 9: 鉢 / D-58南・VIa層 / 189図9, 10: 深鉢 / D-58南・VIa層 / 190図1,
11: 深鉢 / D-58南・VIa層 / 189図17, 12: 深鉢 / D-58北・VIa層 / 191図2, 13: 香炉形土器 / D-58南・VIa層 / 194図7,
14: 深鉢 / D-60西・VI1層 / 190図13 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第187図　東7地点　北斜面遺物包含層（西側）　出土土器（2）



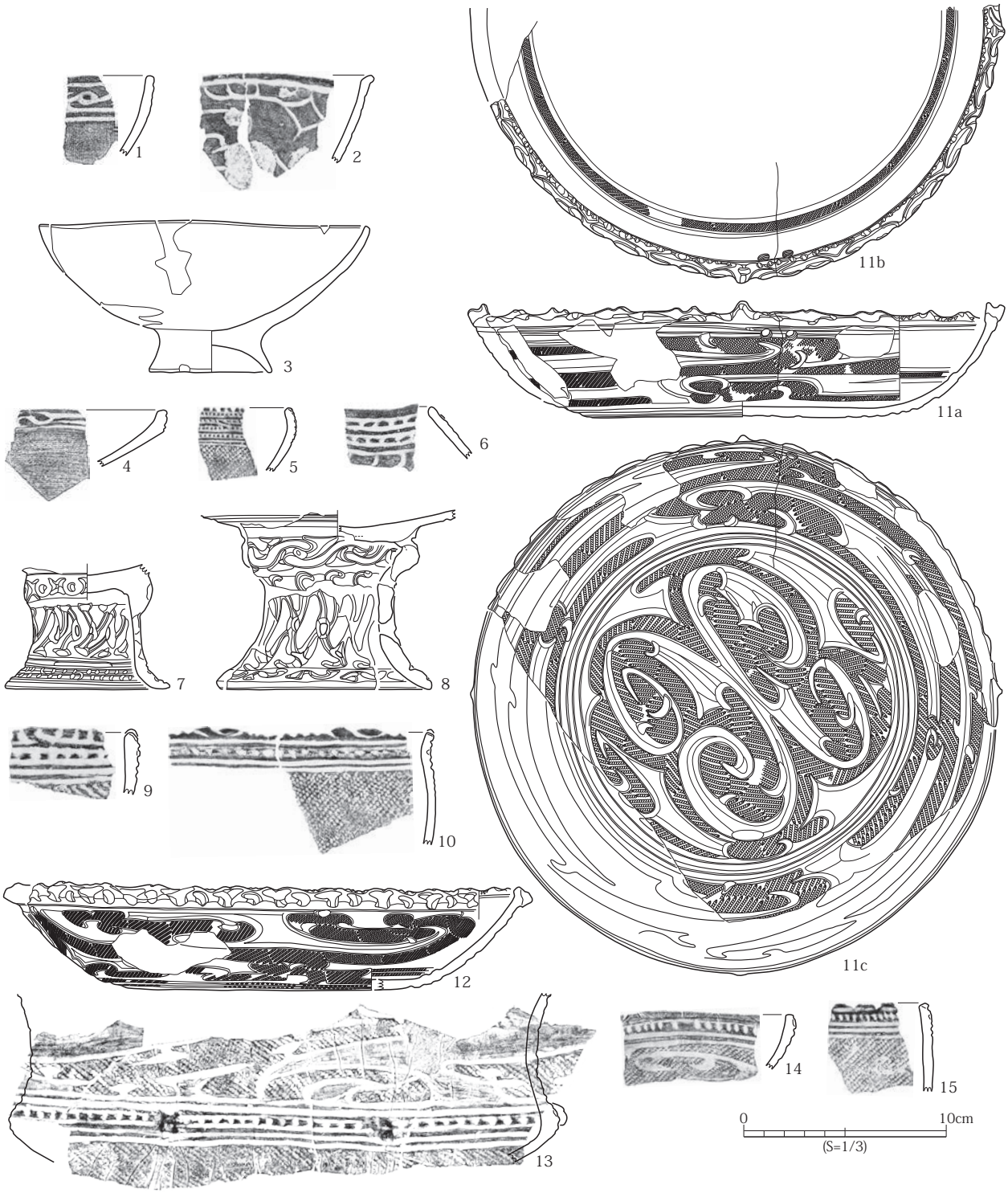
【北1A層群】1: 鉢 / D-58北・VIa層 / 192図3, 2: 浅鉢 / D-58北・VIa層 / 190図7, 3: 台付浅鉢 / D-64・VIa層 / 190図9,
4: 鉢 / D-58北・VIa層 / 190図6, 5: 台付浅鉢 / D-58北・VIa層 / 190図10, 6: 深鉢 / D-58北・VIa層 / 191図9, 7: 蓋 / D-64・VIa層 / 190図14,
8: 深鉢 / D-58北・VIa層, D-58南・IVb層 / 191図7, 9: 深鉢 / D-58北・VIa層, D-58南・VIa層 / 191図8,
10: 鉢 / D-60西・VI1層 / 193図3, 11: 鉢 / D-58南・VIa層/ 192図1, 12: 鉢 / D-60西・VI1層 / 193図4 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第188図　東7地点　北斜面遺物包含層（西側）　出土土器（3）



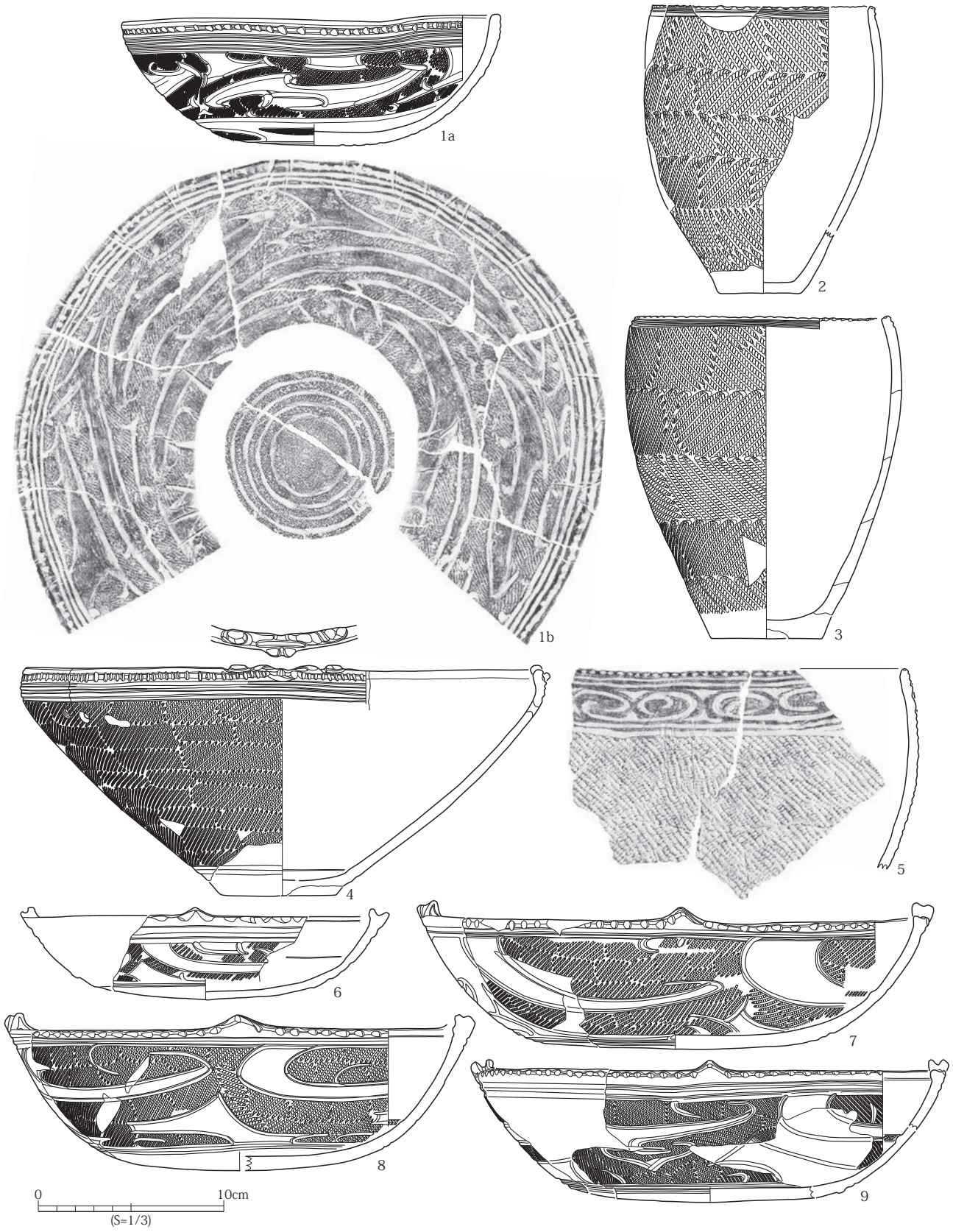
【北1A層群】1: 鉢 / D-58北・Ⅵa層 / 193図1, 2: 台付浅鉢 / D-60西・Ⅵ1層 / 193図7, 3: 浅鉢 / D-58北・Ⅵa層 / 194図1, 4: 台付浅鉢 / D-60西・Ⅵ1層 / 194図2, 5: 浅鉢 / D-58北・Ⅵa層 / 193図6, 6: 壺 / D-64・Ⅵa層 / 194図4, 7: 深鉢 / D-58北・Ⅵa層 / 190図15, 8: 深鉢 / D-60西・Ⅵ1層 / 194図9, 9: 袖珍土器鉢 / D-58南・Ⅵa層 / 191図5, 10: 袖珍土器皿 / D-60西・Ⅵ1層 / 194図5 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第189図　東7地点　北斜面遺物包含層（西側）　出土土器（4）



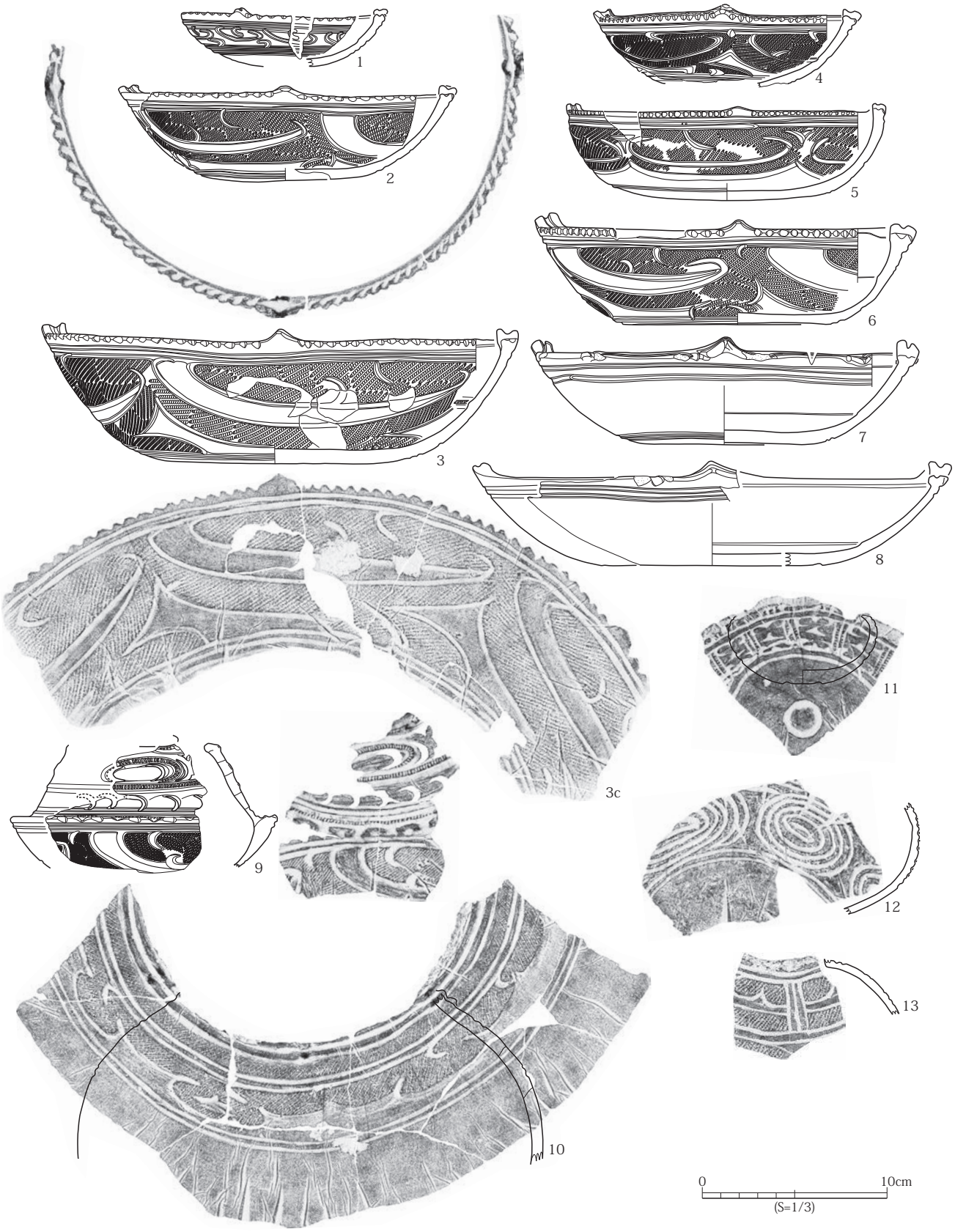
【北5層群】1: 鉢 / D-61西・Ⅵh層 / 195図1, 2: 鉢 / D-61西・Ⅵh層 / 195図5, 3: 台付浅鉢 / D-60東・Ⅵm層 / 195図4,
4: 浅鉢 / D-61西・Ⅵh層 / 195図2, 5: 浅鉢 / D-61西・Ⅵh層 / 195図6, 6: 注口土器 / D-61西・Ⅵh層 / 195図7,
7: 台部 / D-61西・Ⅵgl-h層 / 195図10, 8: 香炉形土器か / D-61西・Ⅵh層 / 195図11, 9: 深鉢 / D-61西・Ⅵh層 / 195図12,
10: 深鉢 / D-61西・Ⅵh層 / 195図14, 11: 皿 / D-61西・Ⅵg1・2層 / 195図17, 12: 皿 / D-61西・Ⅵh層 / 196図1,
13: 浅鉢 / D-61西・Ⅵh層 / 195図16, 14: 浅鉢 / D-61西・Ⅵh層 / 195図15, 15: 鉢 / D-61西・Ⅵf1層 / 196図5
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第190図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土土器（1）



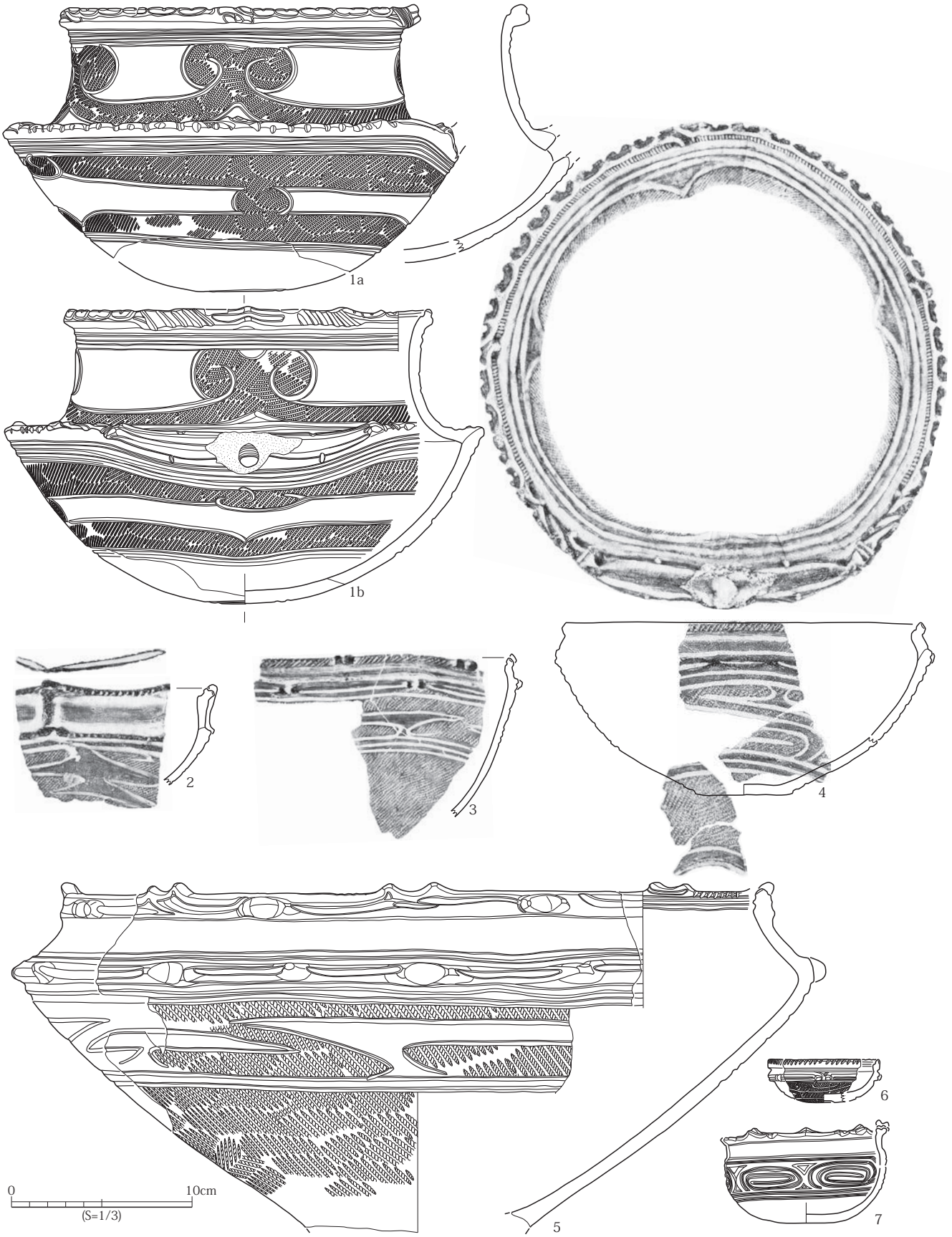
【北5層群】1: 皿 / D-61西・Ⅵh層 / 196図2, 2: 漆容器（深鉢） / D-61西・Ⅵf2層 / 197図2, 3: 深鉢 / D-61西・Ⅵg1層 / 197図1,
4: 浅鉢 / D-61西・Ⅵh層 / 196図11, 5: 鉢 / D-61西・Ⅵg1層 / 197図8, 6: 皿 / D-61西・Ⅵg1・2層 / 198図16,
7: 皿 / D-61西・Ⅵh層 / 198図7, 8: 皿 / D-61西・Ⅵg1層 / 199図6, 9: 皿 / D-61西・Ⅵg1層 / 198図17 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第191図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土土器（2）



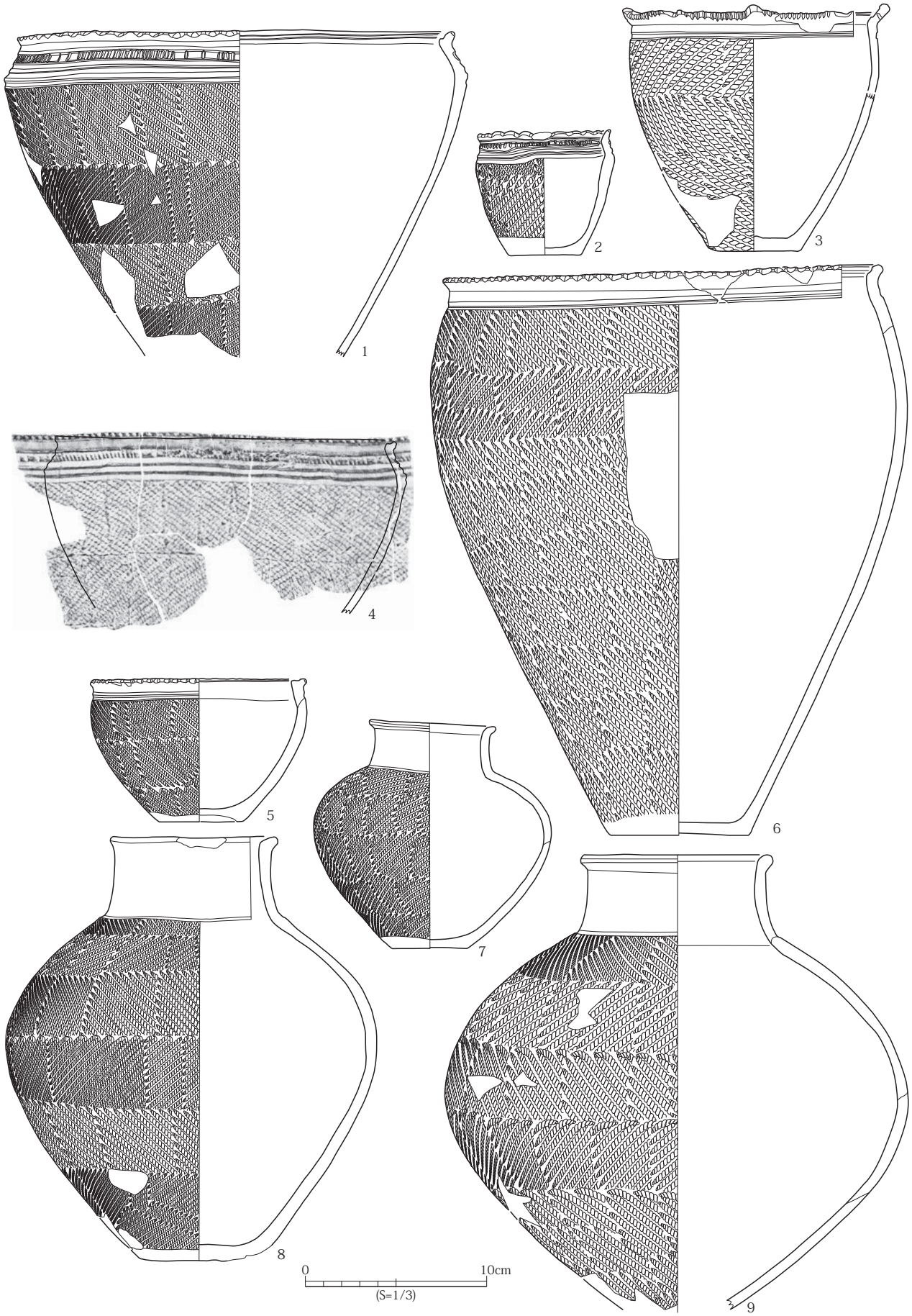
【北5層群】1: 皿 / D-61西・Ⅵg1・2層 / 199図7, 2: 皿 / D-61西・Ⅵg1層 / 199図4, 3: 皿 / D-61西・Ⅵg2層 / 199図1,
4: 皿 / D-61西・Ⅵf1・2層 / 200図8, 5: 皿 / D-61西・Ⅵg1-h層 / 199図2, 6: 皿 / D-61西・Ⅵg1層 / 199図3,
7: 皿 / D-61西・Ⅵg1層 / 200図11, 8: 皿 / D-61西・Ⅵf1層 / 200図12, 9: 香炉形土器 / D-61西・Ⅵg2層 / 202図1,
10: 壺 / D-61西・Ⅵg1層 / 201図1, 11: 壺 / D-61西・Ⅵg1・2層 / 201図2, 12: 壺か / D-61西・Ⅵg1層 / 201図3,
13: 壺 / D-60東・Ⅵm層 / 201図5 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第192図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土土器（3）



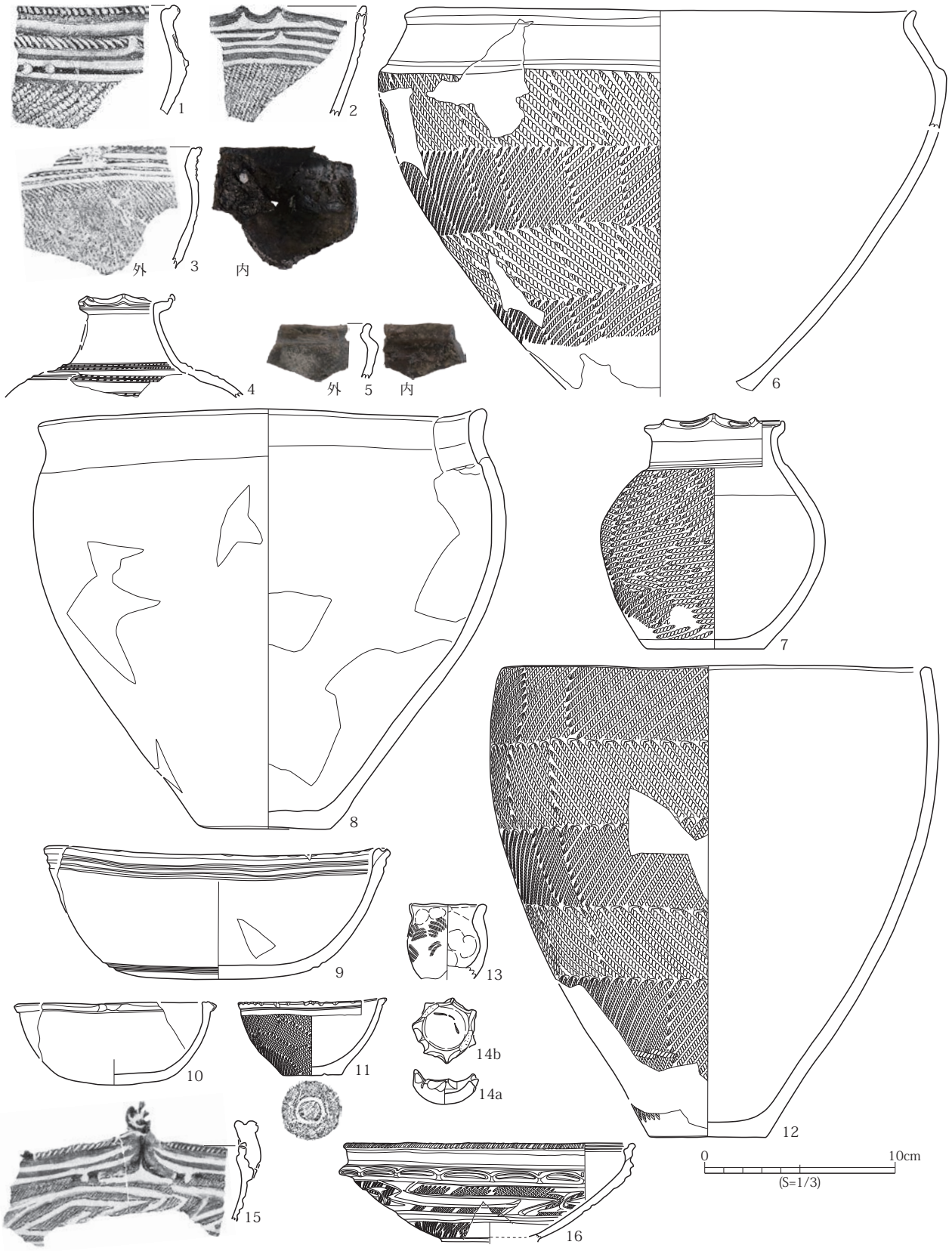
【北5層群】1: 注口土器 / D-61西・Ⅵh層 / 201図8, 2: 浅鉢 / D-61西・Ⅵf1層 / 197図16,
3: 鉢 / D-61西・Ⅵf1・2層 / 197図18, 4: 浅鉢 / D-61西・Ⅵf1層 / 197図13, 5: 浅鉢 / D-60東・Ⅵm-o層 / 198図1,
6: 袖珍土器浅鉢 / D-61西・Ⅵf1・2層 / 198図2, 7: 鉢 / D-61西・Ⅵf2層 / 198図3 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第193図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土土器（4）



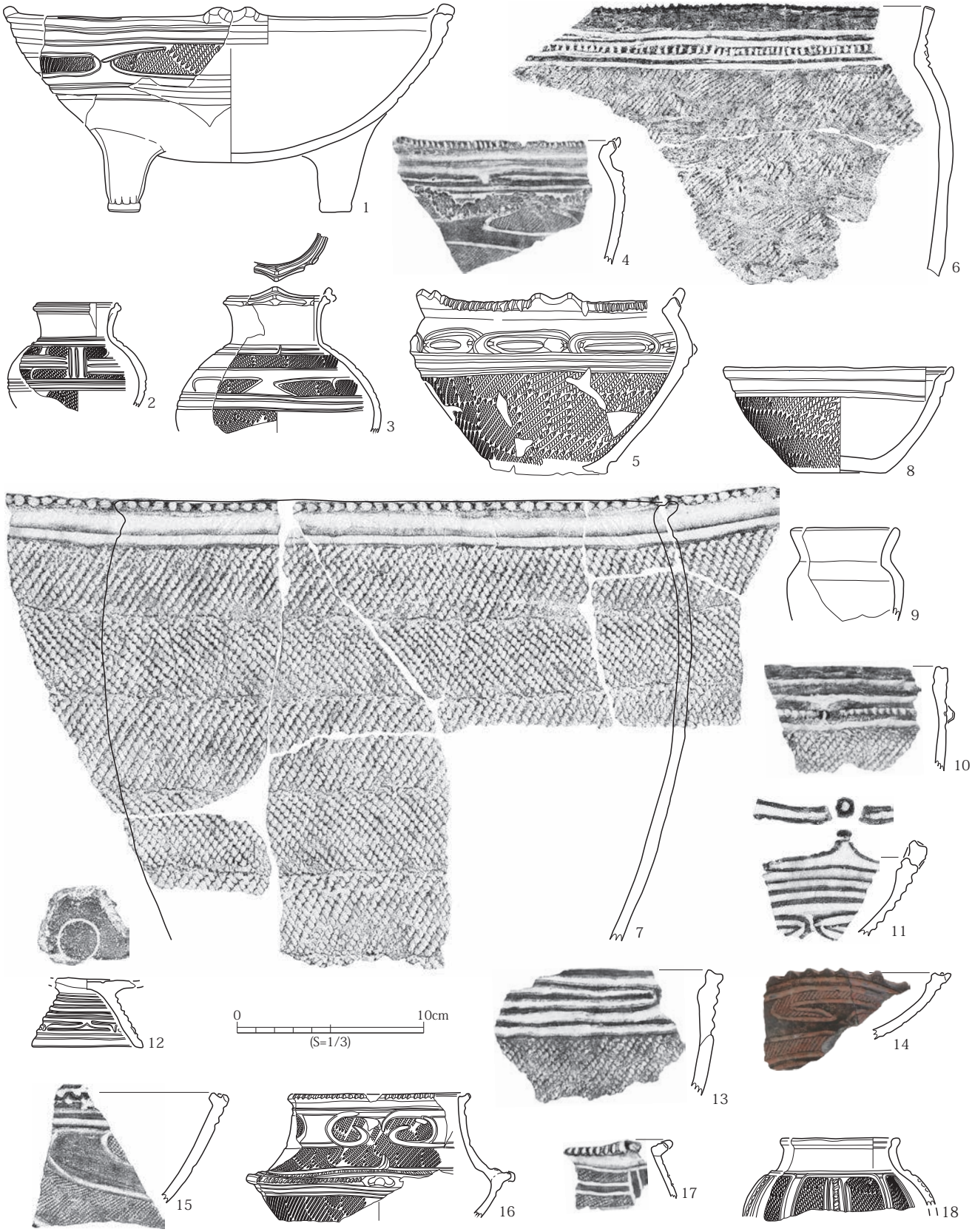
【北5層群】1: 深鉢 / D-61西・Ⅵh層 / 202図5, 2: 鉢 / D-61西・Ⅵh層 / 205図3, 3: 深鉢 / D-61西・Ⅵf1-h層 / 202図13,
4: 深鉢 / D-61西 / Ⅵg2層 / 202図6, 5: 深鉢（漆容器か） / D-61西・Ⅵg1層 / 203図6, 6: 深鉢 / D-61西・Ⅵf1-h層 / 203図7,
7: 壺 / D-61西・Ⅵf1-h層 / 205図6, 8: 壺 / D-61西・Ⅵg1層 / 205図8, 9: 壺 / D-61西・Ⅵf2層 / 205図9 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第194図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土土器（5）



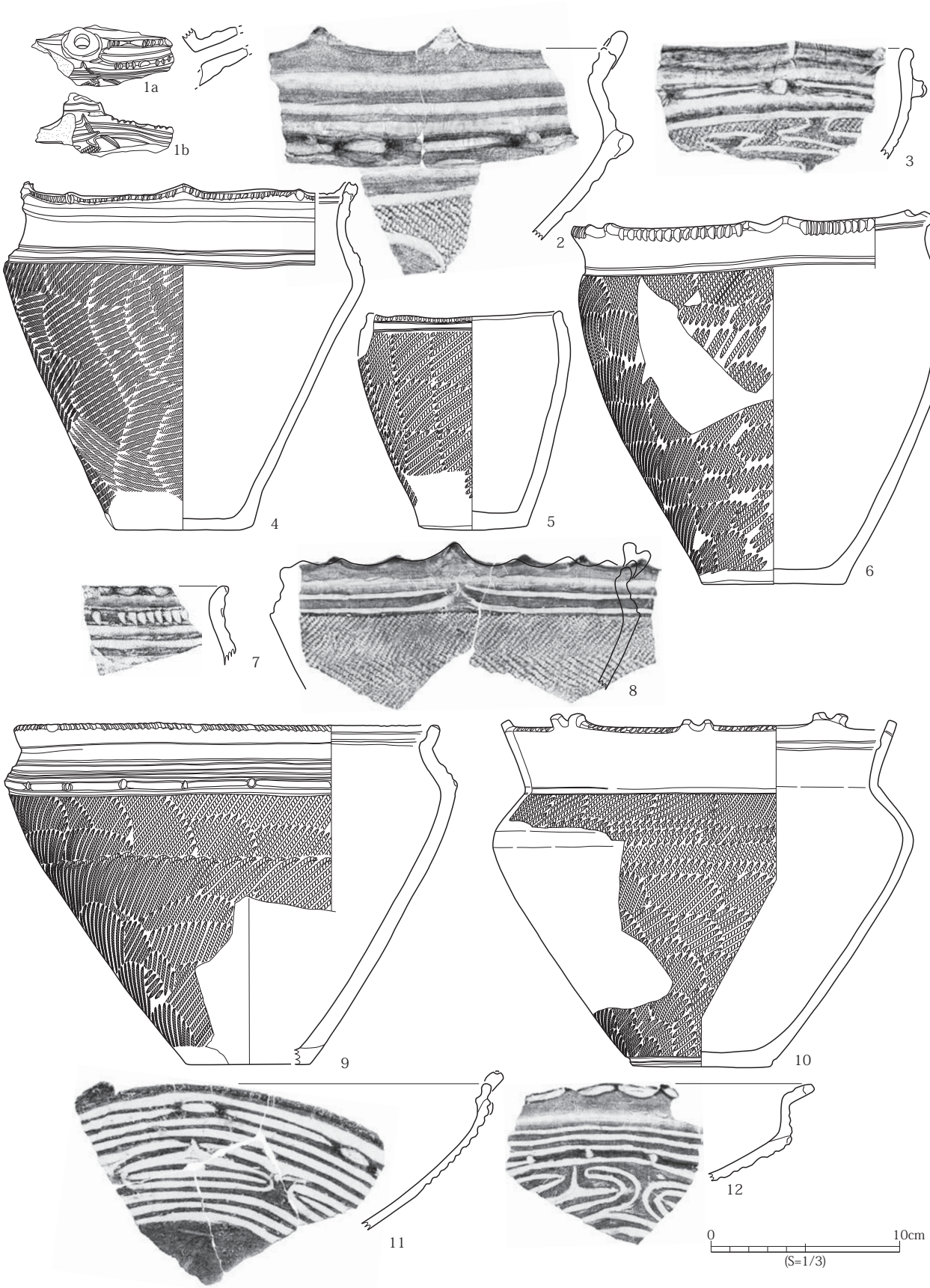
【北5層群】1: 深鉢 / D-61西・Ⅵf1層 / 206図2, 2: 鉢 / D-60東・Ⅵm層 / 206図1, 3: 漆容器（鉢）/ D-61西・Ⅵf3層 / 206図3,
4: 壺 / D-61西・Ⅵg1層 / 206図11, 5: 漆容器（深鉢）/ D-61西・Ⅵg2層 / 207図1, 6: 深鉢 / D-61西・Ⅵh層 / 206図12,
7: 壺 / D-60東・Ⅵm層 / 206図10, 8: 深鉢 / D-61西・Ⅵf1-h層 / 207図3, 9: 浅鉢 / D-61西・Ⅵg1層 / 207図8,
10: 鉢 / D-60東・Ⅵm-o層 / 207図10, 11: 袖珍土器鉢 / D-61西・Ⅵf1・2層 / 207図13, 12: 深鉢 / D-61西・Ⅵh層 / 208図6,
13: 袖珍土器深鉢（漆容器か）/ D-60東・Ⅵm-o層 / 207図14, 14: 袖珍土器皿 / D-61西・Ⅵf3層 / 207図15
【北4層群】15: 深鉢 / D-61西・Ⅵe層 / 210図13, 16: 浅鉢 / D-61西・Ⅵe層 / 210図16 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第195図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土土器（6）



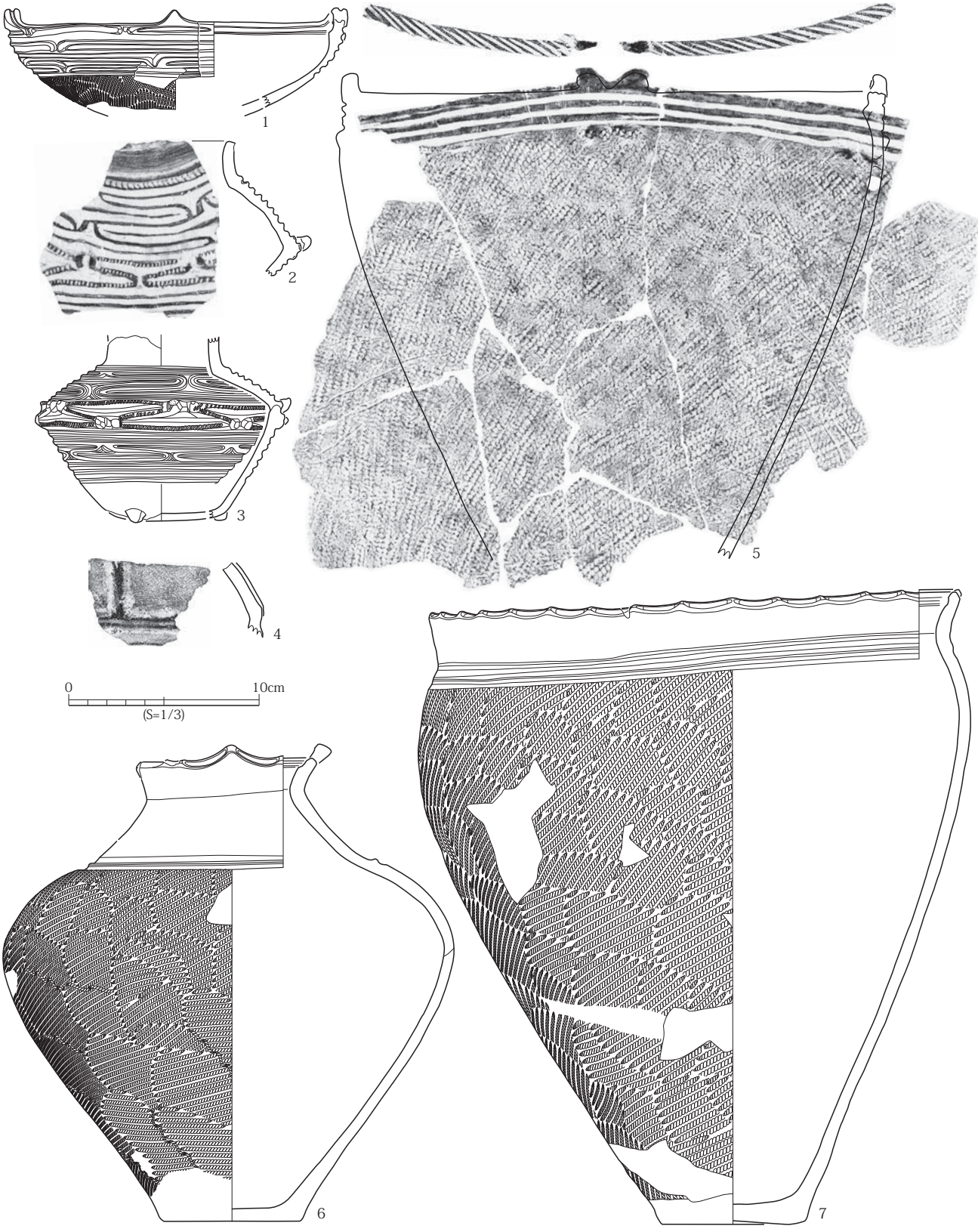
【北4層群】1: 四脚付浅鉢 / D-61西・VIe層 / 210図21, 2: 壺 / D-61西・VIe-f1層 / 211図3, 3: 壺 / D-61西・VIe層 / 211図4,
4: 鉢 / D-61西・VIe層 / 210図14, 5: 鉢 / D-61西・VIe層 / 210図15, 6: 深鉢 / D-60東・VIh層 / 211図8, 7: 深鉢 / D-61西・VIe層 / 212図1,
8: 鉢 / D-61西・VIe層 / 213図5, 9: 袖珍土器壺 / D-61西・VIe層 / 213図12, 10: 深鉢 / D-61西・VIe層 / 212図6,
11: 浅鉢 / D-61西・VIe層 / 212図7, 12: 台部 / D-60東・VIj・k層 / 212図9, 13: 鉢 / D-61西・VIe層 / 212図8
【北3層群】14: 皿 / D-61西・VId-f2層 / 214図6, 15: 皿 / D-61西・VIc1・2層 / 214図5, 16: 注口土器 / D-60東・VIg2-o層 / 214図10,
17: 注口土器 / D-61西・VIc1・2層 / 214図8, 18: 壺 / D-61西・VId-f2層 / 214図7 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第196図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土土器（7）



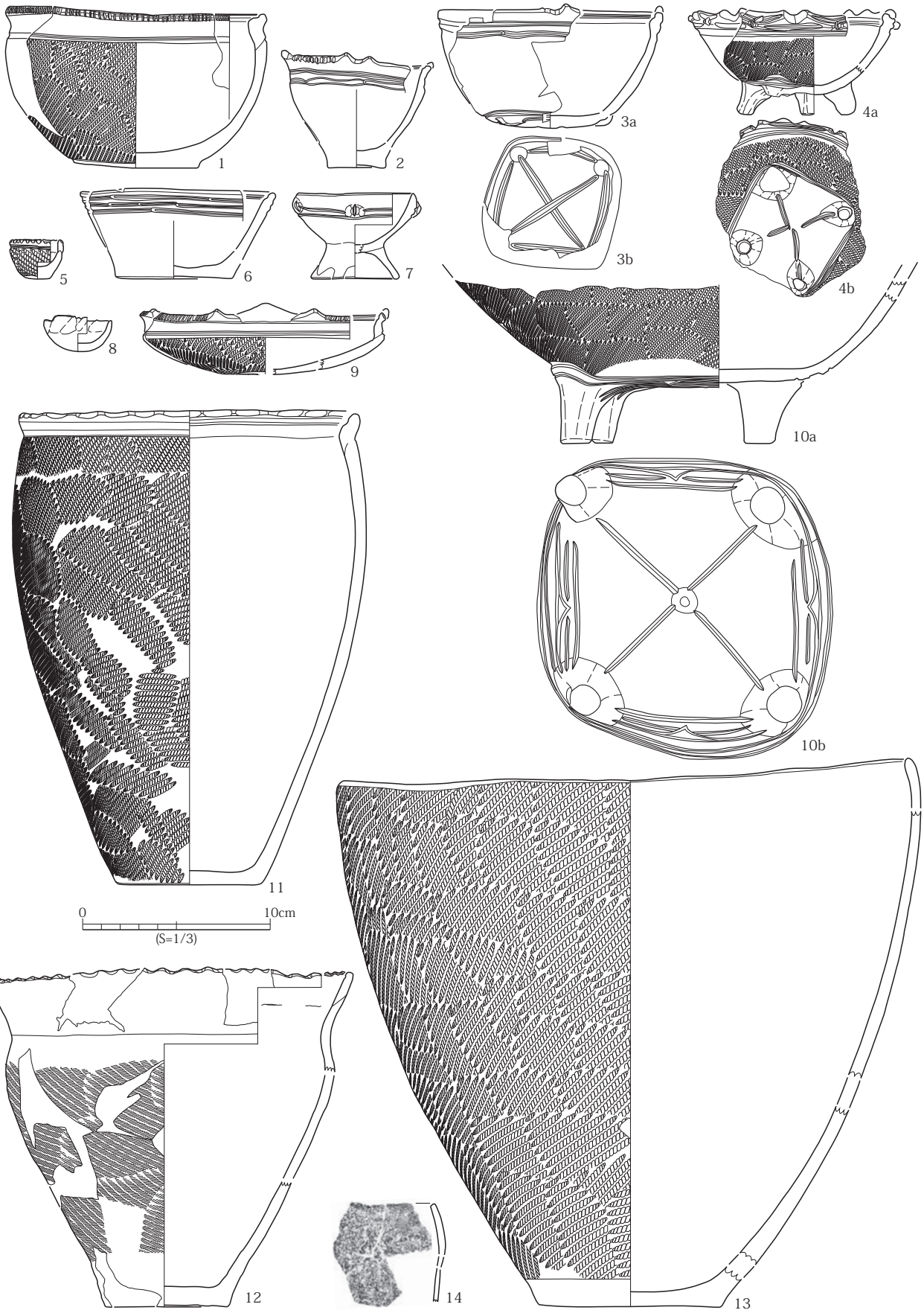
【北3層群】1: 注口土器 / D-61西・Ⅵc1・2層 / 214図9, 2: 浅鉢 / D-60東・Ⅵg2-o層 / 214図4, 3: 鉢 / D-61西・Ⅵd層 / 214図3,
4: 深鉢 / D-60東・Ⅵg2-o層 / 214図15, 5: 深鉢 / D-61西・Ⅵd-f2層 / 214図12, 6: 深鉢 / D-61西・Ⅵd層 / 214図14,
7: 深鉢 / D-60東・Ⅵe層 / 215図4, 8: 深鉢 / D-61西・Ⅵd層 / 215図10, 9: 鉢 / D-61西・Ⅵd層 / 215図3,
10: 深鉢 / D-61西・Ⅵc2層 / 215図6, 11: 浅鉢 / D-60東・Ⅵg1層 / 216図1, 12: 浅鉢 / D-61西・Ⅵd層 / 216図2
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第197図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土土器（8）



【北3層群】1: 皿 / D-60東・Ⅵg2-o層 / 216図6, 2: 注口土器 / D-61西・Ⅵd層 / 216図9, 3: 四脚付壺 / D-61西・Ⅵd層 / 216図11, 4: 壺 / D-61西・Ⅵc2-d層 / 216図12, 5: 深鉢 / D-61西・Ⅵc2層 / 218図3, 6: 壺 / D-60東・Ⅵe-f層 / 216図13, 7: 深鉢 / D-61西・Ⅵd層 / 217図3 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第198図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土土器（9）

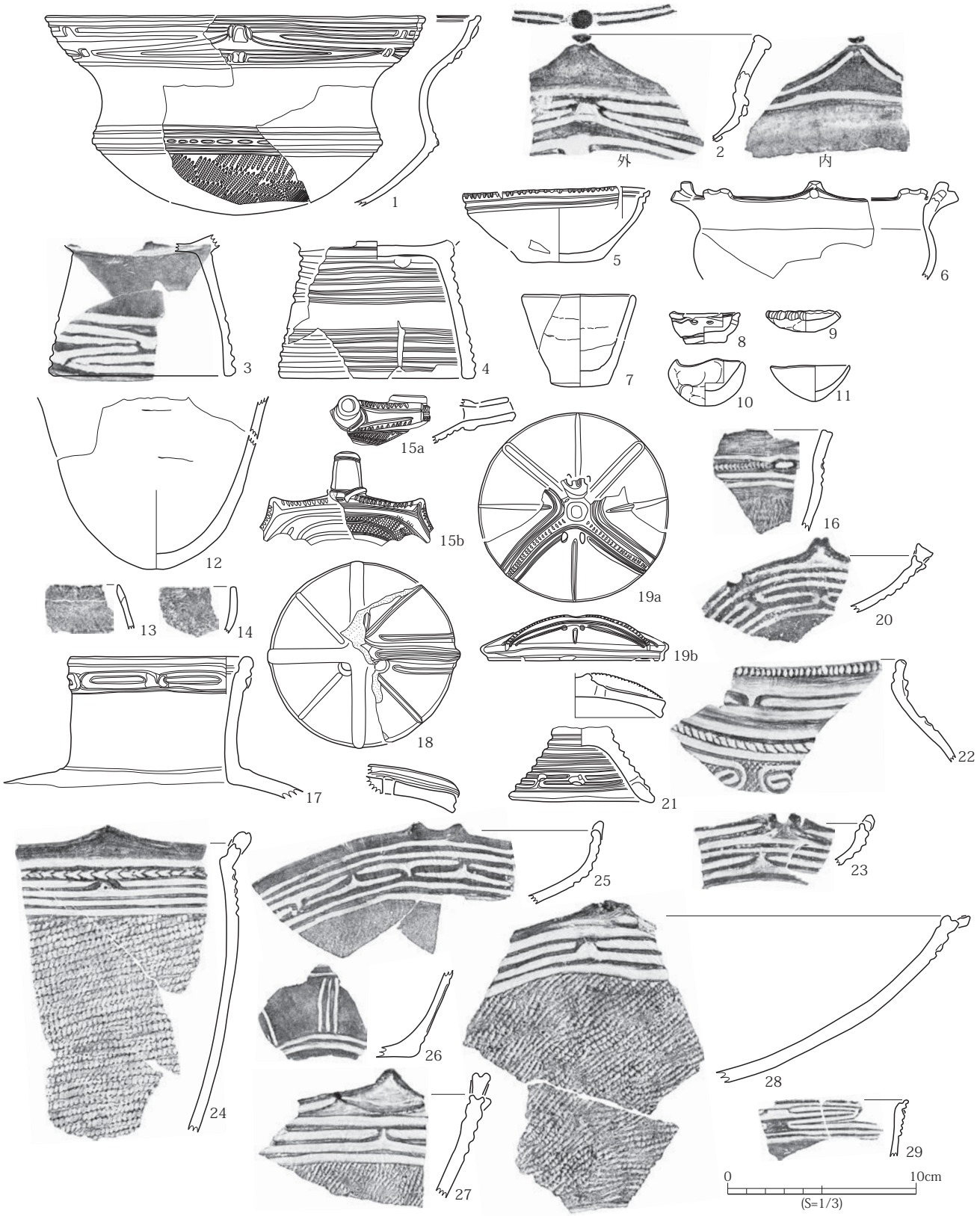


【北3層群】1: 鉢 / D-61西・Ⅵc1・2層 / 219図1, 2: 袖珍土器鉢 / D-61西・Ⅵd-e層 / 219図2, 3: 四脚付鉢 / D-61西・Ⅵc1・2層 / 219図4, 4: 四脚付鉢 / D-61西・Ⅵd層 / 219図5, 5: 袖珍土器鉢 / D-61西・Ⅵd-f2層 / 219図3, 6: 浅鉢 / D-61東・Ⅵc2層 / 219図6, 7: 袖珍土器台付浅鉢 / D-60東・Ⅵf-o層 / 219図7, 8: 袖珍土器皿 / D-61西・Ⅵd-f2層 / 219図8, 9: 皿 / D-61西・Ⅵd層 / 219図11, 10: 四脚付鉢 / D-60東・Ⅵg1層 / 216図14, 11: 深鉢 / D-61東・Ⅵc2層 / 218図1, 12: 深鉢 / D-60東・Ⅵg2-o層 / 218図4, 13: 深鉢 / D-61西・Ⅵd層 / 219図17, 14: 製塩土器深鉢 / D-61西・Ⅵc2・d層 / 219図14 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第199図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土土器（10）

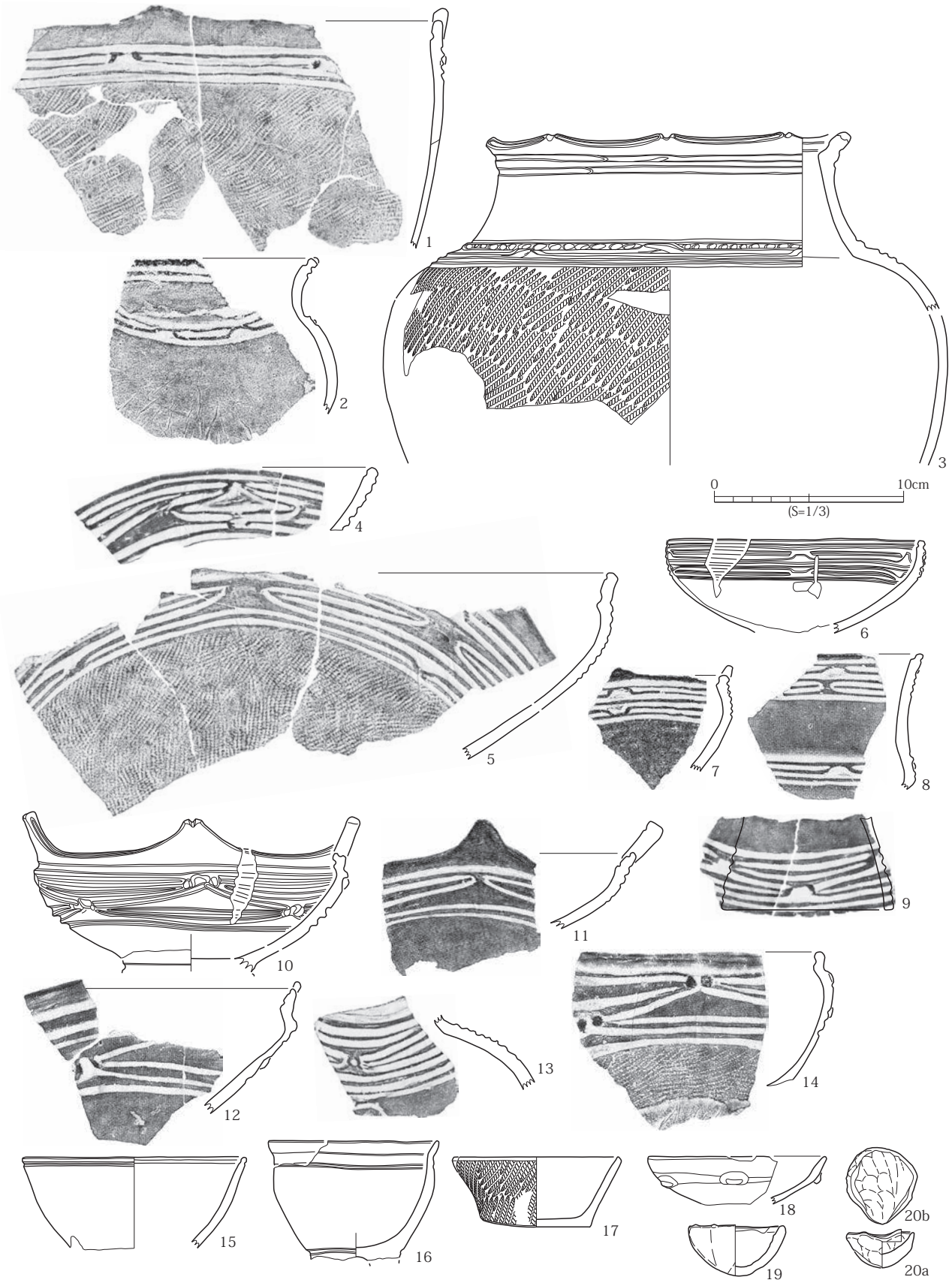
【北2B層群】1: 香炉形土器 / D-61拡張・Ⅵc層 / 220図1, 2: 鉢 / D-61西・Ⅵb1・2層 / 220図3, 3: 台付鉢 / D-61西・Ⅵb2-f1層 / 220図5,
4: 深鉢 / D-61西・Ⅵb1層 / 221図1, 5: 壺 / D-60東・Ⅵd層 / 221図3, 6: 漆容器（鉢） / D-61西・Ⅵb1-c2層 / 220図12,
7: 深鉢 / D-61西・Ⅵb2層 / 221図5, 8: 鉢 / D-61西・Ⅵb2層 / 221図6, 9: 浅鉢 / D-61西・Ⅵb1-3層 / 222図6,
10: 深鉢 / D-61西・Ⅵb1・2層 / 221図4, 11: 鉢 / D-60東・Ⅵd-f層 / 222図3, 12: 鉢 / D-61西・Ⅵb1・2層 / 222図2,
13: 浅鉢 / D-61西・Ⅵb1・2層 / 222図7, 14: 鉢 / D-61西・Ⅵb1・2層 / 220図4, 15: 壺か / D-61西・Ⅵb1-c2層 / 220図10,
16: 浅鉢 / D-61西・Ⅵb1・2層 / 222図9, 17: 注口土器 / D-61西・Ⅵb1・2層 / 222図12, 18: 台部 / D-61西・Ⅵb1層 / 222図13
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第200図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土土器（11）



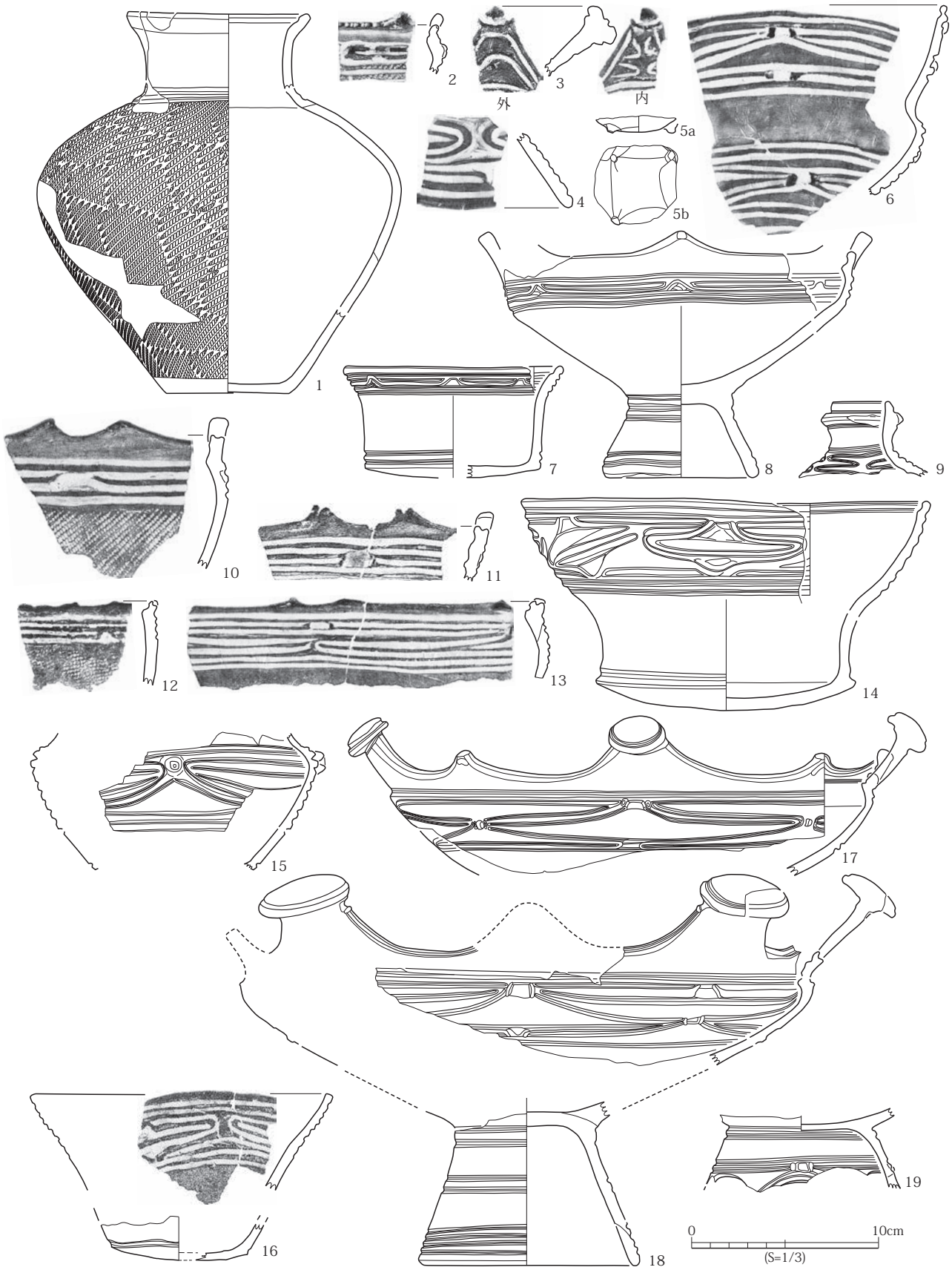
【北2B層群】1: 鉢 / D-61拡張・Ⅵc層 / 222図17，2: 台付浅鉢 / D-61拡張・Ⅵc層 / 222図18，3: 台部 / D-61拡張・Ⅵc層 / 223図1，
4: 漆容器（鉢） / D-61西・Ⅵb2層 / 222図19，5: 浅鉢 / D-61西・Ⅵb2-f1層 / 223図7，6: 浅鉢 / D-61西・Ⅵb1・2層 / 223図9，
7: 袖珍土器深鉢 / D-61西・Ⅵb2層 / 223図10，8: 袖珍土器浅鉢 / D-61西・Ⅵb1-c2層 / 223図11，
9: 袖珍土器皿 / D-60東・Ⅵd-g・f・i・m層 / 223図12，10: 袖珍土器鉢 / D-61東・Ⅵb1層 / 223図13，
11: 袖珍土器浅鉢 / D-61西・Ⅵb2層 / 223図14，12: 深鉢 / D-61拡張・Ⅵb-g層 / 223図18，
13: 製塩土器深鉢 / D-61拡張・Ⅵb-g層 / 223図31，14: 製塩土器鉢 / D-61西・Ⅵb1-c1層 / 223図32
【北2A層群】15: 注口土器 / D-61西・Ⅵa-b2層 / 224図4，16: 深鉢 / D-61西・Ⅵa層 / 224図2，17: 壺 / D-61拡張・Ⅵa層 / 224図15，
18: 蓋 / D-61拡張・Ⅵa-b2層 / 224図14，19: 蓋 / D-61拡張・Ⅵa-b2層 / 224図13，20: 皿 / D-61西・Ⅵa層/224図12，
21: 台部 / D-61西・Ⅵa-b2層 / 224図18，22: 壺 / D-60東・Ⅵb-f層 / 224図8，23: 浅鉢 / D-61西・Ⅵa層 / 225図9，
24: 深鉢 / D-60東・Ⅵc層 / 224図20，25: 浅鉢 / D-60東・Ⅵb-f層 / 225図8，26: 鉢 / D-61拡張・Ⅵa・b層 /224図11，
27: 鉢 / D-60東・Ⅵc層 / 225図4，28: 台付浅鉢 / D-60東・Ⅵc層 / 225図10，29: 浅鉢 / D-60東・Ⅵc層 / 225図7
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第201図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土土器（12）



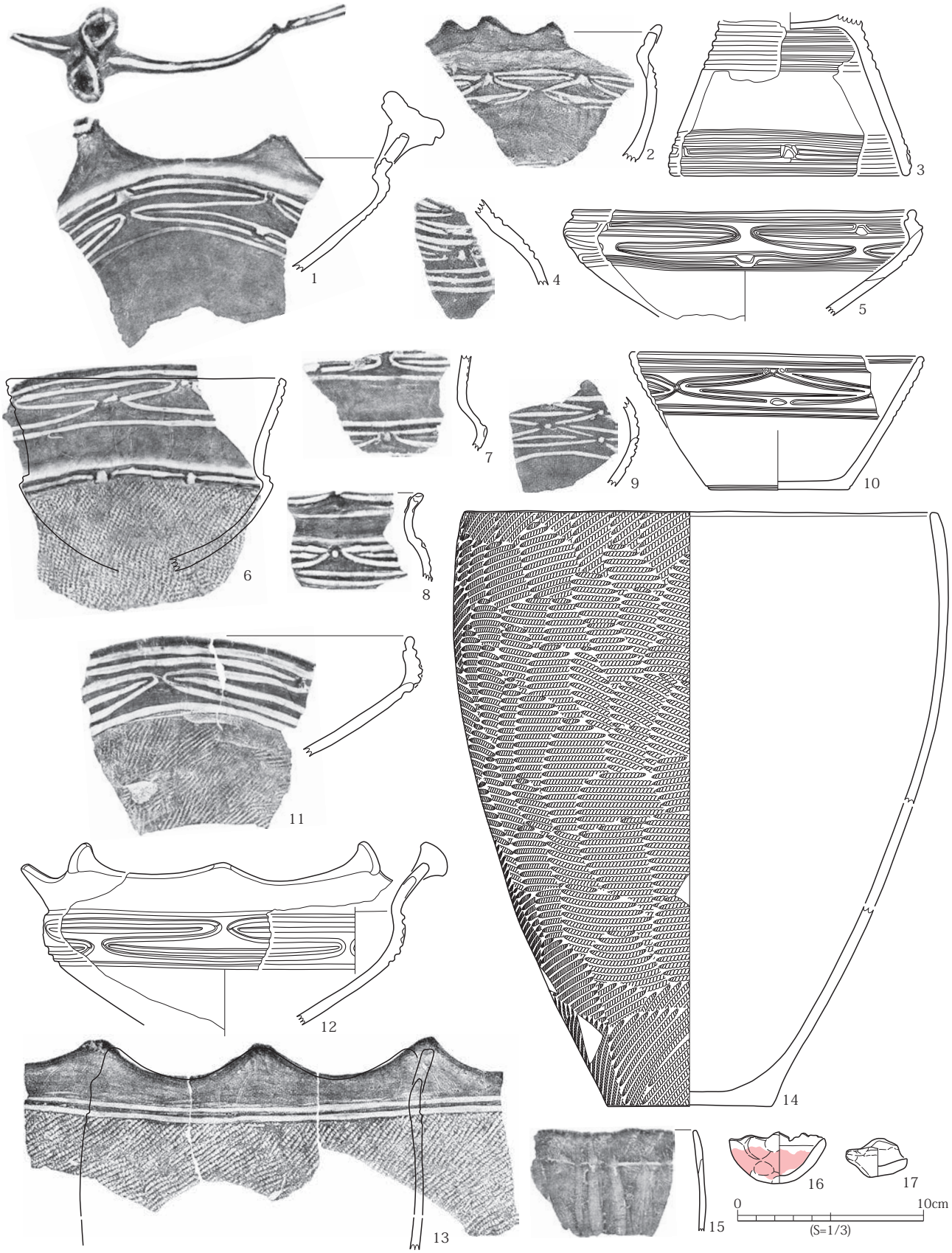
【北2A層群】1: 深鉢 / D-61西・Ⅵa-b2層 / 224図21, 2: 壺 / D-60東・Ⅵc層 / 225図14, 3: 壺 / D-60拡張・Ⅵc-o層 / 225図13,
4: 深鉢 / D-61拡張・Ⅵa・b層 / 225図12, 5: 台付浅鉢 / D-60中央・Ⅵc・h層 / 226図6, 6: 浅鉢 / D-60拡張・Ⅵa・b層 / 225図16,
7: 浅鉢 / D-60拡張・Ⅵa層 / 225図17, 8: 鉢 / D-60拡張・Ⅵa・b層 / 225図5, 9: 台部 / D-61拡張・Ⅵa・b層 / 225図21,
10: 台付浅鉢 / D-60拡張・Ⅵa層 / 226図4, 11: 台付浅鉢 / D-60拡張・Ⅵa層 / 226図1, 12: 浅鉢 / D-61拡張・Ⅵa・b層 / 226図2,
13: 壺 / D-60拡張・Ⅵa層 / 224図17, 14: 鉢 / D-61拡張・Ⅵa・b層 / 225図20, 15: 浅鉢 / D-60東・Ⅵc層 / 227図13,
16: 台付鉢 / D-60拡張・Ⅵa層 / 227図14, 17: 浅鉢 / D-60拡張・Ⅵa層 / 227図19, 18: 皿 / D-60東・Ⅵc・h・j・k層 / 227図15,
19: 袖珍土器鉢 / D-60拡張・Ⅵa層 / 227図16, 20: 袖珍土器浅鉢 / D-61西・Ⅵa層 / 227図17 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第202図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土土器（13）



【北1B層群】1: 壺 / D-62・Ⅵc-e層 / 228図13, 2: 鉢 / D-62・Ⅵc-e層 / 228図8, 3: 浅鉢か / D-63・Ⅵe層 / 228図12,
4: 台部 / D-62・Ⅵc-e層 / 228図9, 5: 袖珍土器四脚付鉢 / D-62・Ⅵc-e層 / 228図14, 6: 鉢 / D-63・Ⅵe層 / 228図10,
【北1A層群】7: 浅鉢 / D-63・Ⅵb層 / 229図9, 8: 台付浅鉢 / D-63・Ⅵb層 / 229図11, 9: 壺 / D-62・Ⅵa層 / 231図1,
10: 深鉢 / D-62・Ⅵa層 / 229図5, 11: 鉢 / D-62・Ⅵa層 / 229図4, 12: 深鉢 / D-63・Ⅵb層 / 229図2, 13: 鉢 / D-62・Ⅵ層 / 229図1,
14: 鉢 / D-62・Ⅵa層 / 229図16, 15: 浅鉢 / D-63・Ⅵa層 / 230図5, 16: 鉢 / D-63・Ⅵa層 / 230図1, 17: 台付浅鉢 / D-62・Ⅵa層 / 230図8,
18: 台付浅鉢 / D-62・Ⅵa層 / 230図11, 19: 台部 / D-63・Ⅵa層 / 230図12 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第203図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土土器（14）



【北1A層群】1: 台付浅鉢 / D-62・Ⅵa層 / 230図6, 2: 鉢 / D-63・Ⅵa層 / 230図2, 3: 台部 / D-63・Ⅵa層 / 229図20,
4: 壺 / D-63・Ⅵb層 / 231図3, 5: 浅鉢 / D-63・Ⅵa層 / 229図21, 6: 鉢 / D-62・Ⅵa層 / 230図7, 7: 鉢 / D-62・Ⅵ層 / 231図2,
8: 壺 / D-62・Ⅵ層 / 231図2, 9: 壺 / D-63・Ⅵa層 / 231図4, 10: 鉢 / D-62・Ⅵa層 / 230図4, 11: 浅鉢 / D-62・Ⅵ層 / 229図19,
12: 台付浅鉢 / D-62・Ⅵa層 / 230図13, 13: 深鉢 / D-62・Ⅵa層 / 231図12, 14: 深鉢 / D-63・Ⅵb層 / 232図14,
15: 製塩土器深鉢 / D-63・Ⅵa層 / 232図9, 16: 袖珍土器浅鉢（漆容器か） / D-62・Ⅵa層 / 232図7, 17: 袖珍土器浅鉢 / D-63・Ⅵb層 / 232図8
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第204図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土土器（15）

北4層群では、西側から、深鉢や鉢、浅鉢、皿、壺が出土している。装飾には雲形文が多く、メガネ状浮文やπ字文、工字文が少量見られる。東側からは、深鉢や鉢、浅鉢、四脚付浅鉢、皿、壺のほかに袖珍土器壺が出土している。浅鉢は、平坦口縁で口縁部が緩やかに内湾または直立するものが最も多く出土しているが、深鉢や鉢は、平坦口縁で口縁部がく字形に外反するものが最も多い。装飾には雲形文がやや多く見られ、メガネ状浮文やπ字文が少量、工字文がわずかに見られる。雲形文は大洞C2式に特徴的に見られるものであり、特に東側では大洞C2式新段階のものが多い。また、入り組んだπ字文や工字文は大洞A式の中でもより古い段階（須藤　1987）に見られるものである。以上から、晩期中葉後半（晩期4b期）から晩期後葉古段階（晩期5a期）に位置づけられる。

なお、北4層群から出土した土器1点について、土器付着炭化物を対象に放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、雲形文とメガネ状浮文が施された鉢（第196図4）の^{14}C年代が2,560±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が796～764calBCとなり、晩期中葉後半頃の年代値（小林　2019）が得られ、包含層の推定時期の範囲内におおむね収まる。

北3層群は東側のみに堆積しており、深鉢や鉢、四脚付鉢、浅鉢、四脚付浅鉢、皿、壺、四脚付壺、注口土器のほかに袖珍土器鉢･台付浅鉢･皿が出土している。また､製塩土器深鉢もある。浅鉢や皿は、平坦口縁で口縁部が緩やかに内湾または直立するものが最も多く出土している。鉢は、平坦口縁で口縁部がく字形に外反するものが出土量の大部分を占める。深鉢は、口縁部が緩やかに内湾または直立するものと、口縁部がく字形に外反するものや口縁部が緩やかに外湾するものの割合がほぼ同じである。また、後者2類では口縁部が波状となるものの割合が大きい。装飾にはπ字文がやや多く、雲形文や、メガネ状浮文、工字文が少量見られ、変形工字文が施された土器もわずかに出土している。雲形文は大洞C2式新段階に特徴的に見られるものが多い。下層の北4層群に比べてπ字文の出土量やその種類が多くなり、その様相は山王囲遺跡Ⅴc-7・m・n層（伊東・須藤　1985）出土資料の様相に類似する。したがって、晩期後葉中段階（晩期5b期）に位置づけられる。

なお､北3層群から出土した土器1点について､土器付着炭化物を対象に放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ､平行沈線文に間隔を空けた刻みが組み合わさる装飾が施された鉢（第197図9）の^{14}C年代が2,510±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が768～569calBCとなり、晩期中葉後半から後葉頃の年代値（小林　2019）が得られ、包含層の推定時期の範囲内におおむね収まる。

北2B層群は東側のみに堆積しており、深鉢や鉢、台付鉢、浅鉢、台付浅鉢、皿、壺、注口土器、香炉形土器､蓋のほかに袖珍土器鉢･台付浅鉢･皿が出土している｡また､製塩土器深鉢もある｡深鉢･鉢･浅鉢・皿はいずれも、平坦口縁で口縁部が緩やかに内湾または直立するものが最も多く出土しているが、鉢や浅鉢では、平坦口縁で口縁部がく字形に外反するものも多い。深鉢は、口縁部が直立または内湾するものと口縁部が緩やかに外湾するものがほぼ同じ割合となり、口縁部がく字形に外反するものも一定量出土している。装飾にはπ字文がやや多く見られ、雲形文やメガネ状浮文、工字文、変形工字文が少量見られる。下層の北3層群に比べて、簡素化したπ字文が目立つようになり、また変形工字文もわずかであるものの増加する傾向にある。本大別層群からの出土量が少ないため様相がわかりにくい状況であるが、π字文が簡素化する傾向や変形工字文の出現は、山王囲遺跡Ⅴa・k層出土

資料（伊東・須藤　1985）に認められることから、晩期後葉新段階（晩期 5c 期）に位置づけられる。

なお、北 2B 層群から出土した土器 1 点について、土器付着炭化物を対象に放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、工字文とみられる装飾が施された鉢（第 200 図 14）の ^{14}C 年代が 2,530 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 778 ～ 590calBC となり、晩期中葉後半から後葉頃の年代値（小林　2019）が得られ、包含層の推定時期の範囲内におおむね収まる。

北 2A 層群は東側のみに堆積しており、深鉢や鉢、浅鉢、台付鉢、浅鉢、台付浅鉢、皿、壺、注口土器、蓋のほかに袖珍土器鉢・浅鉢が出土している。深鉢・鉢・浅鉢・皿は、平坦口縁で口縁部が緩やかに内湾または直立するものが最も多く出土しているが、深鉢では、小波状口縁で口縁部がく字形に外反するもの、鉢では、平坦口縁で口縁部が緩やかに外湾するものがやや多い。装飾は、π字文がやや多く見られ、工字文や変形工字文、変形工字文が少量見られる。π字文は上下対向のものが多く出土するようになり、さらに変形工字文も出土量やその種類が増加する。以上から、晩期末葉（晩期 6a 期）に位置づけられる。

なお、北 2A 層群から出土した土器 1 点について、土器付着炭化物を対象に放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、π字文が施された壺（第 202 図 3）の ^{14}C 年代が 2,450 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 746 ～ 479calBC となり、晩期中葉後半から末葉頃の年代値（小林　2019）が得られ、包含層の推定時期の範囲内におおむね収まる。

北 1B 層群は東側のみに堆積しており、深鉢や鉢、浅鉢、壺のほかに袖珍土器四脚付鉢が出土している。装飾にはメガネ状浮文、π字文、工字文、変形工字文がある。資料数が少ないため様相を把握することが難しいが、変形工字文が施された土器が出土し、北 2A 層群の直上に位置することから、晩期末葉でもより新しい段階（晩期 6b 期）に位置づけられる。

北 1A 層群では、西側から深鉢や鉢、浅鉢、台付浅鉢、皿、壺、注口土器、香炉形土器、蓋のほかに袖珍土器浅鉢・皿が出土している。鉢・浅鉢は、平坦口縁で口縁部が緩やかに内湾または直立するものが最も多く出土しているが、鉢については、口縁部がく字形に外反するものもやや多く見られる。深鉢は、平坦口縁で口縁部がく字形に外反するものが最も多く出土しており、小波状口縁で口縁部が緩やかに外湾するものもやや多い。装飾は、π字文がやや多く見られ、雲形文や変形工字文が少量見られる。東側からは、深鉢や鉢、浅鉢、台付浅鉢、壺のほかに袖珍土器浅鉢・皿、製塩土器深鉢が出土している。西側および東側ともにπ字文や変形工字文が施された土器が多く出土する。π字文は下層と比べてその種類が少なくなり、一方で、変形工字文はその種類が増加する傾向が見られる。晩期 6a 期に位置づけた北 2A 層群との特徴的な差異はここにあると考える。特に後者は、弥生時代前期に位置づけられる山王囲遺跡Ⅳ a・k 層以上でその傾向が見られる。また、変形工字文間に刺突が施される表現が一定量あり、この時期に特徴的な装飾意匠であると考える。以上から、北 1A 層群の時期は、晩期末葉新段階（晩期 6b 期）から弥生時代前期（弥生 1 期）に位置づけられる。

なお、北 1A 層群から出土した土器 1 点について、土器付着炭化物を対象に放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、π字文が施された鉢（第 203 図 12）の ^{14}C 年代が 2,490 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 756 ～ 548calBC となり、晩期中葉後半から後葉頃の年代値（小林　2019）が

得られ、包含層の推定時期よりも古いものとなった。

②土製品

土製品はすべての大別層群から出土している。

北6層群からは土偶が出土している。中実で頭部が扁平な土偶（第205図2）や腰を下ろした土偶（同図3）などがある。

北5層群からは、土偶や土版、中空動物形土製品、耳飾、円盤状土製品などが出土している。土偶には小型で装飾が施されないもの（第205図4）が見られる。中空動物形土製品（第206図1）は形状がカメに類似し、いわゆる「亀形土製品」とよばれるものである[註21]。中空で、背側に雲形文、腹側に渦巻文に類似する表現の沈線文が施されている。また、腹側には乳房状の貼瘤があり、南斜面で出土した動物形土製品（クマ顔）と同様に擬人化したものとみられる。本資料のような中空動物形土製品は青森県明戸遺跡（青森県教育庁文化課編　1983）や岩手県九年橋遺跡第8次調査（北上市教育委員会　1985）、同県黒内XⅢ遺跡（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1994）、山形県作野遺跡（山形県教育委員会　1984）などで出土しており、それぞれの形状は多様性に富む。一方で、中空であることに加えていずれも1～2箇所の貫通孔が穿たれている点で共通する。

北4層群からは、土偶や土版、円盤状土製品が出土している。土偶には、刺突列や平行沈線文を施したものや隆帯に刻目を施したものがある。後者は角の付く土偶の胴部にみられる表現に類似する。円盤状土製品の一部（第207図3・4）にはアスファルトが付着している（赤田・高妻　2014）。

北3層群からは、動物形土製品や土版、耳飾、土製小玉、円盤状土製品などが出土している。動物形土製品はイモムシに類似し、短沈線による装飾が施され、全面に赤色顔料が残る（第207図5）。土版は正中線の左右に対称となる文様を描くものが多い。耳飾は盃形のものが出土している。円盤状土製品には雲形文が施された土器片を利用しているものがある。また、円盤状土製品の一部にはアスファルトとみられる物質が付着している（同図14・15）。

北2B層群からは、土偶や土版、耳飾、土製小玉、円盤状土製品が出土している。土版には沈線と2個の貫通孔により人面様の装飾が施される（第207図16）。耳飾はキノコ形が見られるようになる（同図17・18）。

北2A層群からは、土偶や土版、土棒、耳飾り、土製小玉、円盤状土製品などが出土している。4箇所に貫通孔が穿たれる土版は蓋の可能性がある（第207図22）。耳飾はキノコ形が出土している（同図23）。

北1B層群からは円盤状土製品が出土している。

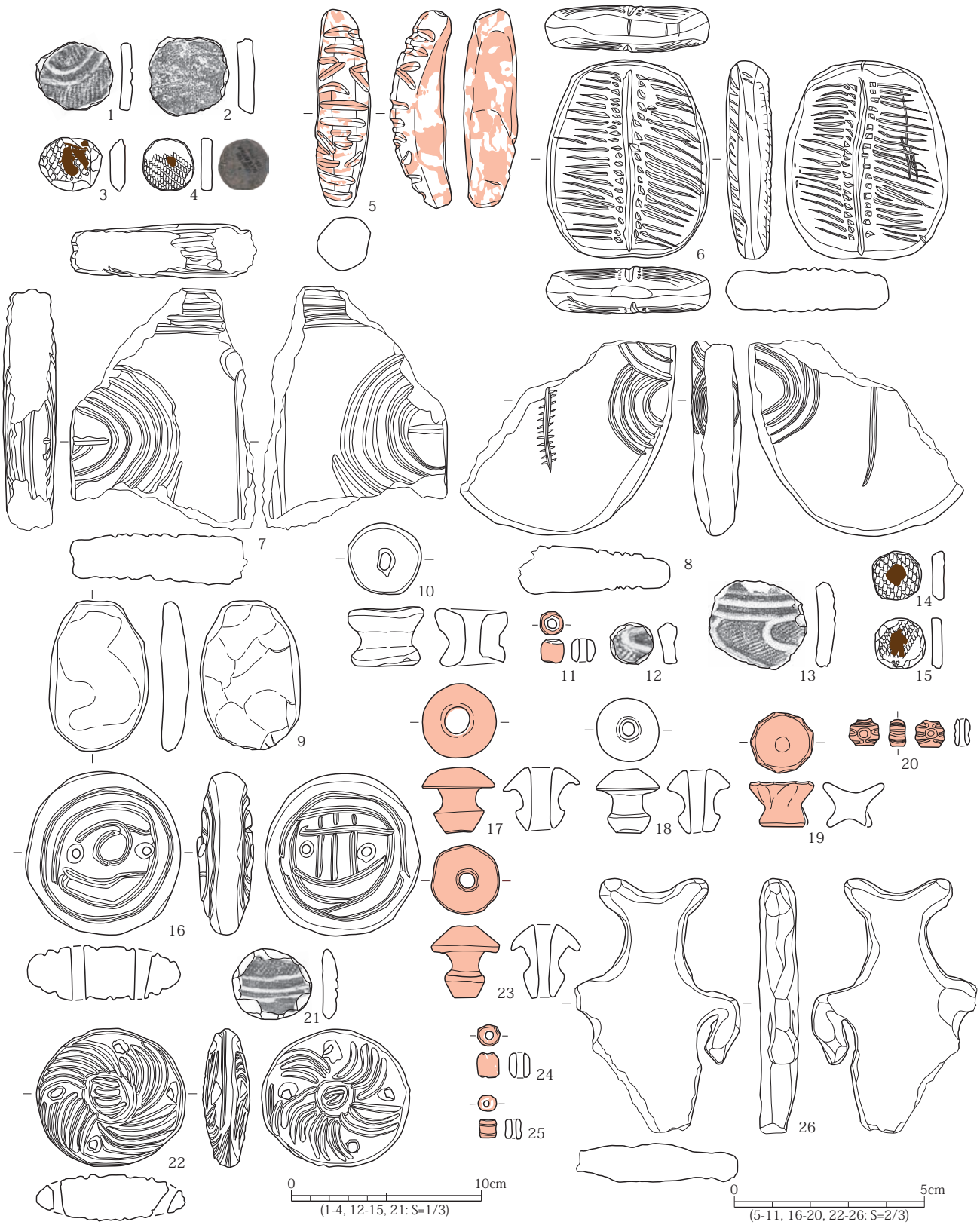
北1A層群からは土偶や土版、耳飾、ボタン状土製品、円盤状土製品が出土している。土偶には髪を結いあげた土偶（第208図1）や、環状の平行沈線文と刺突列が施された中空土偶（同図3）などがある。うち後者は岩手県寺前Ⅱ遺跡（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1989）で類例が認められる。また、動物を擬人化したとみられるもの（第207図26）も出土している。

【北6層群】1: 土偶頭部 / D-58北・Ⅵc-e層 / 234図1, 2: 土偶上半身 / D-58北・Ⅵd層 / 234図2, 3: 土偶左脚 / D-58北・Ⅵc層 / 234図3
【北5層群】4: 土偶（左腕欠） / D-61西・Ⅵh層 / 235図2, 5: 耳飾 / D-61西・Ⅵh層 / 235図4 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第205図　東7地点　北斜面遺物包含層　出土土製品（1）

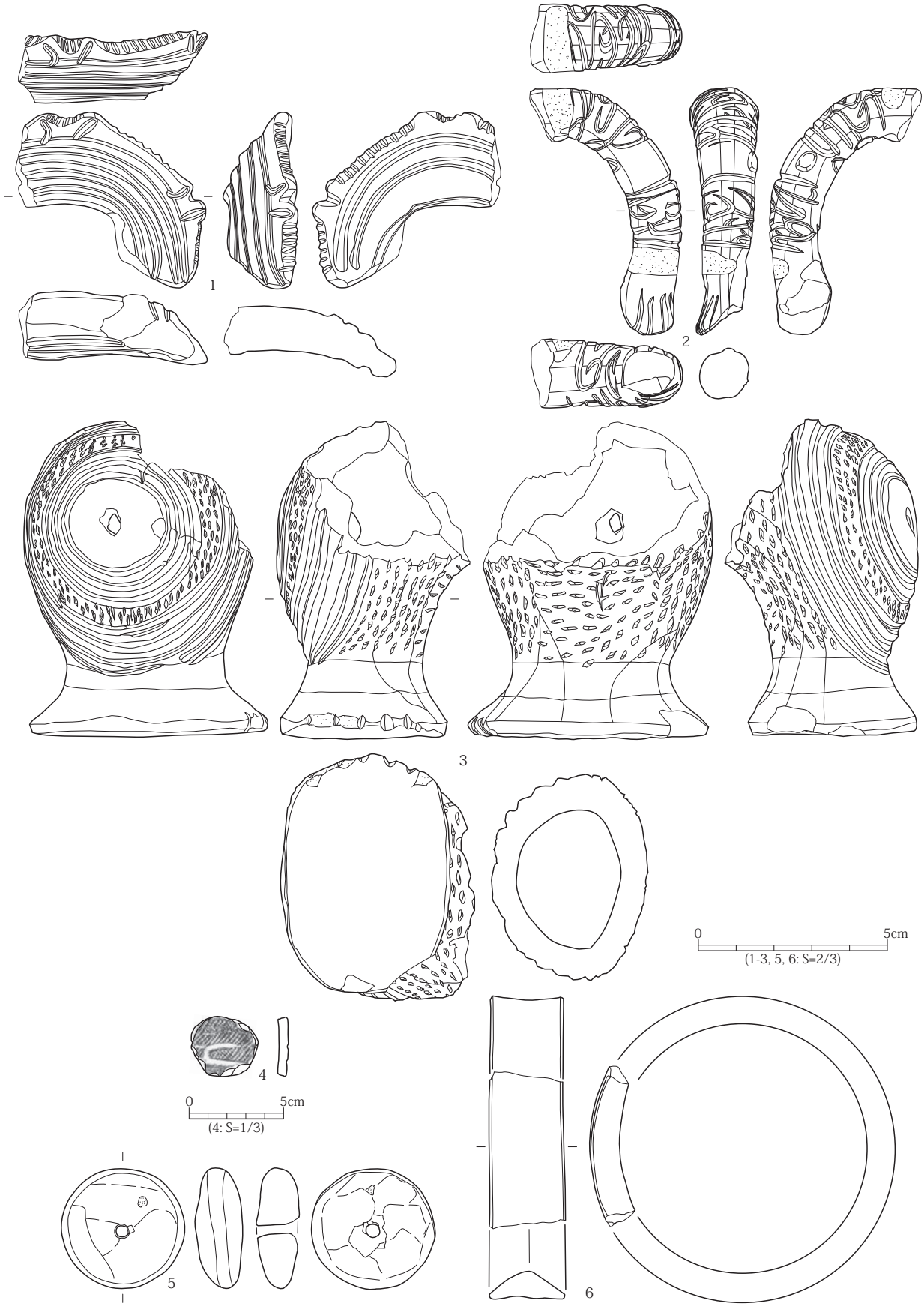
【北5層群】1: 中空動物形土製品 / D-61西・Ⅵg1層 / 235図1, 2: 円盤状土製品 / D-61西・Ⅵf3層 / 235図5,
3: 円盤状土製品 / D-61西・Ⅵf2層 / 235図6, 4: 円盤状土製品 / D-60東・Ⅵm層 / 235図7, 5: 円盤状土製品 / D-61西・Ⅵg1層 / 235図8,
6: 円盤状土製品 / D-61西・Ⅵf2層 / 235図9, 7: 円盤状土製品 / D-61西・Ⅵf1層 / 235図10, 8: 円盤状土製品 / D-61西・Ⅵf1-h層 / 235図11,
【北4層群】9: 土偶脚部・両脚 / D-58北・Ⅵa層, D-64・Ⅵb層 / 236図1, 10: 土偶胴部 / D-58北・Ⅵb層 / 236図2
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第206図　東7地点　北斜面遺物包含層　出土土製品（2）



【北4層群】1: 円盤状土製品 / D-61西・VIe層 / 236図3, 2: 円盤状土製品 / D-60東・VIj層 / 236図5,
3: 円盤状土製品 / D-61西・VIe層 / 236図6, 4: 円盤状土製品 / D-61西・VIe層 / 236図7
【北3層群】5: 動物型土製品（イモムシ） / D-61西・VId-f2層 / 236図9, 6: 土版 / D-60東・VIg2-o層 / 236図10,
7: 土版 / D-61西・VIc2層 / 236図11, 8: 土版 / D-61西・VId層 / 236図12, 9: 土版 / D-61西・VIc2層 / 237図1,
10: 耳飾 / D-61西・VId層 / 237図2, 11: 土製小玉 / D-61西・VIc2層 / 237図4, 12: 円盤状土製品 / D-61西・VId層 / 237図5,
13: 円盤状土製品 / D-61西・VId-f2層 / 237図6, 14: 円盤状土製品 / D-61西・VIc1・2層 / 237図7,
15: 円盤状土製品 / D-61西・VIc2層 / 237図8
【北2B層群】16: 土版 / D-61東・VIb1層 / 237図9, 17: 耳飾 / D-61西・VIb1-3層 / 237図11, 18: 耳飾 / D-61西・VIb2層 / 237図12,
19: 耳飾 / D-61西・VIb1-c2層 / 237図13, 20: 土製小玉 / D-61東・VIb2・d層 / 237図14, 21: 円盤状土製品 / D-61西・VIb2層 / 237図15
【北2A層群】22: 土版 / D-61西・VIa層 / 237図18, 23: 耳飾 / D-60東・VIc層 / 237図19, 24: 土製小玉 / D-60東・VIc層 / 237図20,
25: 土製小玉 / D-60東・VIc層 / 237図21
【北1A層群】26: 土偶上半身 / D-63・VIb層 / 237図22 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第207図　東7地点　北斜面遺物包含層　出土土製品（3）



【北1A層群】1: 土偶頭部か / D-58北・VIa層 / 238図1, 2: 土偶左腕 / D-62・VI層 / 238図2, 3: 土偶右脚 / D-58南・VIa層 / 238図3, 4: 円盤状土製品 / D-58北・VIa層 / 239図2, 5: ボタン状土製品 / D-60西・VI1層 / 239図3, 6: 耳飾 / D-62・VIa層 / 239図4
（宮城県文化財調査報告書第234集）

第208図　東7地点　北斜面遺物包含層　出土土製品（4）

③石器・石製品

北斜面遺物包含層からは、石鏃 98 点、尖頭器 9 点、石錐 38 点、石匙 7 点、石篦 13 点、磨製石斧 22 点、楔形石器 124 点、不定形石器 232 点、石皿 106 点、磨石 328 点、凹石 10 点、砥石 2 点といったトゥール類や剥片 2,552 点、石核 194 点、また、円盤状石製品 24 点、石錘 2 点、石冠 2 点、独鈷石 1 点、石棒 19 点、石刀 26 点、耳飾? 1 点、小玉 2 点、線刻礫 1 点、不明石製品 1 点といった石製品、あわせて 3,814 点が出土している[(註 22)]。大別層群別の器種および石材組成を第 26 ～ 30 表に示した。これらの石材や石器製作、各器種の様相については、南斜面遺物包含層の項で合わせて述べているため、そちらを参照されたい。

第26表　東7地点　北斜面遺物包含層　石器・石製品の大別層群別器種組成

大別層		石鏃	尖頭器	石錐	石匙	石篦	打製石斧	磨製石斧	板状石器	楔形石器	不定形石器	石皿	磨石	凹石	砥石	敲石	トゥール計	剥片	石核	石器計	円盤状石製品	石錘	石冠	独鈷石	石棒	石刀	異形石器	耳飾か	小玉	イモガイ形石製品	岩版	線刻礫	有孔石製品	不明石製品	石製品計	総計
北 1A	西	9		2	1	4		2		12	30	22	49	2	1		134	266	26	426	13				1	3									17	443
	東	2		2						4	7	4	13				32	112	8	152		1		1	1			1							4	156
北 1B	東	1								1			4				6	3		9															9
北 2A	東	30	3	13	1	3		2		21	51	21	63	3			211	591	37	839	3				6	5						1			15	854
北 2B	東	13	1	4	2	3		8		12	35	10	43	2			133	354	40	527	3		1		3	4								1	12	539
北 3	東	12	4	4	1	3		7		27	36	14	33				141	340	31	512	2		1		1	3									7	519
北 4	西	1								2	1	8	11	1			24	16	2	42					1										1	43
	東	6	1	4						5	20	2	20				58	153	8	219	1	1			1	4									7	226
北 5	東	24		8	2			3		40	52	20	78	2			229	682	47	958	2				4	7			2						15	973
北 6	西	1		1							2	6	12	1	1		24	26	1	51					1										1	52
北計		99	9	38	7	13		22		124	234	107	326	11	2		992	2543	200	3735	24	2	2	1	19	26		1	2			1		1	79	3814

第27表　東7地点　北斜面遺物包含層　大別層群別石材組成（トゥール）

トゥール（礫石器を除く）	珪質頁岩A	珪質頁岩B	頁岩	珪質凝灰岩A	珪質凝灰岩B	凝灰岩	安山岩質凝灰岩	デイサイト質凝灰岩	緑色凝灰岩	碧玉A	碧玉B1	碧玉B2	碧玉C	碧玉D	玉髄	流紋岩	黒曜石	粘板岩	片岩	緑色片岩	緑色岩	蛇紋岩	蛇紋岩か	安山岩	凝灰質安山岩	デイサイト	ホルンフェルス	珪化木	泥岩	砂岩	凝灰質砂岩	礫質砂岩	総計
北 1A	31	7		8	1	2				8	7		2		2	3	1							2		1							75
北 1B	1				1																												2
北 2A	44	10		7	3	1				11	23	2	8	3	4	4	1							1			1			1			124
北 2B	37	9		4		1				1	10	1	3	1	4				1	1				4					1				78
北 3	31	8		6	3					3	9	6	6	2	4	4	4				1			5					1	1			94
北 4	18	3		1	1					3	8	1			3	1	1																40
北 5	57	8		9	3	1				1	14	11	9	2	4	1	5							3							1		129
北 6	3														1																		4
北斜面計	222	45		35	12	5				27	71	21	28	8	22	13	12		1	1	1			15		1	1		2	2	1		546

第28表　東7地点　北斜面遺物包含層　大別層群別石材組成（礫石器）

礫石器	頁岩	珪質凝灰岩A	珪質凝灰岩B	凝灰岩	流紋岩質凝灰岩	安山岩質凝灰岩	デイサイト質凝灰岩	碧玉A	玉髄	流紋岩	流紋岩（真珠岩）	粘板岩	千枚岩	玄武岩	安山岩	凝灰質安山岩	玄武岩質安山岩	デイサイト	ホルンフェルス	石英斑岩	花崗岩	閃緑岩	軽石	泥岩	砂岩	凝灰質砂岩	礫岩	総計
北 1A				21	1	13						1		1	38	1		10	2				1		1		1	91
北 1B				1											3													4
北 2A				15		5						5		1	43	5	1	7		2	1		2					87
北 2B				14		4				1		1			27	3		1	1		1		1		1			55
北 3	2			11		6						1	1		20	2		2					2					47
北 4	1		1	6		2				1		1			25	2		1			1					1		42
北 5	1			22		6						3		1	52			6	3		1		3		1	1		100
北 6				4		3									8			4		1								20
北斜面計	4		1	94	1	39				2		12	1	3	216	13	1	31	6	3	4		9		3	2	1	446

第29表　東7地点　北斜面遺物包含層　大別層群別石材組成（剥片・石核）　点数

剥片・石核	珪質頁岩A	珪質頁岩B	頁岩	珪質凝灰岩A	珪質凝灰岩B	凝灰岩	安山岩質凝灰岩	碧玉A	碧玉B1	碧玉B2	碧玉C	碧玉D	玉髄	流紋岩	黒曜石	粘板岩	片岩	玄武岩	安山岩	ホルンフェルス	花崗岩	アプライト	石英	珪化木	泥岩	凝灰質砂岩	総計
北1A	135	26	7	21	17	11	1	15	63	17	25	5	18	6	8	29		1		1			1	5			412
北1B	1				1				1																		3
北2A	190	61	4	39	14	20		23	100	34	34	13	44	5	10	28			6					3			628
北2B	151	38	2	12	2	12	3	15	68	15	23	5	25	3	5	9	1		4					1			394
北3	160	48		16	2	3	1	15	51	12	23	2	19	3	1	11			3					1			371
北4	67	32	1	11	1	2		6	26	3	3	1	6		2	10			1					6		1	179
北5	323	60	2	20	19	8		44	152	23	19	7	22	2	10	12			2				1	3			729
北6	12	2	1		1			1	4			1	1			4											27
北斜面計	1039	267	17	119	57	56	5	119	465	104	127	34	135	19	36	103	1	1	16	1			2	19		1	2743

第30表　東7地点　北斜面遺物包含層　大別層群別石材組成（剥片・石核）　重量（g）

剥片・石核	珪質頁岩A	珪質頁岩B	頁岩	珪質凝灰岩A	珪質凝灰岩B	凝灰岩	安山岩質凝灰岩	碧玉A	碧玉B1	碧玉B2	碧玉C	碧玉D	玉髄	流紋岩
北1A	459.7	205.8	311.0	243.9	248.7	69.7	22.0	74.4	207.9	56.6	111.3	66.2	110.9	81.1
北1B	21.4				3.0				10.3					
北2A	771.6	197.1	24.8	112.2	47.0	111.1		188.2	220.0	111.0	141.3	55.0	190.0	25.9
北2B	568.4	158.6	15.2	64.1	20.7	35.3	45.4	43.9	266.0	77.9	90.4	24.7	136.1	27.7
北3	631.1	210.7		72.2	0.9	9.6	160.6	96.3	122.3	57.2	106.0	3.4	83.9	56.0
北4	273.4	119.6	2.3	81.7	41.4	47.3		17.2	54.3	19.0	28.6	8.7	16.0	
北5	1369.5	327.9	11.6	51.0	95.1	47.0		142.1	302.5	81.2	71.4	24.4	37.4	41.4
北6	70.5	80.0	66.4		3.0			1.9	21.6			3.6	1.8	
北斜面計	4165.5	1299.8	431.3	625.2	459.7	320.1	228.0	564.0	1204.8	402.8	548.9	185.9	576.1	232.0

剥片・石核	黒曜石	粘板岩	片岩	玄武岩	安山岩	ホルンフェルス	花崗岩	アプライト	石英	珪化木	泥岩	凝灰質砂岩	総計
北1A	20.5	420.7		18.1		23.8			0.5	27.0			2779.7
北1B													34.7
北2A	25.5	189.4			191.8					23.3			2625.3
北2B	23.5	52.3	29.5		30.4					0.2			1710.2
北3	0.6	45.5			25.6					16.6			1698.5
北4	3.1	48.7			15.2					48.3		28.4	853.1
北5	53.1	308.1			4.4				32.7	35.4			3036.0
北6		11.9											260.5
北斜面計	126.3	1076.5	29.5	18.1	267.4	23.8			33.1	150.9		28.4	12998.0

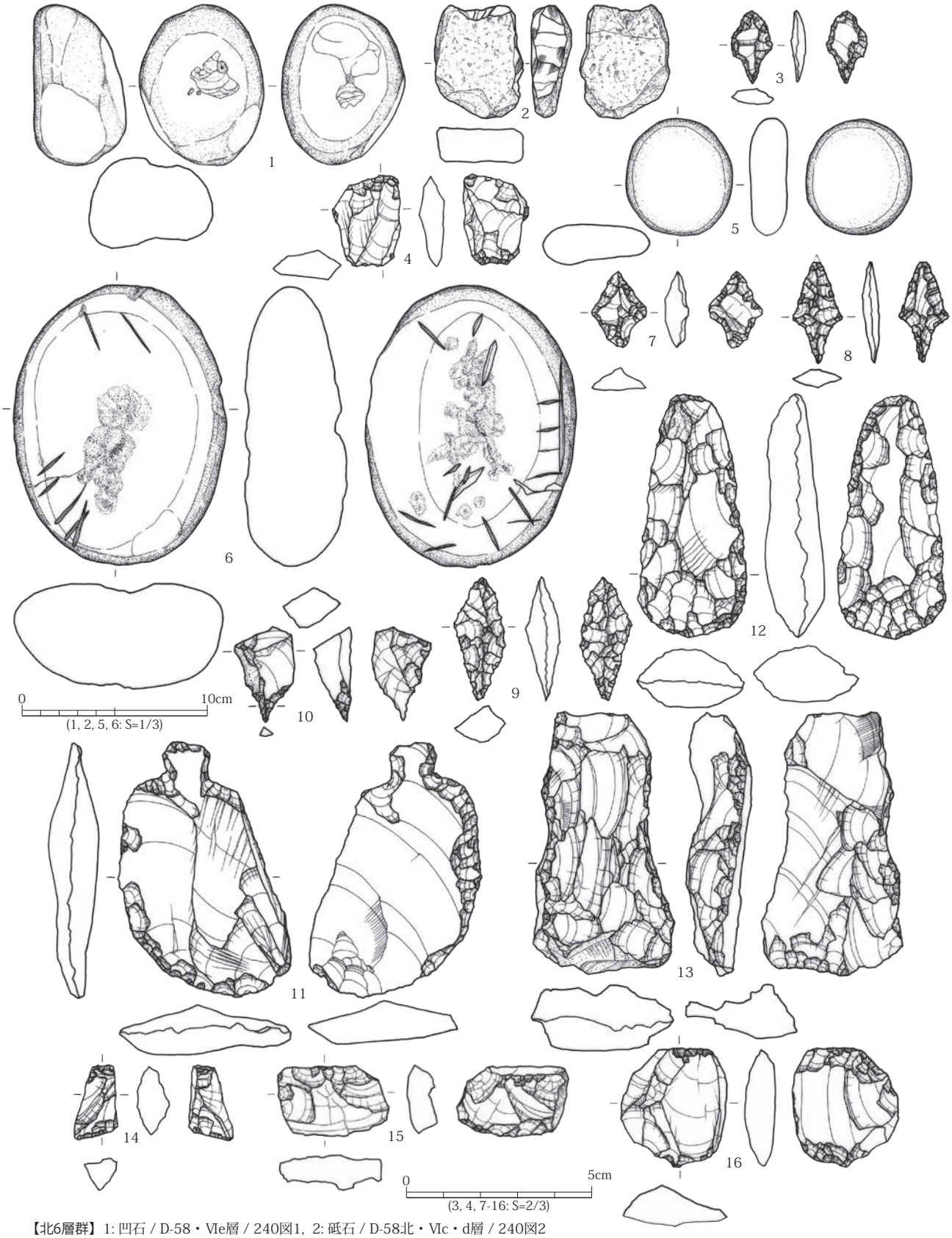
④骨角牙製品

骨角牙製品は、遺物包含層の北6層群および北1B層群を除く大別層群から出土している。大別層群別の器種組成を第31表に示した。

北5層群からは、刺突具や針、管玉、垂飾、サメ歯装着具などが出土している。刺突具はシカ角や骨を素材とする。素材となる骨にはシカなどの哺乳鋼のものもあるが、硬骨魚鋼のものもある。管玉は骨製で、全体的に摩滅が著しく光沢が発達している（第217図5）。垂飾はシカ角や骨、イノシシ牙、サメ歯を素材とするものがある。サメ歯を素材とする垂飾はほぼ未加工で貫通孔も穿たれていない（同図4）。サメ歯装着具はサメ歯1点が装着されているもの（同図6）と、サメ歯2点が装着されているもの（同図7）がある。サメ歯装着具については次項で詳しく述べる。

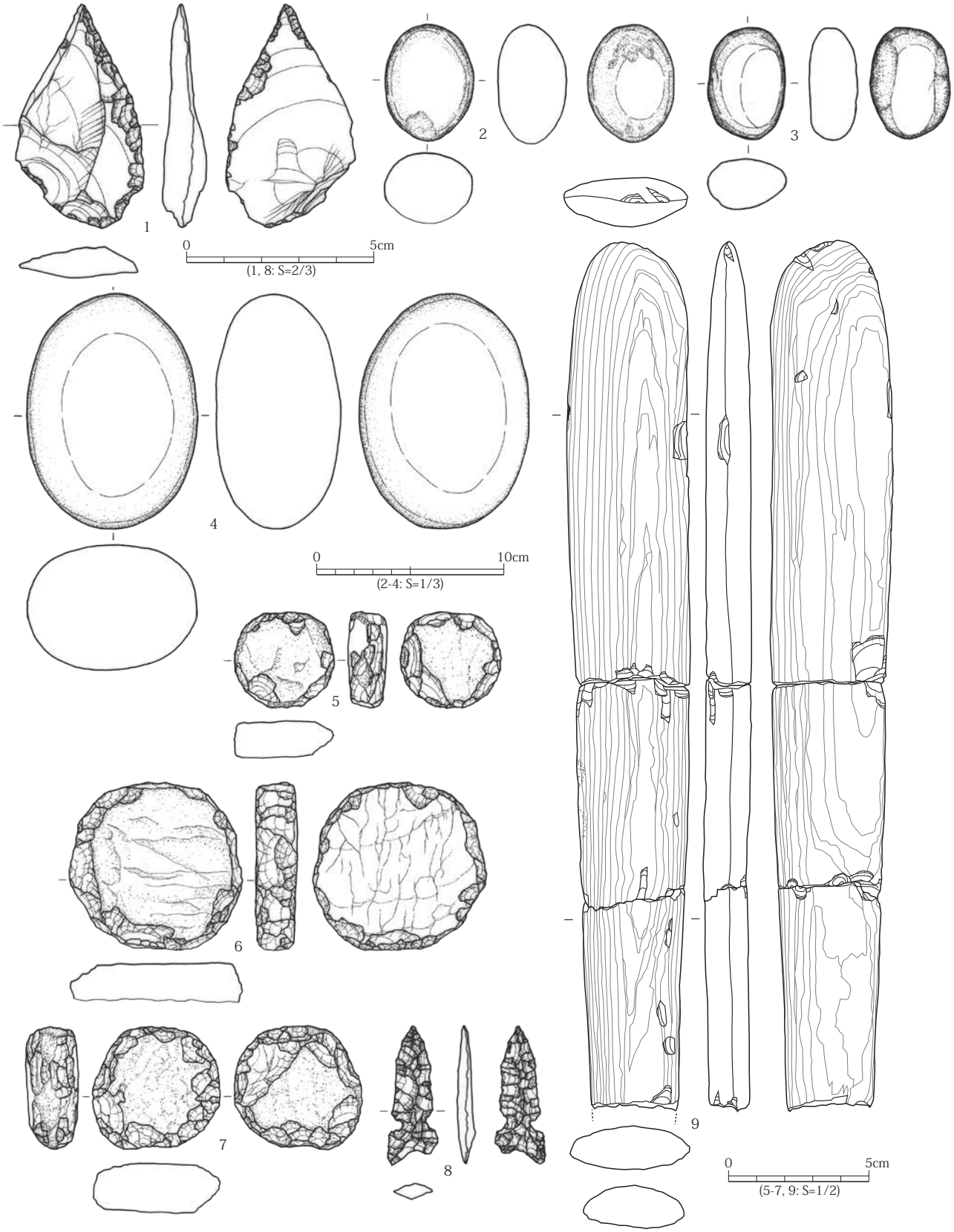
北4層群からは、垂飾が出土している。サメ歯を素材とし、歯根部に貫通孔が2箇所穿たれている（第217図9）。また、被熱による黒色化・白色化が見られる。

北3層群からは、鏃や刺突具、垂飾が出土している。刺突具はいずれも哺乳類骨を素材とする。垂飾はイノシシ牙を素材とし、貫通孔が1箇所、盲孔が1箇所穿たれている（第217図11）。



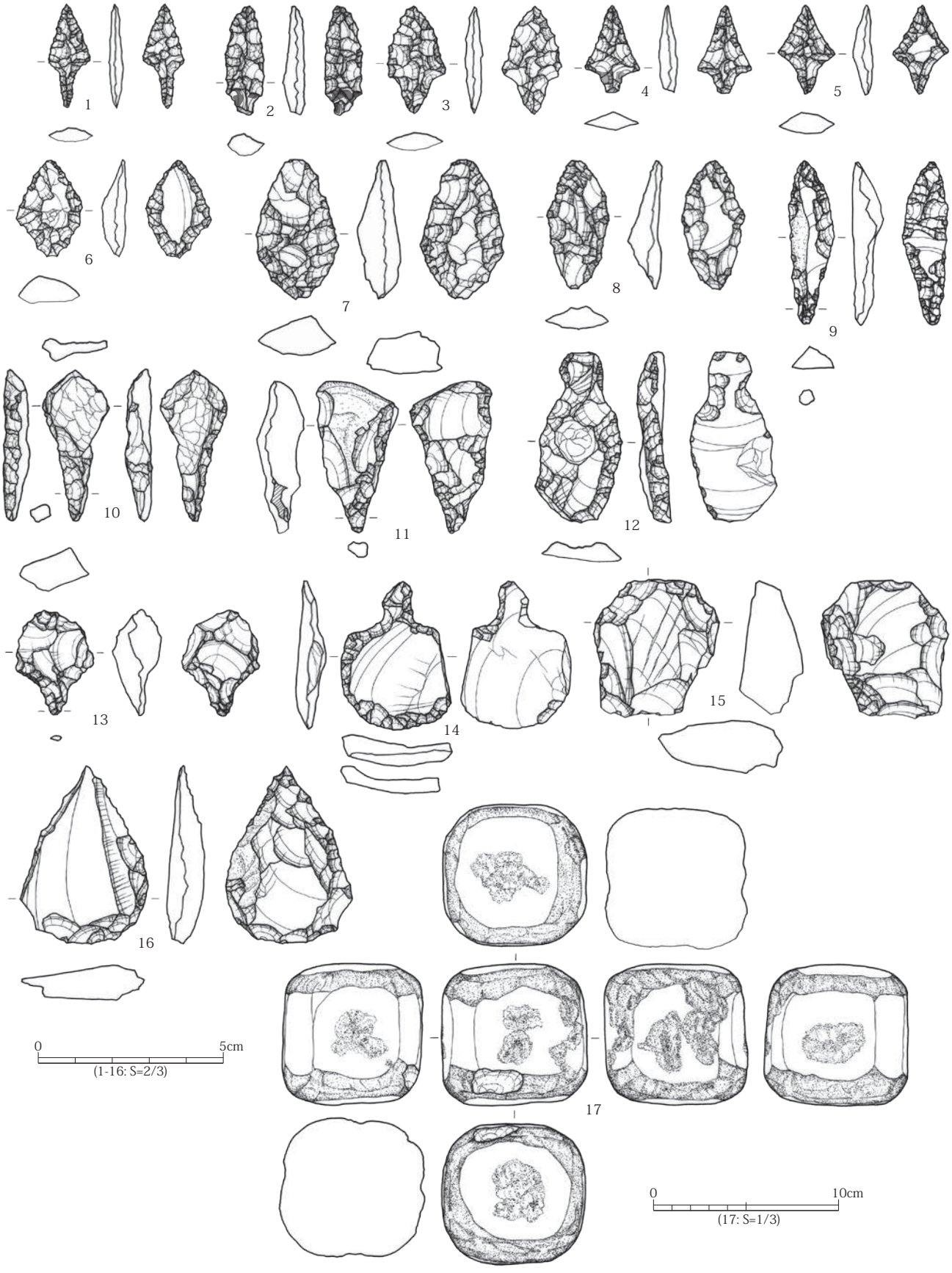
【北6層群】1: 凹石 / D-58・Ⅵe層 / 240図1, 2: 砥石 / D-58北・Ⅵc・d層 / 240図2
【北4層群】3: 石鏃 / D-64・Ⅵb層 / 240図3, 4: 楔形石器 / D-58北・Ⅵb層 / 240図4, 5: 磨石 / D-58北・Ⅵb層 / 240図6, 6: 磨石 / D-58南・Ⅵb層 / 240図7
【北1A層群】7: 石鏃 / D-58北・Ⅵa層 / 240図8, 8: 石鏃 / D-60・Ⅵ層 / 240図9, 9: 石鏃 / D-60・Ⅵ層 / 240図10, 10: 石錐 / D-58南・Ⅵa層 / 240図11, 11: 石匙 / D-58南・Ⅵa-b層 / 240図12, 12: 石篦 / D-58北・Ⅵa層 / 240図13, 13: 石篦 / D-60西・Ⅵ1層 / 240図14, 14: 楔形石器 / D-60西・Ⅵ1層 / 241図1, 15: 楔形石器 / D-58北・Ⅵa層 / 241図2, 16: 楔形石器 / D-60西・Ⅵ1層 / 241図4 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第209図　東7地点　北斜面遺物包含層（西側）　出土石器・石製品（1）



【北1A層群】1: 不定形石器 / D-58・Ⅵa層 / 241図5, 2: 磨石/ D-58・Ⅵa層 / 241図10, 3: 磨石 / D-60西・Ⅵ1層 / 241図9, 4: 磨石 / D-58南・Ⅵa層 / 241図12, 5: 円盤状石製品 / D-58南・Ⅵa層 / 242図1, 6: 円盤状石製品 / D-58・Ⅵa層 / 242図4, 7: 円盤状石製品 / D-58南・Ⅵa層 / 242図8
【Ⅳb層】8: 石鏃 / D-60中央・Ⅵb層 / 259図1, 9: 石刀 / D-60西・Ⅳb層 / 259図4 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第210図　東7地点　北斜面遺物包含層（西側）　出土石器・石製品（2）

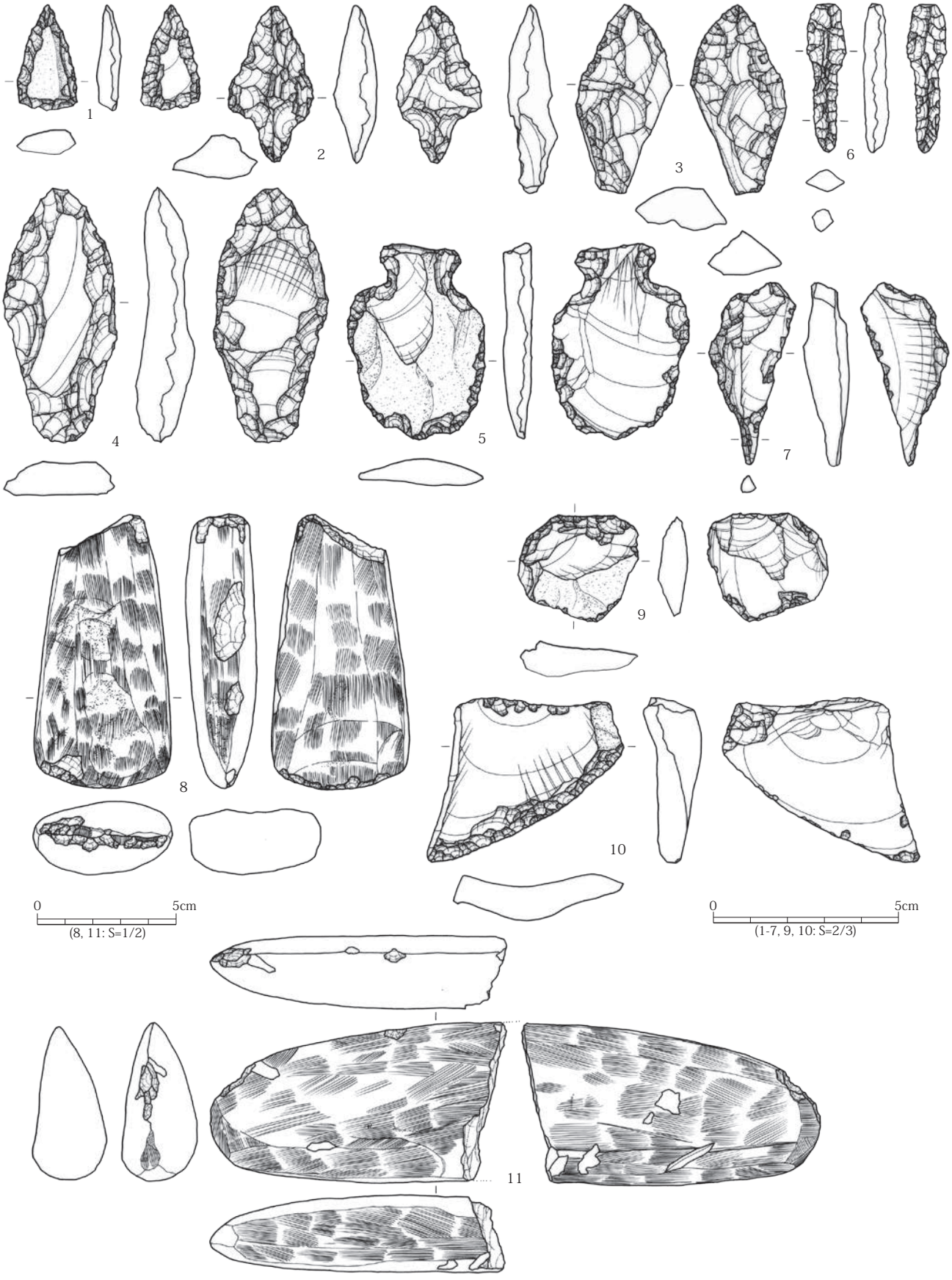


【北5層群】1: 石鏃 / D-61西・Ⅵf1層 / 243図2, 2: 石鏃 / D-61西・Ⅵf1-2層 / 243図3, 3: 石鏃 / D-61西・Ⅵg1層 / 243図4,
4: 石鏃 / D-61西・Ⅵf2層 / 243図6, 5: 石鏃 / D-60東・Ⅵm層 / 243図7, 6: 石鏃 / D-61西・Ⅵf2層 / 243図9,
7: 石鏃 / D-61西・Ⅵf1-2層 / 243図10, 8: 石鏃 / D-61西・Ⅵf2層 / 243図11, 9: 石錐 / D-61西・Ⅵg1層 / 243図13,
10: 石錐 / D-61西・Ⅵf2層 / 243図16, 11: 石錐 / D-61西・Ⅵf1-g1層 / 243図20, 12: 石匙 / D-61西・Ⅵf1層 / 244図1,
13: 石錐 / D-61西・Ⅵf2層 / 243図19, 14: 石匙 / D-61西・Ⅵf1-h層 / 244図2, 15: 楔形石器 / D-61西・Ⅵf1-h層 / 244図3,
16: 不定形石器 / D-61西・Ⅵg1層 / 244図8, 17: 磨石 / D-61西・Ⅵg2層 / 245図5 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第211図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土石器・石製品（1）

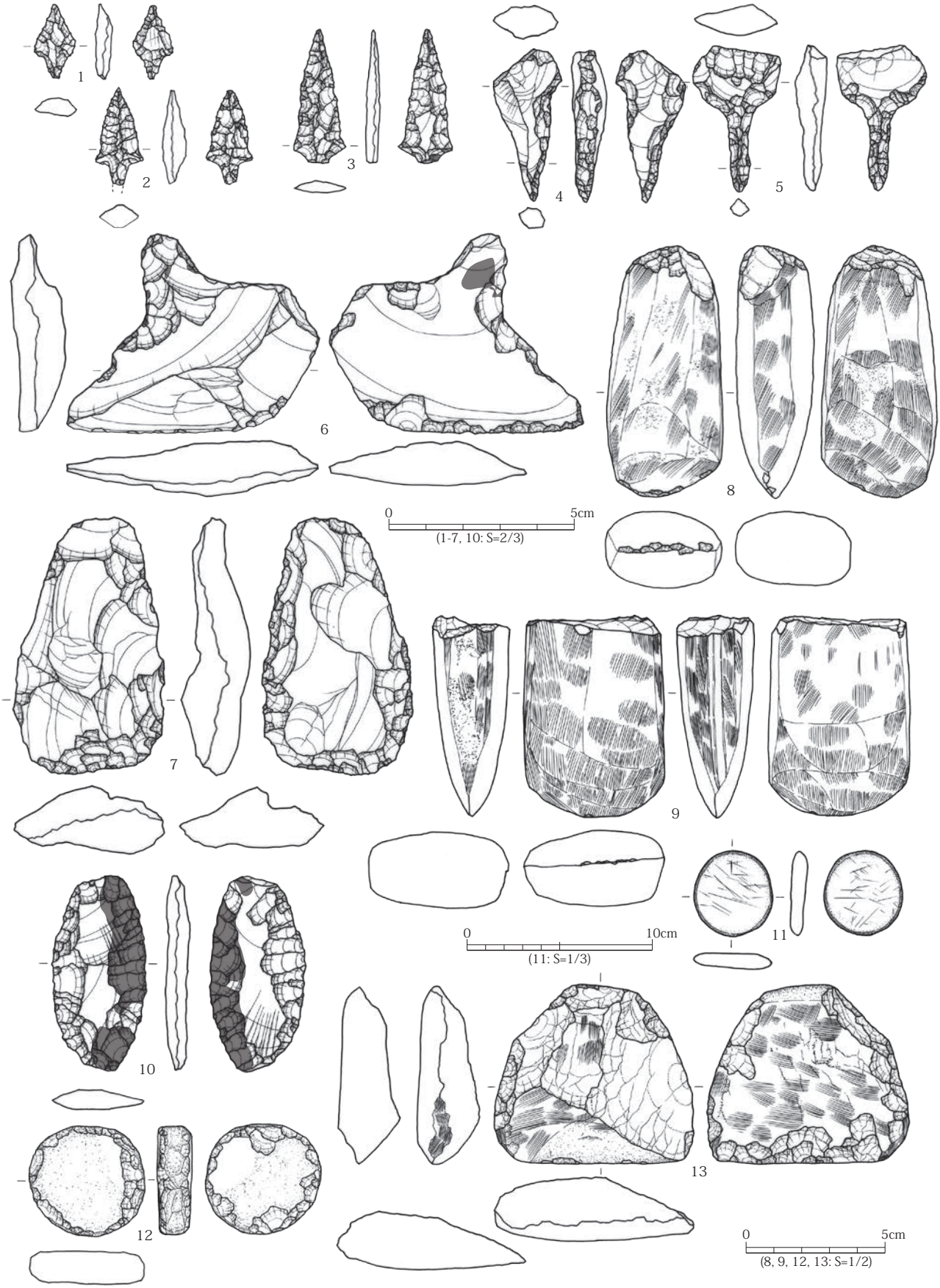
【北5層群】1: 磨石 / D-61西・Ⅵf2層 / 245図4, 2: 磨石 / D-61西・Ⅵf1層 / 245図6, 3: 磨石 / D-61西・Ⅵf1層 / 245図8, 4: 凹石 / D-61西・Ⅵf1-h層 / 245図9, 5: 円盤状石製品 / D-61西・Ⅵf1-2層 / 246図1, 6: 小玉 / D-61西・Ⅵg1層 / 246図3, 7: 小玉 / D-61西・Ⅵf2層 / 246図4
【北4層群】8: 石鏃 / D-61西・Ⅵe層 / 246図5, 9: 石鏃 / D-61西・Ⅵe層 / 246図6, 10: 尖頭器 / D-61西・Ⅵe層 / 246図7, 11: 石錐 / D-61西・Ⅵe層 / 246図9, 12: 石錐 / D-61西・Ⅵe層 / 246図10, 13: 石錘 / D-61西・Ⅵe層 / 247図1
【北3層群】14: 石鏃 / D-61西・Ⅵc2層 / 247図3, 15: 石鏃 / D-61西・Ⅵd層 / 247図5 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第212図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土石器・石製品（2）



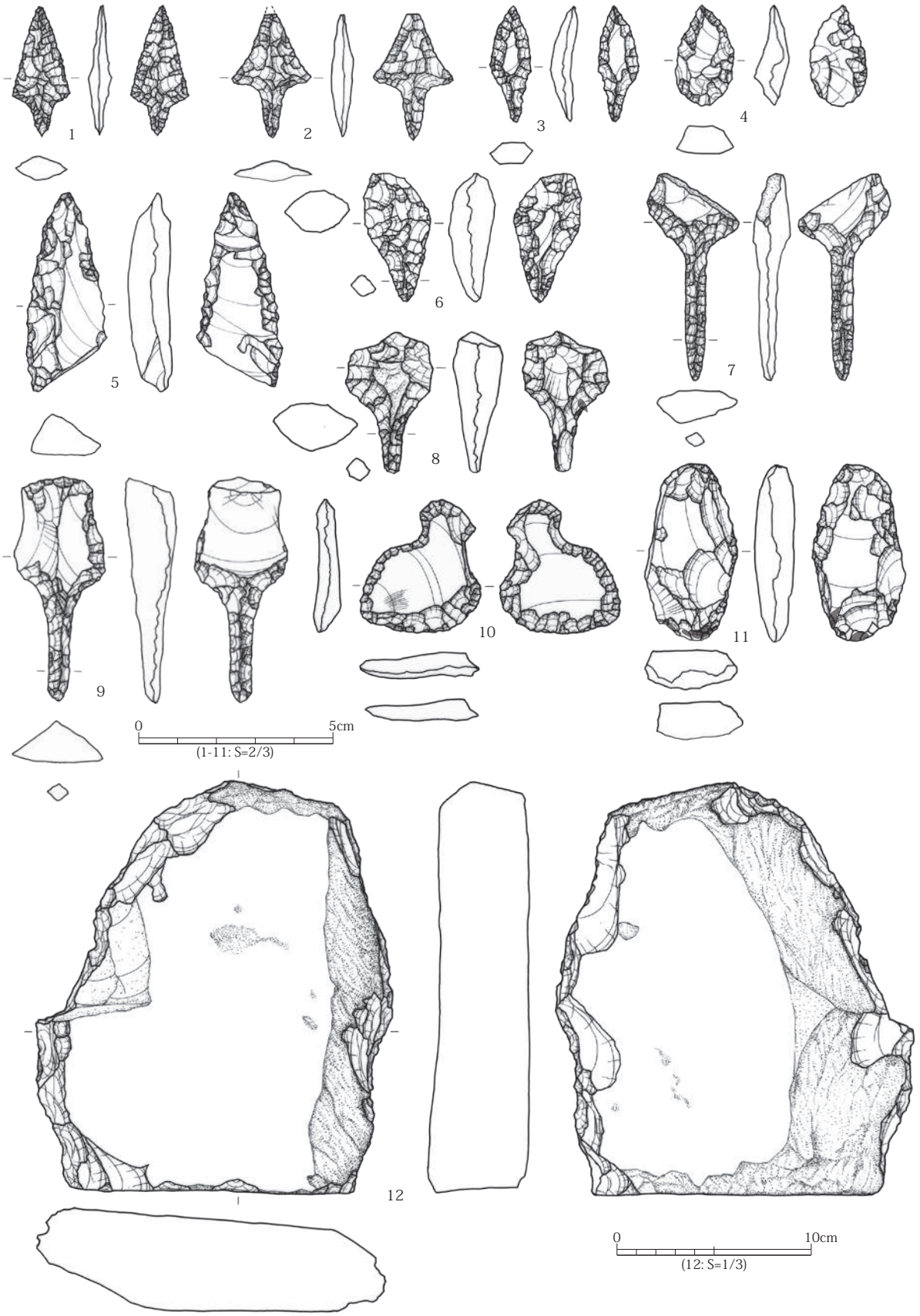
【北3層群】1: 石鏃 / D-61西・Ⅵc2層 / 247図6, 2: 石鏃 / D-61西・Ⅵd層 / 247図8, 3: 尖頭器 / D-60東・Ⅵg1-5・i層 / 247図7, 4: 尖頭器 / D-61西・Ⅵc2-d層 / 247図9, 5: 石匙 / D-61西・Ⅵd層 / 247図10, 6: 石錐 / D-60東・Ⅵg1-5・i層 / 247図11, 7: 石錐 / D-61西・Ⅵd層 / 247図12, 8: 磨製石斧 / D-61西・Ⅵd層 / 247図13, 9: 楔形石器 / D-61西・Ⅵc2層 / 248図9, 10: 不定形石器 / D-61西・Ⅵd層 / 248図13, 11: 石冠 / D-61西・Ⅵd層 / 249図4 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第213図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土石器・石製品（3）



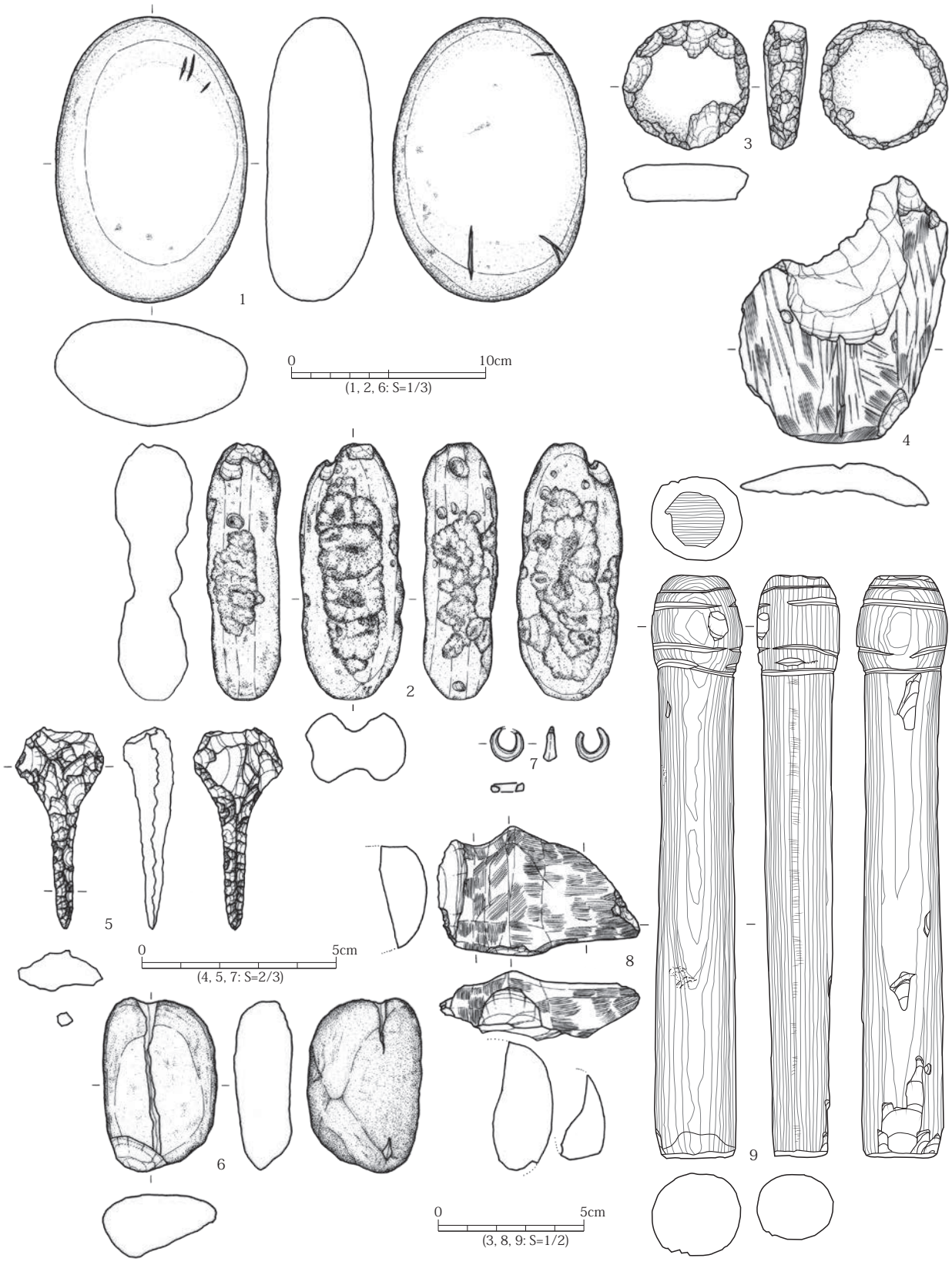
【北2B層群】1: 石鏃 / D-61西・Ⅵb1-c2層 / 249図6, 2: 石鏃 / D-61西・Ⅵb1-3層 / 249図7, 3: 石鏃 / D-61西・Ⅵb1-3層 / 249図8,
4: 石錐 / D-61西・Ⅵb1-2層 / 249図11, 5: 石錐 / D-61西・Ⅵb2層 / 249図12, 6: 石匙 / D-61西・Ⅵb-c2層 / 250図1,
7: 石篦 / D-61西・Ⅵb2層 / 250図2, 8: 磨製石斧 / D-61西・Ⅵb1-2層 / 250図3, 9: 磨製石斧 / D-61東・Ⅵb2層 / 250図4,
10: 不定形石器 / D-61西・Ⅵb2-f1層 / 250図7, 11: 磨石 / D-61西・Ⅵb1-2層 / 250図9, 12: 円盤状石製品 / D-61東・Ⅵb2層 / 251図2,
13: 石冠 / D-61西・Ⅵb2層 / 251図4 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第214図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土石器・石製品（4）



【北2A層群】1: 石鏃 / D-60東・Ⅵb-f層 / 251図6, 2: 石鏃 / D-61西・Ⅵ層 / 251図9, 3: 石鏃 / D-60東・Ⅵb-f層 / 251図12,
4: 石鏃 / D-60拡張・Ⅵ層 /251図14, 5: 尖頭器 / D-61拡張・Ⅵ層 / 251図15, 6: 石錐 / D-60東・Ⅵc層 / 251図18,
7: 石錐 / D-60東・Ⅵb層 / 252図1, 8: 石錐 / D-61西・Ⅵa-b2層 / 252図3, 9: 石錐 / D-60東・Ⅵb-f層 / 252図2,
10: 石匙 / D-61東・Ⅵa層 / 252図5, 11: 石篦 / D-61・Ⅵ層 / 252図6, 12: 石皿 / D-61拡張・Ⅵ層 / 253図1 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第215図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土石器・石製品（5）



【北2A層群】1: 磨石 / D-60・Ⅵc層 / 253図4, 2: 凹石 / D-60拡張・Ⅵ層 / 254図2, 3: 円盤状石製品 / D-60東・Ⅵ層 / 254図3, 4: 線刻礫 / D-60東・Ⅵ層 / 254図5
【北1A層群】5: 石錐 / D-62・Ⅵa層 / 254図6, 6: 石錘 / D-62・Ⅵ層 / 254図7, 7: 耳飾か / D-62・Ⅵa層 / 254図8, 8: 独鈷石 / D-63・Ⅵa層 / 254図9, 9: 石棒 / D-62・Ⅵa層 / 254図10 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第216図　東7地点　北斜面遺物包含層（東側）　出土石器・石製品（6）

第31表　東7地点　北斜面遺物包含層　骨角牙製品の大別層群別出土状況

大別層群	銛頭	ヤス	ヤス or 鉤先	ヤス or 鏃	鏃	根挟	針	刺突具	刺突具 or 棒状製品	匙	篦か	斧	棒状製品	弭	弭 or 簪	管玉	垂飾	垂飾 or 簪	サメ歯装着具	不明製品	計
北 1A								2				1					1				4
北 1B																					0
北 2A				1				1							1		1			1	5
北 2B								2												1	3
北 3					1			2									1				4
北 4																	1				1
北 5							2	6	2		1		4			1	5		3	2	26
北 6																					0
北斜面計				1	1		2	13	2		1	1	4		1	1	9		3	4	43
総計	2	4	1	1	4	4	2	28	4	2	4	1	6	5	1	2	14	1	3	14	103

北 2B 層群からは、刺突具などが出土している。うち、1 点は鳥類の橈骨を素材としており、先端に研磨による摩滅が見られる（第 217 図 12）。

北 2A 層群からは、刺突具や弭または簪、垂飾などが出土している。刺突具はシカ角を素材とし、研磨により成形されている。弭または簪はシカ角を素材とし、X 字状の隆線が施される（第 217 図 14）。また、被熱によりやや白色化している。

北 1B 層群からは刺突具や斧、垂飾が出土している。斧はクジラ骨を素材とする（第 217 図 15）。

⑤サメ歯装着具

「サメ歯装着具」は、D-61 区西側深掘区のⅥ g1 層とⅥ f1 層（いずれも北 5 層群）から 3 点出土した。漆で固められたものに、09B141（第 217 図 7）はサメ歯が 2 点、09B143（同図 6）ではサメ歯が 1 点埋め込まれている。これら以外に 09B141 と同一個体とみられる 09B142（同図 8）が 1 点出土している。これらの時期は、帰属層の推定時期からいずれも晩期中葉後半（大洞 C2 式古段階）に位置づけられる。

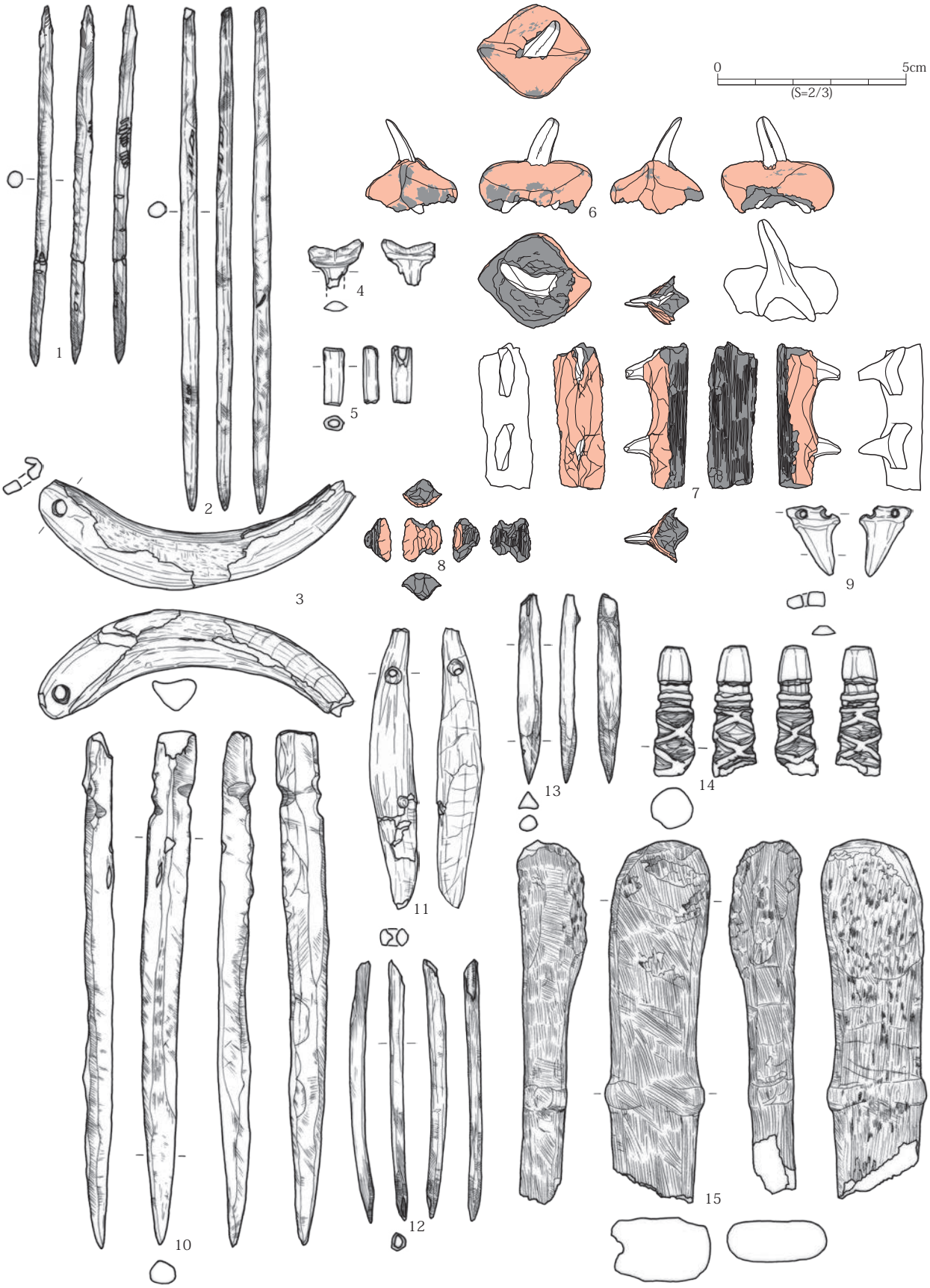
［サメ歯を 2 点装着したもの（09B141・142）］

09B141 に装着されているサメ歯 2 点は、いずれもアオザメとみられる。2 点とも先端が欠損しているが、X 線 CT 撮影では明瞭な加工痕は認められなかった（佐々木ほか　2014）。サメ歯が埋め込まれた部分は、歯が露出する面を赤く彩色している。裏面には、膠着材とみられる物質に付着した木質部が残存する。木質部の鑑定および分析では、低木で粘りの強い木材で、半径 6mm より太い丸木と推定され、この丸木に約 70° の鋭角の溝を彫り、そこにサメ歯を埋め込んだものと考えられている（小林・鈴木　2014）。

サメ歯を柄に膠着した物質や、表面に塗布されている物質については、09B142 を対象として化学分析を行った結果、膠着材や表面塗布の物質は漆であり、日本に生育するウルシの木から得られた漆液が用いられていることが判明した（本多ほか　2014）。この分析では、ベンガラで赤の発色を行っており、さらに海産の貝類の粉末を混ぜていたと考えられている。貝類の粉末の混入は、X 線 CT 画像でも内部に砂粒子が確認されており（佐々木ほか　2014）、これを裏付けるものとみられる。

また、黒色の膠着材についてほかの黒色の物質を漆に混入して得られるいわゆる黒漆ではなく、透明漆が黒く見えているものと推定され、さらに、織組織を有する植物繊維の混入が認められている（赤田・高妻　2014）。

以上から、サメ歯装着具は、木質の柄に溝を彫り込み、そこに漆でサメ歯を膠着し、表面にはベン



【北5層群】1: 刺突具 / D-61西・Ⅵg1層 / 255図1, 2: 針 / D-61西・Ⅵf1層 / 255図4, 3: 垂飾 / D-61西・Ⅵf1層 / 255図5, 4: 垂飾 / D-61西・Ⅵg2層 / 255図6, 5: 管玉 / D-61西・Ⅵf3-g2層 / 255図7, 6: サメ歯装着具 / D-61西・Ⅵf1層 / 255図8, 7: サメ歯装着具 / D-61西・Ⅵg1層 / 255図9, 8: サメ歯装着具 / D-61西・Ⅵg1層 / 255図10
【北4層群】9: 垂飾 / D-61西・Ⅵe層 / 255図11
【北3層群】10: 刺突具 / D-61西・Ⅵd-f2層 / 255図12, 11: 垂飾 / D-61西・Ⅵd層 / 255図13
【北2B層群】12: 刺突具 / D-61西・Ⅵb1-c2層 / 256図1, 13: 刺突具 / D-61西・Ⅵb1-c層 / 256図2
【北2A層群】14: 弭または簪 / D-61西・Ⅵa層 / 256図4
【北1A層群】15: 斧 / D-63・Ⅵb層 / 256図5 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第217図　東7地点　北斜面遺物包含層　出土骨角牙製品

ガラを混ぜた漆を塗布していたことが判明した。遺物は、漆とサメ歯のみが残存している状態である。漆は木質の柄に彫られた溝の形状を残すが、木質部は漆に接していた部分がわずかに残存しているのみとなっている。なお、表面に見られた赤い漆は、シカ中足骨製の刺突具の表面にも塗布されていることから、固定具に固定する際の膠着材と表面を彩色する塗装材を兼ねるものであったと推定される。

サメ歯装着具の形状や各種分析の結果から、09B141 は、１）木質の柄に溝を彫る、２）その溝に漆を充填する、3）充填した漆にサメ歯を埋め込む、4）さらに漆で全体の形状を整える、５）最後にベンガラを混ぜた漆を表面に塗布する、工程を経て作られたことが判明した。

日本列島では、北海道において、縄文時代の遺跡からサメ歯が整然と並んで出土した事例が確認されている。恵庭市西島松 5 遺跡では、後期後葉の墓壙から、サメ歯穿孔品とみられるサメ歯が 33 点出土し、うち 16 点が基部を揃えた状態で 1 列に並んで出土した（北海道埋蔵文化財センター 2009）。札幌市 N30 遺跡では、晩期後葉の墓壙からサメ歯が約 3cm の間隔を空けて 2 列に並んだ状態で出土し、それぞれの歯の先端が外側を向いた状態で検出された（札幌市教育委員会　1998）。なお、N30 遺跡の報告ではサメ歯列について、ポリネシアなどの民族例にあるサメ歯を何らかの軸に植え込んで作った道具の一部と想定している。

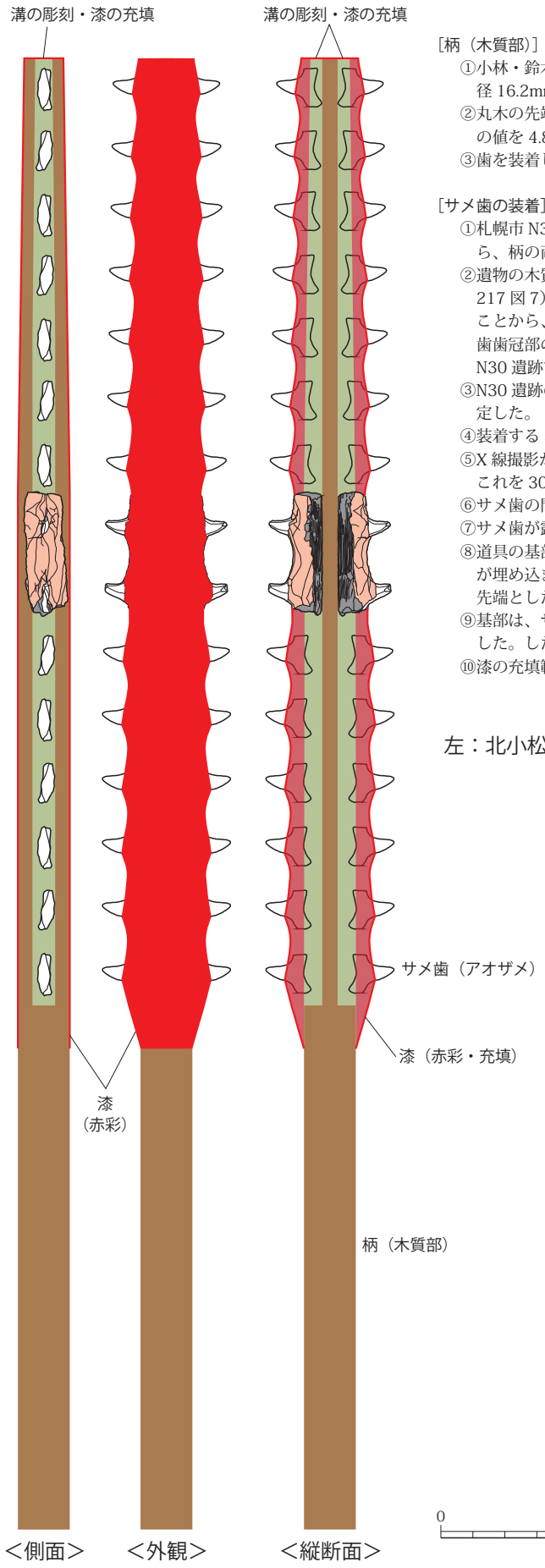
本地点で出土したサメ歯装着具もまた、上記遺跡の出土例に類似するものと考えられる。遺物の計測値やサメ歯装着具に関わる各種分析（小林・鈴木　2014、本多ほか 2014、赤田・高妻　2014）の結果をふまえ、北小松遺跡と時期の近い N30 遺跡の出土例やポリネシアの民族例（石森編　1999）を参考に、サメ歯装着具の全体像を復元した（第 218 図）。復元では、サメ歯が 2 本埋め込まれた 09B141 について、N30 遺跡と同様に南太平洋地域に見られるいわゆる「サメ歯棍棒」などの道具を想定した。柄は直径 16.2mm の丸木と推定し、両側に幅 7.1mm、深さ 5.7mm の溝を彫る。その溝に漆を充填し、歯の先端を外側に、間隔が約 20mm になるようにサメ歯を埋め込む。サメ歯は、歯冠部の内湾する辺を道具の先端側に向ける。また、歯の表裏を交互に変えながら並べる。表面にはベンガラを混ぜた漆を塗布し、歯冠部のみを外側に露出させる。また、溝を彫り込んだ部分には漆を厚く充填し、全体の形状を整えている。

［サメ歯を 1 点装着したもの（09B143）］

09B143 に装着されているサメ歯 1 点は、ネズミザメとみられる。X 線 CT 撮影では明確な加工の痕跡は認められなかった（佐々木ほか　2014）。

サメ歯が露出している面を上にして俯瞰すると、平面四辺形に成形された状況が確認できる。また、断面を見ると、歯が露出している点を頂点として山形に成形され、歯根部側は破損しているものの、丸く窄まる形状を呈する。これらの形状から人工的に形を作り出したものとみられる。表面は、歯が露出している側を、09B141・142 と同様に赤く彩色している。この物質は 09B141・142 で確認された漆に類似することから、漆を用いて成形した可能性が考えられる。なお、木などの植物組織の痕跡は認められなかった。

この道具は全体の形状から、単体で道具として成立していたものと推定される。この場合は、南太平洋地域で見られるサメ歯の装身具のように、サメ歯 1 本のみを埋め込んだ装身具のようなものが考



「サメ歯装着具」復元の方法

［柄（木質部）］

①小林・鈴木（2014 年）による復元図（図版 3）から、丸木状のもので、直径 16.2mm、彫られた溝の幅 7.1mm・深さ 5.7mm と推定した。

②丸木の先端部が細くなることを考慮に入れ、芯の太さ（柄の直径－溝の深さ）の値を 4.8mm で固定し、溝の深さを変更した。

③歯を装着しない部分の長さは任意。

［サメ歯の装着］

①札幌市 N30 遺跡（札幌市教育委員会　1998）におけるサメ歯列の出土例から、柄の両側にサメ歯が並ぶものと想定した。

②遺物の木質部が残る面で、鋭角に突出した部分の辺の長さが、実測図（第 217 図 7）の上部にかけてわずかに短くなる（道具の直径が小さくなる）ことから、道具の先端部を実測図の上部と推定した。このことから、サメ歯歯冠部のエナメル質部分の内湾する辺が、道具の先端側となる。これは、N30 遺跡でも同様であり、東側が先端部側と推定される。

③N30 遺跡の（下図）出土例から、一辺に 15 本の歯が装着されたものと推定した。

④装着する 30 本の歯は、便宜的に同じ大きさとした。

⑤X 線撮影から、2 本の歯の表裏を交互に変えて並べられていることが判明し、これを 30 本の歯についても適用した（側面図）。

⑥サメ歯の間隔は歯冠部先端で計測し、すべての間隔を 19.7mm とした。

⑦サメ歯が露出している部分の長さは約 6.2mm で固定した。

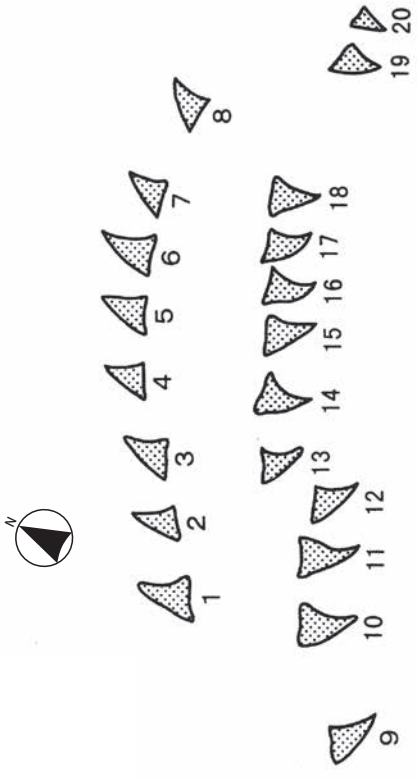
⑧道具の基部から先端部にかけて径が小さくなるため、溝の深さと、サメ歯が埋め込まれる部分（おもに歯根部）の長さがほぼ同じ値となるところを先端とした。

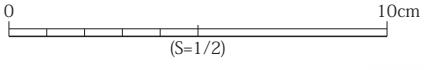
⑨基部は、サメ歯歯根部の突出部のみが溝に埋め込まれるところを最大径とした。したがって、基端から 5 本分は道具径が同じである。

⑩漆の充填範囲および赤彩範囲は、遺物から推定した。

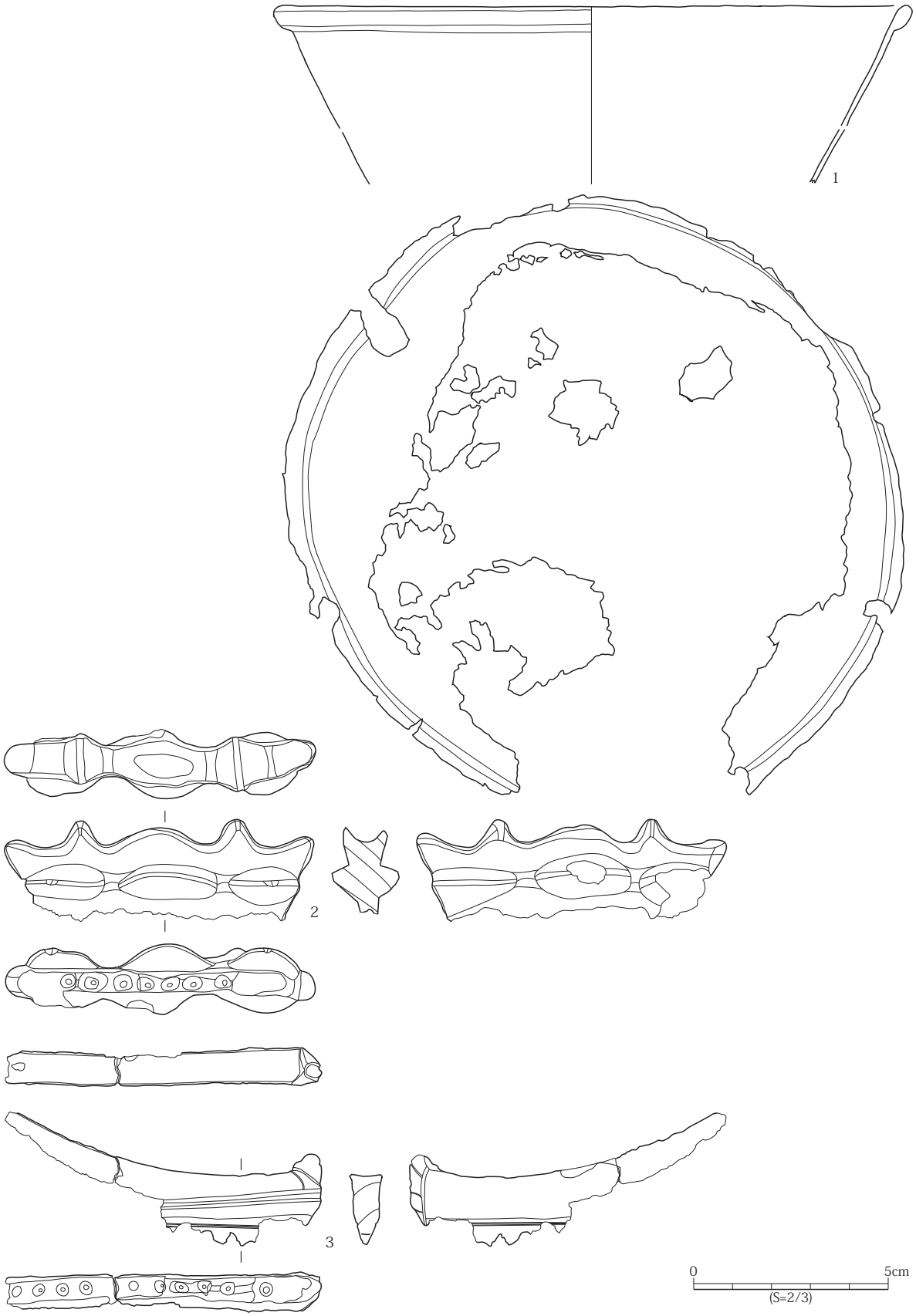
左：北小松遺跡出土「サメ歯装着具」（09B141）復元図

下：札幌市 N30 遺跡 PIT1 出土サメ歯列
（札幌市教育委員会　1998）





第218図　サメ歯装着具（09B141）　推定復元図



【北5層群】1: 木胎漆器浅鉢 / D-61西・Ⅵg1層 / 257図1, 2: 堅櫛 / D-61西・Ⅵf2層 / 257図2
【北3層群】3: 堅櫛 / D-61西・Ⅵd層 / 257図3 （宮城県文化財調査報告書第234集）

第219図　東7地点　北斜面遺物包含層　出土漆製品

えられる。ただし、サメ歯歯根部側の漆状物質の欠損幅が、10B141 を基に復元した道具の先端幅と近似していることから、この道具の先端部に装着した可能性も想定される。

⑤漆製品

漆製品は、遺物包含層の北 6 層群と北 1B 層群を除く大別層群から出土している。これらのほとんどは小破片であり、遺存状況が不良のため、図示できたものは 3 点のみである。

北 5 層群からは、木胎漆器浅鉢（第 219 図 1）や竪櫛（同図 2）のほかに、木胎漆器や籃胎漆器の破片が出土している。1 は口縁が平坦で、玉縁状を呈する。遺物取り上げ後の保存状況により原形をとどめていない。2 は飾部で、ほぼ全面に漆が塗布されている。下部には盲孔が 7 箇所確認される。

北 3 層群からは、竪櫛（第 219 図 3）や木胎漆器、籃胎漆器の破片が出土している。竪櫛の飾部には沈線による装飾が施されている。下部には盲孔が 10 箇所確認される。

C. 集落の時期と特徴

（1）遺物包含層

東 C 丘陵西端部の周囲に広がる遺物包含層からは、縄文時代後期後葉～弥生時代前期を主体とする遺物が出土している。出土した土器の型式や年代測定結果から、各大別層群のおおよその時期を第 220 図に示した。各大別層群は複数の時期の遺物を含むが、それぞれ主体となる時期に着目すると、後期後葉（Ⅰ期）、晩期前葉（晩期 2 期、Ⅱ期）、晩期中葉（晩期 3 ～ 4a 期、Ⅲ期）、晩期中葉から後葉（晩期 4b ～ 5a 期、Ⅳ期）、晩期後葉から末葉（晩期 5b ～ 6a 期、Ⅴ期）、晩期末葉から弥生時代前期（晩期 6b 期～弥生 2a 期、Ⅵ期）の 6 時期に大別される。

Ⅰ期の遺物包含層は南 5 層群である。南斜面のみで、丘陵西端部付近（D-53・59 区）と東側で検出される。Ⅱ期の遺物包含層は南 4A・4B 層群と北 6 層群である。南斜面では東側、北斜面では西側（丘陵西端部付近）で検出される。Ⅲ期の遺物包含層は南 3 層群および北 5 層群である。南斜面では広範囲で検出され、北斜面では東側のみで検出される。Ⅳ期の遺物包含層は南 2B 層群と北 4 層群である。南斜面では西側、北斜面では広範囲で検出される。Ⅴ期の遺物包含層は南 2A・2B 層群および北 2A・2B・3 層群である。南斜面では 2B 層群が西側、2A 層群が広範囲で検出され、北斜面では東側で検出される。Ⅵ期の遺物包含層は南 1 層群および北 1A・1B 層群である。南斜面では広範囲で検出され、北斜面では中央部を除く範囲で検出される。

これらの大別層群のうち、北 3 層群から北 2A 層群までは、地山粒や地山ブロックを多く含む層であり、D-60・61 区の斜面部のみに形成される。それぞれの大別層群で主体となる土器の型式が重複することから、これらは人為的に形成された盛土状の遺構の可能性も考えられる。また、南 1 層群もこれらと同様に地山粒や地山ブロックを多く含む層であり、晩期末葉の遺物が出土するものの、晩期中葉の遺物も多く含まれる層である。本地点では、晩期末葉になると丘陵頂部に掘立柱建物跡、丘陵裾部に土坑墓などが多くつくられることから、南 1 層群の形成要因として、丘陵頂部の遺構掘削により生じた土砂の堆積や、丘陵裾部に墓域を形成するための整地（盛土）などの人為的要因が考えられ

る。ただし、地山粒や地山ブロックを多く含む層は南1層群に限らず、複数の層に及んでいることから、土砂崩れ等の自然要因による堆積の可能性も否定できない。

(2) 集落の変遷と各時期の様相

本項では、各時期における集落構成について、主要遺構を中心に検討する（第221～225図）。

①Ⅰ期（後期後葉）

南斜面西側の一部および東側で遺物包含層（南5層群）が形成される。調査した範囲が限られるためその他の遺構は不明である。

②Ⅱ期（晩期2期）

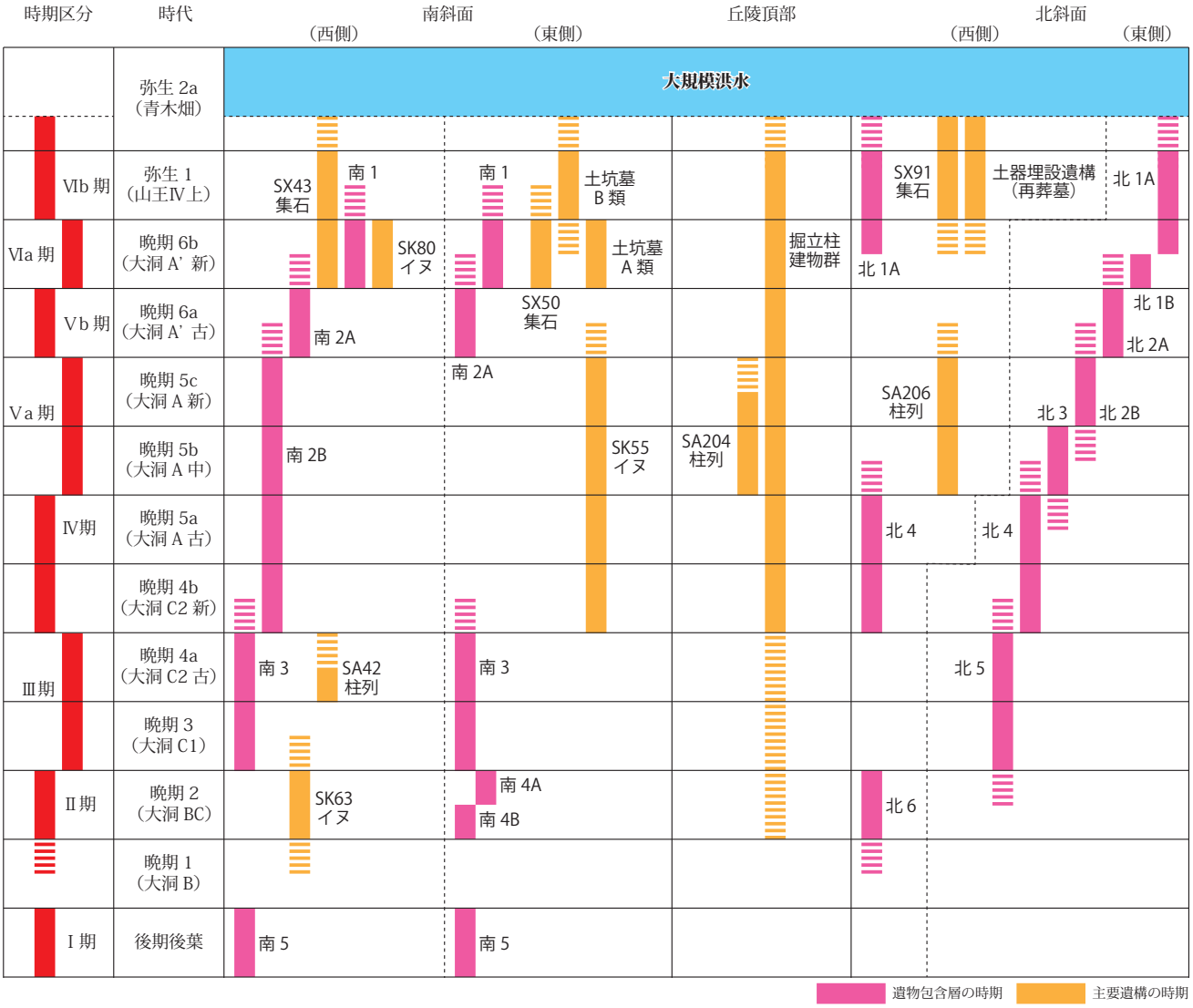
南斜面では、丘陵西端部付近で埋葬犬骨1基（SK63）と、東側で遺物包含層（南4A・4B層群）が形成される。南4A層群は貝を含む遺物包含層である。遺物包含層の形成範囲が広がり、遺物量が明らかに増加することから、この時期には丘陵頂部に居住・倉庫域（掘立柱建物群）が存在していたと推定される。なお、東側は調査した範囲が限られるためその他の遺構等は不明であるが、南4B層群から人骨がわずかに出土していることから（富岡ほか　2014）、土坑墓が存在していた可能性がある。北斜面では、西側で遺物包含層（北6層群）が形成される。大洞B式に特徴的に見られる土器もやや多く出土しており、晩期1期まで時期が遡る可能性も考えられる。

③Ⅲ期（晩期3期から晩期4a期）

南斜面では、遺物包含層（南3層群）が広範囲に形成され、北斜面では、東側で遺物包含層（北5層群）が形成される。遺物包含層から出土した土器は、完形に近い個体や大破片が多くなり、遺物量も増加することから、Ⅱ期と同様に丘陵頂部に居住・倉庫域（掘立柱建物群）が存在していたと推定される。また、南斜面では、西側で柱列跡1条（SA42）を検出している。柱間が建物跡のそれと大きく変わらないことや、ほかにピットも検出していることから、建物跡の一部の可能性がある。Ⅱ期に比べて遺構や遺物包含層の範囲が広がるため、集落の規模が大きくなるものとみられる。

④Ⅳ期（晩期4b期から晩期5a期）

丘陵頂部では掘立柱建物跡1棟を検出している。竪穴住居跡などの居住施設や貯蔵穴が確認されないことから、これらは居住施設や貯蔵施設の役割が想定される。遺物包含層との重複関係から、建物群の確実な出現はこの時期以降である。南斜面では、西側で遺物包含層（南2B層群）が形成される。東側では埋葬犬骨1基（SK55）を検出している。1つの墓壙に3体が同時埋葬されたものである。北斜面では、西側と東側で遺物包含層（北4層群）が形成される。遺物包含層が広範囲に形成されることから、Ⅲ期と同様に規模の大きな集落であったと推定される。



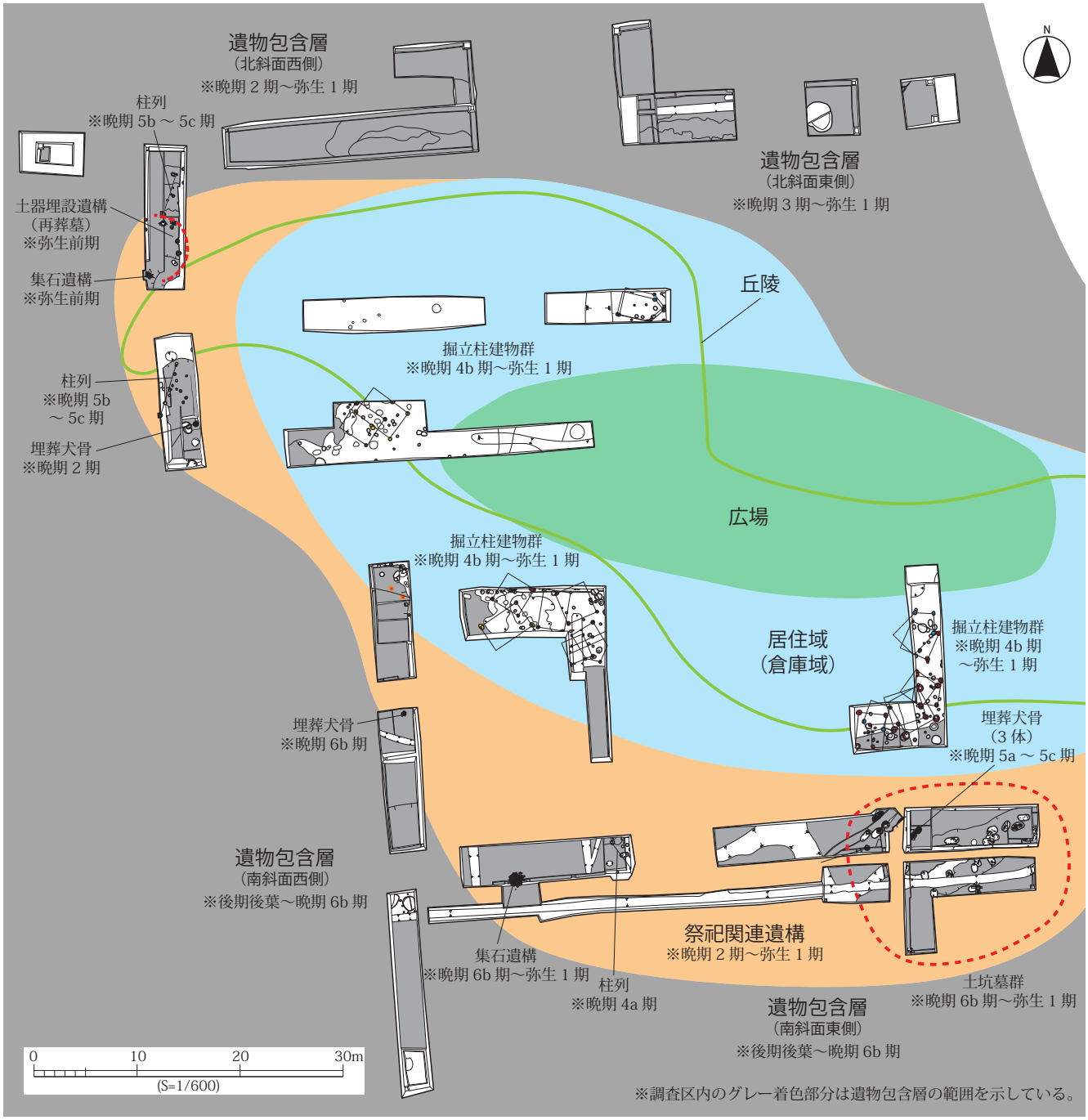
第220図　東7地点　おもな遺構の時期

⑤Ⅴ期（晩期 5b 期から晩期 6a 期）

Ⅴ期は層位的に 2 時期（Ⅴ a 期→Ⅴ b 期）に細分される。

［Ⅴ a 期（晩期 5b 期から晩期 5c 期）］

丘陵頂部では、Ⅳ期に続いて居住域が形成されたとみられる。ただし、遺物包含層との重複関係や柱穴埋土の出土遺物などからⅤ期に比定される建物跡はない。また、丘陵西端部では柱列跡 1 条を検出している（SA204）。柱列は、柱間が建物跡のそれよりも狭いことから、Ⅳ期のものと異なり丘陵頂部の居住域を囲む柵や塀の役割が想定される。南斜面では、西側で遺物包含層（南 2B 層群）が形成される。また、東側で検出した SK55 埋葬犬骨がこの時期に比定される可能性もある。北斜面では、西側で柱列跡 1 条（SA206）を検出している。SA204 と同様に、居住域を囲む柵や塀の役割が想定される。また、SA204 と同じ方向であることから、柵または塀の造り替え、あるいは二重に居住域を囲んでいた可能性が考えられる。東側では遺物包含層（北 2B・3 層群）が形成される。地山粒や地山ブロックを多く含む層で、遺物包含層の一部のみに形成され、主体となる土器の型式が重複するこ

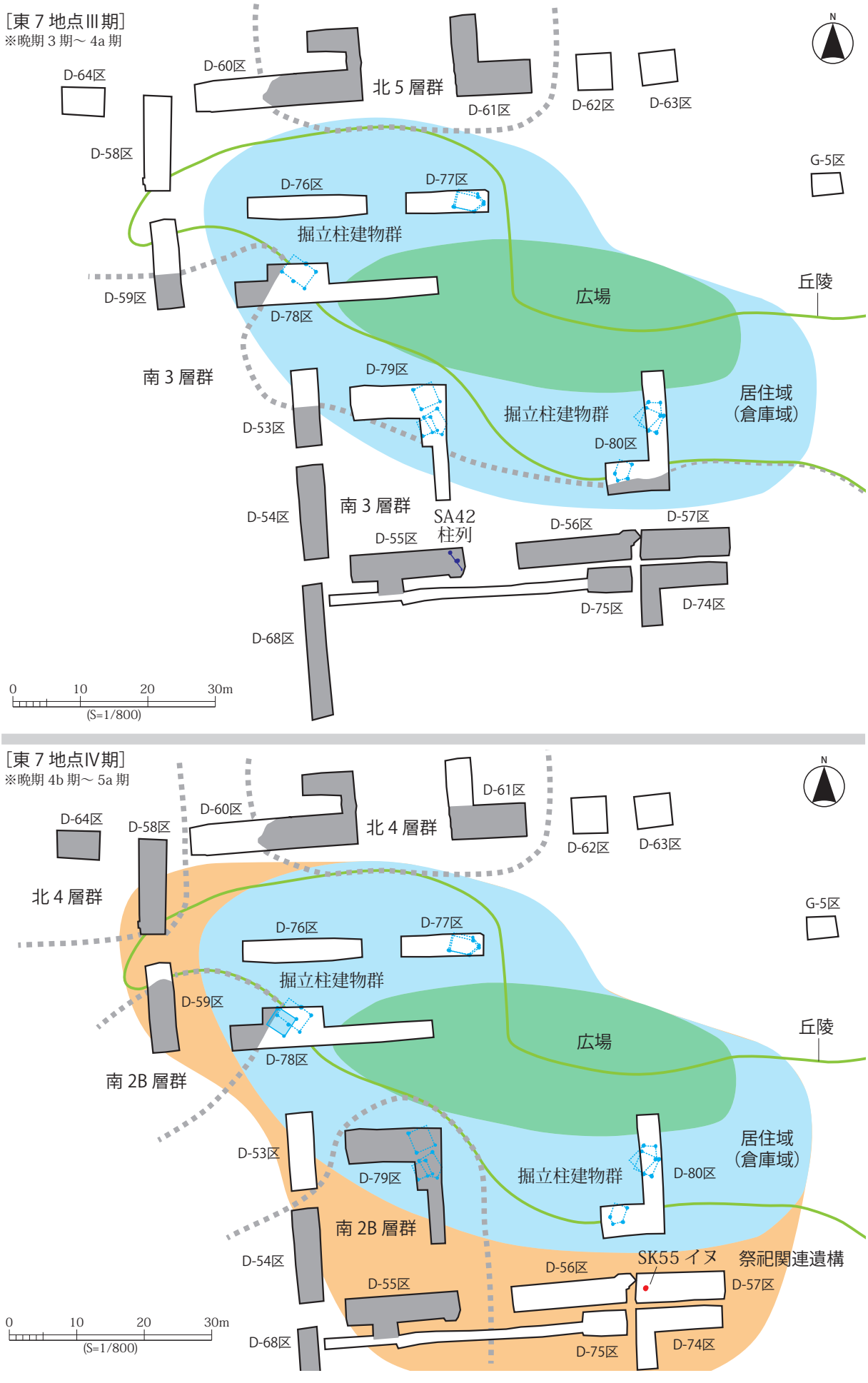


第221図　東7地点　集落の概要

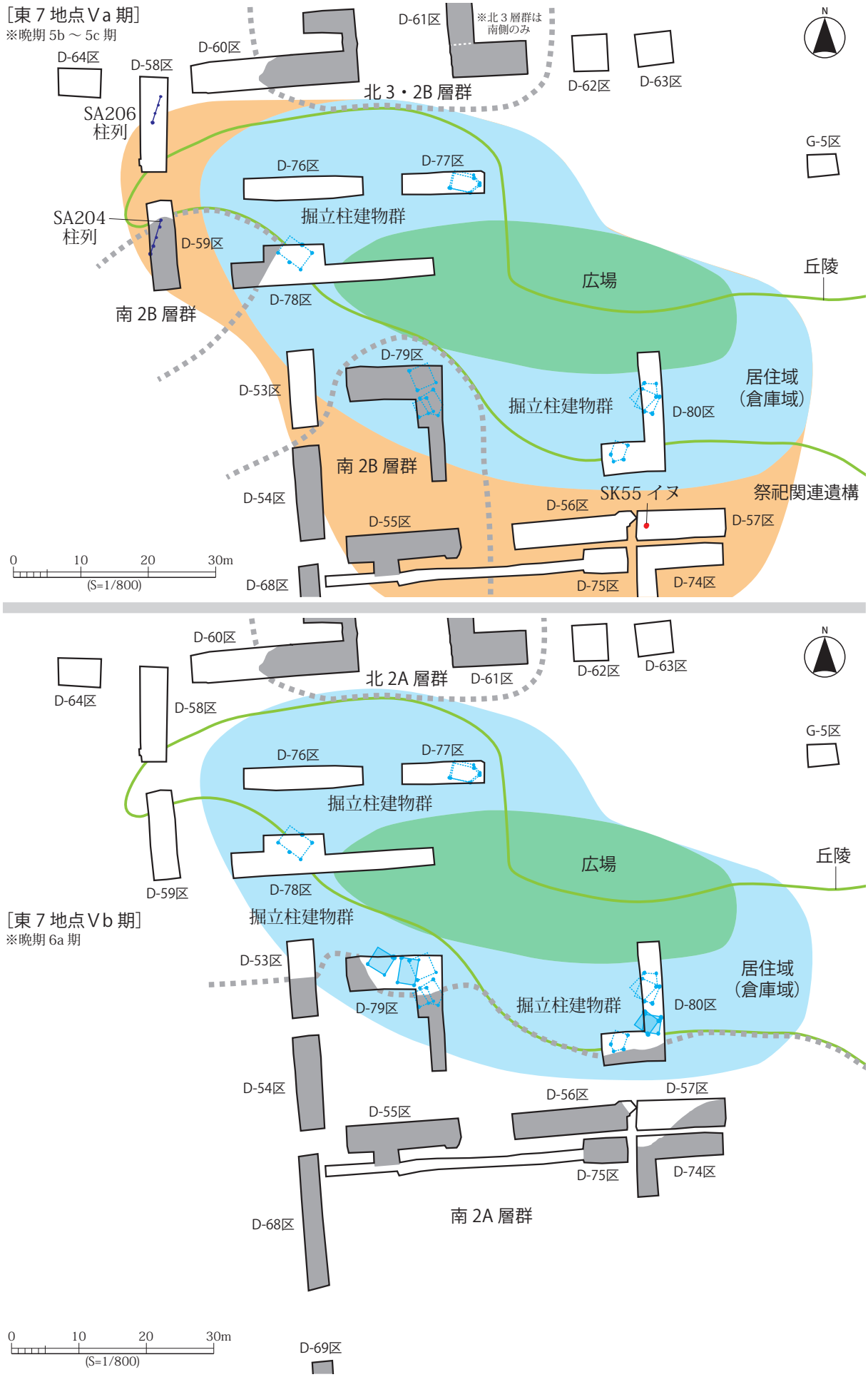
とから、人為的に形成された盛土状の遺構の可能性も考えられる。

［Ⅴｂ期（晩期 6a 期）］

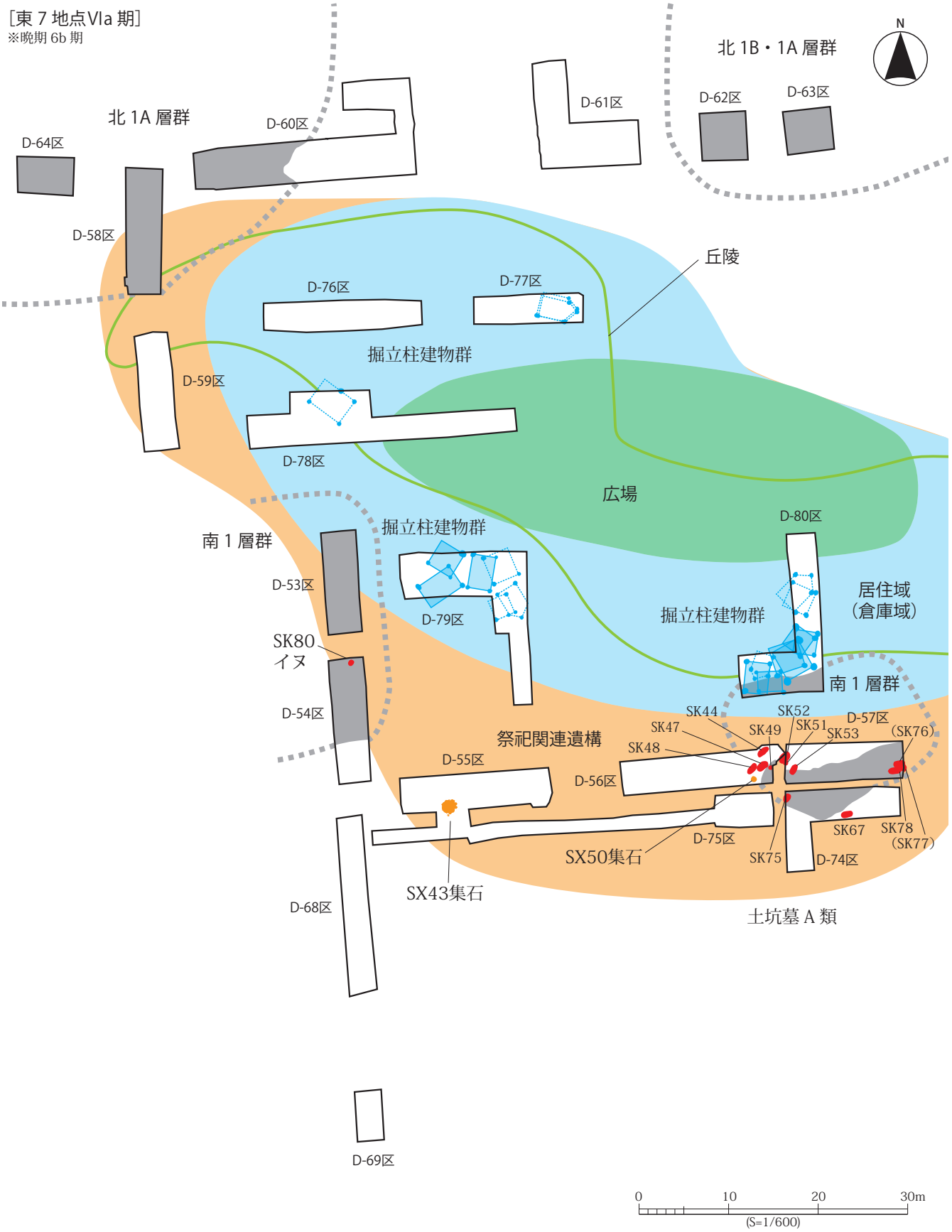
丘陵頂部では、掘立柱建物跡群を検出している。遺物包含層との重複関係から４棟がこの時期に比定される。また、Ⅳ期と同様に、竪穴住居跡や貯蔵穴が検出されないため、居住施設や貯蔵施設の役割が想定される。南斜面では、西側と東側で遺物包含層（南 2A 層群）が広く形成され、その範囲は南に位置する D-69 区まで広がる。北斜面では、東側で遺物包含層（北 2A 層群）が形成される。北 2A 層群は、北 2B・3 層群と同様に地山粒や地山ブロックを多く含む層で、遺物包含層の一部のみに形成され、主体となる土器の型式が重複することから、人為的に形成された盛土状の遺構の可能性も



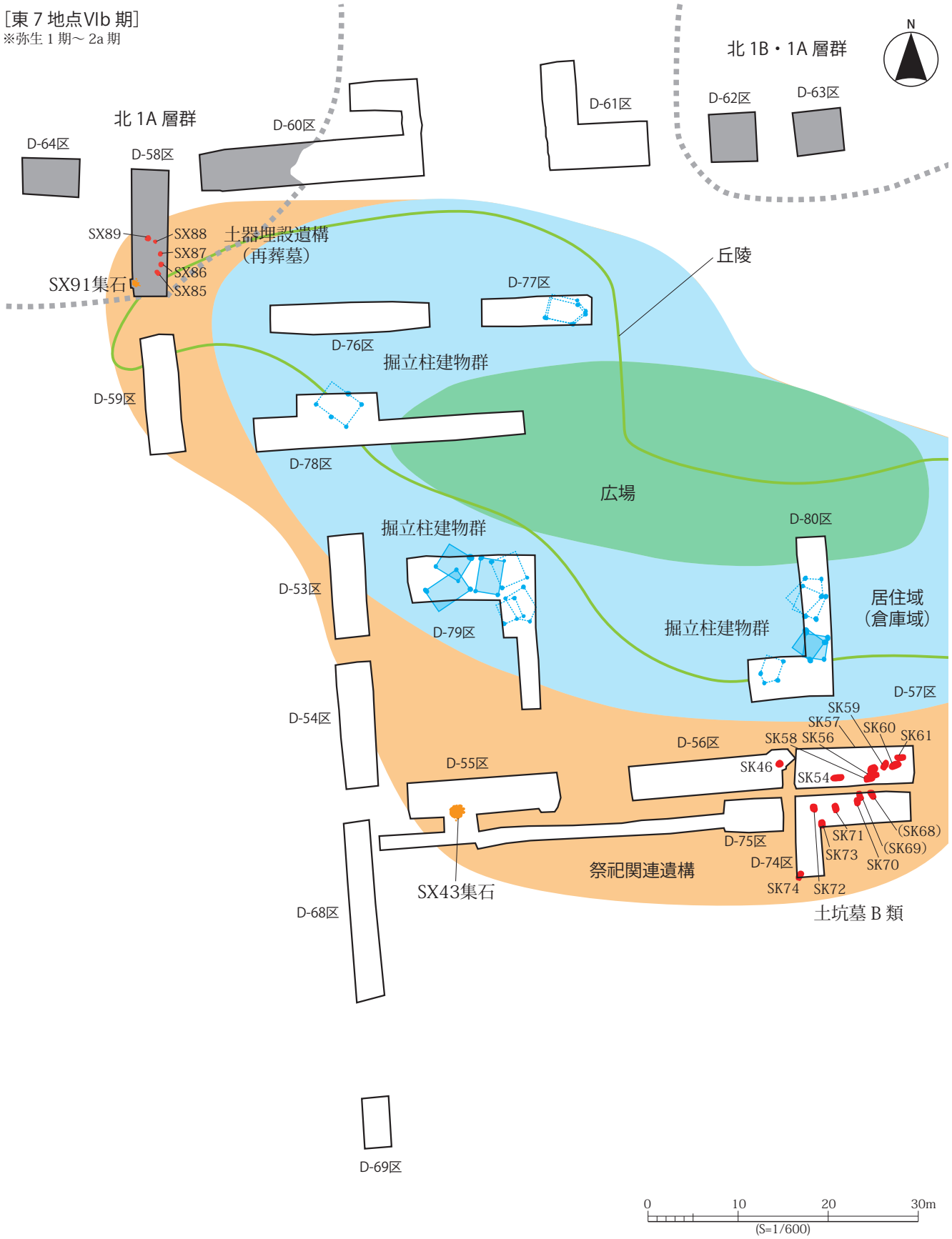
第222図　東7地点　時期別のおもな遺構および遺物包含層の分布状況（Ⅲ・Ⅳ期）



第223図　東7地点　時期別のおもな遺構および遺物包含層の分布状況（Ｖ期）



第224図　東7地点　時期別のおもな遺構および遺物包含層の分布状況（VIa期）



第225図　東7地点　時期別のおもな遺構および遺物包含層の分布状況（Ⅵb期）

考えられる。

⑥Ⅵ期（晩期 6b 期から弥生 2a 期）

丘陵頂部では掘立柱建物が多くつくられ、南斜面では土坑墓群や集石遺構、北斜面では土器埋設遺構や集石遺構がつくられるようになり、ヒトの葬送儀礼にかかわる空間が形成される時期である。本地点では、この時期に最盛期を迎える。なお、Ⅵ期は層位的に 2 時期（Ⅵ a 期→Ⅵ b 期）に細分される。

［Ⅵ a 期（晩期 6b 期）］

丘陵頂部では、Ⅴ b 期に続いて掘立柱建物跡を検出している。遺物包含層との重複関係や柱材の年代測定結果から、9 棟がこの時期のものとみられ、比定される建物が最も多くなる時期である。Ⅴ b 期と同様に竪穴住居跡や貯蔵穴が検出されないため、居住施設や貯蔵施設の役割が想定される。なお、丘陵の中心部については、調査した範囲が限られるため不明な部分が多いものの、柱穴がほとんど検出されないことから、広場の可能性が考えられる。

南斜面では、西側で埋葬犬骨 1 基（SK80）と集石遺構 1 基（SX43）を検出し、東側で土坑墓 A 類と集石遺構 1 基（SX50）を検出している。SX43 は自然石や礫石器が多く集積されているが、石棒類や独鈷石、石冠などの石製品や土偶なども一緒に集積される。土坑墓 A 類は大型の鉢を遺体に被せた埋葬方法によるものであり、これらが南斜面東側に集中し、墓域を形成する。人骨を検出した墓壙が 5 基あり、うち 2 基（2 体）の鑑定では、1 体（SK44）が 40 歳前後またはそれ以上の成年～熟年の男性、もう 1 体（SK53）が 6 ～ 7 歳程度の未成人男性の可能性が指摘されている（鈴木　2014）。前者は本地点で唯一頭部と下半身に各 1 個体ずつ大型の鉢を被せているもので、後者はほかの土坑墓の埋設土器と比べて小型である。年齢により遺体に被せる土器の数や大きさ、形状などが反映された可能性が考えられる。墓域や埋葬犬骨、集石遺構が同一の斜面に形成されることから、南斜面は葬送行為に関連する空間として機能していたとみられる。また、西側と東側には遺物包含層（南 1 層群）が形成される。南 1 層群は、地山粒や地山ブロックを多く含み、直下の南 2A 層群よりも古い時期の遺物が多量に出土していることから、二次堆積もしくは盛土状の人為的な堆積が考えられる。北斜面では、西側と東側に遺物包含層（北 1B・1A 層群）が形成される。

［Ⅵ b 期（弥生時代前期）］

丘陵頂部では、掘立柱建物群がこの時期まで存続する可能性がある。ただし、丘陵裾部の遺物包含層が縮小することから、丘陵頂部もまた居住域・倉庫域が縮小するものと推定される。

南斜面では、集石遺構（SX43）と土坑墓 B 類を検出している。SX43 はⅥ a 期に位置づけられるが、遺構上部を弥生時代前期の洪水堆積層が覆うため、この時期に形成あるいは存続していた可能性もある。遺体に土器を被せない土坑墓 B 類は南斜面東側に集中し、A 類と同様に一次埋葬の墓域を形成する。A 類よりもやや東側に位置し、また A 類との重複が見られないことから、意図的に位置を移動させた可能性が考えられる。人骨を検出した墓壙が 13 基あり、うち 2 基（2 体）の鑑定では、1 体（SK46）が 11 歳程度の未成人（女性か）、もう 1 体（SK60）が 20 ～ 40 歳程度の男性の可能性が指摘されている（鈴木　2014）。

北斜面では、集石遺構１基（SX91）と土器埋設遺構５基を検出している。SX91 は、SX43 と異なりほぼ自然石と礫石器で構成される。集石遺構と土器埋設遺構は合わせて円弧状に配置され、一連のものの可能性が考えられる。土器埋設遺構は大型の鉢を伏せたものであり、うち１基（SX88）から人骨が出土している。また、土器は土坑墓 A 類のものとは異なり、四脚付きのものはなく、また取り上げたものにはすべて炭化物が付着し、日常的に使用されたものが用いられている。人骨と、埋設土器に付着した炭化物の年代測定結果では両者に時期差が見られ、土器付着炭化物よりも人骨のほうが古いことから、土器埋設遺構は二次埋葬の墓壙すなわち再葬墓の可能性が考えられる。

この時期はⅥａ期に続いて丘陵南斜面に一次埋葬の墓域が形成される。また、集石遺構も存続あるいは形成され、葬送行為に関連する空間に位置づけられる。加えて、丘陵突端部付近の北斜面では、円弧状に配列された再葬墓とみられる土器埋設遺構群や集石遺構が形成され、南北斜面あわせて葬送行為に関連する空間が弧状に広がる。建物群の規模縮小ともかかわり、儀礼的空間の性格がより強くなるものとみられる。

写真41　D-55区　調査風景（北東から）

写真42　D-56区　調査風景（北東から）

写真43　SK55埋葬犬骨切り取り（南東から）

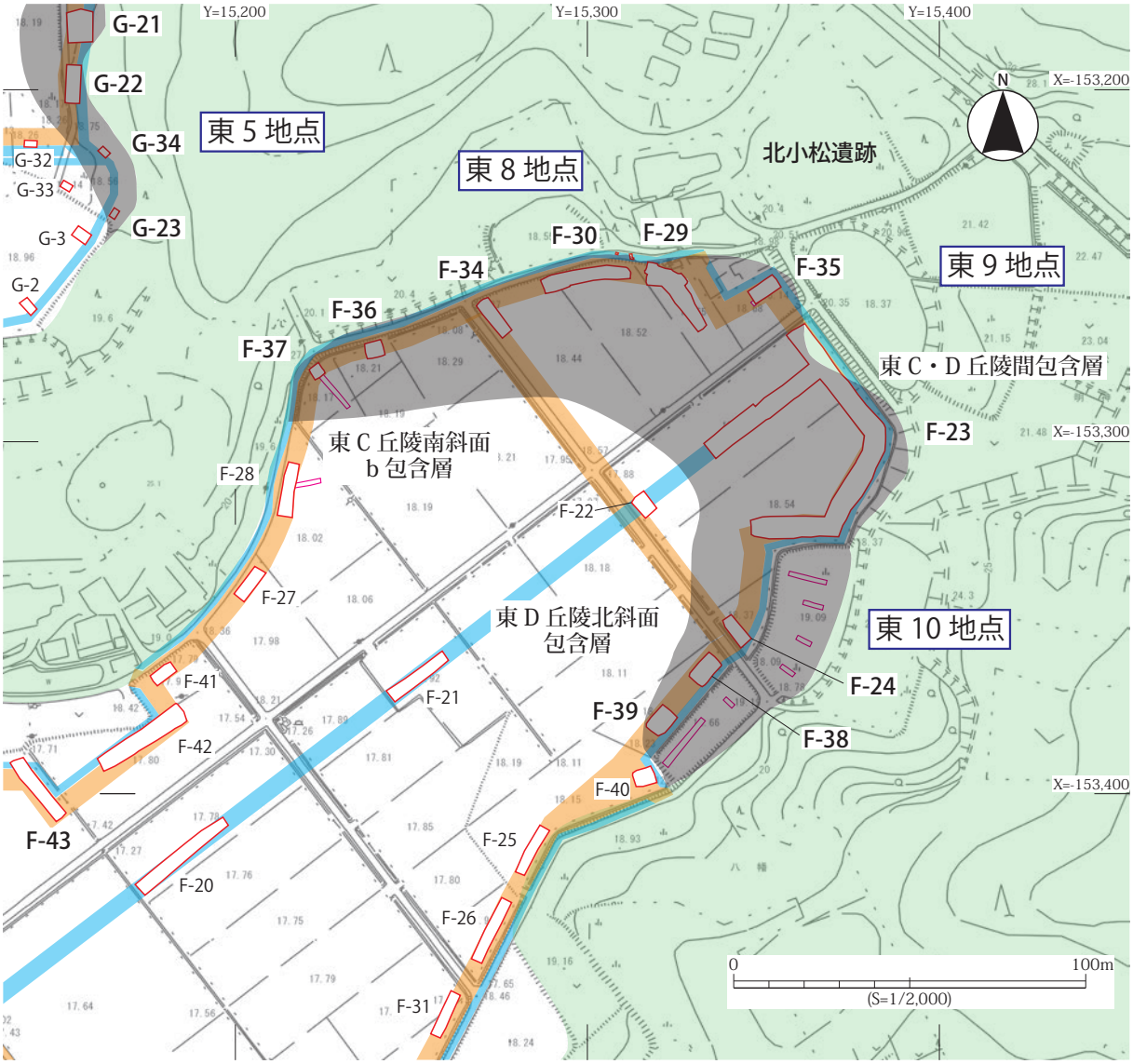
写真44　SK60土坑墓切り取り（東から）

8. 東 8 地点

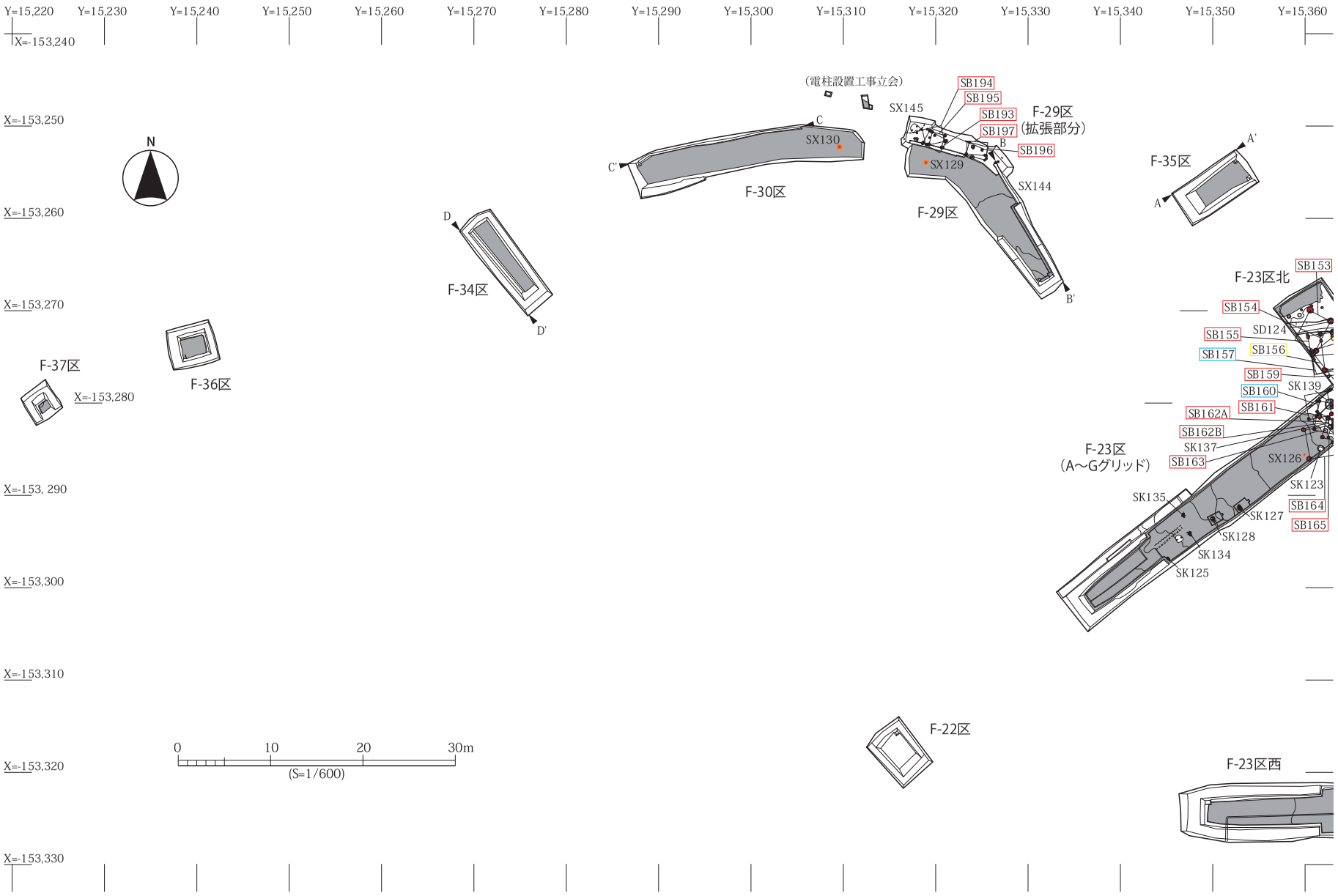
東 8 地点は、東 C 丘陵の基部にあたる場所の南緩斜面に位置する。この丘陵の裾部で掘立柱建物跡 5 棟、竪穴状遺構 1 基、焼土集積 3 箇所のほかに、ピット（柱穴や小穴）多数を検出した。また、遺物包含層は、この丘陵裾部から低地部にかけて南に広がるように形成される（東 C 丘陵南斜面 b 包含層）。この地点に含まれる調査区は、F-29 区、F-30 区、F-34 ～ 37 区の 6 調査区である（第 226 図）。遺物は縄文土器や土製品、石器・石製品、木製品、動物遺存体、植物遺存体が出土している。遺物量は、すべての種類を合わせると、遺物収納箱換算で約 12 箱に相当する。

（1）遺構

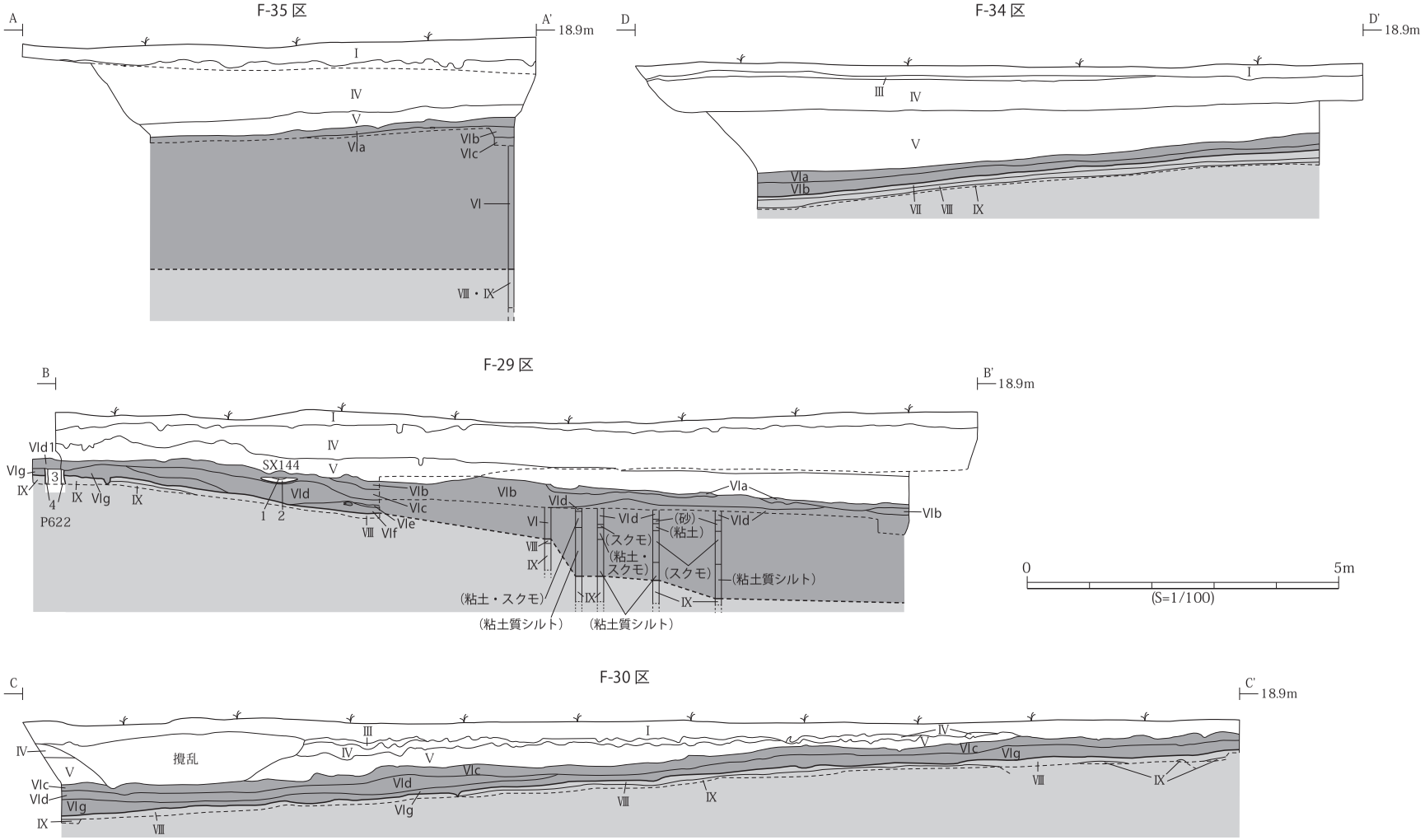
F-29 区で掘立柱建物跡 5 棟、竪穴状遺構 1 基、焼土集積 2 箇所のほかに、ピット（柱穴や小穴）多数を検出し、F-30 区で焼土集積 1 箇所を検出した。以下に、おもな遺構について述べる。



第226図　東8・9・10地点周辺における発掘調査区の位置および遺物包含層の分布



第227図　東8地点　調査区平面図



第228図　東8地点　調査区断面図

第32表　F-29・30・34・35区　土層観察表

調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　　徴
F-35 区	A-A' B-B'	Ⅵa	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	砂少量
		Ⅵb	黒色（10YR1.7/1）	シルト質粘土	
		Ⅵc	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	砂中量
		Ⅵd	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	スクモ少量
F-34 区	A-A' B-B'	Ⅵa	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	
		Ⅵb	黒色（10YR1.7/1）	粘土質シルト	砂少量
F-29 区	A-A' B-B'	Ⅵa	黒褐色（10YR3/1）	シルト質砂	
		Ⅵb	黒褐色（10YR3/1）	シルト	スクモ少量
		Ⅵc	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	砂わずか
		Ⅵd	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	
		Ⅵe	黒色（10YR2/1）	砂質シルト	
		Ⅵf	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	砂中量
		Ⅵg	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	地山（Ⅸ層）粒少量
SX144		1	褐色（7.5YR4/4）	シルト	焼土ブロック　【堆積土】
		2	にぶい黄褐色（10YR5/4）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）ブロック　【堆積土】
P622		3	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	【柱痕跡】
		4	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）小ブロック少量　【掘方埋土】
F-30 区	C-C'	Ⅵc	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）粒・砂少量、スクモ中量
		Ⅵd	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	
		Ⅵg	黒色（10YR2/1）	砂質シルト	

第33表　東8地点　遺物包含層の対応関係　（⇔：同一層、≒：近似層）

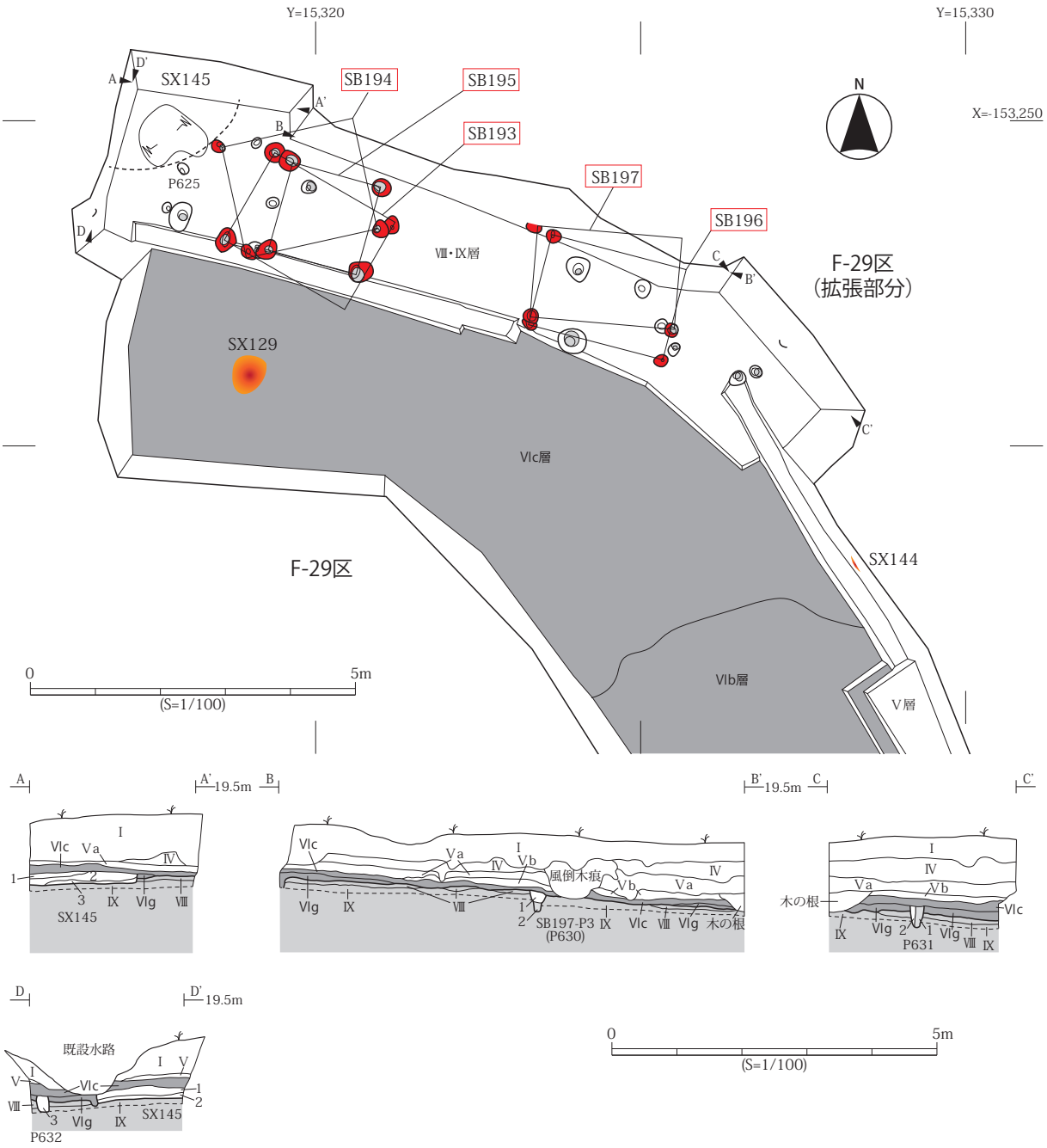
調査区・層名												大別層群			
F-37 区		F-36 区		F-34 区		F-30 区		F-29 区		F-35 区		層名	細分層	堆積場所	特　　徴
		Ⅵa	⇔		⇔		⇔	Ⅵa				1 層群	1A	斜面部	黒褐色シルト～シルト質砂
								Ⅵb					1B		
Ⅵa	⇔	Ⅵb	≒	Ⅵa	⇔	Ⅵc	⇔	Ⅵc	≒	Ⅵa		2 層群	2A	平坦部～斜面部	黒色～黒褐色を呈するシルト質粘土～粘土質シルト
						Ⅵd	⇔	Ⅵd	≒	Ⅵb			2B		
								Ⅵe	≒	Ⅵc Ⅵd		3 層群	3A	斜面部	黒色～黒褐色を呈する、砂が混じる粘土質シルトや砂質シルト
								Ⅵf					3B		
Ⅵb Ⅵc	⇔	Ⅵc	⇔	Ⅵb	⇔	Ⅵg	⇔	Ⅵg					3C	平坦部～斜面部	

【掘立柱建物跡（SB193・194・195・196・197）】

F-29 区の拡張部分で多数の柱穴を検出し、5 棟の掘立柱建物跡を確認した（第 229 図）。柱穴は丘陵斜面で多く検出しており、その分布状況から調査区外（北および西）にも広がるものとみられる。南側は確認調査の対象であるため、遺構を覆う遺物包含層の上面で調査を終えているため、柱穴の検出は調査区壁面のみにとどめている。したがって、南側にも柱穴は分布するものとみられる。なお、建物跡の諸属性および時期について第 34・37 表にまとめた。

東 C 丘陵南斜面で検出した建物跡（5 棟）はすべて、1 間× 1 間の四本柱構造の建物跡である。正方形のものが 1 棟、長方形のものが 4 棟あり、桁行総長が 1.4 ～ 2.2m、梁行総長が 1.4 ～ 1.6m ある。3 棟と 2 棟がそれぞれ同じ位置で重複していることから、位置をやや変えながら 2 箇所で建て替えが行われている。東 9 地点で検出した建物群よりも小型で、柱の配置には多様性が認められない。ピットを含む柱穴の分布密度も小さいことから、この地点では、小型の建物が少数存在していたものとみられる。床構造については、東 7 地点と同様に、床面に伴う構築物が検出されず、炉跡や炭化物集中など建物と重複する遺構も確認されなかったことから、竪穴や土間などは想定されない。また、柱穴掘込面の直上が遺物包含層（Ⅵ層）に覆われることから、高床の可能性がある。建物群は、近接して竪穴状遺構がつくられること、さらに建物跡の外側に焼土集積が確認される一方で、これらの内部では炉跡や焼け面などが確認されないことから、倉庫の可能性が考えられる。

掘立柱建物跡の時期は、遺構掘込面である遺物包含層との重複関係から、晩期末葉（晩期 6a 期）に位置づけられる。なお、建物跡の柱穴から出土した遺物の土器型式とは矛盾しない（第 230 図）。



調査区 / 遺構	層　序		土　色	土　性	特　　徴
F-29 区（拡張部分）	A-A' B-B' C-C' D-D'	Ⅵc	黒色（10YR2/1）	粘土	砂少量
		Ⅵg	黒色（10YR2/1）	粘土	砂多量
SX145	A-A' D-D'	1	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック・砂わずか（ラミナ状）【堆積土】
		2	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック少量 【堆積土】
		3	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）粒～小ブロック・礫少量 【堆積土】
SB197-P3（P630）	B-B'	1	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	地山（Ⅸ層）ブロック多量 【柱抜取穴】
		2	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	【柱痕跡】
P631	C-C'	1	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山粒わずか 【柱痕跡】
		2	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山ブロック多量 【掘方埋土】
P632	D-D'	1	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	地山（Ⅸ層）小ブロックわずか 【堆積土】

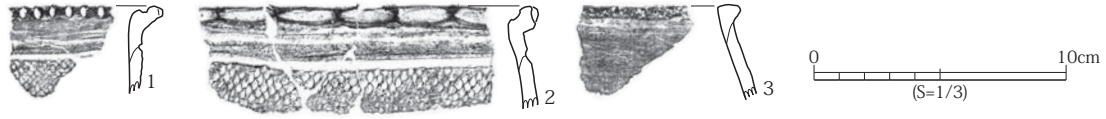
第229図　F-29区（拡張部分）　平面図・断面図

【SX145 竪穴状遺構】

F-29 区拡張部分北西隅で検出した（第 229 図）。遺構掘込面はⅥｇ層で、遺物包含層（Ⅵｃ層）に覆われる。SB194 建物跡と重複するとみられる。調査区壁で確認し、北側と西側が調査区外に広

第34表　東8地点　掘立柱建物跡一覧

遺構名	間数		平面形	平面規模							方向		柱穴掘方			柱痕跡径（cm）	柱材径（cm）	柱抜取穴（個）	備　考（出土遺物など）
				桁行			梁行			張出長（m）			規模（cm）		平面形				
	桁行	梁行		総長（m）	計測柱列	柱間寸法（m）	総長（m）	計測柱列	柱間寸法（m）		角度	計測柱列	直径	深度					
SB193	1	1	長方形（東西棟）	2.1	北	2.1	1.6	西	1.6	-	E-32-S	北	28-39	28-32	円形、楕円形	12-16	-	2	
SB194	1	1	長方形（東西棟）	2.0	南	2.0	1.6	西	1.6	-	E-10-N	南	23-28	18-33	円形、楕円形	8-10	-	0	
SB195	1	1	正方形	1.4	南	1.4	1.4	東	1.4	-	E-16-S	南	30-38	30-34	円形、楕円形	12-22	-	0	縄文土器深鉢・鉢
SB196	1	1	長方形（東西棟）	2.1	南	2.1	1.4	西	1.4	-	E-15-S	南	22-25	12-13	円形、楕円形	-	-	0	縄文土器深鉢
SB197	1	1	長方形（東西棟）	2.2	南	2.2	1.4	西	1.4	-	E-5-S	南	23-24	14-33	円形	10	-	1	



1: 鉢 / SB195-P3・柱痕跡 / 27図1，2: 深鉢 / SB195-P1・柱痕跡 / 27図2，3: 壺 / SX145・堆積土 / 27図3（宮城県文化財調査報告書第254集）

第230図　東8地点　掘立柱建物跡　出土土器

がる。断面での確認のみであるため平面形は不明であるが、南北 1.3 m以上、東西 1.7 m以上あるとみられる。断面形は皿形を呈し、深さが 13cm ある。壁は床面からほぼまっすぐに立ち上がり、床面はほぼ平坦である。壁はⅥg層およびⅧ層で、床面はⅨ層である。遺構推定範囲の周囲で直径 20cm、残存する深さが 26cm の小柱穴（P625）を 1 個検出しており、遺構に伴う可能性がある。堆積土は 3 層確認し、いずれも地山小ブロックを少量含む黒色シルト質粘土で、自然堆積土である。

遺物は、遺構堆積土から縄文土器深鉢・壺が出土している（第 230 図）。また、柱穴底面付近より柱材とみられる木片が出土した。この木片について放射性炭素年代測定（AMS 法）を実施したところ、^{14}C 年代が 2,570 ± 20yrBP、暦年較正年代（1σ）が 796 ～ 768calBC となり、晩期中葉後半頃の年代値（小林　2019）が得られた。

時期は、遺構掘込面である遺物包含層との重複関係から、晩期末葉（晩期 6a 期）とみられる。

（2）遺物包含層と出土遺物

遺物包含層（Ⅵ層）は、F-29・30・34・35・36・37 区で検出した。また、これらの調査区の北側で電柱設置工事が行われ、この工事立会では、遺物包含層が丘陵側へさらに広がることを確認している。これらの範囲は、東西約 134m（F-35 区東端と F-37 区西端を結ぶ直線距離）、南北約 28m（電柱設置工事箇所の北端と F-29 区南端を結ぶ直線距離）ある。F-35 区の南に位置する F-23 区でもⅥ層中に遺物包含層を検出しているが、両者は沢状の地形で隔てられているため、別地点として取り扱う（東 9 地点）。なお、これらの調査区の南西に位置する F-27・28・41 ～ 45 区および、南東に位置する F-22 区ではⅥ層は確認されなかった。

遺物包含層は、丘陵から低地部に向かって緩やかに傾斜する。各調査区におけるⅥ層上面での地形を見ると、F-29 区東壁ではⅥ層の検出長約 14.1m、Ⅵ層上面での比高約 0.7m、勾配約 5.0% であり、F-34 区西壁ではⅥ層の検出長約 9.0m、Ⅵ層上面での比高約 0.7m、勾配約 7.8% である。沢状の地形である F-35 区北壁ではⅥ層の検出長約 5.9m、Ⅵ層上面での比高約 0.3m、勾配約 5.1% となっている。

Ⅵ層は、土色や土性、含有物などの特徴から各調査区でおおむね 2 ～ 7 層に細分される。調査区に

よりⅥ層の堆積状況は異なるため、各調査区における細分層名は同一のものではないが、それぞれの層の特徴からこれらを1～3層群に大別した（第33表）。大別層群でみると、すべての調査区で3層群および2層群が堆積し、1層群はF-29区およびF-36区で確認される。

遺物は3層群から1層群まで出土している。土器はいずれも中・小破片が主体で、3層群からの出土は少ない。出土した遺物には、縄文土器や弥生土器、土製品、石器・石製品などがある。

土器は、3層群から、雲形文が施された皿（第231図1）や縦位隆帯の壺（同図3）などが出土している。ほかに、メガネ状浮文や工字文、π字文がわずかに見られる。これらの装飾要素の組み合わせから晩期中葉から後葉（晩期3～5期）に位置づけられる。

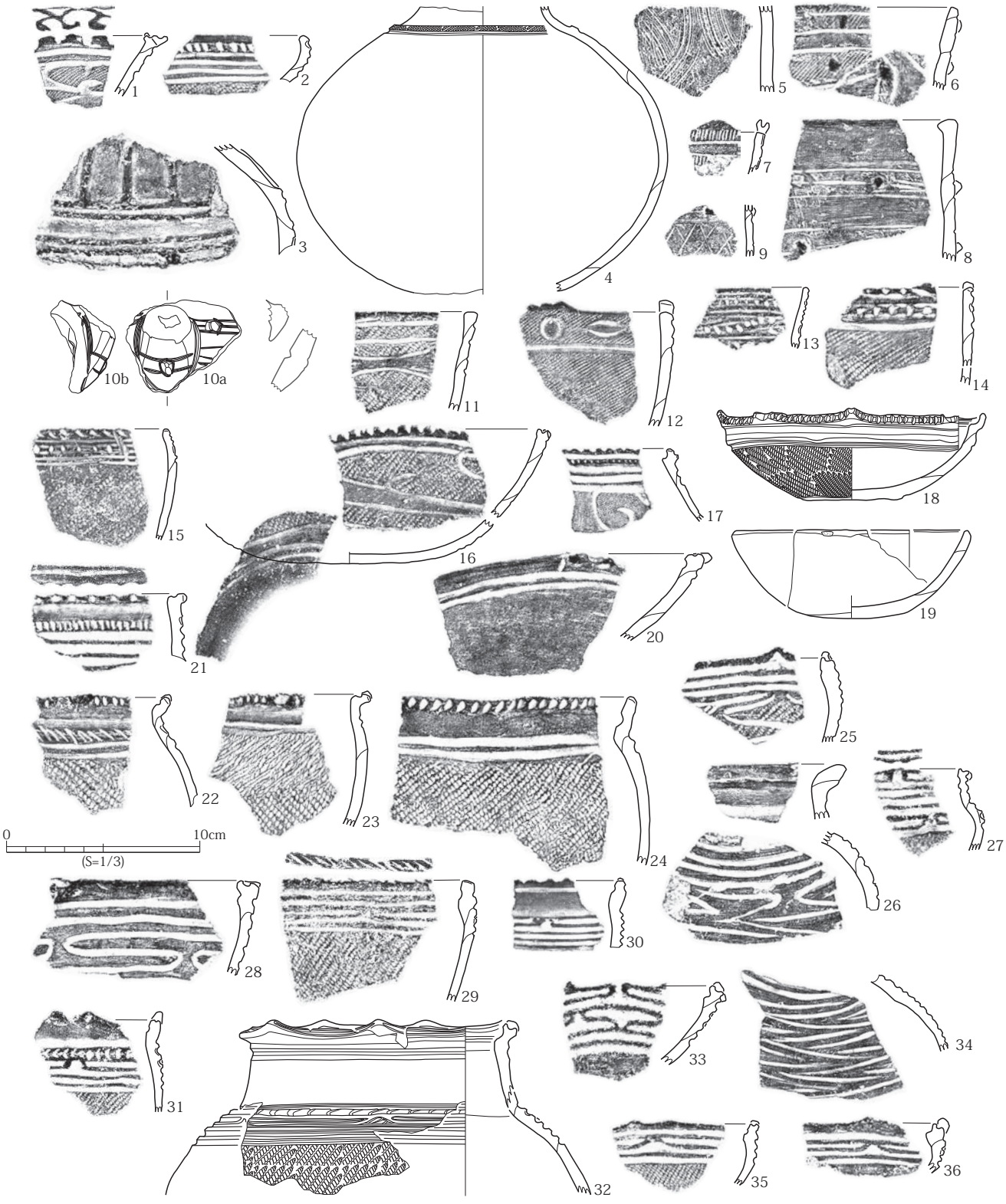
2層群からは、帯状文や瘤の付く入組帯状文が施された深鉢・鉢・注口土器（第231図6～11）、羊歯状文が施された鉢（同図13）、雲形文が施された皿・注口土器（同図16・17）、工字文が施された鉢・壺（同図25～28）、綾杉状文が施された壺（同図34）、π字文が施された深鉢・鉢・浅鉢・壺など（同図29～33・35・36、第232図1～4）、上下対向のπ字文が施された浅鉢（同図6）、変形工字文が施された鉢（同図5・7）などが出土した。π字文がやや多く、瘤の付く帯状文や雲形文、工字文が少量ある。ほかに変形工字文などがわずかに見られる。π字文には上下対向のものが含まれ、変形工字文も見られることから、晩期末葉（晩期6期）に位置づけられる。

なお、この層から出土した土器1点（第232図7）について、土器に付着した漆を対象に放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、^{14}C年代が2,410±30yrBP、暦年較正年代（1σ）が514～419calBCとなり、縄文時代晩期末葉から弥生時代前期頃の年代値（小林　2019）が得られた。また、内面付着炭化物を対象とした小林謙一らによる年代測定（小林ほか　2021）では、^{14}C年代が2,466±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が749～540calBCとなり、晩期中葉後半から後葉頃の年代値（小林　前掲）が得られている。これらは、包含層の推定時期の範囲内におおむね収まるかそれよりも古い結果となった。

1層群からは、帯状文が施された鉢（第232図14）、羊歯状文が施された台部（同図15）、雲形文が施された鉢・皿・壺・注口土器（同図19～21・23・24）、工字文が施された鉢・注口土器（同図27・28）、π字文が施された深鉢・鉢・壺（第233図1～3）、上下対向のπ字文が施された浅鉢（同図5・6）、変形工字文が施された鉢（同図7）などが出土している。π字文がやや多く、雲形文、工字文が少量ある。ほかに変形工字文などがわずかに見られる。上下対向のπ字文や変形工字文が含まれていることから、晩期末葉（晩期6期）に位置づけられる。なお、この層から出土した土器1点（第232図26）について、土器付着炭化物を対象に放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、^{14}C年代が2,760±20yrBP、暦年較正年代（1σ）が924～837calBCとなり、縄文時代晩期中葉後半の年代値（小林　2019）が得られている。これは、包含層の推定時期よりも古い結果となった。

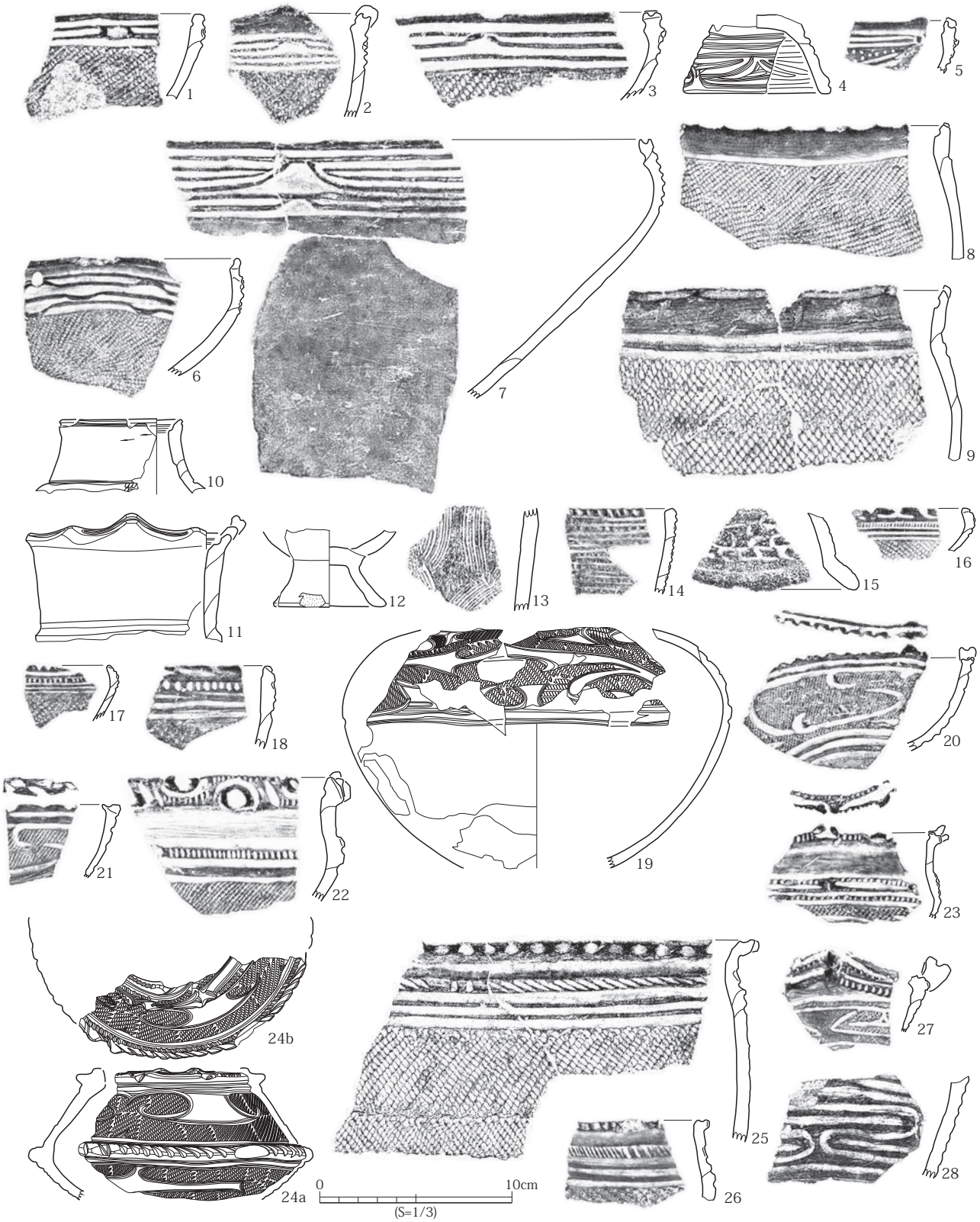
土製品は各大別層群から出土している。ほとんどが円盤状土製品であるが、土版（第233図24）や耳飾（同図25）、土偶上半身（同図30）などがある。

石器・石製品は、3層群からの出土はなかったが、2層群からは113点出土し、石鏃1点、石錐1点（第234図1）、石匙1点（同図2）、石篦2点、磨製石斧2点、楔形石器1点、不定形石器2点、石皿10点、



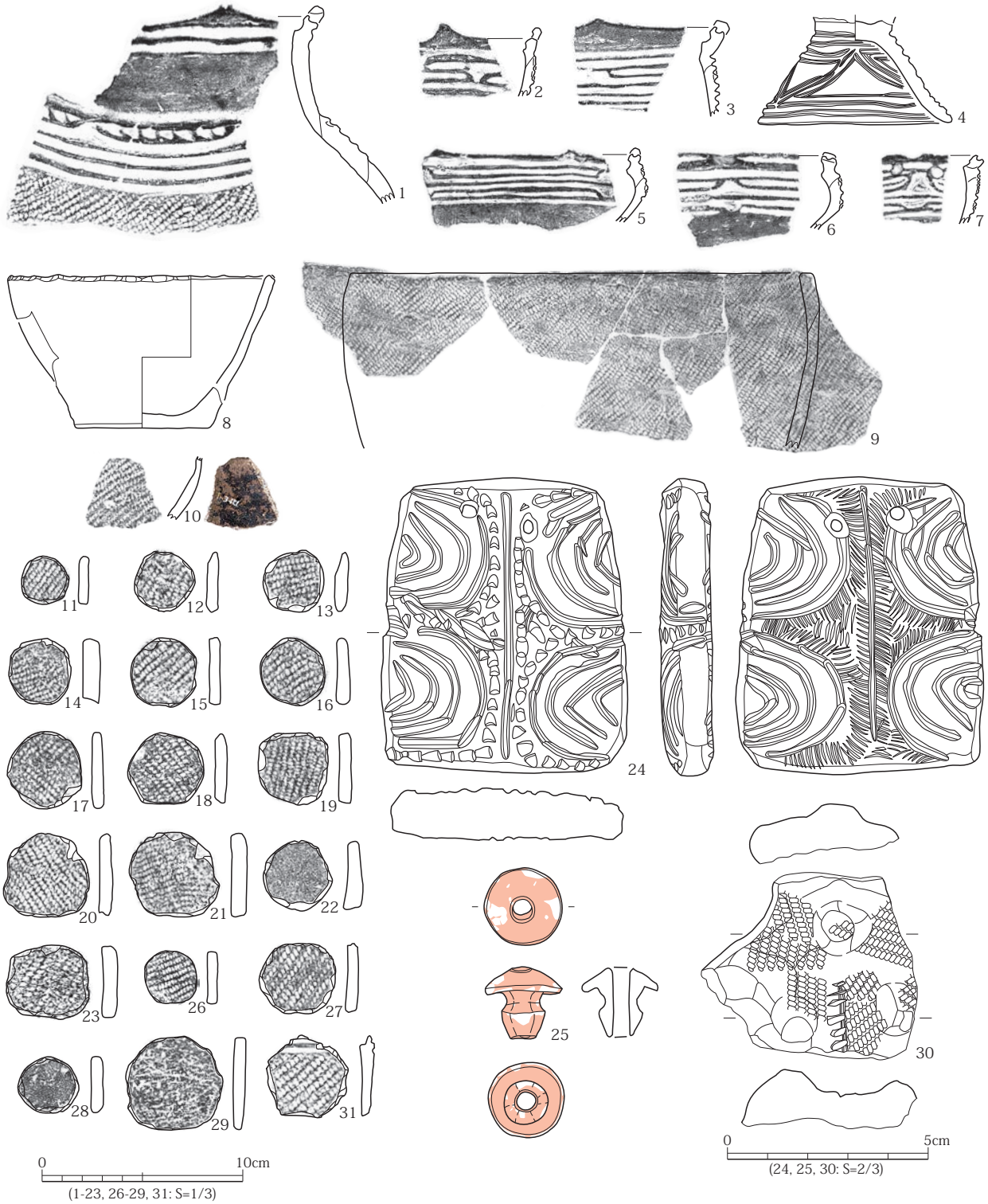
【3層群】1: 皿 / F-29拡・Ⅵg層 / 31図1，2: 鉢 / F-29拡・Ⅵg層 / 31図2，3: 壺 / F-29拡・Ⅵg層 / 31図3，4: 壺 / F-29・Ⅵf層 / 31図4
【2層群】5: 深鉢 / F-34・Ⅵa層 / 31図5，6: 深鉢 / F-34・Ⅵa層 / 31図6，7: 鉢 / F-30・Ⅵc層 / 31図8，8: 深鉢 / F-34・Ⅵ層確認面 / 31図9，
9: 鉢 / F-34・Ⅵa層 / 31図12，10: 注口土器 / F-30・Ⅵc層 / 31図15，11: 深鉢 / F-34・Ⅵa層 / 31図16，12: 深鉢 / F-34・Ⅵa 層 / 31図18，
13: 鉢 / F-30・Ⅵc層/ 31図19，14: 深鉢 / F-29拡・Ⅵc層 / 31図20，15: 鉢 / F-35・Ⅵa 層/ 31図21，16: 皿 / F-34・Ⅵa層 / 31図26，
17: 注口土器 / F-34・Ⅵa層 / 31図27，18: 浅鉢 / F-29拡・Ⅵc層 / 31図29，19: 浅鉢 / F-30・Ⅵc層 / 31図30，20: 皿 / F-30・Ⅵc層 / 31図31，
21: 深鉢 / F-29拡・Ⅵ層 / 32図2，22: 深鉢 / F-35・Ⅵa層 / 32図3，23: 深鉢 / F-35・Ⅵa層 / 32図6，24: 深鉢 / F-30・Ⅵc層 / 32図7，
25: 鉢 / F-35・Ⅵa層 / 32図10，26: 壺 / F-29拡・Ⅵc層 / 32図13，27: 鉢 / F-35・Ⅵa 層/ 32図15，28: 鉢 / F-34・Ⅵa層 / 32図16，
29: 鉢 / F-35・Ⅵa層 / 32図17，30: 深鉢 / F-30・Ⅵc層 / 32図18，31: 深鉢 / F-35・Ⅵa層 / 32図19，32: 壺 / F-30・Ⅵ層確認面 / 32図21，
33: 浅鉢 / F-30・Ⅵc層 / 32図24，34: 壺 / F-35・Ⅵa層 / 32図23，35: 鉢 / F-35・Ⅵa層 / 32図26，36: 浅鉢 / F-30・Ⅵc層 / 32図27
（宮城県文化財調査報告書254集）

第231図　東8地点　遺物包含層　出土土器（1）



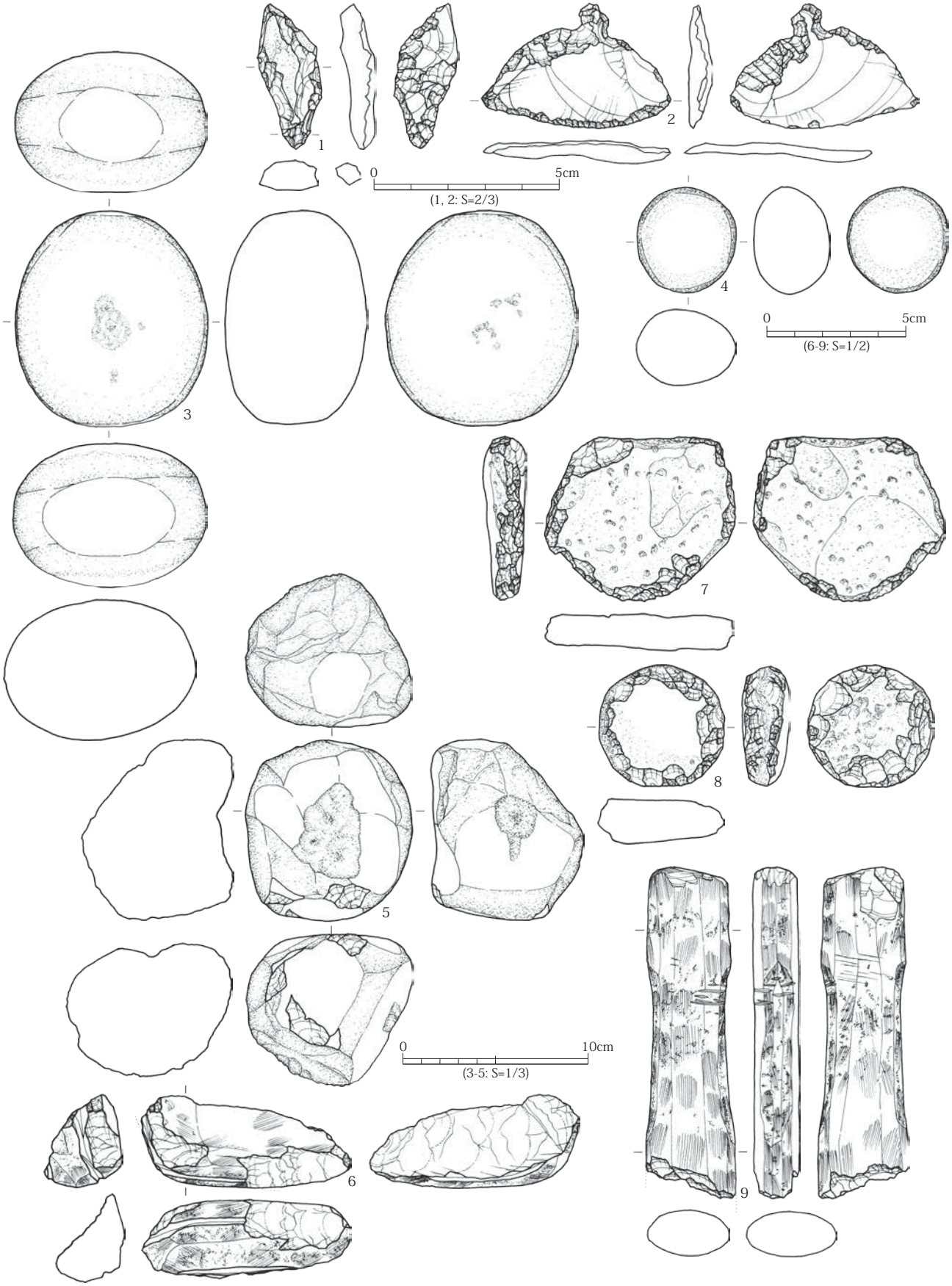
【2層群】1: 鉢 / F-30・Ⅵc層 / 32図29, 2: 鉢 / F-35・Ⅵa層 / 33図2, 3: 鉢 / F-30・Ⅵc層 / 33図3, 4: 台部 / F-35・Ⅵa層 / 33図6,
5: 鉢 / F-30・Ⅵc層 / 33図5, 6: 浅鉢 / F-30・Ⅵc層 / 33図8, 7: 鉢 / F-30・Ⅵc層 / 33図10, 8: 深鉢 / F-30・Ⅵc層 / 33図11,
9: 深鉢 / F-30・Ⅵc層 / 33図16, 10: 壺 / F-30・Ⅵc層 / 34図4, 11: 壺 / F-30・Ⅵ層確認面 / 34図5, 12: 台部 / F-34・Ⅵa層 / 34図7
【1層群】13: 深鉢 / F-36・Ⅵa層 / 34図15, 14: 鉢 / F-29・Ⅵ層 / 34図16, 15: 台部 / F-29・Ⅵ層確認面 / 34図18,
16: 鉢 / F-29・Ⅵ層 / 34図19, 17: 鉢 / F-29・Ⅵ層 / 34図20, 18: 鉢 / F-29・Ⅵ 層/ 34図21, 19: 壺 / F-29・Ⅵ層 / 34図26,
20: 皿 / F-29・Ⅵ層 / 34図29, 21: 皿 / F-29・Ⅵ層 / 34図28, 22: 深鉢 / F-29・Ⅵ層 / 35図2, 23: 鉢 / F-29・Ⅵ層 / 35図1,
24: 注口土器 / F-29・Ⅵ層 / 35図5, 25: 深鉢 / F-29・Ⅵ層 / 35図4, 26: 深鉢 / F-29・Ⅵ層 / 35図3, 27: 注口土器 / F-29・Ⅵ層 / 35図8,
28: 鉢 / F-29・Ⅵ層 / 35図9 （宮城県文化財調査報告書第254集）

第232図　東8地点　遺物包含層　出土土器（2）



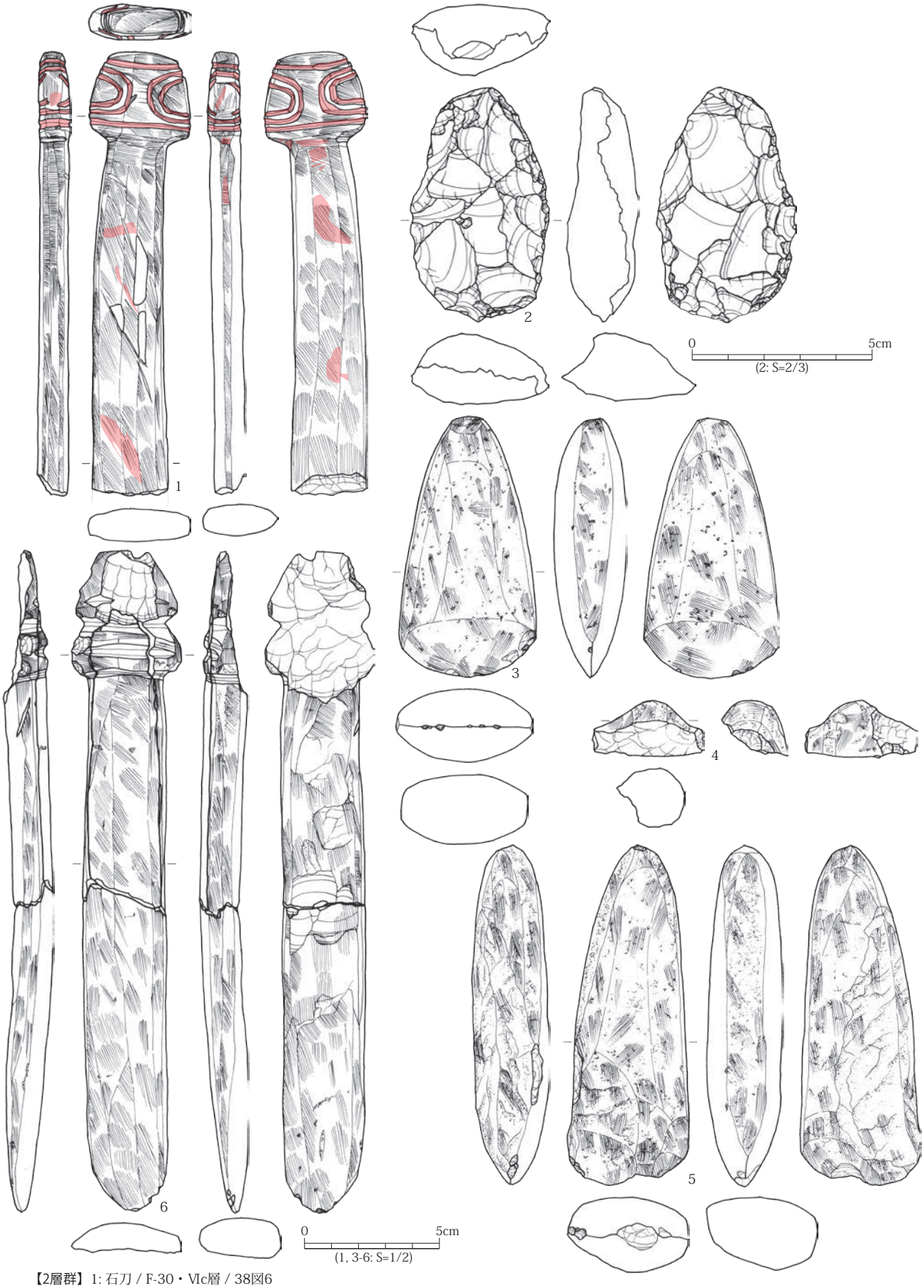
【1層群】1: 壺 / F-29・Ⅵ層 / 35図10，2: 浅鉢 / F-29・Ⅵ層 / 35図11，3: 深鉢 / F-29・Ⅵ層 / 35図14，
4: 台部 / F-29・Ⅵ層 / 35図13，5: 浅鉢 / F-29・Ⅵ層確認面 / 35図15，6: 浅鉢 / F-29・Ⅵ層 / 35図16，7: 鉢 / F-30・Ⅴ層 / 35図18，
8: 鉢 / F-29・Ⅵ層 / 35図20，9: 深鉢 / F-29・Ⅵ層 / 35図23，10: アスファルト容器（鉢） / F-29・Ⅵ層 / 35図24
【2層群】11: 円盤状土製品 / F-30・Ⅵc層 / 36図1，12: 円盤状土製品 / F-30・Ⅵc層 / 36図2，13: 円盤状土製品 / F-35・Ⅵa層 / 36図3，
14: 円盤状土製品 / F-35・Ⅵa層 / 36図4，15: 円盤状土製品 / F-34・Ⅵ層確認面 / 36図5，16: 円盤状土製品 / F-29拡・Ⅵc層 / 36図6，
17: 円盤状土製品 / F-35・Ⅵa層 / 36図7，18: 円盤状土製品 / F-30・Ⅵc層 / 36図8，19: 円盤状土製品 / F-30・Ⅵc層 / 36図9，
20: 円盤状土製品 / F-34・Ⅵa層 / 36図10，21: 円盤状土製品 / F-35・Ⅵa層 / 36図11，22: 円盤状土製品 / F-30・Ⅵ層確認面 / 36図13，
23: 円盤状土製品 / F-35・Ⅵa層 / 36図12，24: 土版 / F-30・Ⅵc層 / 36図14，25: 耳飾 / F-30・Ⅵc層 / 36図15
【1層群】26: 円盤状土製品 / F-29・Ⅵ層 / 36図16，27: 円盤状土製品 / F-29・Ⅵ層 / 36図17，28: 円盤状土製品 / F-29・Ⅵ層 / 36図18，
29: 円盤状土製品 / F-29・Ⅵ層 / 36図19，30: 土偶上半身 / F-29・Ⅵ層 / 36図20
【Ⅴ層】31: 円盤状土製品 / F-30・Ⅴ層 / 36図21 （宮城県文化財調査報告書第254集）

第233図　東8地点　遺物包含層　出土土器（3）・土製品



【2層群】1: 石錐 / F-29拡・VIc層 / 37図1, 2: 石匙 / F-34・VIa層 / 37図2, 3: 磨石 / F-29拡・VIc層 / 37図5, 4: 磨石 / F-35・VIa層 / 37図6, 5: 凹石 / F-30・VIc層 / 37図4, 6: 石冠 / F-30・VIc層 / 37図7, 7: 円盤状石製品 / F-35・VIa層 / 38図2, 8: 円盤状石製品 / F-35・VIa層 / 38図1, 9: 石棒 / F-34・VIa層 / 38図5 （宮城県文化財調査報告書第254集）

第234図　東8地点　遺物包含層　出土石器・石製品（1）



【2層群】1: 石刀 / F-30・Ⅵc層 / 38図6
【1層群】2: 石篦 / F-29・Ⅵ層 / 39図1，3: 磨製石斧 / F-29・Ⅵ層 / 39図2，4: 独鈷石 / F-29・Ⅵb層 / 39図4，5: 磨製石斧 / F-29・Ⅵ層 / 39図3，
【Ⅴ層】6: 石棒/ F-29・Ⅴ層 / 39図5 （宮城県文化財調査報告書第254集）

第235図　東8地点　遺物包含層　出土石器・石製品（2）

磨石 18 点（同図 3･4）、凹石 2 点（同図 5）、砥石 1 点、円盤状石製品 7 点（同図 7･8）、石冠 1 点（同図 6）、石棒 1 点（同図 9）、石刀 1 点（第 235 図 1）などがある。また、石材は珪質頁岩が最も多く、ほかに碧玉や安山岩質凝灰岩、安山岩、デイサイトが多く見られる。

1 層群からは 50 点出土し、尖頭器 1 点、石篦 1 点（第 235 図 2）、磨製石斧 5 点（同図 3・5）、不定形石器 2 点、石皿 2 点、磨石 6 点、独鈷石 1 点（同図 4）がある。石材は珪質頁岩と碧玉が特に多く、ほかに珪質凝灰岩や凝灰岩、玉髄などが見られる。

(3) 集落の時期と特徴

遺物包含層から出土した土器型式や、土器付着炭化物および漆の年代測定から、東 8 地点の遺物包含層は縄文時代後期後葉から晩期末葉に形成されたものとみられ、3 層群が晩期中葉から後葉頃（晩期 3 ～ 5 期）、2 層群および 1 層群は晩期末葉頃（晩期 6 期）に位置づけられる。また、掘立柱建物跡や竪穴状遺構は、遺構掘込面が 3 層群で、遺構を覆う層が 2 層群上部（2A 層群）であることから、晩期末葉（晩期 6 期）とみられる。

以上から、本地点では、後期後葉から集落が営まれるようになり、遺物の出土量が増加するようになるのは晩期後葉以降となる。晩期後葉以降、特に末葉になると遺物包含層と重複するように掘立柱建物跡や竪穴状遺構がつくられ、さらにその上層では焼土の集積も点在して見られるようになる。したがって、本地点では、晩期後葉以降に集落の規模が大きくなり、遺物包含層が形成される丘陵裾部まで集落が広がったものと推定される。

本地点の掘立柱建物跡は、建物跡を多く検出した東 7・9 地点と比べて規模が小さく、近接して竪穴状遺構もつくられることから、倉庫施設の役割が想定される。また、遺構密度も小さいことから、集落の中心域すなわち居住域はより北側にあったものとみられる。調査対象地の北側は標高の低い緩斜面が続いており、現在は宅地となっている。この場所に集落の居住域が想定される。なお、丘陵裾部で検出した遺物包含層は、中心域からやや離れているものの、遺物量が近隣の地点と比べて少ないことから、規模のあまり大きくない集落が想定される。

写真45　F-29区　縄文土器壺出土状況（Ⅵf層）（南から）

写真46　F-30区　土版出土状況（Ⅵc層）（北から）